

大宰府条坊跡36

— 県道観世音寺二日市線建設に伴う調査 —

平成20(2008)年

太宰府市教育委員会

大宰府条坊跡36 (太宰府市の文化財 第99集) 正誤表

頁	誤	正
8	S N (東西土層模式図の方位)	W E
37・38	44710.0	44712.0
135	236-1SE510茶灰色土出土遺物 甕(5)と平瓦8	甕(5)と平瓦8は236-1SE510青灰色土出土遺物
136	236-1SE510茶灰色土出土遺物 5と8	5と8はSE510青灰色土出土遺物

大宰府条坊跡36

— 県道観世音寺二日市線建設に伴う調査 —

平成20（2008）年

太宰府市教育委員会



第236-1次調査第1調査面および第236-2次調査全景（上が北）



曲物 (第236-1次調査SE510 Fig.80-10)



「有佛」墨書瓦 (第236-2次SK015暗灰色土 Fig.106-17)



滑石製屋蓋 (第236-2次調査SE050暗灰色粘土、Fig.102-11)

序

本書は、県道観世音寺二日市線の道路新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書です。

調査地は大宰府条坊跡の中央付近に位置し、かつて西日本鉄道二日市操車場があった場所で、その機能が筑紫駅に移転するまで、大きな建物が建ち並んでいました。

今回の調査では「天下之一都会」（『続日本紀』）と称された大宰府を物語るように、奈良時代から平安時代にかけての遺構や遺物が多数見つかりました。その中でも大型の掘立柱建物跡や東西道路などの条坊痕跡のほか、滑石製屋蓋や須恵器の盤など珍しい遺物も発見され、大宰府の歴史を知る上で貴重な所見を得ることが出来ました。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心より願っております。

最後になりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成20年3月

大宰府市教育委員会

教育長 關 敏治

例言

1. 本書は太宰府市朱雀2・3丁目で行われた大宰府条坊跡の発掘調査報告書である。
2. 遺構の実測には、国土調査法第II座標系（旧日本座標系）を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限りG.N.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
3. 調査対象地の表土除去および埋め戻しは（有）松田造園土木に委託した。
4. 遺構の実測及び写真撮影は宮崎、柳、松浦、床平慎介、森若知子が行った。
5. 第236-1次調査の遺構全体図作成は航空測量を実施し、これを(株)写測エンジニアリングに委託し、1面目のみ図化を行った。また、平行して手測りによる実測図も作成した。
6. 遺構の空中写真撮影は（有）空中写真企画（代表壇睦夫）が行い、一部を(株)写測エンジニアリングが行った。
7. 出土品の自然科学分析は（株）パリノ・サーヴェイに委託した。
8. 出土した鉄製品・木製品の保存処理は下川可容子、安芸朋江、鈴木弘江が行った。
9. 遺物の実測は、主に第236-1次調査分を（有）システム・レコ、NPO法人文化財保存活用支援センターに委託し、第236-1次調査分の一部と第236-2次調査分を久味木理恵、森部順子、福井円、久家春美、松本理栄子、宮崎が行った。
10. 表入力・写真整理は瀬戸口みな子、市川晴美が行った。
11. 遺物の整理接合・復元作業は中村房子、林美知子、久保喜代香、馬場由美が行った。
12. 遺物の写真撮影は（有）文化財写真工房（代表岡紀久夫）が行った。
13. 第236-1次調査第2・3調査面の遺構全体図については、(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託しデジタルトレースを行った。第3調査面の一部のデジタルトレースは久味木理恵が行い、デジタルトレース図の加工・修正等は、井上信正の協力を得た。
14. 遺構・遺物実測図の浄書は、全て宮崎が行った。
15. 本書に用いた分類は以下のとおり。
須恵器・・・『宮ノ本遺跡II -窯跡篇-』（太宰府市の文化財第10集）1992
陶磁器・・・『大宰府条坊跡XV -陶磁器分類-』（太宰府市の文化財 第49集）2000
土器・・・『大宰府条坊跡II』（太宰府市の文化財第7集）1983
16. 執筆は、V章を(株)パリノ・サーヴェイが行い、その他の執筆および編集は、宮崎が担当した。

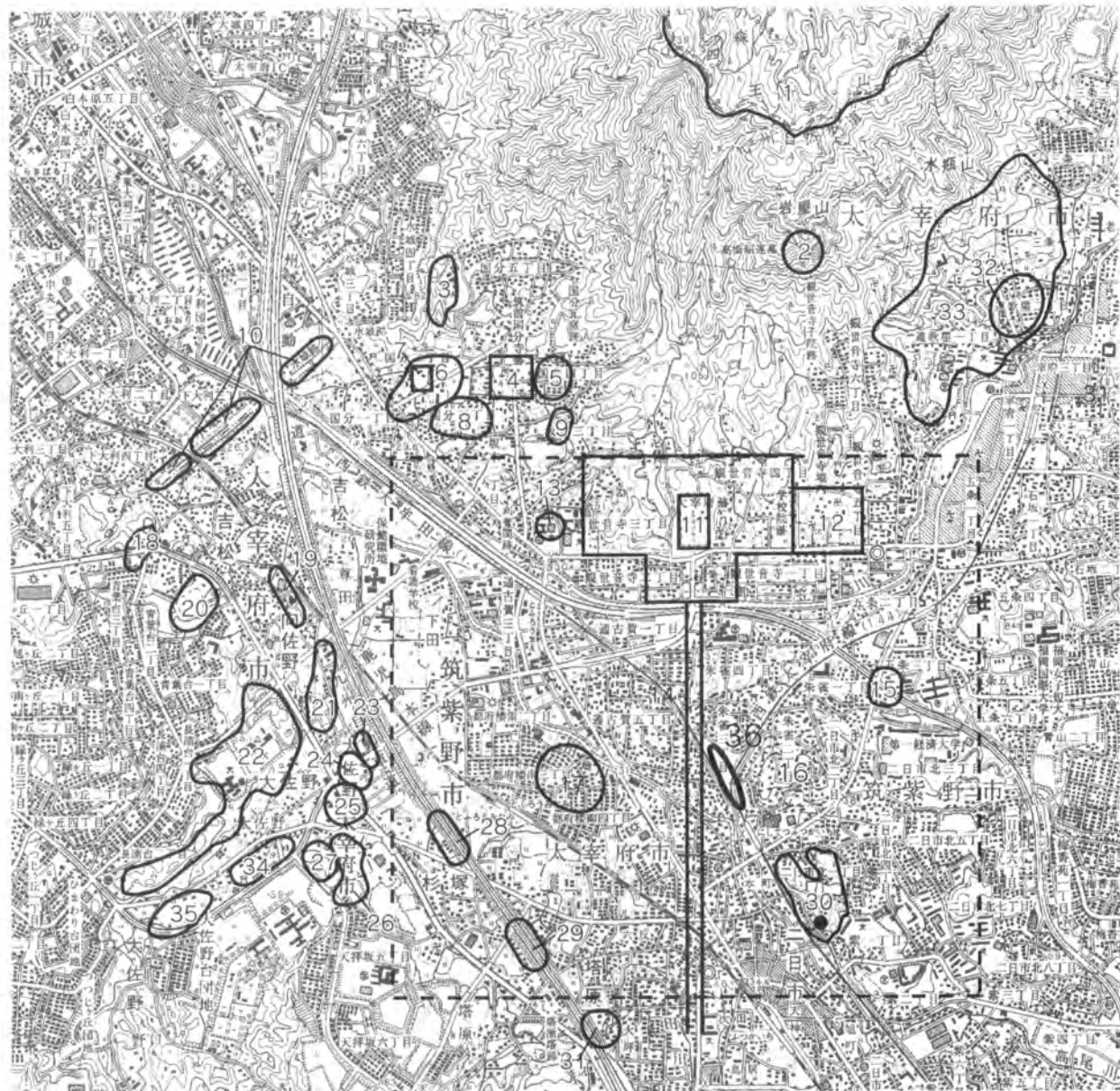
目次

I、遺跡の位置と歴史	4
II、調査体制	6
III、調査および整理方法	7
IV、調査報告	
1、第236-1次調査	11
(1) 調査に至る経過	11
(2) 基本層位	11
(3) 検出遺構	18
第1調査面	18
第2調査面	33
第3調査面	40
第4調査面	47
(4) 出土遺物	48
第1調査面	48
第2調査面	91
第3調査面	117
2、第236-2次調査	165
(1) 調査に至る経過	165
(2) 基本層位	165
(3) 検出遺構	165
(4) 出土遺物	169
V、第236次調査の自然科学分析	(パリノ・サーヴェイ)・187
VI、調査まとめ	207

写真図版・・・主な遺構および遺物写真

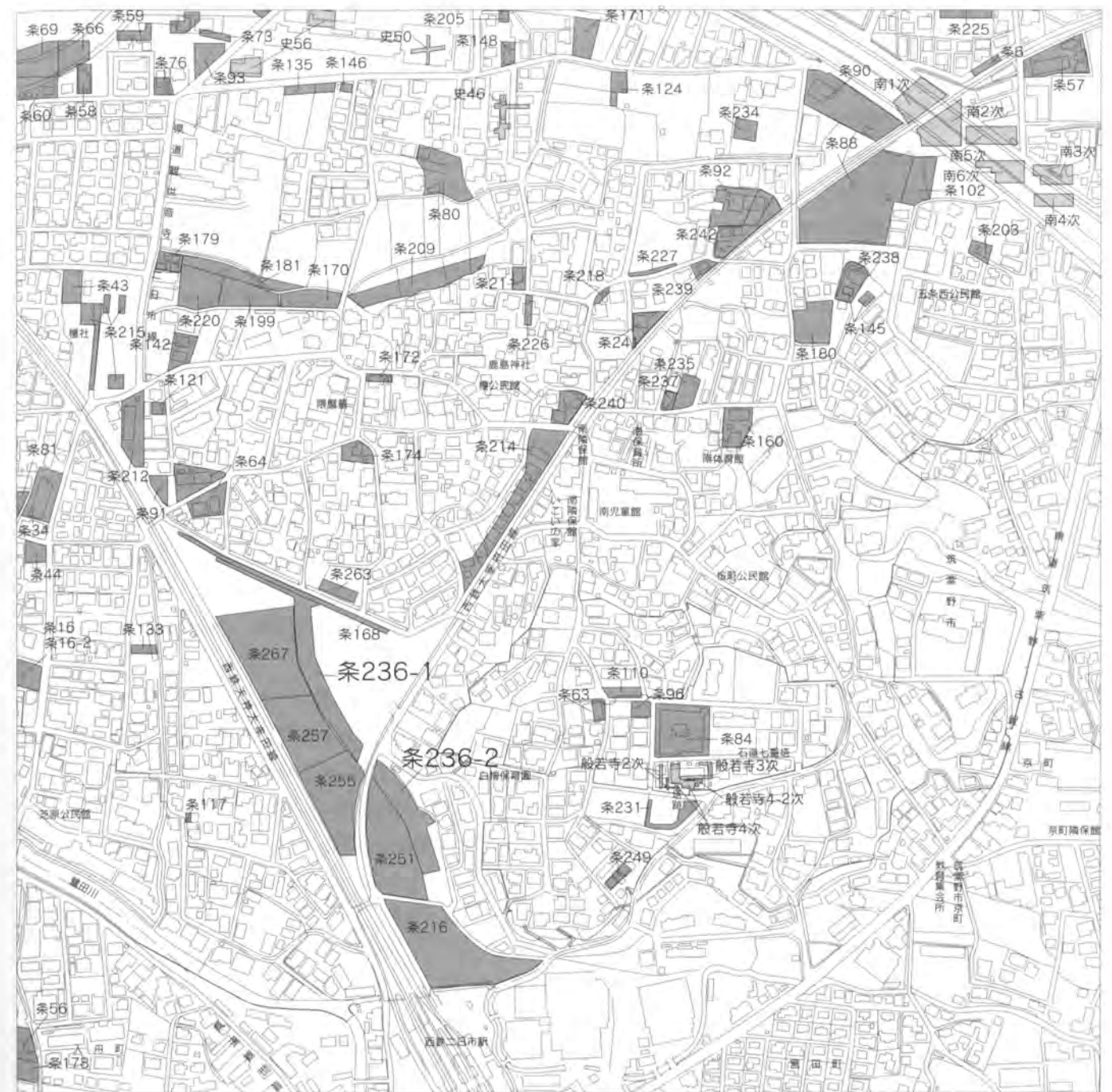
付図・・・第236-1次調査	第1調査面遺構全体図（1/200）
第236-1次調査	第2調査面遺構全体図（1/200）
第236-1次調査	第3調査面遺構全体図（1/200）
第236-1次調査	第4遺構面遺構全体図（1/400）
第236-1次調査	第1調査面略測図（1/200）
第236-1次調査	第2調査面略測図（1/200）
第236-1次調査	第3・4調査面略測図（1/200、1/400）
第236-2次調査	遺構全体図（1/200）
第236-2次調査	遺構略測図（1/200）

付録・・・CD（遺構および遺物写真）



- | | | | |
|-----------|----------------|----------|--------------------|
| 1.大野城跡 | 10.水城跡 | 19.原口遺跡 | 28.刺塚遺跡 |
| 2.岩屋城跡 | 11.大宰府政庁跡 | 20.篠振遺跡 | 29.唐人塚遺跡 |
| 3.神ノ尾遺跡 | 12.観世音寺 | 21.前田遺跡 | 30.葦・葦畑遺跡 (●は葦火葬墓) |
| 4.筑前国分寺跡 | 13.遺買団印出土地 | 22.宮ノ本遺跡 | 31.太宰府天満宮(安楽寺跡) |
| 5.辻遺跡 | 14.大宰府条坊跡(破線内) | 23.離川遺跡 | 32.浦城跡 |
| 6.国分松本遺跡 | 15.君畑遺跡 | 24.フケ遺跡 | 33.原遺跡 |
| 7.筑前国分尼寺跡 | 16.般若寺跡 | 25.尾崎遺跡 | 34.京ノ尾遺跡 |
| 8.国分千足町遺跡 | 17.市ノ上遺跡 | 26.脇道遺跡 | 35.カヤノ遺跡 |
| 9.御笠団印出土地 | 18.神ノ前窟跡 | 27.殿城戸遺跡 | 36.第236次調査地(報告地点) |

Fig.2 太宰府市とその周辺の遺跡 (1/30,000)



条○次・・・大宰府条坊跡第○次調査(太宰府市教委調査分)
 史○次・・・大宰府史跡第○次調査(九州歴史資料館調査分)
 南○次・・・御笠川南バイパス第○次調査(福岡県教委調査分)

Fig.3 調査地と周辺調査地点 (1/5,000)

I、遺跡の位置と歴史

太宰府市は、北に四王寺山、北東に宝満山、南に背振山地東端の天拝山に囲まれ、さながら盆地的な様相を示している。これらの山々が途切れている北西に福岡平野が、南東に筑後平野が広がっている。二つの平野に挟まれた狭い平地を古代には官道が、現代では鉄道や高速道路が通り抜け、今も昔も交通の要衝となっている。

古代にはこの狭い平野の北端に大宰府政庁を置き、前面にいわゆる大宰府条坊と呼ばれる都市が整備された。その規模は南北22条、東西12坊におよび、南辺部は筑紫野市まで広がっている。近年開発による発掘調査が増加し、下記のような大宰府条坊を解明する上で重要な成果を得ることが出来ている。

五条2丁目で行った第217・224調査では、平安時代中期と12世紀埋没の南北道路側溝が検出され、約90mの区割りでみる条坊案では左郭12坊推定ライン上にあたる。『宇佐大鏡』久安4（1148）年条の記述から、12坊路を「京極大路」とするという見解が大宰府条坊復原案を最初に提示した鏡山猛氏以来支持されてきたが、その「京極大路」の遺構である可能性が十分考えられる。また、西側側溝からは大量の獣骨・人骨が出土し、土器とともに側溝に廃棄された状況が確認できた。また、12世紀中頃～後半に道路の付け替えが行われた際、調査区の東からのびる東西道路が、南北道路に取り付きT字路になっていることが明らかになり、平安時代後期の時点で、平安時代中期以降急速に栄えていった安楽寺天満宮周辺の街区と大宰府条坊が接していたことを示すものと考えられている。

筑紫野市塔原東1丁目（第258次調査）では、8世紀後半埋没の平行する東西溝が検出され、井上信正条坊案の22条と合致し、条坊の南限である可能性が指摘されている。

苅萱関の伝承地の北側100mの坂本2丁目付近（第264・265・269次調査）では、奈良時代の掘立柱建物群が検出され、その規模から官衙の一部である可能性が指摘され、政庁周辺に広がる官衙域がさらに西側に広がっていた可能性も考えられる。また、周辺には苅萱関伝承地や遠賀団印出土地があり、政庁周辺官衙と異なった機能を持つ官衙であった可能性も考えておく必要がある。

都府楼南2丁目の第222次調査は広大な面積が調査された。遺構の殆どが11世紀末～12世紀前半埋没という所見が得られ、検出された道路遺構などから、東西95m、南北110mの区画の存在が確認された。条坊内では近年一区画90m四方の設計プランが導き出されているが、条坊外に続く条里の存在も指摘されており、この調査地が条坊の外側であった可能性も考えられ、平安時代後期に条里の土地での住宅開発があったとみられ、条坊と条里の関係を知る貴重な所見を得ることが出来ている。

今回の調査地の東側丘陵上には般若寺跡があり、現在塔跡が現存している。塔跡は一辺8.8mの瓦積基壇でその中央付近に後世の移動があるものの塔心礎が置かれている。その周辺からは塔跡より遡るとみられる掘立柱建物などが確認されている（第231次調査）。

般若寺跡が所在する丘陵の西斜面は、瓦窯の存在が知られていたが、開発によって明確な調査が行われることなく住宅地になっていた。しかし、2007年、住宅改築に伴って、窯跡が1基確認され、発掘調査が行われた（第270次調査）。瓦窯は有階無段登窯で、天井が落下した様子が確認でき、窯内からは粘土質の瓦片が多く出土した。時期は10世紀代と推測される。この瓦窯跡は第236-2次調査地の東隣に位置する。

以上のような調査成果が増加する大宰府条坊跡において、今回の調査地はその大宰府条坊の真ん中付近に位置し、標高は31.7mの平地で、西と南は開けていて南西の鷺田川方向に向かって僅かに低くなっていく。東側は般若寺跡が所在する標高50mほどの丘陵が迫り、北側はその般若寺丘陵から派生した標高38m前後の低丘陵が中央大路（推定朱雀大路）付近まで続いていて、現在のように住宅が建て込まな

かったとしても、調査地から真北の政庁官衙域は見通しがきかない立地だったと推測される。また、西鉄太宰府線が丘陵の狭間を通っているが、最近の発掘調査（第214・240次調査）から、ここは古代から谷地形であったことがわかっている。

近代以降この地には西鉄二日市操車場があったのだが、その西日本鉄道は大正4年10月に太宰府参拝客の輸送を目的に、筑紫電気軌道株式会社として設立され、その後社名を九州鉄道株式会社に変更するとともに、都市間の旅客輸送を目的とするようになった。大正11年9月16日福岡～久留米間38.8kmの工事に着手し、大正13年4月12日完成に至った。二日市操車場と呼ばれる二日市工場と車両基地（車庫）もこの時に設置されている。当時の車両は96人乗り、4輪ボギー客車16両で、福岡～久留米間を55分で走る当時としては最新鋭車両であった。全線14区に分けられ、1区6銭であった。福岡～大牟田間全線が開通したのは昭和14年7月1日のことで、昭和17年に西日本鉄道に改称している。

昭和53年当時の二日市操車場の規模は、工作線9（799m）、検車線3（518m）、洗車線3（420m）、ピット線6（298m）、留置線2（410m）であった。しかし、輸送力増強などにより二日市車庫は収容力が限界に近づき、昭和48年筑紫駅近くに新しい筑紫車庫の建設に着手、昭和51年7月には一部使用が開始され、昭和57年3月25日に車両基地が完成し、昭和62年1月1日に筑紫工場が完成した。この筑紫車庫の完成により、二日市操車場は解体されるに至った。

調査地点の当時の状況は、第236-1次調査地には車両基地、第236-2次調査地には住宅などが十数件建ち並んでいた。基地解体後発掘調査直前までは前者が空地で、後者が駐車場として利用されていた。

参考文献

- 『遺跡だより48号 昔は町外れでした』太宰府市教育委員会 2001年
- 大宰府条坊跡第258次調査現地説明会資料 筑紫野市教育委員会 2007年
- 『大宰府条坊跡27』太宰府市の文化財81集 太宰府市教育委員会 2005年
- 『西日本鉄道70年史』西日本鉄道株式会社 1978年
- 『西鉄創立80周年記念 明日に翔ける』西日本鉄道株式会社 1988年

II、調査体制

(平成16 / 2004年度)・・・発掘調査

総括	教育長	關 敏治
庶務	教育部長	松永栄人
	文化財課長	木村和美
	保護活用係長	久保山元信
	調査係長	永尾彰朗
	事務主査	藤井泰人(～6月30日) 齋藤実貴男(7月1日～)
	主任主事	大石敬介
調査	主任主査	城戸康利
	技術主査	山村信榮 中島恒次郎
	主任技師	井上信正 高橋 学 宮崎亮一(調査担当)
	技師(嘱託)	下川可容子 森田レイ子 渡邊 仁 長 直信 柳 智子 松浦 智(7月1日～)(調査担当)

(平成19 / 2007年度)・・・報告書発行

総括	教育長	關 敏治
庶務	教育部長	松永栄人(～9月30日) 松田幸夫(10月1日～)
	文化財課長	齋藤廣之
	保護活用係長	久保山元信(～9月30日) 菊武良一(10月1日～)
	調査係長	永尾彰朗
	主任主査	吉原慎一 齋藤実貴男
調査	主任主査	城戸康利 山村信榮 中島恒次郎
	技術主査	井上信正
	主任技師	高橋 学 宮崎亮一(整理担当)
	技師(嘱託)	柳 智子 下高大輔 大塚正樹 端野晋平

なお、調査および整理に際して、次の方々から有益なご教示を得た。記して感謝いたします。

(順不同・敬省略)

小田富士雄(福岡大学名誉教授)、山中章(三重大学教授)、大橋泰夫(島根大学教授)、狭川真一・佐藤亜聖(元興寺文化財研究所)、舟山良一・石木秀啓(大野城市教育委員会)、松井章、玉田芳英、豊島直博、箱崎和久、市大樹、関広尚世(奈良文化財研究所)、山川均(大和郡山市教育委員会)、長谷川透(明日香村教育委員会)

III、調査および整理方法

調査および整理方法については、『佐野地区遺跡群I』(太宰府市の文化財第14集 1989)、『太宰府市における埋蔵文化財調査指針』(太宰府市教育委員会 2001年9月改訂)に基づいている。

○発掘調査

南北に長い調査地で、表土除去を行った時点で、南端ではすでに地山が検出されていたが、北端では全く地山が見えていない状況であった。遺構面が全面均等のレベルで広がっていないことが予想されたため、整地の広がりや注意しながら遺構検出を行い、遺構の掘削は明瞭に古い時期の遺構と判断できない限り、各調査面で確認したものおよび遺構プランが完結しているものを随時掘削し調査を行った。また、攪乱が多く見られたが、攪乱の底面から検出した遺構については、どの遺構面に属する遺構なのか判断が困難なため、攪乱内で完結している遺構については第1調査面で調査した。

表土剥ぎはバックホーによって行い、第1調査面の検出を行った。北側のみに広がる第2遺構面は、遺構プランの一部は第1調査面ですでに検出されていたため、その上面を覆う整地や遺構を人力によって除去した。第3調査面は第3遺構面を覆う灰色土を除去した面であるが、調査区中央の大攪乱の南側で、灰色土が厚く堆積していたため、人力で遺物の出土状況や遺構の有無等を確認しながら2/3ほどの厚さを除去した後、残りの1/3ほどはバックホーによって掘り下げ、第3調査面を検出した。北側の一部を除いて調査区の大半が、第3・4の遺構面が混在して検出され、掘立柱建物等と切りあっていない限り、同時に検出・掘削を行った。

各調査面はラジコンヘリによる航空測量を行い、第2～4調査面は手測りによる実測も行った。

○整理報告

報告の手順としては、遺構がどの段階で確認されるに至ったかを明確にするため、大きな相違がない限り、調査作業順つまり調査面ごとに報告し、主要遺構の遺構面の整理は第VI章のまとめで行っている。よって、第IV章の調査報告では、調査面ごとに報告しているため、同一面でありながら、時期の異なる遺構が混在することとなっている。また、遺構略測図は全て調査面ごとに整理したが、遺構全体図については、第3調査面で明瞭に第4遺構面と認識できた遺構のみを抜き出し、第4調査面に合成し報告している。

遺物については、国内からの搬入品については形状が確認できるものは極力報告することに努めたが、整理報告作業の効率化と報告書のスリム化のため、規格性が強い輸入陶磁器については『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類-』を基に分類し、出土遺物一覧表に分類と破片数を掲載したのみで、実測作業は基本的にやっていない。しかし、未分類のものや稀な陶磁器などについては実測し報告している。よって、遺構時期の検証については、出土遺物一覧表も同時に確認して頂きたい。また、古代の遺構から確認される石鏃等の石製品については、混入品と判断したものの、条坊施行以前の活動を物語る遺物と考え、出土遺構ごとには報告せず、調査面毎にまとめて報告している。

上記のように遺構面が単純でないため、この調査報告書については、言葉の混乱を避けるため、発掘調査作業において遺構面と判断し調査した面のことを「調査面」、その後の検証で確認された面を「遺構面」と区別し報告することとする。各調査面で確認された遺構面との大雑把な関係は、第1調査面で第1・3遺構面、第2調査面で第2遺構面、第3調査面で第3・4遺構面、第4調査面で第4遺構面である。

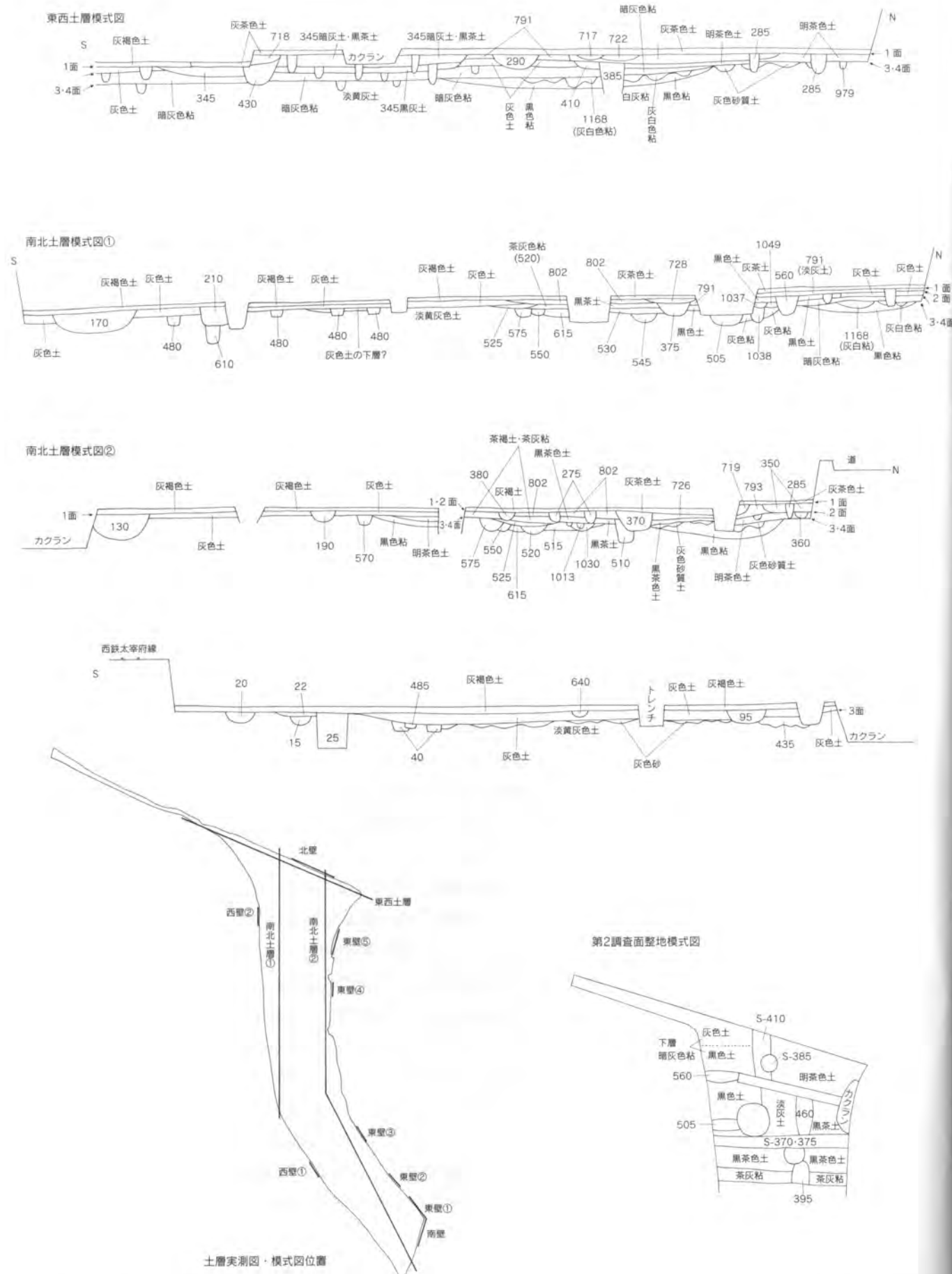


Fig.4 第236-1次調査土層模式図・調査区土層実測位置図・第2面基盤層模式図

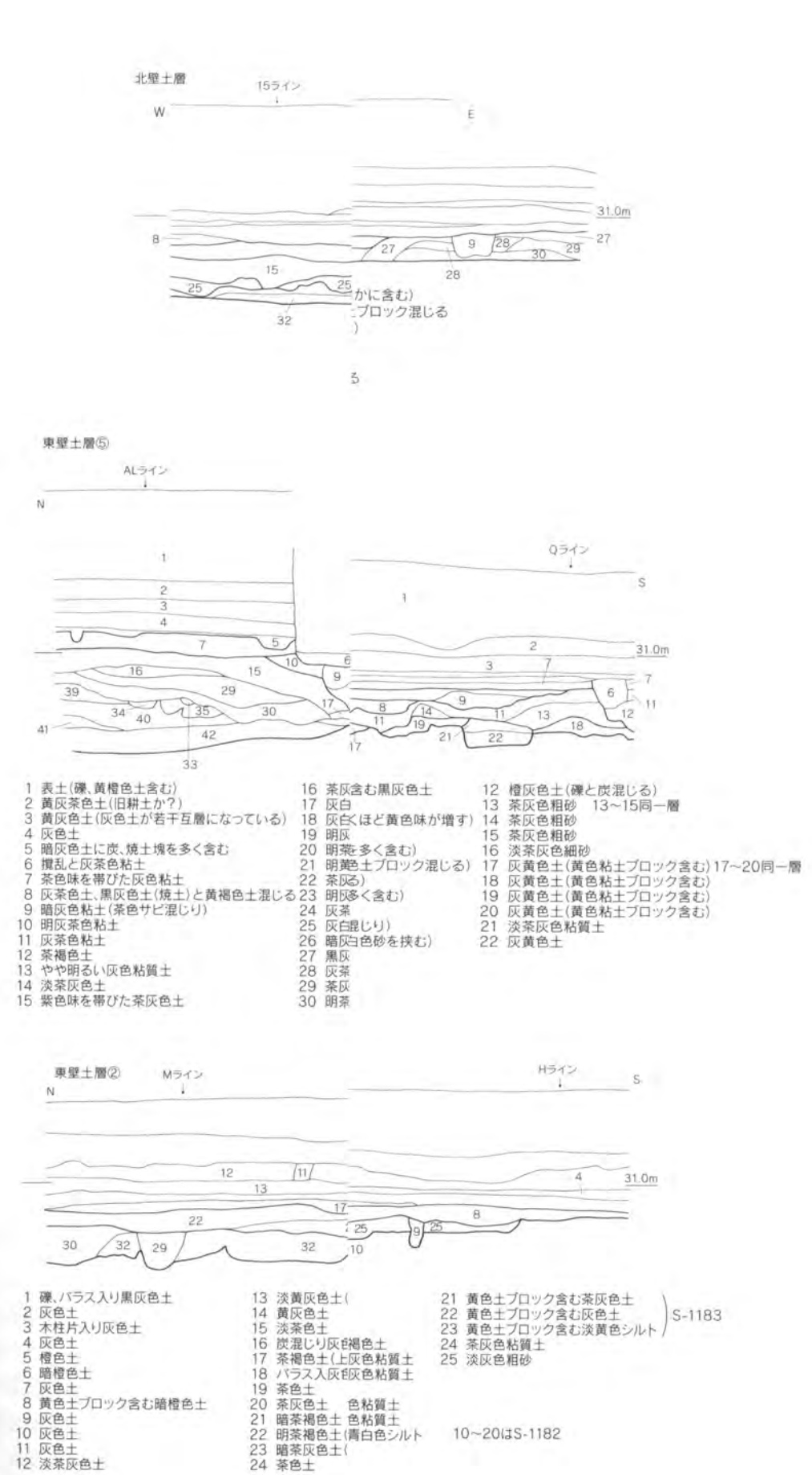


Fig.5 第236-1次調査土層模式図・調査区土層実測位置図・第2面基盤層模式図

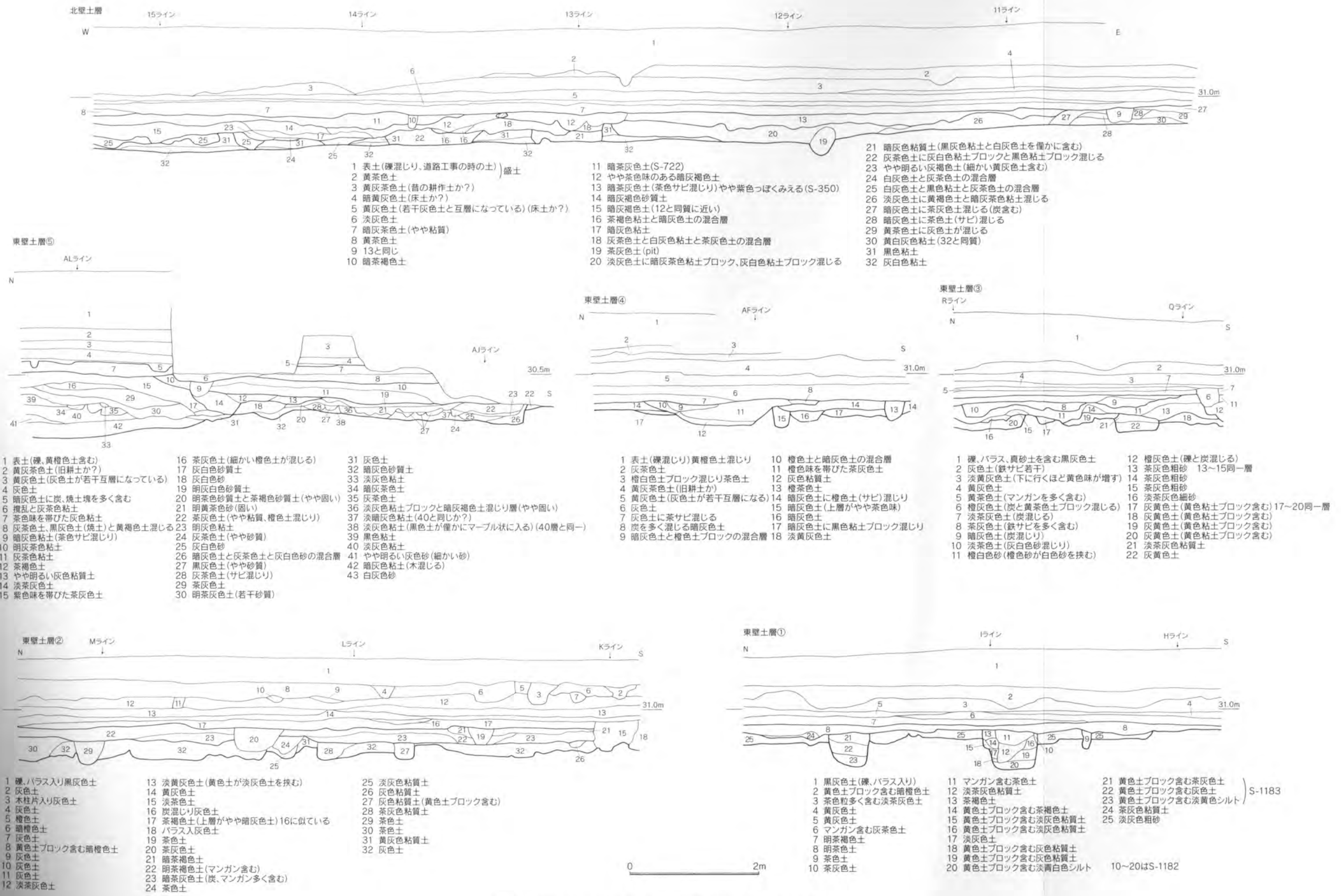


Fig.5 第236-1次調査区土層実測図① (1/60)

IV、調査報告

1、第236-1次調査

(1) 調査に至る経過

第236次調査の調査地は太宰府市朱雀3丁目340-1、305-1で、太宰府市の南辺中央付近に位置する。

1992年2月29日、西日本鉄道株式会社の依頼によって二日市操車場跡地の試掘調査を行い2面以上の遺構が広がることが確認された。1995年に北辺部の市道が拡幅されることにより発掘調査が実施され(第168次調査)、試掘所見を上回る2～4面という高密度な遺構が展開されることが確認された。

平成14年2月28日、市の都市計画課から県道新設に伴う資料作成の要請があり、本格的に県道部分の発掘調査の調整に入った。

県道581号観世音寺二日市線は、月山官衙跡前から南に伸び、榎社の横を通り、筑紫野市境で県道福岡日田線(旧国道3号)に接続する道路であったが、西鉄二日市駅東口の開設や県道整備に伴って、榎社から西鉄二日市駅東口に通じる道路が新設されることとなった。そこで、西鉄太宰府線と西鉄二日市駅間の敷地および西鉄天神大牟田線と太宰府線に挟まれた三角形の広大な西鉄二日市操車場跡地を横切るように計画された。また、西鉄二日市駅に近い所では市道が新たに接続するというので、併せて調査を行った。調査は遺構密度が高い西鉄太宰府線より北側を第236-1次調査として先行して実施し、駐車場として使用していた南側を第236-2次調査として続けて調査を行った。

西鉄二日市操車場の主要な建物が建っていた部分が調査対象地ということもあり、その名残である線路や枕木などがみられたが、最も障害となったのは建物等の大きなコンクリート基礎で、深く入り込んだものは地山まで達し、遺構を大きく破壊していた。また、調査を行った2004年は、台風が過去最高の10個日本に上陸し、しかも温暖化の影響なのか、通常の降雨でも豪雨になるという異常気象の年であった。よって、ひと雨降れば現場は全面水浸しで、浅いところでも水深30cm近く水没するという状態で、昼夜問わず排水を行っても、2日以上かかってしまう始末であった。このような悪条件は現場進行の停滞と遺構の崩壊を招き、調査精度に大きな影響を与えることとなった。

発掘調査は第236-1次調査が2004(平成16)年4月19日から2005(平成17)年3月29日、第236-2次調査が2005(平成17)年1月26日から2005(平成17)年3月29日にかけて実施した。広大な面積と遺構面が複数に展開するため、調査は宮崎亮一と柳智子が常時担当し、調査中頃から松浦智が参加し行われた。開発対象面積は第236-1・2次調査合わせて約5000m²、そのうち第236-1次調査の調査面積は2740m²である。

(2) 基本層位

○第1遺構面の覆土

深さ0.9mほどまでは西鉄二日市操車場のコンクリート基礎、攪乱、表土が覆っている。その下に操車場建設直前に広がっていた田圃の耕作土と床土が全面に覆い、0.2mほどの包含層を除去したところで、第1調査面として遺構を確認している。現地表面から約1.1mの深さである。

○第1遺構面と第1遺構面基盤層

第1調査面での遺構検出時の取り上げ土色は灰褐色土で行ったが、AKライン付近から北側一帯では、重機による表土剥ぎ後、細かい土器片が多く散らばり、周囲と状況が異なっていたため灰茶色土と分けて取り上げた。

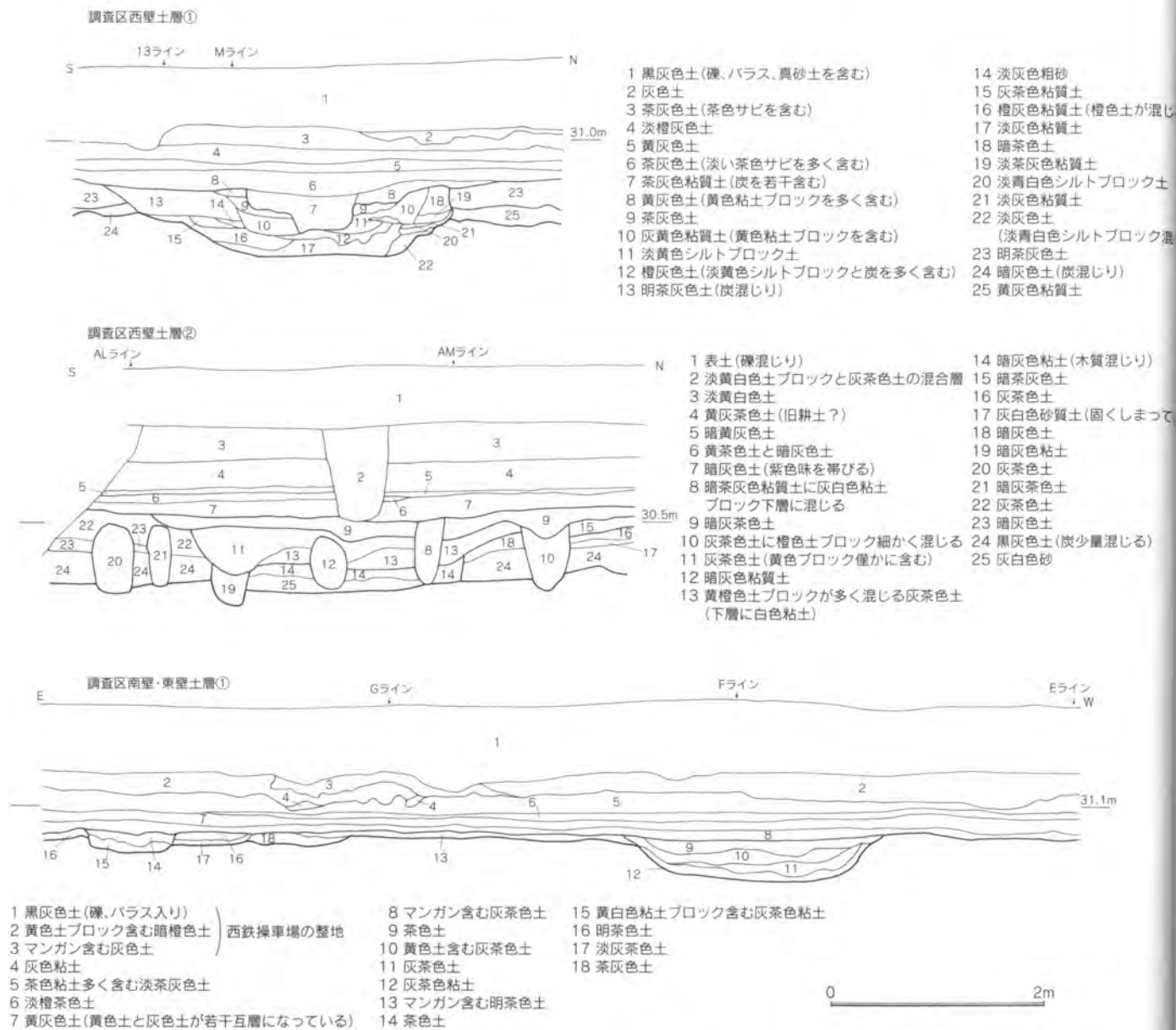


Fig.6 第236-1次調査区土層実測図② (1/60)

第1遺構面基盤層は、大きくみれば薄い紫色のような土色で、調査地全体に広がっていた。しかし、北側が若干土質の異なる大きな塊状の整地で形成されていたため、北側の基盤層は土質ごとに遺構番号を付して除去した。また、第2遺構面が第1調査面検出作業時に部分的に確認できるところもあった。この北側の整地状況は南から続く淡黄灰色土の地山が窪み下がっていくAI付近からみられ、その整地を除去した面が第2遺構面である。第1調査面はその後の精査で、全体的に若干掘り下げ過ぎた部分がみられたが、この調査面が今回の調査地でほぼ最上の遺構面と認められた。しかし、南端部に関しては第1調査面で既に地山まで検出している状況で、第3遺構面までが同一レベルで確認できるという新旧混在した状況であり、その遺構の中で最も新しい遺構が第1遺構面のものということになる。

○第2調査面と第2調査面基盤層

第1調査面基盤層のうち、北側に団塊状に広がる整地を除去した後に確認し調査した面を第2調査面とし、その後の精査から第2遺構面と同じ意味をなしていると判断できた。調査区南側では第2遺構面は明瞭に確認できなかった。



Fig.7 第1調査面基盤状況

第2調査面基盤層は、主に灰色土層で、これは淡黄灰色土のシルト質の地山を覆う土層である。平安時代前期の遺物を含む層で、SD015の東西溝の北側付近から始まり、北に進むにつれ徐々に深くなり、深いところで厚さ0.4mほどになるが、大きな攪乱を挟んで北側は厚さ0.1m前後と薄くなりながら北側へつづく。SD415の東西溝があるAI付近から北側は、淡黄灰色土が深く下がり、全体が落ち込み状になっていたためか、層位が南側と異なるため灰色土の広がり方が明確につかめていない。灰色土層は全面一様な整地ではなく、南側の灰色土が始まる部分は全体が灰色土であるが、大攪乱に近いほど若干状況が異なり、灰色土の下層、つまり、地山を覆う層は、黒灰色粘土ブロックと黄灰色土と灰茶色土の混合層である。また、大攪乱の西側のSD170の周囲は黒灰色粘質土や灰色粘質土が0.2mほど窪み状に堆積していたが、遺物は殆どなく、重機によって除去した。

灰色土の遺物は上面で出土することが多く、掘り下がるほど極端に少なくなる。掘削時は判別できなかったが、その後の精査で地山(淡黄灰色土)と第3遺構面との間には2層あることが確認され、その上層が第2調査面の基盤層(灰色土とする)であり、下層は第3遺構面の基盤である。この下層は一様に広がるものでなく、アメーバ状の凹凸である。

また、一部第1遺構面の遺構の掘り残しがあるのか、11世紀の遺物が部分的に出土する。

○第3遺構面と第3遺構面基盤層

第3調査面検出作業で、第2調査面基盤層(灰色土)が上下2層になっていたことに気づけなかったため、第3遺構面の基盤層も一部同時に掘り下げてしまった。よって、調査では地山やそこに掘り込まれているアメーバ状の凹凸に、遺構が切り込んでいる状態で検出されたが、実際には、これらを覆う薄い灰色土

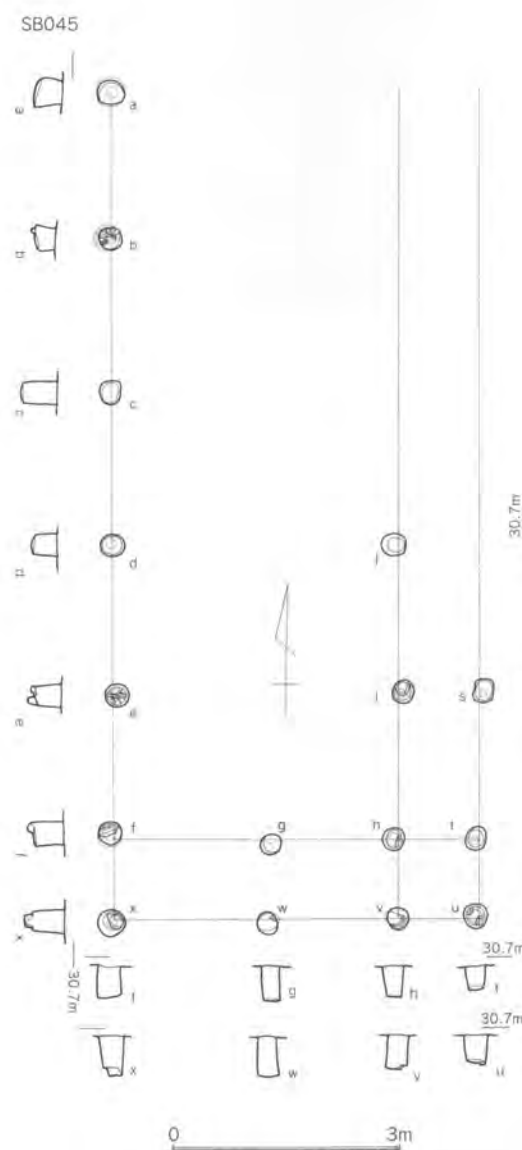
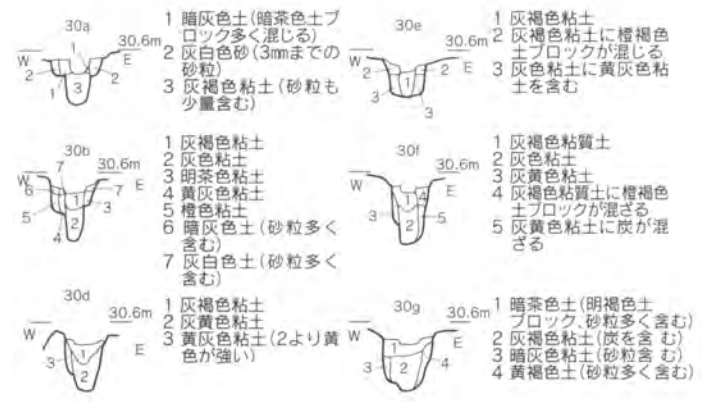
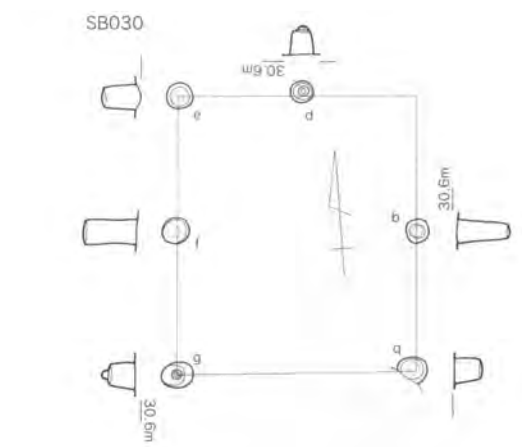


Fig.8 SB030・045遺構実測図(1/100、土層図は1/50)

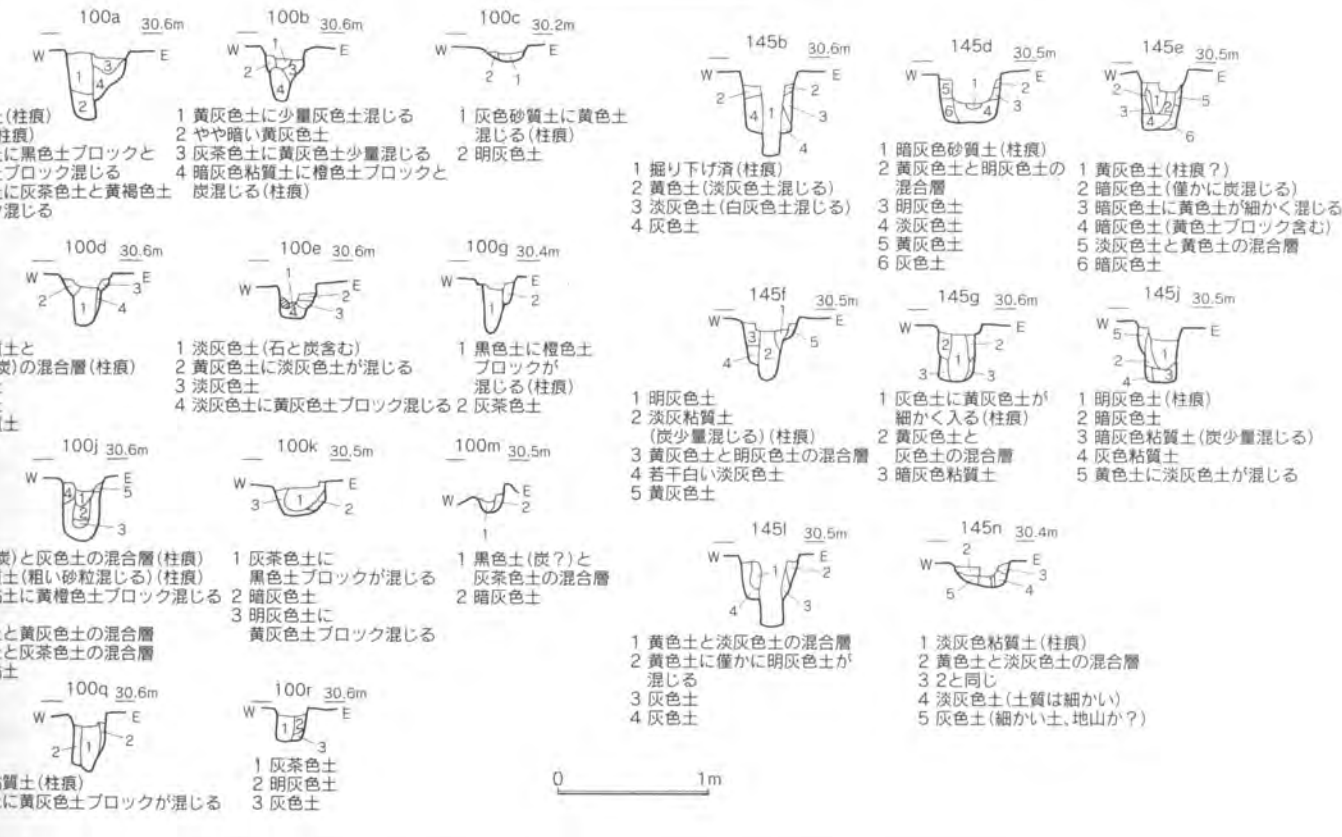
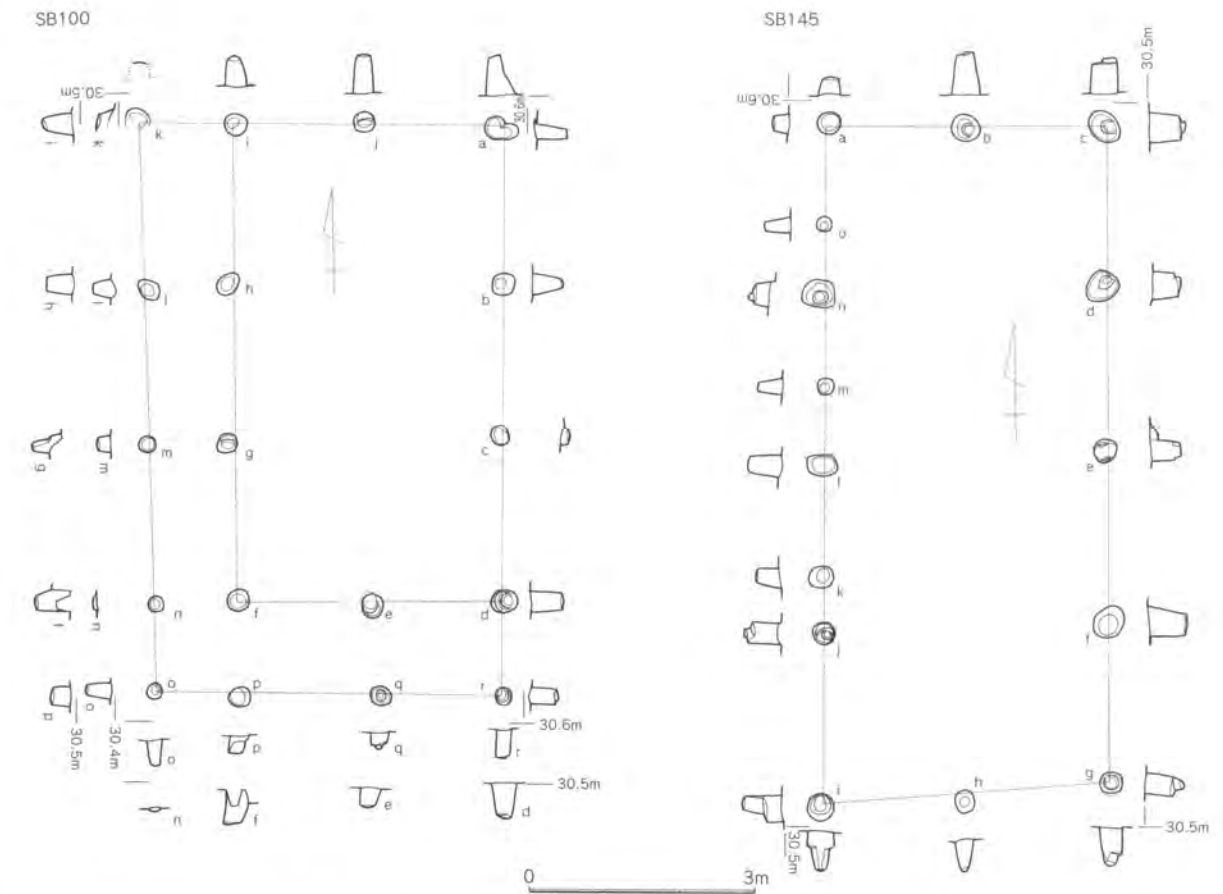


Fig.9 SB100・145遺構実測図(1/100、土層図は1/50)

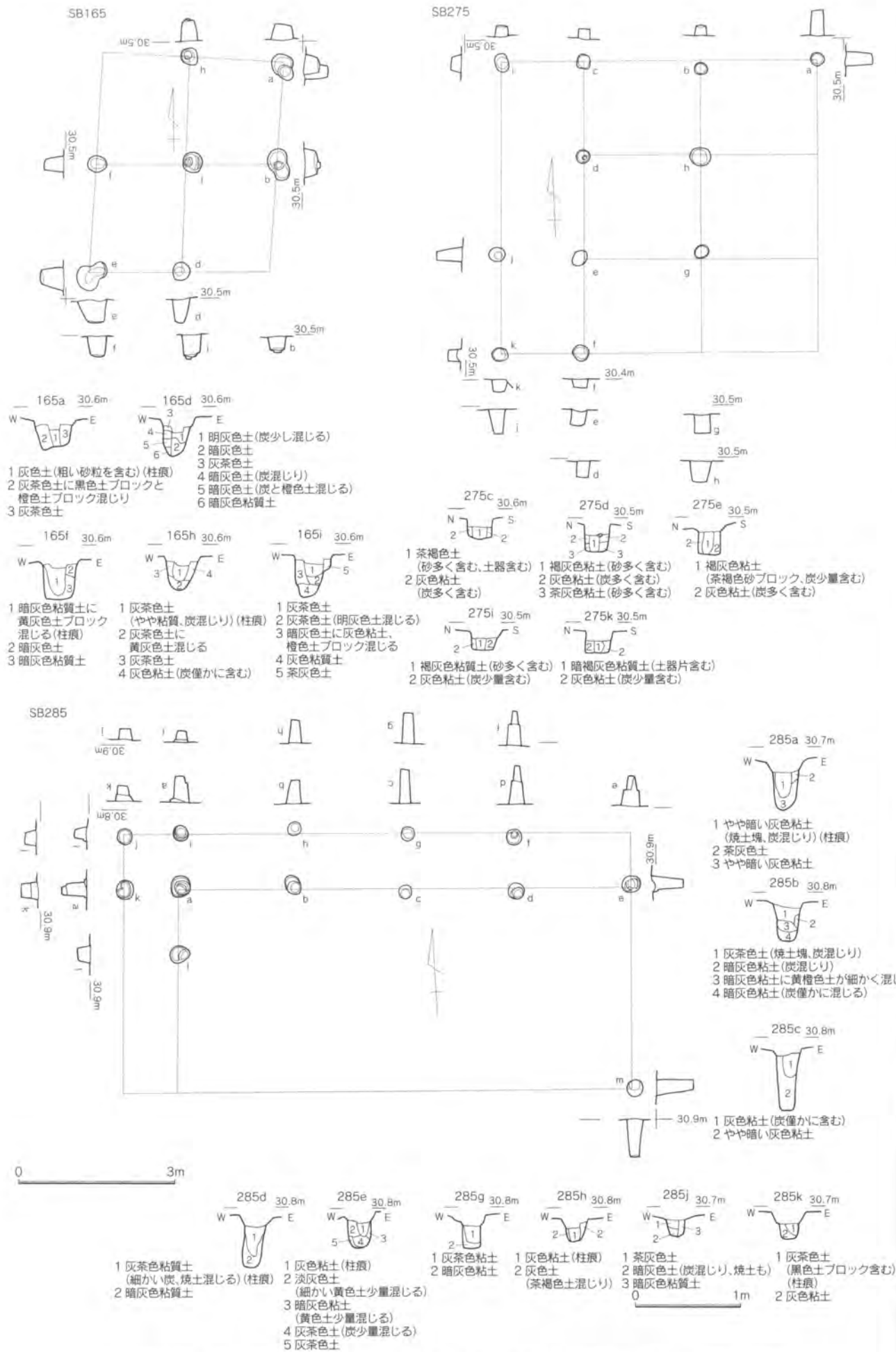


Fig.10 SB165・275・285遺構実測図(1/100、土層図は1/50)

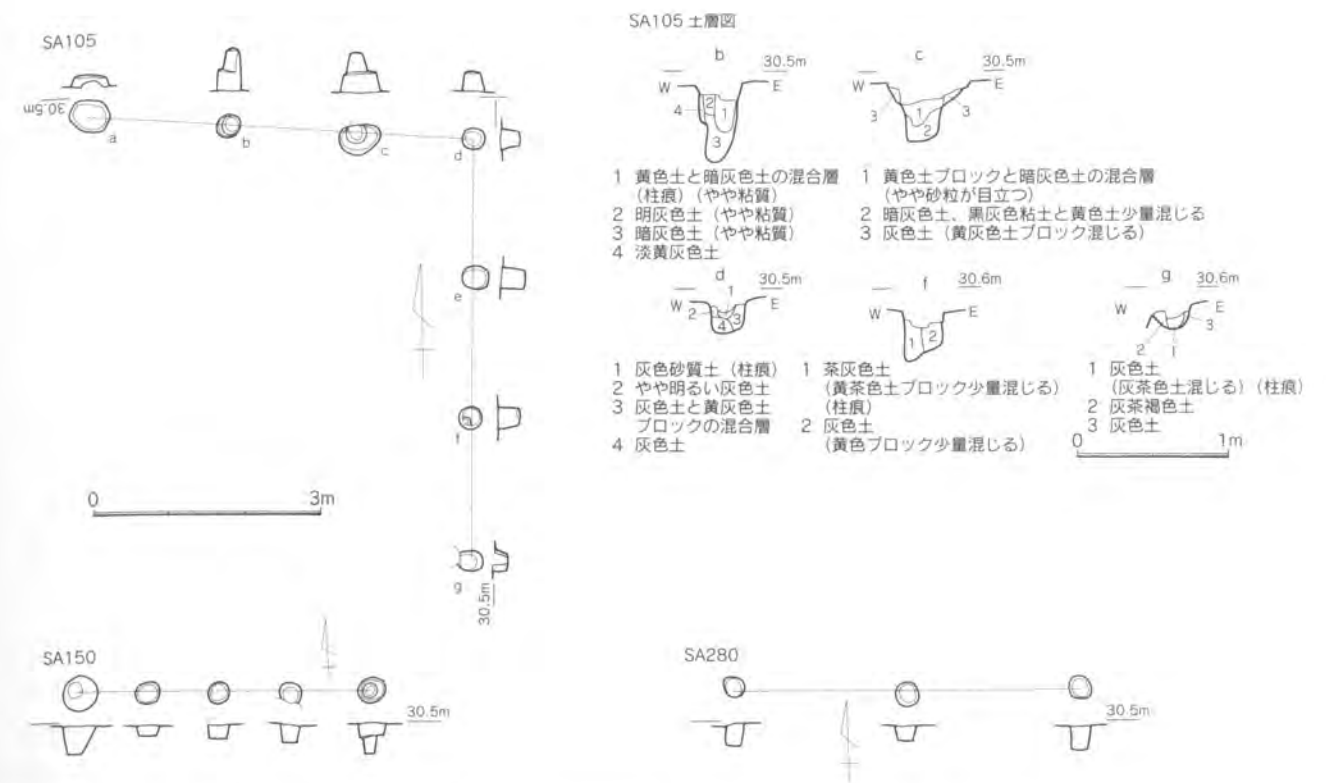


Fig.11 SA105・150・280遺構実測図(1/100、土層図は1/50)

下層が第3遺構面の基盤であることが、その後の精査で確認できた。第3遺構面の南端部分は第1調査面で確認され、調査を行った。

○第4遺構面

第4遺構面は第3調査面で検出された遺構のうち、埋土が淡灰色の真砂土のような土や灰色砂で、地山である淡黄灰色土にアメーバ状に広がっているものが第4遺構面の遺構である。調査区北側で検出された黒色粘土にも、凸凹に入り込んでいて、黒色粘土ブロックやその下層の白灰色粘土のブロックなどが埋土に含まれている遺構を第4遺構面と判断した。これは、自然によるものではなく、人工的に掘り返されたものであることが理解できたが、そのほか淡黄灰色土に広がるアメーバ状の凸凹は僅かに遺物が含まれているものの、すべて人工的な意図がある掘り込みとも言い難く、また、淡黄灰色土の地山が降雨後とても柔らかいことから上面からの沈み込みも含まれていると考えられる。

(3) 検出遺構

3つの調査面に分けて発掘調査を進めたが、III章の調査および整理方法で述べたように整地の有無等によって第1調査面で第3遺構面の遺構を掘ることもあり、よって、時期の異なる遺構が混在する結果になっている。ここでは調査面で報告し、各時期については第VI章でまとめることにする。

○第1調査面

掘立柱建物

236-1SB030 (Fig.8)

2×2間の南北棟。振れは桁行で約N-3° 43' -Eである。北東隅は調査区外で、南側中央はSK050に攪乱されて不明である。掘り方は円形で直径0.3～0.4m、深さは0.4～0.7m、柱痕は直径0.1～0.15m程である。柱間は南北が1.8～1.9m、東西が1.6mを測る。

236-1SB045 (Fig.8)

2×5間の南北棟であるが、北側は調査区に接するため、5間で終わるかさらに延びるのかは明確でない。振れはN-1° 45' -Wである。柱間は梁行が西から2.0mと1.8m、桁行は2.0mで南端の柱間のみ1.9mである。掘り方は円形で直径0.25～0.35m、深さは0.35～0.5m、柱痕は直径0.12m前後である。さらに東側と南側に1.08mの間をあけて庇が1間付いている。掘り方は格子状に広がる畑状遺構の溝の埋土に掘り込んでいる。

236-1SB100 (Fig.9)

2×3間の南北棟の掘立柱建物で、南と西に庇が1間づつ付く。振れはやや歪んでいて、東側の柱筋で約N-1° -Eを測る。柱間は梁行1.75m、桁行2.1m。掘り方は径0.3m前後、深さ0.4～0.5mで、庇の掘り方は径0.2m前後、深さ0.2～0.3m、柱痕は直径0.12～0.16mである。西北隅の庇の掘り方がXII期埋没のSD070の埋土に切り込んでいるため、それ以降の建物と推測される。

236-1SB145 (Fig.9)

2×4間の南北棟の掘立柱建物で、振れはほぼ真北を示している。柱間は桁行およそ2.2m、梁行1.9mを測る。掘り方は径0.3～0.4m、深さ0.5前後の円形で、柱痕は直径0.12m前後である。西側のみそれぞれの柱間の中央付近に径0.2～0.3mのピットが確認された。そのピットの埋土は灰色粘土である。

236-1SB165 (Fig.10)

2×2間の総柱の掘立柱建物で、振れは全体的に歪んでいて、東西に柱筋を合わせている所もあるが、およそN-1° 56' -Eに振れている柱筋もある。柱間は東西1.7～1.8m、南北2.07mを中心に狭い所は1.95mを測る。掘り方は径0.3～0.4m、深さ0.4m前後の円形で、柱痕は直径0.16m前後である。SB100と重複しているが、掘り方の切り合いがなく新旧については不明。北西隅の掘り方は確認できていない。埋土に焼土塊を含むものがある。

236-1SB275 (Fig.10)

2間以上×3間の総柱の掘立柱建物の東西棟で、東側は調査区に接するため、さらに東側に続く可能性がある。西側に建物から1.6mで庇が付く。振れはN-2° 35' -Eを測る。柱間は東西2.2m、南北は1.8m、2.0m、1.8mで中央部分がやや広い。掘り方は径0.22～0.38m、深さ0.2～0.5mの円形で、柱痕は直径0.1m前後である。柱痕は褐灰色粘土で、裏込めは灰色粘土で、両方に炭化物を多く含んでおり、これらの炭化物は建物建築前のものと推測される。

236-1SB285 (Fig.10)

調査区北端で南側は、試掘トレンチによって消滅している。3×4間の東西棟で、北と西には建物から1.06mで庇が付く。振れはW-2° 57' -Nを測る。柱間は東西2.15m、南北は約1.2mを測る。掘り方は径0.24

～0.38mの円形で、焼土塊が多く出土する。また、柱痕は灰色粘土である。

236-1SB340

4間以上×2間以上の南北棟で、南側は攪乱により不明、西側は調査区外へ続いていて、この報告書作成時にその西隣で第267次調査が行われていて、続きを確認した。柱間0.9～1.2mで、振れはほぼ真北を示す。柱痕は全体に灰色や茶灰色の粘土で、明瞭に確認できる。

236-1SB655

調査区西端で検出したピットが、その後隣接地で調査を行った第255次調査のS-101と第257次調査のS-5と合わせて、2間以上×3間の南北棟で、南側と東側に1間の庇が付く建物であることが判明した。振れはおよそN-1° 57' -Eを測る。掘り方が楕円形のものも多く、建替えもしくは柱痕の除去が行われた可能性が考えられるが、柱穴掘削後に建物と認識したため掘り方の埋土状況が掴めていないため、明確に言い切れない。柱間は南北2.0m、東西は1.8mと2.0m、庇との間は東側が1.0m、南側1.08mである。全体として4.9m×7.0mの建物である。

236-1SB660

調査区南端で検出したピットが、隣接する第255次調査のS-60と合わせて、東西2間、南北4間で、南側に庇が付く南北棟と考えられる。柱間は南北2.1m、東西1.8m、庇との間は2.2mを測る。振れはN-2° 30' 46" -Eである。

柵列

236-1SA105 (Fig.11)

南北3、東西3間のL字に展開する柵列で、東西5.0m、南北5.45mを測る。当初は調査区外に続きがあると推測し、掘立柱建物と考えていたが、隣接地で調査を行ったところ、続きとみられる遺構が確認できなかったため、柵列として報告する。柱間は南北1.85m、東西1.55～1.9m。

236-1SA150 (Fig.11)

東西に並ぶ柱痕を確認した5個のピット列。全長4.0m、柱間0.92～1.06mで、振れはW-2° 43' -Nを測る。SB145の掘立柱建物の掘り方と接しているが、切り合い関係は微妙で不明瞭である。

236-1SA280 (Fig.11)

SB275の北側に平行して東西に並ぶ3個のピット列。全長4.5m、柱間2.3mで、振れはW-1° -Nを測る。SB275の柱間とほぼ同じであるため、建物と関係があるものと考えたいが、同時に存在するにはあまりに近接しているため、時期が異なる柵列と考える方が妥当であろう。

236-1SA325

柱痕を確認した3個のピットで、南北に並び、対となるピットが確認できないため、柵列と推測される。全長4.7m、柱間2.2mと2.5mで、振れはN-19° 47' -Eを測る。柱痕は灰色粘土であった。

溝

236-1SD001 (Fig.12)

振れはN-0° 43' 29" -Sの南北溝だが、途中で東に屈曲した後、さらに北側に伸びている。検出長17.6m、幅0.6～0.85m、深さ0.1～0.18mを測る。埋土は周囲の地山に似た土質で、茶褐色土と淡灰色土の混合層で、南側に行くほど黄色土混じりの灰色土に変わっていく。遺物は玉緑の白磁が1点出土する以外は奈良時代の遺物が多い。

236-1SD015 (Fig.12)

振れはE-1° 42' 17" -Nの東西溝で、SD020と平行する。検出長20.3m、幅0.65～1.6mで東側がやや狭い。深さ0.05～0.15mで底面はほぼ水平である。

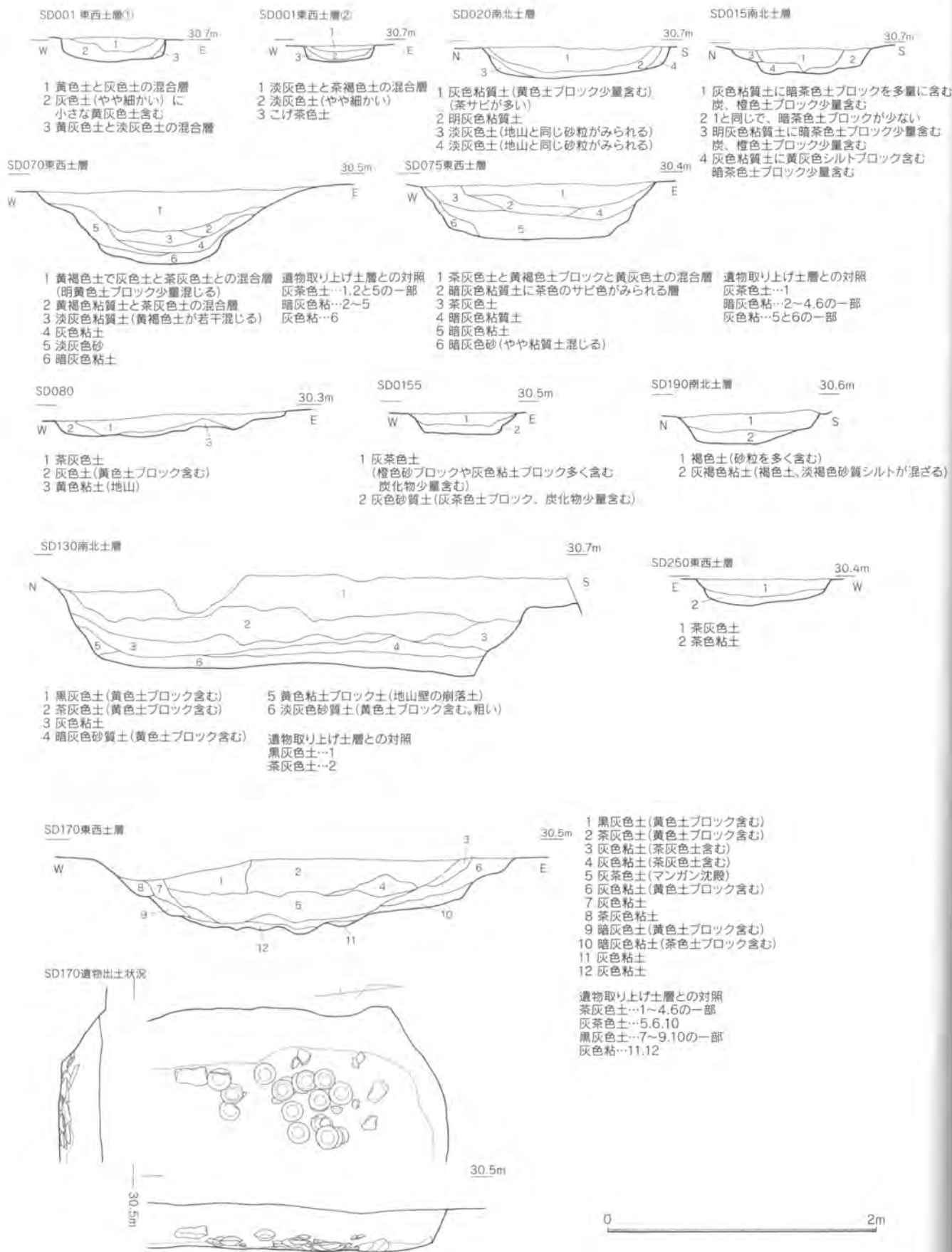


Fig.12 第1調査面溝土層およびSD170遺物出土状況実測図(1/40)

遺構検出時点で、S-22や茶褐色土など11世紀の遺物を含む層が薄く上面を覆っていた。5ラインより西側では、暗灰色土に深く切り込んだ淡灰色土が明瞭に確認できた。淡灰色土には須恵器の蓋3や土師器の環a(9世紀代)の小破片を僅かに含んでおり、暗灰色土のような7世紀末前後の遺物という状況と大きく異なっている。淡灰色土の南端は溝の検出ライン内におさまっていることから、全く異なる溝とは考えがたく、8世紀中頃には殆ど埋没していた可能性が高く、SD015の北で確認された整地が行われた平安時代前半にはこの溝は完全に機能していなかったと推測される。しかし、7世紀末前後の遺物が殆どを占める暗灰色土のような状況は、今後注意すべき課題である。

また、西端で馬の歯片は出土したが、この付近は数条の溝が切りあっているため、この溝の埋没に伴うものなのかは明確でない。

236-1SD020 (Fig.12)

振れはW-1° 49' 37"-Nの東西溝で、SD015と平行する。検出長13.1m、幅1.1~1.65m、深さ0.2m前後でほぼ水平である。北岸が南岸に比べ、なだらかに立ち上がる。埋土は大きく2層に分けられるが、上層はその上の埋土によって、土壌変化したような感じで、土質はほぼ同質とみて問題ないであろう。また、淡灰色土ではF4~F5付近で骨片が少量出土し、その中に馬の歯が含まれていた。

236-1SD035

振れはW-1° 39' 37"-Nの東西溝。SD015を切っている。検出長4.25m、幅0.95m、深さ0.1~0.2mで、東側が若干深くなっているが、全体の埋土は同じ明灰色土である。

236-1SD041・042

振れはE-0° 48' 45"-Sの東西溝。検出長7.9m、幅0.2~0.8m、深さ0.1m前後である。第257次調査で、この延長上の溝が道路南側溝をなしている。

236-1SD065

振れはN-7° 7' 30"-Eの南北溝。検出長4.45m、幅0.5~0.7m、深さ0.04~0.1mの浅い溝で、埋土は暗灰色土の単一層である。SD030の建物がこの溝の埋土に切り込んで建てられている。

236-1SD070 (Fig.12)

振れはN-2° 22' 49"-Eの南北溝。検出長18.7m、幅1.1~2.0mで1.8m前後、深さ0.45~0.5mを測る。周囲の地山は黄灰色の細かい土で非常に柔らかい。多量に出土した遺物は殆どが土師器で、糸切り痕跡は確認できない。遺物の時期幅はない。遺物を含む層は土量より遺物量が多い状況で、一括廃棄したと推測される。北側は攪乱が大きく削平されているが、その直前で陸橋状の高まりがあり、上端幅が0.4m以上、溝との高低差0.2mを測る。南側のSD075との境界部分も試掘で削平を受けているが、陸橋状になっていて上端幅0.43m、下端幅1.27m、高さ0.3mを測る。この陸橋間は上端で12.6m、下端で11.8mを測る。これは条坊内の道路側溝でみられる連続土坑の状態が良いものと見られる。

埋土は遺物を多く含む層が暗灰色粘土と灰色粘土で、粘土が厚く堆積している。その両岸には砂層が薄く堆積する。特に北側の陸橋状になっている部分には粗い砂がやや厚めに堆積していた。

236-1SD075 (Fig.12)

南側は調査区外に続き、北側は陸橋状の高まりを挟んでSD070に続いている南北溝。検出長3.85m、幅1.85m、深さ0.5mを測る。埋土の堆積状況も下層ほど粘土層になっている。よって、SD070と同じ遺構とみて間違いのないであろう。

236-1SD080 (Fig.12)

振れはN-5° 49' 5"-Wの南北溝。検出長8.65m、幅0.6~2.4m、深さ0.05~0.15mを測る。遺物は多くないが、奈良時代の遺物が多い。遺構は浅いため、溝の両肩は直線的ではなく、蛇行している。北

側がやや深くなっている。

236-1SD125

検出長2.25m、幅1.15m、深さ0.3mを測る南北溝。調査区端のため全容は不明瞭だが、SD080に切られている。埋土は細かい淡灰色土で、周辺の地山の土が堆積したとみられる。埋土中に川原石は4個まとまって出土した。

236-1SD130 (Fig.12)

振れはW-1° 49' 32" -Nの東西溝。西側が大きく攪乱によって破壊され、東側はすぐ調査区外になるため、検出長4.0m、幅3.55m、深さ0.6mを測る。南側に淡灰色土、北側に明灰色土、それを除去すると一見地山のような黄色土と灰色土の混合層がみられたが、横の攪乱からこれは溝の埋土であることが確認できた。底面は途中で幅0.37～0.6mほど陸橋ようになっていて、高さは東底より0.2m、西底より0.45mを測る。埋土の最下層は灰色土のとても細かい土である。その土質はこの現場の雨天後に堆積した土壌に良く似ているため、随時流水があったというより、自然に堆積したとみるのが妥当であろう。

236-1SD155・190 (Fig.12)

南北方向の溝だが、東にやや湾曲している。検出長15.0m、幅0.9～1.0m、深さ0.14～0.3mを測る。SD070の延長上に位置するが、その間が攪乱で大きく削られているため、連続性が掴めない。埋土もSD070と全く異なり、茶褐色土で遺物も散発的に出土する状況である。SD155とSD190は攪乱によって分断されているが、埋土の状況が茶灰色土と灰茶色土の2層に分かれ、全く同じであることから、同一のものと判断できる。

236S-1SD170 (Fig.12)

振れはN-5° 2' 23" -Eの南北溝。長さ12.3m、幅2.6～3.15m、深さ0.3～0.55mを測る。北端ではほぼ完形の土師器の丸底杯aが19個、小皿aが1個が重なり合って出土した。出土位置は底面より僅かに浮いた状態であるが、土器間の埋土と土器下の埋土は殆んど同じである。また、土師器は裏返ることなくすべて正位置で出土していることなどから、埋没時に意図的に置かれたものと推測される。その他では破片が出土するくらいで、多量に遺物が出土する状況ではない。埋土はやや濁った茶灰色土と灰茶色土が厚く堆積している。底および側面には灰色土や灰色粘土が薄く堆積している。また、丸底杯4枚の内面に薄く炭化物が堆積していた。樹種同定の結果、第V章に記しているようにシャンシャンボとツゲ科の炭化物であった。

236-1SD180

南北溝で振れはN-0° 6' 39" -Eである。長さ9.8m、幅1.6m以上、深さ0.05m前後と浅く、埋土は黒灰色土で、底面には2条の南北溝 (SD329, SD185=225) が走り、東端の溝 (SD329) は幅0.45～0.8m (0.6m前後)、深さ0.1～0.2mで、西側の溝 (SD185) の西側立ち上がりは調査区外のためどのようなものかは明確にはわからない。両溝の埋土はほぼ同じで茶灰色土である。しかし、SD225についてはSD185の延長上にあるため、同一の溝とみられるが、遺物から9世紀代の埋没の可能性が考えられるため、明確に言い切れない。

236-1SD210

長さ約4m、幅2.6m、深さ0.3m前後の東西溝。東側を攪乱できれいに無くなっているが、その東側延長上にSD130がある。埋土状況が異なるため、全く同一のものとは言いがたいが、北側のラインは揃っているため、同じ意味を成す溝と推測される。2遺溝を合わせた振れはW-0° 30' 6" -N。埋土は暗灰色土で攪乱近くでは黄色土や木材が出土したが、攪乱による影響と考えられる。

236-1SD220

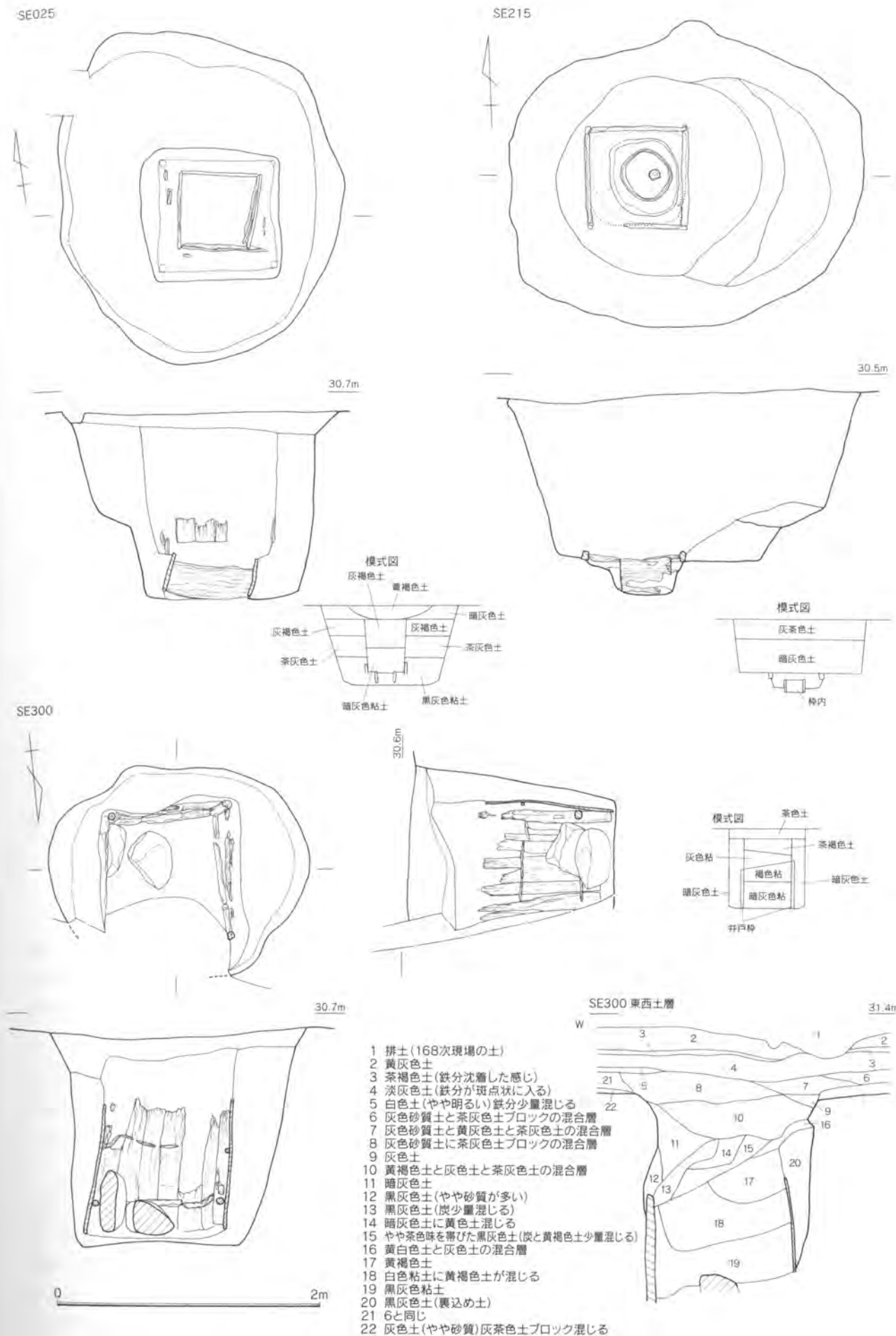


Fig.13 SE025・215・300遺構実測図 (1/40)

振れはN-7° 4' 43" -Eの南北溝。長さ4.2m、幅0.84～0.98m、深さ0.1～0.2m。埋土は茶灰色土でほぼ単層である。畑状遺構に切られている。

236-1SD250・260・335 (Fig.12)

振れはN-0° 36' 23" -Wの南北溝。長さ25.9m、幅1m前後、深さ0.15m前後でU字形をしている。埋土はおよそ2層で、上から灰茶色土と茶灰色土である。遺物量は比較的少ない。SD250と260と335は、それぞれ分断されているものの埋土の状況などから同一の溝と判断できる。

236-1SD270

振れはN-5° 19' 7" -Eの南北溝で北端が東に若干蛇行している。長さ11.6m、幅0.6～0.75m、深さ0.05～0.1m。埋土は淡灰色土でほぼ単層である。

236-1SD657・658

長さ1.7～2.3m、幅0.3m前後、深さ0.05～0.1m前後の小さな東西溝だが、畑状遺構のSX645の北端部に位置する。

井戸

236-1SE025 (Fig.13)

東西2.1m、南北2.5m、深さ約1.4mの楕円形をした掘り方で、遺構検出段階で円形プランの中央に黄褐色土が不定円形で確認できた。遺構全体を0.2mほど掘り下げた段階で、井戸枠と推測される方形プランを確認した。

井戸枠は一辺0.8mの正方形で、北側と南側に幅0.05～0.1mの板材を立て並べていたが、本来の厚みがわからないほど腐食し、一部に残るのみであった。また検出段階でかなり土圧によって前に押し出されていた。四隅には井戸枠を留めていた隅柱の痕跡とみられる径0.05mほどの空洞があった。

中央には0.6×0.6mの正方形に組まれた板材が検出されたが、これはいわゆる曲物の代用であろう。部材の厚さは0.025m、幅は約0.3mで、部材同士はホゾなどの細工もなく組まれていた。表面に加工痕跡などは確認できなかった。この板材上面と井戸枠の底面とでは約0.1～0.2mの落差があり、やや不自然な状態を示している。

掘り方の明確な底面は、調査中に湧水によって周囲が崩壊してきたため、確認できていない。

236-1SE215 (Fig.13)

東西2.68m、南北2.32m、深さ1.38mの楕円形をした掘り方で、東側が一段テラス状になっている。井戸枠は横棧の最下部が残っていて、内法0.68m×0.7mを測る。横棧は西側のものが断面方形状に加工を施しているが、それ以外の3本は樹皮が残り、自然木をそのまま利用したものとみられる。それぞれの端部は凹凸状にホゾ加工し組まれていたとみられるが、腐食し欠損も目立つ。

横棧に囲まれた中央には径0.38m、深さ0.26mの曲物が残っていた。曲物は一辺0.74m、深さ0.26mの正方形の掘り方に納められ、横棧はその掘り方の上面に置かれた状態であった。掘り方の中央付近より下は砂質土で、調査中は曲物内のみ湧水し、その曲物内からは瓢箪のような木製品は出土した。

236-1SE230 (Fig.14)

東西1.9m、南北1.8m、深さ1.2mの楕円形をした掘り方で、西側上面は攪乱によって、削平されている。井戸枠は検出面から約0.6m付近から残っていて、四隅に隅柱を立て（1ヶ所欠損）、内法0.6m×0.7mを測る。南・西側には井戸枠が残存しているが、北側および東側の井戸枠は残っておらず、土層観察からも崩壊したことが窺える。井戸枠は腐食が著しいが、幅0.09～0.12m、厚さは現状では5mmの縦板を使用し、それぞれ南辺は縦板が約8枚、西辺は約9枚、東側は1枚のみ残存していた。南辺では縦板が一部二重になっていた。隅柱は直径約0.05m前後の断面円形で、ホゾなどの加工痕跡は腐食が著しく未確

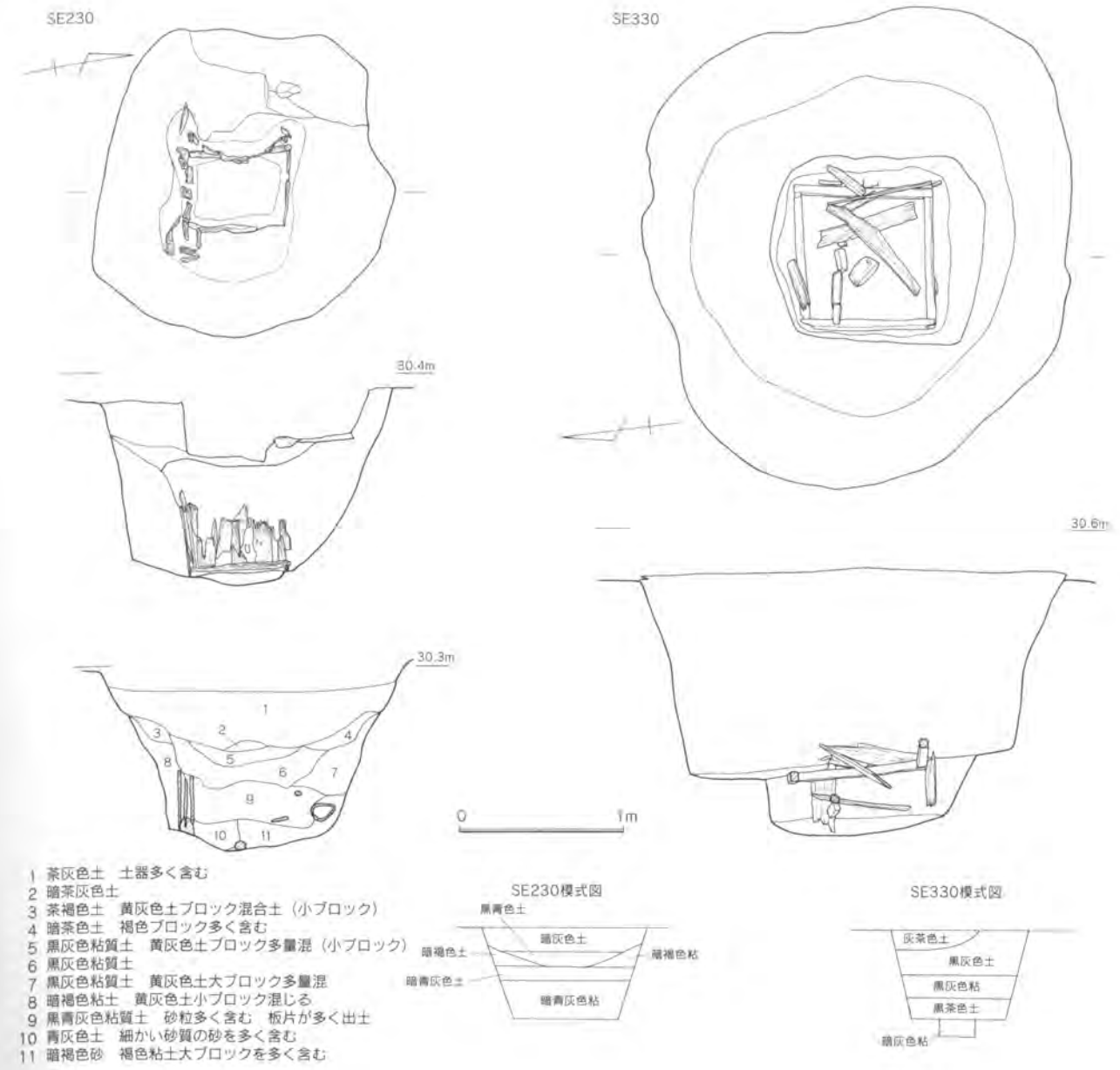


Fig.14 SE230・330遺構実測図 (1/40)

認。横棧は腐食が著しいが、およそ断面円形をしており、直径0.02～0.05mを測る。横棧は縦板の最下部付近で縦板を押さえるように設置されていた。東側の横棧は隅柱より内側にずれていて、また、東側の横棧が南辺の縦板の二重部分の内側の縦板に食い込んで検出されたことから、二重の縦板は修復痕跡の可能性が考えられる。井戸枠内の埋土から板片が少量出土し、最下層からは焼けた花崗岩が出土した。井戸底周囲の地山は粗い褐色砂である。

236-1SE300 (Fig.13)

調査区の北端に位置し、北側が調査区外になり未検出である。掘り方は東西2.0m、南北1.6m以上、深さ1.6mの楕円形である。井戸枠の内法は東西0.9m、南北1.0mを測り、縦板は検出面から約0.5m付近から残っているが、腐食が目立ち部材はぶよぶよの状態である。幅0.08～0.11m程で、一部幅0.2mのものもある。厚さは殆ど1.5cm前後である。横棧は2段分が残存し、上段の横棧はかなり腐食していて、原型を失いかけているが、元来直径0.03m程の自然木を使用していたとみられる。また、横棧は隅柱のホゾに差し込まれていたとみられるが、横棧は当初の位置から最大0.2mほど落下していたが、隅柱に僅かにホゾが差し込まれた状態で残っていた。下段の横棧は直径約0.04～0.05m程で、良好に原型を保っている。それぞれ端部は隅柱に彫りこまれたホゾに差し込まれた状態で検出された。上段のホゾ穴は残り

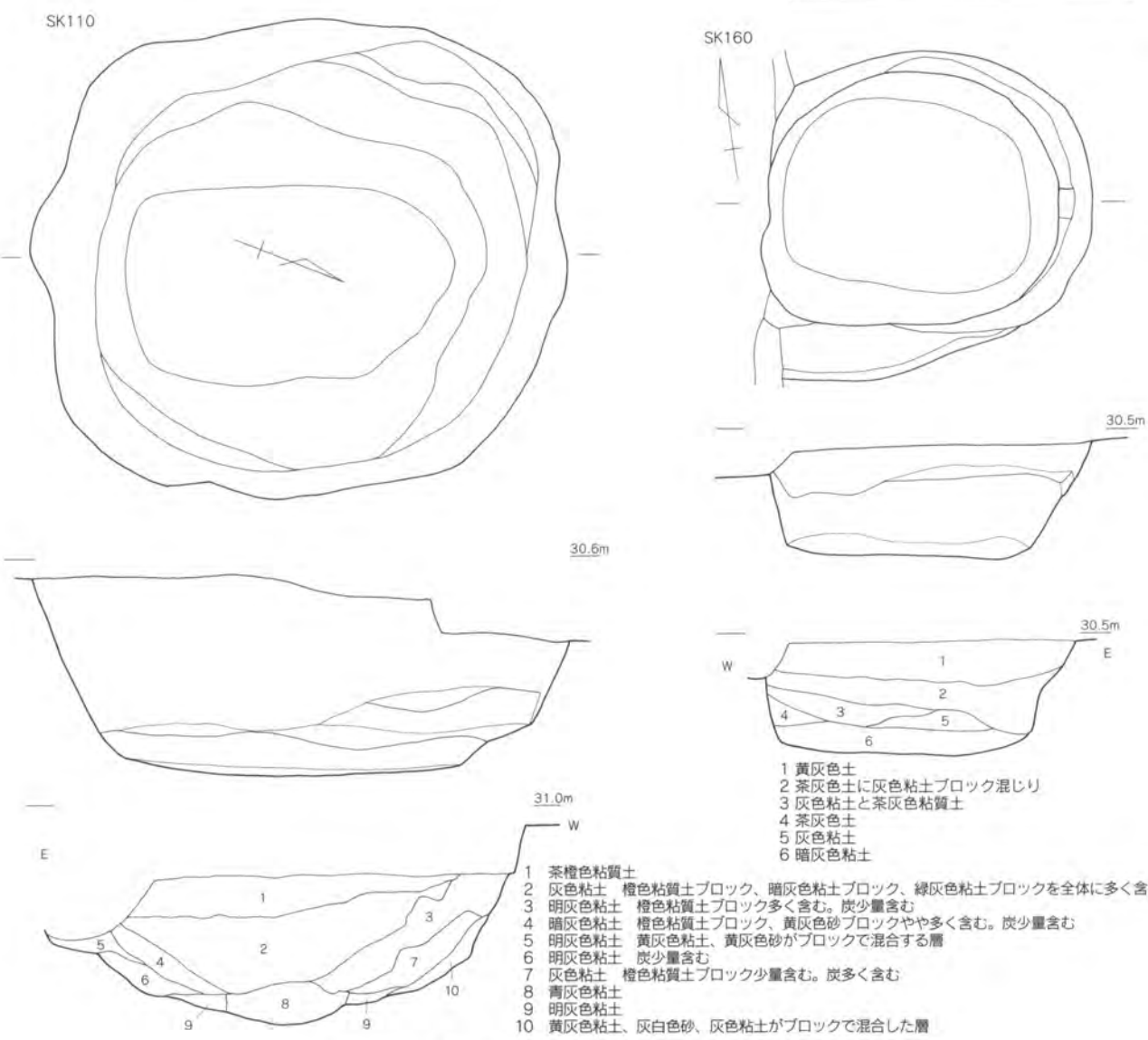
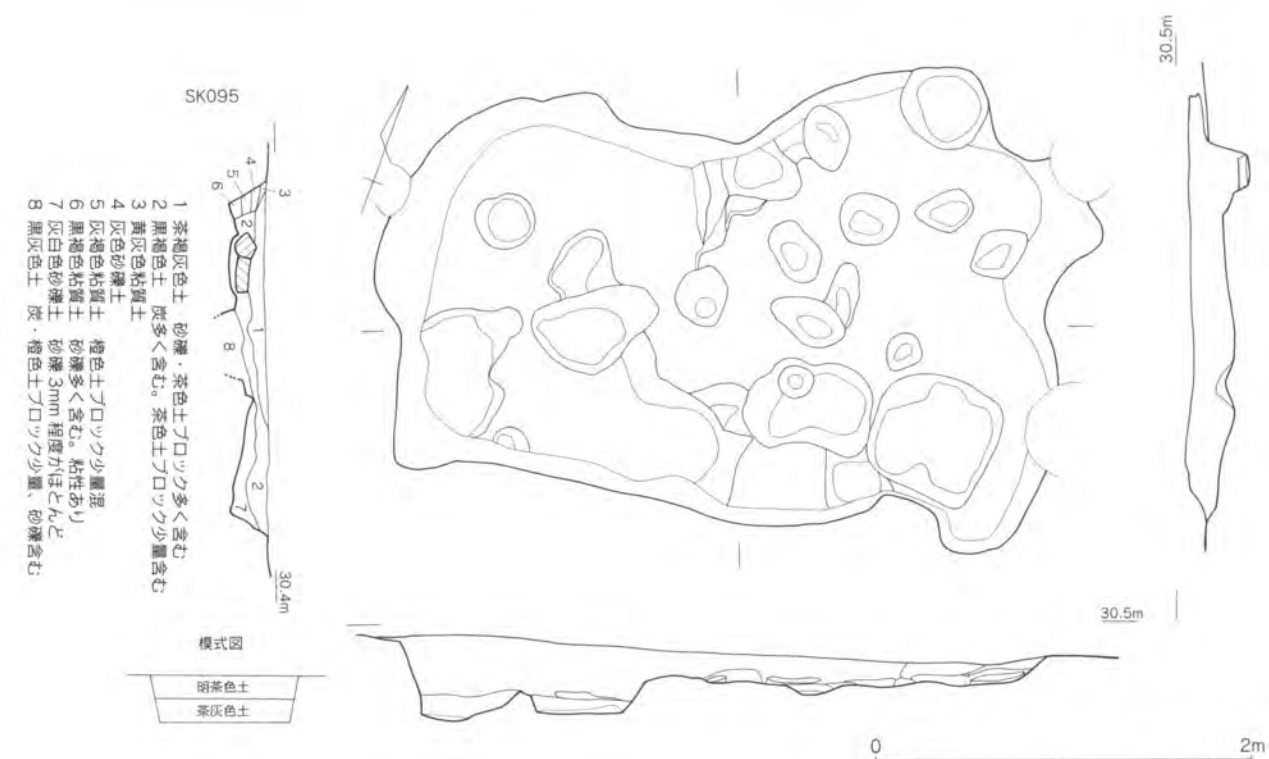


Fig.15 SK095・110・160遺構実測図 (1/40)

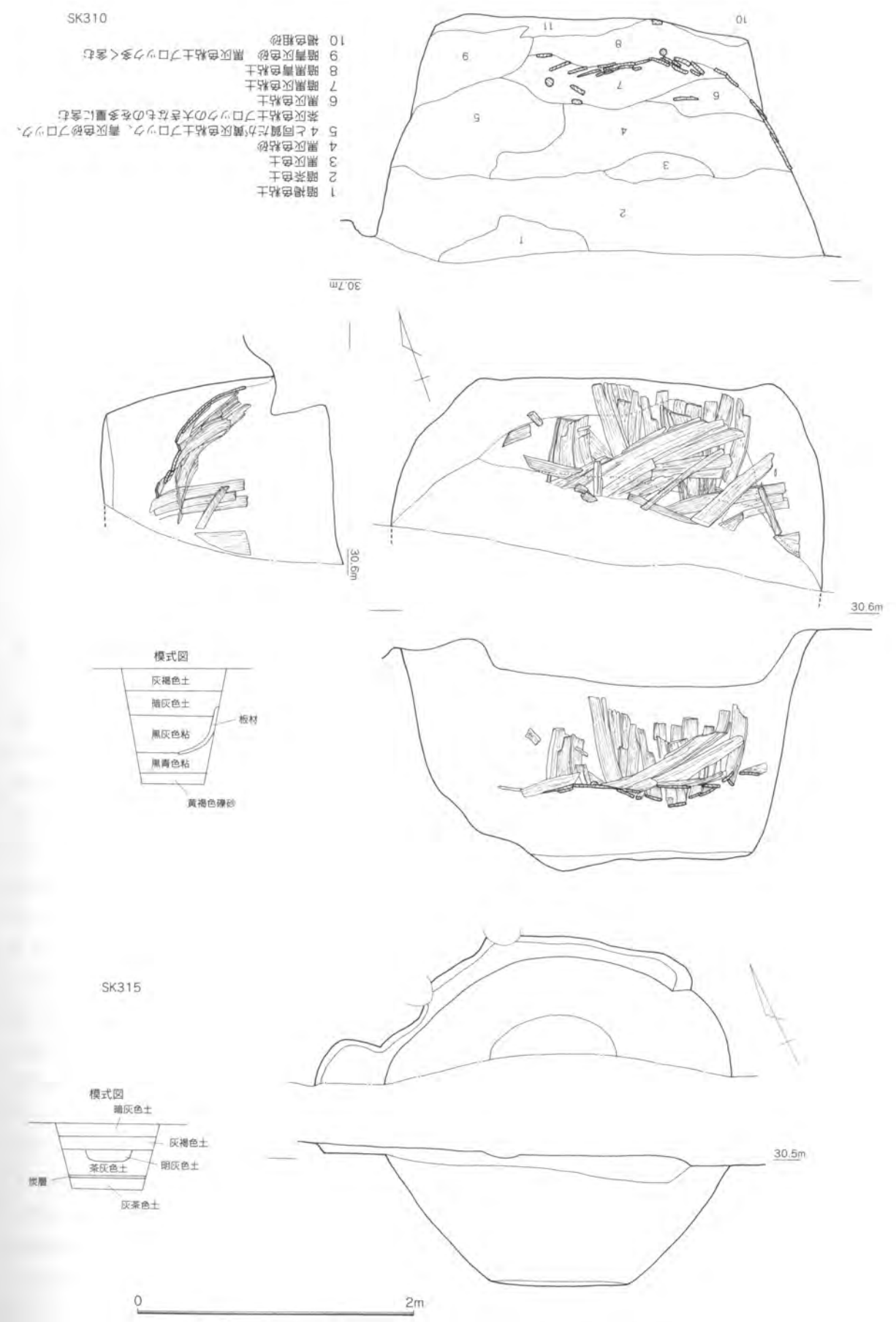


Fig.16 SK310・315遺構実測図 (1/40)

が良くないが、下段は残りがよく、縦0.09m、横0.04mの長方形を呈している。隅柱は残りが良い南側の2本は、直径0.09mの丸木で、一部に樹皮が残存していた。先端部は尖らせることなく、ほぼ水平にカットされていた。南西隅の下段のホゾ穴は南辺と西辺の位置が段違いになっていて、南辺側が上にあって長さ0.09m、幅0.04mで貫通している。西辺側のは長さ0.045m、幅0.035mで、貫通はしていない。また、隅柱底と縦板底はほぼ同レベルであった。

下段の横棧のレベルで花崗岩の大石が3個あり、ほぼ井戸底に接している。1個の大石と東壁の縦板との間には横棧が挟まる形で残っており、横棧がしっかりと顕在していた時に投げ込まれた可能性が考えられる。埋土の下位にあたる大石周辺からは草木が検出された。大石があって確認しづらい状況であったが、井戸底に曲物等は全く存在していなかった。土層堆積状況が、周囲にない黄色土が多く堆積していることや東側からの傾斜がみられることから、自然堆積というより人為的に埋められたと推測される。井戸底にある花崗岩の大石もその時に投げ込まれたものと推測される。調査中は湧水が著しく周囲が崩落していた。

236-1SE330 (Fig.14)

東西3.0m、南北2.6m、深さ1.2mの隅丸方形をした掘り方である。遺構検出時点で、細かい土師器片を多く含む灰茶色土が、黒色粘土ブロックを多く含む黒灰色土の西側に偏った状態で検出された。黒色粘土は掘り下がるほど量が多くなった。遺構検出面から約0.5mまでは黒灰色土で井戸枠痕跡のプランは全く確認できなかった。井戸枠の横棧が確認されたあたりから、砂利混じりの黒茶色土になり、湧水も著しくなった。

横棧は南東隅が最も高く、北西隅が最も低く、その高低差が約0.36mで、明らかに当初の位置から傾いた状態で検出された。しかし、横棧はそれぞれホゾで組み合ったままで、約0.74m四方の方形を保っている。横棧両端のホゾは東西が凹型、南北が凸型に加工する。その外側には元位置を保っている縦板が3枚確認できた。また、横棧に囲まれた内部からは、転落した縦板に混じって曲物が1点傾いた状態で出土した。大きさや出土状況から転落した曲物と推測される。埋土中からは、井戸枠材の破片が散発的に出土し、良好な部材は幅0.052～0.17m、厚さは0.007～0.02mであった。また、井戸枠を除去した部分には、南北1.3m、東西1.12m、深さ約0.5mの方形の掘り込みがある。

井戸枠や横棧の出土状態、埋土の状態などから、この井戸は崩壊した後に黒灰色土によって埋められた可能性が考えられる。

土坑

236-1SK050

検出時では方形プランを示していたが、降雨と湧水によって崩落し、写真・実測時は円形になり、原形から大きく変わってしまった。大きさは直径約2m、深さは1.2mを測るが、当初は南北約1.8m、東西約1.5mであった。SB030を切っているが、埋土は灰色砂混じりの近現代の攪乱のようなものであったため、時期の特定は困難である。

236-1SK095 (Fig.15)

規模は3.88×2.55m、深さ約0.35mで、東西に長い不定形の長方形をなしている。底面にはピットが確認され、全体的に凹凸がある。ピットについてはこの土坑に伴うものか、下層の遺構なのかについては判断が難しい。埋土は炭や黄色土がまじり、一見攪乱のような状況を示している。また、焼土塊が多く出土している。底面は暗灰色砂である。

236-1SK110 (Fig.15)

規模は南北3.15m、東西2.8m、深さ1.15mの楕円形で、きれいな楕円形をしている。検出時は井戸で

はないかと思われたが、途中で草木片は出土するものの、加工を施した木片や井戸枠材等は全く出土していなかった。埋土は全体的に少量ではあるが炭が混じり、底面近くの青灰色粘土からは焼け石が3個出土した。柔らかい地山を掘り抜いているため、底面や底面近くの側壁は非常に崩れやすい状態である。

236-1SK160 (Fig.15)

規模は1.9×1.9m、深さ0.7mの円形土坑である。西側はSD155によって切られている。底面に近い下層は灰色粘土で木片を少量含んでいた。

236-1SK235

規模は0.91×0.61m、深さ0.5mの円形土坑で、埋土は黒灰色土で、土師器の破片が細かく入っている。底に花崗岩の川原石が置かれている。隣接する第168次調査で一部調査されている。

236-1SK240

規模は1.8×0.5m以上、深さ0.53mの円形土坑である。隣接する第168次調査でSK440として半分調査されている。

236-1SK290

規模は3.9×2.55m、深さ0.25mの南北に長い土坑である。埋土は中央付近が灰色粘土で、その周囲は茶灰色土であった。灰色粘土には土師器の丸底坏が多く含まれていた。

236-1SK310 (Fig.16)

調査区際のため全容は不明であるが、確認した規模は東西3.15m、南北1.4m、深さ1.75mの円形状の土坑で、土坑の北壁と底面には板材が積み重なっている。北側に関しては土坑の傾斜に沿って板材も湾曲している。板と板の間には粘土が入り込んでいるところも確認できた。下端から0.3m付近でも屈曲している板材も数点みられた。板材は幅0.08m前後で、長さは1mを超えるものもある。板材は大きく2層に分かれ、壁にまっすぐもたれ掛かる板材は多いところで3～4枚重なり、その上にやや斜めに板材が重なっている。もたれ掛かった板材の下部からも短めの板材が出土する。この短めの板材に対し逆方向の90度で立つ板材が2～3枚出土。折れて落下したものの判別はできない。これらの下から板材は出土しない。板材に挟まれた状態で、井戸の横棧に似たような凸型に加工した角材が2点出土し、また、西側の調査区際に直径0.05m程の丸木が縦に刺さり、その外側に縦板が3枚確認され、調査区外に続く可能性がある。埋土の最上層である灰褐色土からは鞆羽口が出土。その下の層は黄灰色ブロック混じりの暗灰色土で、その下の黒灰色粘質土には木片が少量混じり、北側の壁からも板材が検出し始める。この埋土は下層ほど砂混じりの粘質になっていく。

現状でこの遺構が何なのかを言及するには情報が乏しいが、隣接地の調査で明らかにしていきたい。

236-1SK315 (Fig.16)

調査区際のため全容は不明である。規模は東西2.5m、南北1m以上、深さ1.0mで、現状では半円形状の土坑である。埋土は暗灰色土で、中央付近は黄色ブロックが細かく入っている。遺物量は検出時から多く、土師器が殆どである。茶灰色土の底面および側面からは炭化物が多く検出された。この炭化物を採取し、放射性炭素年代測定を行ったところ、第V章で示したように、校正年代がcalAD686～802であり、遺物と同じ年代結果が示された。

畑状遺構

236-1SX640 (Fig.17)

調査当初は溝として調査を行っていたため、各溝に遺構一覧表に記したように遺構番号を付したが、以下のようにひとつの遺構と考えたため、S-640と統一して報告する。

幅0.25～0.5m (0.35m前後)、深さは東西0.05～0.15m、南北0.1～0.25mほどの溝が約3m四方の



Fig.17 SX640・650遺構配置図 (1/200)

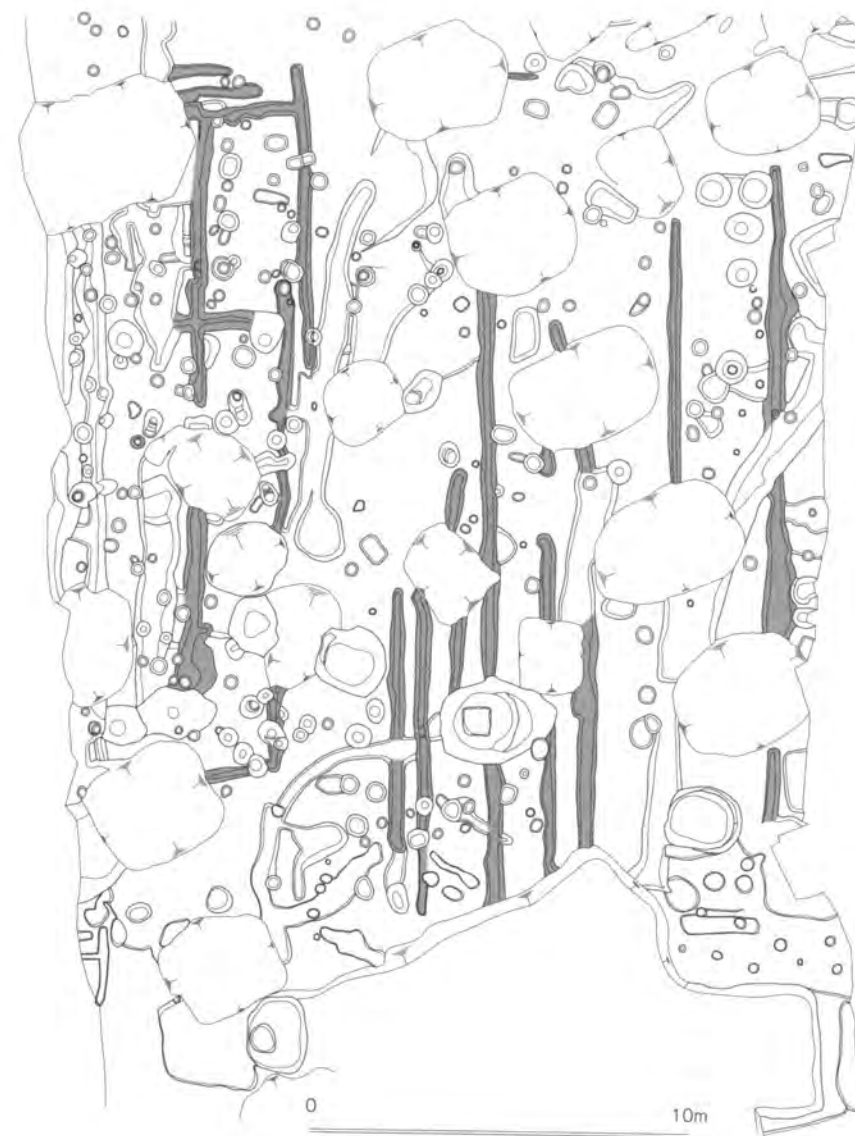


Fig.18 SX645遺構配置図 (1/200)

格子状に広がっていて、南北37mの範囲で確認でき、西隣の第257次調査でも検出され、東西合わせて約45mまで広がっていることがわかった。主な所見をあげれば以下のとおりである。

- ・東西溝と南北溝とでは、切り合いが微妙な状態で確認できる所がある。
- ・東西溝と南北溝は埋土が全く同じで、切り合いが非常に困難な場所も多く、殆ど時間差なく掘削・埋没が行われたと考えられる。
- ・格子溝以外にも何度か掘り直しとみられる溝が検出された。
- ・溝の底面に砂や腐植土など水が常に流れていた痕跡は全く確認できない。
- ・埋土を花粉分析したところ、風化が目立ち植生復元するような結果は得られなかった。
- ・溝の間隔が3mとやや広く、畝の間に掘られた溝としては深い。
- ・灰色土の整地と検出範囲がほぼ一致する。
- ・遺構の範囲には同時期の建物が検出されていない。
- ・類似した遺構が長岡京跡水垂地区で検出されており、菜園遺構と推測されている。

以上のことから、湿気抜きなど地盤を安定させる溝と耕作(畑)に関する遺構と考えられるが、その後の目立った土地利用がないことを考えると畑の遺構と考える方が妥当ではないかと考えた。しかし、作物の畝の間に掘られた溝というのではなく、作物の畝に直角に掘った溝と推測される。今後の事例の増

加によって新たな見解も出てくるものと考えられる。

236-1SX645 (Fig.18)

大攪乱と14条路との間で検出された幅0.22～0.45m(0.37m前後)、深さ0.15m前後の南北溝のことで、検出範囲は南北約23mである。埋土は茶灰色土で砂層は見られない。断面形状はU字形をしている。約8本の列になり、2.5m間隔で掘られているものもある。南側で検出された格子状に展開する溝(SX640)と同じ性格である可能性が考えられる。

時期はVIII～IX期埋没のSE215に切られていることから、それ以前の埋没と推測される。

236-1SX650 (Fig.17)

格子状に展開する溝(SX640)の中で最も新しい東西溝で、埋土は灰色土のほぼ単純層で、S-5・10・34・140の4本の溝で、それぞれS-5は長さ10.6m以上、幅0.4～0.56m、深さ0.15～0.23m。S-10は長さ4.1m、幅0.5m、深さ0.2m、S-34は長さ8.7m、幅0.45m、深さ0.2m前後。S-140は長さ7.6m、幅0.4～0.6m、深さ0.13～0.2mを測る。SX640・645のような大規模な畑ではなく、屋敷内の小規模な菜園と推測される。

道路遺構

236-1SF665

SD015と020に挟まれた空間で、現存幅4.0m、溝中心間は5.46mを測る。上面は削平され、地山が露出している状態であった。平安後期には、SD041・042を南側溝とする東西路が造られている。

整地層(第1調査面基盤層・第2遺構面覆土)(Fig.7)

236-1SX345

整地層と考えられる土層で第2調査面でも述べるが、調査区は北端であったため全容が掴みにくい状況であった。その後この遺構は大きく2時期の埋土で構成されていることが判明した。上層はXII期、下層はVII期頃である。調査区北端付近は細かい土器片が一面に広がっていた。西側のAU22付近からは丸底坏が完形の状態ですとまって出土した。ほぼ同レベル、また正位置で出土している土器も多い。

236-1SX350

北端部に東西に広がる第2調査面を覆う整地層である。茶灰色土で鉄サビのような土も混じっている。東側は細く溝状になっているため、溝状の窪みを埋めたものと推測される。

236-1SX717

茶褐色土に黄色土が混じる土層で、厚さ0.05mほどである。

236-1SX718

暗灰色土層で、黄色土を少々含む。

236-1SX719

試掘トレンチ沿いに細長い整地で、灰茶色土である。

236-1SX722

灰茶色土で錆色をしている。厚さ0.05mほどである。

236-1SX723

黄色土で若干白色土が混じっている。遺物はあまりなく、殆ど下層から出土している。

236-1SX724

灰茶色土層。

236-1SX726

灰茶色土で錆色土を含む。東側ほど土色は明るくなる。

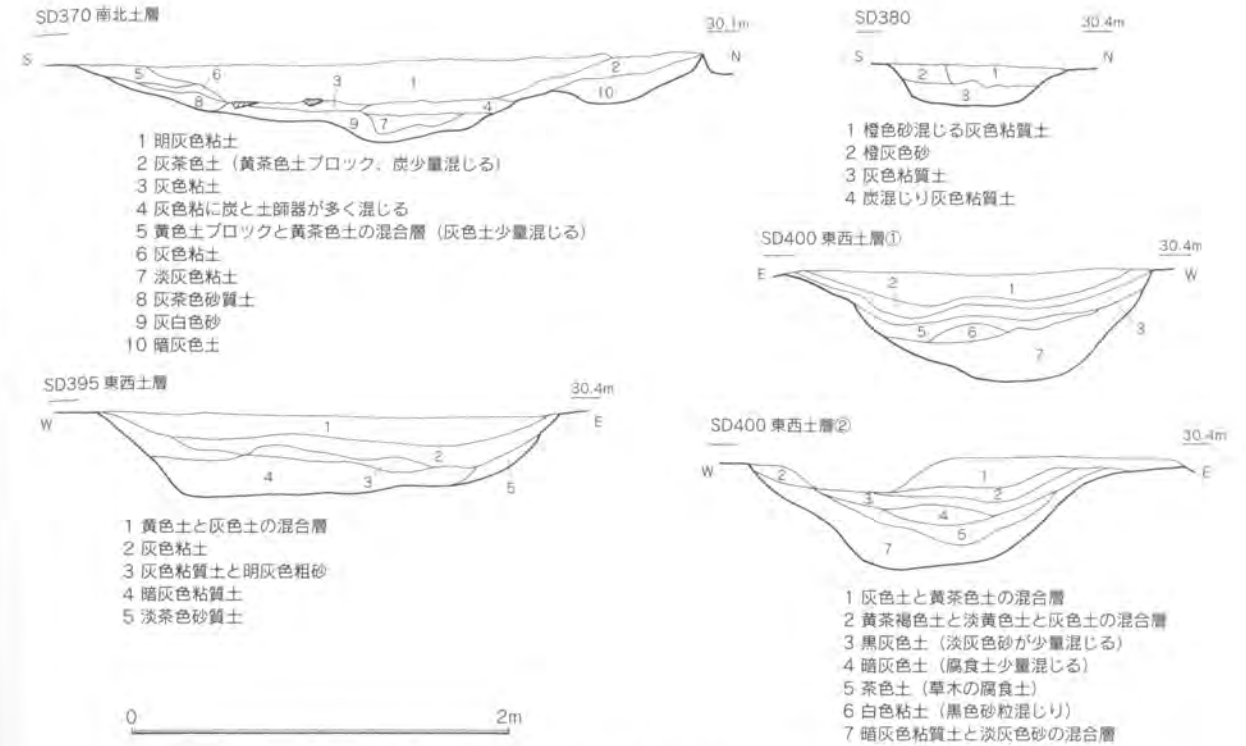


Fig.19 SD370・380・395・400土層実測図(1/40)

236-1SX727

黄色土と白色土と茶色土の混合層で、真砂土のような土質である。

236-1SX728

錆色土や黄色土を含む灰茶色土層である。

○第2調査面

溝

236-1SD355・360

SX350の整地を除去後に確認できる溝で、整地の北辺に沿う形で東西に蛇行している。SD355とSD360は幅0.66m分断されているが、ほぼ同一遺構とみられる。SD360の埋土は紫色に近い暗灰色土で、西端の行方については確認できなかった。SD355は検出長5.3m、最大幅1.0m、深さ0.2～0.25m、SD360は検出長9.2m、幅0.8～1.3m、深さ0.1m前後を測る。

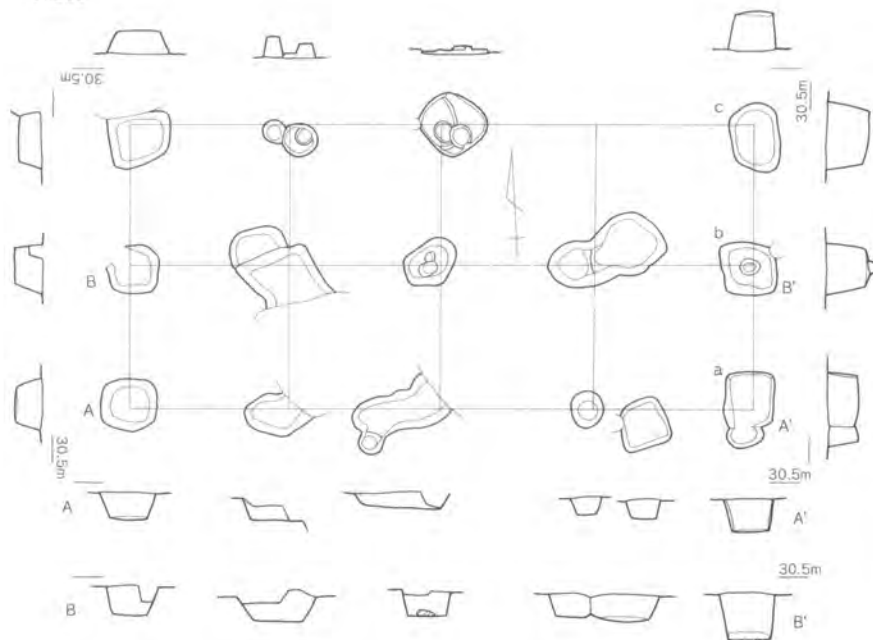
236-1SD365

振れはN-7°12'40"-Wの南北溝で、検出長2.7m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。SX350によって切られている。

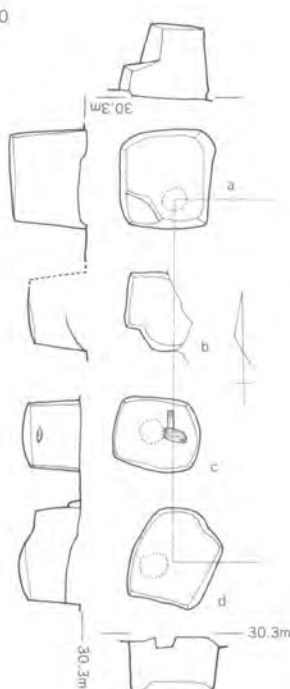
236-1SD370・375 (Fig.19)

振れはW-1°31'12"-Nの東西溝で、検出長24.3m、幅2.65～3.45m、深さ約0.3～0.5mを測る。SD375とSD370でひとつの溝と考えられるが、当初溝と認識できていなかったことと攪乱で分断されていたことから、調査時は遺構番号を分けて調査を行った。

SD370は第1調査面の遺構検出時に一部の遺構ラインは確認できたが、部分的に整地が覆っていたため第2調査面で調査を行った。SD375のプランについては、第1調査面では全く確認できなかった。埋土は明茶色粘土でその下に灰色粘土、灰色砂で地山に達する。南北両肩に中段があり、溝は二段掘り込みの形状を示している。SD370の明茶色粘土には丸底坏など多くの土師器が出土する。



- 500a 30.4m
- 1 黄灰色粘質土
 - 2 淡茶灰色土
 - 3 灰白色粗砂 (淡茶灰色土混じる)
 - 4 茶灰色粘質土
 - 5 黄灰色砂
 - 6 黄灰色砂 (淡茶灰色土混じる)
 - 7 淡茶灰色粘質土
- 500b 30.4m
- 1 茶灰色粘土ブロック含む淡青灰色土
 - 2 黄色粗砂含む灰白色粘土
 - 3 淡黄灰色粘質土
 - 4 黄色粗砂ブロック
 - 5 淡黄灰色砂ブロック
 - 6 淡黄灰色砂質土
 - 7 淡黄灰色シルトブロック
 - 8 黄灰色土
 - 9 暗灰色土
 - 10 黄色土ブロック含む灰白色粘質土
 - 11 淡黄灰色シルトブロック
 - 12 黄色粘質土
 - 13 黄色粘質土
 - 14 淡灰色粘質土
 - 15 黄灰色砂質土
 - 16 黄灰色粘質土ブロック含む黄灰色土
- 500c 30.4m
- 1 黄色土ブロック含む灰白色粘質土
 - 2 黄色土ブロック含む灰白色土
 - 3 黄色土ブロック含む灰白色土
 - 4 黄色土ブロック含む淡灰色粘質土
 - 5 黄白色粘土ブロック
 - 6 黄灰色砂ブロック含む淡灰色粘質土
 - 7 黄白色粘土ブロック
 - 8 淡灰色粘質土
 - 9 淡灰色粘土含む黄灰色砂質土
 - 10 黄灰色砂ブロック含む灰白色砂質土



- 570a 30.4m
- 1 黄色土, 黒色粘土ブロック含む灰白色土
 - 2 黄色土ブロック含む灰白色土
 - 3 茶色粘土, 白色粘土含む灰白色粘質土
 - 4 黄色土, 黒色粘土ブロック混じる灰白色土
 - 5 黄色土ブロック含む茶灰色土
 - 6 黄色土, 黒色粘土ブロック含む灰茶色粗砂
 - 7 白色粘土含む茶灰色土
 - 8 黒色粘土ブロック含む灰茶色粗砂
 - 9 黄色土ブロック含む黄灰色土
 - 10 茶灰色粘土, 白色粘土含む灰白色粘質土
 - 11 茶灰色粘土, 白色粘土含む黄灰色粘質土
 - 12 淡青白色粘土, 黒色粘土含む暗灰色粘質土
 - 13 黒色粘土, 黄色粘土ブロック多く含む灰白色粗砂
 - 14 黄色土ブロック土
 - 15 黒色粘土ブロック多く含む灰白色砂質土
 - 16 黄色土ブロック混じる黄灰色粗砂
- 570b 30.4m
- 1 茶灰色土
 - 2 茶色砂含む茶灰色土
 - 3 黒色粘土ブロック土
 - 4 黄色土ブロック含む茶灰色土
 - 5 黒色粘土, 白色粘土ブロック含む灰白色土
 - 6 黄白色シルトブロック土
 - 7 黒色粘土, 白色粘土多く含む茶灰色粗砂
 - 8 黒色粘土, 白色粘土多く含む茶灰色土
 - 9 黄灰色粗砂
 - 10 黄白色シルトブロック混じる茶灰色粗砂
- 570c 30.3m
- 1 黄色土ブロック含む茶灰色土
 - 2 淡灰色粘土
 - 3 黒色粘土, 白色粘土含む淡灰色粘質土
 - 4 黒色粘土, 白色粘土多く含む淡灰色粘質土
 - 5 黄灰色土
 - 6 淡灰色土
 - 7 黄色土ブロック土
 - 8 淡灰色土
 - 9 黄色土ブロック入る灰白色砂質土
- 570d 30.3m
- 1 黄色土ブロック混じる茶灰色土
 - 2 黄色土ブロック混じる茶灰色土
 - 3 灰白色粘質土
 - 4 黄色砂混じる灰白色土
 - 5 黒色粘土, 黄色シルトブロック
 - 6 白色粘土ブロック含む淡茶灰色粘質土
 - 7 暗灰色粘質土
 - 8 淡茶灰色粘質土
 - 9 黄色土ブロック混じる淡灰色粘質土
 - 10 黄色土ブロック混じる灰白色砂質土
 - 11 黄色土ブロック混じる茶灰色粗砂
 - 12 黒色粘土, 茶灰色粘土ブロック混じる灰白色粘質土
 - 13 灰白色砂質土
 - 14 黒色粘土混じる灰白色粗砂

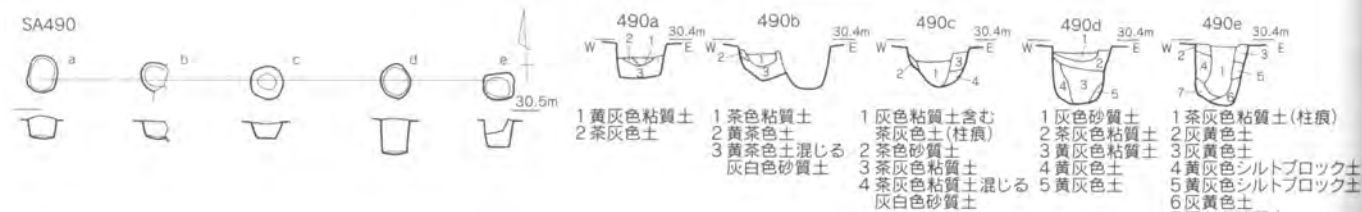
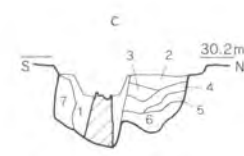
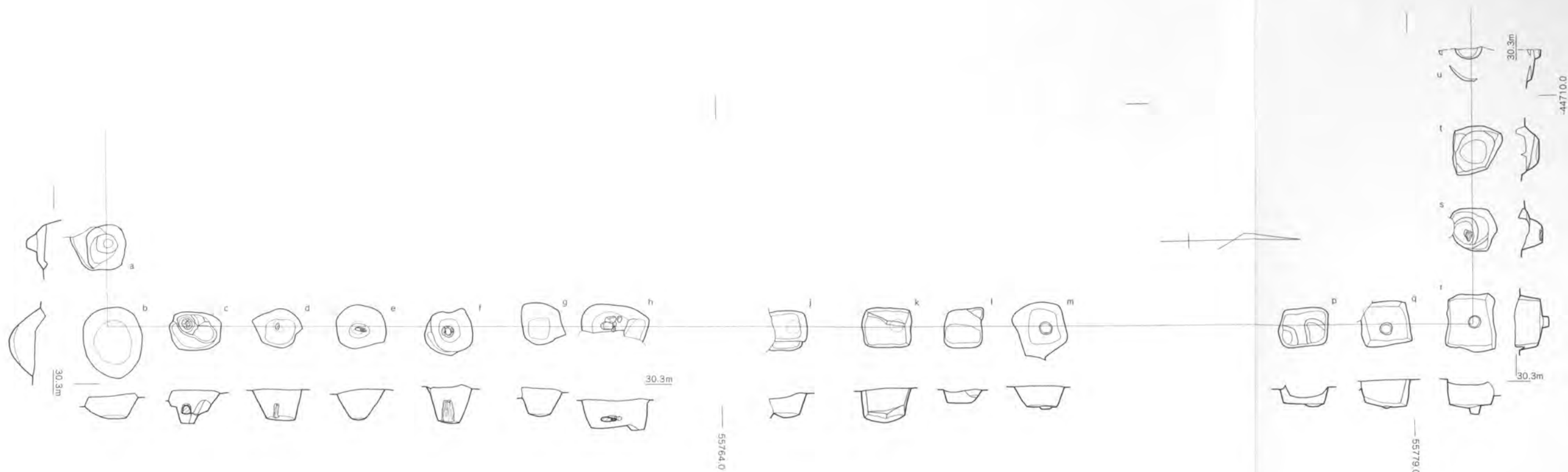
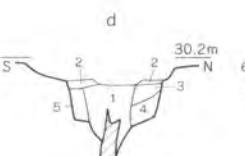


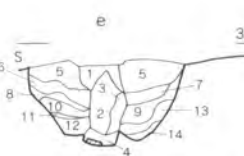
Fig.22 SB500・570、SA490・635遺構実測図 (1/100、土層図は1/50)



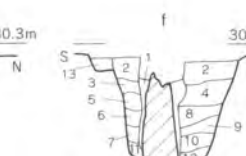
- 1 黒灰色粘土 (柱痕)
- 2 明灰色土
- 3 暗褐色土
- 4 灰褐色土 (黒色粘土ブロック含む)
- 5 橙色シルト (黒色粘土ブロック含む)
- 6 淡灰色シルト
- 7 淡灰色シルト



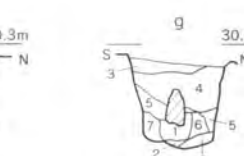
- 1 黒灰色粘土 (柱痕)
- 2 橙褐色土
- 3 暗黒灰色粘土
- 4 黒色粘土
- 5 暗灰黒色粘土



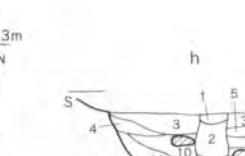
- 1 灰褐色粘質土
- 2 黒灰色粘土
- 3 暗黒灰色粘土
- 4 黒色粘土
- 5 橙色土
- 6 灰色粘質土
- 7 暗灰色粘質土
- 8 灰色砂質土
- 9 灰茶色砂質土
- 10 黒褐色粘土
- 11 明黒灰色砂質土
- 12 暗黒色粘土
- 13 黒茶色粘土
- 14 暗茶色砂質土



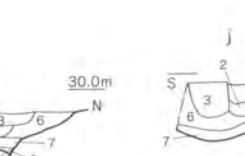
- 1 黒灰色粘土 (柱痕)
- 2 灰褐色粘質土
- 3 淡灰色粘土
- 4 淡茶色シルト
- 5 茶灰色粘土
- 6 黒色粘土
- 7 暗灰色粘質土
- 8 茶色粘土
- 9 明茶色シルト
- 10 茶褐色粘土
- 11 灰色砂
- 12 暗黒色粘土
- 13 明黄色シルト



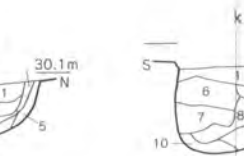
- 1 黒青色粘土
- 2 黒色粘土
- 3 灰褐色土
- 4 黒灰色土
- 5 明茶色砂
- 6 暗黒青色粘土
- 7 暗灰色粘土
- 8 淡灰色砂質土



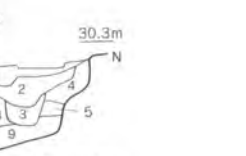
- 1 淡黄灰色土
- 2 淡青灰色粘質土
- 3 茶灰色土 (黄灰色土混じり)
- 4 黄灰色土と淡灰色砂の混合層
- 5 暗灰色粘質土
- 6 暗灰色土
- 7 暗灰色粘土と暗灰色砂の混合層
- 8 暗灰色粘質土
- 9 暗灰色粘土と淡灰色砂の混合層
- 10 暗灰色土と淡灰色砂質土の混合層に淡灰色粘土ブロック含む
- 11 灰茶色砂質土と暗灰色粘質土の混合層



- 1 橙褐色土 (きめが細かくシルトっぽい)
- 2 灰茶色土
- 3 黒灰色粘質土
- 4 黒茶色土
- 5 灰色土
- 6 茶灰色土
- 7 茶黒色粘質土



- 1 暗灰褐色土
- 2 灰色粘土
- 3 暗灰色粘質土
- 4 灰褐色砂質土
- 5 淡灰色シルト
- 6 明灰色粘質土
- 7 黒灰色粘土
- 8 灰褐色粘土 (淡灰色シルトブロック含む)
- 9 灰茶色砂質土
- 10 暗茶色砂
- 11 橙灰色シルト
- 12 茶灰色砂



- 1 茶色土
- 2 青灰色シルト (柱痕)
- 3 黄灰色土
- 4 灰黄色土



- 1 黄色粘土ブロック多く含む茶灰色土
- 2 黄色粘土ブロック多く含む灰色粘質土
- 3 茶色土
- 4 黄白色粘土混じり茶灰色粘質土
- 5 黄白色粘土混じり暗灰色粘質土
- 6 黄白色粘土多く含む灰色粘質土
- 7 暗灰色粘質土 (木片含む)
- 8 暗灰色粘質土混じり灰色粗砂



- 1 灰色土
- 2 淡黄白色シルト混じる茶灰色土
- 3 淡黄白色シルトブロック含む茶灰色土
- 4 淡黄白色シルトブロック多く含む茶灰色土
- 5 茶灰色粘質土



- 1 橙褐色土
- 2 茶褐色土
- 3 灰色粘質土 (黄色シルトブロック多く含む)
- 4 灰黄色シルト
- 5 灰褐色粘質土 (黄色シルトブロック含む)
- 6 黒灰色粘質土 (淡灰色シルトブロック含む)
- 7 灰黒色粘土
- 8 暗灰色粘質土
- 9 淡黄色シルトブロック含む暗灰色粘質土
- 10 淡茶色粘質土
- 11 灰色土

- 1 炭混じり茶灰色土
- 2 茶色土混じる灰色粘質土
- 3 淡黄色シルトブロック含む茶灰色粘質土
- 4 淡黄色シルトブロック含む淡茶灰色粘質土
- 5 炭混じる細かな淡黄色シルトブロック含む灰色粘質土
- 6 灰色粘質土
- 7 暗灰色粘質土
- 8 淡黄色、淡青色シルトブロック多く含む淡茶灰色粘質土
- 9 淡青色シルトブロック含む暗灰色粘質土
- 10 木片含む淡黄灰色粘質土
- 11 灰色土

- 1 橙色土
- 2 暗灰色土
- 3 橙色土混じる暗灰色粘質土
- 4 灰色粘質土
- 5 淡黄色シルトブロック混じる灰色粘質土
- 6 淡黄色シルトブロック混じる淡灰色土

- 1 灰褐色土 (整地層である灰色土か?)
- 2 黒灰色粘土
- 3 茶褐色土と灰褐色土の混合層
- 4 淡黄灰色土
- 5 灰色土
- 6 淡黄灰色シルトと灰色土の混合層
- 7 暗灰色砂質土
- 8 暗灰色土
- 9 淡黄灰色土に淡灰色土混じる
- 10 淡灰色土と淡黄灰色シルトの混合層
- 11 灰色土
- 12 淡黄灰色シルト (僅かに灰色シルト混じる)
- 13 淡黄灰色シルト (僅かに灰色シルト混じる)
- 14 暗灰色粘質土に淡明灰色シルト混じる
- 15 暗黄灰色土
- 16 灰色粘質土
- 17 黄白色シルトに灰色シルト少量混じる
- 18 灰色砂質土に淡黄灰色土ブロック混じり
- 19 淡黄灰色シルトと灰色シルトの混合層
- 20 淡灰色土

Fig.23 SB480遺構実測図 (1/100、土層図は1/50)

236-1SD380 (Fig.19)

振れはW-3° 3' 10"-Nの東西溝で、検出長16.3m、幅0.85～1.3m、深さ0.2m前後を測る。東側は攪乱によって行方不明である。西側は途中で途切れている。SD370・375と平行するが溝の規模や遺物の混入状況は全く異なっている。埋土は灰色粘土で、西側はその下層に黄色砂混じりの黄灰色粘土が堆積していた。

236-1SD395・400・786 (Fig.19)

この3つの遺構は攪乱などによって分断されているため、繋がっていたかどうかについては明瞭でないが、南北に並んでいるため、連続土坑のように同じ性格の遺構であると判断し、ここで合わせて報告する。

SD395は振れがN-0° 5' 49"-Sの南北溝で、検出長10.1m、最大幅3.5m、深さ0.1～0.6mを測る。埋土は上面に黄色土混じりの茶灰色土が蛇行し、その下に茶色砂を含む灰色土が全体的に広がっている。その埋土を除去すると灰色粘土が厚く堆積している。灰色粘土には部分的に土師器を多く含んでいるところがある。

SD400は振れがN-13° 3' 21"-Wで、検出長5.8m、最大幅2.8m、深さ0.2～0.9mを測る溝だが、一見長い土坑のような状態である。南端はSD370の埋土の端を僅かに切り込み終わっている。上面は複数の薄い整地がみられ、その下面より灰色粘土が溝状に検出される。その下には茶灰色土を挟んで、炭を多く含む黒灰色土が厚く堆積し、南端の方では草木も多く見られた。また、0.6×0.3mの花崗岩や白色粘土の塊も検出された。

SD786は南北4.9m、東西2.9m、深さ0.07～0.15mの不定形な土坑状の遺構で、底面にも土坑があり、凸凹している。単なるたまりかと考えていたが、SD395・400と南側に続く遺構が検出されたため、一連の溝の可能性が推測される。埋土は灰色土と黄色土の混合したものである。

236-1SD415

振れはE-0° 58' 31"-Nで、検出長7.1m、幅0.4～0.95m、深さ0.15mを測る東西溝。埋土は灰色土である。

236-1SD560

第2調査面で検出されていたが、作業に伴う窪みや試掘トレンチによって、確認できる状況に至ったと判断し、遺構の掘削は第3調査面で行ったが、ここでは遺構検出順のまま第2調査面で報告する。振れはE-0° 28' 19"-Nで、検出長13.0m、幅は1.7m前後で最大幅1.95m、深さ0.5m前後で最深0.8mを測る東西溝で、東側は先細りになっている。埋土は黒色粘土である。

井戸

236-1SE385 (Fig.20)

11世紀後半の遺物を含む整地層を除去した面から検出された。しかし、第2調査面検出時は土質が異なるというよりは円形に割れ目がある状態で確認されたことから、埋土の土質の違いによる沈み込みと推測され、第2調査面よりやや古い時期の埋没とみた方が妥当と考えられる。掘り方は南北2.2m、東西2.3m、深さ1.6mの楕円形で、中央付近で検出された方形の井戸枠は、内法南北0.75m、東西0.62mを測り、四隅には径0.05m前後の隅柱が立てられ、横棧は隅柱を貫通するホゾ穴に差し込まれていた。ホゾ同士はずれた状態で彫りこまれている。横棧は径0.03～0.045mの自然木で、樹皮が残存していた。横棧に押さえられた状態で、幅0.045～0.1mの縦板が残存していた。西側の井戸枠は殆ど検出されていないが、南西隅の隅柱が大きく東側に向かって傾いていることや残存する縦板が一回転して南側の横棧に接していることなどから崩壊し消滅したと推測される。また、最初の井戸枠縦板の背後には、幅0.1m前後の縦板を中心に0.03～0.21mとばらつきのある縦板が部分的に残存していた。この縦板は一重目に比べて大きく厚みがある。二重目に隅柱は確認できなかったが、当初から存在していたかも不明である。

井戸枠内には大きな花崗岩が落下していて、それを除去した直下から曲物が検出された。径0.38m、深さ0.19mで木質の腐食が目立ち、調査中の土圧で崩壊した。その直下からさらに曲物が確認されたが、位置関係は若干ずれた状態であった。下位の曲物は径0.4m、深さ0.15mで、上位の曲物と異なり非常に残りが良かった。下位の曲物は井戸枠の隅柱より深い位置に設置されていた。

以上のように、曲物が2個あることから、修復して使用されたと推測されるが、縦板が二重になっていることについては二重目の縦板が中位までしかないものもあり、補強材とも考えられる。

土坑

236-1SK390

楕円形状の土坑で、南北約3.7m、東西約2.8m、深さ0.2mを測る。僅かにSD400を切って掘り込まれている。底面からは浅いピットが検出された。深さが浅いため、埋土はほぼ単純層であるが、埋土中にSD400埋土で検出された白色粘土が少量出土した。草木も少量出土。

236-1SK405

直径1.2m、深さ1mの円形の土坑である。埋土はほぼ2層で上層がやや粘質の黒灰色土で、下層がシルト質の青灰色土である。掘り込んだ周囲の地盤は砂質で、少量の湧水がある。

その他の遺構

236-1SX345

調査区北西部に広がる整地層。第1調査面でも前述したが、調査区が狭まる部分で、全容が掴めない状況であったが、出土する遺物は多く、上層はXII期、下層はVII期頃の大きく2時期の遺物があり、この遺構の中に上下2面あるものと推測される。詳細は隣接地の調査で明らかにしたい。

○第3調査面

調査区北西部以外では、この面で異なる時期の遺構面が2面同時に検出される状況であった。よって、層位が明瞭な北西部以外は第3調査面で報告する。

掘立柱建物

236-1SB040 (Fig.21)

南北2間、東西3間の総柱建物。柱間は梁行約1.5m、桁行2.1m、振れはN-4° 29' 33" -Eである。さらに東側に掘り方が確認されたため、調査時は同一遺構とみていたが、他のものに比べ浅いため、報告時では別遺構とした。柱痕に関しては第1面で一部プランが確認されたものもあったが、掘り方は全く確認できず、また、その柱痕部分の埋土も空洞が多く、柱が腐食したことによる陥没した状況を示していた。掘り方は一辺0.62～1.1m、深さ0.3～0.6mの隅丸方形を呈する。掘り方のうち、柱材が残るものが6ヶ所、横木などの礎板だけ残るものが2ヶ所と比較的遺存状況は良好であった。柱穴は明灰色粘土で満たされている。柱痕の径は0.2m前後を測る。

236-1SB420

第168次調査でSB250として確認されていた2間×4間の建物の残りの掘り方3つ分である。埋土は黄色土で、明瞭な柱痕は確認できていない。

236-1SB480 (Fig.23)

東西3間以上、南北16間の南北棟で、南北長29.6m(小尺100尺)を測り、柱間は梁行約2m、桁行約1.85mである。振れは僅かに東に振れていて、N-1° 9' 6" -Eである。掘り方は9世紀代の灰色土の整地で覆われ、灰色土下層の整地に切り込んでいた。この下層の整地の時期に関しては、遺物が少なく特定できていない。掘り方は一辺1m前後の方形もしくは隅丸方形を呈し、深さは0.25～0.75mで、概して0.6m前後である。

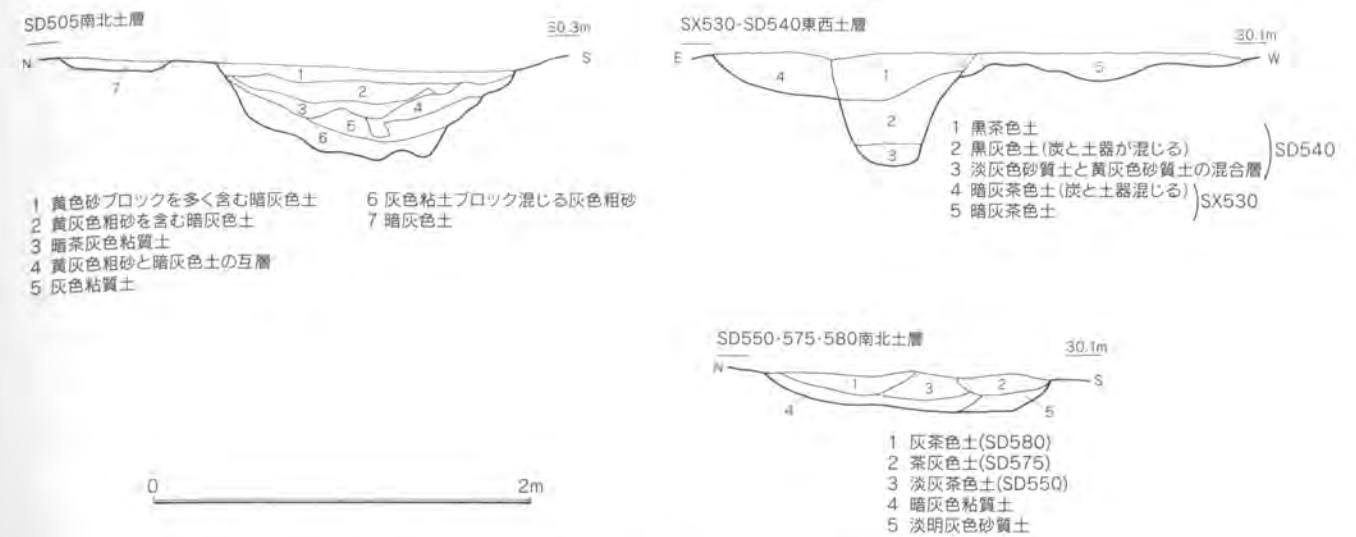


Fig.24 第3調査面溝土層実測図(1/40)

柱痕や礎板が残存する掘り方が5つあり、ひとつは川原石を敷いたものがあった。柱痕で最も残りが良いもので、径0.19m、高さ0.59mほどであった。

調査区西端で検出され、西側の展開状況がわからない。また、掘り方が一部攪乱によって欠落しているため、1棟の建物か複数の建物か調査時は不明確であったが、南側の第257次調査で、同様の大型建物を検出したため、SB480は長大な1棟の掘立柱建物であったと推測でき、あわせて2棟が南北に並んでいたことになる。この西半分は報告時に行っている第267次調査で確認されている。

236-1SB485 (Fig.21)

東西2間、南北2間の総柱建物で、南東部は攪乱で欠損する。柱間は東西1.9m、南北1.6mである。振れは僅かに東に振れていて、N-2° 45' 30" -Eである。掘り方はおよそ一辺0.5～0.6mの隅丸方形で、深さ0.1～0.3m、土層観察や掘り方の検出状況から柱は抜き取られた可能性も考えられる。SB040と重複しているが、切り合い関係からSB485が新しい。

236-1SB500 (Fig.22)

S-495とS-500として調査を行ったもので、当初別遺構とみていたが、西隣の第257次調査で、S-500と同規模の掘り方が確認され、同じ意味を持つ遺構と判断された。柱間は1.9m。掘り方は一辺0.7m前後の隅丸方形で、深さは0.4～0.6mのしっかりした造りをしている。しかし、この2間の掘り方の間には同規模の明瞭な掘り方が少なく、建物として図示したが、明確に言い切れない状況である。巨大な建物SB480やSB570との位置関係から門の可能性も考えられるが、今回は明言できず周辺の調査によって再検討しなければならない。振れはW-3° 34' -Nである。

236-1SB570 (Fig.22)

調査区の東方で、南北3間の4つの大きな掘り方が検出した。埋土を調査したところ、明瞭な柱痕は確認できず、土層観察から柱を抜き取った可能性が高い。よって、規模は南北4.8mで、柱間はおおよそ1.6mと推測される。振れについては柱痕を確認できていないため、明確ではないがSB570cで検出した礎板の位置を考慮したところ、同時期とみられるSB480に近い振れの可能性が高いと推測した。掘り方は方形を呈し、その一辺が1.0～1.3m、深さ0.75～1.0mという大きさを誇っているため、柵列というより、掘立柱建物と推測され、東側の調査区外に続いていくものとみられる。

236-1SB595 (Fig.21)

南北2間、東西3間の東西棟。柱間は梁行1.63m、桁行1.92mと推測される。振れはおよそW-3° 2' -Sである。掘り方は0.38 ~ 0.66mの不定円形を呈する。掘削中はピットとして掘り下げていたが、整理中に建物として完結することがわかったため、柱痕の確認等を怠っている。埋土は掘り方の場所によって異なり、西側は地山が黒色粘土や白色粘土地盤のため、それらの混合土で埋まり、東側は粘土地盤でないため埋土は灰茶色土であった。

236-1SB630 (Fig.21)

調査区西端で検出した南北2間の柱列、調査時はS-480としていたが、SB480と異なる建物と考え、新たに遺構番号を付した。掘り方が周囲の建物に似ているため、東西棟の掘立柱建物になると推測される。南北長3.7mで柱間は1.85m、振れは柱痕を明瞭に確認していないが、振れはSB480とほぼ同じ約N-1° 45' -Eとみられる。掘り方は長さ0.7 ~ 1.0m不定円形で、深さは約0.5mであるが、断面形状はややなだらかである。

柵列

236-1SA465

東西4間の柵列で、長さ3.6mを測る。振れはE-1° 34' -Eで、柱間はおおよそ0.9m、掘り方は径0.35 ~ 0.5mの円形である。

236-1SA490 (Fig.22)

東西4間の柵列で、長さ6.1mを測る。振れは約W-3° 10' -Nで、柱間はおおよそ1.5mである。掘り方は径0.4 ~ 0.5mの円形で、深さは0.2 ~ 0.45mである。

236-1SA635 (Fig.22)

報告整理中に確認した東西5間の柵列で、長さ10.1mを測る。振れは約W-9° 9' -Nで、柱間はおおよそ2mである。掘り方は径0.2 ~ 0.5mの円形で、深さは0.1 ~ 0.5m。底面のレベルは深浅が交互になる。

溝

236-1SD410

振れはN-17° 27' 50" -Eの南北溝。検出長8.3m、幅3.5m、深さ0.1m前後。SE385の井戸が切り込んでいる溝。埋土は黒灰色土。南側は試掘のトレンチで切断されていて、その後の行き先は不明。

236-1SD430

振れはW-4° 43' 1" -Sの東西溝。検出長6.2m、幅0.28 ~ 1.0m、深さ0.06 ~ 0.5mを測る。埋土は黄灰色土・灰色粘質土・黒色土で黄色土ブロックを含んでいる。1・2面目の遺構検出時に南辺ラインは確認していたが、調査区北端付近で全体が把握が難しく、整地もしくは堆積層の違いと認識していたが、3面目の遺構検出の際明瞭に確認できた。遺物が土師器の小皿を含んでいる。底面の一部がやや深くなっているところがある (S-450)。

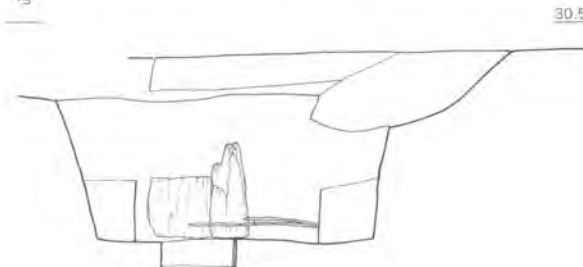
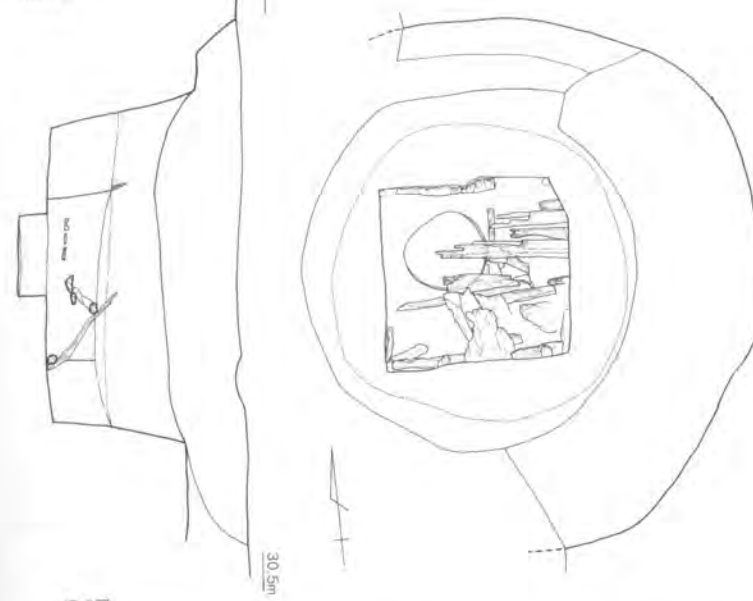
236-1SD455

調査区北端に位置し、振れはW-9° 23' 40" -Nで、検出長4.2m、幅1.3m、深さ0.5mを測る東西溝。埋土は黒灰色土である。遺物は11世紀のものを含んでいて、整地の関係で1・2面目の遺構検出時にそれらしいプランは未確認であった。底面にピットや土坑が存在する。

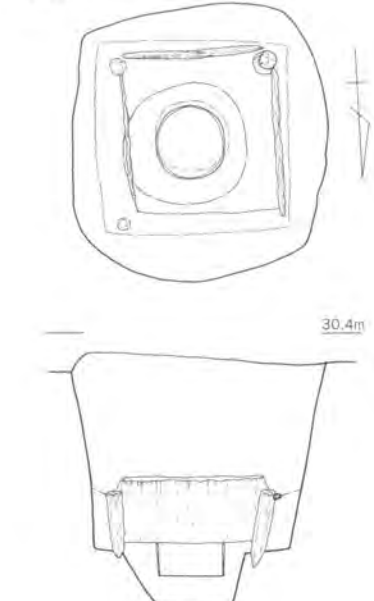
236-1SD505 (Fig.24)

振れはE-2° 35' 1" -Nの東西溝。検出長13.9m、幅1.1 ~ 2.0mでおよそ1.5m前後、深さ0.4m前後。最上面を細かい整地が覆っていて、プランを確認することがやや困難であったことが3面目でプラン確認に至った。方位などから2面目で確認していたSD560と対になる可能性があり、2条の溝で道路遺構の可

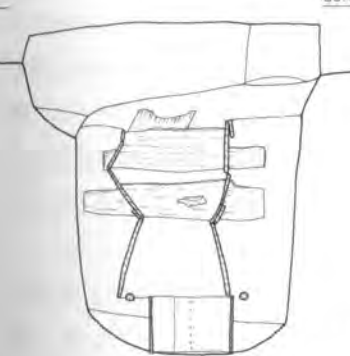
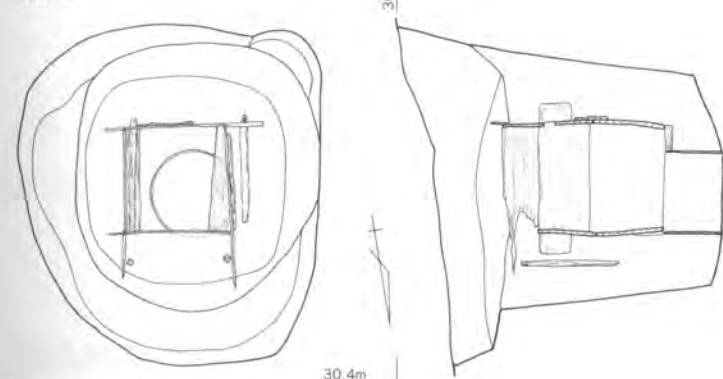
SE205



SE585



SE510



SE625



Fig.25 SE205・510・585・625遺構実測図 (1/40)

能性も考えられる。2条の溝間は約3.5mである。埋土は最下層が灰色粘土であったが、その上面の溝の最終埋没の埋土は粗い砂と粘土の互層になり、木片も混じっていた。

236-1SD515

振れはSD520とほぼ同一方向を向く東西溝で幅0.3～0.4m。調査時は溝状にプランが確認されたが、土層を観察すると、溝というより道路とみられる窪みの北肩に堆積した堆積層（整地）とも考えられる。上層は黒茶色土、下層は茶色の砂質土である。

236-1SD520

振れはW-3° 37' 15" -Nの東西溝。検出長22.5m、幅0.8～1.7m、深さ0.2m前後。北側のS-515(黒茶色土)より明るい茶色土のラインが東西に確認でき、南側は砂質(S-615)であったため、その間であるプランを溝と認識し掘削した。北側の埋土の違いは微妙な状況であった。SD550と平行し、合わせて道路側溝と推測される。

236-1SD540・1038 (Fig.24)

振れはN-1° 41' 18" -Wの南北溝。検出長約15m、幅0.55～1.5m、深さ0.4～0.5m前後。途中ほかの遺構によって分断されているが、延長上にあるS-1038の溝と同一遺構とみられ、それら全体をみると北側が東に緩やかに曲がっている。南端から馬の歯が出土している。SK545の最上面の西端から馬とみられる頭蓋骨が出土したが、その出土位置がSD540と切りあっている部分であるため、SK545出土の頭蓋骨もSD540出土とみた方が妥当である。また、SD540とSX530の切りあいは平面的にはSD540が古いように思われたが、土層断面で確認したところSD540が新しいことがわかった。

236-1SD550 (Fig.24)

振れはW-3° 42' 13" -Nの東西溝。検出長21.0m、幅1.1～2.0m、深さ0.3～0.4m前後。埋土は茶褐色土で、SD520と平行し、合わせて道路側溝と推測される。

236-1SD575 (Fig.24)

振れはW-0° 33' 0" -Nの東西溝。途中途切れている部分もあるが、検出長15.9m、幅0.2m前後、深さ0.1～0.3m。SD550上に切り込んであるもののそれと平行するため、SD550を掘り直したものとみられ、同様の機能を持っていたと思われる。

井戸

236-1SE205 (Fig.25)

SX640や灰色土の整地層より下から検出されたが、中央の井戸枠付近は埋土が陥没し、第1調査面で確認されていた。掘り方はトレンチで一部は破壊されているが、最大径2.9mを測り、遺構検出面から0.4m付近で掘り方は狭くなり、南北1.9m、東西1.8mの円形を呈している。井戸枠は一辺1.0mの正方形で、東側の井戸枠が枠内に倒壊した状態で検出され、南側の縦板も内側に傾いた状態で検出された。縦板は幅0.2～0.3m、最も厚いもので0.05mを測った。横桟には径0.05mのやや屈曲した自然木が使用され、縦板の最下に据えられていた。隅柱はほとんど腐ってなくなっていたが、径0.05m程の空洞ができていて、北西隅には先端を尖らせた隅柱が僅かに残っていた。

井戸枠中央よりやや西側には、径0.4m、深さ0.15mの曲物が据えられていたが、東側で僅かに材質が残るのみで、他は掘り方のみ残っていた。井戸底は細かい砂で、曲物はその砂に掘りこまれていた。曲物の掘り方まで含めた全体の深さは1.15mである。調査時は曲物内のみ湧水していた。

236-1SE510 (Fig.25)

掘り方は南北1.8m、東西1.6m、深さ1.75mの楕円形で、0.4mほど下がった所に中段があり、そこから南北1.4m、東西1.3mの隅丸方形の掘り方がつづく。埋土の上部である茶灰色土では瓦が多く出土し、

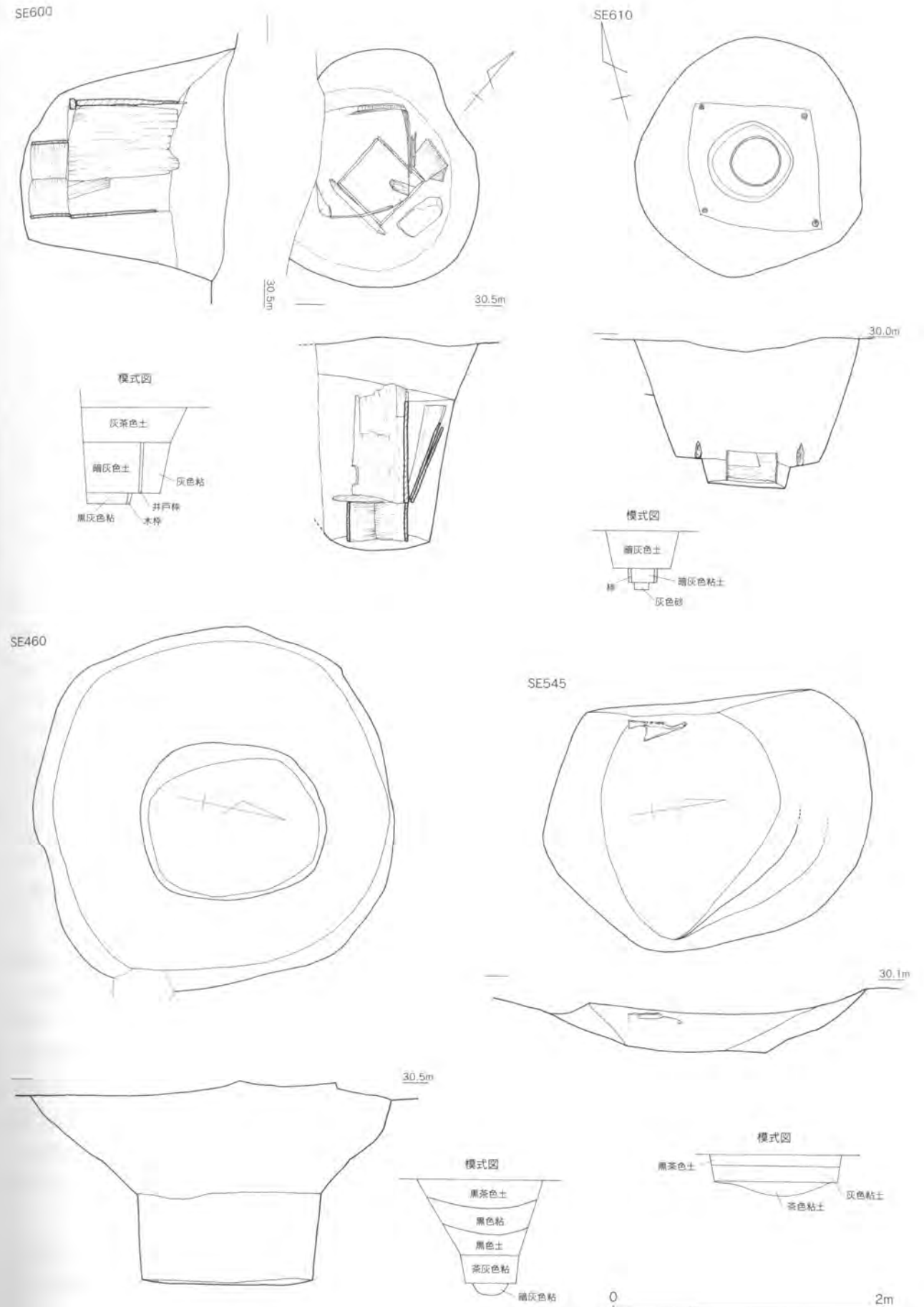


Fig.26 SE600・610、SK460・545遺構実測図(1/40)

井戸枠内の暗灰色粘土でも瓦が多く出土し、ほかに花崗岩や板材が混ざっていた。井戸枠は凸型に加工した板材を巧みに組み合わせて積み重ねている。内法は0.55m四方で、残存していたのは3段分で東西の井戸枠材が土圧で内側に押し出されている。最下の井戸枠とその上の井戸枠との繋ぎ目の裏側には板が置かれ、泥の進入を防いでいたように思える。井戸枠底には径0.45m、深さ0.3mの非常に残りの良い曲物が検出されたが、井戸枠とずれていることと曲物と同じレベルで横棧のような加工を施した部材が検出されたこと、その部材の一方が井戸枠の裏込め内から検出されたことなどから、この井戸枠は改修後のものと推測される。

236-1SE585 (Fig.25)

灰色土に切り込む井戸で、第1調査面で確認していたが、第3調査面で調査を行っていた。掘り方は南北1.45m、東西1.35m、深さ1.0mの隅丸方形で、中央に約0.8m四方の井戸枠を作っている。井戸枠は北側が全く残ってなく、その他も遺存していたが腐食が著しく、縦板と確認できるのみで、枚数や縦板の幅など詳細は確認できる状態ではなかった。また、縦板の下は曲物上面と同一レベルであった。隅柱は南側が残っていて、径0.09mで僅かに先端は尖らせていた。横棧は北側以外残っていたが腐食が著しい。自然木を使用していて、径0.03～0.04mである。井戸枠内には曲物が設置され、大きさは南北0.36m、東西0.35m、深さ0.18mで、木質が僅かに残る程度であった。曲物内の埋土は2層で上層が暗灰色粘土、下層が明灰色砂であった。曲物は砂に0.65m程の掘り方を掘って設置されていた。

236-1SE600 (Fig.26)

掘り方は南北1.75m、東西1.2m以上、深さ1.6mの不定円形で、西側は調査区外に続いている。井戸枠は0.8mの方形で、幅0.46mの板材をはじめ全体的に大きな板を使用している。南辺部は一部崩壊している。井戸枠は板を2～4枚重ねていた。井戸枠底から箱型の木枠が検出されたが、井戸枠の下にもぐっていくため、時期が異なるものとみられる。木枠は内法0.4m、深さ0.28mで、加工を施し巧みに組み合わせていた。井戸枠の裏込めには木枠と平行する縦板と石が検出され、木枠に伴って作られた井戸枠の残骸と推測され、改修して使用されたとみられる。井戸枠内の埋土からは縦板片や大石が出土した。

236-1SE610 (Fig.26)

SB480の掘立柱建物の掘り方を切って掘り込まれた井戸で、掘り方は東西1.7m、南北1.8m、深さ1.1mの円形で、井戸枠は僅かに板材が残っていたが、調査中に埋土と一緒に取れてしまうほど腐食していた。四隅には径0.05m前後の隅柱が僅かに残存していた。中央には径0.35mの曲物が設置されていたが、これも薄く木片が残っている程度であった。井戸の埋土である暗灰色土には瓦が多く含まれていた。曲物内の埋土は2層で上層が暗灰色粘土、下層が明白色砂であった。

236-1SE625 (Fig.25)

掘り方は東西1.26m、南北1.26m、深さ1.4mの円形で、一辺0.44m程の方形に木片が検出された。井戸枠のようにも見えるが明確でない。その中央には曲物が存在し、その径は0.4mで掘り方中央よりやや東寄りで確認された。曲物周囲の掘り方は礫と木炭で埋められていた。曲物内からは0.18×0.2m、深さ0.14mの曲物と土師器が検出された。この曲物は汲み上げ具として使用されたものと推測される。

土坑

236-1SK460 (Fig.26)

南北2.68m、東西2.68mの円形を呈している。形状から素掘りの井戸とも考えたが、掘削後全く湧水がないこと、雨水もすぐに吸い込んでしまうことや埋土中から少量の木片は出土したが、その他井戸枠を想定できる遺物が出土していないため、土坑として報告する。2面目で落ち込みによってできたとみられる土坑を確認していることや最上面の埋土（黒茶色土）に11世紀後半の遺物が含まれていることな

どから第2遺構面の遺構の可能性も考えられる。しかし、中位から底面までは9世紀代までの遺物が殆どであることから、最上面は整地の落ち込みなどと考え、この遺構は最終埋没こそ11世紀後半と言えるが、9世紀代には殆ど埋没していたと推測される。最上面の黒茶色土層からは獣骨の四肢骨片が少量出土した。

236-1SK535

調査区西端にある土坑で、調査区外につづく。埋土はSK530と同じ黒灰色土で、平瓦の完形品が出土。

236-1SK545 (Fig.26)

南北2.4m、東西1.8m、深さ0.48mの楕円形を呈している。最上面の西端から馬とみられる頭蓋骨が出土したが、その出土位置がSD540と切りあっている部分であること、SD540からも馬の歯が出土していることなどから、この土坑出土とみるよりSD540出土とみた方が妥当である。

236-1SK590

南北4.0m、東西3.0m、深さ0.3mの楕円形を呈している。底面はやや凸凹している。埋土は全体的に灰色をした粘質土で、明白色の粘土ブロックが細かく入り、人為的に埋められた可能性が高い。

道路遺構

236-1SF615

SD520とSD550に挟まれた幅約1.8mの帯状に続く砂質土で、表面は若干凹凸があり、サビで茶色に硬化している。この硬化面を除去すると、やや砂質の黒灰色土が黒色粘土などに凸凹に入り込んでいる。砂質はこの付近の地山であるが、黒色粘土より下層に砂層があるため、SX615の砂質土は黒色粘土の上に路面とするため意図的に積まれたものと推測される。また、砂質土を除去すると周囲より低くなる。

その他の遺構

236-1SX530 (Fig.24)

SD375を挟んで北側でも同様の埋土が存在するため、それまで含めて南北約6.5m、東西7.0m、深さ0.3m前後の方形を呈している。埋土は黒灰色土と黒灰色粘土の混合層のほぼ単一層で、底面ではSD540が検出された。土坑か窪みとみられるが不明瞭である。

236-1SX525

SD550、520、615を覆っている茶褐色土層で、厚さは10cm前後でそれら遺構との境目は明瞭である。

○第4調査面

調査区の北西付近一帯に広がっていた暗灰色粘土を除去した遺構面で、灰白色粘土や淡黄灰色土を基盤とした面である。確認される遺構はアレーバ状に暗灰色粘土やそれに黒色粘土ブロックが混じり込んでいる埋土で、明確に遺構と言えるものは多くない。この黒色粘土は砂を殆ど含まない粘性がとても強い粘土で、調査区内を蛇行する流路の最終埋没層とみられる。この埋没時期や埋没状況については分析を行っている（第V章）。北側では黒色粘土を抉るように凹凸が広がっているため、ある時期にこの粘土を採掘した可能性も考えられる。この採掘時期は黒色粘土付近で出土する遺物から弥生時代後期のものであろうか。また、この面では上面の遺構の掘り残しとみられるピット類も確認されている。

(4) 出土遺物

○第1調査面

掘立柱建物

236-1SB100e出土遺物 (Fig.27)

土師器

小皿a (1・2) 磨滅しているが、体部はヨコナデ。2は底部回転ヘラ切り。

236-1SB100g出土遺物 (Fig.27)

土師器

小皿a (3) 復元口径9.0cm。内面底部ナデ、体部は回転ナデ、底部回転ヘラ切り。

236-1SB145d出土遺物 (Fig.27)

土師器

丸底坏a (4) 復元口径14.6cm。体部は屈曲なく丸く仕上げ、下半に指頭圧痕や板状圧痕が残る。

236-1SB165a掘り方出土遺物 (Fig.27)

土製品

焼土塊 (5・6) 全体的に荒れているが、部分的に面を残している。色調は淡橙茶色で、0.4cm未満の白色砂粒を多く含み、ササ痕跡もみられる。

236-1SB165h柱痕出土遺物 (Fig.27)

土師器

丸底坏a (7) 体部中位付近で僅かに段があり、外面に板状圧痕を残す。

236-1SB165h掘り方出土遺物 (Fig.27)

土師器

丸底坏 (8) 体部中位付近で僅かに段があり、その下半はナデ、内面はミガキbを施す。

236-1SB275a出土遺物 (Fig.27)

土師器

小皿a (9) 小破片で、底部回転ヘラ切り。

丸底坏a (10) 復元口径15.2cm。内面にミガキb、外面底部に板状圧痕が残る。

236-1SB275d出土遺物 (Fig.27)

土製品

焼土塊 (11・12) 部分的に面を残している。色調は茶灰色や橙灰色を呈し、胎土には白色砂粒やササを多く含む。11には棒状痕跡があり、12には土師器片が混ぜ込まれている。

236-1SB275h出土遺物 (Fig.27)

黒色土器A類

甕 (13) 口縁端部外面はヨコナデ、その他は摩滅。外面に一部煤が付着している。

236-1SB285a出土遺物 (Fig.27)

土師器

小皿a (14) 小破片で底部は磨滅する。体部は内外面ともヨコナデ。

236-1SB285b出土遺物 (Fig.27)

土師器

小皿a (15・16) 口径9.0cmと9.8cm。両方とも底部回転ヘラ切り。内面底部はナデ。

236-1SB285b掘り方出土遺物 (Fig.27)

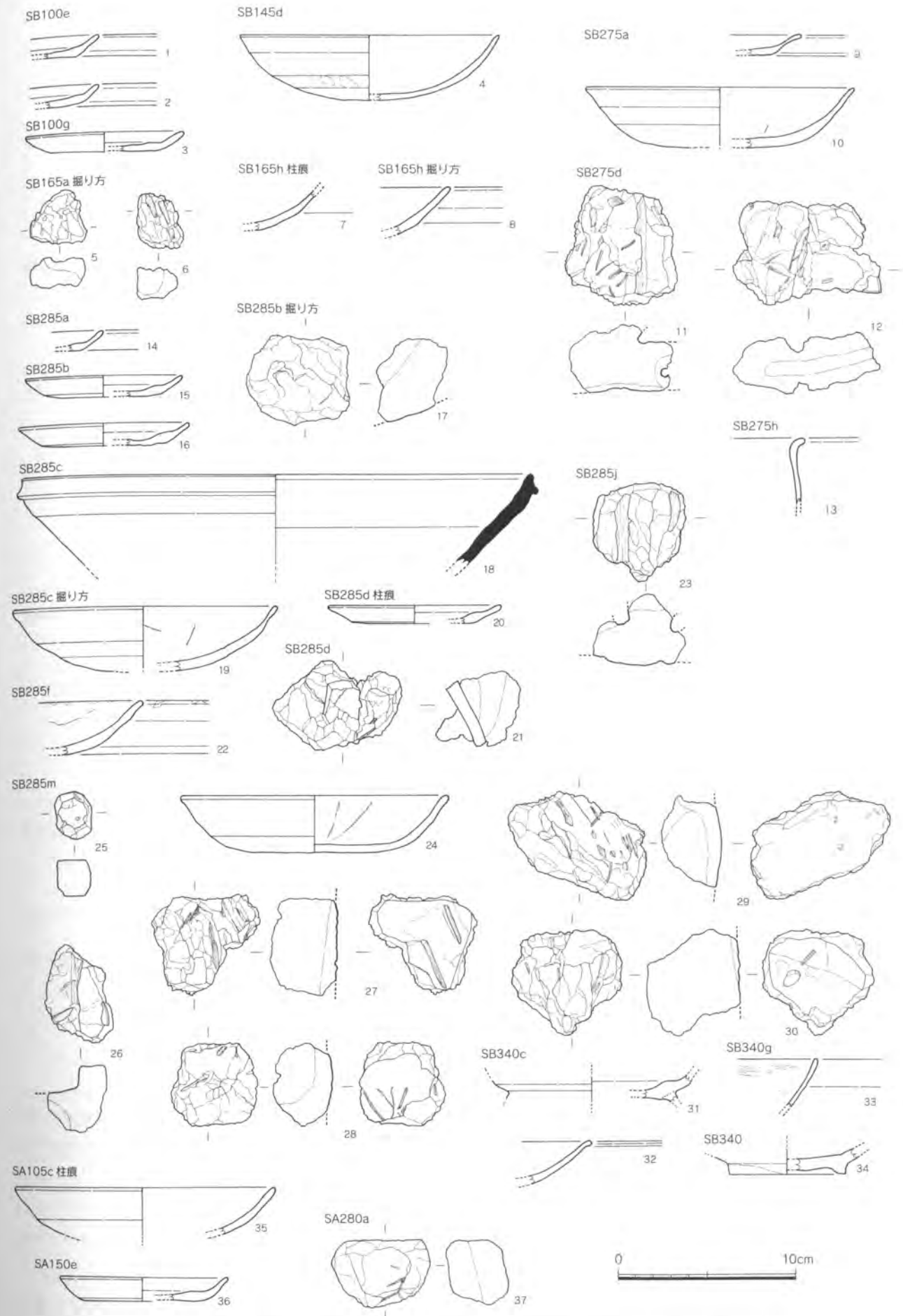


Fig.27 第1調査面掘立柱建物・柵列出土遺物実測図 (1/3)

土製品

焼土塊 (17) 胎土は茶灰色や黒灰色を呈し、0.5cm以下の白色砂粒を多く含み、スサ痕も僅かにみられる。

236-1SB285c出土遺物 (Fig.27)

須恵質土器

鉢 (18) 復元口径29.6cm、口縁端部が若干肥厚する。内外面とも回転ナデ。外面口縁部付近は暗青灰色で他は青灰色を呈する。東播系。

236-1SB285c掘り方出土遺物 (Fig.27)

土師器

丸底坏a (19) 復元口径15.2cm、内面にミガキbやコテ当て痕、外面は体部がヨコナデで、底部に板状圧痕を残す。

236-1SB285d柱痕出土遺物 (Fig.27)

土師器

小皿a (20) 復元口径9.8cm、器高1.0cm。磨滅し調整不明。

236-1SB285d出土遺物 (Fig.27)

土製品

焼土塊 (21) 胎土は茶灰色や灰黒色を呈し、0.5cm以下の白色砂粒を多く含み、スサや須恵器片が混ざり込んでいる。

236-1SB285f出土遺物 (Fig.27)

土師器

丸底坏a (22) 内面にミガキbを施す。口縁端部に煤が付着している。

236-1SB285j出土遺物 (Fig.27)

土製品

焼土塊 (23) 胎土は淡茶灰色と黒灰色を呈し、0.5cm以下の白色砂粒を多く含む。棒状の痕跡を2.4cmの間隔で残し、土壁の可能性が考えられる。

236-1SB285m (S-697) 出土遺物 (Fig.27)

土師器

丸底坏a (24) 復元口径15.1cm、内面にはコテ当て痕、外面は上部がヨコナデ、下半に指頭圧痕と板状圧痕を残す。

瓦類

瓦玉 (25) 大きさは2.7×2.15×2.5cm。側面を打ち欠き、片面に布目痕が残る。

土製品

焼土塊 (26～30) 胎土は茶灰色や黒灰色を呈し、0.5cm以下の白色砂粒を多く含み、スサ痕跡も多くみられる。面を残している部分が多く見られる。26には土師器片を含む。

236-1SB340c出土遺物 (Fig.27)

土師器

碗c (31) 磨滅し調整は高台接合のヨコナデ以外不明。

緑釉陶器

皿 (32) 胎土は0.5mm程度の白色砂粒を多く含み、白茶色を呈する。口縁端部が僅かに外反する。釉は口縁部外面に僅かに残り、内面は点状に残る。土師質。

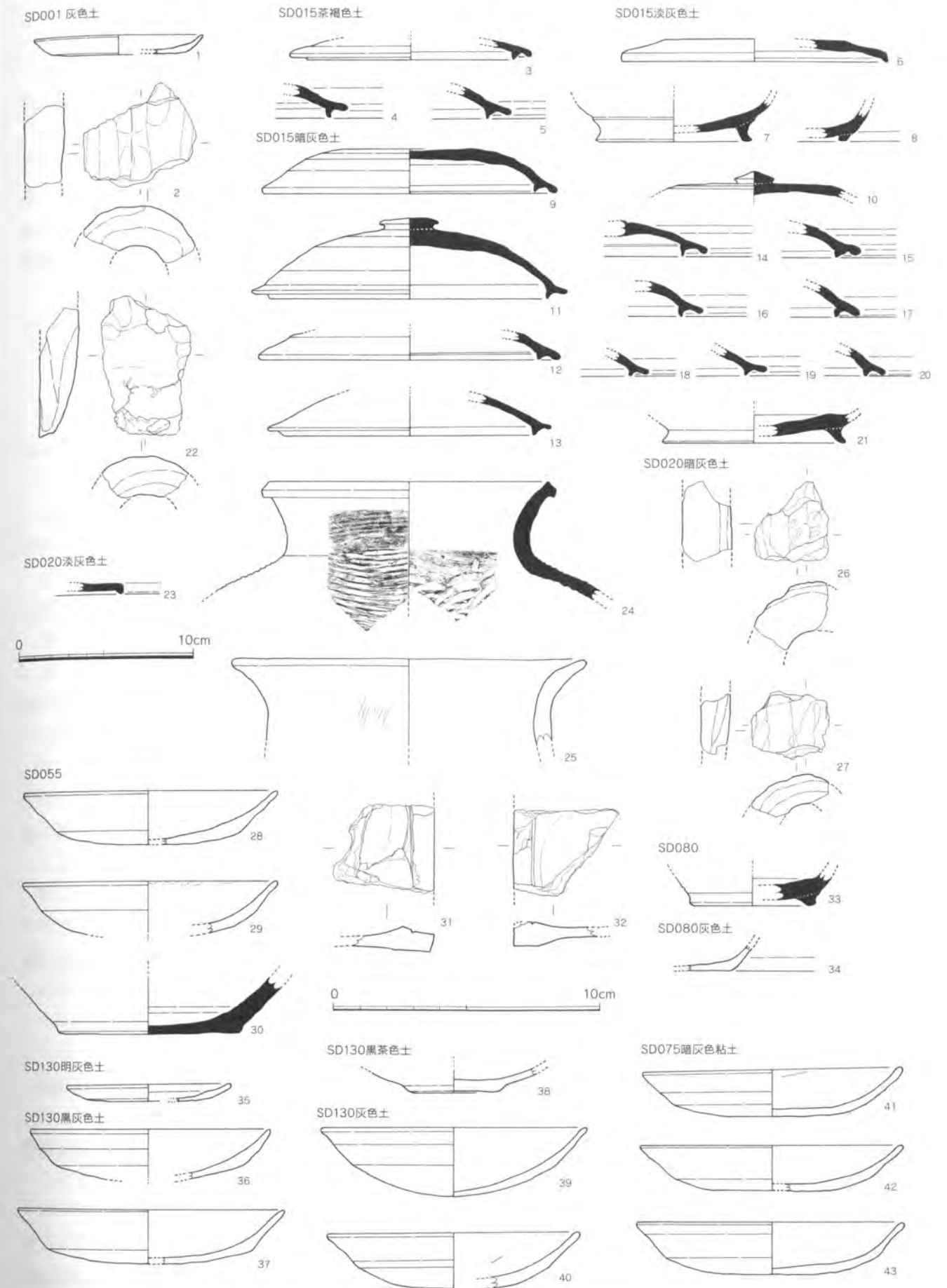


Fig.28 SD001・015・020・055・075・080・130出土遺物実測図 (1/3, 31・32は1/2)

236-1SB340g出土遺物 (Fig.27)

黒色土器

椀(33) 内面に僅かにミガキcが残る。外面ヨコナデ。

236-1SB340 (S-881) 出土遺物 (Fig.27)

緑釉陶器

椀×皿(34) 高台削り出しで、復元高台径6.6cm。胎土は微細な白色砂粒を含み暗灰色を呈する。釉は暗緑灰色で、内面にミガキの後薄く施釉され、外面は高台と底部外面が露胎で、体部外面のみ施釉される。須恵質。

柵列

236-1SA105c柱痕出土遺物 (Fig.27)

土師器

丸底坏(35) 復元口径15.0cm。内面にミガキbが残る。

236-1SA150e出土遺物 (Fig.27)

土師器

小皿a(36) 復元口径9.6cm、器高1.4cm。磨滅し調整不明。

236-1SA280a出土遺物 (Fig.27)

土製品

焼土塊(37) 胎土は黒灰色と茶灰色を呈し、0.4cm以下の白色・茶色砂粒を多く含み、スサ痕もみられる。

溝

236-1SD001灰色土出土遺物 (Fig.28)

土師器

小皿a(1) 復元口径9.6cm、内面ヨコナデ、底部外面に板状圧痕が残る。

土製品

輪羽口(2) 現存長5.9cm、幅6.3cm、厚さ2.3cm。胎土は3mmまでの白色・茶色砂粒を多く含み、表面から明灰色・淡茶灰色・淡橙色を呈する。表面はナデている。

236-1SD015茶褐色土出土遺物 (Fig.28)

須恵器

蓋1(3~5) 口縁部より僅かに高い断面三角形の返りを貼付する。色調は青灰色を呈する。還元・焼成良好。3は復元口径13.6cm。色調は明灰色を呈し、内外面とも回転ナデ。

236-1SD015淡灰色土出土遺物 (Fig.28)

須恵器

蓋3(6) 復元口径15.0cm。内外面とも回転ナデで、内面上部はナデ。色調は青灰色を呈する。還元・焼成とも良好。

坏c(7・8) 7は外開きの高い高台を貼付する。内面不定方向のナデ。8は内外面回転ナデ、底部端に低い高台を貼付する。

236-1SD015暗灰色土出土遺物 (Fig.28)

須恵器

蓋a1(9) 復元口径16.6cm。外面上半部は回転ヘラ切り、その他内外面は回転ナデ。胎土は1mm以下の白色砂粒を含み、青灰色を呈する。還元・焼成とも良好。

蓋c(10) 外面は回転ヘラケズリで擬宝珠形のツマミを貼付する。内面はナデ。胎土は1mm以下の白色砂粒を含み、内面青灰色、外面灰黒色を呈する。還元・焼成とも良好。

蓋c1(11) 復元口径17.8cm、外面上半部は回転ヘラケズリで、潰れた擬宝珠形のツマミを貼付する。その他は回転ナデで、内面頂部に一部ナデを施す。胎土は3mm以下の白色砂粒を含み、青灰色を呈する。還元・焼成とも良好。

蓋1(12~20) 胎土はおおよそ1mm以下の白色砂粒を含み、青灰色を呈する。還元・焼成とも良好。復元口径は12が17.0cm、13が16.0cm。口縁部より僅かに高い断面三角形の返りを貼付する。口縁端部破片のため、内外面とも回転ナデ。14・15は外面上部に回転ヘラケズリが確認できる。17は明灰色を呈する。20は紫灰色を呈する。

坏c(21) 外開きの高台を貼付する。底部内面ナデ、底部外面ヘラ切りである。

土師器

破片 磨滅が目立ち実測するまでには至っていないが、回転台を使用したような橙色と黄褐色の土師器が4点出土している。場合によっては還元不良の須恵器の可能性もある判別が微妙な土器である。

土製品

輪羽口(22) 先端部部分で、厚さは2.2cm。胎土は2mm以下の白色砂粒を多く含み、断面は外側から淡青灰色、淡茶灰色、淡橙色に変色する。先端部は熱で融解し、鉍滓も付着している。

236-1SD020淡灰色土出土遺物 (Fig.28)

須恵器

蓋3(23) 口縁端部で、内外面とも回転ナデ。

甕(24) 復元口径16.6cm、口縁端部を肥厚させる。外面叩き、内面は同心円の当て具痕が残り、頸部外面は回転ナデで条痕状になっている。色調は青灰色で、体部内面は自然釉で灰黒色を呈する。

土師器

甕(25) 復元口径20.0cm、外面に僅かにタテハケが残る。胎土は淡橙色で、砂粒に混じって角閃石が混入する。

236-1SD020暗灰色土出土遺物 (Fig.28)

土製品

輪羽口(26・27) 2点とも胎土は3mm以下の白色砂粒を多く含み、26は厚さが2.8cm。断面は外側から暗灰色、淡橙灰色、橙茶色に変色し、外側は熱により硬化する。27は厚さが1.6cm。断面は外側から明灰色、赤茶色、淡橙色に変色し、外側は熱により硬化している。

236-1SD055出土遺物 (Fig.28)

土師器

丸底坏a(28・29) 復元口径は14.5、14.6cm、29は口縁端部内面に炭化物が付着する。

須恵質土器

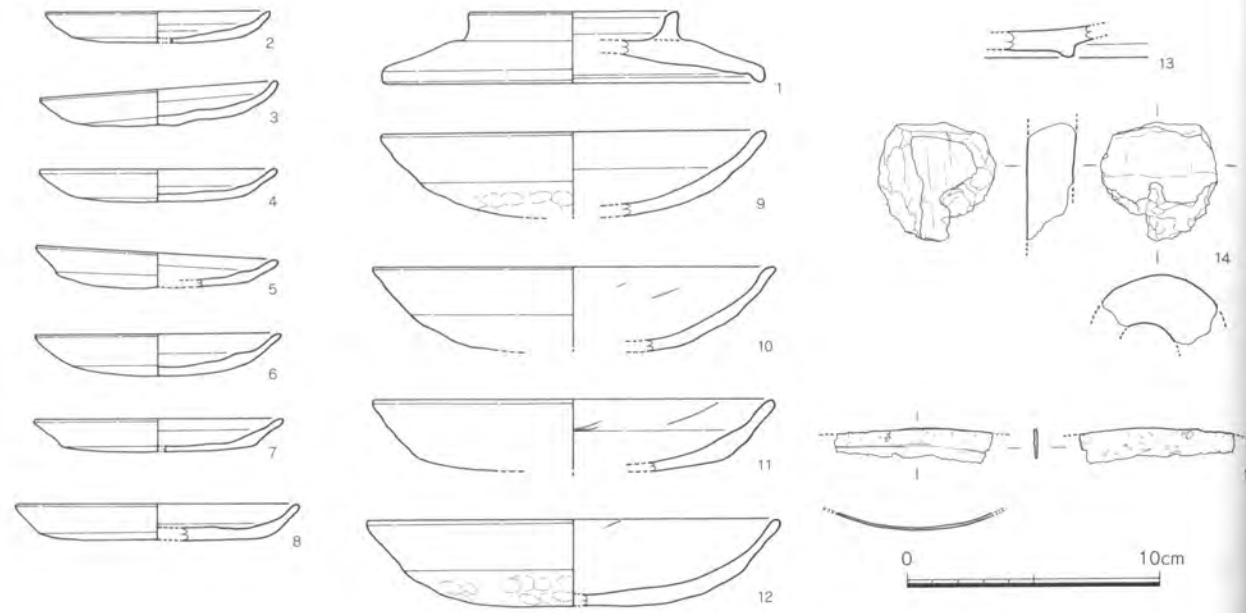
鉢(30) 胎土は精製され、明灰色を呈する。復元底径は10.4cm。底部外面は回転糸切り、内面は使用によって磨滅する。

石製品

風字硯(31・32) 硯面は凹面に仕上げ、周囲に浅い沈線を巡らし、その外側に平坦面を作る。裏面は表と同様に加工しているが、粗く割り僅かに研磨するだけである。石材は黒色味の強い暗灰色の粘板岩。2点は同一個体の可能性が高い。

236-1SD070灰茶色土出土遺物 (Fig.29)

SD070 灰茶色土



SD070 暗灰色粘土

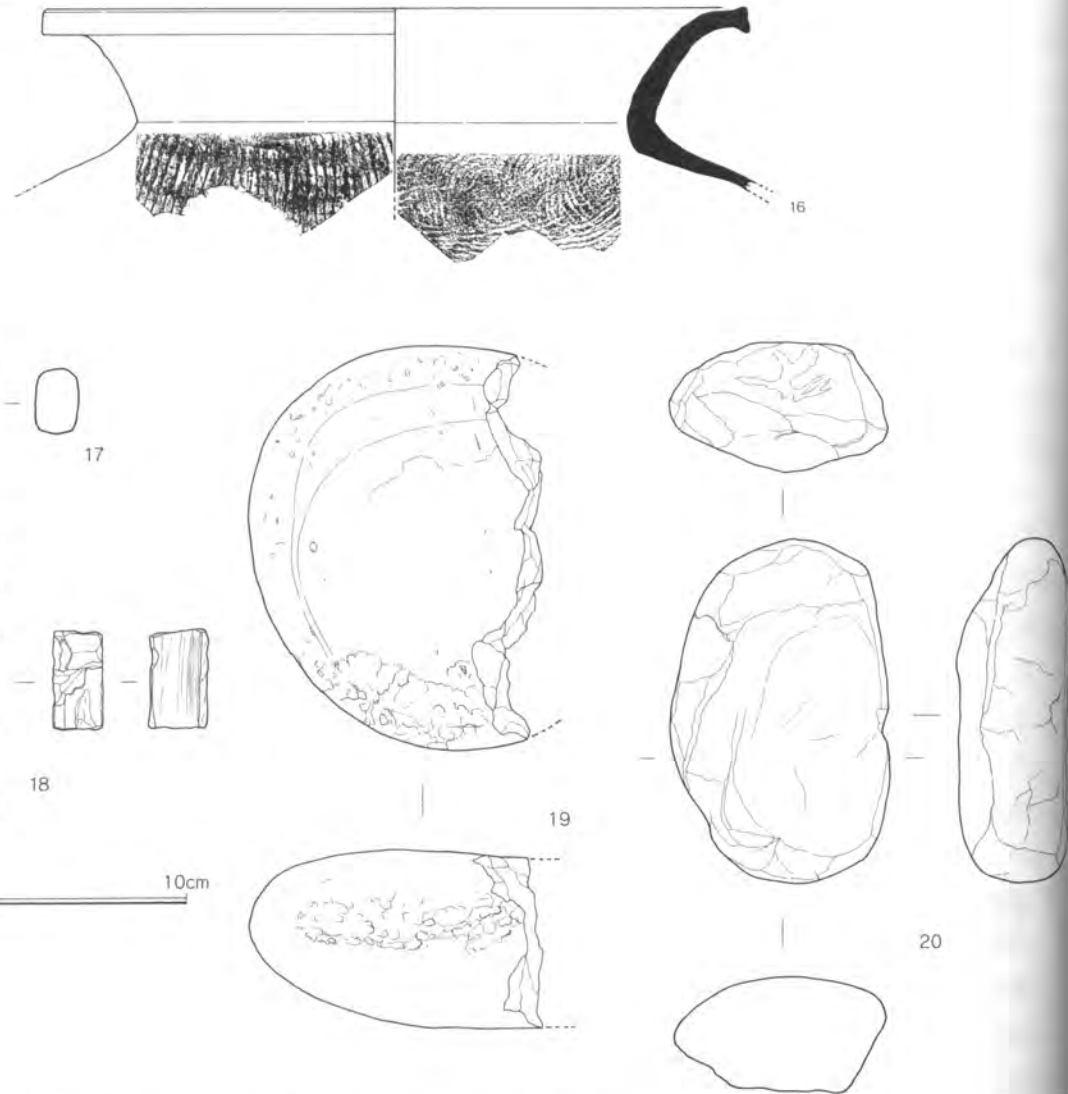


Fig.29 SD070出土遺物実測図① (1/3、18~20は1/2)

SD070 暗灰色粘土

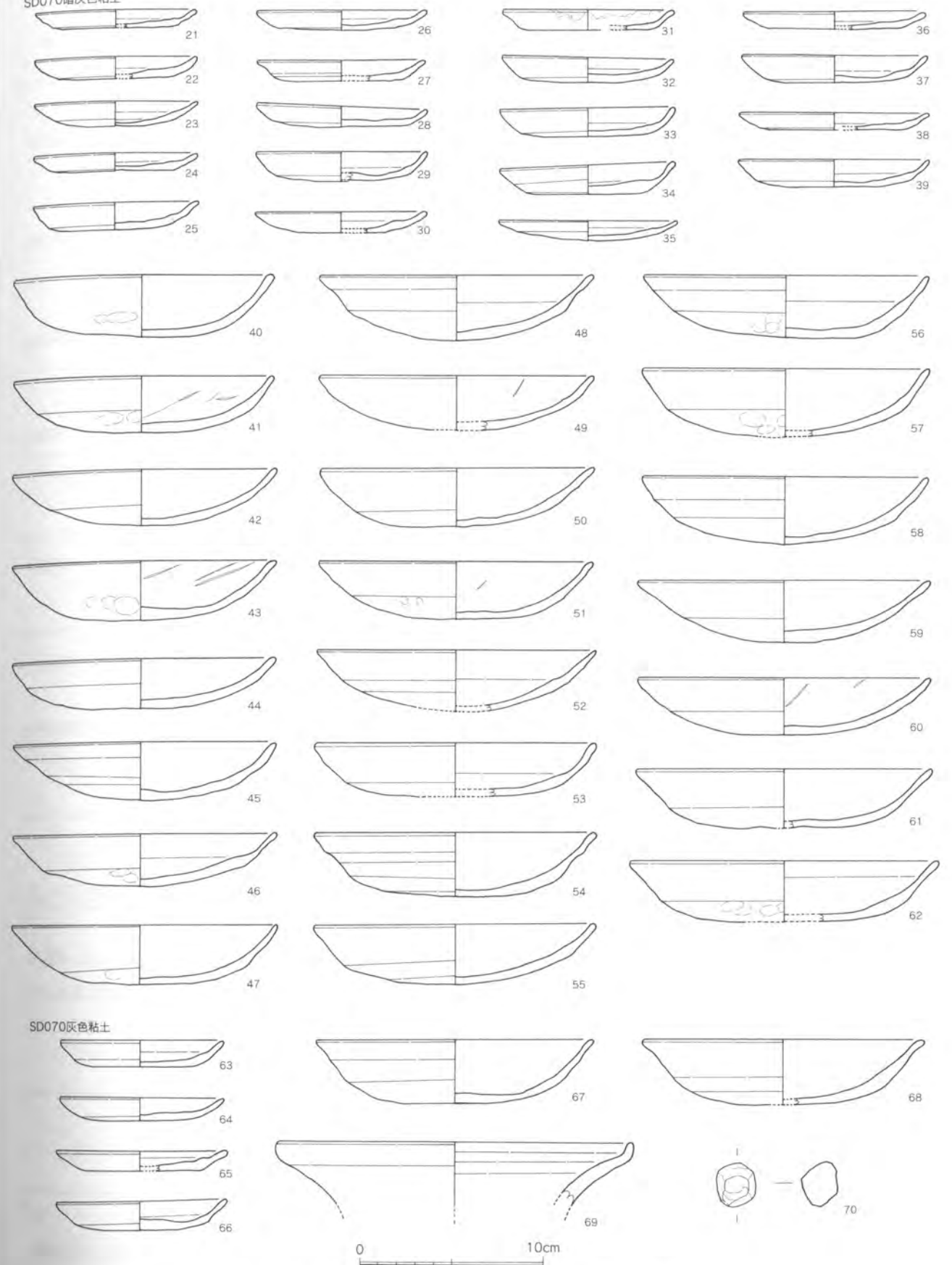


Fig.30 SD070出土遺物実測図② (1/3)

土師器

蓋b3(1) 復元口径14.8cm、ツمام径は8.4cm、口縁端部を僅かに曲げている。全体的に磨滅しているが、外面回転ナデ、内面ナデか。色調は茶灰色～黄橙色を呈する。

小皿a(2～8) 口径8.9～11.2cm、器高1.2～1.65cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a(9～12) 復元口径15.2～18.4cm、内面ミガキbで、体部下半は押し出し。9・12には指頭圧痕が僅かに残る。

緑釉陶器

碗×皿(13) 高台部はケズリ出しで、高台畳付および底部外面以外は薄く淡緑灰色釉を施す。焼成は須恵質で、京都産とみられる。

土製品

鞆羽口(14) 厚みは1.5～2.2cm、中央の孔は復元径約2.2cm。胎土にはスサ痕が明瞭に確認できる。外面は茶灰色と暗灰色に変色し、先端部は融解している。

金属製品

用途不明製品(15) 現存する大きさはタテ1.4cm、ヨコ6.2cm、厚さ1.0cm。内側に僅かな段を有する。湾曲しており、何か器状の口縁部分とみられる。

236-1SD070暗灰色粘土出土遺物 (Fig.29・30)

須恵器

甕(16) 復元口径28.0cm、口縁端部は僅かに肥厚させる。頸部は内外面とも回転ナデで、くびれ部が内外面ともナデ。

土師器

小皿a(21～39) 口径8.8～10.4cm、器高0.9～1.6cm。確認できるものはすべて底部回転ヘラ切り、板状圧痕が残る。31の口縁部内面には煤(油煙)が付着している。

丸底坏a(40～62) 口径14.4～16.8cm、器高2.7～3.7cm。全体的に磨滅が目立つが、ミガキbやコテ当て痕が部分的に確認できる。外面中位に僅かに屈曲している。

瓦類

瓦玉(17) 大きさは2.1×2.3×1.7cm。全体的に磨滅している。

石製品

滑石加工品(18) 大きさは2.6×1.6×1.3cm。方形に削られ、当初の面が3面残り、口縁部もしくは鏝部分を加工したものと思われる。

磨石(19・20) 19は円形で半分ほど欠損する。最大長10.7cm、厚さ4.7cm。両面は研磨され、側面には敲打痕も確認できる。20は両端が非常に研磨され光沢を放つ。石材は石英で長さ9.2cm、幅5.8×3.0cmである。表面の筋目に赤色顔料が確認でき、蛍光X線分析を行ったところ水銀朱であった。また、同様に金色物質も確認でき、蛍光X線分析を行ったところ、金であることが確認できた。

236-1SD070灰色粘土出土遺物 (Fig.30)

土師器

小皿a(63～66) 口径9.0～9.6cm、器高1.1～1.6cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a(67・68) 口径はそれぞれ15.1cmと15.4cm。外面は屈曲なく丸く仕上げる。

灰釉陶器

甕×壺(69) 口縁端部を上方に屈曲させる。復元口径19.4cm。胎土は淡灰白色で1mm前後の黒色粒を含む。内外面とも回転ナデのあと施釉されているが、外面は殆ど剥落していて、淡緑灰色釉が僅かに残っ

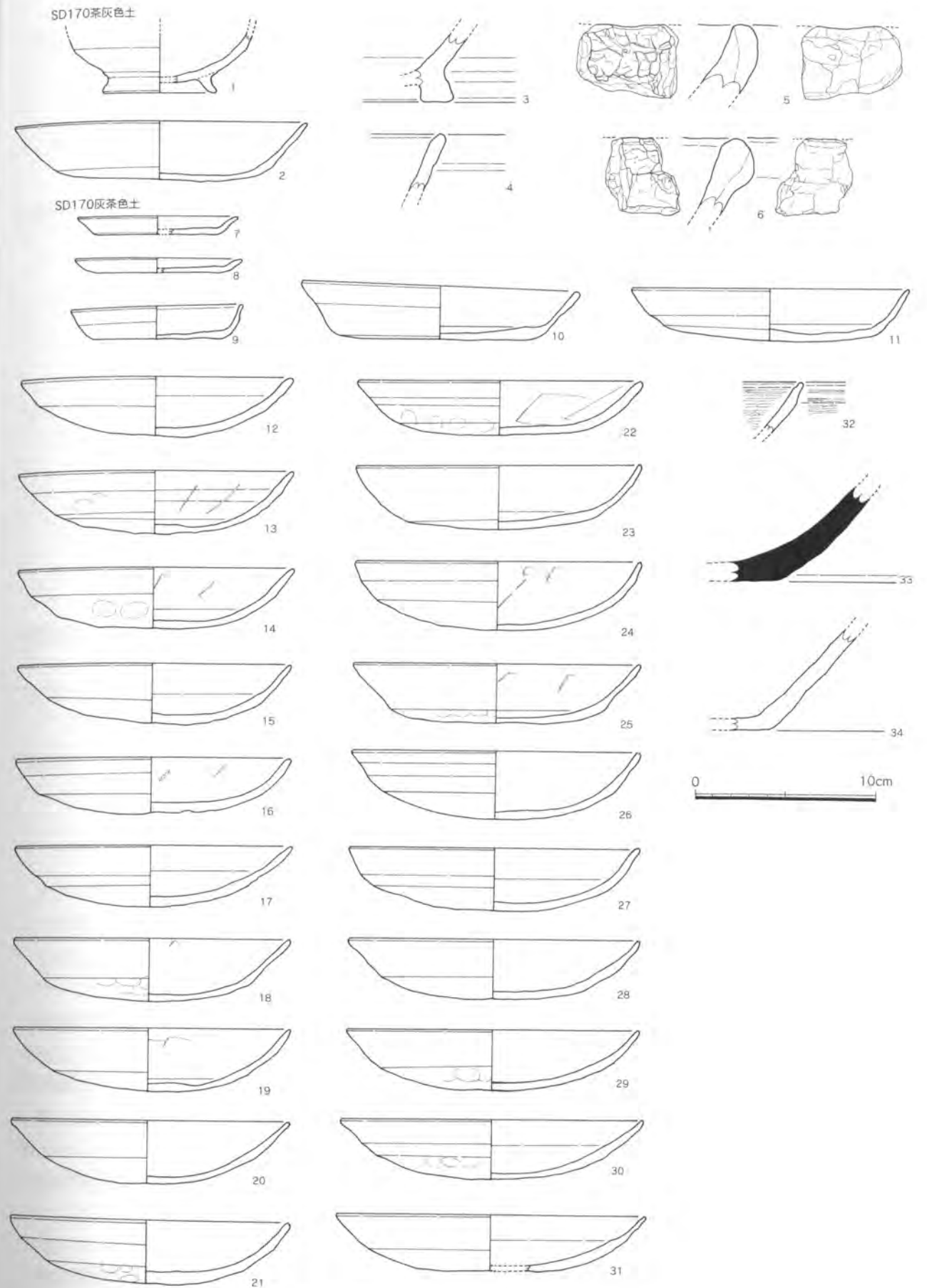


Fig.31 SD170出土遺物実測図 (1/3)

ている。

瓦類

瓦玉 (70) 大きさは2.4×2.1×1.9cm。丸く加工されている。

236-1SD075暗灰色粘土出土遺物 (Fig.28)

土師器

丸底坏a (41～43) 復元口径14.6～15.0cm、器高2.6～3.0cm。外面中位に僅かに段を有するがほぼ丸い。胎土は茶白色や茶灰色を呈する。

236-1SD080出土遺物 (Fig.28)

須恵器

坏c (33) 底部内外面はナデ。底部端に台形の高台を貼付する。復元高台径7.1cm。

236-1SD080灰色土出土遺物 (Fig.28)

土師器

坏a (34) 体部と底部との境は若干丸味を帯びる。胎土は茶灰色を呈する。

236-1SD130明灰色土出土遺物 (Fig.28)

土師器

小皿a (35) 復元口径9.4cm、器高0.95cm。全体的に磨滅している。

236-1SD130黒灰色土出土遺物 (Fig.28)

土師器

丸底坏a (36・37) 2点とも全体的に磨滅している。体部中位が肥厚し僅かに屈曲する。胎土は茶白色を呈する。

236-1SD130黒茶色土出土遺物 (Fig.28)

土師器

坏 (38) 底部は凸型で、磨滅しているが糸切りのようにも見える。胎土は砂粒を少量含むが精製されている。内面は茶白色、外面は橙灰色を呈する。豊前からの搬入か。

236-1SD130灰色土出土遺物 (Fig.28)

土師器

丸底坏a (39・40) 内面はミガキb、外面底部は回転ヘラ切り後ナデ。胎土は茶白色を呈する。

236-1SD170茶灰色土出土遺物 (Fig.31)

土師器

碗c (1) 復元高台径6.3cmの外開きの高台を貼付する。坏部はやや小振りである。

丸底坏a (2) 磨滅し調整は内面底部で僅かにナデが残るだけだが、底部は若干押し出しが認められる。

灰釉陶器

壺 (3) 底部付近で、がっちりとした高台を貼付する。体部外面下半は回転ヘラケズリ、高台部は回転ナデ、施釉は内面のみで淡緑灰色の釉が薄く掛かり、貫入もみられる。

朝鮮系無釉陶器

甕 (4) 口縁端部で外面は叩きの後、回転ナデを施す。内面回転ナデ。胎土は淡褐白色砂粒を僅かに含み、外面は灰黒色、断面は茶褐色を呈する。

土製品

トリベ (5・6) 5は内面が灰白色に変色し、端部に褐黒色の付着物がみられる。胎土には亀裂が多くみられ、スサ痕も残る。6は内面が淡赤灰色や淡黄灰色に変色硬化する。

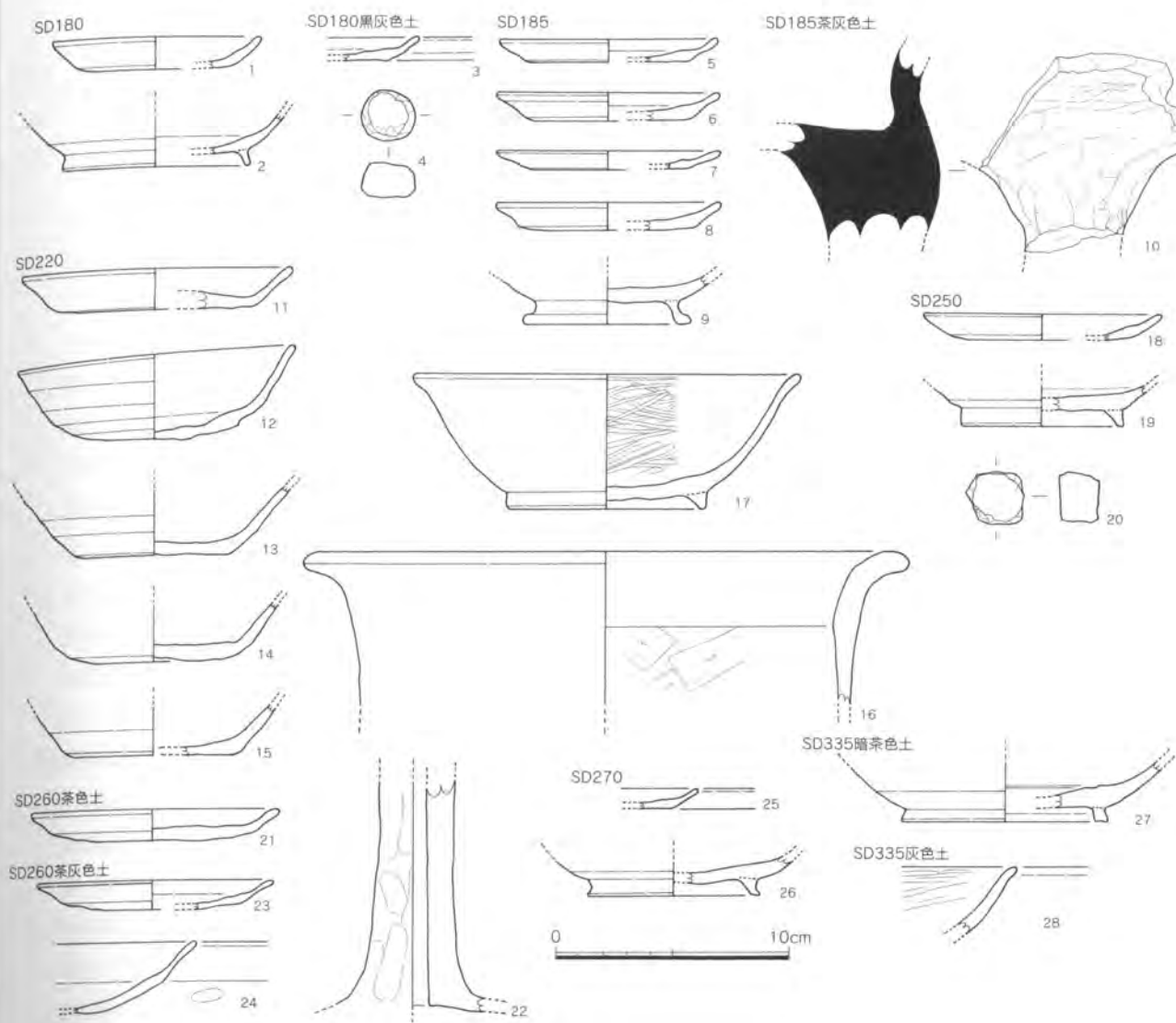


Fig.32 SD180・185・220・250・260・270・335出土遺物実測図 (1/3)

236-1SD170灰茶色土出土遺物 (Fig.31)

土師器

小皿a (7～9) 口径9.0～9.5cm、器高0.8～1.8cm。9のみ底部回転糸切り。

坏a (10・11) 2点とも口径15.4cm、内面不定方向ナデ、外面底部回転ヘラ切り。

丸底坏a (12～31) 口径15.2～17.2cm、器高3.0～3.8cm。殆ど完形で、内面はナデの後ミガキbを施し、コテ当て痕も確認できる。29は内面に傷が多い。外面は磨滅が目立つ。

瓦器

碗 (32) 口縁端部内面に沈線を巡らし、内外面とも小刻みなミガキcを施し、光沢がある。胎土は精製されている。

須恵質土器

鉢 (33) 胎土は淡灰色で、2mm以下の淡灰色や黒灰色の砂粒を含み、全体にスサ痕が残る。外面ナデ調整で、内面は使用のためか磨滅している。

朝鮮系無釉陶器

甕 (34) 底部付近で、外面は叩きの後小刻みなナデ、内面は回転ナデ、体部下半とナデを底部外面

は施す。外面灰黒色、断面茶褐色を呈する。

236-1SD180出土遺物 (Fig.32)

土師器

小皿a (1) 復元口径9.0cm、口縁端部内面に僅かに煤が付着する。

黒色土器A類

椀c (2) 復元高台径8.2cm、内外面とも摩滅するが、内面に僅かにミガキが残る。

236-1SD180黒灰色土出土遺物 (Fig.32)

土師器

小皿a (3) 小破片で、調整は摩滅し不明。

瓦類

瓦玉 (4) 大きさは2.2×2.3×1.5cm。片面に布目痕が残る。

236-1SD185出土遺物 (Fig.32)

土師器

小皿a (5~8) 復元口径9.4~9.6cm、器高0.8~1.2cm。全て摩滅し調整不明。

椀c (9) 若干歪みがあるが、復元高台径7.2cm。高台端部は外側に屈曲する。

236-1SD185茶灰色土出土遺物 (Fig.32)

須恵器

脚付盤 (10) 脚部先端は欠損する。胎土は2mm以下の白色砂粒を少量含むが精製されている。焼成は良好だが、還元が若干悪く、色調は灰白色を呈する。体部内面はヨコナデ、脚部接合部がヨコナデ、脚部はナデ調整である。

236-1SD220出土遺物 (Fig.32)

土師器

皿a (11) 復元口径11.8cm。底部回転ヘラ切り、他は摩滅し調整不明。

坏a (12~15) 12は底部が丸く不安定。13~15は体部と底部の境は若干丸味を帯びる。

甕 (16) 復元口径26.0cm。胎土は粗く3mm以下の白色砂粒を多く含み、内面明茶褐色、外面黒灰色を呈する。体部内面はヘラケズリ。口縁端部と外面は摩滅し調整不明。

黒色土器A類

椀c (17) 復元口径16.6cm。胎土は2mm以下の白色砂粒を含み、焼成は不良で内面にはミガキcが明瞭に残るが、外面は摩滅する。

236-1SD250出土遺物 (Fig.32)

土師器

小皿a (18) 復元口径10.2cm。内外面とも摩滅し調整不明。

灰釉陶器

椀×皿 (19) 三角形の高台を貼付し、復元高台径7.0cm。胎土は明灰色で精製され、体部内面に僅かに明灰緑色の釉を施し、内面底部は釉がなく平滑。外面は無釉で回転ナデ。

瓦類

瓦玉 (20) 大きさは2.5×2.3×1.7cm。

236-1SD260茶色土出土遺物 (Fig.32)

土師器

小皿a (21) 復元口径11.0cm。外面底部回転ヘラ切り。内面底部不定方向のナデ。

器台 (22) 脚部で外面にナデ痕跡を残す。

236-1SD260茶灰色土出土遺物 (Fig.32)

土師器

小皿a (23) 復元口径10.4cm。内外面とも摩滅し調整不明。

丸底坏a (24) 外面に指頭圧痕が残り、中位で僅かに屈曲し口縁部はやや薄く仕上げる。

236-1SD270出土遺物 (Fig.32)

土師器

小皿a (25) 小破片で、全面摩滅している。

黒色土器A類

椀c (26) 体部外面はヨコナデ。内面と外面底部は摩滅し調整不明。

236-1SD335暗茶色土出土遺物 (Fig.32)

緑釉陶器

椀 (27) 方形の高台を貼付し、高台畳付には僅かに段がある。内面底部に浅い沈線が巡る。内外面とも淡明緑色釉が薄く綺麗に掛かっている。須恵質。復元高台径8.9cm。

236-1SD335灰色土出土遺物 (Fig.32)

黒色土器A類

椀c (28) 口縁端部が僅かに外反する。内面ミガキcが残る。

井戸

236-1SE025暗灰色土出土遺物 (Fig.33)

須恵器

甕 (1) 二重口縁で、内面はカキ目、外面は回転ナデ。焼成良好、還元不良。

石製品

磨石 (2) 大きさ4.9×3.9×2.8cmの円球で、全面を磨り痕や敲打痕が残る。花崗岩。

236-1SE025灰褐色土出土遺物 (Fig.33)

須恵器

蓋3 (3) 復元口径14.8cm。外面上部はヘラケズリで平坦をなす。内面頂部ナデ、他は回転ナデ。口縁端部は僅かにつまみ出している。焼成・還元良好。

坏c (4) 底部端に高台を貼付する。焼成・還元良好。

土師器

坏a (5・6) 体部と底部の境が僅かに丸味を帯びる。5は外面黄白色、6は淡橙灰色を呈する。

黒色土器A類

椀c (7・8) 磨滅も目立ち、内面ミガキcだが単位不明瞭。7は外面下半ヘラケズリのような痕跡がある。

土製品

土玉 (9) 大きさは2.0×2.1×1.3cmで、色調は茶灰色で焼成は良好。表面ナデ調整。

236-1SE025暗灰色粘土出土遺物 (Fig.33)

土師器

坏a (10・11) 底部回転ヘラ切り。色調は茶灰色を呈する。10は内面に炭化物が付着。

黒色土器A類

椀c (12) 内面ミガキcだが、一部煤が厚く付着している。外面は回転ヘラケズリ。

236-1SE025茶灰色土出土遺物 (Fig.33)

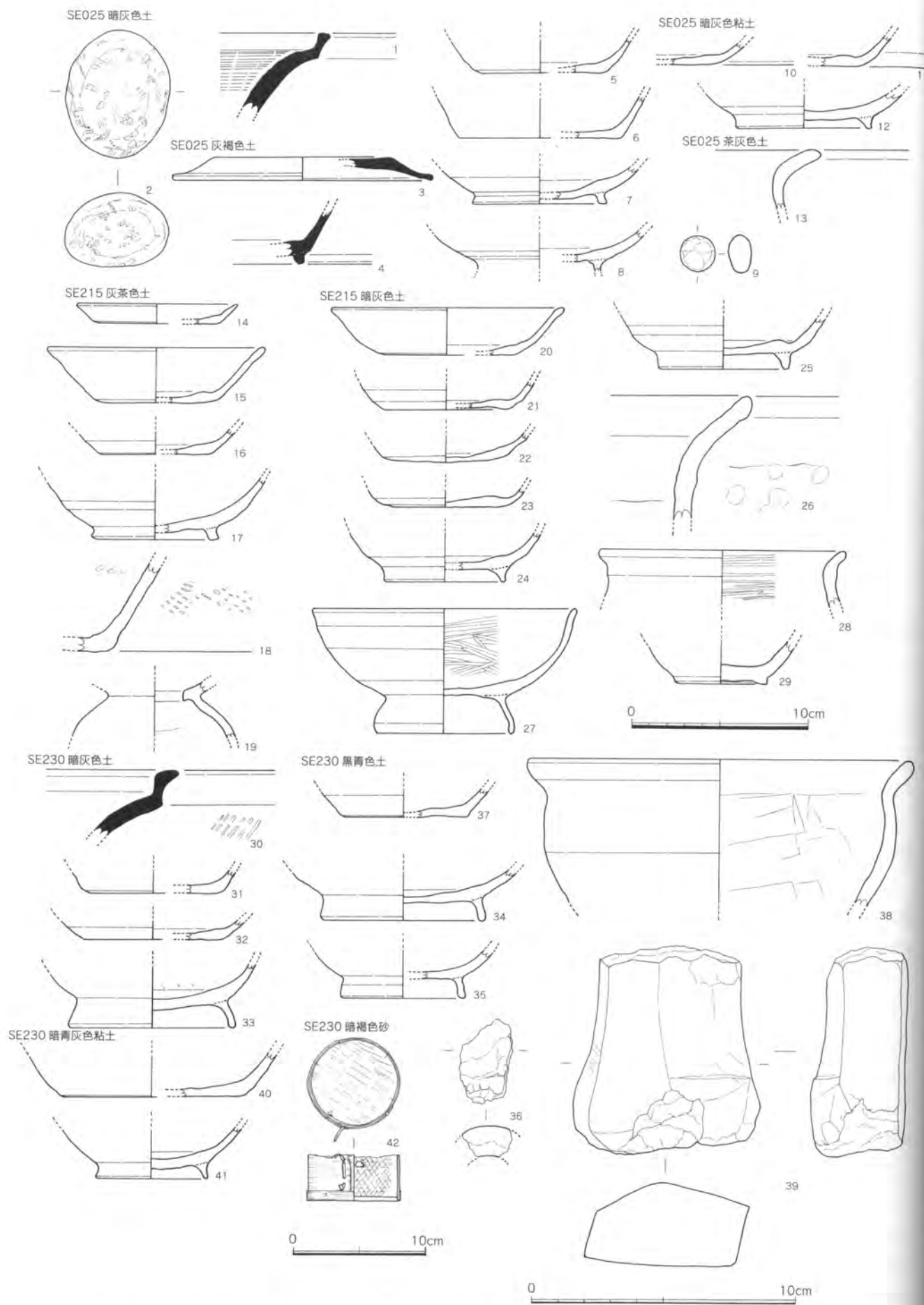


Fig.33 SE025・215・230出土遺物実測図 (1/3、2・39は1/2、42は1/8)

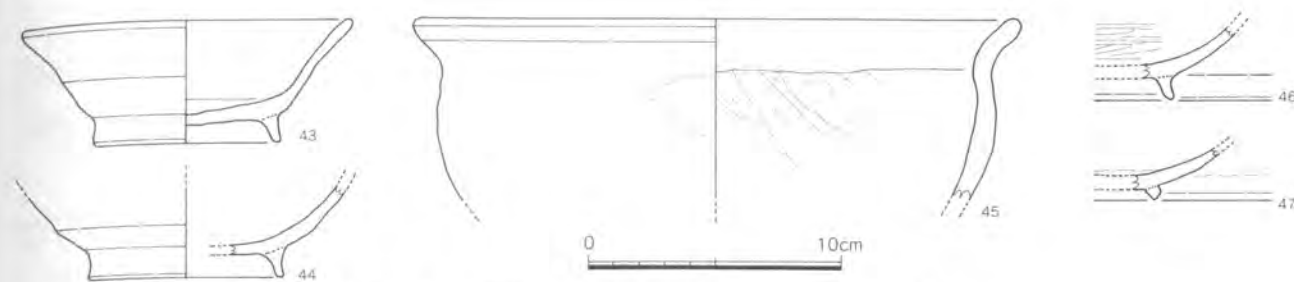


Fig.34 SE230暗青灰色土出土遺物実測図 (1/3)

土師器

甕 (13) 胎土は粗く、1mm以下の白色砂粒と角閃石を少量含む。焼成やや不良。外面ヨコナデ、その他は磨滅し不明。

236-1SE215灰茶色土出土遺物 (Fig.33)

土師器

小皿a (14) 復元口径9.1cm、底部回転ヘラ切り。

坏a (15・16) 底部回転ヘラ切り。色調は黄灰白色を呈する。15は復元口径12.3cm。

黒色土器A類

碗c (17) 復元高台径7.2cm。焼成は不良で、全体的に磨滅する。

朝鮮系無釉陶器

甕 (18) 胎土は精製され、外面暗灰褐色、内面暗灰色、断面茶色を呈する。体部外面は叩きの後ヨコナデ、内面ヨコナデで、当て具痕のようなものが残る。底部外面は未調整。

越州窯系青磁

唾壺 (19) 胎土は精製され、明橙灰色から灰白色を呈する。釉は淡灰緑色の透明釉で光沢があり、細かい貫入が入る。体部内面の上部が無釉。

236-1SE215暗灰色土出土遺物 (Fig.33)

土師器

坏a (20～23) 復元底径7.0～7.6cm。20は復元口径13.2cm。焼成は不良で黄灰白色を呈する。

碗c (24・25) 復元高台径6.8cmと7.4cm。

甕 (26) 胎土は砂粒を多く含む。焼成はやや瓦質気味になっている。口縁端部は内外面ヨコナデ、その他内面はナデ、外面は指頭圧痕が残る。内外面に粘土紐痕が残る。

黒色土器A類

碗c (27) 復元口径15.0cm。高い高台を貼付し、口縁端部を僅かに外反させる。内面ミガキc、外面は磨滅している。

小甕 (28) 胎土は1mm以下の砂粒を若干含む。色調は外面が灰色～茶褐色を呈する。内面はミガキc、外面には炭化物が付着する。

越州窯系青磁

小壺 (29) 復元高台径5.2cm。胎土は黒色粒を含むが精製され、灰白色や淡橙色を呈する。釉は明るい緑色で細かい貫入が入る。内外面施釉され、高台畳付は釉を拭き取っている。

236-1SE230暗灰色土出土遺物 (Fig.33)

須恵器

甕 (30) 色調は暗灰色を呈する。外面の一部に叩き痕が残る。内外面とも回転ナデ。

土師器

坏a (31・32) 底部回転ヘラ切り。復元底部径7.9cm。色調は全体として黄白色を呈する。
 碗c (33・34) 若干高い高台を貼付する。33は内面にコテ当て痕が残り、炭化物も付着する。色調は淡黄橙色を呈する。

黒色土器A類

碗c (35) 磨滅が目立ち、内面にはミガキ痕だけ残る。

土製品

輪羽口 (36) 胎土は4mm以下の砂粒と角閃石を含み、熱により表面は若干亀裂が入り暗灰色、灰褐色、茶灰色に変色する。断面も外側から暗灰色、淡赤灰色を呈する。

236-1SE230黒青色土出土遺物 (Fig.33)

土師器

坏a (37) 底部回転ヘラ切り。色調は茶灰色を呈する。

甕 (38) 復元口径22.0cm。胎土は3mm以下の白色砂粒を多く含み、色調は淡褐色や茶褐色を呈する。焼成不良で外面は磨滅し、体部内面はヘラケズリ。

石製品

砥石 (39) 大きさは7.9×6.3×3.6cmで、上下以外側面部分5面を使用している。砂岩製。

236-1SE230暗青灰色土出土遺物 (Fig.34)

土師器

碗c (43・44) 43は復元口径13.2cm。茶灰色を呈する。44は全体的に磨滅するが、内面にミガキのような痕跡もみられる。

甕 (45) 復元口径24.0cm。胎土は3mm以下の白色砂粒を多く含み、明茶褐色を呈する。体部内面は斜め方向のヘラケズリ、その他はヨコナデで、外面には炭化物が付着する。

黒色土器B類

碗c (46) 胎土は精製されている。焼成はやや不良で、内面はミガキが確認できる。

灰釉陶器

皿 (47) 胎土は灰色で、白色砂粒と黒色粒を含む。釉は灰緑色で、外面下半と内面底部は施釉されていない。

236-1SE230暗青灰色粘土出土遺物 (Fig.33)

土師器

坏a (40) 復元底径10.4cm、内面には炭化物が付着する。

碗c (41) 高台径6.4cm、底部内外面はナデ、その他はヨコナデ。

236-1SE230暗褐色砂出土遺物 (Fig.33)

木製品

曲物 (42) 潰れた状態で出土したが、底板を基準に復元図化した。径13.8×14.1cm、高さ7.0cm。下方にはタガを巡らせ、側板と底板は5ヶ所で留められていたみられる。

236-1SE300灰色粘土出土遺物 (Fig.35)

緑釉陶器

皿 (1) 復元高台径7.0cm。高台に僅かに段を有する。底部は糸切りのような痕跡も見える。胎土は淡橙灰色で精製されている。釉は明黄緑色で細かい貫入が入り、一部釉が剥げている。

236-1SE300褐色粘土出土遺物 (Fig.35)

土師器

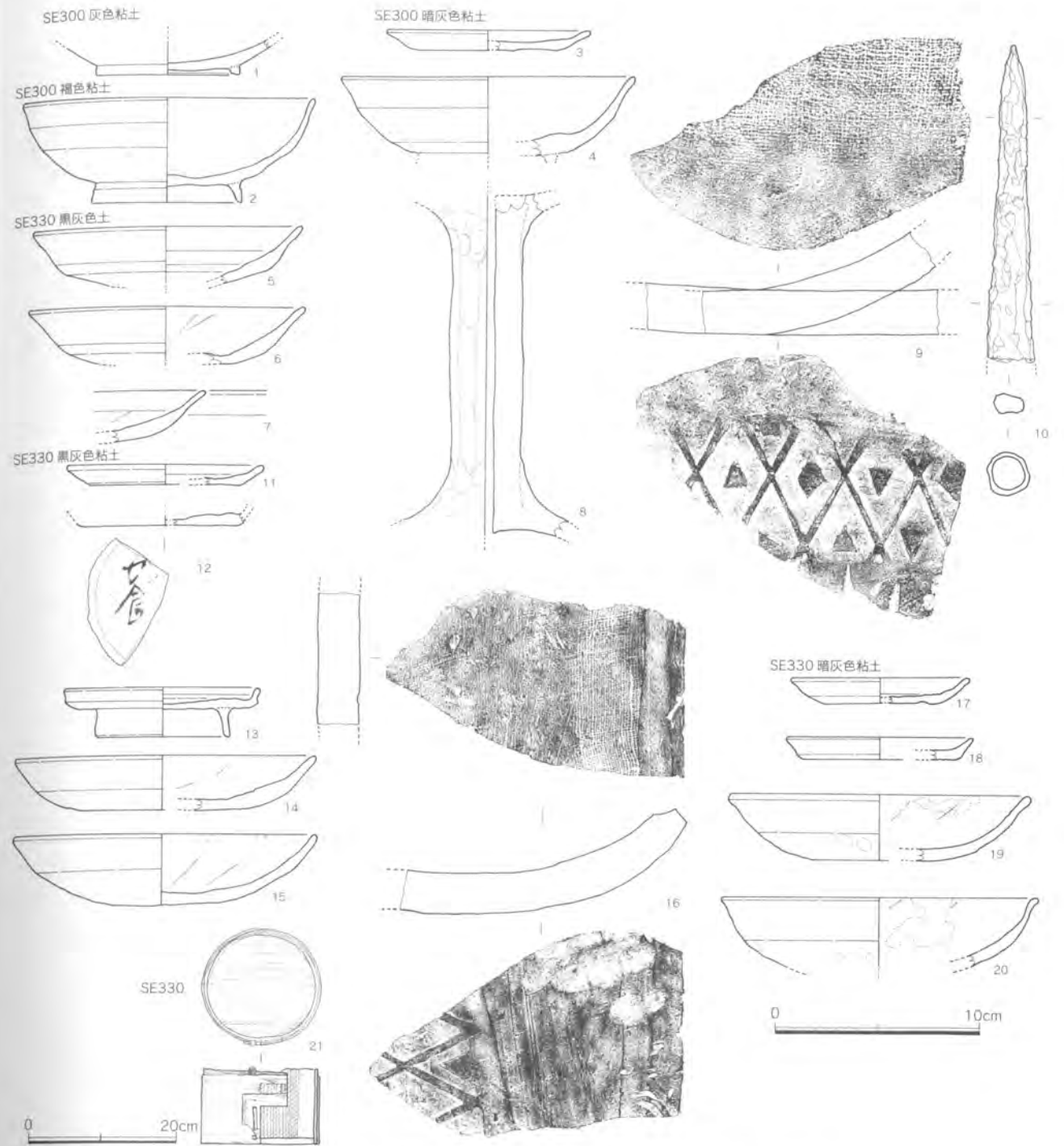


Fig.35 SE300・330出土遺物実測図 (1/4、21は1/8)

碗c (2) 復元口径14.4cm。高台部はヨコナデ、他は磨滅。口縁端部僅かに外反する。

236-1SE300暗灰色粘土出土遺物 (Fig.35)

土師器

小皿a (3) 復元口径10.0cm。底部回転ヘラ切り、内面底部ナデ。

碗c (4) 復元口径14.4cm。高台は欠損する。口縁端部僅かに外反する。

236-1SE330黒灰色土出土遺物 (Fig.35)

土師器

丸底坏a (5～7) 内面はミガキbで、底部はヨコナデ。体部中位が厚く、5・7は外面下半が回転ヘラ切り後ナデ、6は指押さえがみられる。

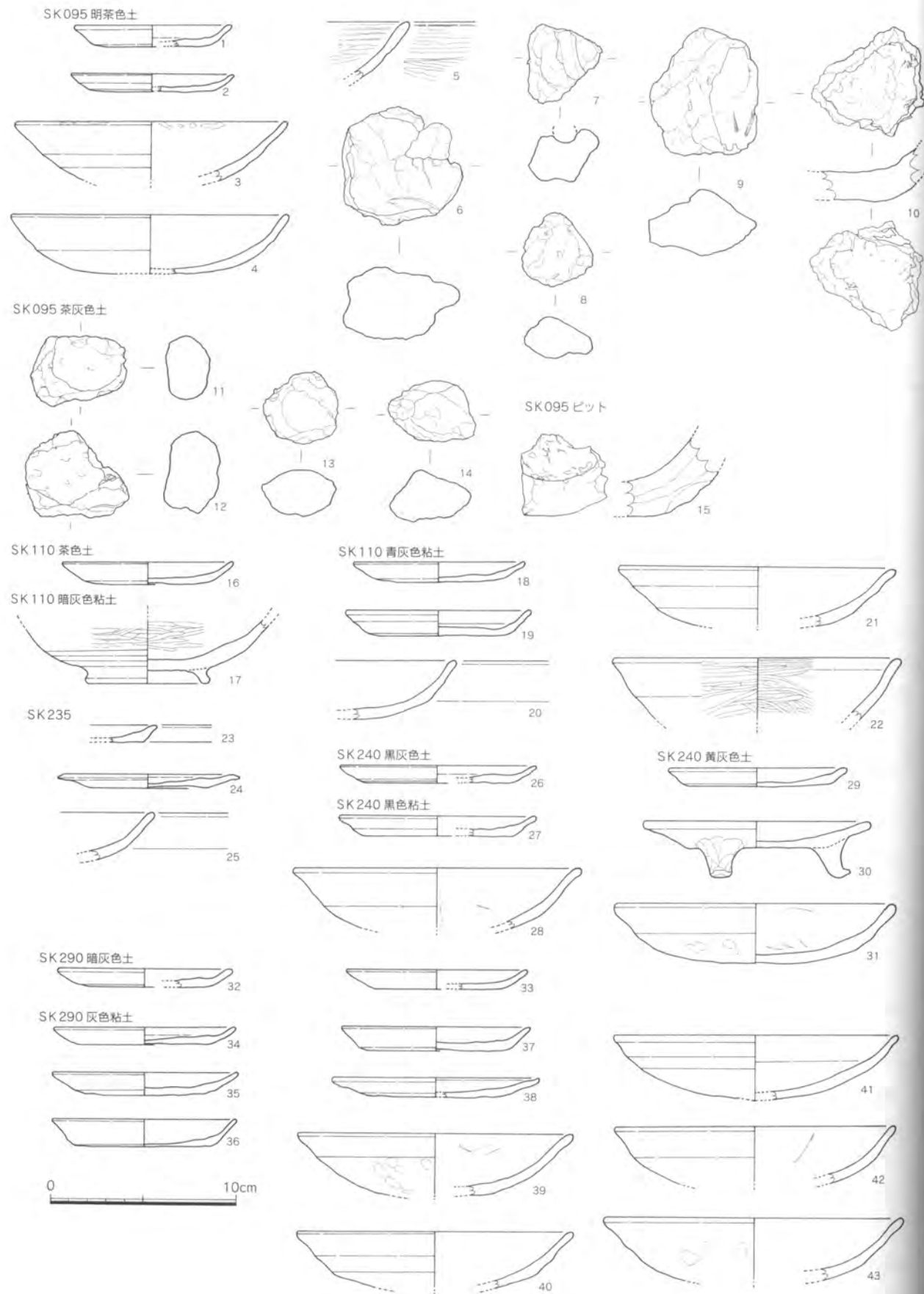


Fig.36 SK095・110・235・240・290出土遺物実測図 (1/3)

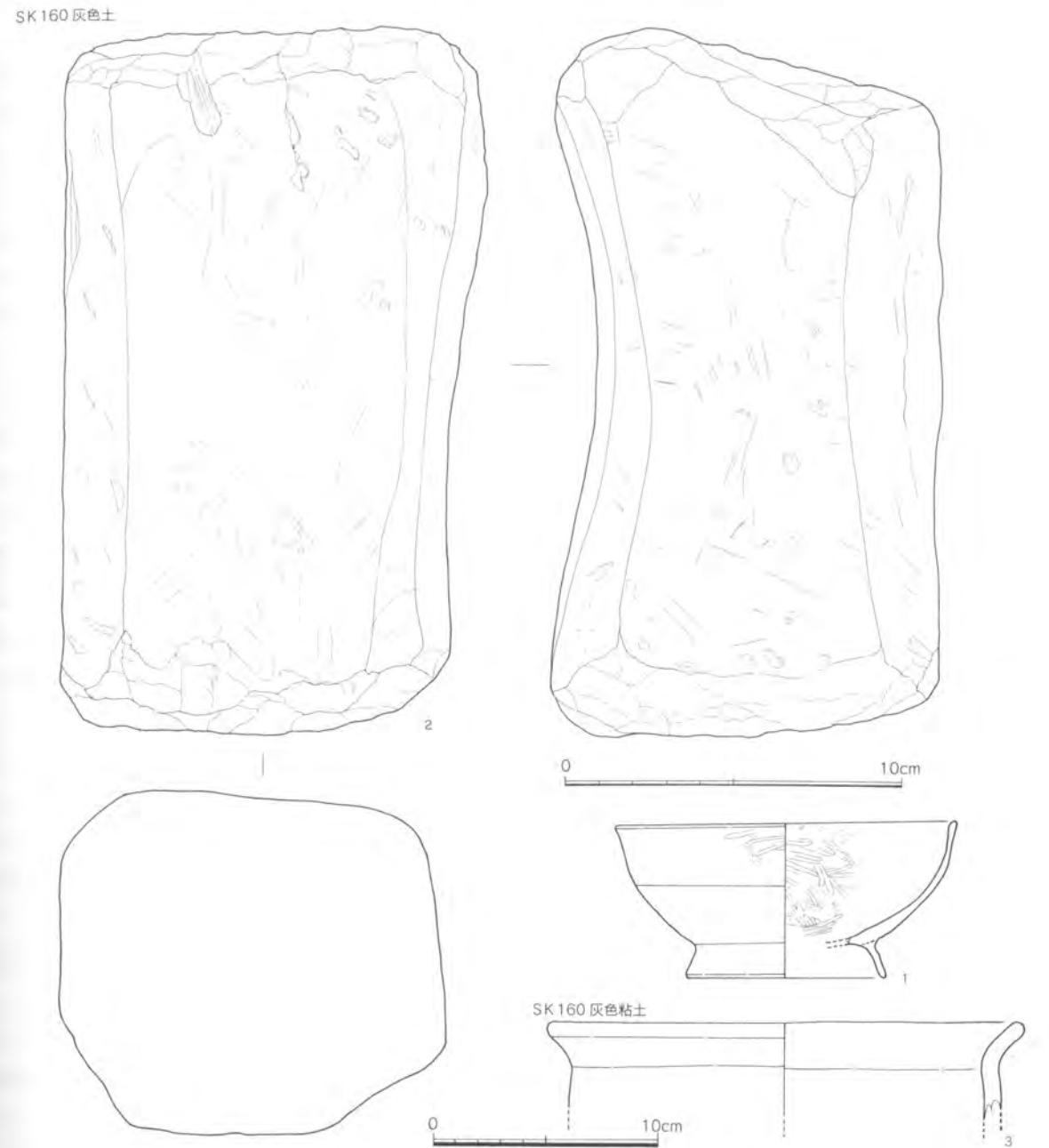


Fig.37 SK160出土遺物実測図 (1/3、2は1/2)

器台 (8) 外面縦方向のナデで、脚部両端が指押さえやナデである。

瓦類

平瓦 (9) 外面は大きな斜格子と三角形を組み合わせた叩きを施す。

金属製品

鉄矛(10) 長さ15.5cm、最大径2.35cmの円錐状をなす。表面は錆で覆われている。内部は筒状になっていて、木片が見つかった。

236-1SE330黒灰色粘土出土遺物 (Fig.35)

土師器

小皿a (11・12) 底部回転ヘラ切りで、12の底面には墨書があり、実測図のような2文字と記されているが、詳細は判別できない。

小皿c (13) 口径9.6cm、器高2.4cm。内面底部はナデ、外面底部は回転ヘラ切りと板状圧痕が残る。

丸底坏a (14・15) 内面ミガキbで当て具痕が残り、外面底部には板状圧痕が残る。

瓦類

平瓦 (16) 外面は大きな斜格子と三角形を組み合わせたの叩きとナデ調整。

236-1SE330暗灰色粘土出土遺物 (Fig.35)

土師器

小皿a (17・18) 17は底部回転ヘラ切り、18は底部糸切りである。

丸底坏a (19・20) 復元口径14.8cmと15.6cm。内面はミガキbで一部煤が付着する。

236-1SE330出土遺物 (Fig.35)

木製品

曲物 (21) 調査では側面が潰れた状態で出土したため、底板を基準に復元図化を行った径15.2×15.4cm、高さ9.9cm。側板は4ヶ所を木釘で留めていて、そのうち2本が残存する。側板の一部に方形孔と円孔が開けられている。口縁部の一部がすれて削られている。

土坑

236-1SK095明茶色土出土遺物 (Fig.36)

土師器

小皿a (1・2) 復元口径8.6cmと8.8cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a (3・4) 復元口径14.8cmと15.0cm。3は口縁部内面に炭化物が付着する。

瓦器

椀 (5) 胎土は精製され、内外面ともミガキcを施し、銀色味を帯びた暗灰色を呈する。

土製品

焼土塊 (6～9) 胎土は5mm以下の白色砂粒を多く含み、淡赤茶色～茶灰色を呈し、6には石が混ざっている。7には棒状痕跡が、9にはスサ痕が確認できる。

トリベ (10) 厚さ1.8cm程で、内面は灰色や暗灰色を呈し、部分的に黒色や青緑色の付着物がみられる。

236-1SK095茶灰色土出土遺物 (Fig.36)

土製品

焼土塊 (11～14) 胎土は5mm以下の白色砂粒を多く含み、スサ痕もみられる。色調は淡赤茶色～淡灰褐色を呈する。

236-1SK095ピット出土遺物 (Fig.36)

土製品

トリベ (15) 厚さ2.3cmほどで、内側から明灰色、暗灰色、茶白色、明灰色に変色する。内面は硬化し赤茶色や黒色の付着物がみられる。

236-1SK110茶色土出土遺物 (Fig.36)

土師器

小皿a (16) 復元口径9.2cm。外面底部に板状圧痕が残る。

236-1SK110暗灰色粘土出土遺物 (Fig.36)

黒色土器B類

椀c (17) 胎土は精製され、体部内外面はミガキで、体部下半は回転ヘラケズリ。

236-1SK110青灰色粘土出土遺物 (Fig.36)

土師器

小皿a (18・19) 復元口径9.2cmと10.0cm。底部回転ヘラ切り。19は内面不定方向のナデ。

丸底坏a (20・21) 内面ミガキb、外面下半は回転ヘラ切り痕が残る。

黒色土器B類

椀 (22) 復元口径15.6cm。内外面にミガキcを施す。

236-1SK160灰色土出土遺物 (Fig.37)

黒色土器A類

椀c (1) 口径15.2cm、器高6.7～6.95cm。内外面ともミガキcを施す。底部は欠損するが意図的打ち欠いた可能性もある。

石製品

砥石 (2) 大きさは21.1×12.5×10.2cm。側面を殆ど使用し、一部火を受け黒色に変色または煤が付着している。砂岩製。

236-1SK160灰色粘土出土遺物 (Fig.37)

土師器

甕 (3) 復元口径21.2cm。胎土は3mm以下の白色・茶色砂粒を多く含んでいる。内外面ヨコナデで、外面には煤が付着する。接合しないが同一個体とみられる長胴な体部片がある。

236-1SK235出土遺物 (Fig.36)

土師器

小皿a (23) 小破片である。内面ヨコナデ。

小皿a2 (24) 復元口径9.8cm、器高0.7cm。口縁端部に浅い沈線が巡る。

丸底坏 (25) 外面下半は回転ヘラ切り。その他は磨滅し不明。

236-1SK240黒灰色土出土遺物 (Fig.36)

土師器

小皿a (26) 復元口径10.6cm。底部回転ヘラ切り。

236-1SK240黒色粘土出土遺物 (Fig.36)

土師器

小皿a (27) 復元口径10.6cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏 (28) 復元口径15.4cm。内面ミガキb、外面上半はヨコナデ。

236-1SK240黄灰色土出土遺物 (Fig.36)

土師器

小皿a (29) 復元口径9.6cm。底部回転ヘラ切り。内面底部はナデ、その他はヨコナデ。

脚付小皿 (30) 復元口径12.2cm、器高3.0cm。脚部は三脚あったと推測される。底部回転ヘラ切り。内面底部は不定方向のナデ。色調は茶白色を呈する。

丸底坏a (31) 復元口径15.2cm、内面ミガキbでコテ当て痕も残る。外面下半に指頭圧痕や板状圧痕が残る。

236-1SK290暗灰色土出土遺物 (Fig.36)

土師器

小皿a (32・33) 復元口径9.4cmと9.8cm。底部回転ヘラ切り。

236-1SK290灰色粘土出土遺物 (Fig.36)

土師器

小皿a (34～37) 復元口径9.4～10.2cm。底部回転ヘラ切り。

小皿a2 (38) 復元口径11.2cm。口縁端部内面に僅かに段を巡らす。底部回転ヘラ切り。

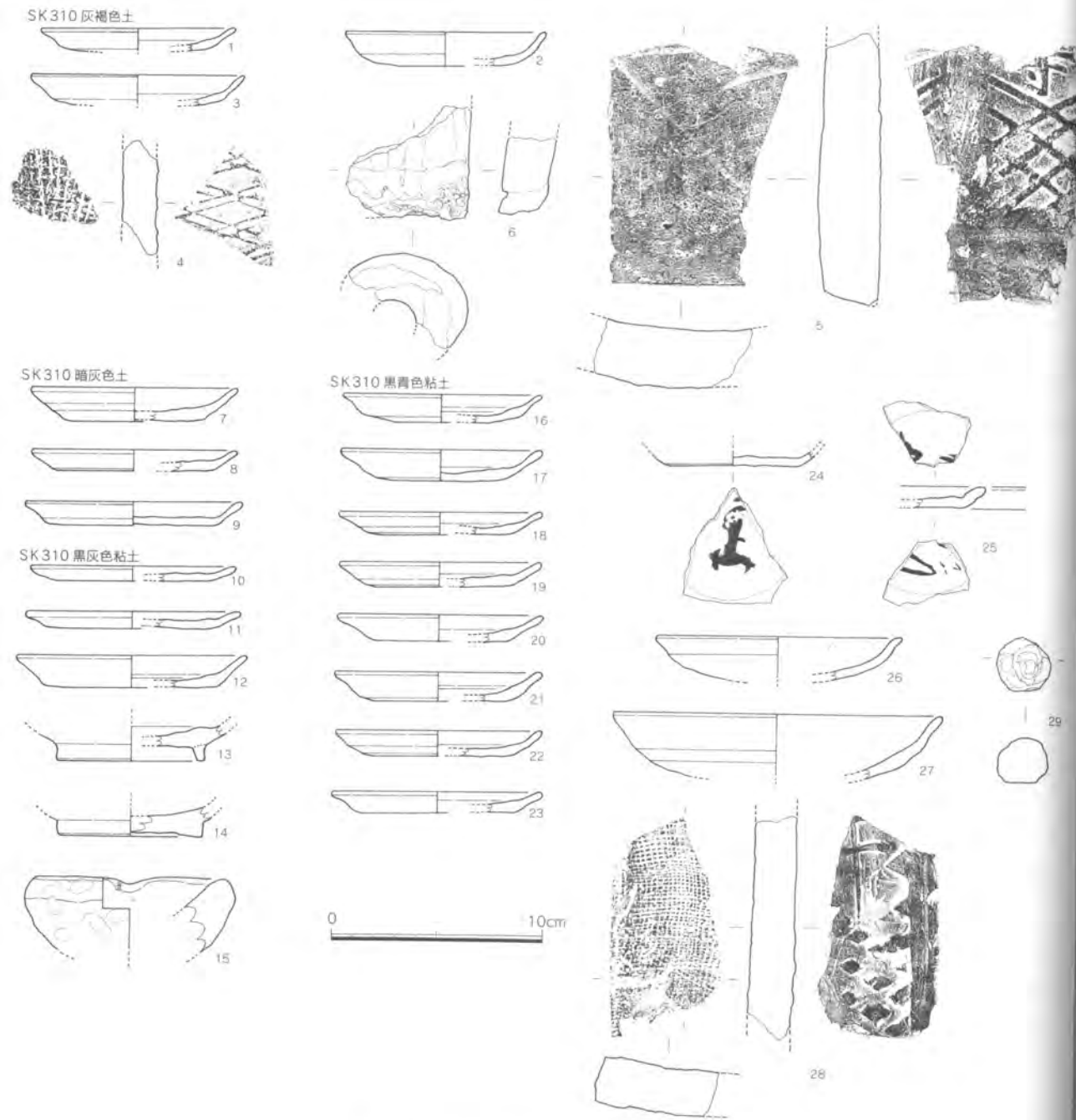


Fig.38 SK310出土遺物実測図 (1/3)

丸底坏a (39~43) 復元口径14.8~16.2cm。内面にコテ当て痕がみられる。

236-1SK310灰褐色土出土遺物 (Fig.38)

土師器

小皿a (1~3) 復元口径9.2~10.2cm。底部は回転ヘラ切り。

瓦類

平瓦 (4・5) 4は二重格子叩き。5は斜格子叩きに「安楽之寺」の一部である「寺」がみえる。

土製品

輪羽口 (6) 先端部で気泡が多数ある付着物 (鋳滓) があり、一部融解して黒色のガラス質や緑灰色をなしている。

236-1SK310暗灰色土出土遺物 (Fig.38)

土師器

小皿a (7~9) 復元口径9.8~10.4cm。底部回転ヘラ切り。

236-1SK310黒灰色粘土出土遺物 (Fig.38)

土師器

小皿a (10~12) 復元口径9.8~11.0cm。底部回転ヘラ切り。

碗c (13) 復元高台径7.0cm。

緑釉陶器

碗 (14) 高台削り出し。胎土は白色砂粒を若干含み、淡橙色~灰色を呈する。須恵質。釉は濁った緑灰色で薄く施釉する。高台内面は無釉でナデ、畳付は釉を拭き取っている。内面施釉。

土製品

トリベ (15) 復元口径10.0cm。口縁部に注ぎ口の窪みがある。内面は茶褐色・黒灰色・暗緑灰色の付着物がみられる。

236-1SK310黒青色粘土出土遺物 (Fig.38)

土師器

小皿a (16~25) 復元口径9.4~10.0cm。底部回転ヘラ切り。24は底部外面に墨書があり、薄い墨字と濃い墨字が重なっているが文字は判読できない。25も内外面底部に墨書があるが、破片のため詳細不明。

小丸底坏a (26) 復元口径11.6cm。内面ミガキb、外面下半回転ヘラ切り後ナデ調整。

丸底坏 (27) 復元口径15.6cm。内面ミガキb、外面下半は回転ヘラ切り後ナデ調整。

瓦類

平瓦 (28) 斜格子叩きが陰文で、「平井」の一部がみえる。

瓦玉 (29) 大きさ2.4×2.6cm、厚さ2.1cm。

236-1SK315出土遺物 (Fig.39)

須恵器

坏c (1・2) 1は焼成・還元やや不良。2は内面不定方向のナデ。

大碗c (3) 外面下半は回転ヘラケズリ、内面底部は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。

土師器

皿a (4) 復元口径19.6cm。胎土は白色砂粒を少量含み、色調は橙色を呈する。外面底部回転ヘラケズリ、内外面回転ヘラミガキだが、内面は磨滅している。

大皿a (5) 全体的に磨滅している。胎土は白色砂粒を少量含み、色調は橙色を呈する。

大皿c (6) 全体的に磨滅する。胎土は白色砂粒を少量含み、色調は橙灰色を呈する。

瓦類

平瓦 (7) 正格子に近い斜格子叩きを施す。

236-1SK315灰褐色土出土遺物 (Fig.39)

須恵器

皿a (8) 復元口径19.9cm。焼成・還元良好で淡灰色を呈する。外面底部ヘラ切り未調整、内面底部はナデで、やや研磨している。その他は回転ナデ。

土師器

甕 (9) 胎土は2.5mm以下の白色砂粒や金雲母を多く含み、淡茶白色を呈する。口縁部はヨコナデ、

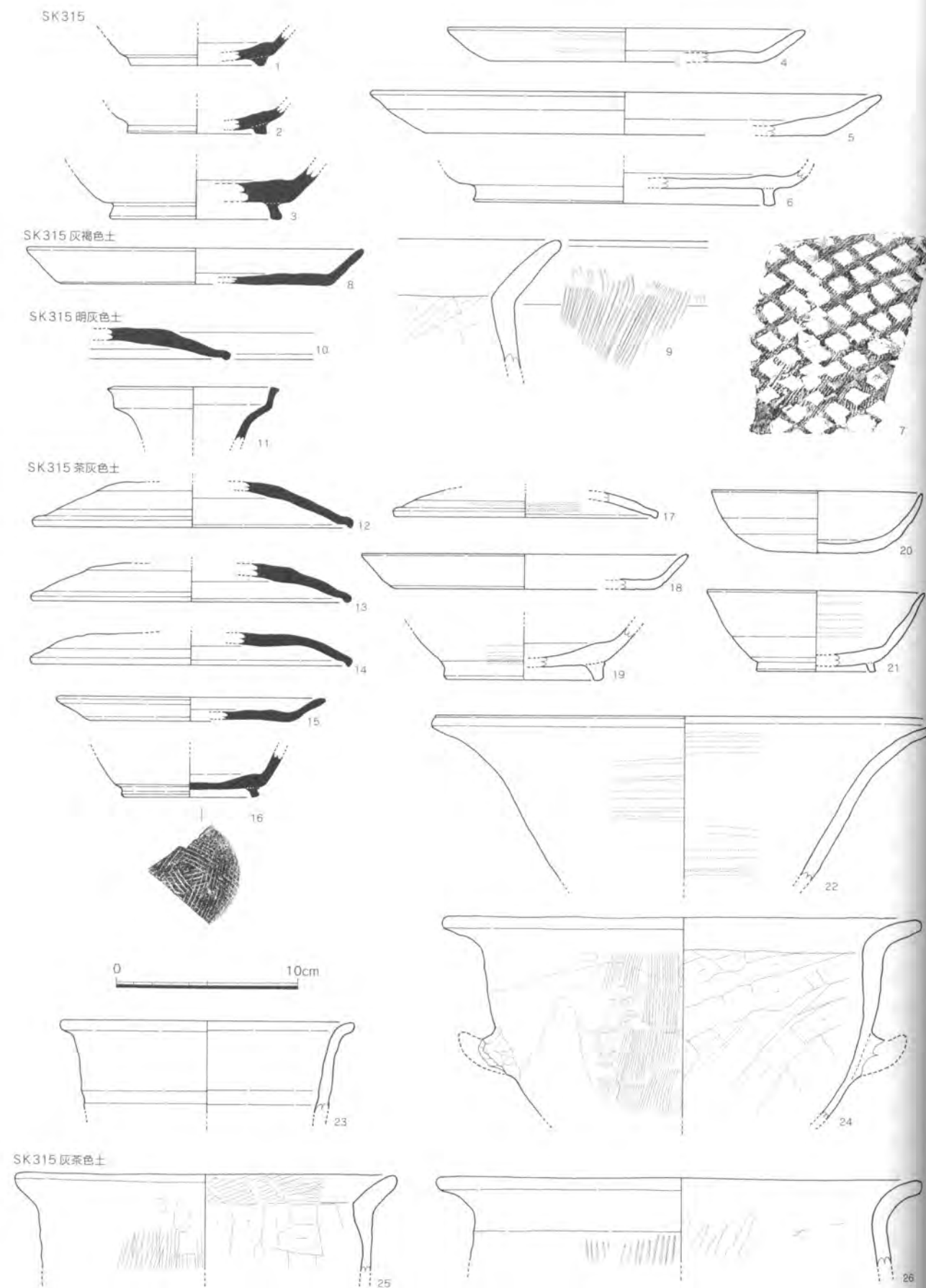


Fig.39 SK315出土遺物実測図 (1/3)

体部外面はタテハケ、体部内面はヘラケズリである。

236-1SK315明灰色土出土遺物 (Fig.39)

須恵器

蓋3 (10) 外面上半部は回転ヘラ切り後ナデ。内面上半部不定方向のナデ。他は回転ナデ。

広口壺 (11) 復元口径7.4cm。全面回転ナデで、外面には自然釉が掛かる。

236-1SK315茶灰色土出土遺物 (Fig.39)

須恵器

蓋3 (12~14) 復元口径は17.6~17.7cm。12・13は上半部が回転ヘラ切り後ナデ調整。14は外面上半部が回転ヘラ切り後ナデ、その他は回転ナデ。

皿a (15) 復元口径14.8cm。全面回転ナデだが、内面底部は滑らかになっている。

坏c (16) 外面底部はハケ調整されている。

土師器

蓋3 (17) 復元口径14.6cm、外面は回転ヘラ削りのあとミガキa、内面もミガキaが残る。

皿a (18) 復元口径17.9cm。色調は橙茶色を呈する。外面下半から底部は回転ヘラケズリ。

碗c (19) 胎土は白色砂粒や雲母を少量含み、焼成はやや不良で、淡灰茶色を呈する。外面に僅かにミガキaが残る。内面はヨコナデ。

坏d (20) 口径11.7cm。内面は磨滅。外面下半は回転ヘラケズリ、上半部はヨコナデ。

坏c (21) 内面はミガキaが残るが、外面は磨滅し、ミガキのような痕跡を残す程度である。その他はヨコナデ。色調は淡灰茶色を呈する。

鉢 (22) 復元口径28.0cm。口縁端部を僅かに上方に折り曲げる。胎土は若干白色砂粒が含まれるが精製され、橙灰色を呈する。内外面とも磨滅気味だが、回転ヘラミガキが確認できる。

甕 (23) 復元口径16.2cm。口縁部を外側に曲げる。胎土は白色砂粒を多く含み、橙茶色を呈する。内外面ともヨコナデ。

把手付甕 (24) 復元口径26.6cm。胎土はやや粗く3mm以下の白色砂粒を多く含む。口縁部はヨコナデ、体部内面はヘラケズリ、体部外面は粗いタテハケとナデで中位に炭化物が付着する。把手は破損しているがナデ調整。

236-1SK315灰茶色土出土遺物 (Fig.39)

土師器

甕 (25・26) 25は復元口径21.0cm。胎土は白色砂粒を多く含み、口縁部内面はヨコハケ、外面はヨコナデ、体部内面はヘラケズリ、外面はタテハケを施す。26は復元口径27.0cm。胎土には角閃石を少量含む。口縁部はヨコナデ、体部外面はぼんやりとタテハケが残る。体部内面はヨコナデとナデ調整である。

畑状遺構

236-1SX640

畑状遺構であるSX640は、調査時には溝として遺構番号を付して調査しているため、その遺構番号毎に報告する。

236-1SX026出土遺物 (Fig.40)

須恵器

坏c (1) 内面底部ナデ、その他は回転ナデ。焼成は良好で、色調は暗青灰色を呈する。

236-1SX036出土遺物 (Fig.40)

土師器

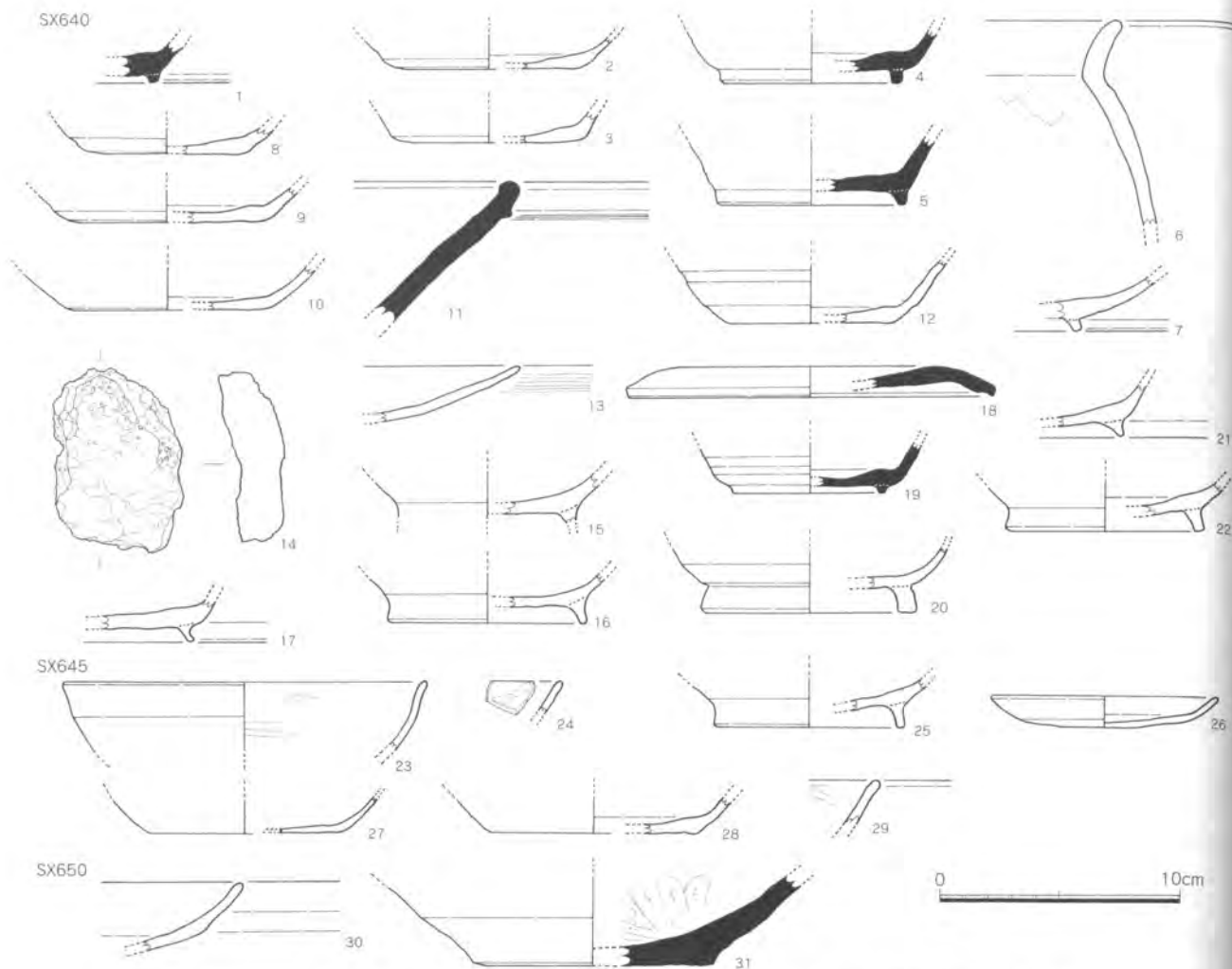


Fig.40 畑状遺構 (SX640・645・650) 出土遺物実測図 (1/3)

坏a (2・3) 復元底径7.6cmと8.1cm。全面磨滅している。

236-1SX058出土遺物 (Fig.40)

須恵器

坏c (4・5) 焼成は不良で灰白色を呈する。全体的に磨滅している。

土師器

甕 (6) 胎土は6mm以下の白色砂粒を多く含み、橙色を呈する。外面は磨滅、体部内面はヘラケズリ。

緑釉陶器

皿 (7) 全面施釉されているが、釉は殆ど剥落し、光沢だけが残っている。土師質。

236-1SX060出土遺物 (Fig.40)

土師器

坏a (8～10) 復元底径6.6～8.4cm。底部回転ヘラ切りとみられるが殆ど磨滅している。色調は8が橙灰色のほかは黄灰色を呈する。

236-1SX085出土遺物 (Fig.40)

須恵器

甕 (11) 口縁端部は若干肥厚させる。内外面とも回転ナデ。色調は黒灰色を呈する。

土師器

坏a (12) 復元底径6.8cm。色調は橙灰色で全面磨滅している。

緑釉陶器

皿 (13) 胎土は精製され、黄灰色を呈する。釉は淡い緑黄色を呈するが、殆どは剥落し、口縁端部外面にヘラミガキが残る。須恵質。

236-1SX086出土遺物 (Fig.40)

金属製品

鋳滓 (14) 橙灰色で部分的に暗灰色をなす。大きさは7.7×5.3cm、厚さ2.8cm。

236-1SX163出土遺物 (Fig.40)

黒色土器A類

碗c (15) 底部外面ナデ、外面ヨコナデ、内面は磨滅するがミガキか。

236-1SX187出土遺物 (Fig.40)

土師器

碗c (16) 復元高台径8.4cm。全面磨滅し調整不明。

236-1SX199出土遺物 (Fig.40)

土師器

碗c (17) 細く低い高台を貼付する。内外面磨滅し調整不明。

236-1SX204出土遺物 (Fig.40)

須恵器

蓋3 (18) 口縁端部は僅かに摘む程度。外面上半部は回転ヘラ切り後、一部ナデ調整。その他内面上部以外回転ナデ。

小坏c (19) 低い高台を貼付する。復元高台径6.4cm。底部外面回転ヘラ切りで板状圧痕残る。内外面回転ナデ。

土師器

碗c (20～22) 20は安定感のある高台で、底部は欠損していて意図的に打ち欠いた可能性も考えられる。21は内外面磨滅。22は磨滅しているが、部分的にヨコナデが見える。色調は淡橙色を呈する。

236-1SX645

236-1SX246出土遺物 (Fig.40)

黒色土器A類

碗 (23) 口縁端部を僅かに外反させる。摩滅が目立ち内面に僅かにミガキが残る。

緑釉陶器

碗 (24) 口縁端部の小破片で、胎土は茶灰色の土師質。内外面に明黄緑色の釉を施し、その上に緑彩を施す。

236-1SX342出土遺物 (Fig.40)

土師器

碗c (25) 復元高台径8.0cm。底部回転ヘラ切り、外面ヨコナデ、内面は磨滅する。

236-1SX378出土遺物 (Fig.40)

土師器

小皿a (26) 復元口径9.6cm。

236-1SX379出土遺物 (Fig.40)

土師器

坏a (27) 復元底径8.0cm。底部ヘラ切りか。内外面ヨコナデ。

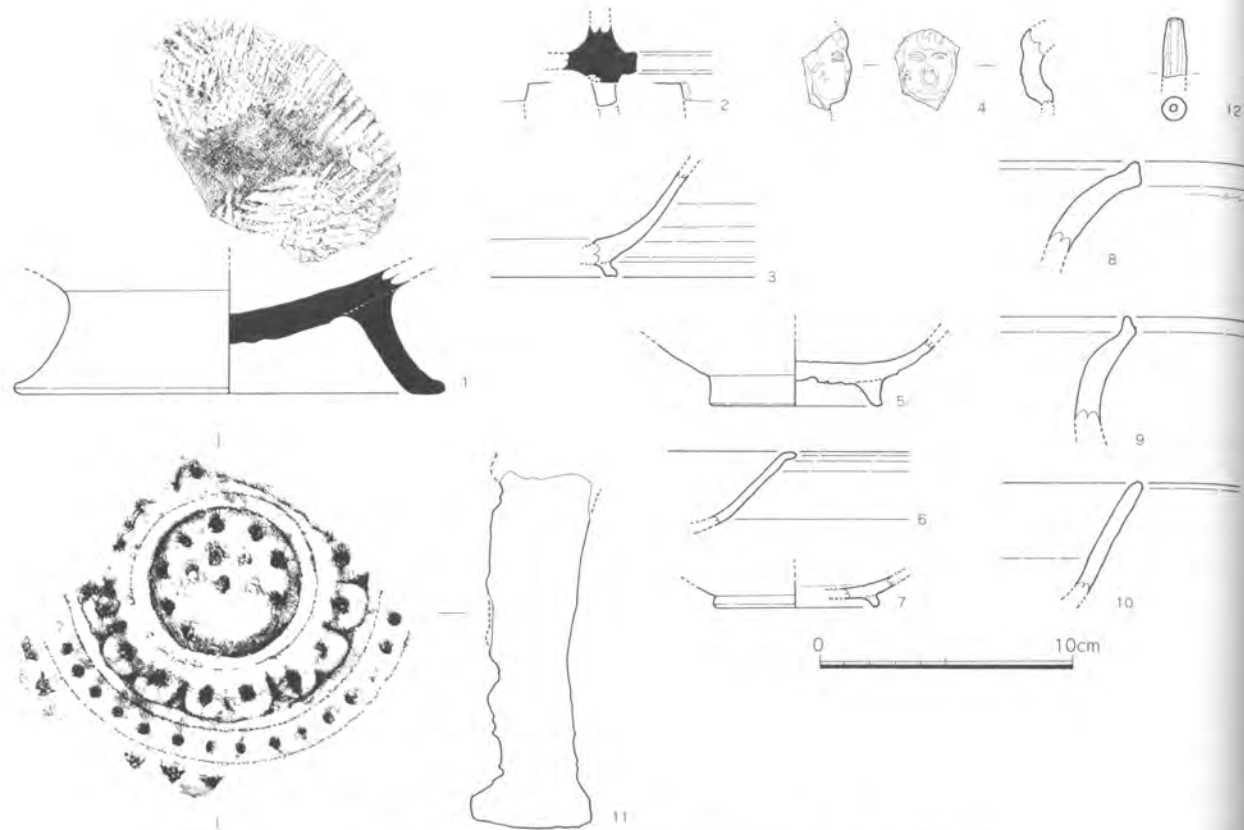


Fig.41 第1調査面その他の出土遺物実測図① (1/3)

236-1SX382出土遺物 (Fig.40)

土師器

坏a (28) 復元底径8.6cm。底部回転ヘラ切り。

黒色土器B類

椀 (29) 口縁端部で内面はミガキcが確認できるが、外面は不明瞭。

236-1SX650

236-1SX140出土遺物 (Fig.40)

土師器

丸底坏a (30) 体部中位で僅かに屈曲する。全面磨滅し調整不明。

須恵質土器

捏鉢 (31) 復元底径10.0cm。胎土は2mm以下の白色砂粒や茶色粒を多く含み、色調は紫色を帯びた明茶色を呈する。内面はタテや斜め方向のナデで、使用によって滑らかになっている。底部外面は回転糸切りとみられる。体部外面はヨコナデ。

第1調査面その他の出土遺物 (Fig.41・42)

須恵器

壺 (1) 外開きの高い高台を貼付し、外面には自然釉が掛かる。底部内面は当て具痕が残り、一部ナデ消している。底部外面は叩きの後ナデで、一部に自然釉が掛かる。S-551より出土。

円面硯 (2) 小破片で、透かし部分と形成する脚部の断面が欠損のままではなく、滑らかになっており、二次加工されたものとみられる。S-202より出土。

緑釉陶器

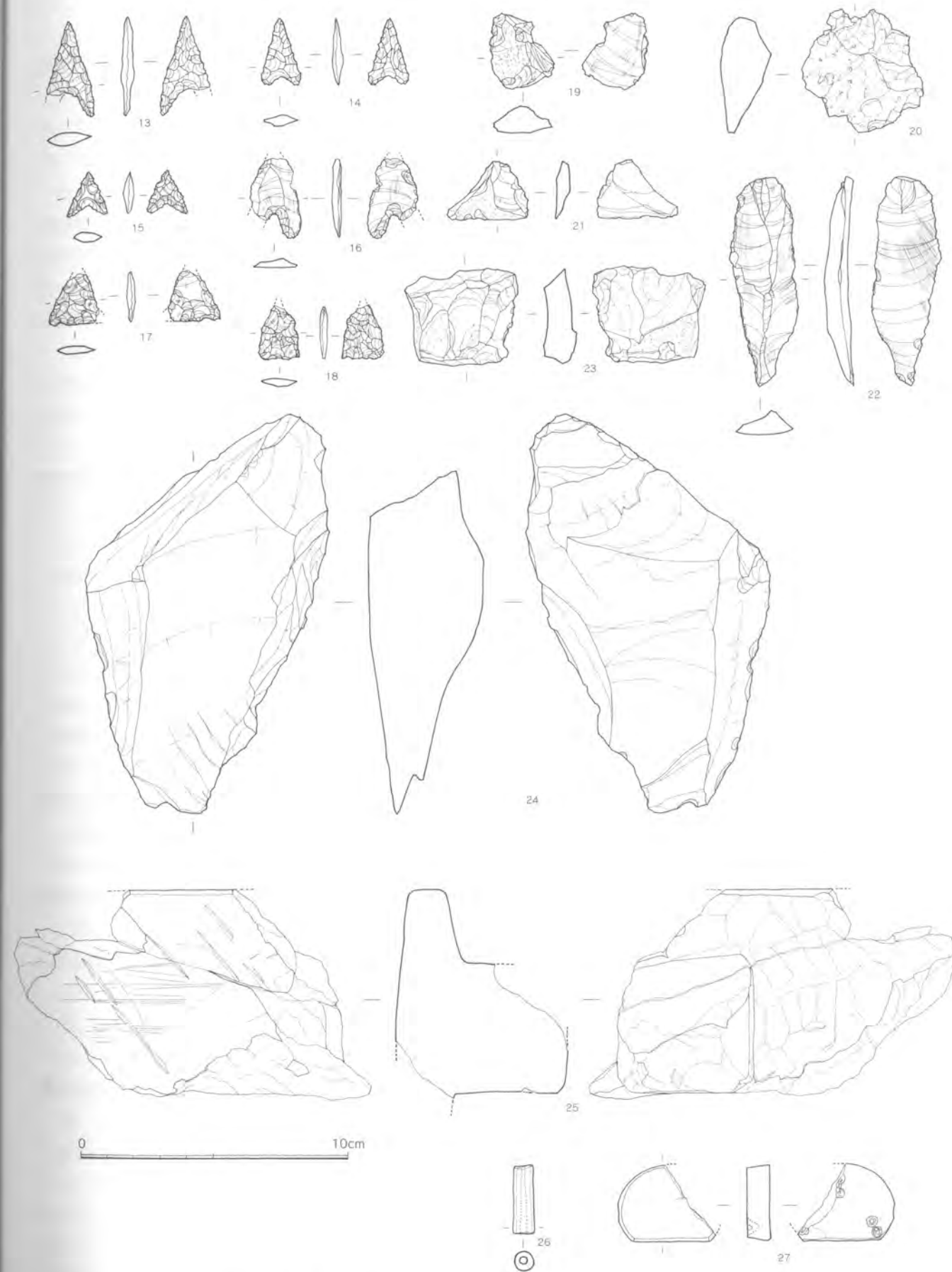


Fig.42 第1調査面その他の出土遺物実測図② (1/2)

碗(3) 内面底部には段を有する。胎土は黒茶色粒を少量含み、色調は淡灰色を呈し、全面に緑灰色の釉を薄く掛ける。須恵質。S-587より出土。

青白磁

燭台(4) 胎土は乳白色で水色味の透明釉で光沢がある。燭台の一部とみられる。S-77より出土。

灰釉陶器

碗(5・6) 5は高台径6.8cm。内面の上半部に緑灰色釉を掛け、まだらに残る。その他内外面は回転ナデで、内面底部は使用によって滑らかになっている。S-213より出土。6は胎土が灰色で、内面のみ淡灰緑色の釉が薄く掛かる。外面は回転ナデで、外面下半は回転ヘラケズリを施す。S-552より出土。

皿(7) 胎土は精製され灰白色を呈する。内面底部と高台付近は回転ナデで、体部上半部に灰緑色の釉が掛かる。S-402より出土。

壺(8・9) 2点とも外側に湾曲した後、口縁端部を上方に折り曲げている。8は内外面とも緑灰色の釉が掛かるが内面は殆ど剥落。S-55より出土。9は内面に灰緑色の釉が掛かる。外面は回転ナデで釉はない。小破片だがおよそ口径15cmである。S-333より出土。

鉢(10) 直線的に外反する。胎土は灰白色で、内外面とも回転ナデを施し、内面に光沢のある灰緑色釉を薄く掛ける。S-167より出土。

瓦類

軒丸瓦(11) 欠落部分も多いが、中房の蓮子は1+6+10とみられ、花卉は若干短い。S-537より出土。

土製品

土錘(12) 現存長2.3cm、径1.0cm。色調は淡茶灰色を呈する。S-351より出土。

石製品

石鏃(13~18) 13は長さ3.7cm、幅1.85cm、厚さ0.5cm。安山岩製。S-88より出土。14は長さ2.5cm、幅1.5cm、厚さ0.4cmで、全体的にやや風化している。安山岩製。S-5より出土。15は大きさが1.65cm、幅1.5cm、厚さ0.4cm。黒曜石製。S-150eより出土。16は先端を欠損し、現存長3.0cm、幅1.0cm、厚さ0.35cm。黒曜石製。S-164より出土。17は端部を欠損し、現存長1.9cm、幅1.9cm、厚さ0.3cm。S-46より出土。18は先端欠損する。現存長2.1cm、幅1.6cm、厚さ0.3cm。黒曜石製。S-187より出土。

剥片(19~22) 19~21は一部自然面が残る。19は黒曜石で、S-89より出土。20は玄武岩で、S-20暗灰色土より出土。21は安山岩で、S-110暗灰色粘土より出土。22は黒曜石の縦長剥片で長さ7.8cm、幅2.6cm、厚さ1.1cm。S-290茶褐色粘土より出土。

石核(23・24) 23は自然面も残るが、細かく剥離させている。大きさは3.7×4.3×1.2cm。安山岩製。S-392より出土。24は大きさ14.9×9.1cm、厚さ4.3cmの安山岩で、S-602より出土。

石鍋(25) 外面細かくケズリ整形する。内面には斜めにキズが入っている。S-401より出土。

管玉(26) 長さ3.6cm、径0.8cm。中央に0.2cm程の円孔を穿つ。S-5より出土。

石帯丸軛(27) 1/3ほど欠損しているが、現存長2.85×3.6cm、厚さ0.85cmで裏面に紐穴が3ヶ所彫られている。石材は黒灰色で粘板岩か。S-120より出土。

○第1調査面基盤層

236-1SX345出土遺物 (Fig.43)

土師器

小皿a(1~10) 完形が多く、口径9.1~10.0cm、器高0.9~1.7cm。確認できるものは全て底部回転ヘラ切りで、内面は不定方向のナデ。7は内面に煤が付着する。

皿a(11) 復元口径14.4cm、器高1.45cm。底部は回転ヘラ切り後ナデ。

丸底環a(12~22) 完形が多く、口径14.0~16.55cm、器高3.0~4.35cm。体部中位で僅かに屈曲し、その周辺に指頭圧痕を残すものもある。内面は摩滅も目立つが、ミガキbやコテ当て痕を残すものもある。16・22は内外面に煤が付着する。

器台(23) 脚部はナデだが、磨滅が著しい。脚部径約3.3cm。

緑釉陶器

碗×皿(24) 高台は2段で、復元高台径6.8cm。胎土は精製され、暗灰色を呈する。内外面ともやや濃い緑色の釉を施す。内面には浅い沈線が巡り、重ね焼きのハリ痕がみられる。須恵質。

236-1SX345暗灰色土出土遺物 (Fig.43)

土師器

小皿a(25) 復元口径11.2cm、器高1.0cm。底部には板状圧痕残るが、切り離し不明。

皿a(26) 復元口径14.0cm、底部はやや丸味を帯び、体部中位で屈曲し外反する。

環a(27~36) 復元口径12.5~14.0cm、器高3.1~4.2cm。底部内面は全て不定方向のナデ。色調は黄灰白色や淡灰色を呈する。体部と底部の境は僅かに丸味を帯びるが、29・30のように底部全体がやや丸味を帯びるものもある。27は体部の外反が小さい器形を呈する。

碗(37) 復元口径14.4cm、口縁端部を僅かに外反させる。内外面ともヨコナデ。

碗c(38) 方形の高台を貼付する。内外面ともヨコナデ、底部内面の一部はナデ。

丸底環a(39) 口径15.2cm、内面にはミガキbを、外面中位に指頭圧痕を残す。

小壺(40) 復元口径14.0cm。体部外面には煤が付着している。

黒色土器A類

碗(41・42) 口縁部はあまり内湾しない。内面ミガキ、外面回転ナデ。

緑釉陶器

碗(43) 底部は削り出し高台。白色砂粒を少量含み、明灰色を呈する。全面に灰緑色の釉が薄く掛かる。内面底部には浅い沈線が巡る。また、使用により若干研磨されている。須恵質。洛西産。

石製品

砥石(44) 4面研磨されていて、端部に0.4cm程の円孔を穿つ。長さ6.5cm、幅2.9×1.7cm。砂岩製。権として使用した可能性も考えられる。

236-1SX345黒茶色土出土遺物 (Fig.44)

土師器

小皿a(1~4) 口径9.15~9.6cm、器高0.8~1.1cm。底部回転ヘラ切り。

皿a(5) 復元口径14.7cm、器高1.8cm。底部回転ヘラ切り。

環a(6~10) 6は他と異なり時期が下るもので、中位に僅かな屈曲がある。体部と底部の境が9は明瞭に屈曲、その他3点は僅かに丸味を帯びる。色調は、全体として黄灰色を呈する。

碗c(11) 復元高台径9.0cm、底部外面はナデ。

灰釉陶器

皿(12・13) 12は復元口径16.8cm、器高2.9cm、復元高台径8.2cm。三日月状の高台を貼付する。胎土は白色砂粒を若干含むが精製され、明灰色を呈する。内面上半部のみに淡い灰緑色の釉を施す。内面下半はナデで、平滑になっている。外面は回転ナデ。K-90窯様式。13は胎土が白色砂粒を若干含むが精製され、灰白色を呈する。内面と口縁端部に淡灰緑色の釉を施す。外面は回転ナデ。

段皿(14) 胎土が白色砂粒を若干含むが精製されている。内面底部に段を有する。内面と外面の上

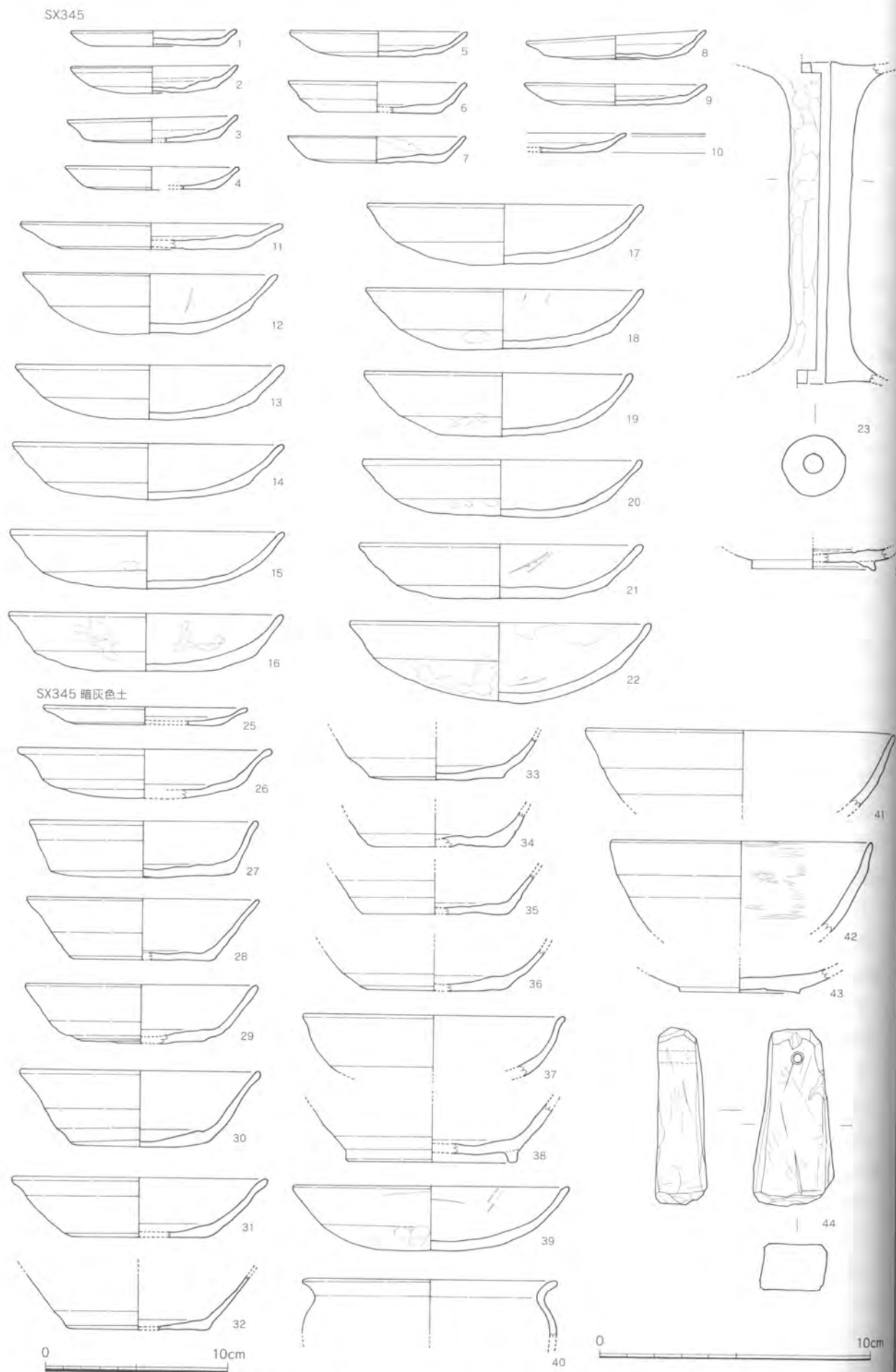


Fig.43 第1面基盤層(SX345・345暗灰色土)出土遺物実測図 (1/3、44は1/2)

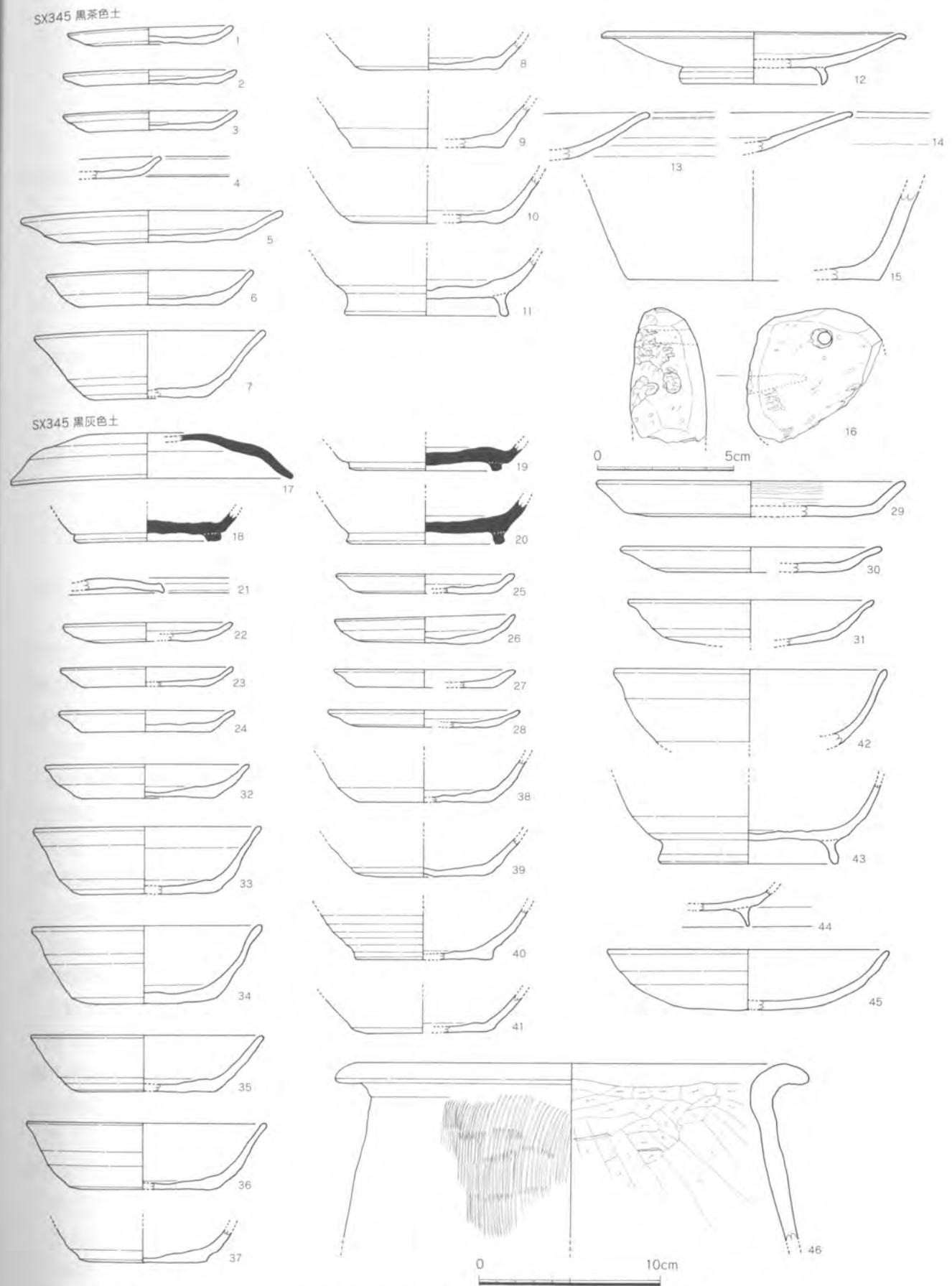


Fig.44 第1面基盤層(SX345黒灰色土)出土遺物実測図① (1/3、16は1/2)

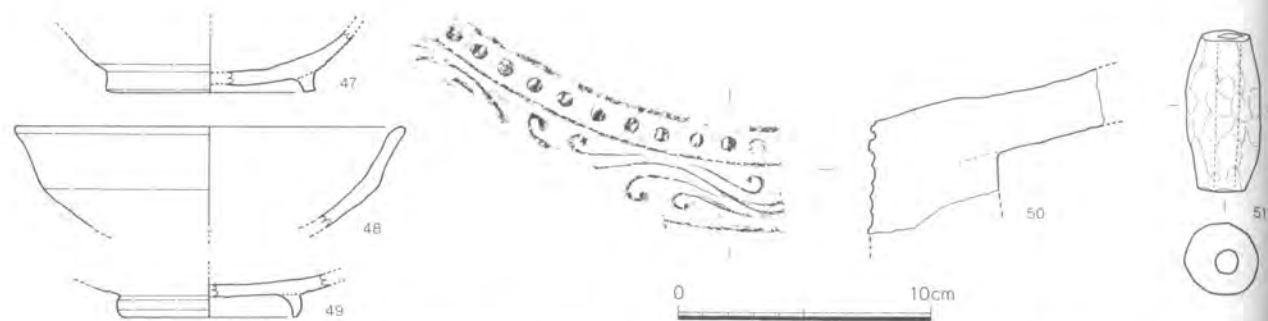


Fig.45 第1面基盤層(SX345黒灰色土)出土遺物実測図② (1/3)

半部に淡灰緑色の釉を施す。釉はハケ塗りとみられる。K14もしくはK90窯様式である。

土師質土器

鉢 (15) 復元底径14.0cm。0.1cm以下の砂粒を若干含み、外面淡橙茶色、内面淡灰褐色を呈する。内面と底部は磨滅するが外面は回転ヘラケズリが確認できる。

石製品

用途不明製品 (16) 石材は軽石で、径0.5cm程の円孔とそれと同じくらいだが貫通していない穴がある。表面も整形されているがその用途は不明である。現存長5.0×5.0cm、厚さ2.85cm。

236-1SX345黒灰色土出土遺物 (Fig.44・45)

須恵器

蓋4 (17) 外面は回転ヘラ切りの後回転ナデ。内面は回転ナデの後、上半部には一部不定方向のナデを施す。また、重ね焼き痕も残す。頂部にヘラ記号のようなものがある。

坏c (18～20) 復元高台径8.1～8.7cm。内面底部は不定方向のナデ。底部外面は回転ヘラ切りで板状圧痕を残す。

土師器

蓋3 (21) 外面は回転ヘラ切り後ナデ、内面はナデ調整。

小皿a (22～28) 口径9.4～10.6cm、器高0.9～1.4cm。底部は全て回転ヘラ切り。

皿a (29～31) 29は内面にミガキaを施し、外面底部は回転ヘラケズリ。30は底部回転ヘラ切り。31は底部回転ヘラ切りで、底部は若干丸味がある。

坏a (32～41) 復元口径12.8～13.6cm。体部と底部の境が、35は明瞭に屈曲し体部は直線的に外反する。40も屈曲するが、体部は丸味を帯びる。その他7点の体部と底部の境は僅かに丸味を帯びる。

碗 (42) 復元口径15.0cm。外面ヨコナデ調整。

碗c (43・44) 43は復元高台径9.9cm。内外面ヨコナデ、内面底部ナデ、底部外面は回転ヘラ切り後ナデ調整。44は全体的に磨滅し調整不明。

丸底坏a (45) 復元口径15.6cm。全体的に磨滅し調整不明。

甕 (46) 口縁部は若干肥厚し丸味を持って外反する。体部外面はタテハケ、内面はヘラケズリ。復元口径は26.0cm。

黒色土器A類

碗c (47) 方形の高台を貼付し、復元高台径8.2cm。内面磨滅するがミガキを施す。

黒色土器B類

碗 (48) 復元口径15.4cm。全体的に磨滅するが、内面はミガキ痕が確認できる。

灰釉陶器

皿 (49) 三日月状の丸味のある高台を貼付する。復元高台径7.2cm。胎土は若干粗く灰白色を呈する。

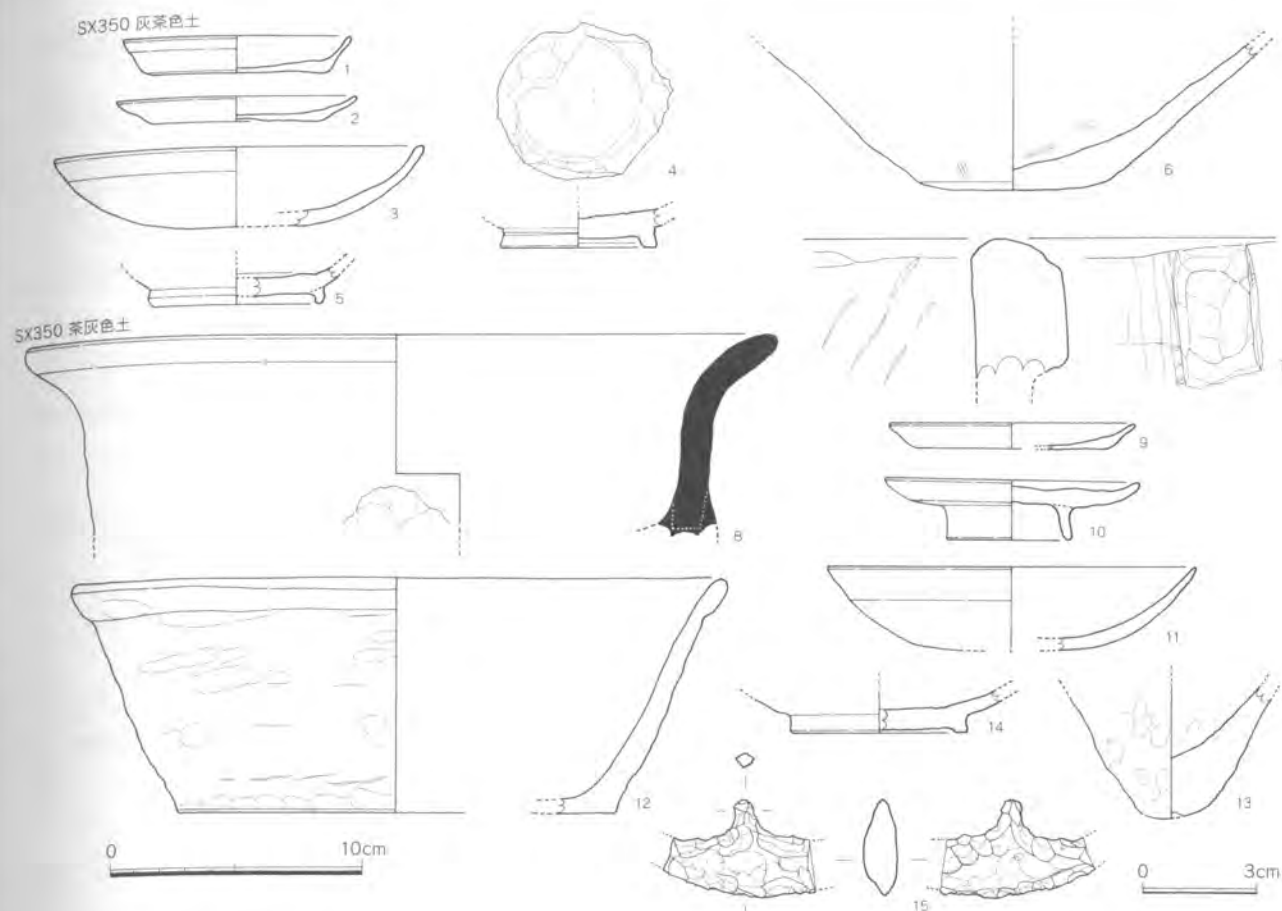


Fig.46 第1面基盤層(SX350)出土遺物実測図 (1/3、15は1/2)

釉は明灰緑色で、内面底部には釉がなく、平滑である。また、重ね焼き痕も残る。現存範囲では外面に釉はない。

瓦類

軒平瓦 (50) 左行きの偏行唐草文である。焼成はやや不良で、白灰色を呈する。

土製品

土錘 (51) 長さ6.4cm、径2.9×3.0cm。白色砂粒を多く含み、白灰色～暗茶灰色を呈する。

236-1SX350灰茶色土出土遺物 (Fig.46)

土師器

小皿a (1・2) 1は復元口径9.0cm、底部回転糸切り。2は磨滅し調整不明。

丸底坏a (3) 復元口径14.8cm、全体的に磨滅が目立つ。

緑釉陶器

碗 (4) 削り出し高台で復元高台径6.2cm。胎土は淡灰色～淡茶色の須恵質で、釉は光沢のある淡緑色で全体的に薄く掛かる。体部は意図的に打ち欠いたようにも見える。京都産。

灰釉陶器

碗 (5) 内面は僅かに浅い沈線が巡る。内面は沈線より上部に明灰緑色釉が薄く掛かり、その他は内外面とも露胎。復元高台径7.0cm。

弥生土器

壺 (6) やや丸い底部で内外面に僅かにハケ目が残る。胎土は茶灰色で、白色砂粒を多く含む。

石製品

石鍋 (7) 把手部分で、内外面削り出され、外面に煤が付着する。

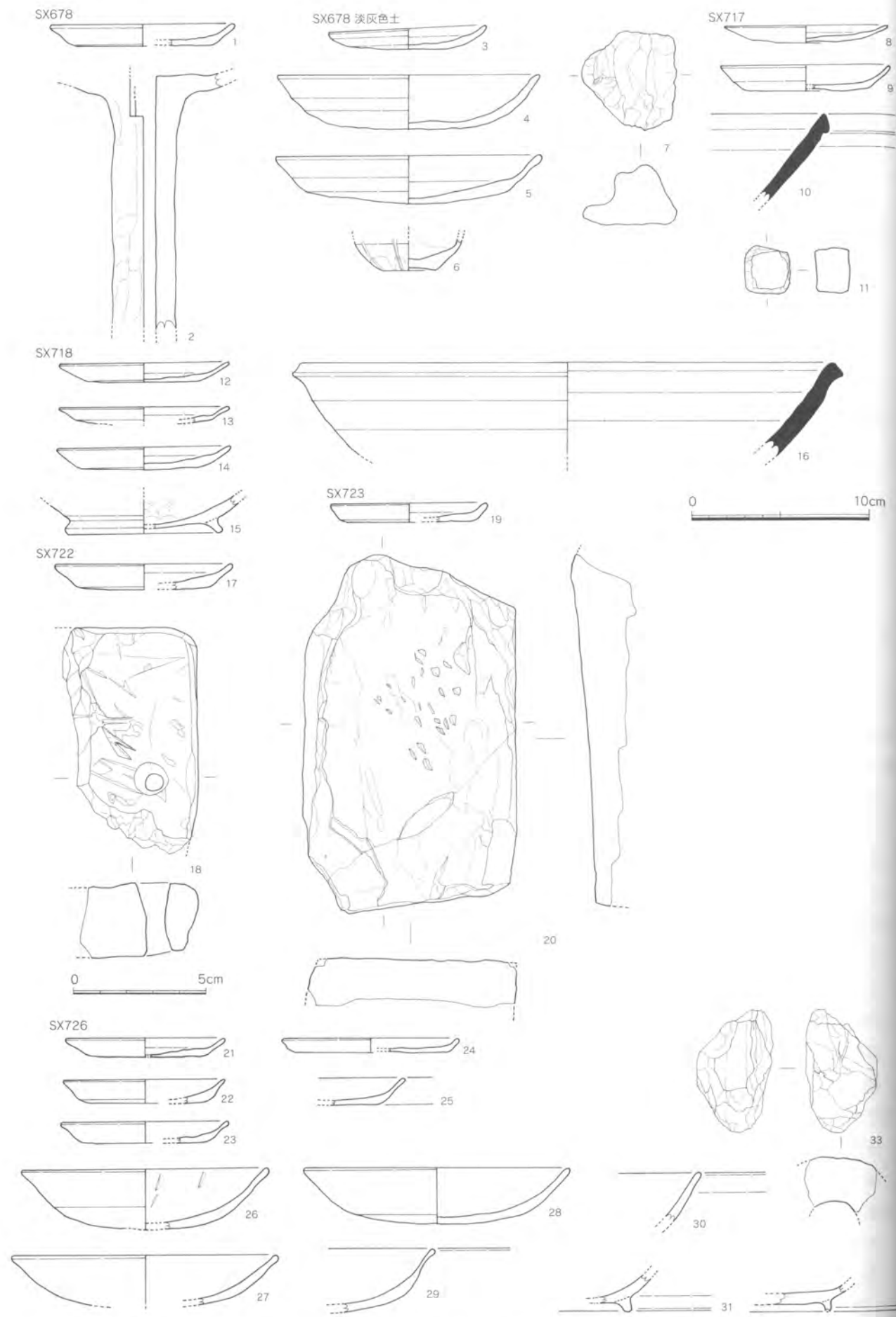


Fig.47 第1面基盤層(SX678・717・718・722・723・726)出土遺物実測図 (1/3、18・20は1/2)

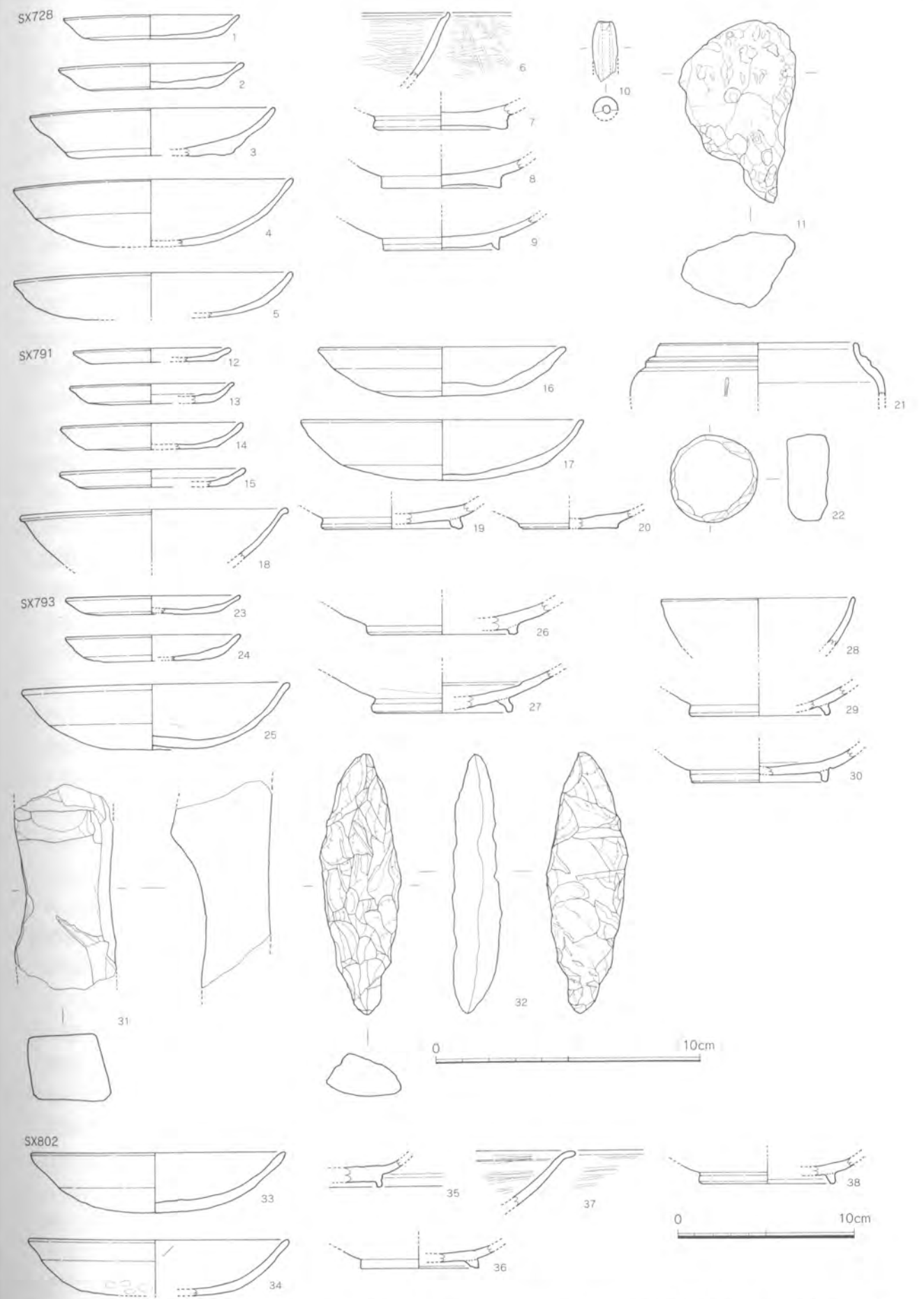


Fig.48 第1面基盤層(SX728・791・793・802)出土遺物実測図 (1/3、11・31・32は1/2)

236-1SX350茶灰色土出土遺物 (Fig.46)

須恵器

脚付盤(8) 復元口径30.0cm、口縁部を大きく外反させる。体部下半に脚部を貼付した痕跡を残す。内外面ヨコナデ調整。胎土は精製されているが、0.3cm以下の白色砂粒を多く含む。焼成・還元は良好で、色調は灰色～暗灰色を呈する。

土師器

小皿a(9) 復元口径9.8cm。外面底部には板状圧痕を残す。

小皿c(10) 口径10.0cm、器高2.4cm。焼成は不良で口縁端部は磨滅する。

丸底坏a(11) 復元口径14.6cm。全体的に磨滅する。

盤(12) 復元口径26.0cm、器高9.25cm、復元底径17.3cm。胎土は精製され、明橙灰色を呈し、焼成は不良。内外面ナデ調整で、外面下半に粘土紐痕跡を残す。

製塩土器

焼塩壺(13) 胎土は粗く白色砂粒を多く含む、赤褐色を呈する。内面はヘラ状工具痕があり、外面はナデ調整。

緑釉陶器

皿(14) 高台削り出しで、復元高台径7.0cm。胎土は精製され、灰色～淡灰褐色を呈する。釉は淡い灰緑色釉で、全面に薄く施し高台畳付は釉を拭き取る。底部外面には僅かに回転系切りが残り、内面には幅広の浅い沈線が巡る。また、内面は平滑である。須恵質。

石製品

石匙(15) 両端が欠損し、大きさは上下2.6cm、左右4.1cm、厚さ0.9cm。安山岩製。

236-1SX678出土遺物 (Fig.47)

土師器

小皿a(1) 復元口径10.4cm。底部回転ヘラ切り。

器台(2) 脚部径約3.5cm。脚部はナデ調整。

236-1SX678淡灰色土出土遺物 (Fig.47)

土師器

小皿a(3) 口径8.9cm。全面磨滅し調整不明。

丸底坏a(4・5) 4は復元口径14.8cm。外面底部に板状圧痕。5は復元口径15.0cm回転。底部回転ヘラ切り後ナデ調整。内面不定方向のナデ。

白磁

小壺(6) 底部は回転ヘラケズリで、径3.1cm。体部には縦沈線が6本ある。胎土は灰白色で、僅かに灰緑色味を帯びた透明釉を施す。細かい貫入が入る。外面底部は露胎、内面は底部のみ施釉。

土製品

焼土塊(7) 白色砂粒やスサを含む。棒状痕跡がみられる。

236-1SX717出土遺物 (Fig.47)

土師器

小皿a(8・9) 復元口径9.2cmと9.6cmで、外面底部に板状圧痕残る。

須恵質土器

鉢(10) 全面回転ナデで、淡青灰色を呈する。

瓦類

瓦玉(11) 大きさは2.1×2.3cm、厚さ2.0cm。格子叩きと布目痕が残る。

236-1SX718出土遺物 (Fig.47)

土師器

小皿a(12～14) 復元口径9.6～9.8cm、底部回転ヘラ切り。

黒色土器A類

椀c(15) 内面ミガキ、底部外面ナデ、体部は回転ナデである。

須恵質土器

鉢(16) 復元口径31.0cm。口縁端部を僅かに外反させる。胎土は白色砂粒や黒色粒を含み、色調は淡青灰色を呈する。内外面とも回転ナデ。

236-1SX722出土遺物 (Fig.47)

土師器

小皿a(17) 復元口径10.0cm。底部回転ヘラ切り。

石製品

滑石加工品(18) 側面の1/2が欠損して、残存部は削り面取りしている。また、径約1.3cmの円孔が穿たれている。大きさは8.0×4.7cm、厚さ2.75cm。表面にはキズが多く付いている。

236-1SX723出土遺物 (Fig.47)

土師器

小皿a(19) 復元口径8.8cm、器高1.05cm。底部回転ヘラ切り。

石製品

砥石(20) 大きさは13.5×8.0×2.0cm。残存する側面は面取りされている。使用面は1面で、小刻みなキズが付いている。

236-1SX726出土遺物 (Fig.47)

土師器

小皿a(21～25) 復元口径9.0～10.0cm、器高0.8～1.3cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a(26～29) 復元口径14.0～15.0cm、体部中位の屈曲は少ない。

緑釉陶器

椀(30・31) 30は須恵質で灰緑色釉を全面に薄く施釉する。31は須恵質で、内面と体部外面は灰緑色釉を全面に薄く施釉するが外面は殆ど剥落する。底部外面は露胎である。

灰釉陶器

皿(32) 胎土は淡灰色で、内面のみ灰緑色釉を薄く施釉するが、殆ど剥落する。

土製品

輪羽口(33) 胎土は白色砂粒や赤褐色粒を多く含む。内外面磨滅する。外面は黄灰色、黒灰色、灰白色に変色する。

236-1SX728出土遺物 (Fig.48)

土師器

小皿a(1・2) 復元口径10.0cmと10.6cm。底部回転ヘラ切り。

坏a(3) 復元口径14.0cm、内外面とも磨滅している。口縁部は歪んでいる。

丸底坏a(4・5) 体部に屈曲なく丸味を持っている。全面磨滅している。

黒色土器B類

椀(6) 口縁端部内面に僅かに段差を付ける。内外面にミガキcを施す。

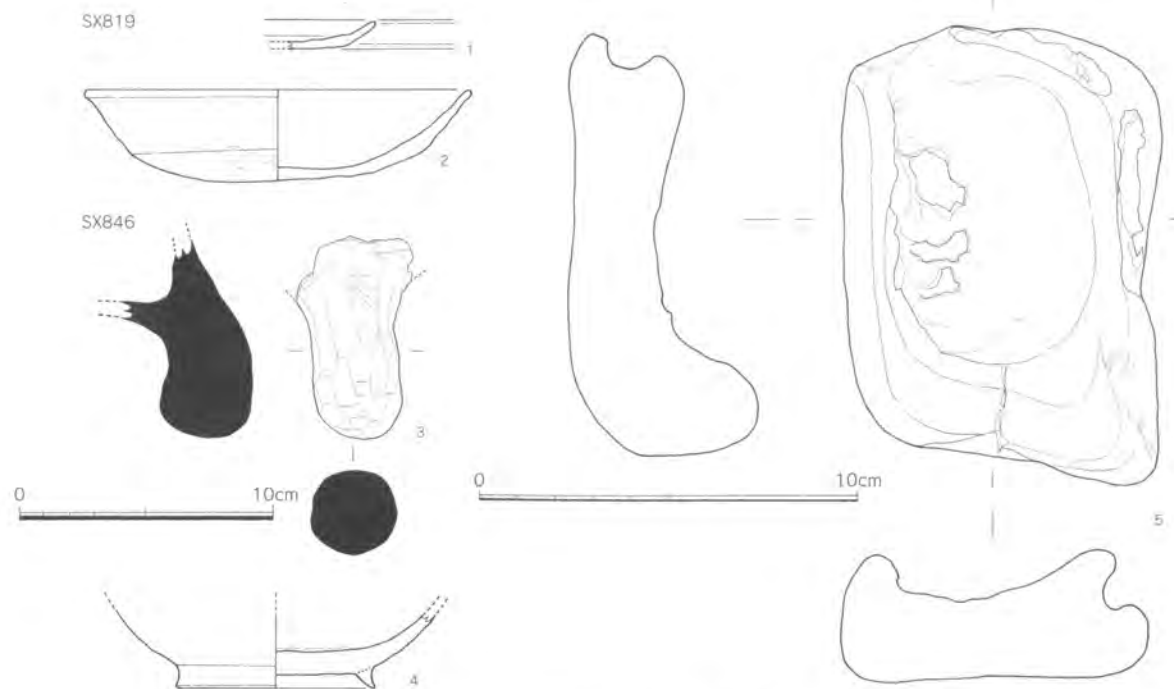


Fig.49 第1面基盤層(SX819・846)出土遺物実測図(1/3、5は1/2)

緑釉陶器

碗×皿(7~9) 7は削り出し高台で、内面に緑黄灰色の釉を施すが、所々剥落している。胎土は淡橙色の土師質である。復元底径7.6cm。京都産。8は削り出し高台で、内面は薄く施釉されているが、剥落も目立つ。須恵質。復元高台径6.8cm。洛西産。9は削り出し高台とみられる。外面底部は露胎で、内外面は緑黄灰色の釉をととも薄く施す。復元高台径6.6cm。

土製品

土錘(10) 一部欠損するが、現存長3.5cm、径1.4cm。焼成は不良で茶褐色を呈する。

石製品

軽石(11) 大きさは6.95×4.4×2.9cm。

236-1SX791出土遺物 (Fig.48)

土師器

小皿a(12~15) 復元口径9.0~10.6cm。磨滅も目立つが、底部回転ヘラ切り。

丸底坏a(16・17) 復元口径14.0cmと16.0cm。磨滅し調整不明瞭。

緑釉陶器

碗(18・19) 18は復元口径15.4cm、口縁端部を折り曲げる。胎土は黄白色の土師質で、内外面に点々と淡い黄緑色の釉が残っている。19は復元高台径8.0cm、胎土は暗灰色の須恵質で、全面にうっすら淡い緑灰色の釉が残る。

碗×皿(20) 復元底径5.6cm。胎土は黄白色の土師質で、内面のみ淡黄緑色の釉が部分的に剥落した状態で残る。底部外面は回転糸切り。

越州窯系青磁

壺(21) 復元口径10.3cm。短い頸部で、頸部下に凸帯が巡る。体部に窠押縦線を施す。胎土は淡灰色で精製され、釉は淡緑灰色でI類系の質である。

瓦類

瓦玉(22) 大きさは4.9×4.9×2.4cm。側面を打ち欠く。片面にナデが残る。

236-1SX793出土遺物 (Fig.48)

土師器

小皿a(23・24) 2点とも復元口径10.0cm。

丸底坏a(25) 復元口径10.0cm、磨滅が目立つが内面にコテ当て痕が僅かに残る。

緑釉陶器

碗×皿(26) 胎土は淡灰色の須恵質で、内外面に淡緑灰色の釉を施す。復元高台径8.6cm。

灰釉陶器

段皿(27) 復元高台径8.0cm。内面は淡緑灰色の釉を施し、重ね焼き痕を残す。外面下半には殆ど釉はない。

碗(28~30) 28は復元口径11.0cm。胎土が淡灰色で精製されている。釉は全く残っていない。29は胎土が白灰色で、釉は全く残っていない。内面は平滑である。復元高台径8.0cm。30は胎土が淡灰色を呈し、釉は全く残っていない。内面は平滑である。復元高台径7.8cm。

石製品

砥石(31) 大きさは7.85×4.1×3.8cmの長方形で、4面使用している。

三稜尖頭器(32) 縦9.85cm、横3.0cm、厚さ1.6cm。全面風化が目立ち、細かい剥離状況がわかりづらい状態である。安山岩製。

236-1SX802出土遺物 (Fig.48)

土師器

丸底坏a(33・34) 33は磨滅が目立つ。34は内面コテ当て、外面下半に指頭圧痕残る。

緑釉陶器

碗×皿(35・36) 35は高台削り出しで、内面には浅い沈線を巡らす。胎土は微細な白色砂粒を含むが精製されている。焼成は須恵質で、黄色味を帯びた暗緑色の釉を内外面に施す。畳付は釉を拭き取っている。36は内面に浅い沈線を巡らす。胎土は微細な白色砂粒を含むが精製され、焼成は須恵質で、明緑色の釉を内外面に施す。復元高台径6.6cm。

碗(37) 胎土は明灰色でやや粗く、焼成は須恵質。釉は淡い黄緑色を呈する。

灰釉陶器

碗×皿(38) 胎土は灰白色で、微細な白色砂粒を若干含む。残存部分に釉は確認できない。復元高台径7.8cm。

236-1SX819出土遺物 (Fig.49)

土師器

小皿a(1) 底部回転ヘラ切り。

丸底坏a(2) 口径15.3cm。外面下半は回転ヘラ切り後ナデで、指頭圧痕も残る。

236-1SX846出土遺物 (Fig.49)

須恵器

脚(3) 盤のようなものから剥落した痕跡が窺える。胎土は0.1cm以下の白色砂粒を少量含み、焼成は良好で灰白色を呈する。全面ナデ調整。

灰釉陶器

碗(4) 復元高台径7.8cm。胎土は白色砂粒を若干含み灰色を呈する。内面上部のみ淡い灰緑色釉が施釉されているが、斑になっている。内面底部は露胎で回転ナデ、外面は回転ナデ、底部は回転糸切り後回転ナデ調整。

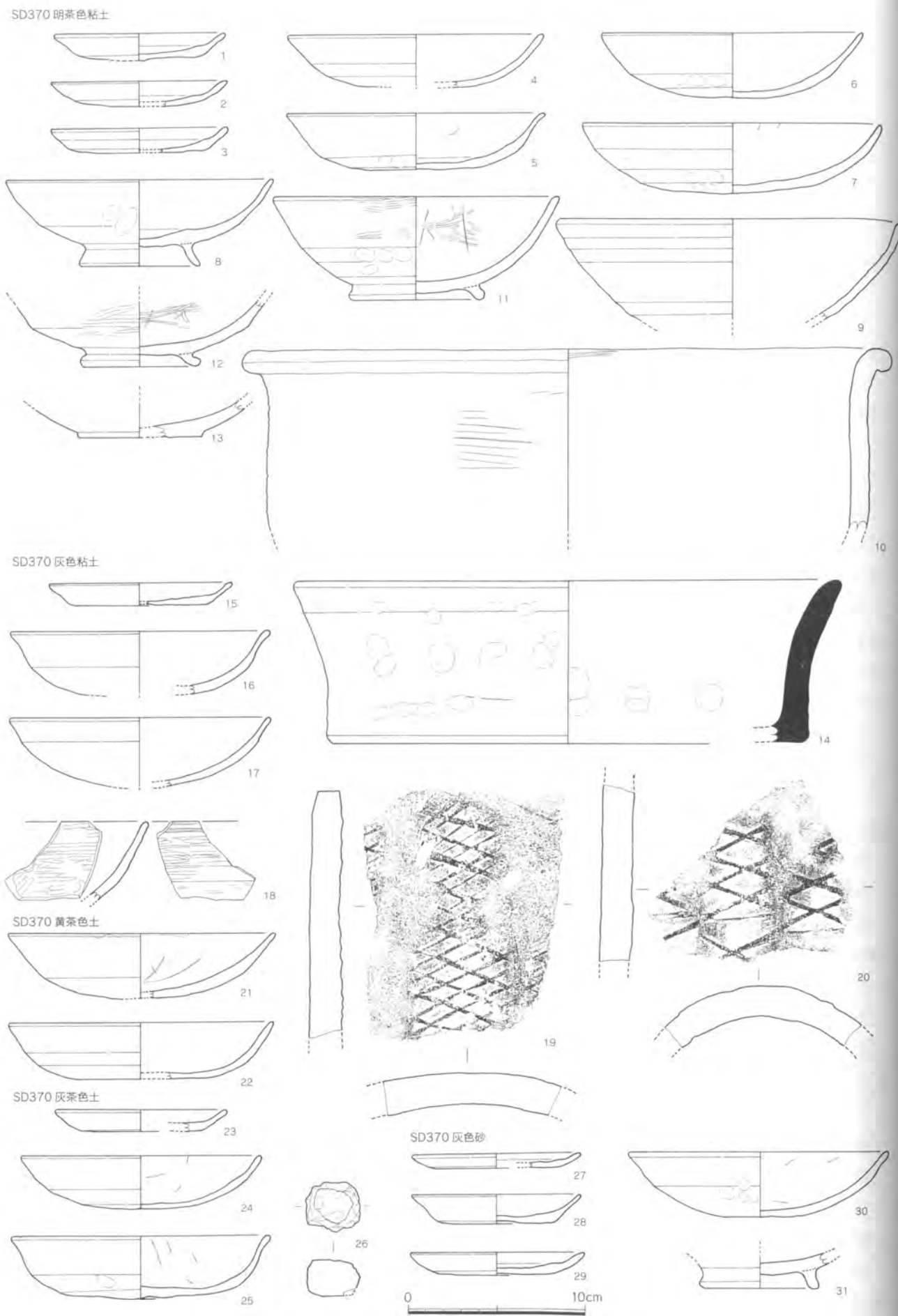


Fig.50 SD370出土遺物実測図 (1/3)

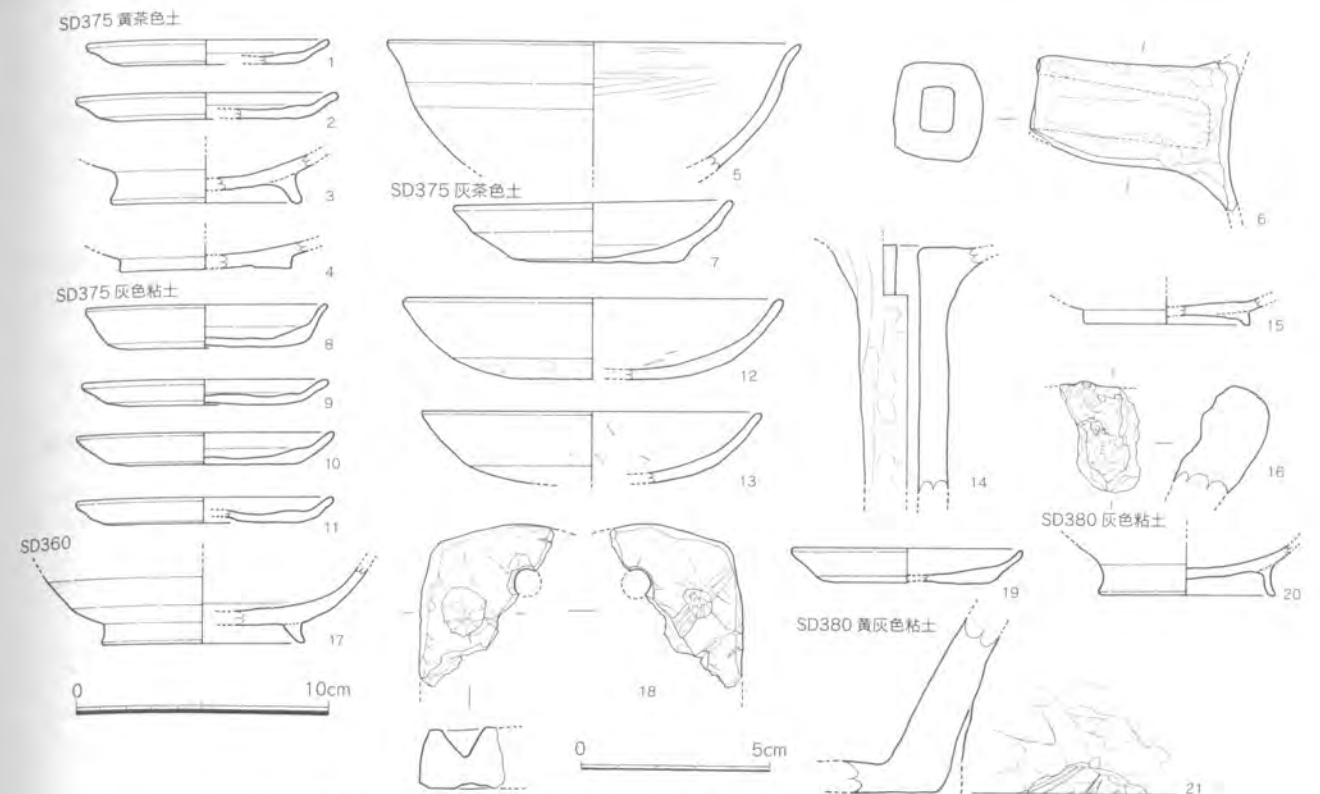


Fig.51 SD360・375・380出土遺物実測図 (1/3、18は1/2)

石製品

用途不明製品 (5) 大きさ12.3cm×8.5cm、厚さ5.0cmで、全体的に平坦であるが、端部が丸みを持ち、人為的に研磨されたような痕跡を残す。内面は窪んでいるが、加工したものか自然のものかの判別は難しい。

○第2調査面

溝

236-1SD360出土遺物 (Fig.51)

灰釉陶器

碗 (17) 三角形の高台を貼付し、復元高台径8.0cm。胎土は白色・黒色粒を少量含む。内面底部には浅い沈線があり、それを境に底部は露胎で、上半には淡灰緑色の釉が薄く掛かっている。

石製品

滑石加工品 (18) 欠損しているが、0.7cm程の円孔と貫通はしていないものの同様の円孔も彫り込まれている。その他条痕もみられる。用途不明である。

236-1SD370明茶色粘土出土遺物 (Fig.50)

土師器

小皿a (1~3) 口径9.7~10.0cm。確認できるものは底部回転ヘラ切り。

丸底坏a (4~7) 復元口径14.6~17.0cm。磨滅するが内面ミガキb、外面下半に指頭圧痕が残る。

丸底坏c (8) 復元口径15.2cm。外面中位に指頭圧痕が残る。

碗 (9) 復元口径20.0cm。外面ヨコナデ、内面磨滅し調整不明。

甕 (10) 復元口径37.0cm。口縁端部を丸く折り曲げている。胎土は0.5cm以下の白色砂粒を多く含み、黒茶色を呈する。外面は粗いヨコハケ、内面はナデ。

黒色土器B類

碗c (11・12) 外開きの低い高台を貼付し、内外面にミガキcを施す。11は外面下半に指頭圧痕が残り、内面にはミガキbのコテ当て痕も確認できる。

緑釉陶器

皿 (13) 高台削り出して、蛇の目高台をなす。胎土は淡灰色の須恵質で、内外面に淡緑白色の釉を薄く施釉するが、一部剥落する。京都産。

236-1SD370灰色粘土出土遺物 (Fig.50)

須恵器

盤 (14) 復元口径31.0cm、器高9.2cm、復元底径27.3cm。内面下半と外面に指頭圧痕の後ナデ調整。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含む。焼成はやや不良で灰白色～黒灰色を呈する。

土師器

小皿a (15) 復元口径10.3cm。板状圧痕が残るが、全体的に磨滅する。

丸底坏a (16・17) 復元口径14.7cmと14.8cm。全体的に磨滅し調整不明瞭。

黒色土器B類

碗 (18) 内外面ミガキcを施し、口縁部外面に細い沈線が巡る。

瓦類

平瓦 (19) 菱形の格子叩きで、内面には布目痕が残る。

丸瓦 (20) やや大きい菱形の格子叩きで、内面には布目痕が残る。

236-1SD370黄茶色土出土遺物 (Fig.50)

土師器

丸底坏a (21・22) 体部は屈曲なく丸く仕上げる。21は内面がミガキbで端部に煤が付着する。22は全面磨滅し調整不明。

236-1SD370灰茶色土出土遺物 (Fig.50)

小皿a (23) 復元口径9.8cm。底部回転ヘラ切り、内面底部不定方向のナデ。

丸底坏a (24・25) 24は磨滅が目立つが、内面に当て具痕が残る。25は体部中位で丸く屈曲し、その下に指頭圧痕が残る。部分的に一次焼成で黒色を呈し、内面はミガキbで当て具痕が残る。

瓦類

瓦玉 (26) 大きさは2.8×3.1cm、厚さ2.1cm。表面に叩き痕と布目痕が残る。

236-1SD370灰色砂出土遺物 (Fig.50)

土師器

小皿a (27～29) 復元口径9.6～9.8cm、器高0.8～1.6cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a (30) 復元口径15.0cm、内面はミガキbでコテ当て痕が残り、外面中位には指頭圧痕が残る。

黒色土器B類

碗c (31) 高台径6.8cm。内面ミガキcで、外面ヨコナデ。

236-1SD375黄茶色土出土遺物 (Fig.51)

土師器

小皿a (1・2) 復元口径9.6cmと10.4cm。

把手 (6) 長さは7.8cm。形状は方形で、内部は空洞である。外面はナデ調整。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を少量含み、茶灰色や淡褐色を呈する。

黒色土器B類

碗c (3) 復元口径7.6cm。

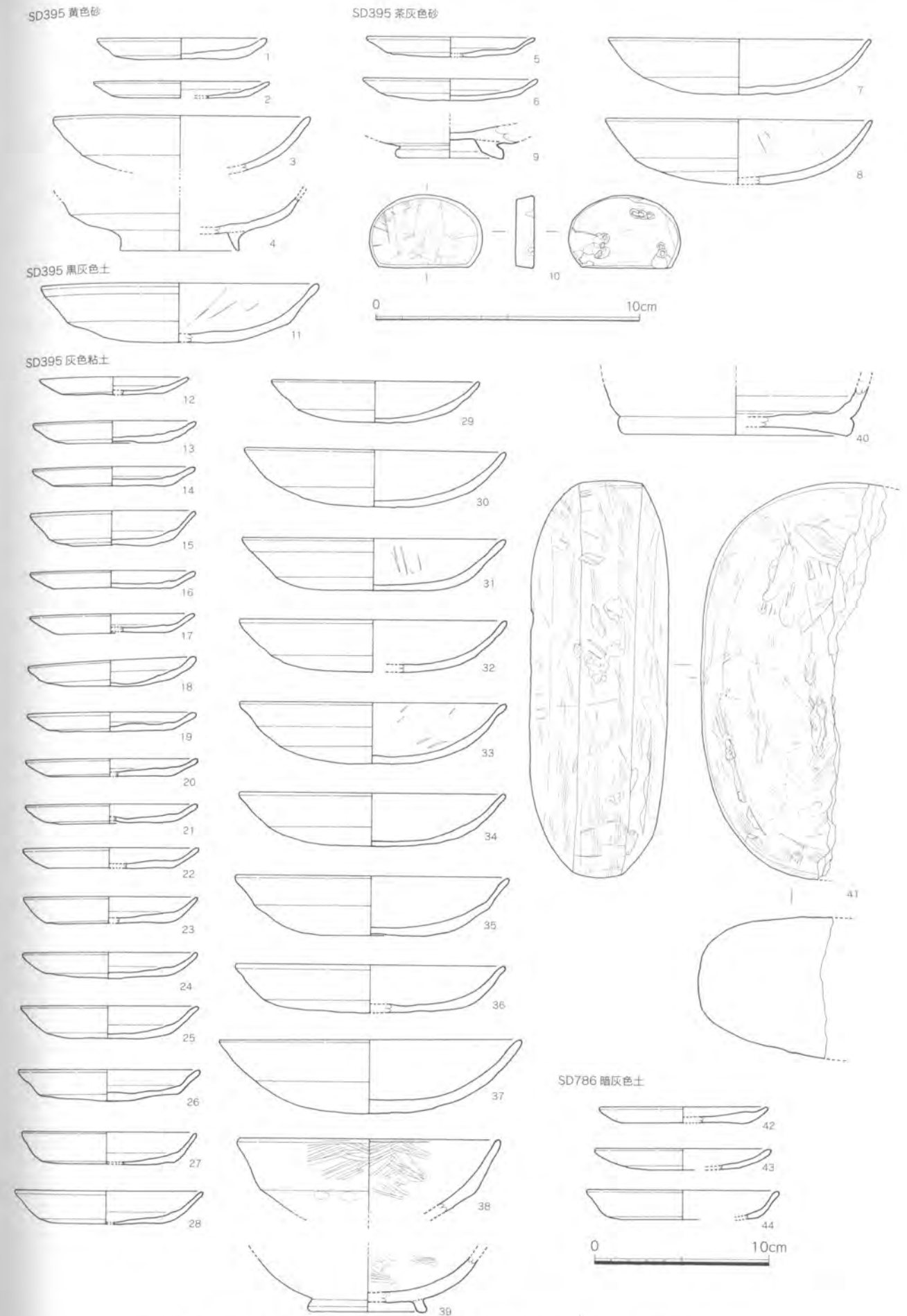


Fig.52 SD395・786出土遺物実測図 (1/3、10・41は1/2)

緑釉陶器

皿(4) 高台削り出しの蛇ノ目高台で、復元口径6.8cm。胎土は黄白色で土師質。釉は緑黄色で全面に施釉するが殆ど剥落している。洛北産。

椀(5) 復元口径16.3cm。釉は灰緑色で内面ミガキ、外面回転ナデのあと施釉するが、口縁部以外殆ど剥落している。須恵質で洛西もしくは篠窯産。

236-1SD375灰茶色土出土遺物 (Fig.51)

土師器

坏a(7) 口径11.0cm、体部中に僅かに屈曲がある。底部回転ヘラ切り後ナデ、内面底部は不定方向のナデ、その他はヨコナデ。

236-1SD375灰色粘土出土遺物 (Fig.51)

土師器

小皿a(8~11) 復元口径9.6~10.2cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a(12・13) 内面ミガキbでコテ当て痕が残る。12は口縁内部に煤が付着する。

器台(14) 0.9cm程の孔が開き、外面はナデ調整。上部は粘土接合部で剥落する。

灰釉陶器

皿(15) 復元高台径6.6cm。胎土は白色砂粒を含むが精製され、灰白色を呈する。釉は現存範囲では確認できない。外面底部は回転糸切り、内面は平滑である。O-53窯様式とみられる。

土製品

トリベ(16) 胎土は0.2cm以下の白色砂粒を若干含むが精製され、灰色を呈する。内面は溶解し赤茶色や暗灰色になり、青緑色や黒茶色物質が付着する。

236-1SD380出土遺物 (Fig.51)

土師器

小皿a(19) 復元口径9.2cm、器高1.4cm。内外面磨滅し調整不明。

236-1SD380灰色粘土出土遺物 (Fig.51)

土師器

椀c(20) 復元高台径7.0cm。内面ナデ調整。

236-1SD380黄灰色粘土出土遺物 (Fig.51)

瓦質土器

脚付鉢(21) 胎土は0.2cm以下の白色・黒色砂粒を多く含み、色調は淡灰色を呈する。内外面はヨコナデ、底部外面は削りで、脚部が剥落した痕跡を残す。

236-1SD395黄色砂出土遺物 (Fig.52)

土師器

小皿a(1・2) 復元口径9.6cmと10.0cm。磨滅し調整不明。

丸底坏a(3) 復元口径14.6cm。磨滅し調整不明。

椀c(4) 復元高台径6.7cm。体部は磨滅し調整不明。

236-1SD395茶灰色砂出土遺物 (Fig.52)

土師器

小皿a(5・6) 復元口径9.6と10.0cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a(7・8) 復元口径15.0cmと15.2cm。12は内面に煤が付着する。

黒色土器B類

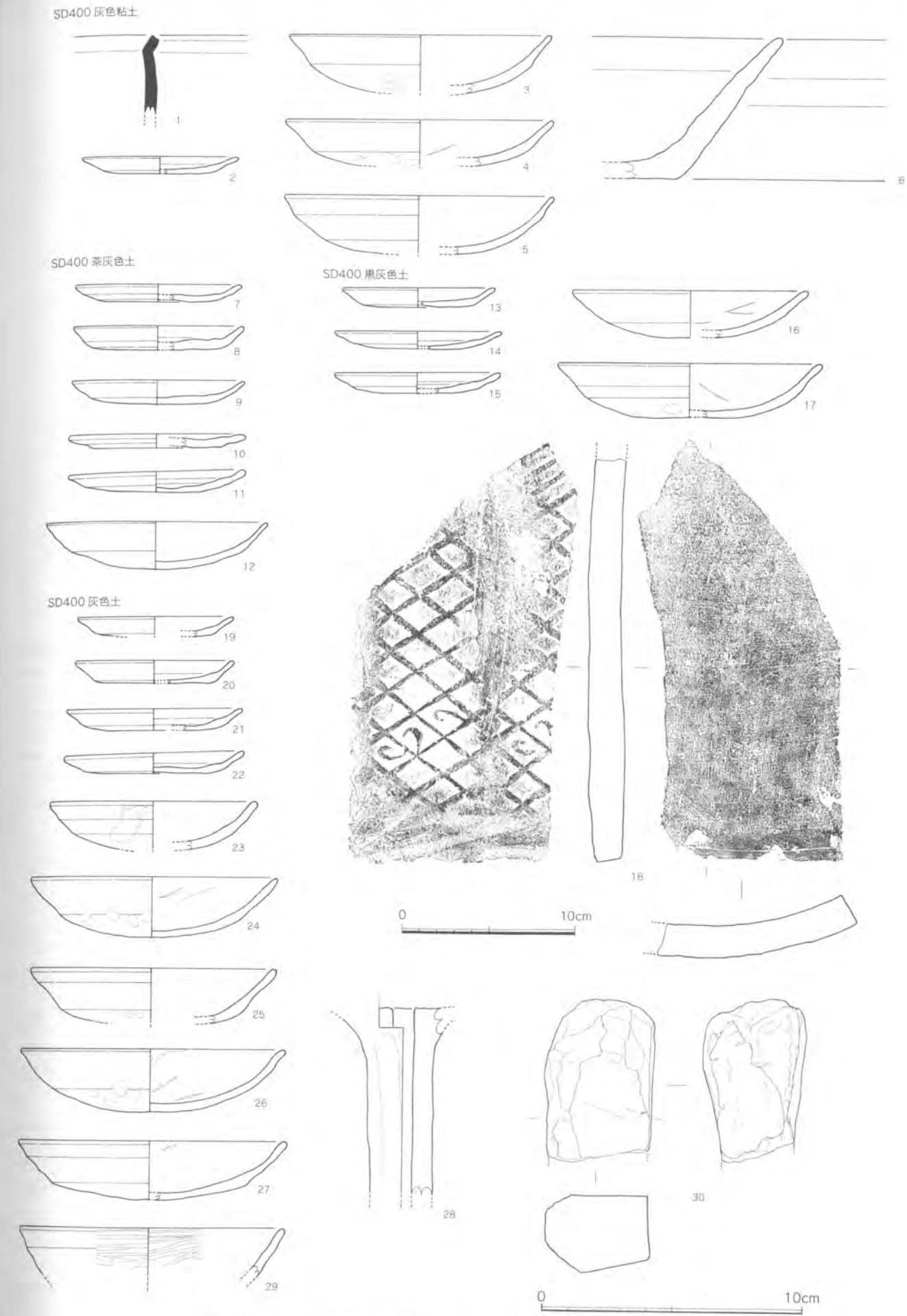


Fig.53 SD400出土遺物実測図 (1/3、30は1/2)

椀c (9) 高台径6.2cm。内面ミガキcが残る。

石製品

石帯丸柄 (10) 大きさは縦2.8cm、横4.3cm、厚さ0.7cm。石材は粘板岩のようなもので、色調は灰黒色を呈し、表面は光沢がある。裏面には3ヶ所6個の穴が開いている。

236-1SD395灰色粘土出土遺物 (Fig.52)

土師器

小皿a (12~28) 復元口径8.6~11.1cm、器高1.0~2.0cm。底部回転ヘラ切り。

小丸底坏a (29) 復元口径11.8cm、外面底部に回転ヘラ切り痕と板状圧痕が残る。

丸底坏a (30~37) 復元口径15.0~17.2cm、外面中位で僅かに屈曲するものもあるが全体的に丸い。全体的に磨滅するが、内面にミガキb、外面に板状圧痕が残る。

黒色土器B類

椀 (38) 復元口径15.0cm、内外面ともミガキcで、外面中位に指頭圧痕が残る。

椀c (39) 復元高台径6.8cm、外面下半は回転ヘラケズリで、内面はミガキc。

長沙窯系青磁

水注 (40) 復元底径13.4cm。胎土は明灰色を呈し、釉は淡い灰緑色で外面に薄く施す。内面回転ナデ、外面底部はナデである。

石製品

磨石 (41) 大きさは15.1cm、厚さ5.4cmで楕円形をなしていたと見られる。全体的に薄く煤が付く。用途について砥石の可能性も考えられる。

236-1SD786暗灰色土出土遺物 (Fig.52)

土師器

小皿a (42~44) 復元口径9.6~11.0cm、42は若干口縁部が歪む。

236-1SD400灰色粘土出土遺物 (Fig.53)

須恵器

短頸壺 (1) 口縁部を屈曲させる。内外面とも回転ナデ。胎土は微細な白色砂粒や黒色粒を僅かに含み、灰白色を呈する。

土師器

小皿a (2) 復元口径9.0cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a (3~5) 復元口径15.0~15.4cm。3は内面が薄く剥落。

盤 (6) 胎土は精製されているが、0.4cm以下の白色砂粒を多く含み、茶灰色や茶褐色を呈する。焼成は不良。全面磨滅が著しい。

236-1SD400茶灰色土出土遺物 (Fig.53)

土師器

小皿a (7~11) 復元口径9.6~10.2cm、器高0.8~1.4cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a (12) 復元口径12.8cm。

236-1SD400黒灰色土出土遺物 (Fig.53)

土師器

小皿a (13~15) 復元口径8.8~9.6cm、器高1.05~1.2cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a (16・17) 復元口径13.6cmと15.2cm。内面ミガキbでコテ当て痕も残る。

236-1SD400灰色土出土遺物 (Fig.53)

SD560

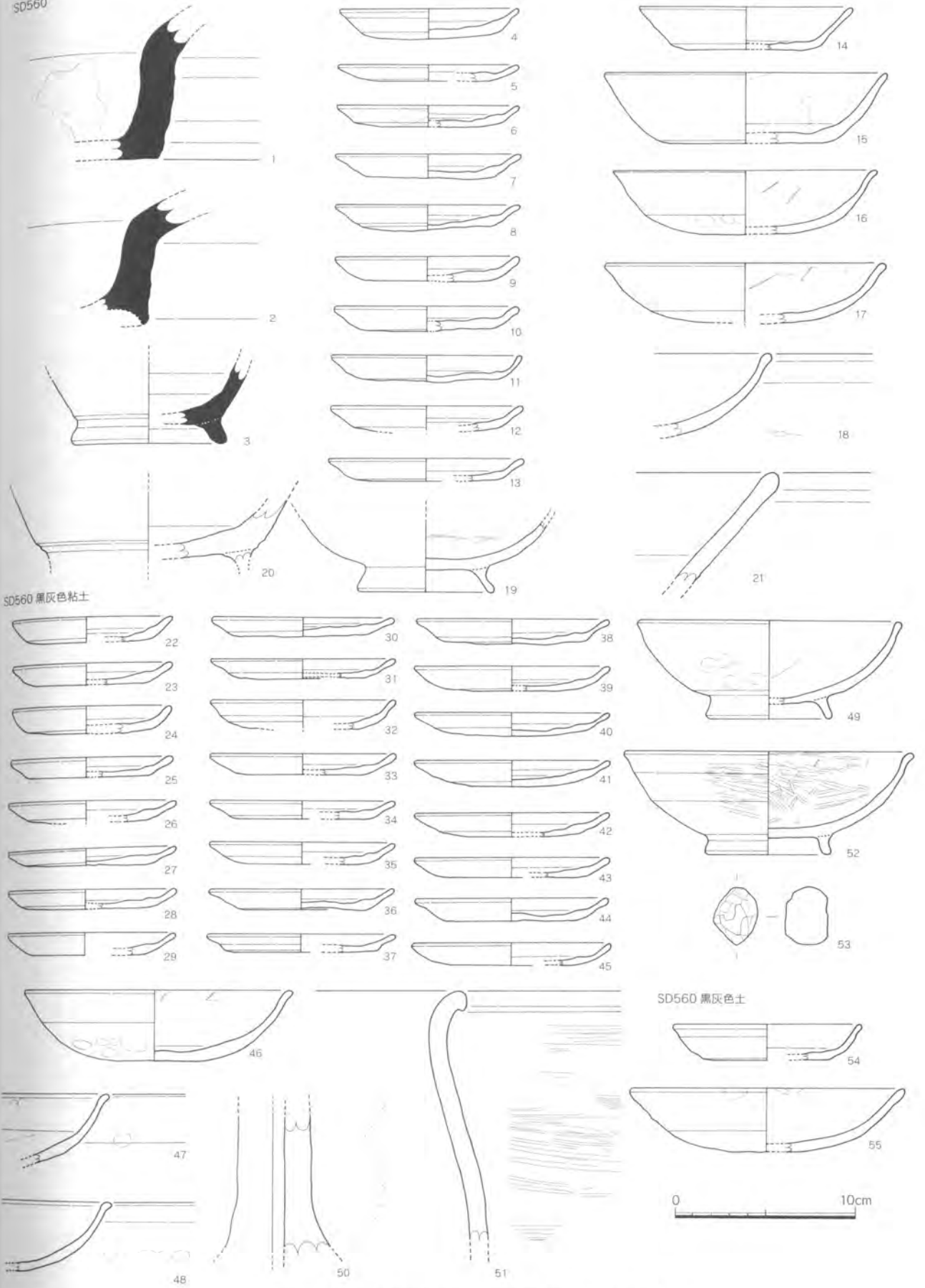


Fig.54 SD560出土遺物実測図 (1/3)

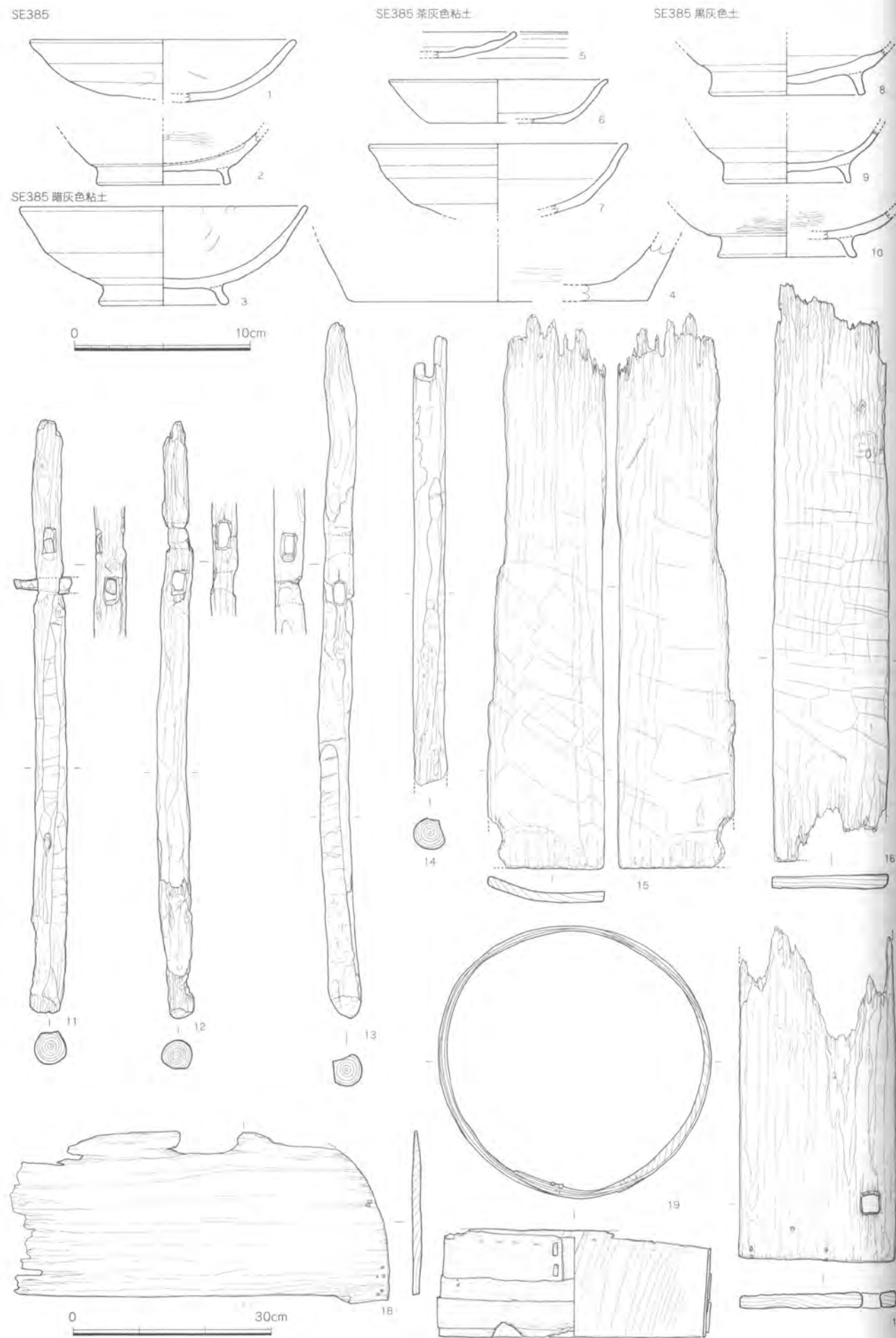


Fig.55 SE385出土遺物実測図 (1/3、11～19は1/8)

土師器

小皿a (19～22) 復元口径9.0～10.4cm、器高1.1～1.3cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a (23～27) 復元口径14.4～15.8cm、体部中位に若干屈曲し指頭圧痕が残る。23の外面と26の内面の一部に煤が付着する。

器台 (28) 脚部で径約3.7cm。外面はナデ調整。

黒色土器B類

碗 (29) 復元口径15.6cm。内外面ミガキcを施す。

石製品

砥石 (30) 大きさは6.2×4.25×3.0cm。使用面は3面で砂岩製である。

236-1SD560出土遺物 (Fig.54)

須恵器

盤 (1・2) 1は胎土が0.4cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、焼成は不良で白灰色～淡黄褐色を呈する。内外面ともヨコナデ。2は胎土が0.5cm以下の白色砂粒を含み、焼成は不良で灰色～淡灰褐色を呈する。内面には煤が付着している。外面底部ナデ、その他はヨコナデ。

壺 (3) 復元高台径8.6cm。内面はやや平滑である。外面回転ナデ、内面の一部がヘラケズリのような痕跡を残す。

土師器

小皿a (4～13) 口径9.9～10.8cm、器高0.9～1.7cm。6は外面に煤が付着する。

坏a (14・15) 復元口径11.5cmと15.6cm。15は底部回転ヘラ切りで、内面に煤が付着する。

丸底坏a (16～18) 復元口径14.6～15.5cm。内面はミガキbで、外面下半には底部押し出しの指頭圧痕が残る。

碗c (19) 高台径7.5cm。内面はミガキbであるが黒色化できていない。

壺 (20) 胎土は白色砂粒や赤色砂粒を少量含むが精製され、色調は白褐色を呈する。外面底部は回転ヘラ切り、内外面は磨滅するが回転ナデとみられる。

鉢 (21) 胎土が0.4cm以下の白色砂粒を含む。焼成は良好で、内外面回転ナデで、外面下半にヘラケズリのような痕跡もみえる。

236-1SD560黒灰色粘土出土遺物 (Fig.54)

土師器

小皿a (22～45) 復元口径9.4～11.0cm、器高1.0～1.6cm。底部回転ヘラ切り、内面底部は一方方向のナデ。29は内面の一部に付着物がある。

丸底坏a (46～48) 口縁端部が若干平坦部を有する。内面ミガキb。46は復元口径15.2cm。

丸底坏c (49) 復元口径14.6cm。内面にミガキb、外面に指頭圧痕が残る。

器台 (50) 脚部で、径は約3.2cmで、孔の径は1.15cm。外面ナデ調整。

甕 (51) 口縁部を緩く外反させる。胎土は0.7cm以下の白色砂粒や金雲母を含む。内面は斜め方向のナデ、外面は粗いヨコハケで一部ナデ調整。外面全体に煤が多く付着し、内面にも部分的に煤が付着する。

黒色土器B類

碗c (52) 口縁部を僅かに外反させる。復元口径16.0cm、内面はミガキbのあとミガキcを施す。

瓦類

瓦玉 (53) 大きさは2.45×3.2×2.35cm。両面に布目と叩き痕が残る。

236-1SD560黒灰色土出土遺物 (Fig.54)

土師器

小皿a (54) 復元口径10.4cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a (55) 復元口径15.2cm。口縁端部の内外面に煤が付着する。

井戸

236-1SE385出土遺物 (Fig.55)

土師器

丸底坏a (1) 口径15.2cm。内面ミガキb、外面中位に指頭圧痕が残る。

黒色土器A類

碗c (2) 復元高台径7.6cm。内面ミガキcだが、内面底部は器面が広く剥離している。

236-1SE385暗灰色粘土出土遺物 (Fig.55)

黒色土器A類

碗c (3) 復元口径16.4cm。内面はコテ当て痕とミガキcが残る。外面下半はナデ。

緑釉陶器

鉢 (4) 復元底径17.0cm。胎土は0.1cm以下の白色砂粒をやや多く含み、色調は灰黒色を呈する。外面はナデ、内面は強いナデで、褐色を帯びた灰緑色の釉を薄く掛ける。

236-1SE385茶灰色粘土出土遺物 (Fig.55)

土師器

小皿a (5) 底部回転ヘラ切り。内面底部不定方向のナデ。

坏a (6) 復元口径12.4cm。外面底部は回転糸切りのようにも見える。内面に一部附着物がある。

丸底坏a (7) 復元口径14.8cm。内面下半はミガキb、上半はヨコナデ。

236-1SE385黒灰色土出土遺物 (Fig.55)

土師器

碗c (8・9) 復元高台径は9.0cmと7.4cm。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ。

黒色土器B類

碗c (10) 復元高台径8.0cm。内外面ミガキc。

236-1SE385出土木製品 (Fig.55)

木製品

隅柱 (11~14) 11は現存長90.6cm、径5.4×5.0cm。表面は部分的に加工を施すが樹皮も残っている。下方はケズリの後劣化している。上部に方形のホゾ穴が、4cm程の間隔を開けてねじれの位置で穿たれ、下段の方には横棧が嵌った状態で検出された。12は現存長90.8cm、径4.9×4.3cm。表面は部分的に加工を施すが、樹皮を残している所もしくは樹皮が剥げただけの部分が多い。上部に方形のホゾ穴が、4cm程の間隔を開けてねじれの位置で穿たれている。13は現存長105.8cm、径5.0×4.8cm。表面は一部加工を施すが、殆どが樹皮を残す所と樹皮が剥げただけの状態である。方形のホゾ穴が4cm程の間隔を開けてねじれの位置で穿たれている。14はホゾ穴部分で欠損し、現存長68.4cm、径5.0×4.6cm。表面は一部加工を施すが、殆どが樹皮を残す所と樹皮が剥げただけの状態である。

井戸枿材(15~17) 15は現存長84.6cm、幅18.1cm、厚さ1.7cmである。両面ともカンナ削り痕が残る。16は現存長88.2cm、幅18.1cm、厚さ2.2cmである。両面にカンナ削り痕があり、1ヶ所穴が貫通している。



Fig.56 SK390・第2面その他の遺構出土遺物実測図 (1/3、11は1/2)

17は現存長51.3cm、幅24.8cm、厚さ2.5cmである。表面の加工痕は残っていないが、下方に3.1×3.5cmの方形孔が穿たれ、下端に0.4cm前後の円孔が4ヶ所穿たれている。

板材 (18) 現存長58.0cm、幅26.3cm、厚さ1.4cmである。端部に0.5cm前後の円孔が7ヶ所穿たれており、何かを留めていた穴とみられる。表面に加工痕は残っていない。

曲物 (19) 径41.4×41.6cm、高さ16.5cm。タガが2本巡っているが、上部の方はズレ落ちた状態と推測される。上部端には0.2cm前後の多くの円孔が穿たれており、当初桶底があったものを再利用した可能性が考えられる。内面には斜め方向に細かい刻み目を施す。

土坑

236-1SK390出土遺物 (Fig.56)

土師器

小皿a (1~5) 復元口径9.4~10.2cm、器高1.1~1.6cm。2は回転糸切り。4は底部糸切りか。その他は底部回転ヘラ切り。

236-1SK390黒灰色土出土遺物 (Fig.56)

土師器

小皿a (6・7) 復元口径10.2cmと11.0cm。底部回転ヘラ切り。

236-1SK390暗灰色土出土遺物 (Fig.56)

土師器

小皿a (8・9) 8は復元口径9.0cm、磨滅し底部調整不明。9は口径9.6cm、底部回転糸切り。

第2遺構面その他の遺構出土遺物 (Fig.56)

緑釉陶器

碗×皿 (10) 底部削り出し。胎土は黄灰白色の土師質で、内外面に淡黄緑色の釉を施すが、底部外面は磨滅している。復元底径6.6cm。S-776より出土。

石製品

権 (11) 縦4.4cm、横2.4cm、厚さ1.3cmで、一側面欠損する。表裏のみ研磨されている。また、0.3cmの円孔が穿たれている。重さ21.2g。泥岩製。S-877より出土。

○第2調査面基盤層

第236-1次調査灰色土出土遺物 (Fig.57・58)

須恵器

坏a (1) 復元口径13.2cm、底部外面はヘラ切り後ナデ。内面底部はナデ。色調は白灰色を呈する。

坏c (2~4) 復元高台径6.6~7.6cm。3・4は底部端に貧弱な高台を貼付する。

小壺 (5) 復元高台径5.8cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を含み、青灰色を呈する。内外面回転ナデ。

壺 (6) 方形の高台を貼付する。色調は淡青灰色で焼成は良好。内外面とも回転ナデ。

土師器

坏a (7~16) 復元口径は7が12.2cm、8が12.8cmで底部が丸い。復元底径5.8~7.2cm。底部回転ヘラ切り。

小皿c (17) 復元口径11.9cm、器高2.85cm、高台径7.0cm。全面磨滅し調整不明。

碗 (18) 復元高台径7.2cm。底部には径0.8cm程の穿孔がある。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や赤色粒を含み、色調は橙褐色を呈する。

碗c (19・20) 復元高台径8.0cmと8.6cm。内外面磨滅し調整不明。

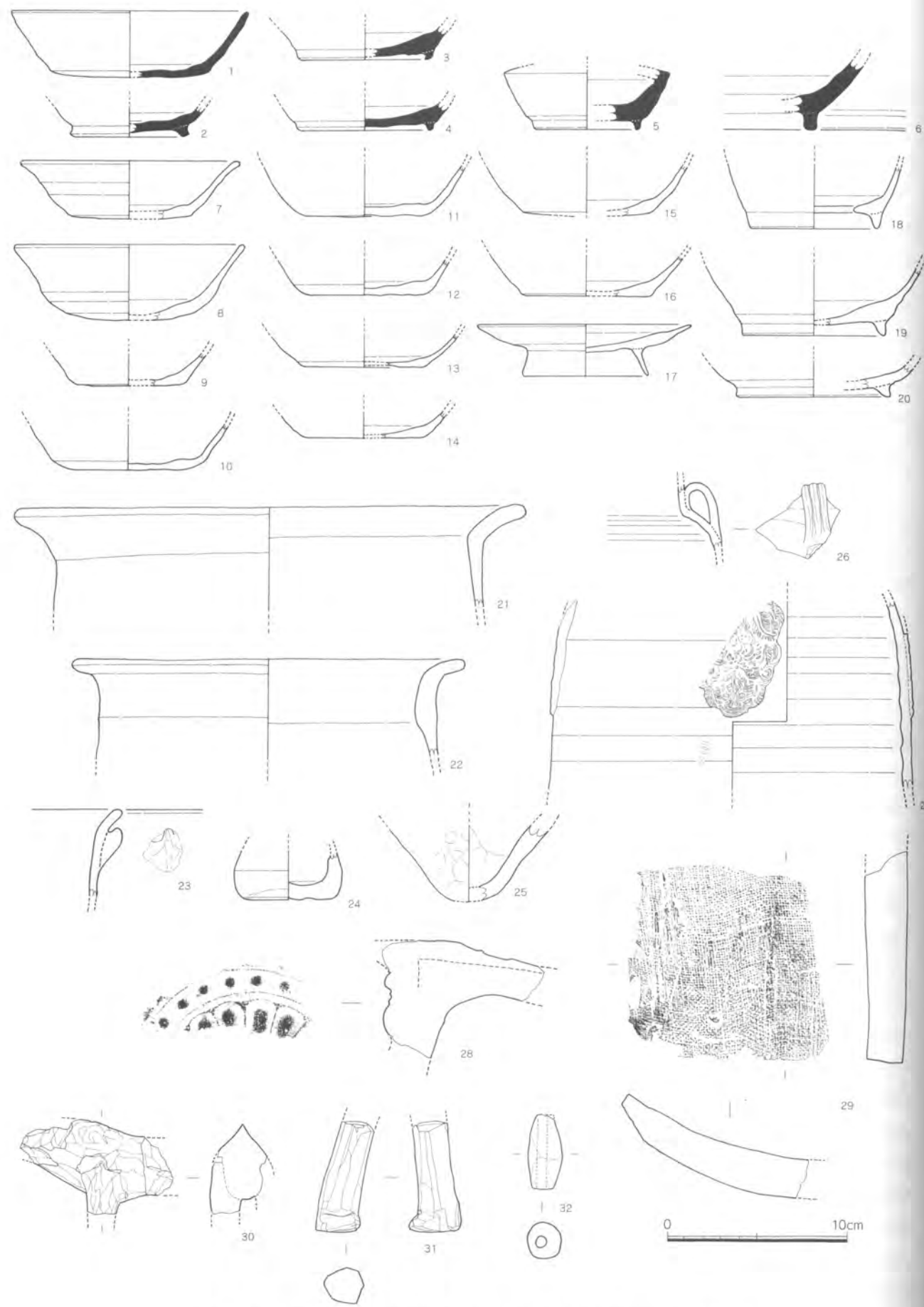


Fig.57 第2面基盤層(灰色土)出土遺物実測図① (1/3)

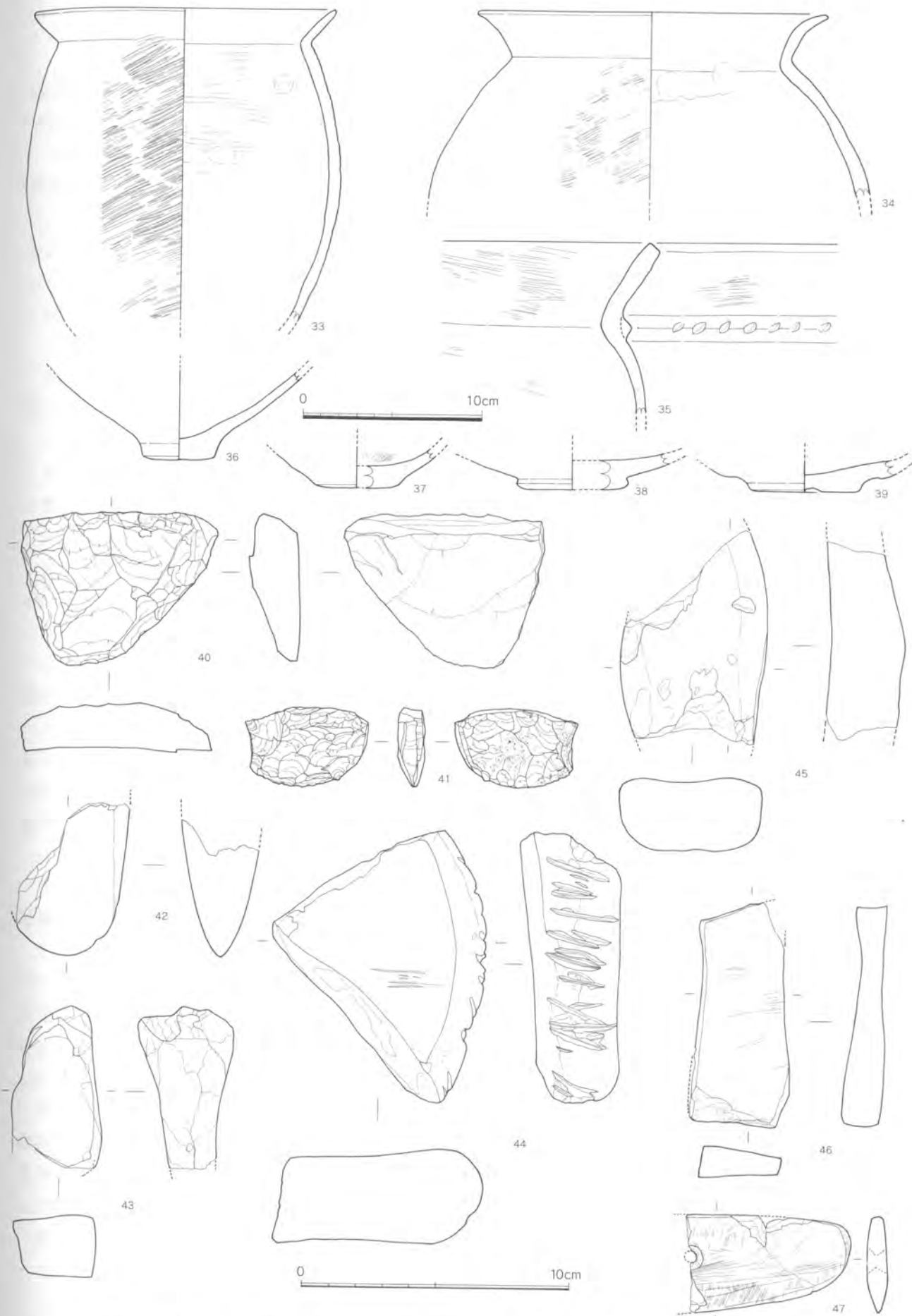


Fig.58 第2面基盤層(灰色土)出土遺物実測図② (1/3、40~47は1/2)

甕(21・22) 21は口径28.4cm。胎土は0.8cm以下の白色砂粒や赤色粒を含み、外面橙褐色、内面白褐色や淡黄褐色を呈する。体部内面ヘラケズリだが殆ど磨滅。22は復元口径21.8cm。口縁部に黒斑がある。体部内面はヘラケズリ。

甕×甗(23) 外面に小さな把手が付く。胎土は砂粒を含むが精製され、橙褐色を呈する。口縁部に黒斑がある。

小壺(24) 復元底径は5.2cm。手捏ねで内面には漆のようなものが残る。胎土は0.4cm以下の白色砂粒や赤色粒を含み、橙灰色を呈する。

製塩土器

焼塩壺(25) 胎土は0.4cm以下の白色砂粒を含む。内面簡単なヨコナデ、外面指頭圧痕が残る。

褐釉陶器

水注(26) 耳の部分で、胎土は黒色砂粒を含むが精製されている。外面には淡緑灰色や緑褐色の釉が掛かり、内面は頸部まで釉が掛かり、その下位は回転ナデで露胎である。

長沙窯青磁

水注(27) 胎土は白色砂粒を少量含み、淡い黄褐色を呈する。内外面回転ナデで体部には釉はみられない。外面に型押文を貼り付け、その一部に淡緑灰色の不透明釉が僅かに残る。

瓦類

軒丸瓦(28) 複弁で周囲には珠文があり、鋸歯文が巡る。

平瓦(29) 内面は布目痕が残り、外面は丁寧にヘラケズリを行っている。

土製品

土馬(30) 胎土は0.2cm以下の白色砂粒を含み、青灰色を呈する。焼成は良好で須恵質である。胴部はナデで、脚部はヘラケズリで、胴部上部はつまみ出して、背中部分を表現している。

獣脚(31) 形状から土馬の脚部の可能性があり、土製品に分類したが、色調は淡青灰色で、焼成は須恵質である。外面はヘラケズリとナデ、足先の接地面はナデである。

土錘(32) 縦4.15cm、径1.9～2.0cm。色調は黒灰色を呈する。胎土は0.1cm以下の白色砂粒や雲母を含む。

古式土師器

甕(33) 古墳時代の土師器で、復元口径17.0cm。胴部外面は斜め方向の平行叩きで、下半には煤が付着する。内面は磨滅し当て具痕や指頭圧痕が僅かに残る。

弥生土器

甕(34・35) 34は復元口径19.6cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を多く含み、白褐色から淡橙褐色を呈する。胴部外面は斜め方向の平行叩きで下半に煤が付着する。35はくびれ部に刻み目突帯を巡らす。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、白褐色から黄褐色を呈する。口縁部は外面が粗いヨコハケ、内面が細かいヨコハケ。胴部は磨滅するが内面はハケ目が僅かに残る。

壺(36～39) 僅かに丸味のある底部で、36は胎土が0.4cm以下の白色砂粒などを含み、外面淡黄褐色を呈する。37は胎土が0.5cm以下の白色砂粒を多く含み、外面淡黄褐色を呈する。内面はハケで炭化物が付着する。38は胎土が0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、外面淡黄褐色を呈する。内外面磨滅する。39は底部外面に葉脈痕のようなものがある。

石製品

礫核石器(40) 縦5.8cm、横7.5cm、厚さ1.9cm。片面を細かく剥離調整する。安山岩。

スクレイパー(41) 大きさは縦3.0cm、横4.6cm、厚さ1.0cm。表面は小刻みに打ち欠くが、一部自

然面も残る。全体的に風化している。黒曜石製。

磨製石斧(42) 全面研磨されている。石材は片岩。

砥石(43～46) 43は砂岩製で4面使用。44は表裏2面が研磨され、側面に刃先を削り込んだような多数のキズが付いている。砂岩製。45は泥岩製で4面使用。46は砂岩製で長辺の4面と短辺の1面が使用されている。部分的に条痕がみられる。

石包丁(47) 半分ほど欠損し、現存長6.1cm、幅3.7cm、厚さ0.7cm。全面に細かい傷が付く。赤紫灰色の溶結凝灰岩製。

第236-1次調査SX525出土遺物 (Fig.59)

須恵器

壺(1) 体部屈曲部に三角形の突帯が付く。内外面回転ナデ。

土師器

坏a(2～4) 復元底径6.0～7.6cm。全体的に磨滅し調整不明。

碗c(5) 高台は欠損する。内面が白褐色、外面が淡黄褐色を呈する。内外面とも磨滅する。

甕(6) 外面には煤が付着する。

灰釉陶器

壺×甕(7) 胎土は0.1cm以下の白色砂粒を含み、淡青灰色や白灰色を呈する。内外面回転ナデで外面に灰緑色の釉を施す。

越州窯系青磁

坏(8) II類。内面には目跡が残る。内面と外面上半部は施釉され、下半は回転ナデ、底部外面はヘラケズリである。釉は光沢のある淡緑灰色である。復元口径15.1cm、器高4.0cm。復元底径6.0cm。

瓦類

平瓦(10・11) 10は正格子叩きで、文字のような文様が刻まれているが欠損していることもあり、詳細は不明である。叩きが重なっているため不可解な形になっている可能性もある。11は横長の斜め格子叩き。

土製品

獣脚(9) 0.4cm以下の砂粒を多く含み、暗灰色や淡黄灰色を呈する。焼成は不良。

石製品

石鍋(12) 復元口径24.2cm。口縁端部外側は欠落が目立つ。内外面は削りで、内面に煤のようなものが付着する。

第236-1次調査茶褐色土出土遺物 (Fig.59)

土師器

坏a(13・14) 13は復元口径14.0cm、14は復元底径9.4cm。全面磨滅し調整不明。

碗c(15) 復元高台径8.6cm。全面磨滅し調整不明。

甕(16) 胎土は0.3cm以下の砂粒を含み、色調は淡橙色や白褐色などである。磨滅が目立つが、外面にヨコハケが確認できる。

器台(17) 脚部径3.3cmほどで、中央の円孔は径1.0cm。外面は縦方向の削りである。

第236-1次調査黒色土出土遺物 (Fig.59)

土師器

坏a(18～22) 復元底径6.4～7.4cm。底部は回転ヘラ切り。

碗c(23・24) 復元高台径は7.0cmと7.6cm。外面底部回転ヘラ切り。

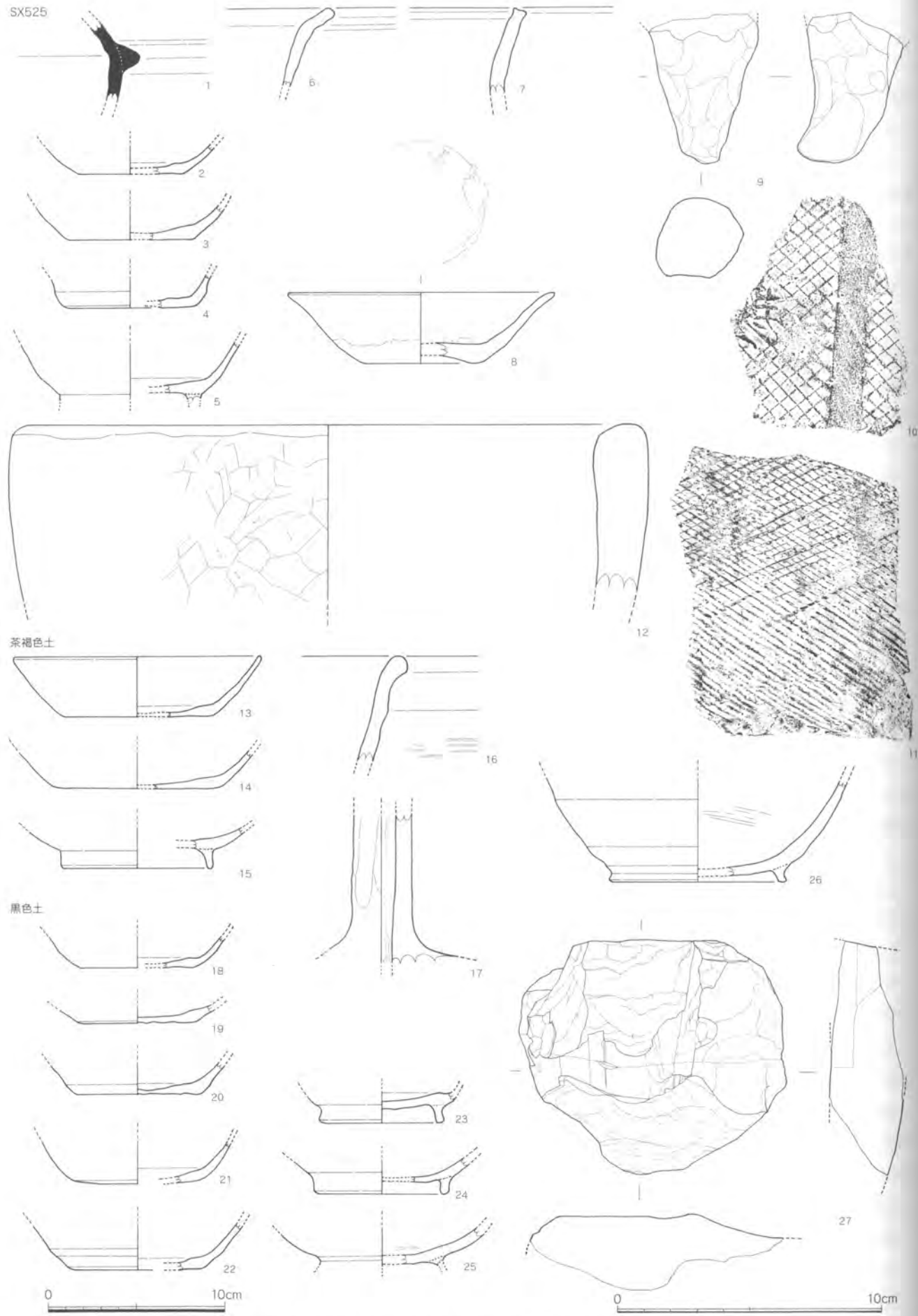


Fig.59 第2面基盤層(SX525・黒色土)出土遺物実測図 (1/3、27は1/2)

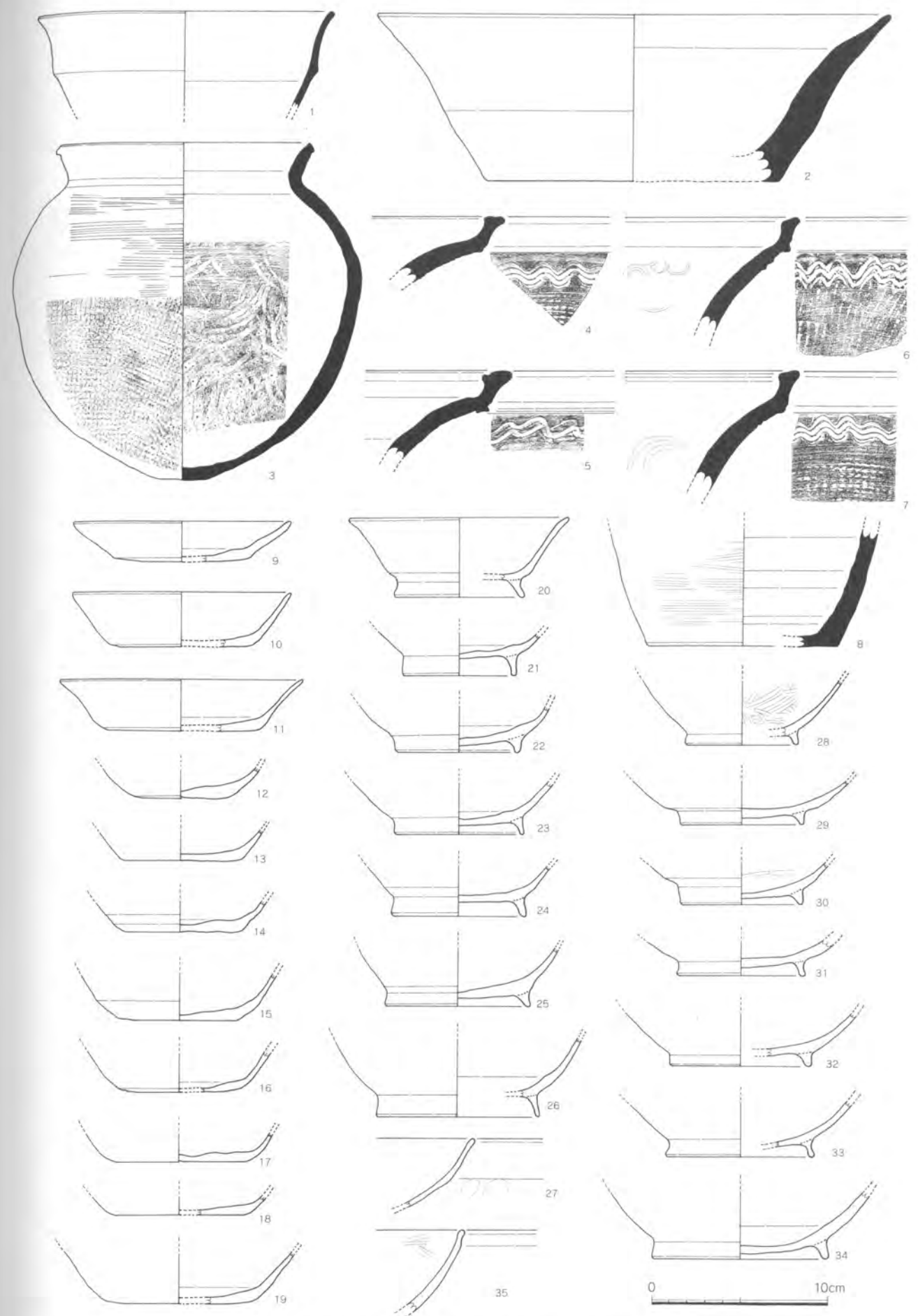


Fig.60 第2面基盤層(黒茶色土)出土遺物実測図① (1/3)

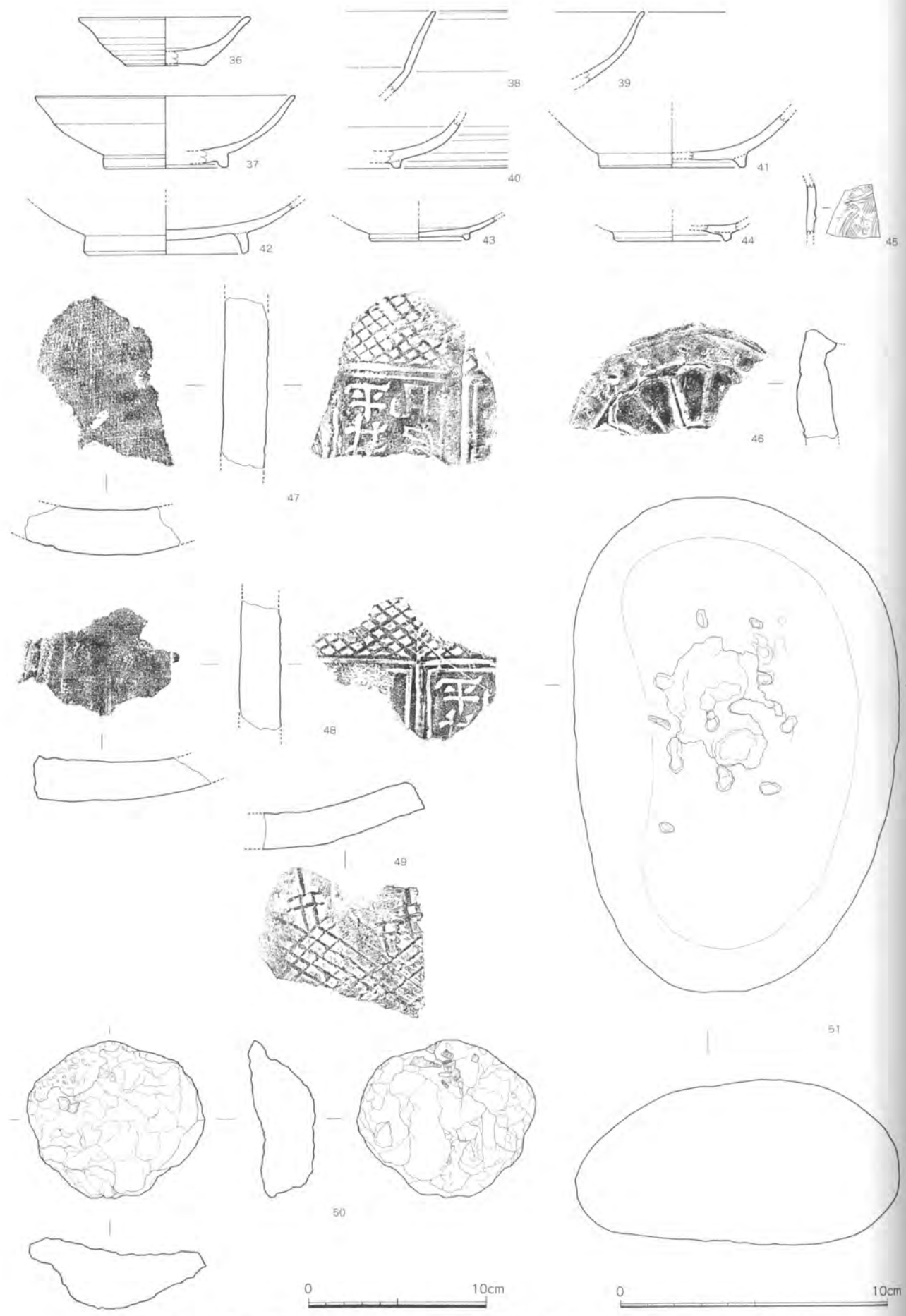


Fig.61 第2面基盤層(黒茶色土)出土遺物実測図② (1/3、51は1/2)

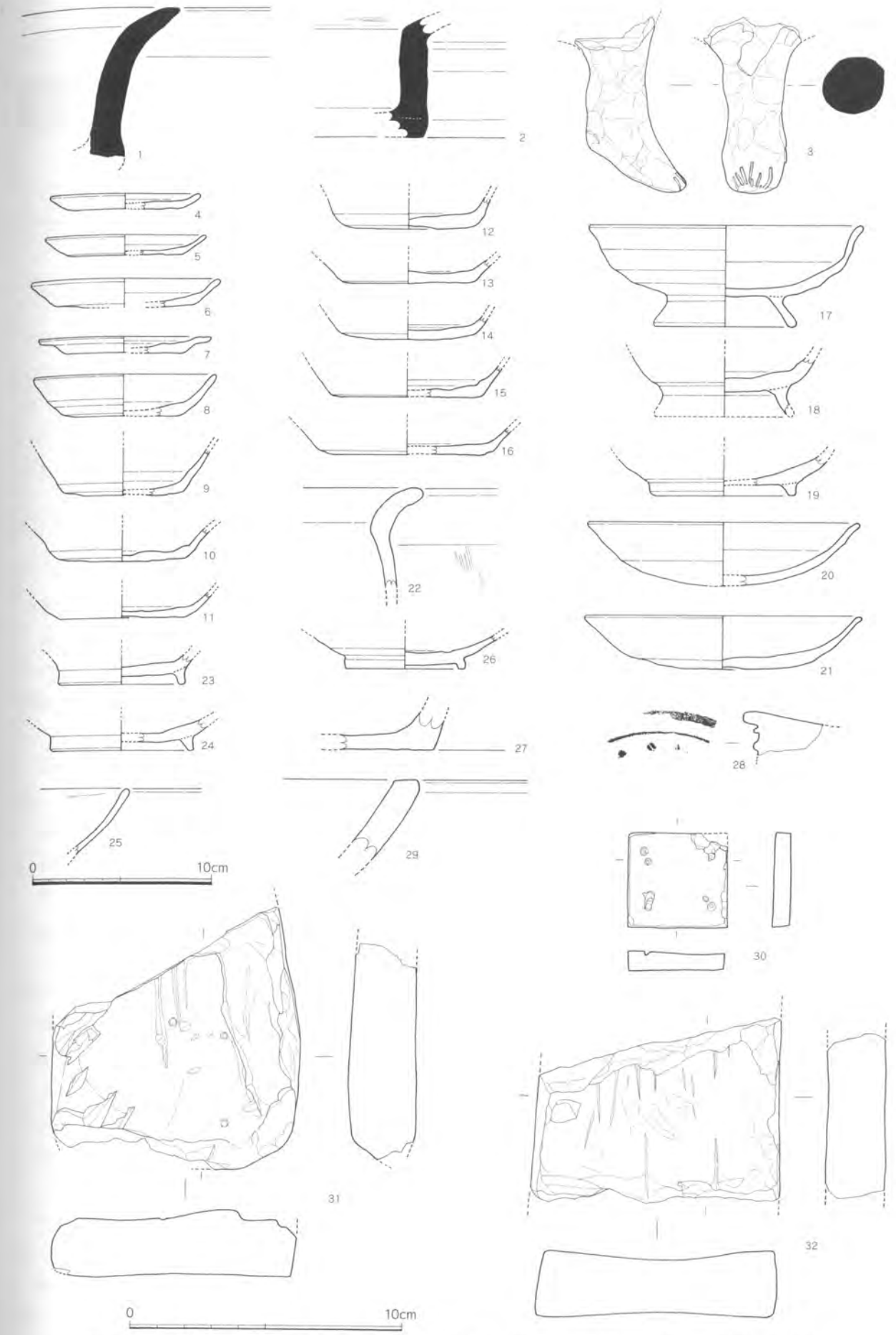


Fig.62 第2面基盤層(淡灰色土)出土遺物実測図 (1/3、29～32は1/2)

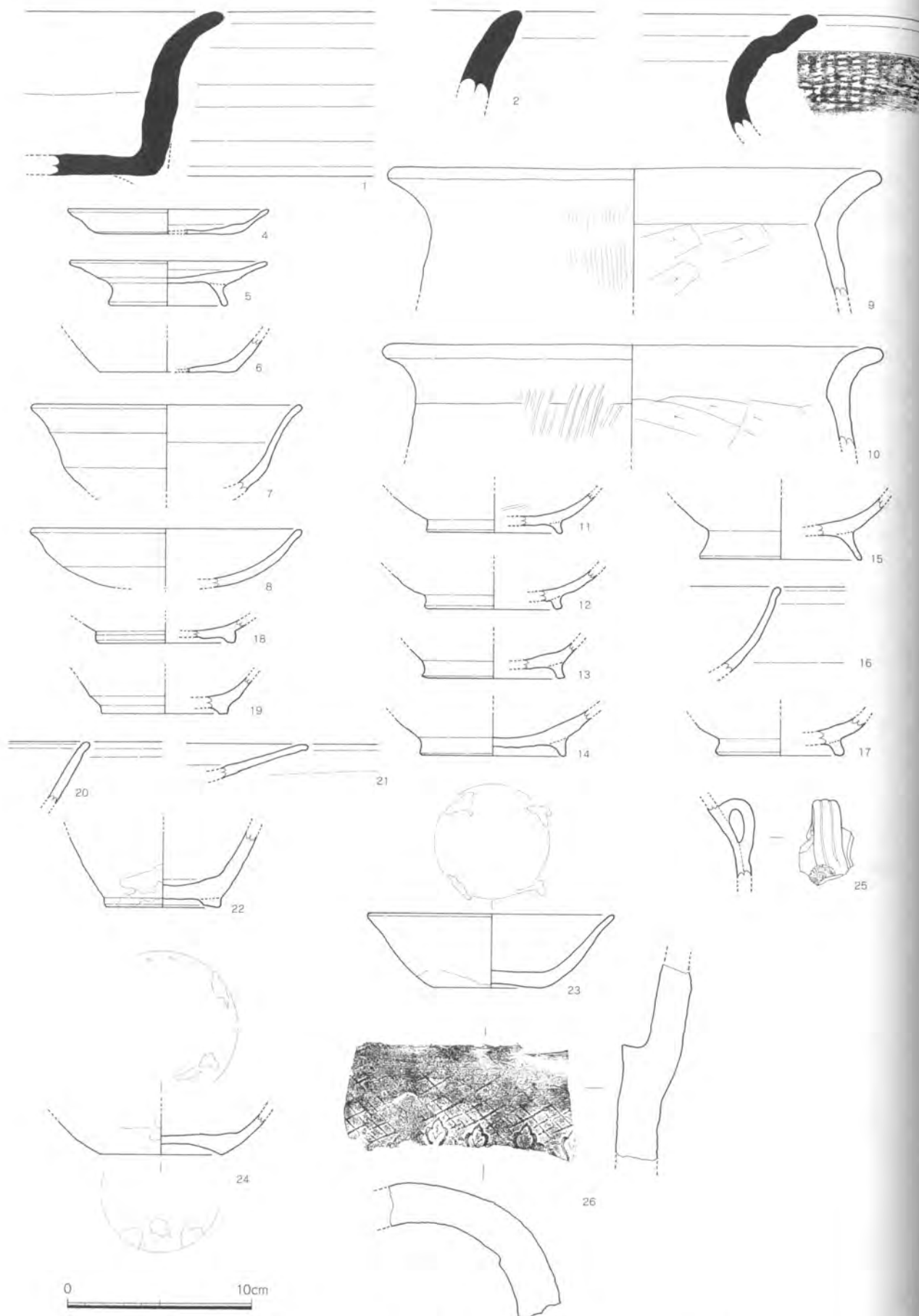


Fig.63 第2面基盤層(茶灰色粘土)出土遺物実測図① (1/3)

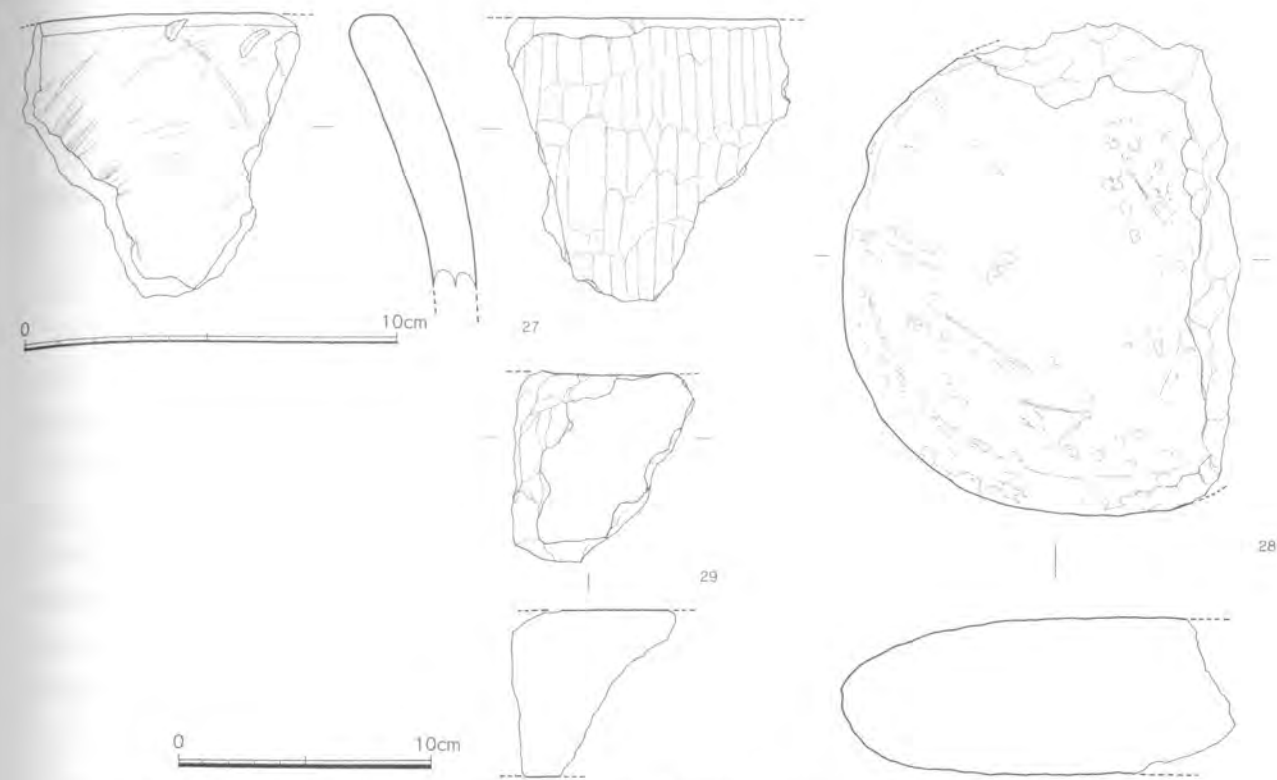


Fig.64 第2面基盤層(茶灰色粘土)出土遺物実測図② (29は1/3、1/2)

黒色土器A類

碗c (25) 全体的に磨滅するが内面に僅かにミガキcが残る。

大碗c (26) 復元高台径10.0cm。胎土は白色砂粒や金雲母などを含み、淡黄褐色を呈する。全体的に磨滅するが内面に僅かにミガキcが残る。

石製品

砥石 (27) 8.9×10.15×2.8cm。表面の剥離が目立つが約2面研磨されている。石材は3片に割れていた。安山岩。

第236-1次調査黒茶色土出土遺物 (Fig.60・61)

須恵器

碗 (1) 稜碗と呼ばれるもので、復元口径16.8cm。0.1cm以下の細砂粒を多く含み、淡灰色を呈する。

盤 (2) 復元口径29.0cm、器高9.5cm、復元底径16.6cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や黒色粒を多く含み、内面淡灰色、外面灰黄褐色を呈する。外面は回転ナデだが、強いナデで中位はやや凹んでいる。内面不定方向のナデ、底部外面ヘラケズリ。

甕 (3) 復元口径14.6cm、器高19.1cm、復元底径2.4cm。胴部上半にカキ目を施し、下半に叩きを施す。内面同心円の当て具痕があり、上部はその後回転ナデ。

大甕 (4～7) 二重口縁を有するもので、口縁部の下に叩きのあと波状文を巡らす。6・7は内面に当て具痕が残る。色調は5が暗茶褐色で、他は概ね灰褐色である。

壺 (8) 復元底径11.0cm。内面回転ナデで若干平滑である。外面はカキ目のあとヘラケズリを施す。

土師器

坏a (9～19) 復元口径12.3～13.8cm。復元底径5.6～9.0cm。底部はヘラ切りで板状圧痕を残すものもある。

碗c (20～26) 20は復元口径12.4cm、その他は底部付近で、全体的に磨滅が目立ち、21で板状圧痕が、22で回転ヘラ切りが確認できる程度である。

丸底坏a (27) 破片だが、体部中位に指頭圧痕がある。混入の可能性が考えられる。

黒色土器A類

椀c (28～34) 全体的に磨滅が目立ち、28は内面にミガキcが確認できるが、その他は僅かに確認できる程度である。復元高台径6.4～10.0cm。

黒色土器B類

椀(35) 口縁端部外面に窪み状の沈線が巡る。

緑釉陶器

皿(36) 復元口径9.6cm、器高2.7cm、復元底径4.6cm。底部外面は糸切りで、内面および外面上半部に緑灰色釉を施す。須恵質。

椀(37～41) 37は復元口径14.6cm、器高4.05cm、復元高台径7.0cm。高台は削り出し。胎土は青灰色の須恵質で光沢のある暗緑灰色釉を全面に施す。内面底部に不規則に沈線が巡る。38は内面中位で浅い段を持って屈曲する。39は須恵質で、内外面に暗緑灰色釉を厚く施す。40は須恵質で全面に明緑灰色釉を施すが、高台畳付部分は使用によって釉が剥けている。洛西産。41は復元高台径8.2cm。胎土は微細な砂粒を含むが精製された土師質である。明黄緑釉がうっすら残り、内外面の所々に黄色斑点がみられる。

灰釉陶器

皿(42・43) 42は復元高台径9.2cm、胎土が0.1cm以下の細砂粒を含む白灰色で、内面上半と外面上半に淡い緑灰色釉を施すが、かなり剥けている。また内面には重ね焼き痕跡も残す。H-72×虎溪山1窯様式とみられる。

椀×皿(44) 復元高台径9.6cm。胎土は灰白色を呈し、現存範囲には釉は確認できない。

長沙窯系青磁

水注(45) 胎土は淡灰褐色で、葡萄文のような型押しで、褐色釉を施す。

瓦類

軒平瓦(46) 瓦当部分が取れたもので、珠文は殆ど欠損する。複弁で中房は不明。

平瓦(47～49) 47・48は二重の方形枠の中に「平井瓦屋」の陰刻左字がある。細かい格子叩き。49は「平井」の文字銘がある。

金属製品

鉢滓(50) 大きさ8.9×9.85cm、厚さ最大4.0cm。いわゆる椀型滓で、表面は暗赤褐色の錆色で部分的に木炭が付いている。

叩き石(51) 縦18.5cm、横12.3cm、厚さ6.2cm。両面中央付近に敲打痕が残る。

第236-1次調査淡灰色土出土遺物 (Fig.62)

須恵器

盤(1・2) 1は胎土が0.4cm以下の白色砂粒や黒色砂粒と赤色粒を少量含み、灰色を呈する。口縁部はヨコナデ、内外面下半はヨコナデとナナメナデである。底部は接合面で剥離している。2は中位で屈曲し外反する。胎土は0.6cm以下の白色砂粒を含み、白灰色を呈する。口縁部内面にはカキ目のような痕跡を残す。その他内外面は回転ナデ。

獣脚(3) 盤のようなものから剥離した状態で、全面ナデ調整され、先端は溝が彫られ指先を表現している。胎土は0.4cm以下の白色砂粒や黒色砂粒を少量含み、色調は淡青灰色を呈する。

土師器

小皿a(4～6) 復元口径8.4～10.6cm。内外面殆ど磨滅し調整不明瞭。

小皿a2(7) 復元口径9.7cm。口縁端部の沈線は殆ど磨滅し、平坦になっている。

環a(8～16) 復元底径6.4～9.4cm。底部回転ヘラ切り。

椀c(17～19) 17・18は高い高台で、17は口縁部を若干外反させる。

丸底環a(20・21) 復元口径15.0cmと15.3cm。内外面は殆ど磨滅する。

甕(22) 胎土は白色砂粒などを含み橙褐色や灰褐色を呈する。磨滅が目立つが体部外面はタテハケ。

黒色土器A類

椀c(23・24) 復元底径7.1cmと8.0cm。磨滅するが、内面ミガキcが残る。

椀(25) 磨滅するが、内面に僅かにミガキcが残る。

緑釉陶器

皿(26) 高台は削り出しで、復元高台径6.6cm。胎土は精製され、青灰色を呈する。釉は緑灰色で光沢があり、全面に施釉する。内面底部には浅い沈線が巡る。洛西産。

灰釉陶器

壺(27) 胎土はやや暗い灰色で、底部外面は回転ヘラ切りとみられ釉はない。釉は緑灰色で、内面は回転ナデのあと薄く施釉、外面も厚く施釉する。

瓦類

軒丸瓦(28) 珠文部分。

石製品

石鍋(29) 口縁端部を平坦に作り、内外面に横方向の擦痕がある。滑石製。

石帯巡方(30) 3.5cm×3.65cm、厚さ0.7cm。裏面には紐通しの穴がある。蛇紋岩製で質が悪く非常に汚い状態である。

砥石(31・32) 31は上下欠損するが4面研磨されている。表面にはキズも見られる。32は上下欠損するが4面研磨されている。表面には条痕も見られる。

第236-1次調査茶灰色粘土出土遺物 (Fig.63・64)

須恵器

脚付盤(1) 底部端に脚部が剥落した痕跡を残す。胎土は白色砂粒を多く含み、灰色から暗灰色を呈する。内面下半と外面底部はナデ、その他はヨコナデ。

盤(2) 口縁端部で、胎土は白色砂粒を多く含み、灰色から暗灰色を呈する。内面磨滅、外面ヨコナデ。

甕(3) 二重口縁で、頸部外面は叩きでそれ以外は内外面とも回転ナデ。

土師器

小皿a(4) 復元口径11.0cm。磨滅し調整不明。

小皿c(5) 復元口径10.8cm。

環a(6) 復元底径7.4cm。磨滅し調整不明。

椀(7) 復元口径14.8cm。磨滅し調整不明。

丸底環a(8) 復元口径14.8cm。磨滅し調整不明。

甕(9・10) 9は復元口径27.0cm。胎土は粗く、茶灰色や茶褐色を呈する。外面タテハケ、内面ヘラケズリ。10は復元口径27.3cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を少量含み、橙灰色や茶褐色を呈する。外面タテハケ、内面ヘラケズリ。

黒色土器A類

椀c(11～15) 11～14は復元高台径7.4～8.0cm。15は高い高台で、復元高台径8.8cm。全体的に磨滅し、内面の磨きは僅かに確認できる程度である。

黒色土器B類

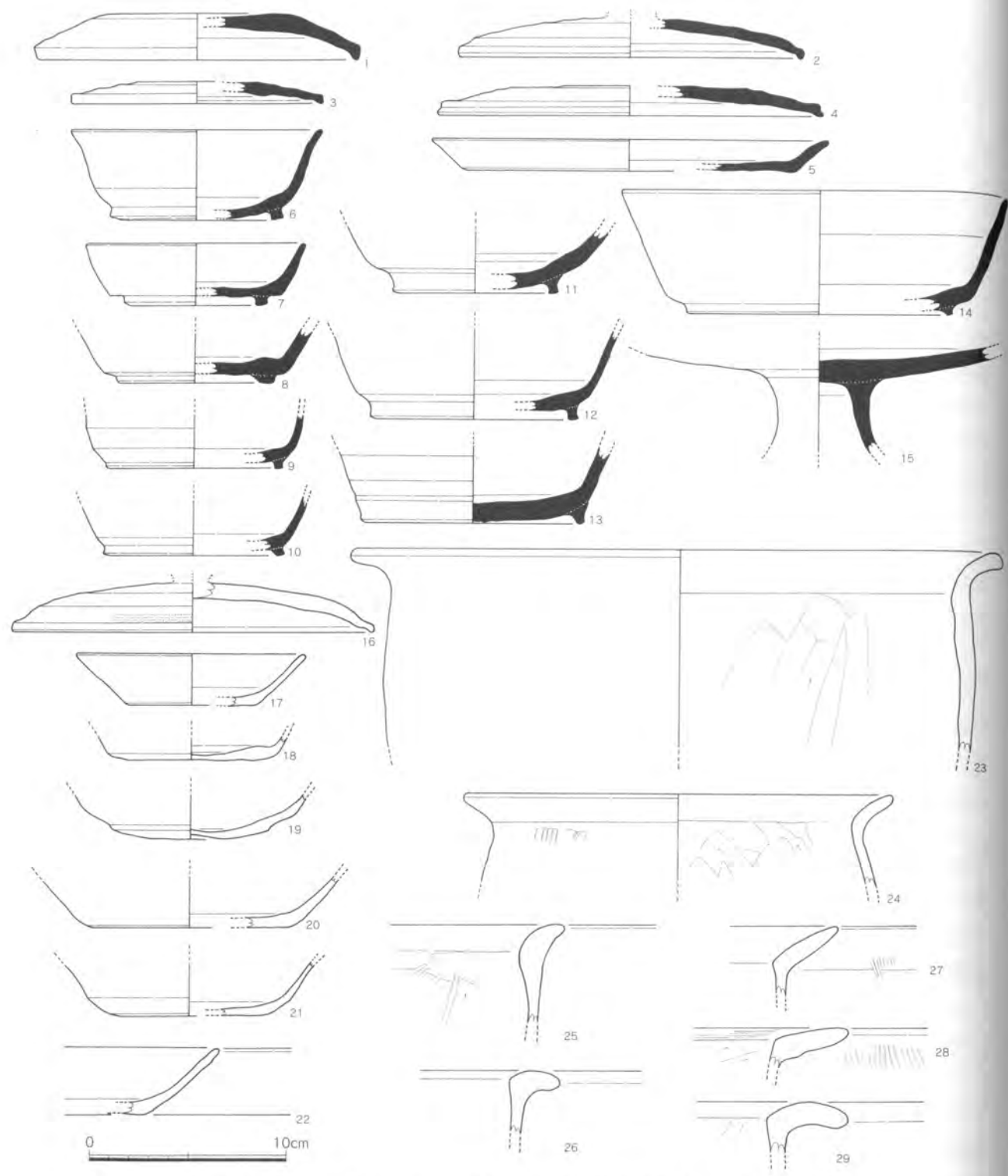


Fig.65 第2面基盤層(暗灰色粘土)出土遺物実測図① (1/3)

碗(16) 内外面磨滅する。

碗c(17) 復元高台径7.0cm。内面ミガキcを施す。

緑釉陶器

碗×皿(18) 復元高台径7.6cm。釉は淡黄緑色で光沢があり、内外面に薄く施釉する。高台と外面底部は露胎。須恵質。洛西産。

碗(19・20) 19は高台削り出しで、復元高台径6.9cm。釉は暗緑色で光沢がある。内外面とも施釉し、

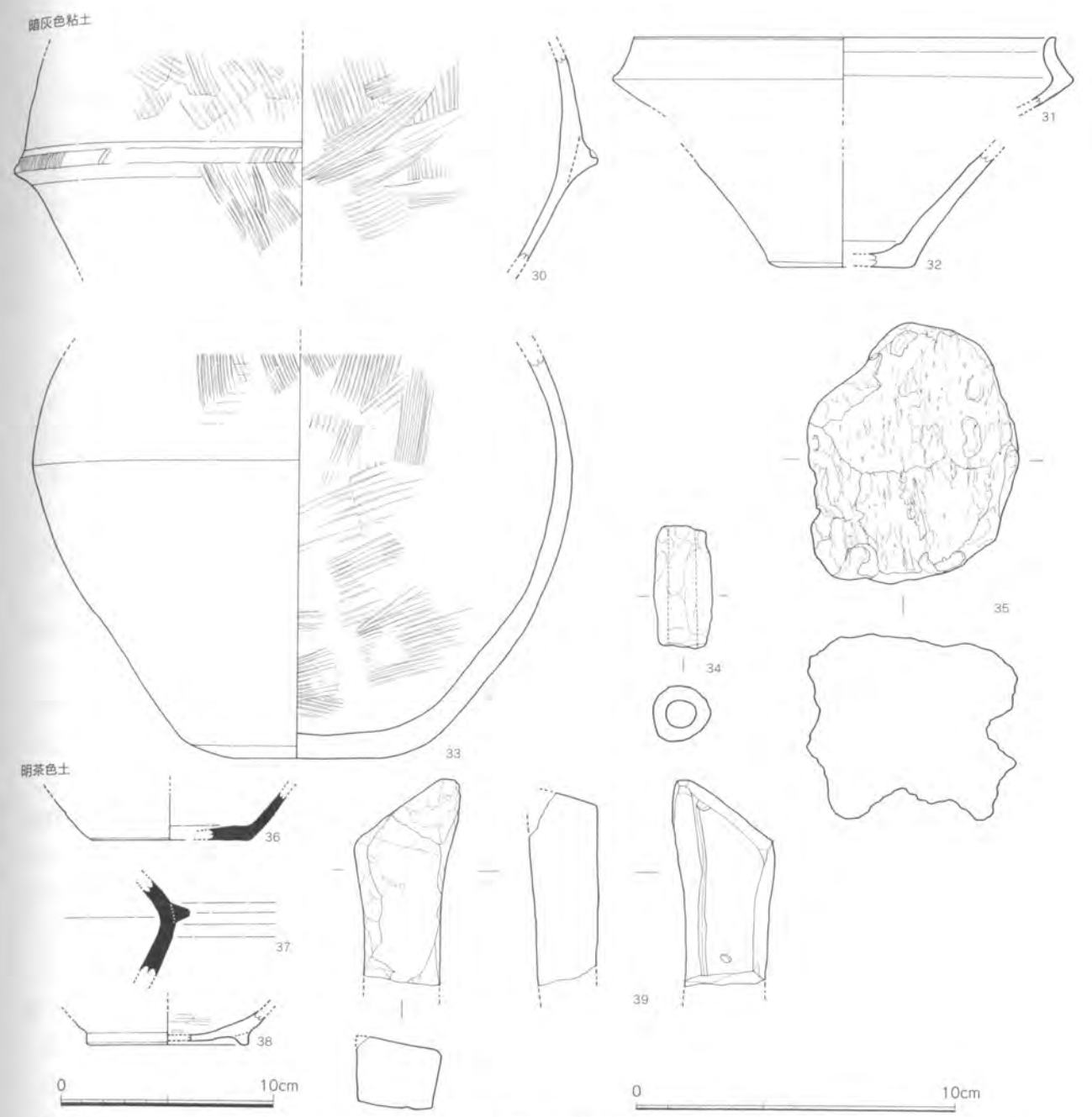


Fig.66 第2面基盤層(暗灰色粘土②、明茶色土)出土遺物実測図① (1/3、35・39は1/2)

高台部は釉を拭き取っている。須恵質。洛西産。20は胎土が精製され、色調は灰色で、釉は茶色味を帯びた緑色である。須恵質。

灰釉陶器

段皿(21) 僅かに段が確認できる。胎土は明灰黄色で、明灰緑色の釉を施す。外面回転ヘラケズリでそれ以外は全面施釉する。

壺(22) 復元高台径6.4cm。胎土はやや粗い明灰色で、釉は緑灰色で光沢がある。内面底部には釉が溜まっている。外面底部は回転ナデで、体部外面は釉が溶解できずに部分的に溜まっている。

越州窯系青磁

坏(23・24) II類。底部は上げ底状態である。胎土は黒色粒を多く含み、緑灰色や茶緑色の釉を薄めに施す。内面に目跡があり、外面底部端にも目跡が残るが削られている。外面下半と底部は露胎である。23は復元口径13.4cm、器高4.0cm、底径5.9cm。24は底径6.6cm。

長沙窯系青磁

水注(25) 耳部分で、胎土は精製され、黄灰色を呈する。釉は淡い黄白色でその上に褐釉を掛けている。一部剥落する。内面回転ナデで露胎である。

瓦類

丸瓦(26) 外面は小さい格子叩きとナデ調整。内面に布目痕が残る。

石製品

石鍋(27) 内面はケズリ、外面は横方向に細かく削る。

磨石(28) 欠損していて、現存する大きさは13.2×10.5cm、厚さ4.2cmの円形をなす。礫岩。

土製品

埴(29) 胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、焼成は不良である。

第236-1次調査暗灰色粘土出土遺物 (Fig.65・66)

須恵器

蓋a3(1) 外面上部はヘラ切り未調整、外面中位の屈曲部は回転ヘラケズリ。内面上半部は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。復元口径16.2cm。

蓋c3(2) ツマミは欠落するが、ツマミ接合のための回転ナデが残る。外面は回転ナデ、内面上半部はナデ。復元口径17.4cm。

蓋3(3・4) 3は小型で復元口径12.6cm。外面上半部は回転ヘラケズリ。4は外面上半部が粗いナデで、頂部はヘラ切り未調整。復元口径19.6cm。

皿a(5) 底部外面はヘラ切り、内面はナデ、その他は回転ナデである。復元口径20.2cm。

坏c(6~14) 復元高台径7.2~13.6cmで、10や14のように低い貧弱な高台を貼付する。内面底部は不定方向のナデ、外面底部はヘラ切り未調整、その他は回転ナデ。色調は概ね淡灰色を呈する。

高坏(15) 坏部外面回転ヘラケズリ、内面不定方向のナデ。脚部は内外面とも回転ナデ。焼成・還元はやや不良で淡灰白色を呈する。

土師器

蓋c(16) ツマミは欠損するが、接合の回転ナデが残る。外面ヘラケズリのあとミガキaを施す。復元口径18.4cm。

坏a(17~22) 残存しているものは底部がヘラ切り、底部内面はナデである。

甕(23~29) 概ね胎土は白色砂粒や金雲母を多く含む。焼成はやや不良である。体部内面ヘラケズリ。口縁端部ヨコナデである。23は復元口径33.6cm、24は復元口径21.8cm、淡茶色を呈する。外面ハケで、くびれ部分には煤が付着する。25は口縁部を肥厚させる。27はくびれ部にハケ目が確認できる。色調は橙灰色を呈する。28は口縁部内面がヨコハケ、外面タテハケ。29の色調は灰白色を呈する。

弥生土器

壺(30・31) 30は胴部中位に刻み目突帯を巡らす。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、灰黒色や灰白色を呈する。外面ハケ、下半にはやや煤が付着する。内面は細かいハケ調整。31は複合口縁で、胎土は粗く、灰白色を呈する。内外面ヨコナデ。

甕(32・33) 32は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、淡茶灰色を呈する。内外面は磨滅し調整不明。黒斑がある。33は胎土がやや粗く0.3cm以下の白色砂粒を多く含む。底部は平坦だが、体部との境は丸い。外面は磨滅するが上部に細かいタテハケが残る。内面は上半部が細かいハケ、下半が粗いハケ調整である。色調は淡茶灰色である。

土製品

土錘(34) 縦5.75cm、径2.7×2.6cm。0.1cm以下の白色砂粒を僅かに含む。須恵質。

石製品

軽石(35) 大きさは8.2×6.15×5.8cm。

第236-1次調査明茶色土出土遺物 (Fig.66)

須恵器

坏c(36) 底部ヘラ切り未調整。その他は回転ナデ。

壺e(37) 胴部の突帯部分。内外面とも回転ナデで、外面には灰かぶりや自然釉が掛かる。

黒色土器A類

椀c(38) 復元高台径7.6cm、内面ミガキcである。

石製品

砥石(39) 大きさ6.5×3.0×2.2cmの方形。4面で研磨が見られ、一部に刃物痕が残る。

○第3調査面

掘立柱建物

236-1SB040h出土遺物 (Fig.67)

須恵器

蓋1(1) 内外面回転ナデ調整。

236-1SB040k出土遺物 (Fig.67)

木製品

柱材(2) 掘り方に遺存していた柱痕の底部である。全体的に腐食し、三角錐の形状をなしている。下端には腐食しているが、方形孔が穿たれている。大きさは高さ40.5cm、径21.9×17.2cm。

236-1SB420a黄色土出土遺物 (Fig.67)

須恵器

坏c(3) 端部は僅かに摘み出す。上半部がナデ、その他内外面は回転ナデ。

土師器

蓋3(4) 外面上半部がヘラケズリ、その他は回転ナデ。

236-1SB420b茶灰色土出土遺物 (Fig.67)

須恵器

蓋3(5) 内外面回転ナデ。

大椀c(6) 復元高台径12.0cm。内面底部がやや平滑になっている。

236-1SB480c出土遺物 (Fig.67)

木製品

柱材(7) 掘り方に遺存していた柱痕の底部である。腐食が目立ち、内部は空洞になっている部分も多い。また、表面も残る部分は殆どないが、僅かに削ったような痕跡が下端に残る。そして、下端には腐食が目立つが方形の削り込みが確認できる。大きさは高さ32.7cm、径22.5×18.5cm。

236-1SB480f出土遺物 (Fig.67)

木製品

柱材(8) 掘り方に遺存していた柱痕の底部で、今回の調査で最も保存が良好であった建築部材である。中心部は空洞化している。大きさは高さ59.2cm、径22.0×19.5cm。

236-1SB480h柱痕出土遺物 (Fig.67)

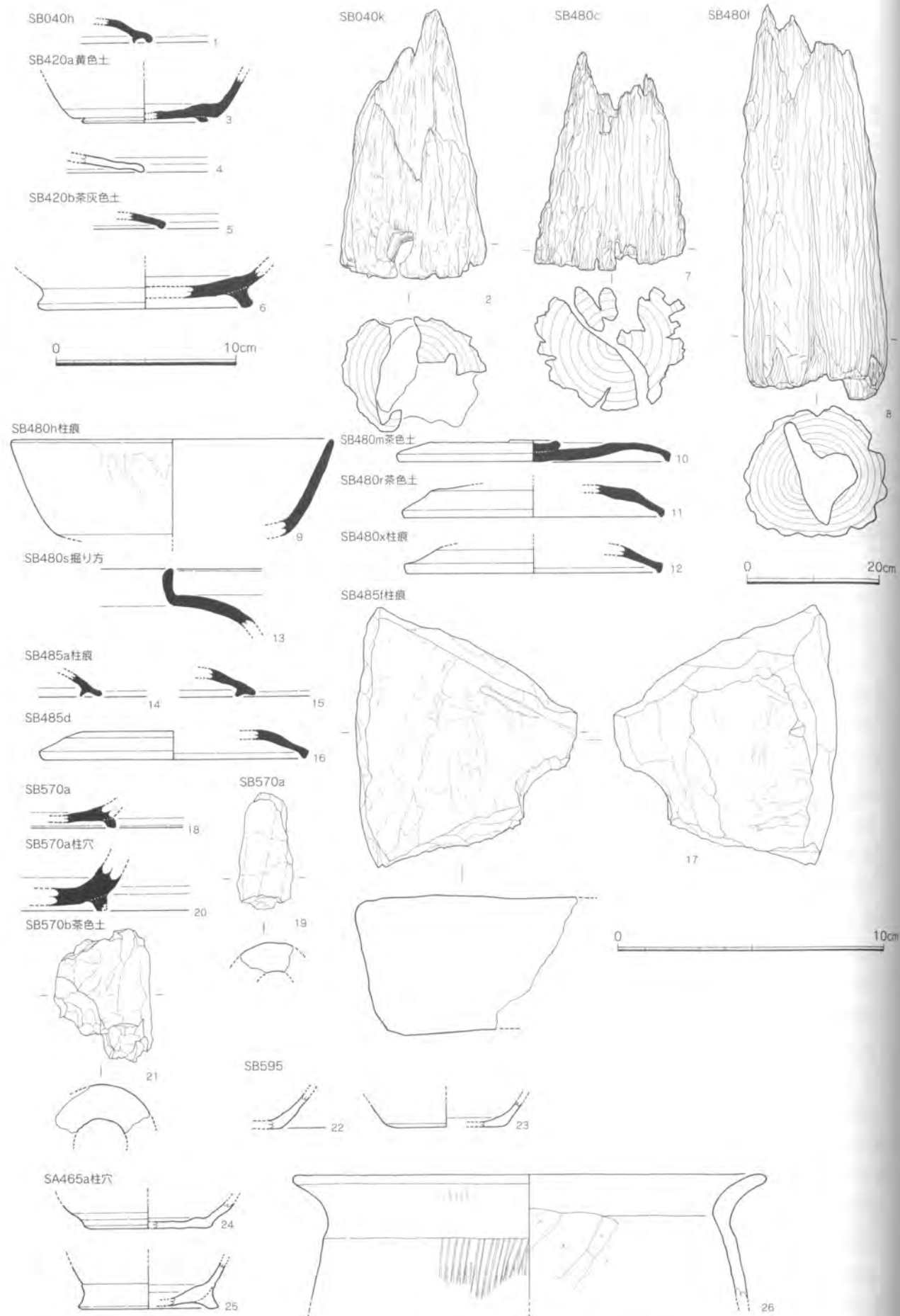


Fig.67 第3調査面掘立柱建物・柵列出土遺物実測図 (1/3, 17は1/2, 2・7・8は1/8)

須恵器

大椀 (9) 復元口径18.0cm。内面全面に濃茶色の漆がベトリ付着する。口縁部外面にも漆が垂れている。

236-1SB480m茶色土出土遺物 (Fig.67)

須恵器

蓋c3 (10) 復元口径15.2cm。外面中位部分が回転ヘラケズリ、その両側は回転ナデ。内面半分が不定方向のナデで、墨が部分的に付着し、硯に転用されたものと考えられる。

236-1SB480r茶色土出土遺物 (Fig.67)

蓋3 (11) 復元口径14.6cm。外面上半部が回転ヘラケズリ。内面一部不定方向のナデ。内面がやや研磨されている。転用硯の可能性はある。

236-1SB480x柱痕出土遺物 (Fig.67)

蓋3 (12) 復元口径14.4cm。外面上半部が回転ヘラケズリ。

236-1SB480s掘り方出土遺物 (Fig.67)

須恵器

短頸壺 (13) 内外面とも回転ナデで、口縁端部を丸く仕上げる。

236-1SB485a柱痕出土遺物 (Fig.67)

須恵器

蓋1 (14・15) 現存範囲では内外面とも回転ナデ。15は還元悪く、淡茶灰色を呈する。

236-1SB485d出土遺物 (Fig.67)

蓋3 (16) 復元口径15.0cm。上半部が回転ヘラケズリで、その他内外面回転ナデ。

236-1SB485f柱痕出土遺物 (Fig.67)

石製品

砥石 (17) 2面が研磨され、一部敲打痕もみられる。大きさは9.7×8.3×5.2cm。砂岩。

236-1SB570a出土遺物 (Fig.67)

須恵器

坏c (18) 方形の高台を貼付し、底部内面回転ナデ、底部外面回転ヘラ切り。

土製品

鞆羽口 (19) 胎土は0.4cm以下の白色砂粒や雲母を含み、外面は熱によって青灰色や白褐色などに変色する。厚さは1.7cmほどである。

236-1SB570a柱穴出土遺物 (Fig.67)

須恵器

壺 (20) 体部外面ヘラケズリ、内面回転ナデ。焼成は良好で青灰色を呈する。

236-1SB570b茶色土出土遺物 (Fig.67)

土製品

鞆羽口 (21) 胎土は0.4cm以下の白色砂粒や雲母を含み、外面は熱によって橙褐色や白褐色などに変色する。厚さは1.9cmほど。

236-1SB595出土遺物 (Fig.67)

土師器

坏a (22・23) 2点とも内外面磨滅し調整不明。23は復元高台径7.0cm。S-996より出土。

柵列

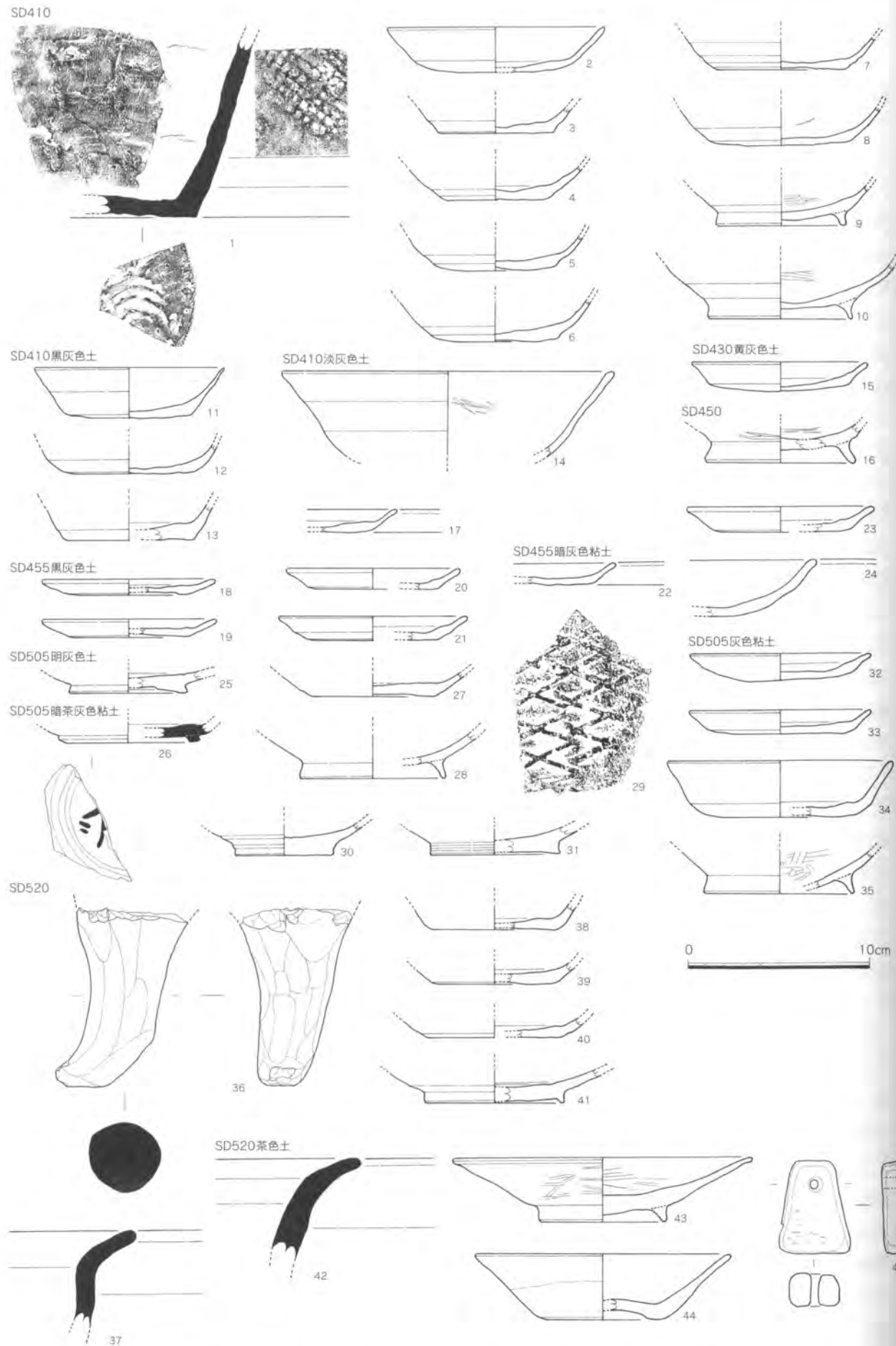


Fig.68 SD410・430・455・505・520出土遺物実測図(1/3)

236-1SA465a柱穴出土遺物 (Fig.67)

土師器

坏a (24) 復元底部径7.2cm。底部回転ヘラ切り、内面底部不定方向のナデ。色調は灰白色を呈する。

碗c (25) 高台を体部下半に貼付する。復元高台径7.8cm。内面底部不定方向のナデ。

甕 (26) 復元口径26.4cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒と金雲母を多く含む。口縁部はヨコナデ、体部外面はタテハケ、内面はヘラケズリである。

溝

236-1SD410出土遺物 (Fig.68)

須恵器

壺 (1) 焼成・還元良好で、内面黒灰色、外面明灰色を呈する。体部下端は回転ヘラケズリ、その上は叩き、内面はナデである。底部外面には同心円の当て具痕があり、一部自然釉が掛かる。

土師器

坏a (2~8) 復元底径6.4~8.0cm。底部回転ヘラ切り。2は復元口径12.0cm。色調は全体的に黄白色を呈する。

黒色土器A類

碗c (9・10) 復元高台径7.2cmと8.0cm。内面にミガキcが僅かに確認できる。

236-1SD410黒灰色土出土遺物 (Fig.68)

土師器

坏a (11~13) 復元底径6.8~7.2cm。底部回転ヘラ切り、内面底部不定方向のナデ。色調は12が淡茶灰色で他は黄白色を呈する。

236-1SD410淡灰色土出土遺物 (Fig.68)

黒色土器A類

碗c (14) 復元高台径18.4cm、磨滅目立つが内面ミガキc、外面ヨコナデ。

236-1SD430黄灰色土出土遺物 (Fig.68)

土師器

小皿a (15) 口径9.7cm。外面底部回転ヘラ切り、内面底部ナデ。

236-1SD450出土遺物 (Fig.68)

黒色土器B類

碗c (16) 復元高台径8.3cm、内外面に僅かにミガキcが確認できる。

236-1SD455黒灰色土出土遺物 (Fig.68)

土師器

小皿a (17~21) 復元口径9.4~10.4cm。底部回転ヘラ切り。

236-1SD455暗灰色粘土出土遺物 (Fig.68)

土師器

小皿a (22・23) 22は磨滅しているが、底部に板状圧痕が残る。23は復元口径10.2cm、外面底部ナデ調整する。

丸底坏 (24) 外面下半回転ヘラ切り痕残す。

236-1SD505明灰色土出土遺物 (Fig.68)

緑釉陶器

皿 (25) 復元底径6.4cm、高台削り出しで、内面底部と高台畳付に浅い沈線が巡る。内外面にやや光

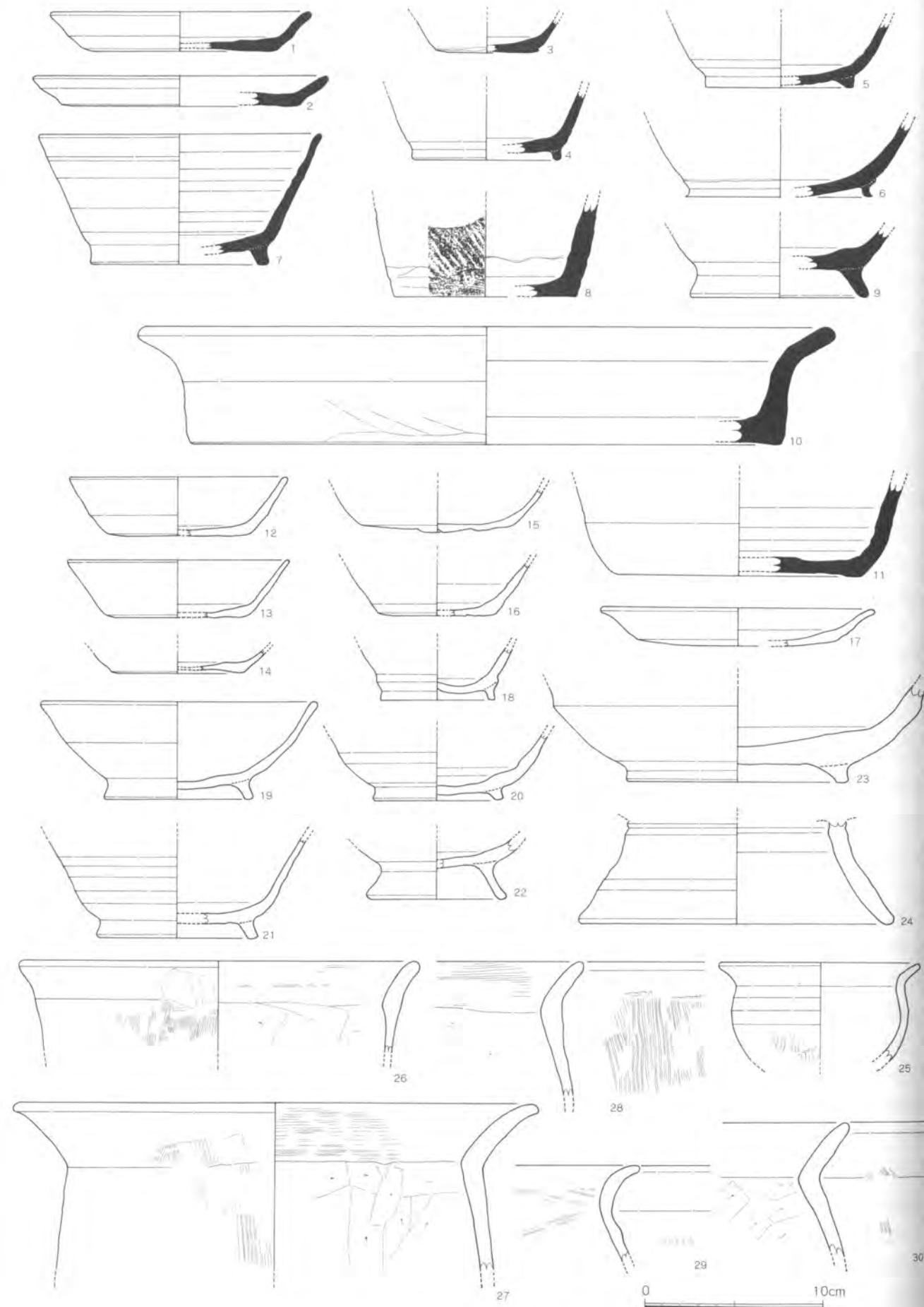


Fig.69 SD515出土遺物実測図① (1/3)

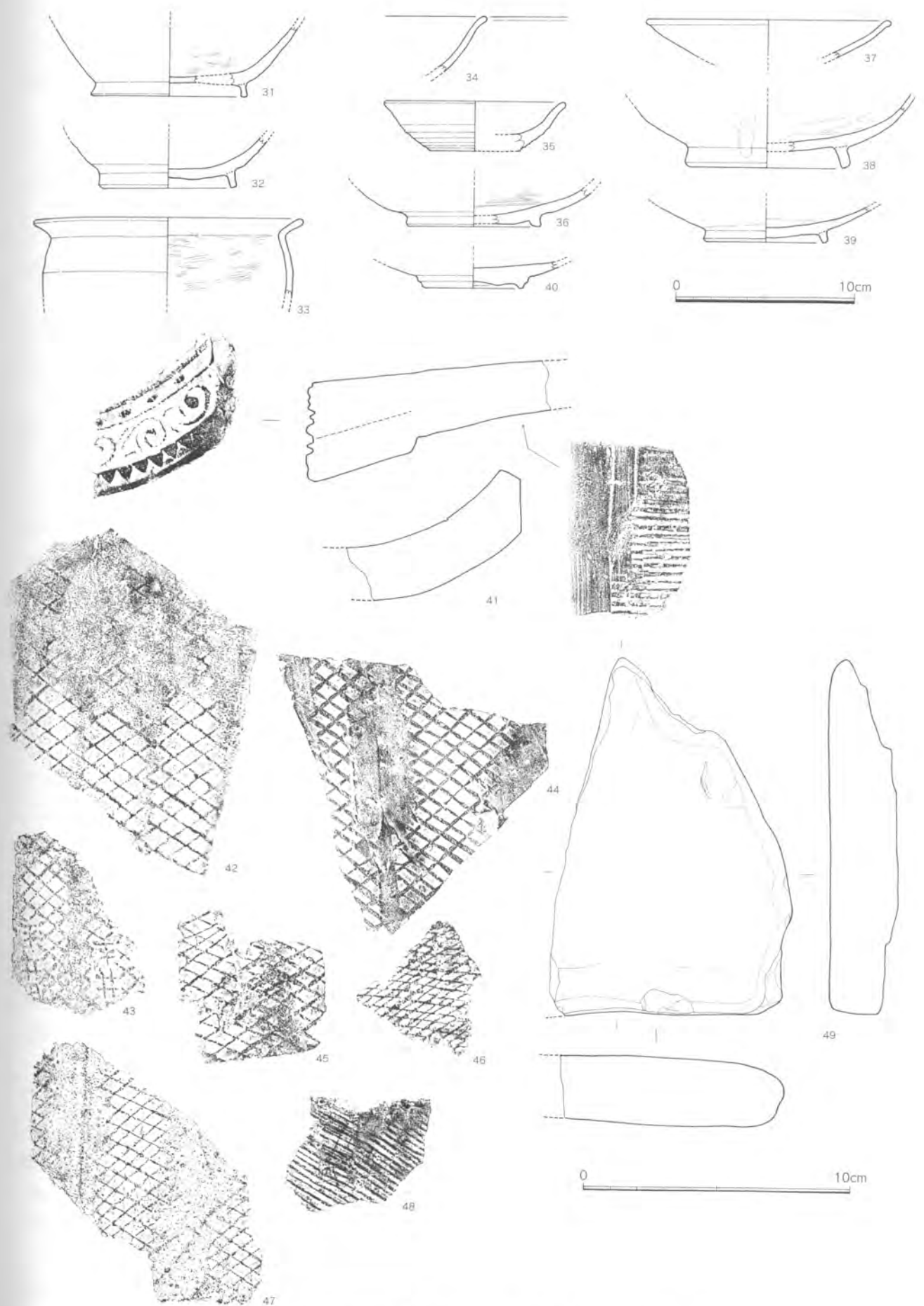


Fig.70 SD515出土遺物実測図② (1/3、49は1/2)

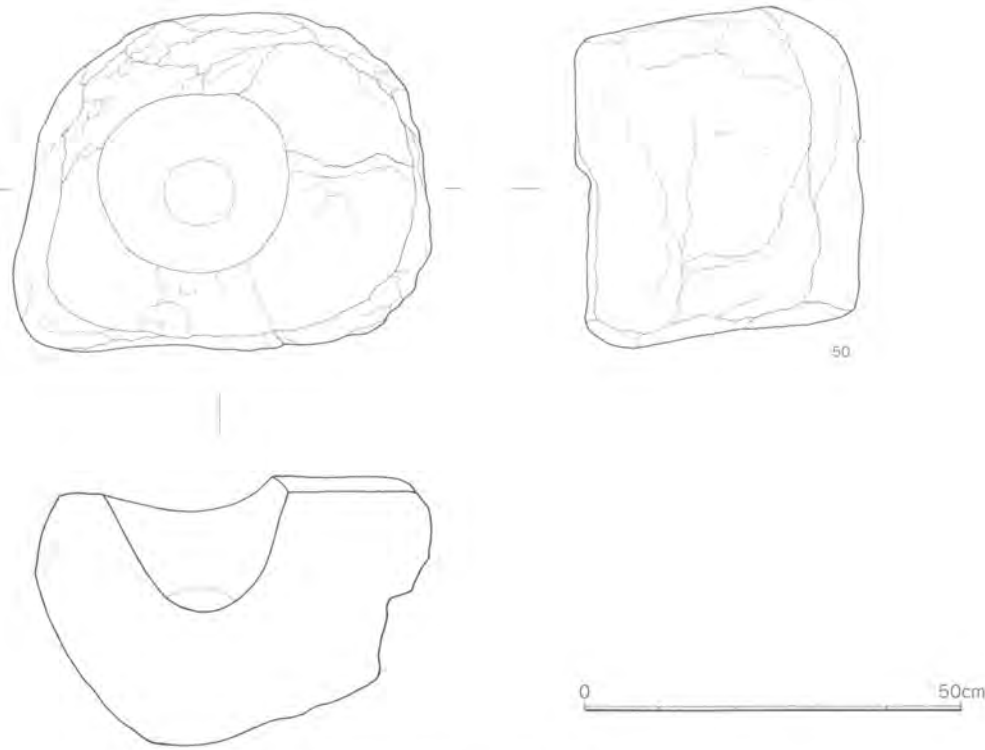


Fig.71 SD515出土遺物実測図③ (1/10)

沢のある緑灰色釉を薄く施釉する。胎土は淡灰色で須恵質。京都産。

236-1SD505暗茶灰色粘土出土遺物 (Fig.68)

須恵器

坏c (26) 復元高台径7.8cm。底部外面に墨書があるが、欠損し文字は読めない。

土師器

小皿a (27) 復元底径7.0cm。磨滅目立つが底部に板状圧痕を残す。

碗c (28) 復元高台径8.0cm。磨滅で調整不明。

瓦類

平瓦 (29) 横長の格子叩き。

緑釉陶器

碗×皿 (30・31)

2点とも円盤高台で、30は須恵質で、回転糸切りの削り出し高台で、底径5.4cm。外底以外に光沢のある濃い緑色釉をきれいに施す。31は高台削り出しで、復元底径7.2cm。須恵質だが胎土は茶橙色をなす。全面に薄い光沢のある透明釉を施す。

236-1SD505灰色粘土出土遺物 (Fig.68)

土師器

小皿a (32・33) 復元口径10.0cm、底部回転ヘラ切り。

坏a (34) 復元口径12.4cm、底部回転ヘラ切り。

黒色土器A類

碗c (35) 復元高台径8.3cm、内面ミガキc。

236-1SD515出土遺物 (Fig.69～71)

須恵器

皿a (1・2) 1は底部ヘラ切り後未調整。その他は回転ナデ。2は底部に一部板状圧痕が残る。内面底

部ナデ、焼成はやや不良で白灰色を呈する。

小坏a (3) 底部外面回転ヘラ切り、内面不定方向のナデ。色調は青灰色を呈する。

坏c (4～6) 復元高台径8.4～10.4cm。5は体部下半回転ヘラケズリ。6は細い高台を貼付する。内面底部ナデ、外面底部回転ヘラ切り。

大碗c (7) 内面不定方向のナデ、その他は回転ナデ。色調は淡青灰色を呈する。

壺 (8・9) 8は胎土が白色砂粒や黒色粒を含み、白灰色～青灰色を呈する。外面下端が回転ヘラケズリ、その上は平行叩き、内面はヨコナデ。復元底径10.2cm。9は復元高台径10.0cm。内外面とも回転ナデ。

盤 (10) 復元口径39.0cm、器高6.6cm、復元底径33.0cm。胎土は0.5cm以下の白色砂粒を多く含み、淡灰色を呈する。外面底部は不定方向のナデ。外面下端がヘラケズリ、その上が斜め方向の強いナデ、その他はヨコナデである。

鉢b (11) 復元底径14.0cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を含み、淡青灰色を呈する。底部外面は回転ヘラ切り後ナデ、内面底部はナデ、その他は回転ナデ。

土師器

坏a (12～16) 復元底径6.6～8.5cm。底部回転ヘラ切り。12は復元口径12.2cm。内面と外面底部に漆が薄く付着していて、口縁部内面には漆を取る際に削ったような痕跡を残す。13は復元口径12.4cm。色調は全体的に黄白色を呈する。

皿a (17) 復元口径13.4cm。底部は歪み、磨滅も目立つ。

坏c (18) 胎土は0.3cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み粗い。内面には明橙褐色に塗られているが、かなり剥がれている。復元高台径6.4cm。

碗 (19) 復元口径15.5cm。内外面磨滅し調整不明。

碗c (20～22) 22は高い高台を貼付する。復元高台径7.8cm。

鉢 (23) 復元高台径12.4cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を含み、淡い橙白色を呈する。外面中位で屈曲する。全体的に磨滅し調整不明。

脚付鉢 (24) 5.7cm程の脚部で、復元高台径17.6cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や赤色粒を含み、白褐色や淡黄褐色を呈する。

小甕 (25) 復元口径11.4cm。磨滅が著しいが体部下半にタテハケが確認でき、その他は回転ナデ。胎土は多くの砂粒を含み、外面は黄褐色～灰褐色を呈する。

甕 (26～30) 概ね口縁部内面ヨコハケ、体部内面ヘラケズリ、外面はタテハケを施す。橙褐色を呈する。26は復元口径22.4cm。口縁部外面に炭化物が付着する。27は復元口径29.4cm、胎土は0.4cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、口縁部内面はヨコハケのあとナデを行う。

黒色土器A類

碗c (31・32) 31は復元高台径8.8cmで、底部に漆が残る。外面の色調は橙灰色を呈する。32は復元高台径7.7cmで、外面底部に板状圧痕が残る。外面の色調は黄灰色を呈する。

甕 (33) 復元口径15.2cm、内面ミガキcで炭化物が僅かに付着している。外面は磨滅する。外面の色調は橙色や淡茶色などを呈する。

緑釉陶器

碗 (34～36) 34は胎土が淡い青灰色の須恵質で、全面に暗緑灰色の釉を掛ける。35は復元口径10.2cm、器高2.8cm、復元底径5.1cm。胎土は須恵質で、その他は回転ナデのあと光沢のある灰緑色釉を全面施釉、しかし、外面底部は露胎である。36は高台削り出しで、復元高台径7.6cm。胎土は淡灰色で精製され、全面光沢のある淡緑灰色釉を施し、内面はミガキの後施釉する。須恵質。

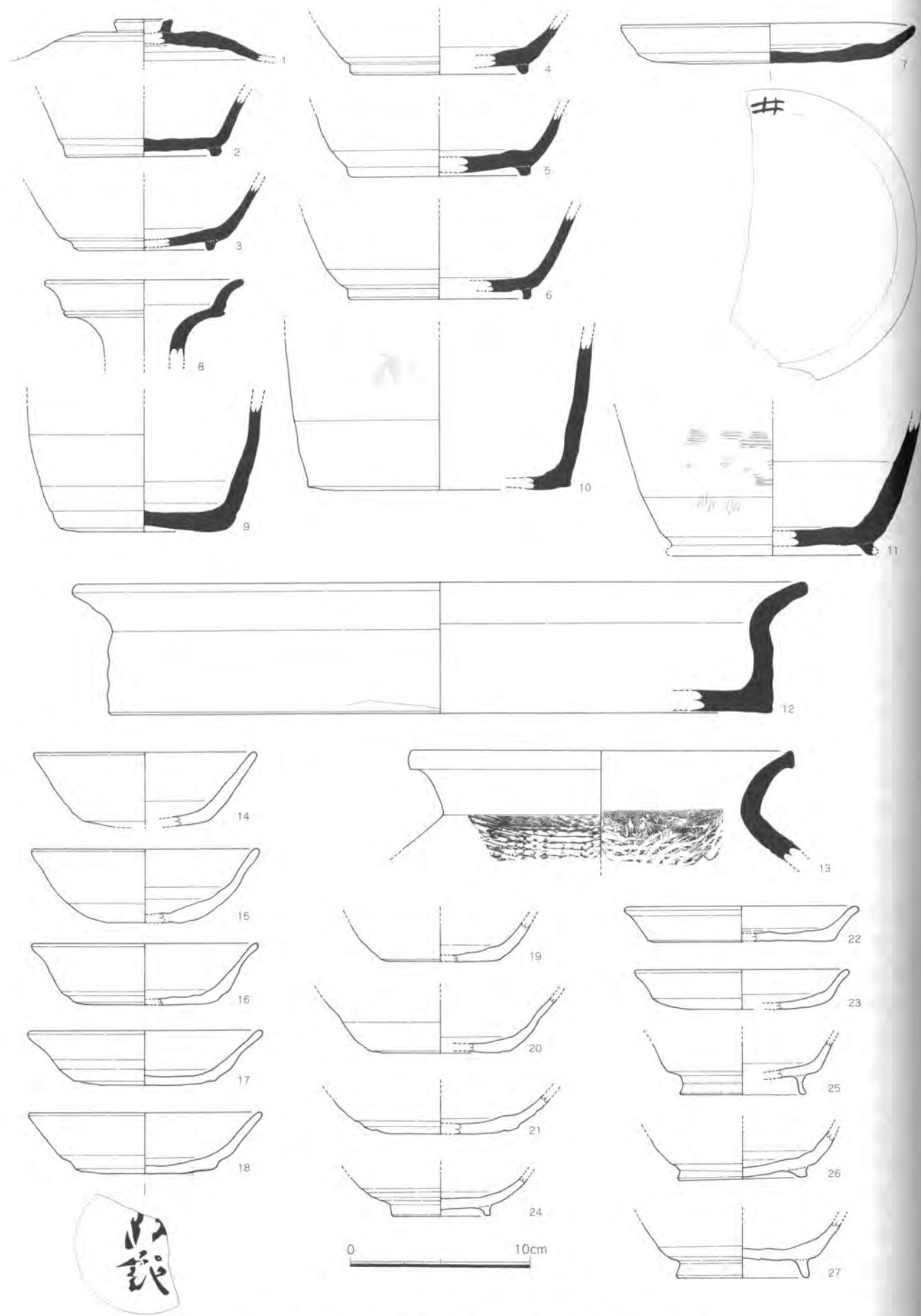


Fig.72 SD515茶色土出土遺物実測図① (1/3)

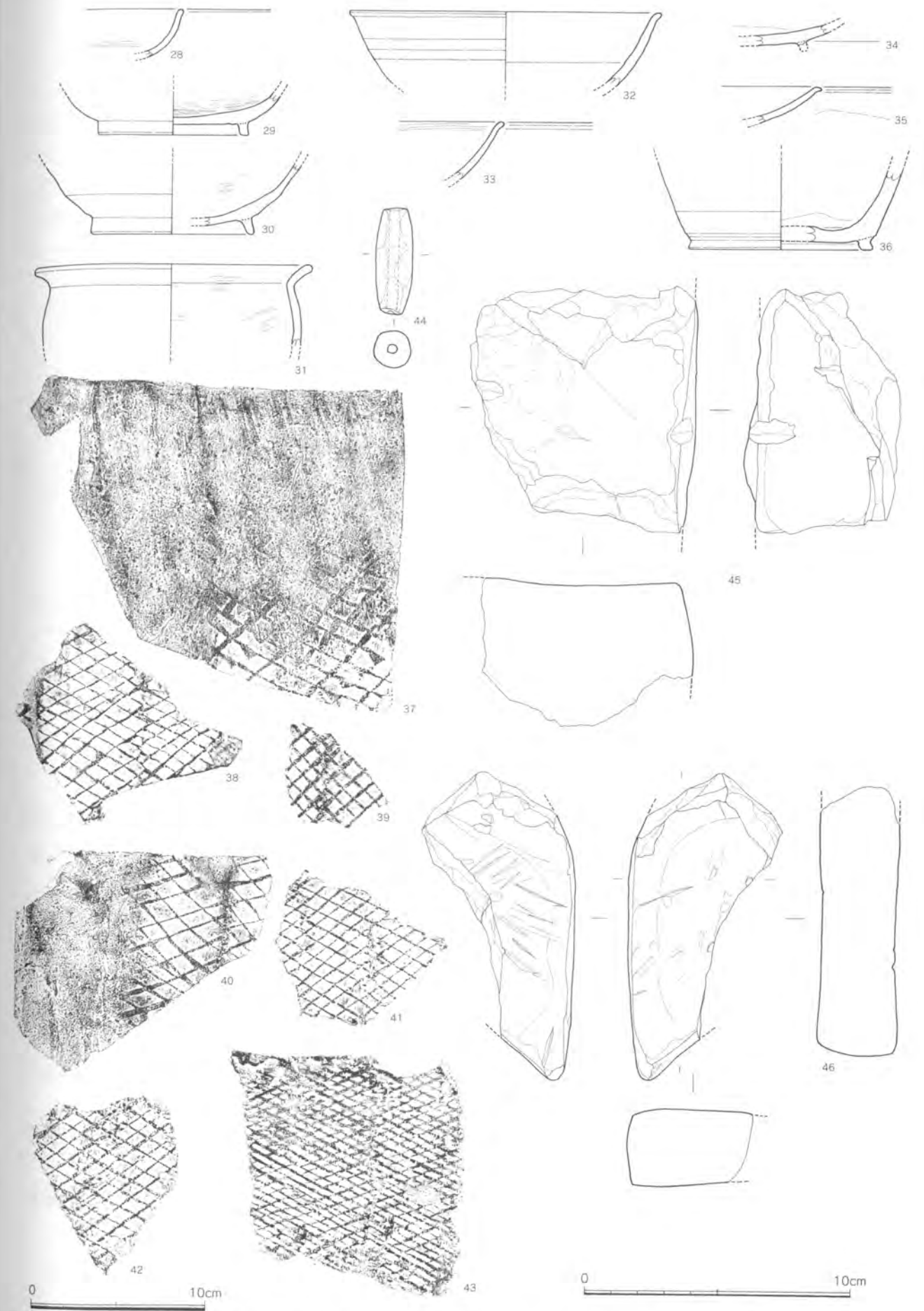


Fig.73 SD515茶色土出土遺物実測図② (1/3、45・46は1/2)

灰釉陶器

皿 (37) 復元口径13.8cm。胎土は白灰色を呈し、釉は淡灰緑色で、回転ナデのあと施釉される。外面は薄く透明、内面はやや緑色が濃い。

碗 (38・39) 38は復元高台径9.3cm。胎土は白灰色を呈し、釉は淡灰緑色で、内面は回転ナデのあと部分的に施釉される。外面も部分的に施釉される。H-72×虎溪山1窯様式。39は復元高台径7.0cm。釉は淡緑灰色で内外面とも中位まで薄く施釉する。内面底部は平滑である。

越州窯系青磁

碗 (40) 底部は削り出しで、復元高台径5.6cm。高台の形状が2段になっている。釉は淡い緑褐色で、高台畳付以外全面施釉。I類。

瓦類

軒平瓦 (41) 均整唐草文で、瓦当の上下はヘラケズリで、凹面はヘラケズリの後ナデ。凸面は平行叩きで、一部にぼんやり赤色顔料が残る。凹面は布目痕。

丸瓦 (42・43) 格子叩きで、43は「平井」の文字瓦。

平瓦 (44～48) 44～47は斜格子叩き。46はやや小さい斜格子叩き。48は平行叩き。

石製品

砥石 (49) 平らな砂岩製で、使用面は3面である。残存長13.5×9.1cm、厚さ2.7cm。

礎石 (50) 検出時は穴を下にした状態で出土した。大きさは55.0×45.0cm、厚さ34.0cm。中央に径23.5～24.5cm、深さ15cmの穴が彫られている。表面は平坦であるが人為的なものかの判別は難しい。この石の用途は難しいが、軸受け部分の礎石である可能性が考えられる。

236-1SD515茶色土出土遺物 (Fig.72・73)

須恵器

蓋b (1) 外面頂部は回転ヘラケズリ、内面回転ナデのあと一部不定方向のナデ、その他は回転ナデ。ツマミ径3.2cmで、端部に段が巡る。色調は淡灰白色を呈する。

坏c (2～6) 焼成は良好で、灰色または青灰色を呈する。内面底部は不定方向のナデ。2は外面底部ヘラ切り未調整、その他は回転ナデ。5は体部外面ヘラケズリ、僅かに自然釉がみられる。6は内面に漆のような付着物がある。

皿a (7) 復元口径16.6cmで、底部回転ヘラ切り未調整。体部外面に「井」の墨書が書かれている。色調は淡灰色を呈する。

壺 (8～11) 8は複合口縁部分で、復元口径11.0cm。屈曲部は明瞭に稜を作り出している。内外面とも回転ナデで赤褐色や紫灰色を呈する。9は復元底径9.4cm、内面回転ナデ、外面下端が回転ヘラケズリ。底部外面ヘラ切り後ナデ。10は復元底径14.6cm、内面粗いナデ、外面は叩きの後ナデ、体部下半は回転ヘラケズリ。11は先端を欠損するが、外開きの低い高台を貼付する。内面回転ナデ、外面叩きのあとナデ。外面下半は回転ヘラケズリ、底部外面は回転ヘラ切りのあと粗いナデ。復元高台径約11.8cm。

盤 (12) 復元口径40.8cm、器高7.3cm、復元底径36.8cm。外面下端は回転ヘラケズリ、底部外面は不定方向のナデ、その他内外面回転ナデ。口縁部は大きく外反させる。

甕 (13) 復元口径21.4cm。頸部外面は叩きの後回転ナデ、体部外面は格子叩き、同心円当て具痕を残す。

土師器

坏a (14～21) 復元口径12.4～13.0cm。底部回転ヘラ切り。14・17・18は内面底部が不定方向のナデ。15・17は内面底部回転ナデで、一部不定方向のナデ。16は回転ナデ。色調は全体的に黄白色だが、14

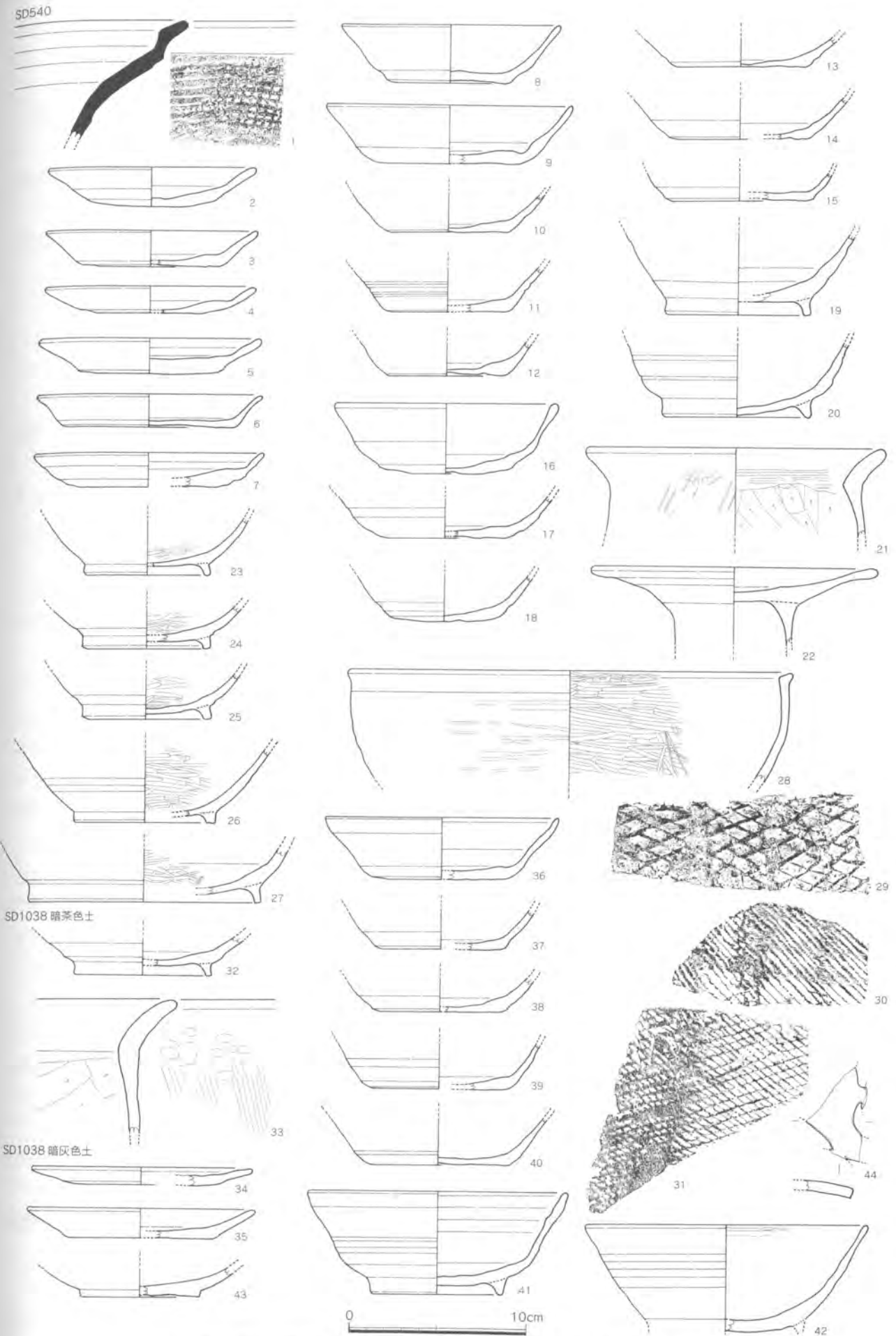


Fig.74 SD540・1038出土遺物実測図 (1/3)

が橙褐色、15・17・20が若干黄色味や橙色を帯びている。18は底部外面に墨書があるが全体的に薄く、途切れている部分もあり、その内容は不明である。

皿a (22・23) 復元口径12.0cm。22は外面底部回転ヘラケズリ後ナデ。23は外面底部回転ヘラ切り、底部内面は不定方向のナデ。

碗c (24～27) 復元高台径5.5～7.4cm。色調は黄白色で14のみ橙色である。25は細く高い高台を貼付する。26はやや歪んでいる。

黒色土器A類

碗 (28) 磨滅するが底部内面付近にミガキが残る。

碗c (29) 高台径8.4cm。底部外面には板状圧痕が残る。内面ミガキc。外面の色調は橙黄色を呈する。

黒色土器B類

碗c (30) 復元高台径9.2cm。内面には僅かにミガキcが残り、外面は茶灰色や暗橙色を呈する。黒色化が甘い。

甕 (31) 復元口径15.8cm。磨滅しているが、僅かに内面にミガキが確認できる。胎土は0.1cm以下の白色砂粒を含み、焼成はやや不良で、外面橙褐色を呈する。

緑釉陶器

碗 (32・33) 32は復元口径17.6cm。胎土は淡灰色で、土師質である。釉は淡い黄緑色で、内外面に施釉するが、かなり剥げ落ちている。また、内外面とも黄色の斑点がある。33は全面に淡灰緑色の釉を薄く掛ける。須恵質。

灰釉陶器

皿 (34) 内面に薄く淡灰緑色釉が薄く掛かる。外面は露胎で、回転ナデ。

碗 (35) 口縁端部を外に屈曲させる。胎土は白灰色で精製され、釉は淡緑色で内面と外面上半部に薄く施釉する。

壺 (36) 復元高台径10.4cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を含み淡灰色を呈する。釉は緑灰色で、外面は高台外側まで施釉し、外面底部は露胎。内面は回転ナデのあと施釉、内面底部は露胎。

瓦類

平瓦 (37～43) 斜格子叩きの平瓦で、37は格子が不規則に組み合わさり、格子の中に一部三角形を作っている。43は細かい斜格子叩き。

土製品

土錘 (44) 長さ5.95cm、径2.05cm、孔径0.54cm。胎土は淡黄褐色～淡黒灰色を呈する。

石製品

砥石 (45・46) 45は2面で使用が認められる。46は4面で使用が認められ、表裏面には条痕が残る。

236-1SD520出土遺物 (Fig.68)

須恵器

獣脚 (36) 胎土は0.5cm以下の白色砂粒や黒色砂粒を多く含む。色調は灰色を呈する。外面ナデで、接地面は使用により擦れている。

盤 (37) 胎土は0.5cm以下の白色砂粒や橙色粒を多く含む。口縁部および外面は強いヨコナデ。焼成は良好で、色調は淡黄灰色を呈する。

土師器

坏a (38～40) 復元高台径7.0～7.6cm。色調は黄白色や暗黄白色で、全体的に磨滅している。40は底部ヘラ切り。

緑釉陶器

皿 (41) 高台削り出しで、復元高台径7.6cm。外面底部に糸切り痕のようなものが僅かに確認できる。内面には沈線が巡り、やや平滑である。釉は緑灰色で全面施釉。須恵質。

236-1SD520茶色土出土遺物 (Fig.68)

須恵器

盤 (42) 胎土は0.3cm以下の白色砂粒を含み、淡い青灰色を呈する。外面強いヨコナデ、内面ナデ。

黒色土器B類

皿 (43) 復元口径16.4cm。内外面ミガキcが残る。

越州窯系青磁

坏 (44) II類。復元口径14.1cm、器高3.6cm、底径7.0cm。外面底部ヘラケズリ、内面には目跡が残る。胎土は黒色粒や白色粒を多く含む。釉は灰白色～こげ茶色で、剥離が著しい。

土製品

権 (45) 長さ5.0cm、幅3.9cm、厚さ1.8cmの台形をなす。須恵器甕を転用したとみられ、叩き痕が残る。上部に径0.8cmの円孔を穿つ。

236-1SD540出土遺物 (Fig.74)

須恵器

甕 (1) 二重口縁で外面叩き、内面回転ナデ。

土師器

皿a (2～7) 復元口径11.8～13.0cm。色調は全体的に黄白色を呈する。内面底部ナデ、底部外面は回転ヘラ切り。2は底部ヘラ切り後ナデ。4は底部外面ナデ。色調は全体的に黄白色を呈する。

坏a (8～18) 復元底径6.2～8.4cm。底部回転ヘラケズリ。色調は8が暗茶褐色、16は一部が橙色や黄灰色を呈する以外は、全体的に黄白色を呈する。8～15は底部が平坦で、16～18は底部が若干丸味を持っている。8と9は復元口径12.4cmと14.0cm。

碗c (19・20) 復元高台径8.2cmと8.4cm。19は色調が暗茶褐色。20は外面下半が雑なナデ。内面不定方向ナデで、黄白色を呈する。

甕 (21) 復元口径17.0cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や雲母を多く含む、色調は淡橙色を呈する。外面タテハケ、内面は上方向のヘラケズリ、口縁部内面ヨコハケ。

高坏 (22) 復元口径16.2cm。脚部径は6.6cm。全体的に磨滅する。

黒色土器A類

碗c (23～27) 復元高台径7.2～13.2cm。内面がミガキcで、外面は回転ナデ。色調は黄茶白色を呈する。

鉢 (28) 復元口径25.2cm。内面はミガキcで光沢がある。外面は回転ナデのあと一部にミガキcを施す。

瓦類

丸瓦 (29・30) 29は斜格子叩き、30は平行叩き。

平瓦 (31) 小さい斜格子叩き。

236-1SD1038暗茶色土出土遺物 (Fig.74)

土師器

碗c (32) 復元高台径7.8cm。

甕 (33) 胎土は0.25cm以下の白色砂粒を多く含む、橙色や赤茶色を呈する。口縁部外面は指頭圧痕が多くみられ、内面ヨコハケ、体部外面タテハケ、内面ヘラケズリ。

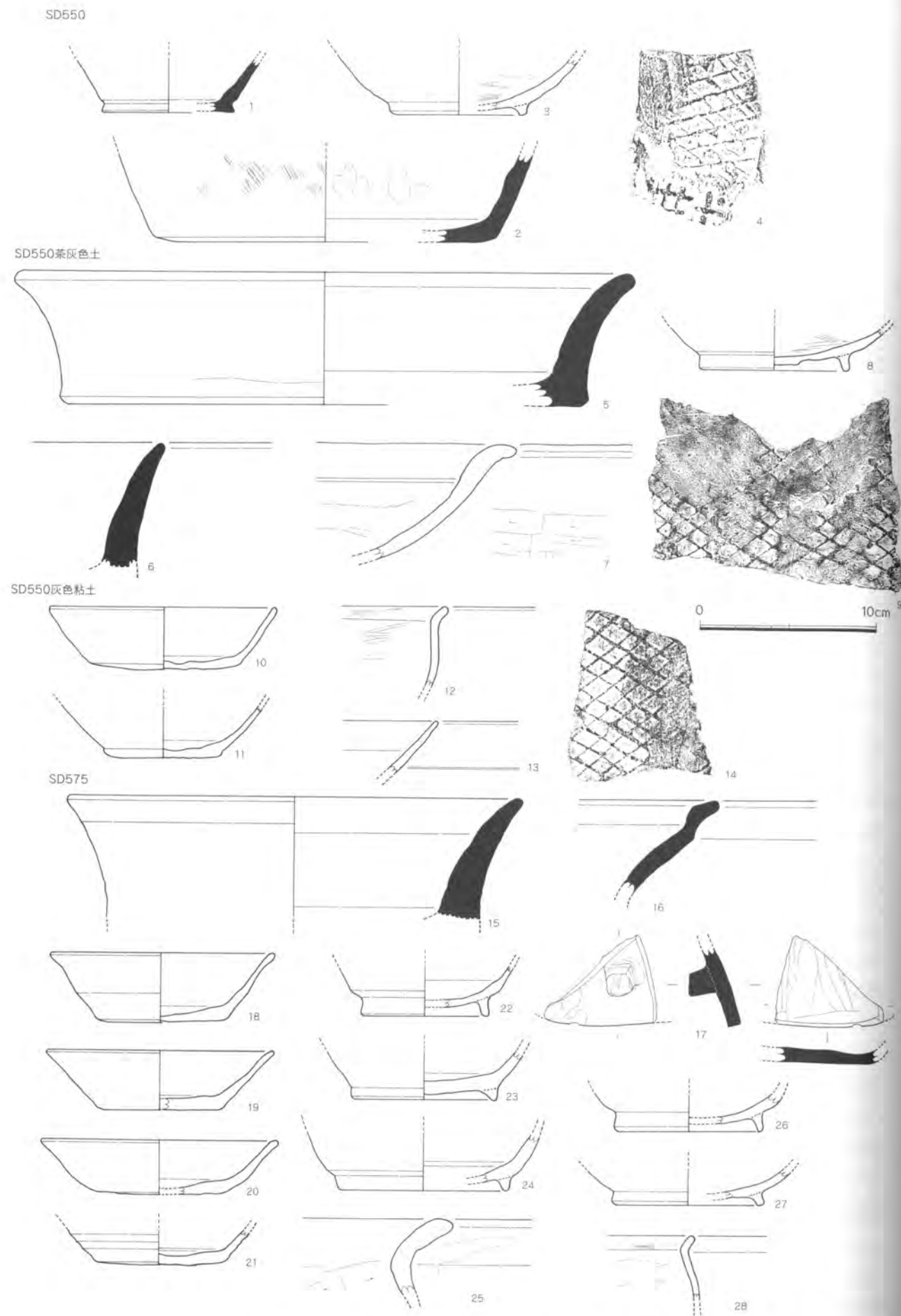


Fig.75 SD550・575出土遺物実測図 (1/3)

236-1SD1038暗灰色土出土遺物 (Fig.74)

土師器

皿a (34・35) 復元口径12.6cmと13.0cm。34は全体が磨滅。35は外面底部ナデ調整。

坏a (36～40) 全体的に磨滅。底部回転ヘラ切り。外面ヨコナデ。復元底径7.4～8.0cm。36が淡橙灰色や灰茶色のほかは全体として黄白色を呈する。

碗c (41) 復元口径14.8cm。底部内外面ともナデ。その他はヨコナデ。

黒色土器A類

碗c (42) 復元口径14.8cm。外面下半回転ヘラケズリ、内面はミガキだが殆ど磨滅する。色調は淡橙灰色を呈する。

緑釉陶器

皿 (43) 復元底径6.8cm。釉は淡い黄緑色で、外面を中心に剥落が著しい。土師質。

越州窯系青磁

香炉 (44) 小破片で、香炉の蓋部分と推測され、この破片でも開口部分が4ヶ所確認できる。胎土は0.1cm以下の白色砂粒や黒色粒を僅かに含むが精製されている。色調は淡灰白色を呈する。釉は灰緑色でやや粗い貫入が入る。I類。

236-1SD550出土遺物 (Fig.75)

須恵器

壺 (1・2) 1は復元底部径7.5cm。底部外面は糸切りで、その他は回転ナデ。篠窯か。2は復元底径19.2cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を含み、灰白色を呈し、焼成は不良で磨滅が目立つ。外面下端はヘラケズリとみられ、その上は叩き、内面は指頭圧のあとヨコナデ。

黒色土器A類

碗c (3) 復元高台径7.8cm。磨滅し内面ミガキcが僅かに確認できる。

瓦類

平瓦 (4) 斜格子叩きで「平井」銘がある。

236-1SD550茶灰色土出土遺物 (Fig.75)

須恵器

盤 (5・6) 5は復元口径35.0cm、器高7.5cm、復元高台径28.9cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒などを含み、焼成はやや不良で、灰色～白褐色を呈する。外面下端が強いヨコナデで、その下がヘラケズリで面取りしている。底部はナデでその他はヨコナデである。6は0.7cm前後の白色砂粒や黒色砂粒を含むが、概ね0.3cm以下の砂粒を含み、焼成はやや不良で白灰色～淡黒灰色を呈する。全面ヨコナデで、下端欠損部には底部との粘土接合面が確認できる。

土師器

鉢 (7) 内面に浅い沈線が巡る。胎土は0.5cm以下の砂粒を含み、橙褐色や淡灰褐色を呈する。磨滅が目立つが外面下半はヘラケズリでナデ調整も行っているように見える。内面下半はヘラケズリのあと不定方向のナデか。

黒色土器A類

碗c (8) 高台径8.5cm。内面にミガキc、外面は磨滅も目立つが底部に板状圧痕が残る。外面の色調は橙灰色を呈する。

瓦類

丸瓦 (9) やや凹凸が浅い格子叩き。

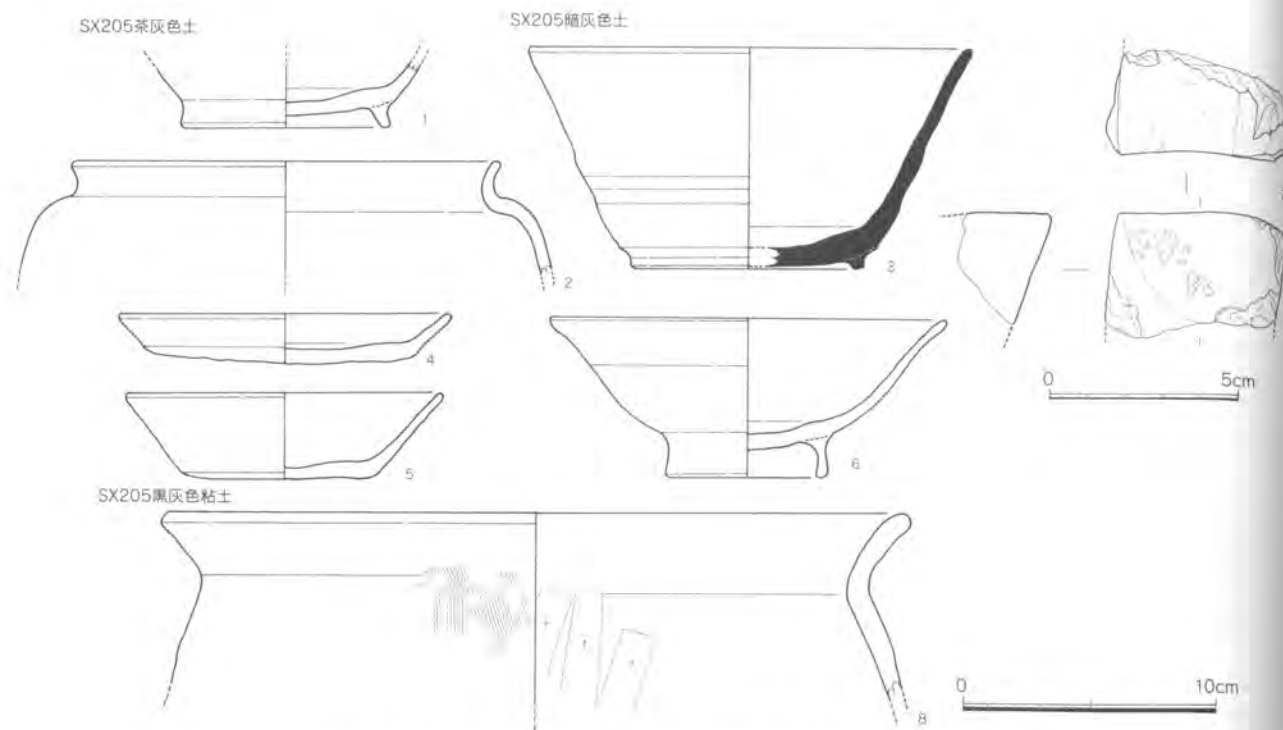


Fig.76 SE205出土遺物実測図 (1/3、7は1/2)

236-1SD550灰色粘土出土遺物 (Fig.75)

土師器

坏a (10・11) 底部回転ヘラ切り。色調は10が暗灰茶色、11は黄白色を呈する。

黒色土器A類

小甕 (12) 内面ミガキc、外面回転ナデ。

緑釉陶器

碗 (13) 胎土は精製され、須恵質。釉は淡緑色で光沢があり、ミガキの後全面施釉。

瓦類

丸瓦 (14) 凸面は斜格子叩き。

236-1SD575出土遺物 (Fig.75)

須恵器

盤 (15) 復元口径25.6cm、粘土接合部で欠損する。胎土は0.6cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、淡黒灰色～淡灰色を呈する。内外面ヨコナデ。

甕 (16) 二重口縁で口縁部および内面は回転ナデ、外面は叩きのあと回転ナデ。

硯 (17) 内面はナデ調整で、部分的に墨が付着する。脚部は貼付後ケズリ調整される。

土師器

坏a (18～21) 復元口径12.7～13.4cm。全体的に磨滅が目立つ。色調は全体的に黄白色だが、18・19はやや黄灰色を呈する。

碗c (22～24) 復元高台径7.2～9.7cm。全体的に磨滅が目立つ。色調は全体的に黄白色を呈する。

甕 (25) 胎土は0.5cm以下の砂粒を含み、灰褐色～橙褐色を呈する。体部内面はヘラケズリ、外面には煤が付着する。

黒色土器A類

碗c (26・27) 26は復元高台径8.4cm。全面磨滅する。27は復元高台径8.6cm。全面磨滅するが、内

面はミガキcが確認できる。

小甕 (28) 磨滅が目立つが、内面ミガキc、外面回転ナデが残る。

井戸

236-1SE205茶灰色土出土遺物 (Fig.76)

土師器

碗c (1) 高台径8.3cm。体部内外面ヨコナデ。

越州窯系青磁

壺 (2) 復元口径17.0cm。胎土は明灰色で精製されている。釉は灰緑色で光沢があり、内外面に施釉する。

236-1SE205暗灰色土出土遺物 (Fig.76)

須恵器

大碗c (3) 復元口径17.6cm。底部端に低い高台を貼付する。胎土は白色砂粒を多く含み、焼成は良好で、暗灰青色を呈する。内面底部はナデ、その他は回転ナデ。

土師器

皿a (4) 復元口径13.1cm。底部回転ヘラ切り。色調は黄白色を呈する。

坏a (5) 復元口径12.6cm。底部回転ヘラ切り。内面磨滅、外面ヨコナデ。色調は淡橙黄色を呈する。

碗c (6) 復元口径15.8cm。若干高い高台を貼付する。全体的に磨滅する。

石製品

砥石 (7) 大きさは3.3×5.0×2.4cm。3面が研磨されている。

236-1SE205黒灰色粘土出土遺物 (Fig.76)

土師器

甕 (8) 復元口径29.2cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を多く含み、橙白色を呈する。口縁部はヨコナデ、体部内面はヘラケズリで煤が付着する。外面はタテハケで煤が付着する。

236-1SE510茶灰色土出土遺物 (Fig.77)

須恵器

盤 (1・2) 1は復元口径38.8cm、器高10.7cm、復元底径27.4cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を多く含み、暗灰色～淡灰色を呈する。底部外面ヘラケズリ、口縁部内外面と外面はヨコナデ、内面下半は強いナデ。2は復元口径32.0cm、胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、暗灰色～灰褐色を呈する。内外面ヨコナデ。下部は粘土接合面で欠落する。

壺 (3) 復元口径17.2cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、青灰色や暗灰色を呈する。頸部外面は稜線が明瞭に付くほどの強いヨコナデで、内面はナデ。体部外面は叩きで、内面は同心円の当て具痕を残す。

土師器

坏a (4) 復元底径9.0cm。底部回転ヘラ切り、内面底部ナデ。色調は暗黄灰色を呈する。

甕 (5) 口径28.4cm。胎土は0.5cm以下の砂粒を多く含み、淡い橙灰色～黒灰色を呈する。口縁部ヨコナデ、体部外面は粗いタテハケ、内面はヨコハケのあとヘラケズリ。

瓦類

丸瓦 (6) 凸面に斜格子の叩き。

平瓦 (7～10) 7は長方形の格子が不規則に組み合わせり、格子の中に一部三角形を作っている。8は正格子。9は細かい正格子で、欠損しているため方形二重枠内に「大国」の一部である「国」が残る。

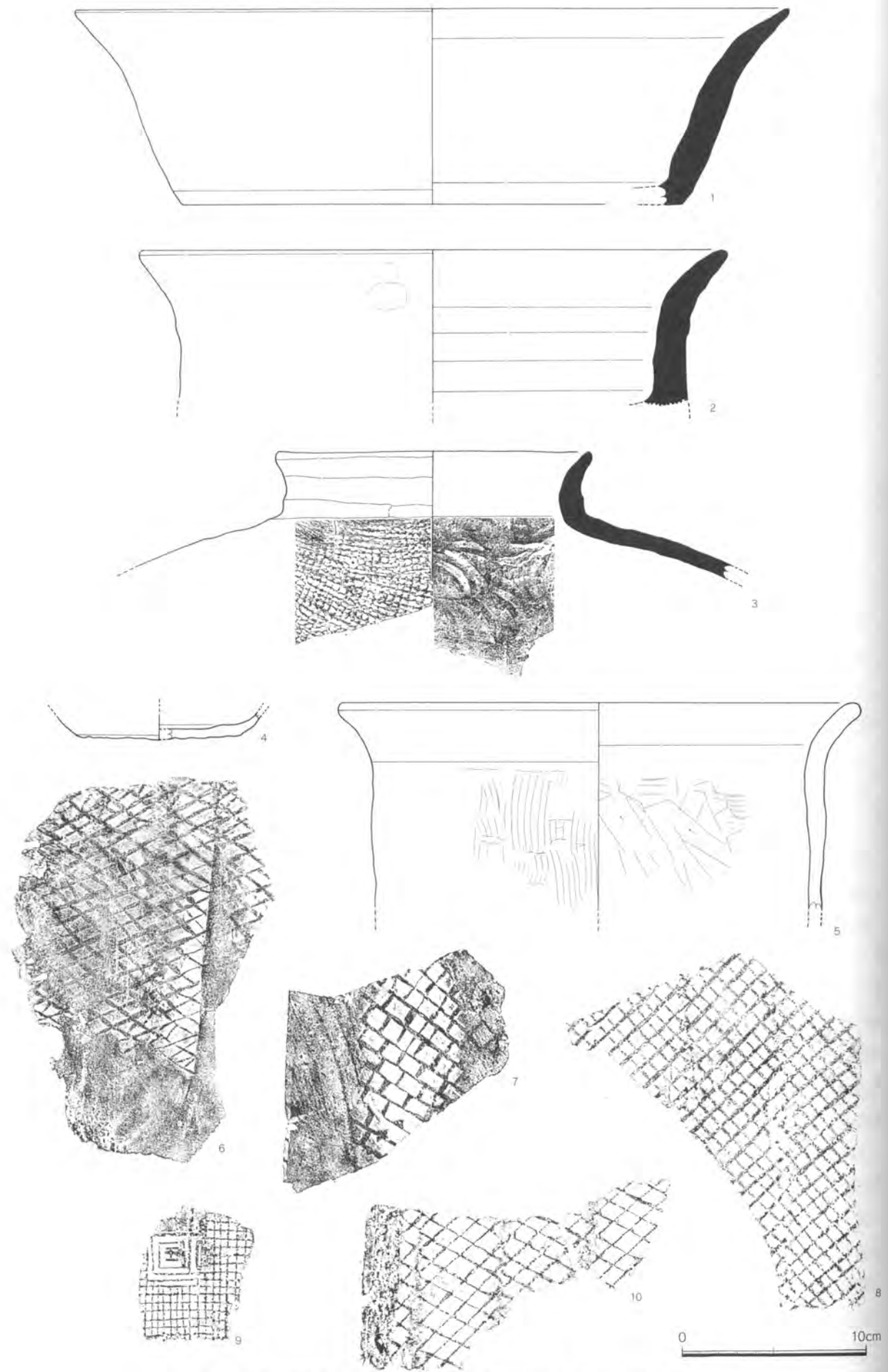


Fig.77 SE510茶灰色土出土遺物実測図 (1/3)

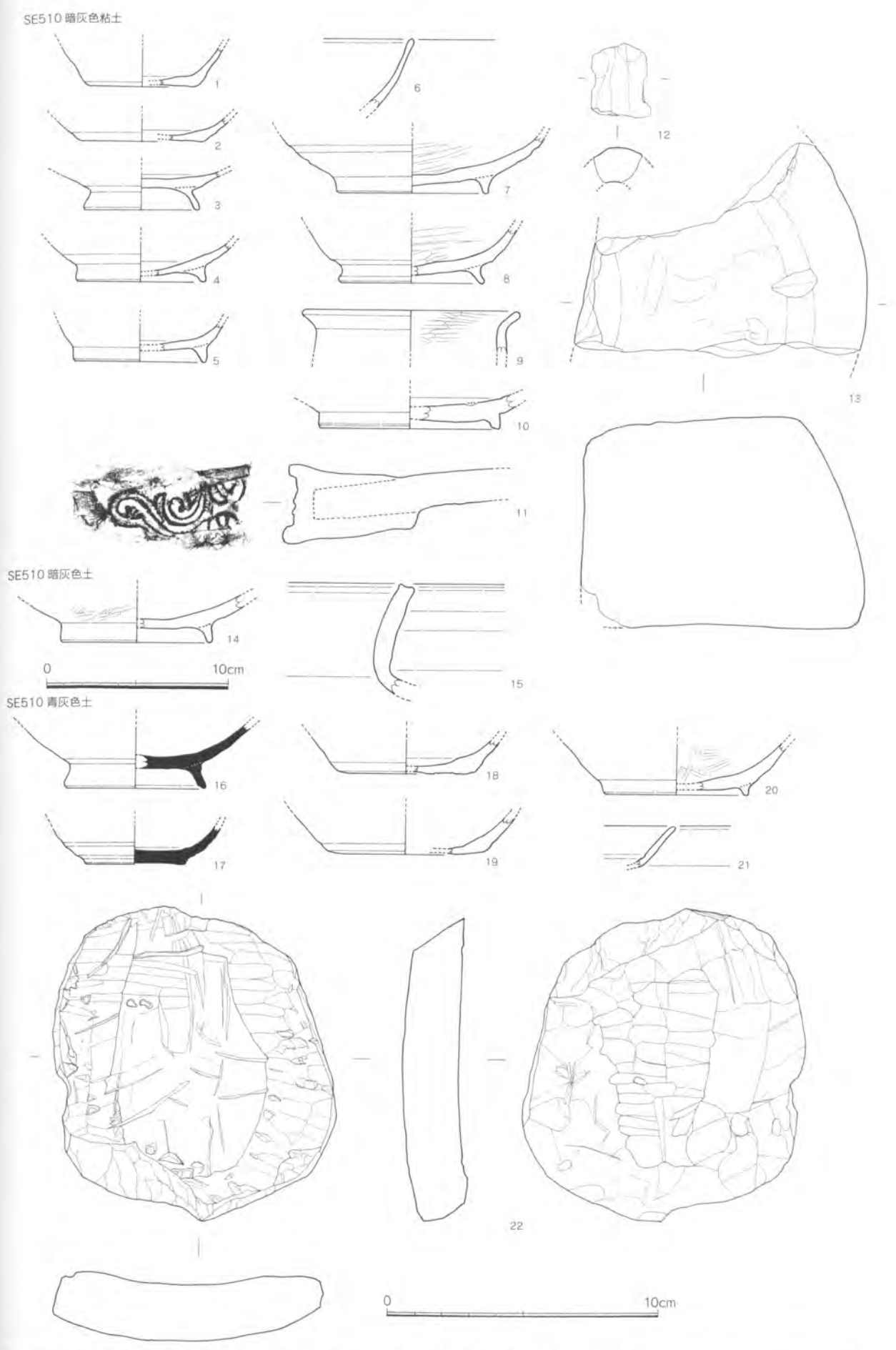


Fig.78 SE510暗灰色粘土・暗灰色土・青灰色土出土遺物実測図 (1/3、13・22は1/2)

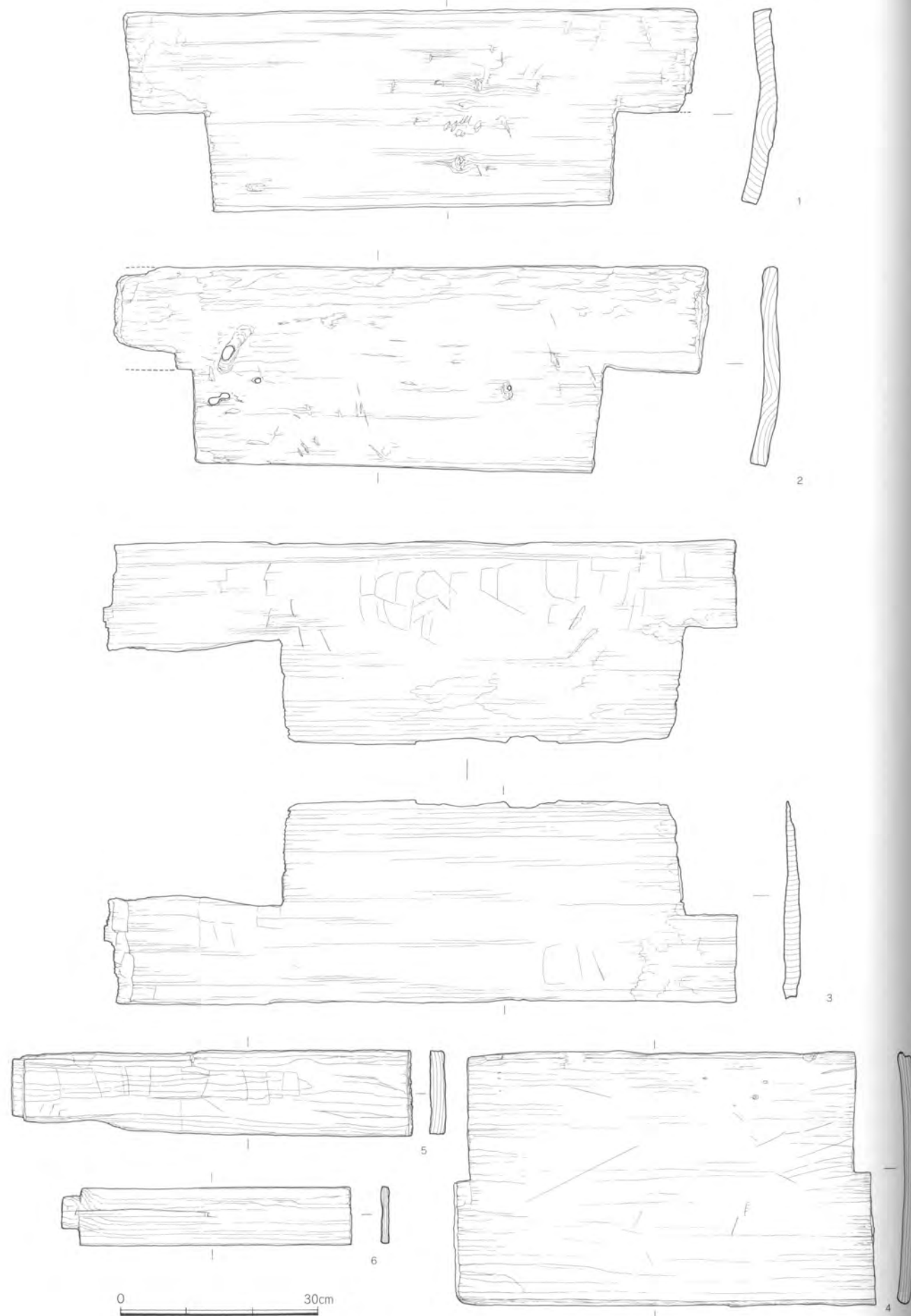


Fig.79 SE510出土木製品実測図① (1/8)

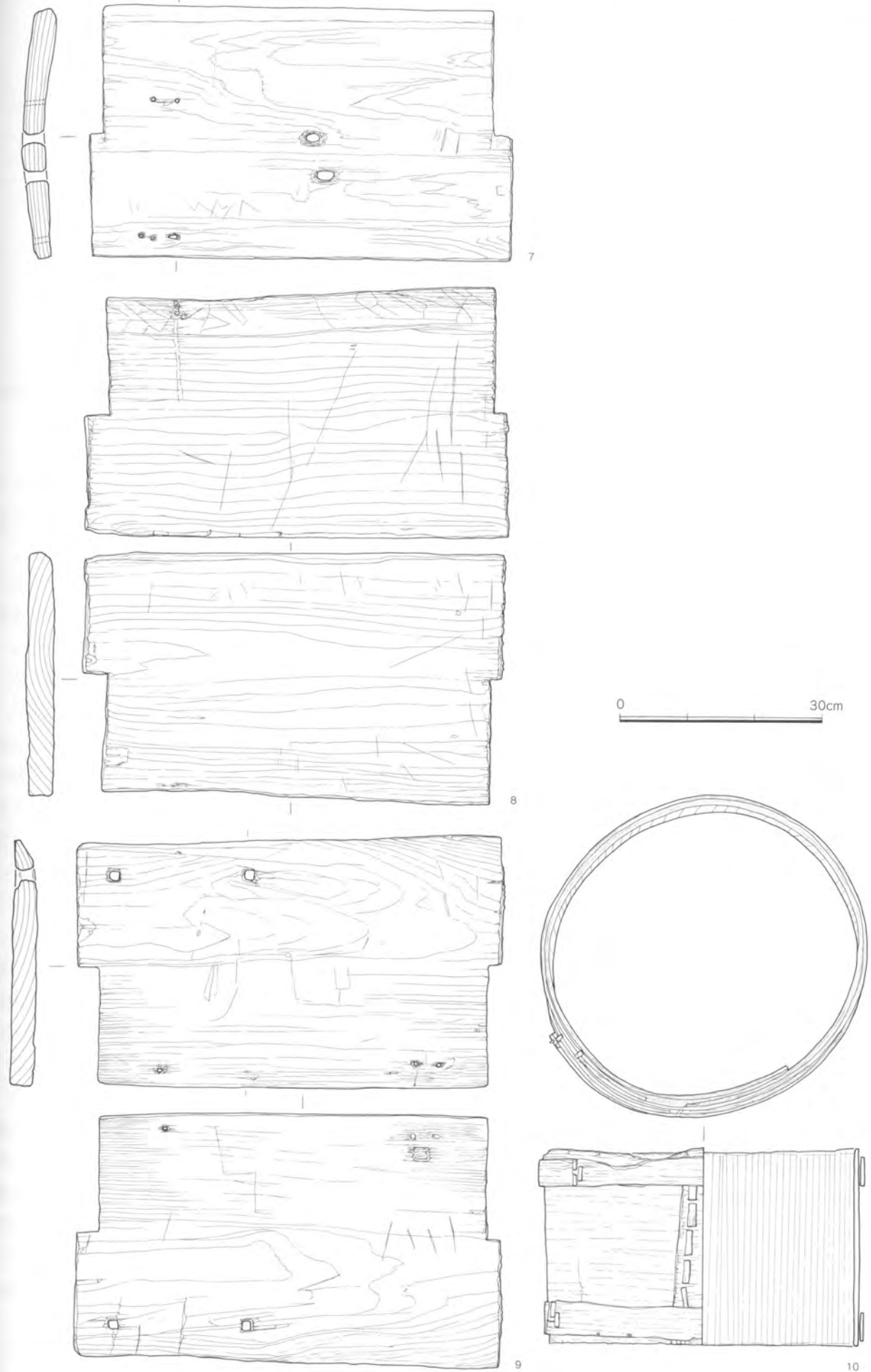


Fig.80 SE510出土木製品実測図② (1/8)

10は斜格子。

236-1SE510暗灰色粘土出土遺物 (Fig.78)

土師器

坏a (1・2) 復元口径6.4cmと7.0cm。色調は黄白色を呈する。

小皿c (3) 復元高台径6.4cm。内面底部ナデ。色調は淡橙色を呈する。

碗c (4・5) 復元高台径7.2cmと7.4cm。内面は回転ナデとナデ。色調は黄白色を呈する。

碗 (6) 内外面回転ナデ調整。

黒色土器A類

碗c (7・8) 7は外面が回転ヘラケズリ、内面ミガキc。外面の色調は暗茶灰色を呈する。8は外面回転ナデ、内面ミガキcを施す。外面の色調は暗橙灰色を呈する。

小甕 (9) 復元口径12.0cm、内面ミガキc、外面回転ナデ。

緑釉陶器

碗×皿 (10) 高台削り出しで、復元高台10.0cm。底部内外面に浅い沈線が巡る。胎土は暗灰色で須恵質。釉は淡緑黄色で全面に施釉し、白黄緑色の斑点が点在する。

瓦類

軒平瓦 (11) 均整唐草文の端部だが、欠落が目立つ。頸部は内外面ともヨコナデ。凸面は格子叩きである。

土製品

鞆羽口 (12) 胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含む。外面ナデで、淡黄灰色～暗灰色を呈する。

石製品

砥石 (13) 欠損し全形が掴めないが、断面台形を成し、側面は面取り風の研磨やケズリが行われ、表裏面は研磨されている。上面には工具痕もみられ、一部焼けている。現状では砥石として報告するが他の用途も考えられる。

236-1SE510暗灰色土出土遺物 (Fig.78)

黒色土器B類

碗c (14) 内外面とも磨滅するが、外面はミガキcが確認できる。復元高台径8.4cm。

灰釉陶器

壺 (15) 頸部で、口縁端部内面に浅い沈線が巡る。胎土は精製され灰色を呈する。回転ナデのあと緑灰色の釉を薄く掛ける。

236-1SE510青灰色土出土遺物 (Fig.78)

須恵器

碗c (16) 高い高台を貼付する。復元高台径7.8cm。内外面回転ナデで、内面は平滑になり、一部墨のような痕跡もみられ、転用碗と推測される。

碗 (17) 底部外面が回転糸切りで、底径6.0cm。内外面とも回転ナデ。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や橙色粒を含む。焼成は良好で淡橙色を呈する。篠窯産。

土師器

坏a (18・19) 2点とも内面に漆が付着する。体部の色調は黄白色を呈する。19は外面底部に一部にも漆が付着する。

黒色土器B類

碗c (20) 外面は磨滅するが、内面はミガキcが確認できる。外面底部はナデ調整。

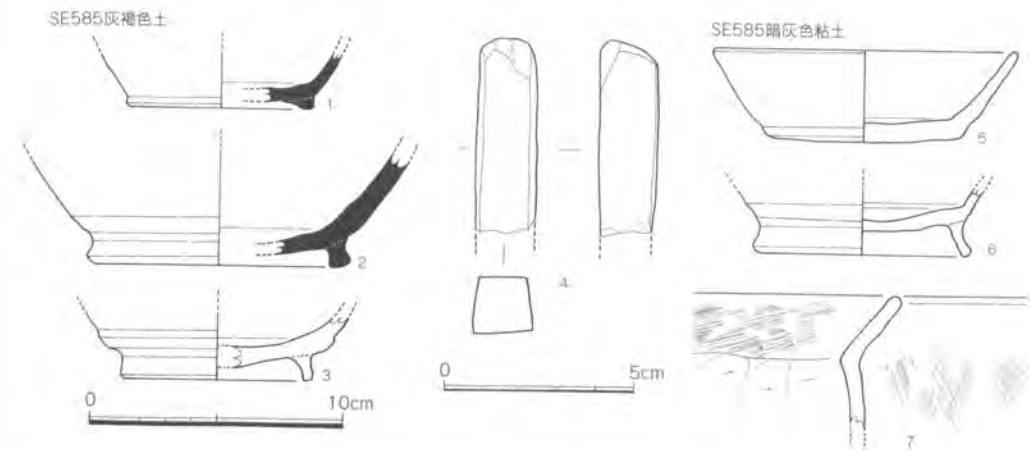


Fig.81 SE585出土遺物実測図 (1/3、4は1/2)

緑釉陶器

皿 (21) 釉は淡黄緑色で光沢があり、内外面とも綺麗に施釉される。須恵質。

石製品

滑石加工品 (22) 11.6×10.6cm、厚さ2.4cmの楕円形。若干丸みがあり、石鍋の体部の一部を利用したものと推測される。内外面とも細かいケズリを施している。用途については不明。

236-1SE510出土遺物 (Fig.79・80)

木製品

井戸枠材 (1～9) 1は縦30.5cm、横87.0cm、厚さ3.0cm。両小口は劣化が目立つ。一部窪みがあり炭化している。2は縦31.5cm、横90.1cm、厚さ2.5cm。表面には調査時の傷が多い。5ヶ所不定形な穴が貫通している。3は縦31.0cm、横95.7cm、厚さ2.5cm。両面ともぼんやりカンナ痕が残る、側面は粗く削っている。4は縦38.6cm、横63.9cm、厚さ3.0cm。上下両端は丸味を帯びている。5は長さ60.8cm、幅13.0cm、厚さ2.4cm。両面に僅かにカンナ痕残る。小口は途中まで刻みを入れ折っている。もう一方の小口は断面凸型に加工されている。6は長さ44.05cm、幅8.8cm、厚さ1.2cm。片側が凸状に加工されている。この部分は両側が削られ薄くなっている。7は縦38.0cm、横63.1cm、厚さ3.7cm。中央付近に2.5×1.5cmほどの楕円形の穴が2個、その他1cm前後の穴が5ヶ所穿たれている。表面加工の残りは非常に悪い。8は縦37.6cm、横63.4cm、厚さ4.4cm。端に0.7cm前後の穴が3ヶ所あり、1つは貫通している。凸の下辺は断面が丸味を帯びる。9は縦38.0cm、横69.3cm、厚さ4.0cm。2cm四方の方形孔が2ヶ所あり、1cm程の円孔が3ヶ所、方形状の窪みが1ヶ所彫られている。長辺の側面はケズリである。

各材にみられた孔は井戸検出時では機能を持っておらず、これらが転用材であったと推測される。

曲物 (10) 径は48.0～48.8cm、高さ29.5cm。桜皮の留め具は幅0.9～1.3cmである。上端は凸凹になっていて、設置時に上面からの落下物によるものと推測される。内面には細かい刻みが施されている。タガは上下2段あり、上が幅4.3cm、下が幅5.0cmである。タガの厚さは0.4～0.5cmでタガは木釘で留められているが、曲物そのものまで貫通していない。保存状態は極めて良好で、近代に使われていた民俗資料のような雰囲気を保っている。

236-1SE585灰褐色土出土遺物 (Fig.81)

須恵器

坏c (1) 低い高台を貼付する。外面底部ナデで板状圧痕残る。その他は回転ナデ。

壺 (2) 復元高台径10.4cm。外面は回転ヘラケズリ、内面ヨコナデ、外面底部回転ヘラ切り。

土師器

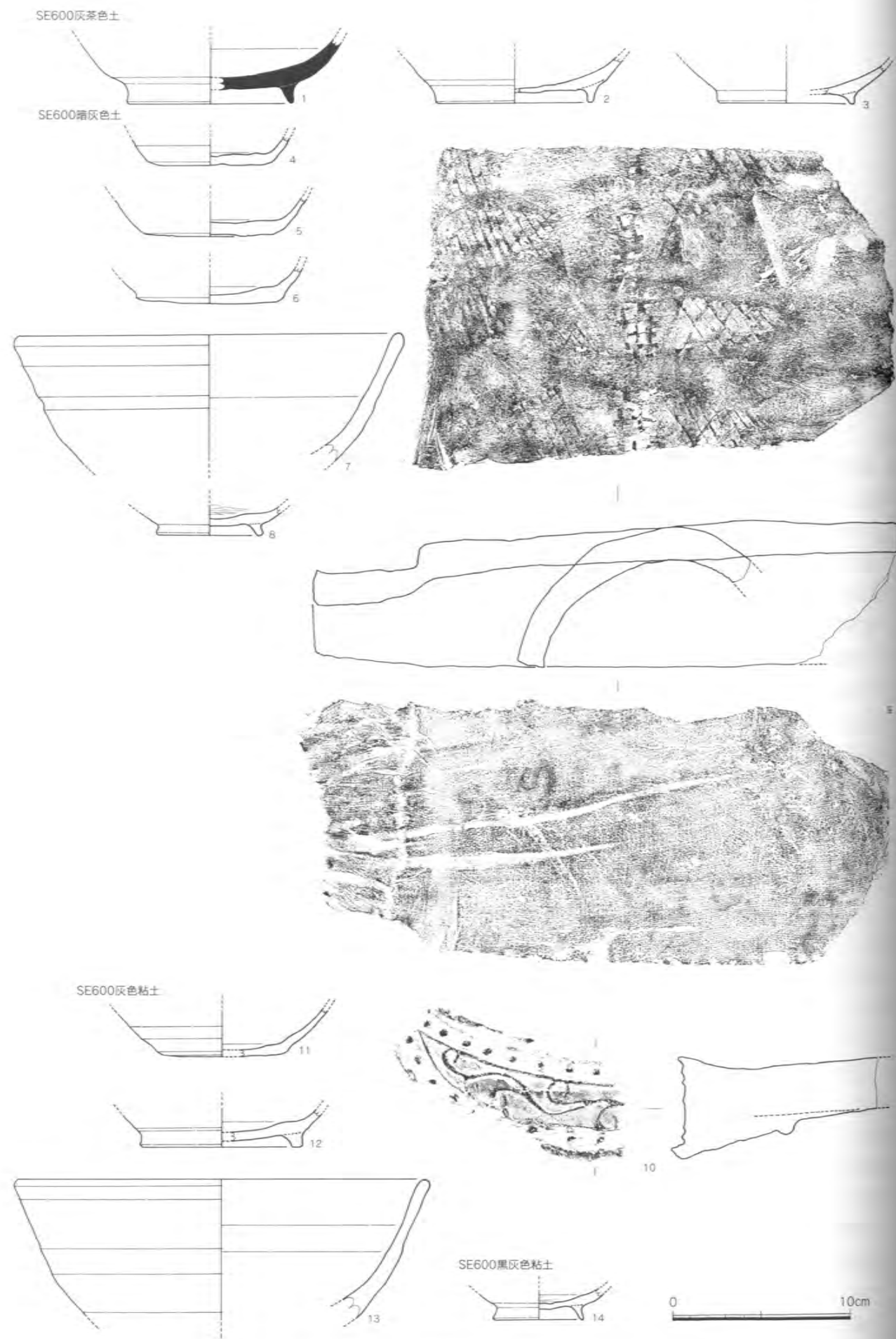


Fig.82 SE600出土遺物実測図 (1/3)

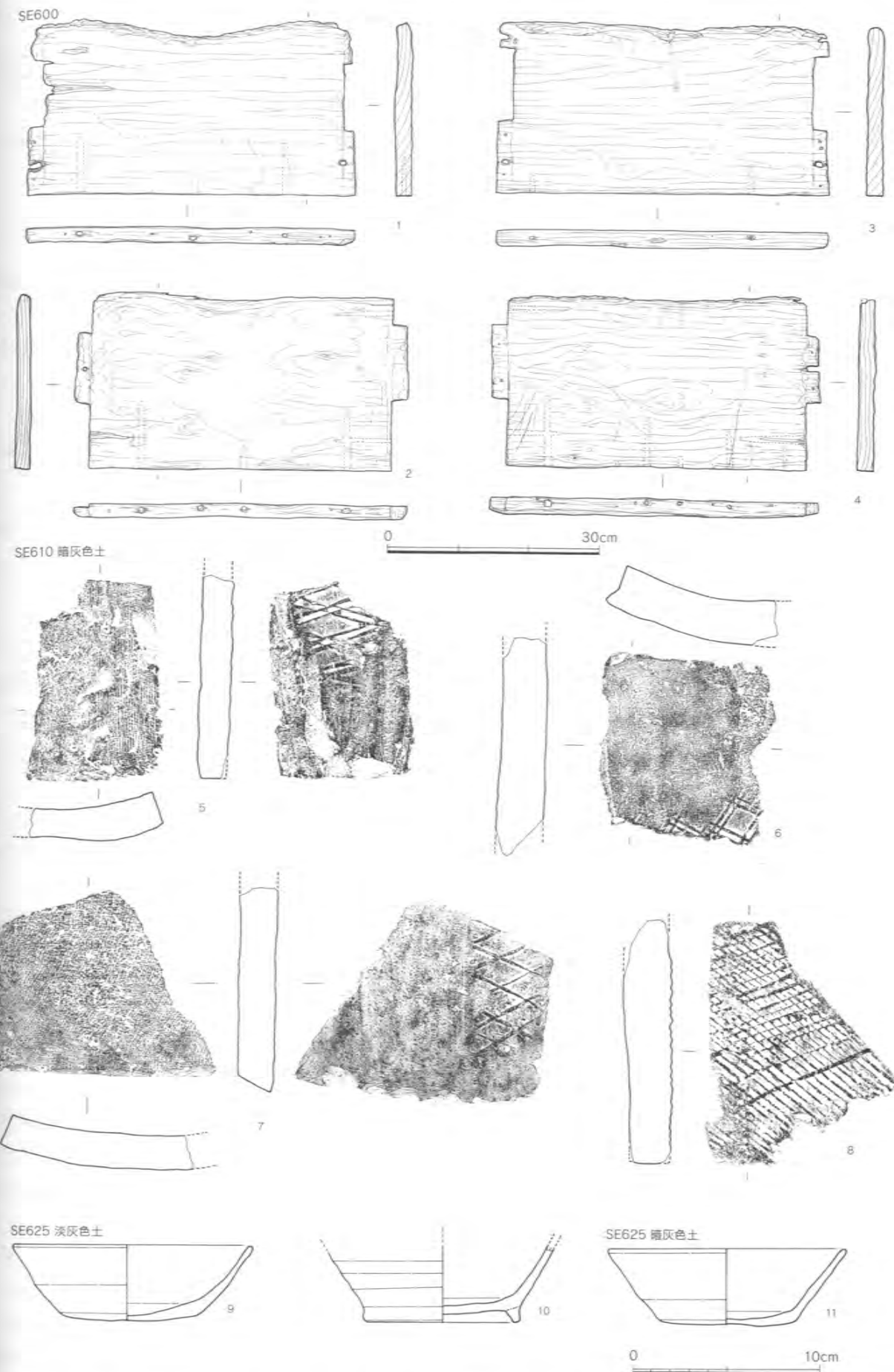


Fig.83 SE600出土木製品・610・625出土遺物実測図 (1/3・1~4は1/8)

碗c (3) 復元高台径7.6cm。磨滅目立つ。色調は黄褐色を呈する。

石製品

砥石 (4) 大きさは5.2×1.6×1.5cmの方形柱で、4面が研磨されている。

236-1SE585暗灰色粘土出土遺物 (Fig.81)

土師器

坏a (5) 口径12.0cm。底部外面回転ヘラ切り。内面不定方向のナデ。色調は黄褐色を呈する。

碗c (6) やや高い高台を底部端に貼付する。底部外面は回転ヘラ切り後回転ナデ。高台内面に淡褐色の付着物がみられる。色調は黄褐色を呈する。

甕 (7) 胎土は0.3cm以下の砂粒を含み、淡褐色～黒褐色を呈する。体部内面ヘラケズリ、その他はハケ。

236-1SE600灰茶色土出土遺物 (Fig.82)

須恵器

碗c (1) 三角形の高い高台を貼付する。復元高台径9.4cm。外面底部ナデ、内外面回転ナデ、内面底部は使用により平滑である。

黒色土器A類

碗c (2・3) 復元高台径8.8cmと7.8cm。全体磨滅し調整不明。

236-1SE600暗灰色土出土遺物 (Fig.82)

土師器

坏a (4～6) 復元底径7.0～8.3cm。底部回転ヘラ切り。色調は黄白灰色や明灰色などを呈する。

鉢 (7) 復元口径22.0cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、灰褐色を呈する。内面には炭化物が付着している。内外面とも回転ナデ。

黒色土器A類

碗c (8) 内面ミガキc、外面ヨコナデ。復元高台径6.0cm。

瓦類

丸瓦 (9) 凸面は細長の斜格子叩きとナデ調整で、それに混じって「平井」銘も中央付近に見えるが重なりあって、明瞭ではない。

軒平瓦 (10) 唐草文で外縁は全て珠文である。顎部はナデ。凹面は布目痕があり、凸面には格子叩きを施す。

236-1SE600灰色粘土出土遺物 (Fig.82)

土師器

坏a (11) 底部回転ヘラ切り、底部内面ナデ、その他は回転ナデ。色調は淡白灰色を呈する。

碗c (12) 復元高台径9.2cm。底部回転ヘラ切り。色調は淡橙色を呈する。

鉢 (13) 復元口径23.4cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒や黒色粒を多く含み、白灰色～淡茶灰色を呈する。

236-1SE600黒灰色粘土出土遺物 (Fig.82)

碗c (14) 高台径5.1cm。底部外面がナデ、その他内は外面回転ナデ調整。

236-1SE600出土遺物 (Fig.83)

木製品

井戸杵材 (1～4) 4枚は組み合せて木杵をなし、それぞれを木釘で留めていたとみられ、各材にその痕跡を認めることができる。また、上面は使用時の落下物等により劣化している。内面の下半は表面が黒色を呈している。1は上下25.0cm、幅46.8cm、厚さ2.4cm。小口は左右とも凹型で、小口面に木釘

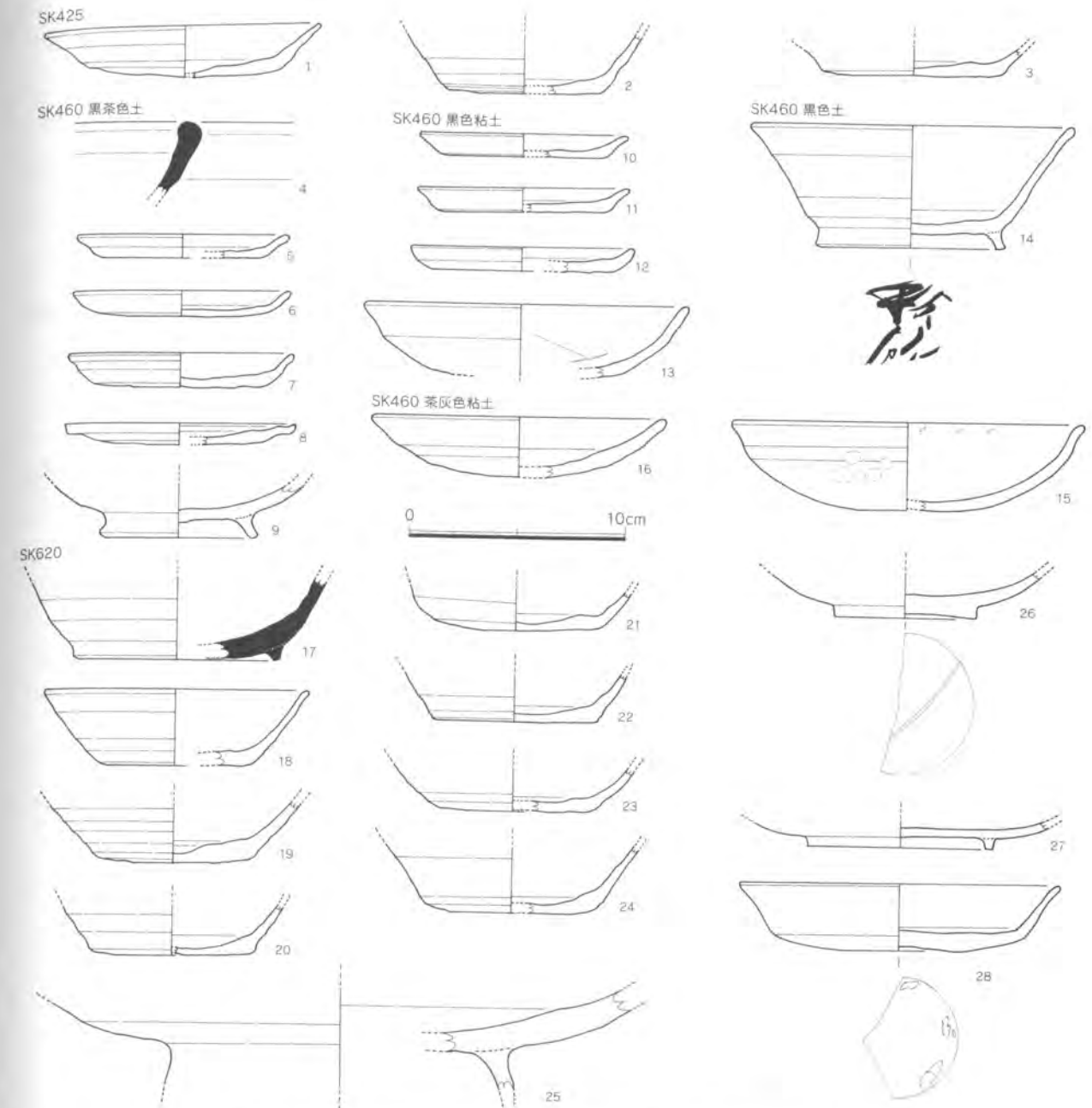


Fig.84 SK425・460・620出土遺物実測図 (1/3)

穴が穿たれている。下辺には径1cm前後、深さ3.5～8.5cmの穴が3ヶ所穿たれ、その間に1個ずつ4ヶ所に木釘が打ち込まれている。2は上下25.3cm、幅46.6cm、厚さ2.3cm。小口は左右とも凸型で、小口には深さ8cmほどの穴や木釘が穿たれている。下辺には径1cm前後、深さ1.05～9.6cmの穴が4ヶ所穿たれ、木釘が2ヶ所打ち込まれている。穴のひとつは小口に穿たれた穴と繋がっている。3は上下24.5cm、幅47.35cm、厚さ2.4cm。小口は左右とも凹型で、小口上部に穴が穿たれていた痕跡を残すが腐食している。下辺には径0.5cm前後、深さ3～4.3cmの穴や木釘が合わせて5ヶ所穿たれている。裏面には炭化した窪みがある。4は上下24.9cm、幅46.7cm、厚さ2.3cm。小口は左右とも凸型で、その凸部に木釘穴が2ヶ所ずつ穿たれている。下辺には径1cm前後、深さ1.5～10cmの穴が4ヶ所穿たれ、その間に5ヶ所木釘が打ち込まれている。穴のひとつは小口に穿たれた穴と繋がっている。

それぞれ下辺に穿たれた穴や木釘が、何の用途を持っていたかは不明である。

236-1SE610暗灰色土出土遺物 (Fig.83)

瓦類

平瓦 (5~8) 5・6は二重の斜格子叩き。7は斜格子叩き。8は細長斜格子と小さい斜格子を組み合わせた叩きである。

236-1SE625淡灰色土出土遺物 (Fig.83)

土師器

坏a (9) 復元口径12.8cm。底部回転ヘラ切り。色調は黄白色を呈する。

碗c (10) 高台径8.25cm。底部回転ヘラ切り、内面底部ナデ。台形の高台を貼付する。色調は黄白色を呈する。

236-1SE625暗灰色土出土遺物 (Fig.83)

土師器

坏a(11) 口径12.65cm。底部回転ヘラ切り、内面底部ナデ。板状圧痕が残る。色調は黄白色を呈する。

土坑

236-1SK425出土遺物 (Fig.84)

土師器

皿a (1) 復元口径12.3cm。底部外面は回転ヘラ切り、内面底部は不定方向のナデ。

坏a (2・3) 底径7.2cmと8.4cm。底部外面回転ヘラ切り、内面は2が回転ナデ、3が不定方向のナデ。色調は2が薄い橙白色を呈する。

236-1SK460黒茶色土出土遺物 (Fig.84)

須恵器

鉢 (4) 色調は淡灰色を呈する。内外面回転ナデで口縁部を丸く仕上げる。篠窯産。

土師器

小皿a (5~7) 復元口径9.8~10.4cm。外面底部回転ヘラ切り。

小皿a2 (8) 復元口径10.6cm。外面底部回転ヘラ切り。口縁部内面に若干の窪みが巡る。

碗c (9) 全体的に磨滅するが、内面はミガキのような痕跡がみえる。

236-1SK460黒色粘土出土遺物 (Fig.84)

土師器

小皿a (10~12) 復元口径9.6~10.2cm。外面底部回転ヘラ切り。内面底部ナデ。

丸底坏a (13) 外面下半は回転ヘラ切り後ナデ。内面ミガキbでコテ当て痕残る。

236-1SK460黒色土出土遺物 (Fig.84)

土師器

碗c (14) 底部外面に墨書があり、字体の動きから幾つか文字が異なる方向から書かれているが、詳細な文字は不明である。

丸底坏a (15) 外面下半は回転ヘラ切り後ナデ、外面中位には指頭圧痕も残る。内面ミガキbでコテ当て痕残る。

236-1SK460茶灰色粘土出土遺物 (Fig.84)

土師器

丸底坏a (16) 外面ヘラ切り、内面底部はナデでその他は回転ナデ、ミガキbは確認できないが、形状から丸底坏とみられる。

236-1SK545黒茶色土出土遺物 (Fig.85)

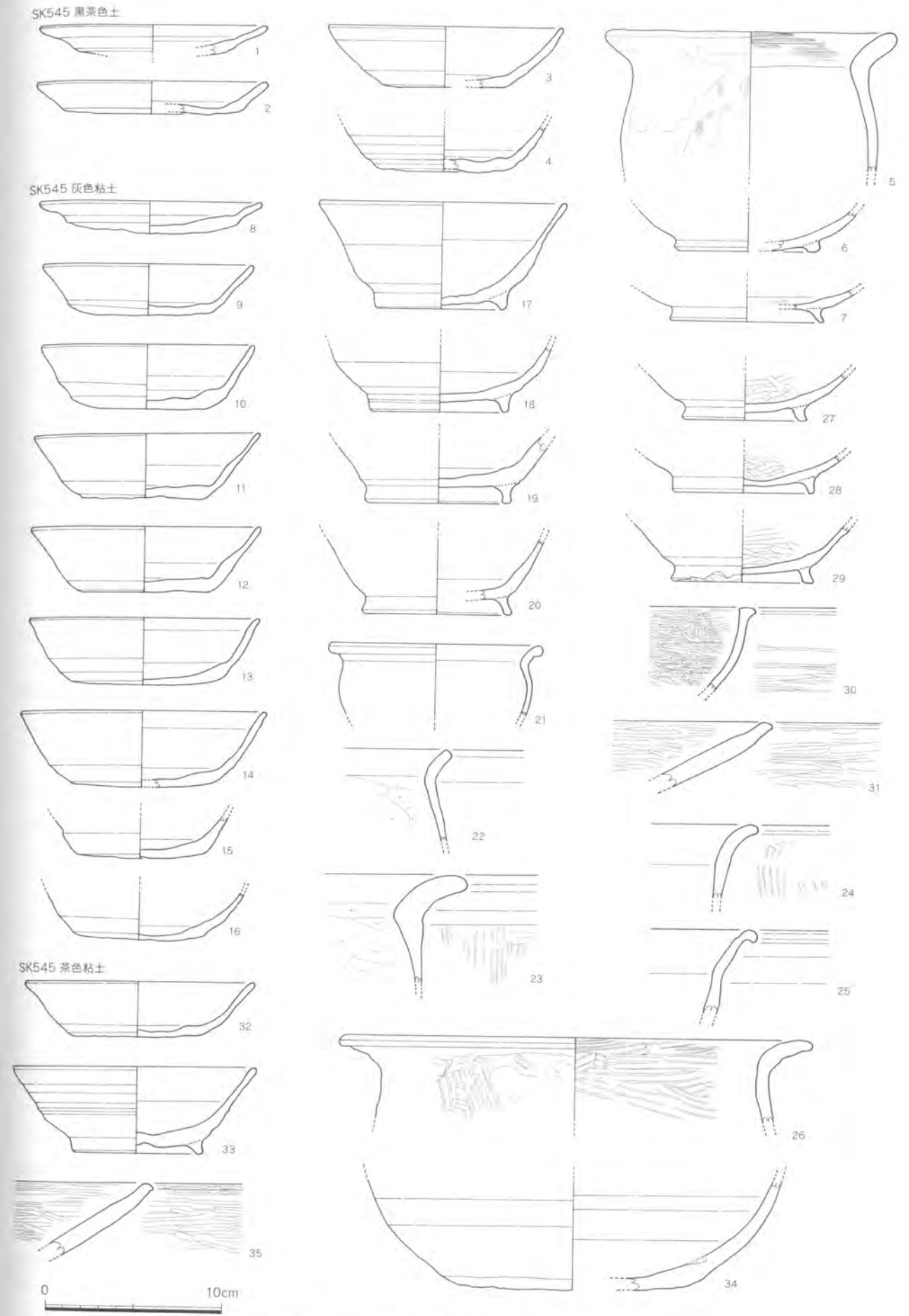


Fig.85 SK545出土遺物実測図 (1/3)

土師器

皿a (1・2) 復元口径12.8cmと13.0cm。2は底部ヘラ切り後ナデ。色調は黄白灰色を呈する。

坏a (3・4) 底部回転ヘラ切り。色調は黄白灰色を呈する。

甕 (5) 復元口径16.4cm。全体がやや歪んでいる。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を含み、橙灰色や黒色を呈する。口縁部内面はヨコハケ、体部外面はハケ。内外面とも煤が厚く付着している。

黒色土器A類

碗c (6・7) 復元口径8.2cmと8.6cm。6は磨滅が目立ち、7は内面ミガキcが確認できる。

236-1SK545灰色粘土出土遺物 (Fig.85)

土師器

皿a (8) 口径12.5cm。外面底部はヘラ切り未調整。内面不定方向のナデ。

坏a (9～16) 復元口径11.9～14.0cm。底部回転ヘラ切り。全体として色調は黄白灰色を呈する。

碗c (17～20) 復元高台径7.4～8.4cm。内面底部ナデ、外面回転ナデ。色調は黄白灰色を呈する。

甕 (21～26) 21は口径12.0cm、体部内面ナデ、その他回転ナデ。22は内面ヘラケズリ。23は口縁部ヨコナデ、外面タテハケで煤が付着する。内面ヘラケズリ。24は外面タテハケで煤が厚く付着する。25は内外面回転ナデ。口縁部がやや丸味を帯びその下に煤が付着する。26は口径26.6cm、内面横方向のハケ、口縁部はヨコナデで、外面はハケで若干煤が付着する。

黒色土器A類

碗c (27～29) 高台径7.0～8.0cm。底部は回転ヘラ切り。内面はミガキcが残り、外面回転ナデ。29は高台に工具痕が残る。

小甕 (30) 口縁部を平坦にして、外側に肥厚させる。内面は細かいミガキcが施されている。外面は黒化されていないが、回転ナデのあと一部ミガキcが施されている。

黒色土器B類

皿 (31) 口縁部だが、全形がわからない。口縁部の厚みからやや大きめの器種とみられ、皿や高坏のようなものと推測される。内面は細かいミガキc、外面はヘラケズリのあとミガキcが施されている。胎土は0.2cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、淡灰色を呈する。黒化処理が不完全だが、丁寧にミガキcが施されており、ここでは黒色土器として報告する。搬入品か。

236-1SK545茶色粘土出土遺物 (Fig.85)

土師器

坏a (32) 復元口径13.0cm、底部回転ヘラ切り。

碗c (33) 復元口径13.9cm、内面底部ナデ、外面回転ナデ。色調は暗茶褐色を呈する。

鉢 (34) 復元底径13.8cmで板状圧痕が残る。胎土は0.3cm以下の砂粒を含み、灰褐色を呈する。内面下半はミガキもしくは使用によって平滑になっている。体部内外面は回転ナデで、体部下半は回転ナデのあと一部ナデ調整。

黒色土器B類

皿 (35) 口縁部だが、全形がわからない。口縁部の厚みからやや大きめの器種とみられ、皿や高坏のようなものと推測される。内外面とも細かいミガキが施されている。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や赤褐色粒を含み、灰褐色を呈する。黒化処理が不完全だが、丁寧にミガキが施されており、ここでは黒色土器として報告する。搬入品か。

236-1SK620出土遺物 (Fig.84)

須恵器

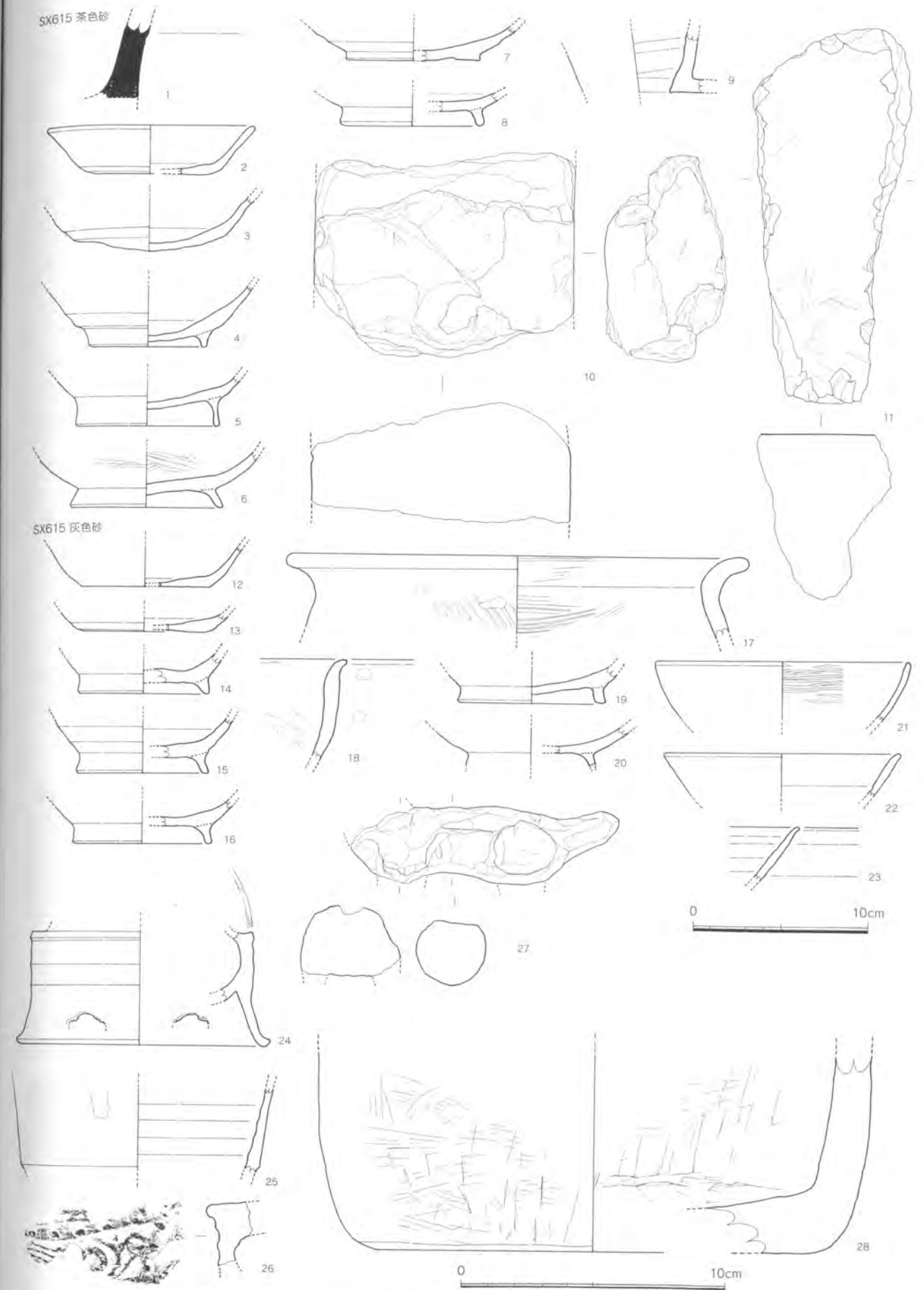


Fig.86 SF615出土遺物実測図 (1/3、11・28は1/2)

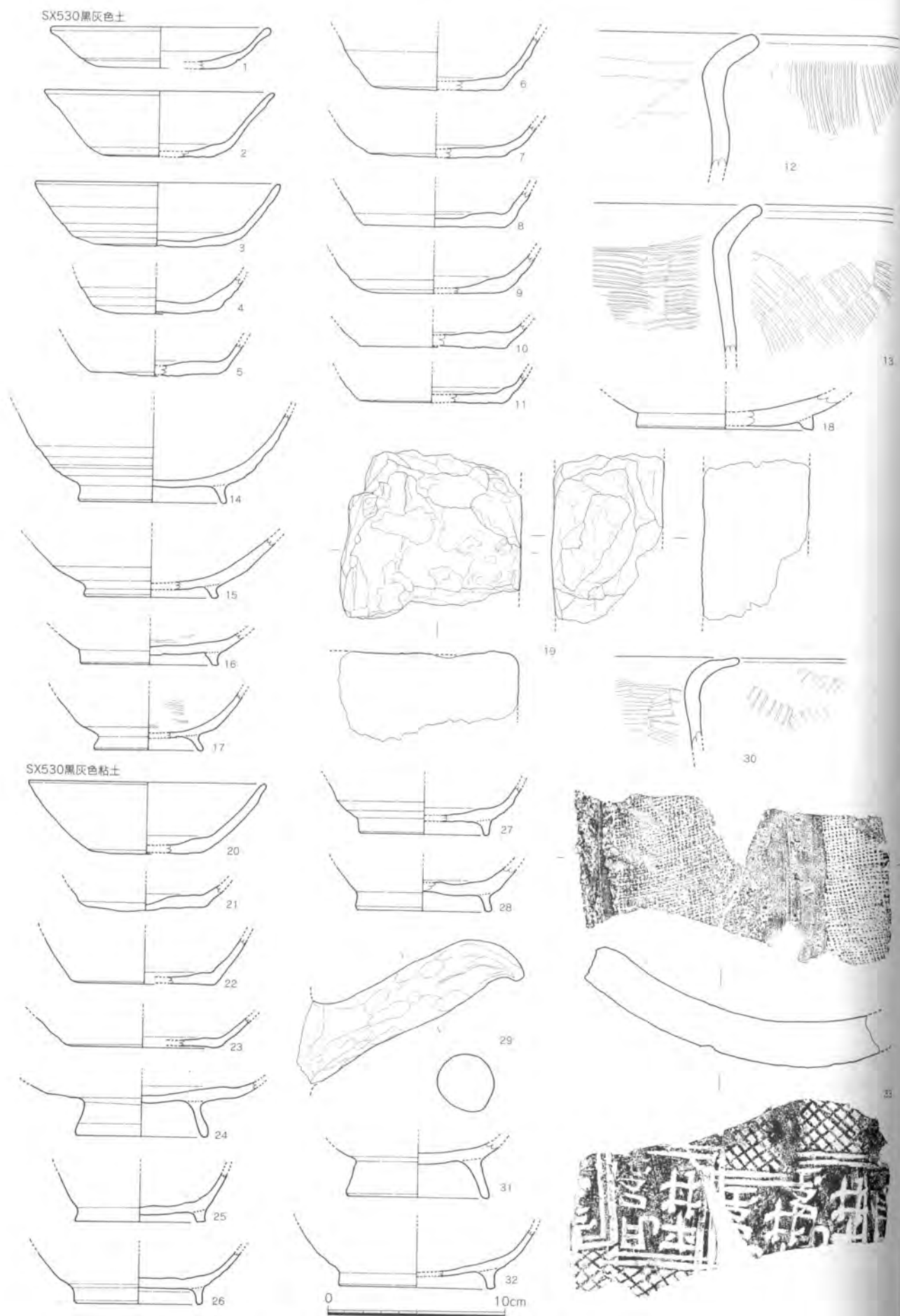


Fig.87 第3面窪み (SX530) 出土遺物実測図 (1/3)

碗c (17) 底部は丸味があり、高台は低い。内面底部は不定方向のナデで、平滑になっている。外面に銅のような付着物がみられる。

土師器

坏a (18~24) 底部復元径6.9~8.0cm。底部回転ヘラ切り、内面底部ナデ、体部内外面ヨコナデ。色調は全体的に黄白色を呈する。

大皿c (25) 高台は高く、径は16cm以上。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み粗い。内面底部は不定方向のナデ、外面回転ヘラケズリ。

緑釉陶器

皿 (26・27) 26は底部が円盤高台で復元径6.6cm。外面に線刻がある。胎土は白色砂粒を若干含むが精製されている。釉は淡い緑灰色で薄く施釉され、剥落しているところが多い。27は復元高台径8.6cm。胎土は灰白色の土師質である。釉は淡い黄緑色で光沢があり、内外面施釉するが剥落が目立つ。底部は回転糸切りで内面には重ね焼き痕跡を残す。

越州窯系青磁

皿(28) 復元口径14.8cm、器高3.0cm。胎土は灰白色を呈し、釉は暗緑灰色で光沢があり全面施釉する。外面底部端には白い目跡が残る。I類。

第3調査面その他の遺構

236-1SF615茶色砂出土遺物 (Fig.86)

須恵器

盤 (1) 粘土接合部で欠損する。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を含み、焼成はやや不良で、黒灰色を呈する。内外面はヨコナデ。

土師器

坏a (2・3) 底部回転ヘラ切り。3は底部がやや丸味がある。色調は黄白色を呈する。

黒色土器A類

碗c (4・5) 全体的に磨滅し調整不明瞭。5は細く高い高台を貼付する。

黒色土器B類

碗c (6) 復元高台径8.7cm。内外面はミガキc。

緑釉陶器

碗×皿 (7) 高台削り出しで、復元底径7.6cm。釉はやや濁った緑灰色で全面に薄く施す。内面はミガキのあと施釉する。胎土は灰色で精製されている。須恵質。京都産。

灰釉陶器

碗 (8) 復元高台径8.2cm。胎土は灰色で細砂粒を含むが精製されている。釉は灰緑色で内面に薄く施釉する。内面底部は露胎で平滑である。外面は回転ナデ。

平提 (9) 頸部付近で、胎土は灰白色で精製されている。内面回転ナデ、外面は黄茶色味を帯びた透明釉を施すがやや剥落気味である。

土製品

磚 (10) 両端は欠損するが、幅は14.8cmで表面はナデ調整。焼成はやや不良で、色調は茶灰色、灰色、暗灰色を呈する。

石製品

砥石 (11) 使用面は1面。

236-1SF615灰色砂出土遺物 (Fig.86)

土師器

坏a (12・13) 復元底部径7.4cmと7.7cm。底部回転ヘラ切り。色調は12が淡橙色、13は黄灰白色。

碗c (14～16) 復元高台径7.5～8.0cm。内面底部ナデ。色調は淡茶灰色を呈する。

甕 (17) 復元口径26.4cm。胎土は0.4cm以下の白色砂粒を少量含み、橙色や茶灰色を呈する。内面はヨコハケ、外面は口縁部がヨコナデ、体部がタテハケでくびれ部には指頭痕がある。

小甕 (18) 内面はヨコナデとナデ、外面は指頭圧痕が残り、二次焼成で赤茶色になっている。内面は黒色化する。

黒色土器A類

碗c (19・20) 19は復元高台径8.4cm。20は磨滅し僅かにミガキcが確認できる。

碗 (21) 復元口径14.6cm。外面ヨコナデ、内面にミガキcを施す。

緑釉陶器

碗 (22・23) 22は復元口径13.6cm、内面中位に段を有する。胎土は灰色で精製され、光沢のある明緑色釉を全面に施す。須恵質。23は胎土が暗灰色で精製され、光沢のある暗緑色釉を薄く施す。須恵質。

越州窯系青磁

香炉 (24) 復元高台径15.0cm。高台には透かしが設けられている。胎土は黄灰色で精製され、釉はオリーブ色で光沢があり、全面施釉するが、上面は釉を拭き取り、目跡が残っている。

長沙窯系青磁

壺 (25) 胎土は黒色粒を僅かに含むが精製され、黄灰色を呈する。内面は回転ナデで露胎。外面は灰色味を帯びた黄色釉で光沢があり、細かい貫入が入る。釉は剥落気味。体部下位に褐釉が垂下する。

瓦類

軒平瓦 (26) 欠損が目立ち詳細は不明瞭だが、唐草文の周囲には珠文がある。

土製品

土馬 (27) 胴部で脚部や頭部は欠損している。胎土は白色砂粒を若干含み橙色を呈する。全面ナデ調整される。

石製品

石鍋 (28) 復元底径18.2cm。内外面とも工具による削りて整形している。滑石製。

236-1SX530黒灰色土出土遺物 (Fig.87)

土師器

坏a (1～11) 復元口径12.4～13.8cm、底径6.4～9.3cm。全体的に磨滅し、底部ヘラ切り、底部内面は不定方向ナデが確認できる。色調は全体的に黄白色で、3が橙灰色を呈する。

甕 (12・13) 胎土は0.3cm以下の白色砂粒や黒色粒を少量含む。12は体部内面ヘラケズリ、外面タテハケ。13は体部内面ヨコハケ、外面粗いタテハケ。

黒色土器A類

碗c (14～17) 高台径は6.2～8.4cm。磨滅しているが内面ミガキcが僅かに残る。外面の色調は14が淡橙黄色、15が淡橙灰色、17が橙灰色を呈する。

緑釉陶器

碗 (18) 復元高台径10.0cm。胎土は0.1cm以下の白色砂粒を少量含んだ土師質。釉は淡緑灰色で全面施釉され、斑点状に淡黄緑色の部分がある。部分的に釉が剥落する。

土製品

埴 (19) 胎土は0.5cm以下の白色砂粒や黒色砂粒を含み、白灰色を呈する。表面の欠落も目立つ。厚

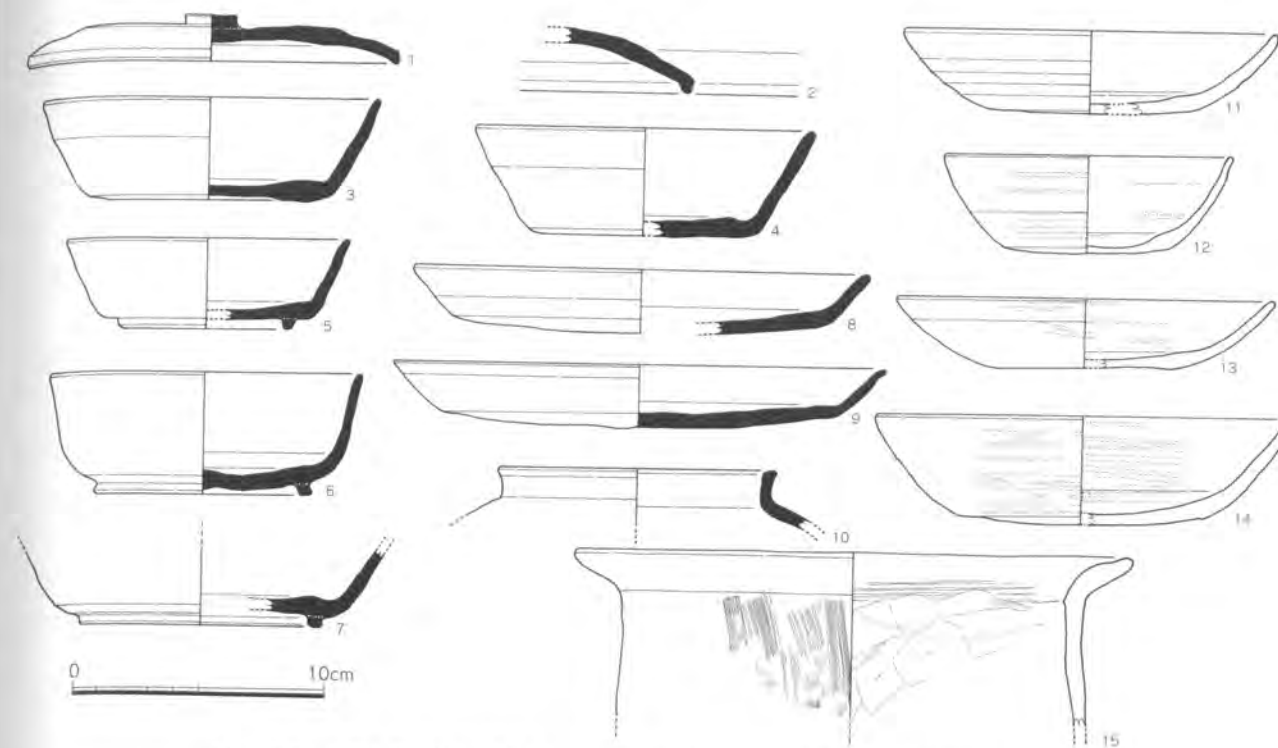


Fig.88 第3調査面窪み (灰色粘土) 出土遺物実測図 (1/3)

さは6.2cm。

236-1SX530黒灰色粘土出土遺物 (Fig.87)

土師器

坏a(20～23) 復元底径6.6～8.8cm。底部回転ヘラ切り。色調は部分的に暗灰色のところもあるが、全体として黄白色を呈する。

碗c (24～28) 高台径7.2～7.7cm。24は高い高台を貼付する。色調は全体として黄白色を呈する。

把手 (29) 長さ12.7cm、径3.35cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒や黒色粒や赤色粒を含み、淡橙褐色や灰褐色を呈する。全面ナデ調整。

甕 (30) 口縁部内面ヨコナデ、その他内外面はハケ調整である。

黒色土器A類

碗c (31・32) 31は復元高台径8.0cm。高い高台を貼付する。32は復元高台径8.8cm、磨滅するが内面にミガキcが残る。

瓦類

平瓦 (33) 裏面は細かい格子叩きに二重線に囲まれ「平井瓦屋」の銘がある。

236-1灰色粘土出土遺物 (Fig.88)

須恵器

蓋c3 (1) 外面上半部回転ヘラケズリ。内面上半部ナデ。扁平なボタン状のツマミを貼付する。復元口径14.9cm。

蓋3 (2) 外面上半部回転ヘラケズリ。内面上半部ナデ。

坏a (3・4) 外面底部は回転ヘラ切り後粗いナデ、内面底部不定方向のナデ、他は回転ナデ。色調は青灰色を呈する。復元口径12.4cmと15.4cm。

皿a (8・9) 8は外面底部回転ヘラ切り。内面底部は一部不定方向のナデ、他は回転ナデ。色調は青灰色を呈する。9は外面底部回転ヘラ切り後粗いナデ。内面底部は回転ナデのあと一部不定方向のナデ、他は回転ナデ。色調は青灰色を呈する。

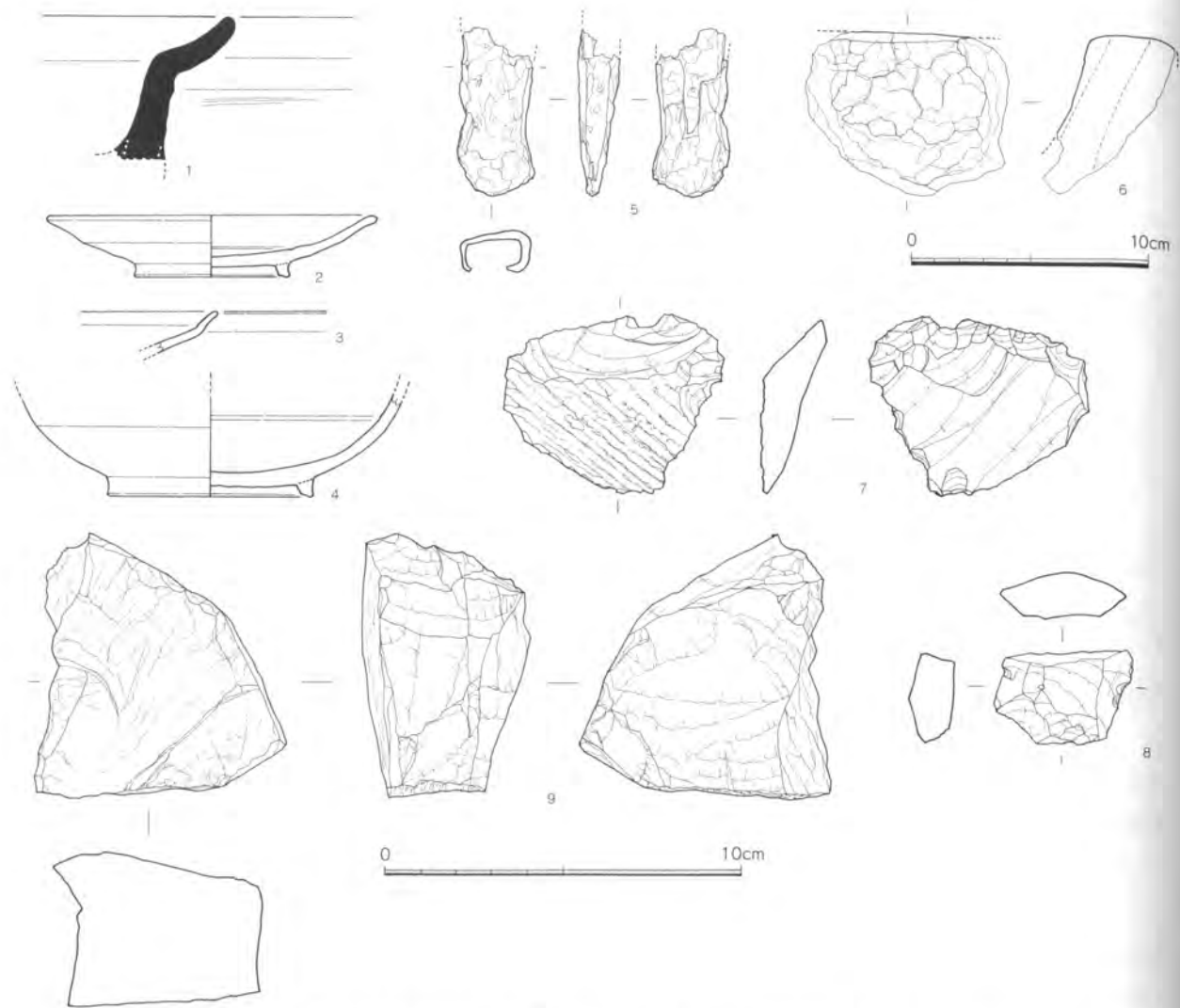


Fig.89 第3面その他の遺構出土遺物実測図 (1/3、7～9は1/2)

坏c (5～7) 5・7は低い方形高台を貼付。5はやや歪んでいる。内面回転ナデ。6は方形高台をやや外開きに貼付する。内面底部は回転ナデのあとナデ。7の内面底部は不定方向のナデ。

短頸壺 (10) 復元口径11.0cm。内外面ナデ調整。

土師器

坏a (11) 外面底部回転ヘラケズリ、その他内外面とも回転ナデ。

坏d (12～14) 外面底部回転ヘラケズリ、内外面は回転ナデのあとミガキaを施す。

甕 (15) 復元口径22.0cm。口縁部内面粗いヨコハケ、体部内面ヘラケズリ、外面細かいタテハケ。内面に煤が付着する。

236-1第3遺構面その他の出土遺物 (Fig.89)

須恵器

盤 (1) 体部中位で屈曲する。0.2cm以下の白色砂粒を少量含み、暗灰色を呈する。外面下半はナデ。その他はヨコナデ。S-1011より出土。

緑釉陶器

皿 (2・3) 2は復元口径13.8cm、器高2.6cm、復元高台径6.5cm。内面に沈線が巡り、高台には段が巡る。釉は光沢のある濃緑色で、全面に厚く施釉され細かい貫入が入る。高台畳付は釉を拭き取っている。須恵質。S-1073より出土。3は光沢のある緑灰色釉を内外面に施すが、外面は少々剥げている。須恵質。

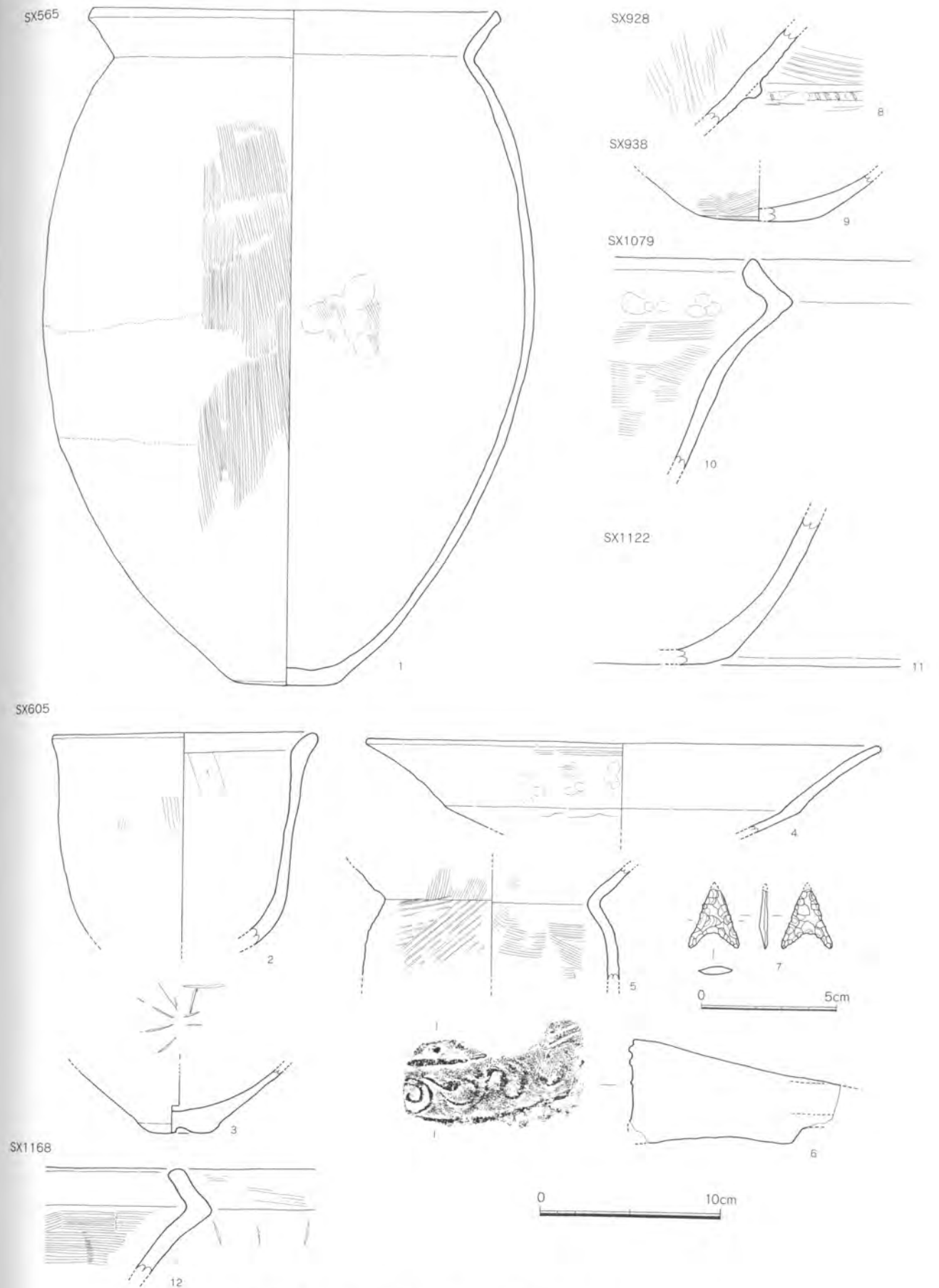


Fig.90 第3調査面基盤層出土遺物実測図 (1/3、7は1/2)

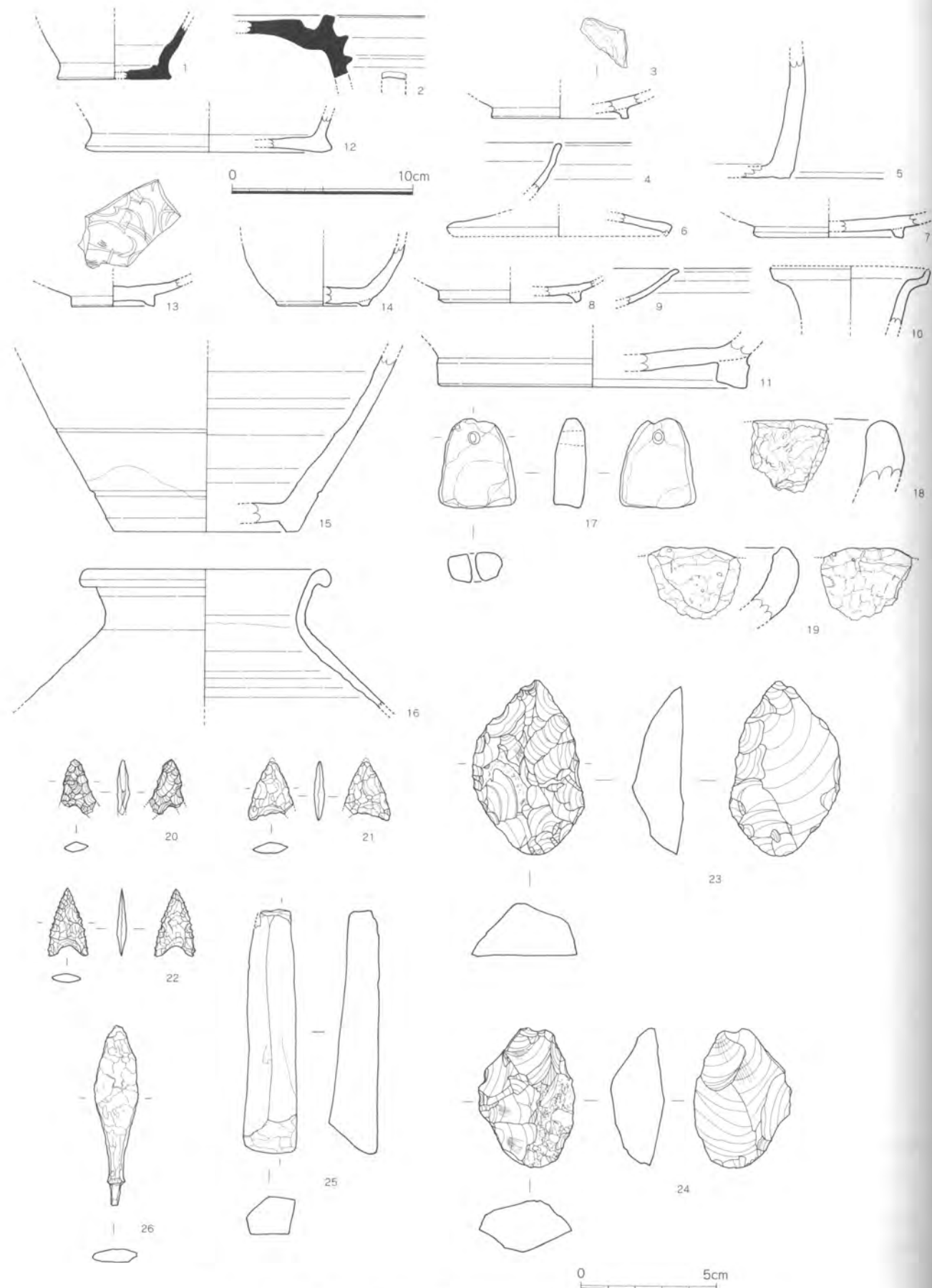


Fig.91 灰褐色土出土遺物実測図 (1/3、20～25は1/2)

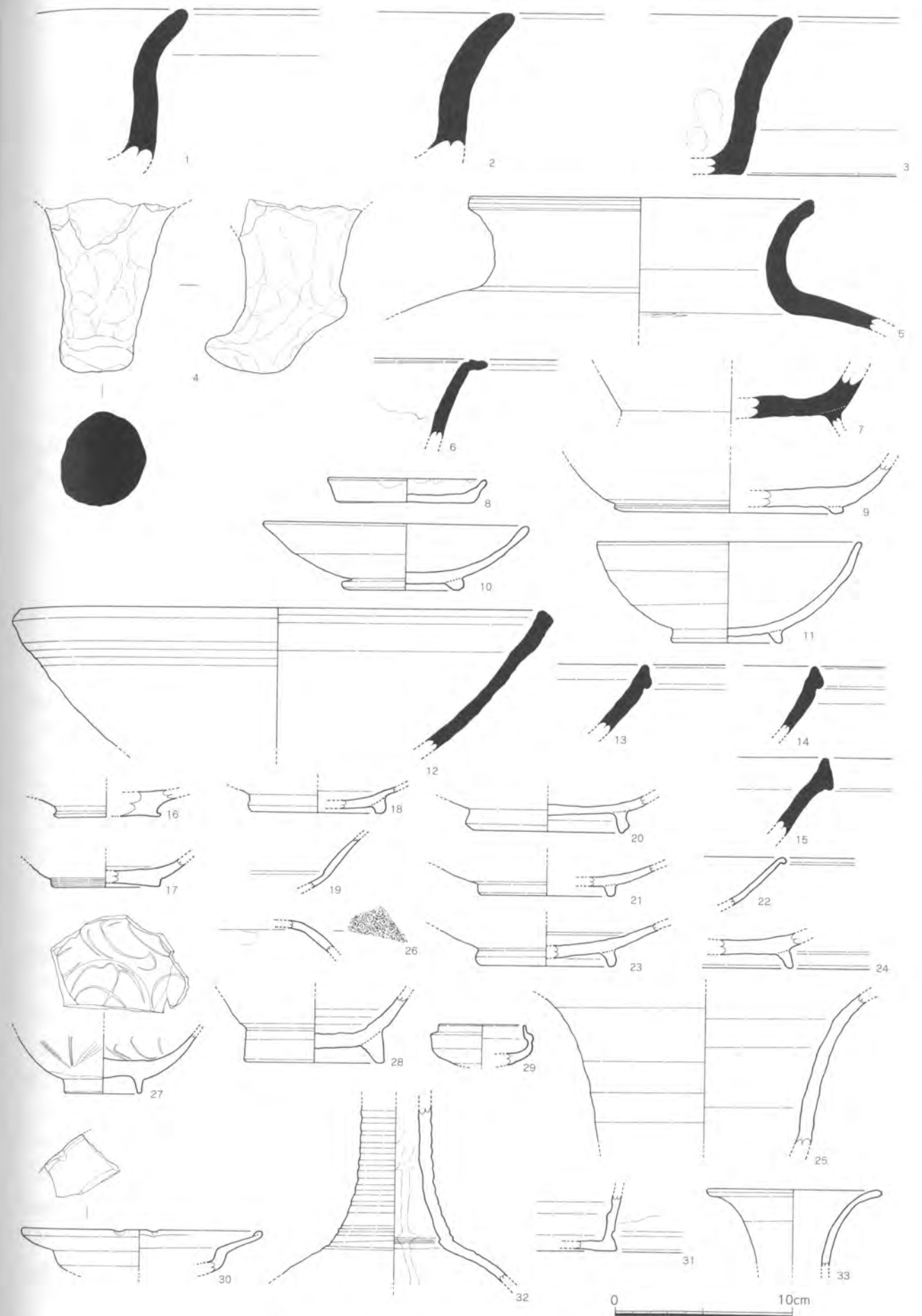


Fig.92 灰茶色土出土遺物実測図① (1/3)

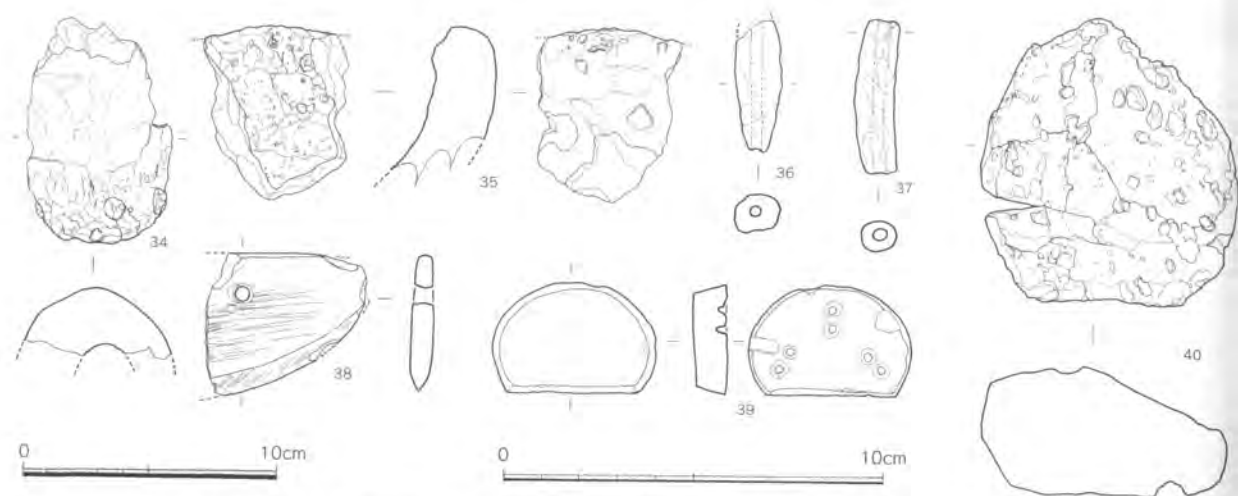


Fig.93 灰茶色土出土遺物実測図② (1/3、38～40は1/2)

S-1107より出土。

椀 (4) 復元高台径8.6cm。体部は丸味があり、体部内面に浅い沈線が巡る。胎土は微細な砂粒を僅かに含み、明灰色～橙色を呈し、土師質。釉は光沢のある明黄緑色である。S-1041より出土。

金属製品

鉄斧 (5) 長さ7.1cm、幅3.25cmで内部は空洞である。全面錆が覆う。S-1012より出土。

土製品

炉壁 (6) 0.6cm以下の白色砂粒を含み、内側から青灰色、白褐色、淡橙褐色を呈する。内面にはヒビが細かく入る。S-568より出土。

石製品

剥片 (7・8) 7は大きさ5.1×6.2cm、厚さ1.8cm。自然面も残す。安山岩製。S-40fより出土。8は大きさ2.6×3.9cm、厚さ1.3cm。安山岩製。S-1037より出土。

石核 (9) 大きさは7.45×4.75cm、厚さ4.3cm。安山岩製。S-515茶色土より出土。

○第3調査面基盤層

236-1SX565出土遺物 (Fig.90)

弥生土器

甕 (1) 復元口径22.8cm、器高37.5cm、底径5.9cm。底部は僅かに丸味を帯びる。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、淡橙灰色を呈する。口縁部はヨコナデ、胴部外面はタテハケで、中位に帯状に煤が付着する。内面は磨滅しているがハケやナデ痕が僅かに確認できる。

236-1SX605出土遺物 (Fig.90)

土師器

小甕 (2) 口径14.8cm。口縁部を肥厚させる。内面ヘラケズリ、外面は僅かにタテハケが残る。全体的に二次焼成で橙褐色を呈する。

弥生土器

壺 (3) 胎土は粗く赤褐色で、底部外面には窪みがある。内面底部にはナデの工具痕が残る。

高坏 (4) 復元口径28.6cm。口縁端部外面にはヨコハケがあり、煤が付着する。外面には指頭圧痕が残る。

甕 (5) 胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、茶灰色を呈する。胴部外面は平行叩き、頸部および内面はハケ調整である。

瓦類

軒平瓦 (6) 均整唐草文の端部で、頸部はナデ調整。

石製品

石鏃 (7) 大きさは長さ2.2cm、幅1.9cm、厚さ0.3cmでやや風化している。不純物が多い黒曜石。

236-1SX928出土遺物 (Fig.90)

弥生土器

甕 (8) 内外面ハケで、刻み目の突帯を巡らす。

236-1SX938出土遺物 (Fig.90)

弥生土器

甕×壺 (9) 胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み橙色を呈する。外面は細かいハケ調整。

236-1SX938出土遺物 (Fig.90)

弥生土器

複合口縁壺 (10) 胎土は粗く白色砂粒を多く含む。口縁部ヨコナデ、頸部は内面ヨコハケだが外面磨滅し調整不明。

236-1SX1122出土遺物 (Fig.90)

弥生土器

甕×壺 (11) 内外面磨滅し調整不明。胎土は粗く茶灰白色を呈する。

236-1SX1168出土遺物 (Fig.90)

弥生土器

複合口縁壺 (12) 0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、淡茶灰色を呈する。口縁部外面ヨコハケ、内面ナデ。頸部外面ナデ、内面ヨコハケ。

第236-1次調査その他の土層

第236-1次調査灰褐色土出土遺物 (Fig.91)

須恵器

壺 (1) 復元底径6.2cm。底部外面は回転糸切り。内外面回転ナデ。篠窯産。

円面碗 (2) 方形透かし孔が一部確認できる。碗面は若干滑らかになっている。

緑釉陶器

椀×皿 (3) 復元高台径7.6cm。胎土は0.05cm以下の砂粒を僅かに含み、灰白色を呈する。釉は淡緑色で薄く施釉され、内面には部分的に暗緑色の釉が掛かる。土師質。

椀 (4) 胎土は僅かに細砂粒を含み、暗灰色を呈する。釉は濃い緑灰色で、部分的に剥落している。須恵質。

壺 (5) 胎土は0.1cm以下の白色砂粒や黒色粒を多く含み、白灰色を呈する。土師質。釉は明淡緑色で光沢がある。内外面とも施釉されるが欠落が目立ち、内面下半は薄く掛かっている。

灰釉陶器

蓋 (6) 胎土は灰白色で、釉は灰緑色で外面に厚く施釉され、内面は回転ナデ。

椀 (7) 復元高台径8.3cm。釉は淡緑色で光沢があり、内外面施釉されるが、かなり剥落している。

椀×皿 (8) 復元高台径7.8cm。胎土は白色・黒色の細砂粒を含み、白灰色を呈する。内面にごく僅かに釉が残る。

皿 (9) 釉は緑灰色で、内面施釉、外面下半は回転ヘラケズリで一部施釉される。

壺 (10・11) 10は口縁端部を僅かに欠損するが復元口径9.0cm。釉は灰緑色で、内外面とも回転ナデのあと施釉され、内面は剥落が目立つ。11は復元高台径17.0cm。高台は内側がやや浮いた状態。胎

土は0.3cm以下の砂粒を多く含み、淡灰色を呈する。釉は濃緑色で光沢があり、内面と高台外面の一部に施釉する。

長沙窯系青磁

水注(12) 底部外面へラ切り、そのほか内外面は回転ナデ。復元底径13.6cm。

白磁

皿(13) 復元高台径4.6cm。胎土は白色粒などの細砂粒を含み、白灰色を呈し、化粧土が掛かる。釉は黄白灰色で光沢がある。内面にはへラ描きの草花文が施されている。広東系。

壺(14・15) 14は低い高台が貼付され、復元高台径5.1cm。胎土は0.15cm以下の白色・黒色粒を含み淡灰色を呈する。釉は淡緑灰色で光沢があり細かい貫入が入る。内外面施釉するが底部は若干剥けている。15は高台が体部と同じ角度で、回転へラケズリで台形に仕上げている。外面は沈線まで施釉し、内面は強いヨコナデの後施釉し、底部は釉が厚く溜まる。高台畳付に付着物がある。胎土は0.05cm以下の黒色粒を含み、白灰色を呈する。復元高台径10.4cm。

中国陶器

壺(16) 復元口径13.8cm。口縁端部は丸く曲げられる。胎土は0.1cm以下の白色粒や赤褐色粒を含み淡灰色を呈する。釉は暗緑色で光沢があり、貫入も入る。内面は胴部が回転ナデで露胎、内面口縁部と外面は回転ナデのあと施釉。

土製品

権(17) 上部に径0.8cmの円孔が穿たれている。大きさは縦4.95cm、幅4.2cm、厚さ1.65cm。全体が磨滅するが、瓦を転用したものとみられる。重さは37.6gである。

トリベ(18・19) 胎土は2点とも軟質で、18は内側から淡紫色、灰白色に変色している。内面は茶褐色部分もある。19は内面に緑色や淡紫色部分がある。

石製品

石鏃(20～22) 20は縦2.0cm、幅1.45cm、厚さ0.35cm。黒曜石製。21は両端を欠損し、現存長2.15cm、幅1.65cm、厚さ0.4cm。黒曜石製。22は縦2.5cm、幅1.5cm、厚さ3.5cm。安山岩製。

尖頭器(23) 縦6.45cm、幅4.1cm、厚さ1.9cm。一部自然面が残る。黒曜石製。

石核(24) 縦5.15cm、幅3.5cm、厚さ2.0cm。一部自然面が残る。黒曜石製。

砥石(25) 縦9.0cm、厚さ1.95×1.35cmと細長く、側面全体に研磨痕が残る。

金属製品

鉄鏃(26) 縦9.95cm、最大幅2.45cm、厚さ0.7cm。良好に遺存しているが、全面厚いサビに覆われる。柳葉形で鏃身部中央付近に最大幅がある。

第236-1次調査灰茶色土出土遺物 (Fig.92・93)

須恵器

盤(1～3) 1は胎土が0.35cm以下の白色砂粒を多く含み、焼成・還元良好で淡灰色を呈する。内外面ともヨコナデ。2は全体的に磨滅していて、下部は粘土接合部で欠損する。胎土は0.4cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、淡灰色や淡暗灰色を呈する。3は胎土が0.25cm以下の白色砂粒を含み、焼成は不良で淡灰色や黒灰色を呈する。内外面回転ナデで、外面底部には板状圧痕を残す。

獣脚(4) 0.4cm以下の白色砂粒を含み、白灰色や暗灰色を呈する。焼成は不良で、指頭圧痕は残るが磨滅が目立つ。

甕(5) 復元口径19.6cm。体部内面は叩きの後ナデ。その他はヨコナデ。

甕×壺(6) 破片で全容が掴めない。口縁端部は屈曲させ、つまみ出した突起が巡る。内外面とも回

転ナデ。

壺(7) 胎土は0.35cm以下の白色砂粒や黒色粒を少量含み、淡赤灰色を呈する。底部外面はへラ切りで、内面底部の一部が粗いナデ、その他は回転ナデ。肥後荒尾産と推測される。

土師器

小皿a(8) 口径9.05cm。外面底部は回転糸切り。口縁部内外面に部分的に煤が付着する。

大椀c(9) 低い高台を貼付し、復元高台径13.0cm。胎土は0.2cm以下の白色砂粒や黒色粒を含み、淡橙色を呈する。外面は磨滅するが、内面には漆が付着する。

丸底坏c(10) 全体的に磨滅しているが、内面に僅かにミガキbが残る。高台は丸味のある低い高台を貼付する。口径15.0cm。

瓦器

椀c(11) 口径14.95cm、全面磨滅しているが、内面に僅かにミガキ痕跡が残る。

須恵質土器

鉢(12～15) 12は復元口径31.0cm。内外面回転ナデで、内面下半は不定方向のナデ。13・14は口縁端部を僅かに肥厚させ、外面に沈線状の段が巡る。15は口縁端部を三角形に肥厚させる。

緑釉陶器

椀(16～19) 16は底部糸切り。板状圧痕も残る。胎土は淡灰色で、釉は緑灰色で光沢があり、内面に薄く掛かり、外面に僅かに残る。須恵質。17は削り出し高台で復元底径6.3cm。胎土は淡灰色を呈し、全面に光沢のある緑灰色釉を薄く施す。須恵質。18は復元高台径7.8cm。胎土は黒色粒を含み、淡灰色を呈する。釉は全く残っていないが、器面は磨いたようにも見える。須恵質。京都産。19は内面に段を有する。胎土が淡茶灰色で土師質だが焼成は良好。釉は灰緑色で剥落も目立つ。

灰釉陶器

皿(20～22) 20は復元高台径9.2cm。釉は淡緑灰色で内面上部に施釉され、内面底部は露胎で平滑である。外面は回転ナデで露胎。21は復元高台径7.8cm。現存範囲は露胎で、内面底部は回転ナデのあと不定方向のナデで平滑である。内外面回転ナデ。22は回転ナデのあと緑灰色釉を薄く施す。

段皿(23) 復元高台径8.0cm。胎土は淡灰色を呈し、釉は光沢のある淡緑灰色で、内面底部に部分的に釉が掛かる。外面底部は一部釉が掛かる。

椀(24) 胎土は0.15cm以下の砂粒を含み、淡灰色を呈する。内外面回転ナデで、内面底部が平滑である。現存範囲に釉はない。

壺(25) 内外面とも回転ナデのあと光沢のある淡灰白色釉を薄く施釉。内面に釉は残る。

新羅土器

壺(26) 小破片で、胎土は0.05cm以下の白色砂粒を僅かに含み、淡灰色や灰白色を呈する。外面は同心円スタンプを施す。

白磁

椀(27) 復元高台径4.4cm。やや細く高い高台を貼付する。釉は灰緑色で細かな貫入が入る。化粧土はない。高台や底部外面は露胎。内外面にへラ描き文が施されている。

壺(28) 釉は光沢のある淡緑色で貫入が入る。全面回転ナデで、内面および底部外面と高台畳付は露胎。復元高台径7.9cm。

越州窯系青磁

合子(29) 復元口径4.9cm。釉は光沢のある緑灰色で内外面とも回転ナデのあと薄く施釉する。

唾壺(30) 復元口径13.8cm、体部中位で外側に屈曲させ、口縁端部は内側に折り曲げ丸く仕上げる。

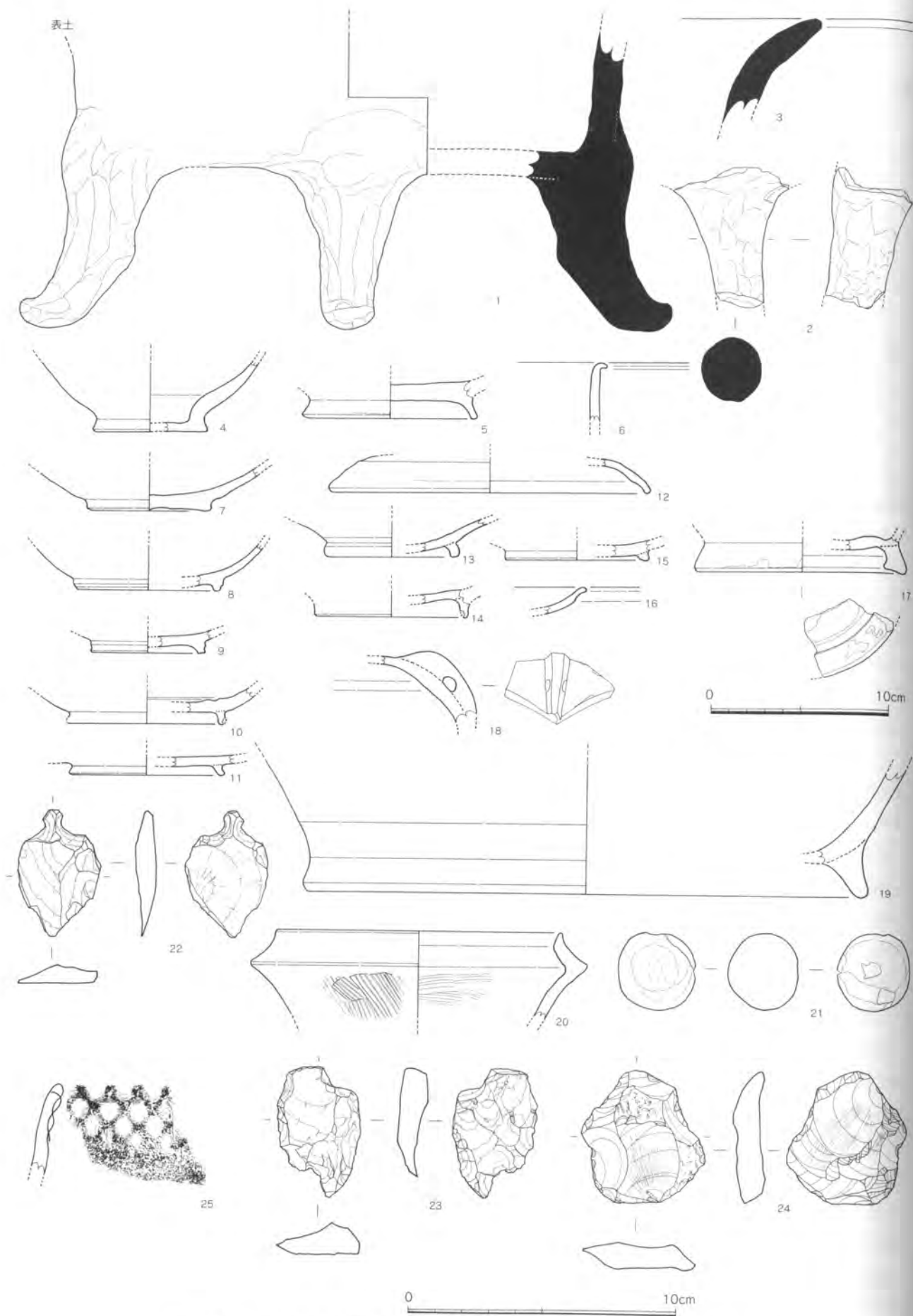


Fig.94 表土その他出土遺物実測図 (1/3、22～24は1/2)

端部には輪花状の凹みを付けている。胎土は精製され、緑灰色釉を施す。I類。

長沙窯系青磁

水注 (31) 外面の一部が淡緑灰色の釉を施されるが、その他は回転ナデのあと露胎。

青白磁

壺 (32) 釉は光沢のある淡青白色で、外面は施釉され、内面は上部に釉が掛かり、下方へ垂れている。頸部全体に条を巡らす。頸部と胴部の繋ぎ目は内外とも若干の段が付いている。

黒釉陶器

壺 (33) 復元口径9.9cm。胎土は僅かに白色や黒色粒を含み、淡灰色を呈する。釉は緑灰色や暗緑灰色で、内外面とも回転ナデのあと施される。口縁端部はやや劣化している。

土製品

鞆羽口 (34) 外面は溶解または変色し、先端部には鉾滓が付着する。

トリベ (35) 内面と外面上部は溶解し、暗赤色の鉾滓が付着し、内面に緑色粒がみえる。

土錘 (36・37) 2点とも焼成は不良で、36は端部が欠損し、磨滅するが僅かに指頭圧痕が残る。径1.4～1.85cm。37は磨滅するが僅かに指頭圧痕が残る。縦6.05cm、径1.2～1.4cm。

石製品

石包丁 (38) 1/3ほどの残片で、円孔が穿たれている。石材は溶結凝灰岩。

石帯丸柄 (39) 大きさは縦2.9cm、横4.3cm、厚さ0.9cm。裏面には2個づつ3ヶ所の穴が開く。石材は黒色で粘板岩とみられる。

軽石加工品 (40) 大きさは7.7×6.85×3.4cm。表面は研磨され、平坦面を作り出している。

第236-1次調査表土出土遺物 (Fig.94)

須恵器

脚付盤 (1・2) 1は盤に脚部が貼付され、盤の底部分で復元底径36.5cm。脚数は不明である。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、淡灰色から暗灰色を呈する。盤の内外面がヨコナデ、脚部はナデ。3と同一個体である可能性が高い。2は脚部で、盤の接合部で欠損する。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、淡青灰色から白灰色を呈する。

盤 (3) 盤の口縁部で内外面ヨコナデ。胎土は0.3cm以下の白色砂粒を多く含み、淡灰色から淡茶灰色を呈する。

土師器

碗 (4) 復元底部径6.4cm。胎土は0.3cm以下の白色砂粒などを含み、白黄褐色を呈する。外面底部は回転糸切りで、内面底部はナデ、その他は磨滅し調整不明。

越州窯系青磁

碗 (5) 復元高台径9.8cm。胎土は僅かに微砂粒を含むが精製されている。釉は灰緑色で高台畳付は露胎、その他は全面施釉。III類。

施釉陶器

壺 (6) 口縁部を外側に屈曲させる。全形が掴みにくいが、壺のようなものとみられる。内外面とも回転ヘラケズリで、全面化粧土がある。

緑釉陶器

碗 (7～9) 7は復元高台径7.0cm。全体的に磨滅が目立ち、淡緑灰色釉が僅かに残る。土師質で底部は円盤高台。洛北産。8は復元高台径8.0cm、全面に緑灰色釉が掛かり、光沢があり綺麗である。須恵質。洛西産。9は復元高台径6.4cm、高台ケズリ出し。底部外面に釉はなく内面底部と外面には淡緑灰色の釉

が薄く掛かる。京都産。

碗×皿(10) 胎土は淡灰色で須恵質。内外面に淡緑灰色釉が薄く掛かる。東海産か。

皿(11) 外開きの低い高台を貼付し、灰緑色釉を全面に掛ける。土師質。防長産。復元高台径8.7cm。灰釉陶器

蓋(12) 復元口径14.8cm。外面上部が回転ヘラケズリでその他は回転ナデ。外面は灰緑色釉が斑に残り、内面は研磨されている。

碗×皿(13~15) 13は復元高台径7.6cm。内面には重ね焼き痕が残る。胎土は0.1cm以下の砂粒を含み、淡灰色を呈する。釉は淡緑灰色で、内面底部と外面底部は露胎。14は復元高台径8.6cm。釉は淡灰色で、内面を施釉するが剥離が著しい。東山72×虎溪山1か。15は復元高台径8.0cm。胎土は白灰色で内面のみ灰緑色釉が施される。外面底部は回転ヘラケズリ。

皿(16) 胎土は0.3cm以下の砂粒を僅かに含み、灰白色を呈する。釉は灰緑色で内外面回転ナデのあと内面だけ施釉する。

壺(17) 復元高台径12.0cm、高台畳付の外側部分が接するような傾きである。胎土は0.2cm以下の白色砂粒を多く含み、淡灰色や明灰色を呈する。釉は緑灰色で、内外面施釉され、高台外面は釉が厚く残る。内面底部と高台畳付に目跡が残る。

耳付壺(18) 肩部に貼付されたもの。胎土は0.1cm以下の砂粒を含み、白灰色を呈する。釉は光沢のある暗緑色で、内面は回転ナデで露胎である。

弥生土器

甕(19) 復元高台径31.6cm。胎土は0.6cm以下の砂粒を多く含み、淡橙色を呈する。全面磨滅する。

壺(20) 二重口縁壺で復元口径16.0cm。口縁部はヨコナデ、頸部内外面はハケ調整である。

土製品

丸玉(21) 4.3×3.85cmの球体で、胎土には角閃石が少量含まれるが精製されている。色調は暗灰色~白灰色を呈する。

石製品

石匙(22) 縦4.75cm、幅3.1cm、厚さ0.8cm。安山岩製。

剥片(23・24) 23は大きさ4.85×3.1cm、厚さ1.15cm。チャート製。24は大きさ5.0×4.65cm、厚さ1.2cm。やや風化し稜が取れている。二次加工あり。黒曜石製。

第236-1次調査出土遺物 (Fig.94)

縄文土器

深鉢(25) 口縁端部と外面に刻み目などを施文する。胎土は赤褐色で細かい滑石粉を多く含む。阿高系。整理段階の手違いで出土遺構が不明になった。

2、第236-2次調査

(1) 調査に至る経過

県道観世音寺二日市線及び市道新設に伴う調査で、詳細は第236-1次調査の項で前述したとおりである。調査は遺構密度が大きい太宰府線より北側を第236-1次調査とし、南側を第236-2次調査として調査を行った。第236-2次調査地は太宰府市朱雀2丁目340-1である。

調査費用については、県道部分を福岡県が負担し、その他市道部分は市費で行った。第236-2次の発掘調査は2005(平成17)年1月26日から2005(平成17)年6月8日にかけて実施した。調査は宮崎亮一と柳智子が担当した。調査面積は1705m²である。

(2) 基本層位

地表から約0.6~1mほどは西鉄関連の攪乱層で、この攪乱は一部が地山付近まで達する部分もみられた。その下に耕作土と床土があり、包含層を挟んで整地層に達する。この層位は基本的に北側の第236-1次調査の層位と同様である。地山は柔らかい黄灰色土と黄灰色砂質土で、黄灰色土には上面の整地層が凸凹に食い込んで検出される。この食い込んでいる灰茶色土層(凹凸は遺構番号を付して取り上げている)は第236-1次調査で確認されていた1面目の基盤層と同じとみられ、第236-1次調査南端部ではその基盤層直下に3面目が検出されていたため、この第236-2次調査でも同様であった。

なお、遺構検出時の遺物は茶色土で取り上げている。

(3) 検出遺構

掘立柱建物

236-2SB060 (Fig.96)

調査区南端付近で検出され、西側は調査区外へと続いていて、2005年に行った第251次調査で、その延長部を確認し、南北3間×東西2間の総柱の建物であることが確定した。振れはN-2°17'-E。柱間は南北が約1.88~2.08m、東西が約2.36mを測る。掘り方は一辺0.8~1mほどの方形を呈し、深さは0.3mほど残っている。掘り方jには径0.2~0.3mの柱痕が高さ0.3mほど残存していた。この柱痕は分析を行い、詳細な分析結果は第V章のとおりである。

溝

236-2SD005

調査区を南北に走る溝。方位はN-3°42'-Wであるが、埋土は灰色土で遺物から近代以降のもので、

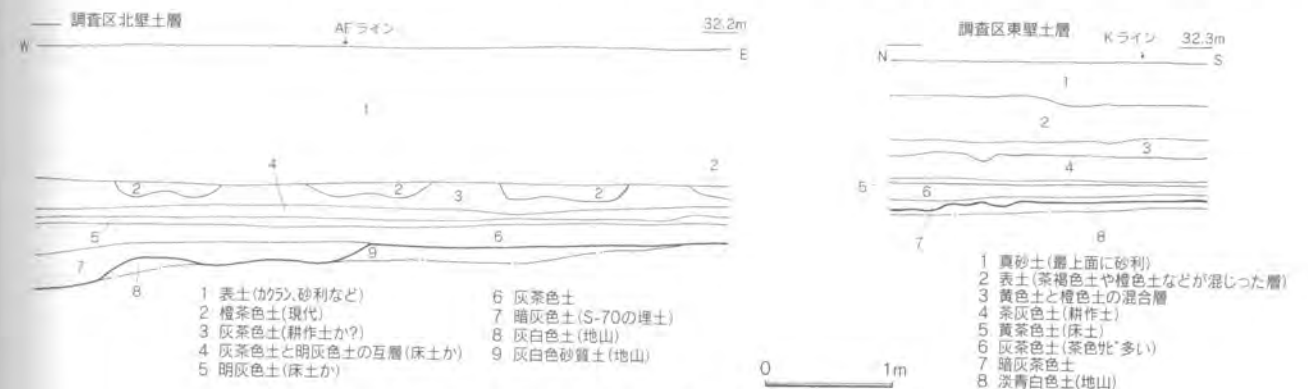


Fig.95 第236-2次調査区土層実測図 (1/60)

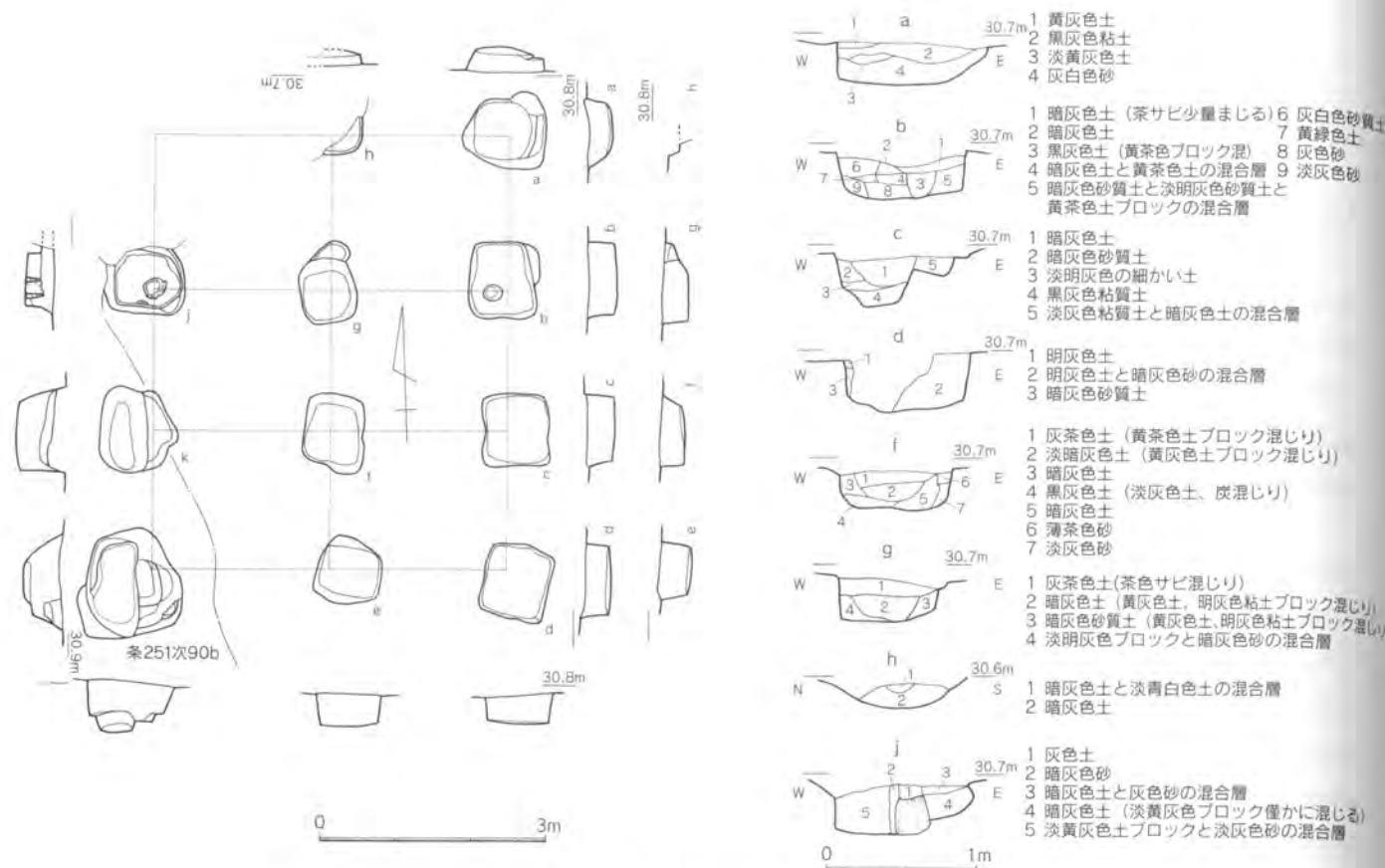


Fig.96 236-2SB060遺構実測図 (1/100, 土層図1/50)

操車場建設直前まであった南北道路の側溝か。検出長34m、深さは約0.1mのU字形を呈する。

236-2SD035

方位はE-0° 29' -Sの東西溝で、調査区西端であるため、検出長は4.4m、深さは約0.2mで、底面はやや凸凹している。

236-2SD080

方位は約N-8° 30' -Wのやや西向きの南北溝で、検出長は約11.5m、深さは約0.15mを測る。

井戸

236-2SE001 (Fig.97)

大きさは東西1.15m、南北1.15m、深さ1.25mを測り、丸味のある方形をしている。井戸枠などの施設は残っていなかった。埋土は全体的に炭が混じり、最下層の灰茶色粘土には木片や腐食土がみられ、獣骨も混じっていた。

236-2SE030 (Fig.97)

径0.8mの隅丸方形を呈し、深さは0.85mだが、深さ0.46mで中段があり、その底に径0.36mほどの円形掘り込みがあり、湧水はみられないが、曲物の痕跡である可能性が考えられる。

236-2SE050 (Fig.97)

掘り方は径1.2m、深さ1.08mの隅丸方形である。遺構検出時点で井戸枠の方形プランと隅柱が確認された。井戸枠は大きさの不統一な縦板が使用され、東側6枚、西側4枚、南側約4枚、北側3枚あり、現存している範囲では上下2段分の横棧によって押さえられていた。上部の横棧は径0.02mほどでかなり腐食した状態であった。下段の横棧は方形に加工された角材で、それぞれホゾで組まれ、その内法は0.63～0.68mであった。中央には径0.41～0.43mの曲物が2段組で据えられていた。曲物周囲は平瓦が立てた状態で敷き詰められていた。平瓦は欠損は少ないものの、変形が目立つため、不良品が用いられたもの

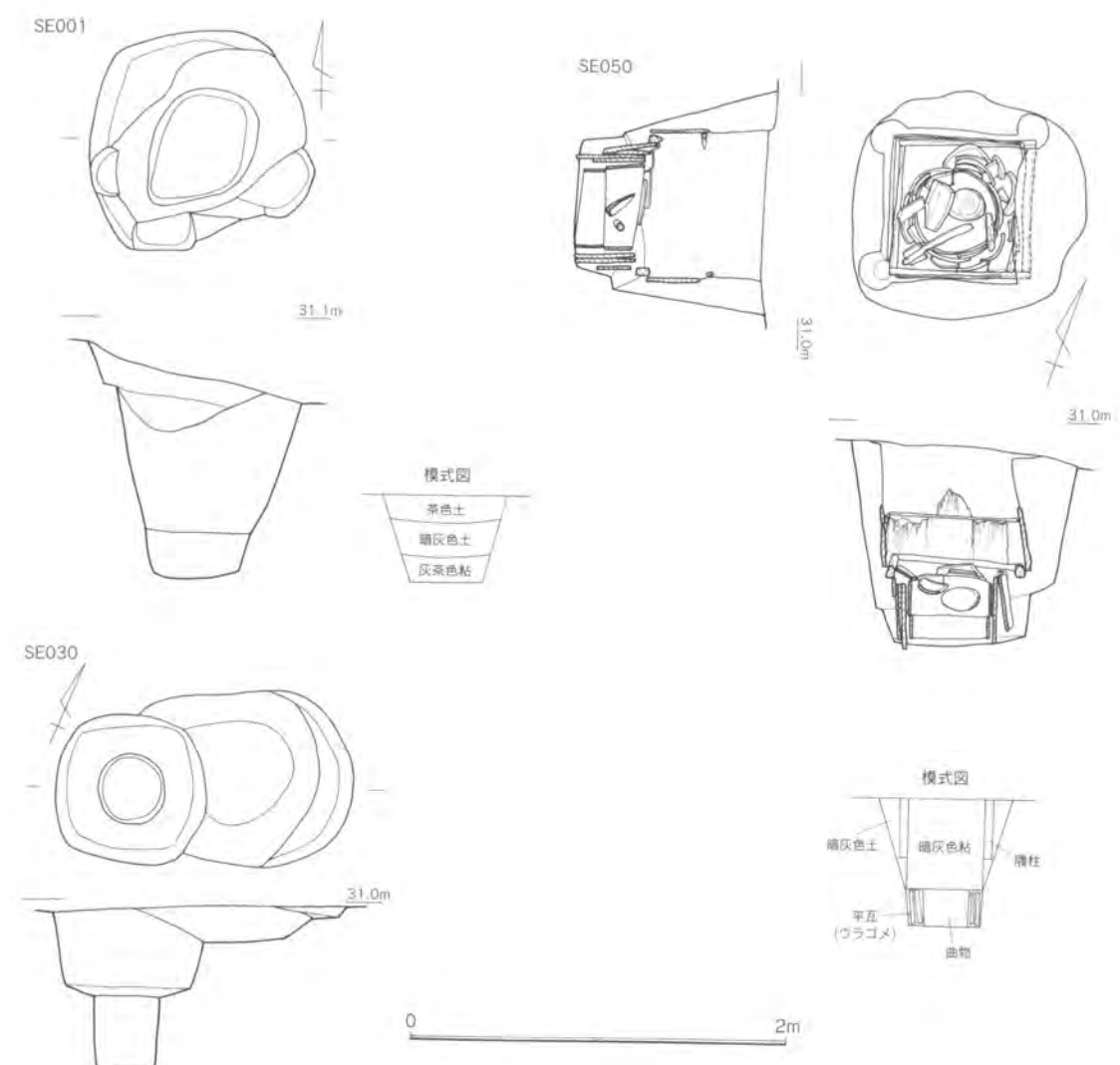


Fig.97 第236-2次調査井戸実測図 (1/40)

と推測される。曲物内からは汲み上げ用とみられる曲物出土し、曲物検出面のレベルから滑石製石塔の残欠が出土した。

土坑

236-2SK010 (Fig.98)

大きさ1.6×1.8m、深さ0.5mの円形の土坑である。埋土はほぼ単層だが、下層がやや砂質である。

236-2SK015 (Fig.98)

大きさ2.1×1.6m、深さ0.73mの楕円形の土坑である。埋土は大きく2層で下層に奈良時代の遺物が多く、上層にはXII期前後の遺物が多く出土する。

236-2SK025 (Fig.98)

大きさ1.6×1.4m、深さ1.07mの円形の土坑である。トレンチによって切られている。埋土の中央の土質が異なっており、堆積中の沈み込みが窺える。形状から井戸の可能性も考えたが、雨水等の染み込みが速く、とても湧水または貯水は不可能とみられ、土坑として報告する。

236-2SK040

東西1.58m、南北2.05m、深さ0.25mの楕円形の土坑である。埋土は暗灰色土で底面には埋土がやや凸凹に食い込んでいた。

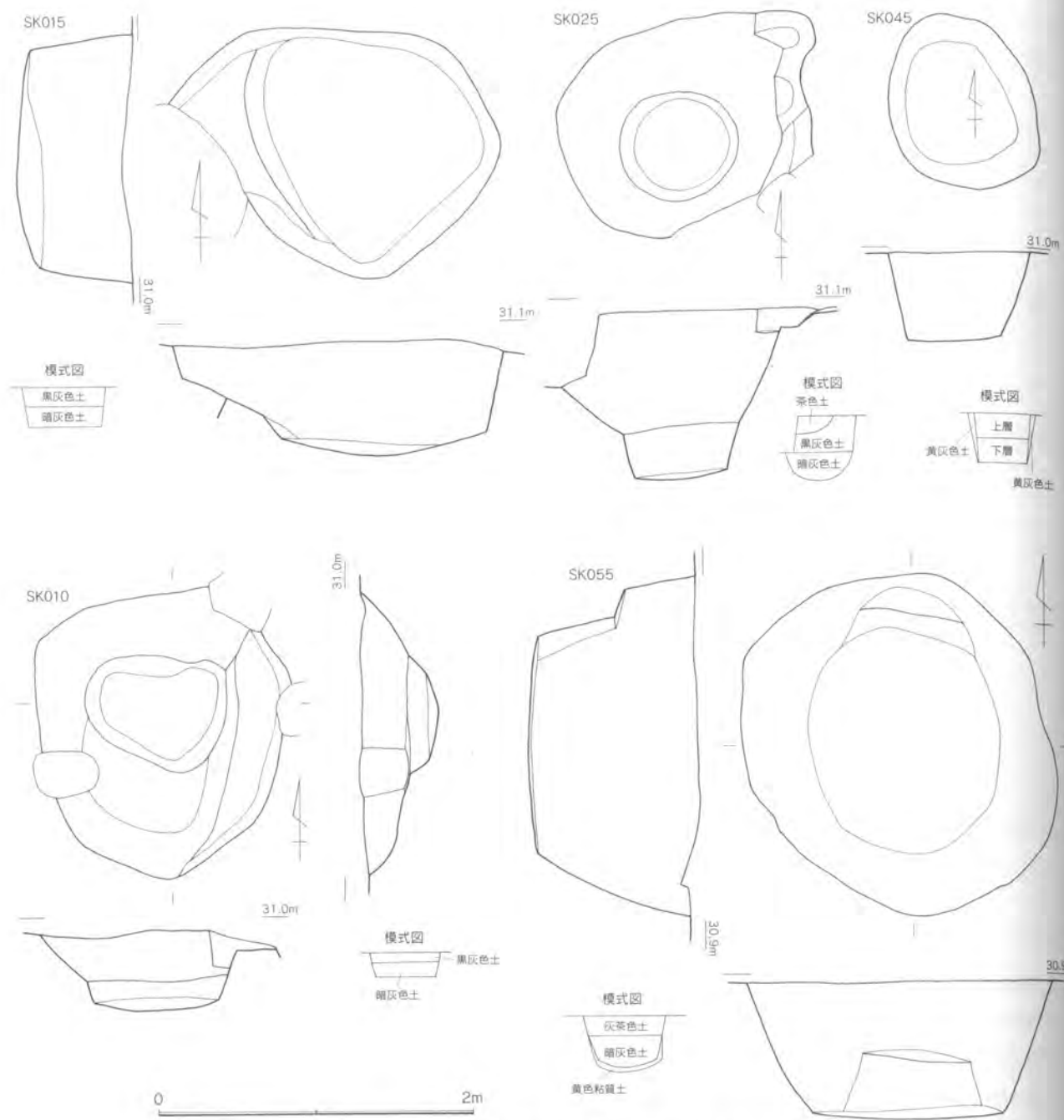


Fig.98 第236-2次調査土坑実測図 (1/40)

236-2SK045 (Fig.98)

東西0.96m、南北1.15m、深さ0.68mの楕円形の土坑である。埋土は暗灰色粘質土で、地山との境に黄灰色土があり、調査時はきれいに巻れる状態であった。埋土中に木片が少量出土したため、井戸の可能性も考えられる。

236-2SK055 (Fig.98)

大きさ2.0×2.2m、深さ0.88mの楕円形の土坑である。遺構検出時は井戸とみられたが、井戸枠などの残骸すら出土しないこと、壁際に地山と似ている埋土が自然堆積した状況とみられるから井戸ではなく、土坑と推測される。

236-2SK085

東西2.6m、南北3.05m、深さ0.7mの不定形の土坑で、SD080との切り合いが不明瞭である。埋土はほぼ暗灰色土の単層である。

その他の遺構

236-2SX070

調査区北西隅で検出されたが、上面は表土剥ぎの段階で、重機によって除去している。底面はかなり凸凹していて、暗灰色粘質土で埋まっていた。南北幅約20m、深さは約0.8mを測る。大きさや部分的に粘土層が残っていることから、土取りの跡と推測される。

236-2SX032

大きさは0.5～0.52m、深さ0.5mの円形ピットである。

236-2SX034

大きさは0.66～0.68m、深さ0.25mの円形ピットである。

236-2SX038

大きさは0.26～0.3m、深さ0.4mの円形ピットである。

236-2SX020

南北6.0m、東西3.0m以上で、西側は調査区外に続く。深さ0.05～0.15mと浅く、土坑というより窪みのような状況である。埋土は灰色土である。

その他にも同様の埋土で、不定形な土坑が調査区中央付近の軟弱地盤を中心に検出された。

(4) 出土遺物

溝

236-2SD005出土遺物 (Fig.99)

龍泉窯系青磁

碗(1) IV類。

肥前系磁器

碗(2～5) 青色で文様を施した染付である。2は復元高台径5.5cm。3は高台畳付が露胎。復元高台径3.9cm。4は高台畳付と高台内面に付着物がある。5は内面露胎。

国産陶器

急須(6) 茶漉し穴が3つ開けられている。外面は乳白色の釉を施すがかなり剥落している。

236-2SD035出土遺物 (Fig.99)

須恵器

坏c(7) 灰白色の胎土で、体部はやや丸味があり、内面は不定方向のナデを施す。

土師器

甕(8) 口縁部内面はハケ、体部は内面ヘラケズリ、外面タテハケ。口縁部との境は明瞭な稜線を有する。

236-2SD080灰茶色土出土遺物 (Fig.99)

土師器

小皿a(9) 内外面とも摩滅が著しい。

丸底坏(10・11) 口縁部を僅かに外反させる。

黒色土器

碗(12・13) 12は体部下半に指頭圧痕が、内面にはミガキが残る。復元口径14.0cm。13はやや外

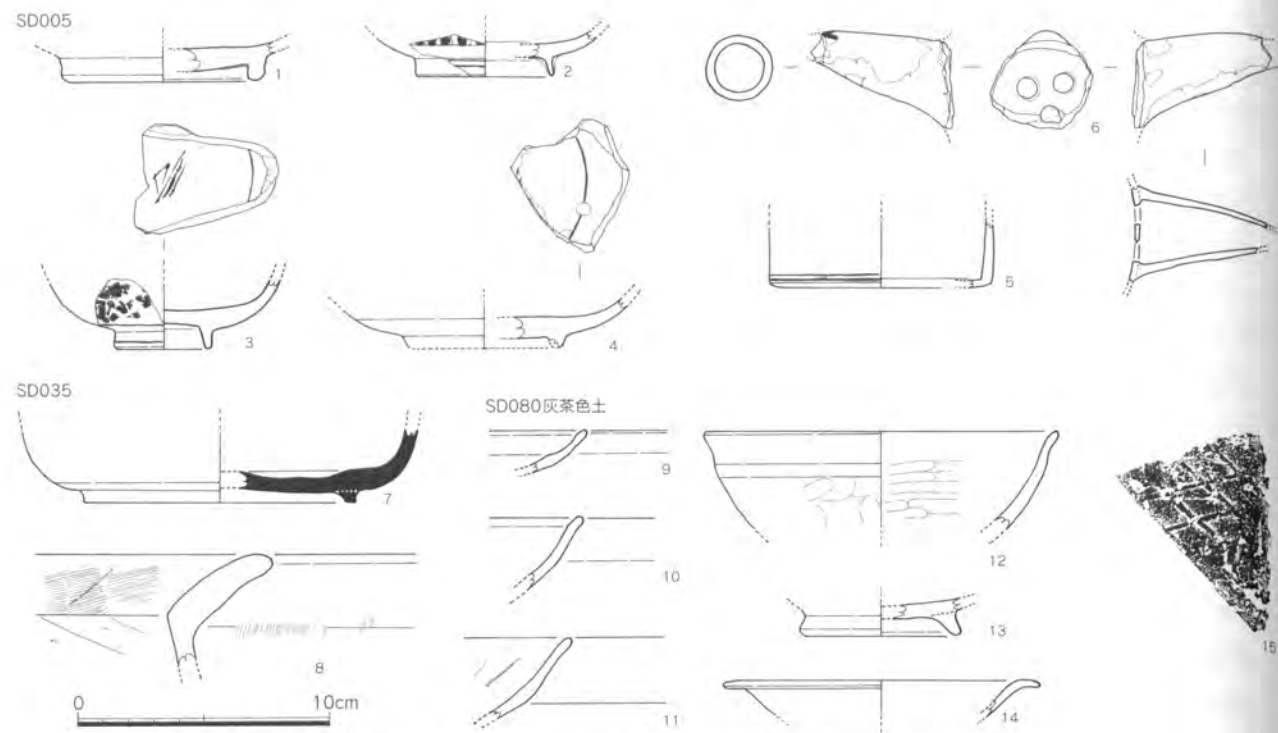


Fig.99 第236-2次調査溝出土遺物実測図 (1/3)

開きの高台を貼付する。復元高台径6.3cm。

白磁

碗 (14) 胎土は淡白灰色で、やや緑がかった淡灰白色釉を施す。口縁部は大きく外反する。復元口径12.5cm。

瓦類

破片 (15) 菱形の斜格子。

井戸

236-2SE001茶色土出土遺物 (Fig.100)

土師器

小皿a (1~7) 口径9.8~10.8cm。器高1.2~1.8cm、底径7.5~8.8cm。底部回転ヘラ切り。

丸底坏a (8) 口径15.0cm、器高4.1cm。内面ミガキbで、上部にコテ当て痕残る。

黒色土器

碗c (9) 復元口径16.2cm、器高5.3cm、高台径6.9cm、内外面に細かいミガキ。B類。

236-2SE001暗灰色土出土遺物 (Fig.100)

土師器

小皿a (10~17) 口径9.4~10.4cm。器高1.0~1.3cm、底径5.8~8.8cm。確認できるものは全て底部回転ヘラ切り。

丸底坏 (18~20) 全体的に磨滅が目立つが、体部中位でやや屈曲し外反している。

黒色土器

碗c (21) 三角形の低い高台を貼付し、内外面にミガキcを施す。高台径6.2cm。

236-2SE001灰茶色粘土出土遺物 (Fig.100)

土師器

小皿a (22・23) 口径10.6cmと9.6cm。底部は回転ヘラ切り。

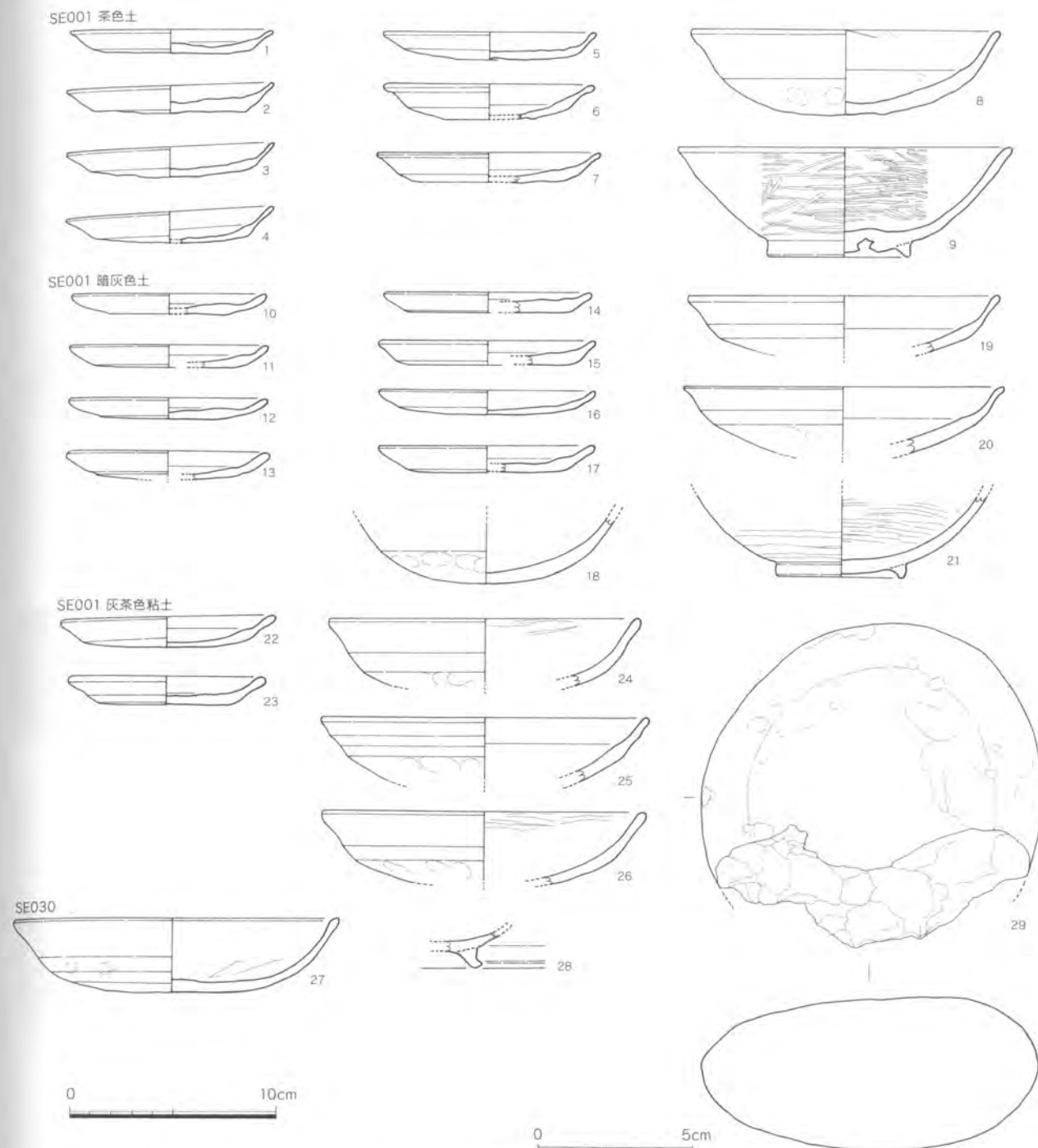


Fig.100 236-2SE001・030出土遺物実測図 (1/3、29は1/2)

丸底坏 (24~26) 体部下半に指頭圧痕が残る。内面下半を中心にミガキbが確認できる。

236-2SE030出土遺物 (Fig.100)

土師器

丸底坏a (27) 全体的に丸味があり、内面にミガキbを施す。復元口径16.0cm、器高3.6cm。

黒色土器

碗c (28) 高台は端部を外側に跳ね上げている。

石製品

磨石 (29) 大きさは10.8cm×10.3cm、厚さ4.8cmの円形で、一部欠損している。部分的に火を受けて黒色に変色している。石材は礫岩。

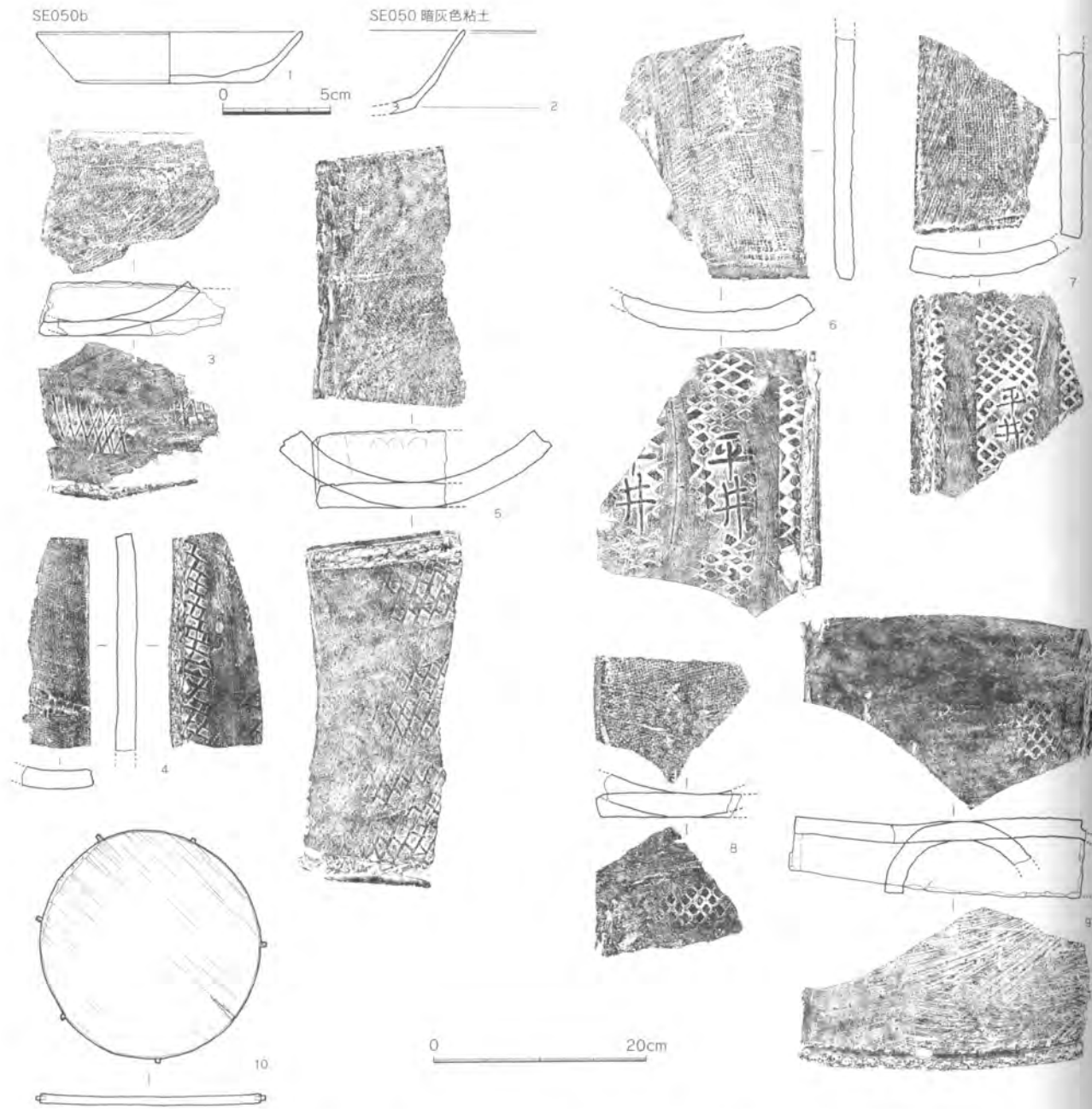


Fig.101 236-2SE050出土遺物実測図 (1・2は1/3、1/6)

236-2SE050b出土遺物 (Fig.101)

土師器

坏a (1) 復元口径12.3cm、器高2.4cm。

236-2SE050暗灰色粘土出土遺物 (Fig.101・102)

土師器

坏a (2) 全体的に磨滅が目立つが、底部がやや出っ張っている。色調は淡黄色を呈する。

瓦類

平瓦 (3～8) 3は横長の格子叩きで一部二重になっている。4・5はウラゴメに使用された平瓦と同じく不整合な格子と三角形を組み合わせた叩き。6～8は斜格子が陰文で、6・7は「平井」銘がある。

丸瓦 (9) 斜格子が陰文。内面には布目痕と弓切痕が残る。

木製品

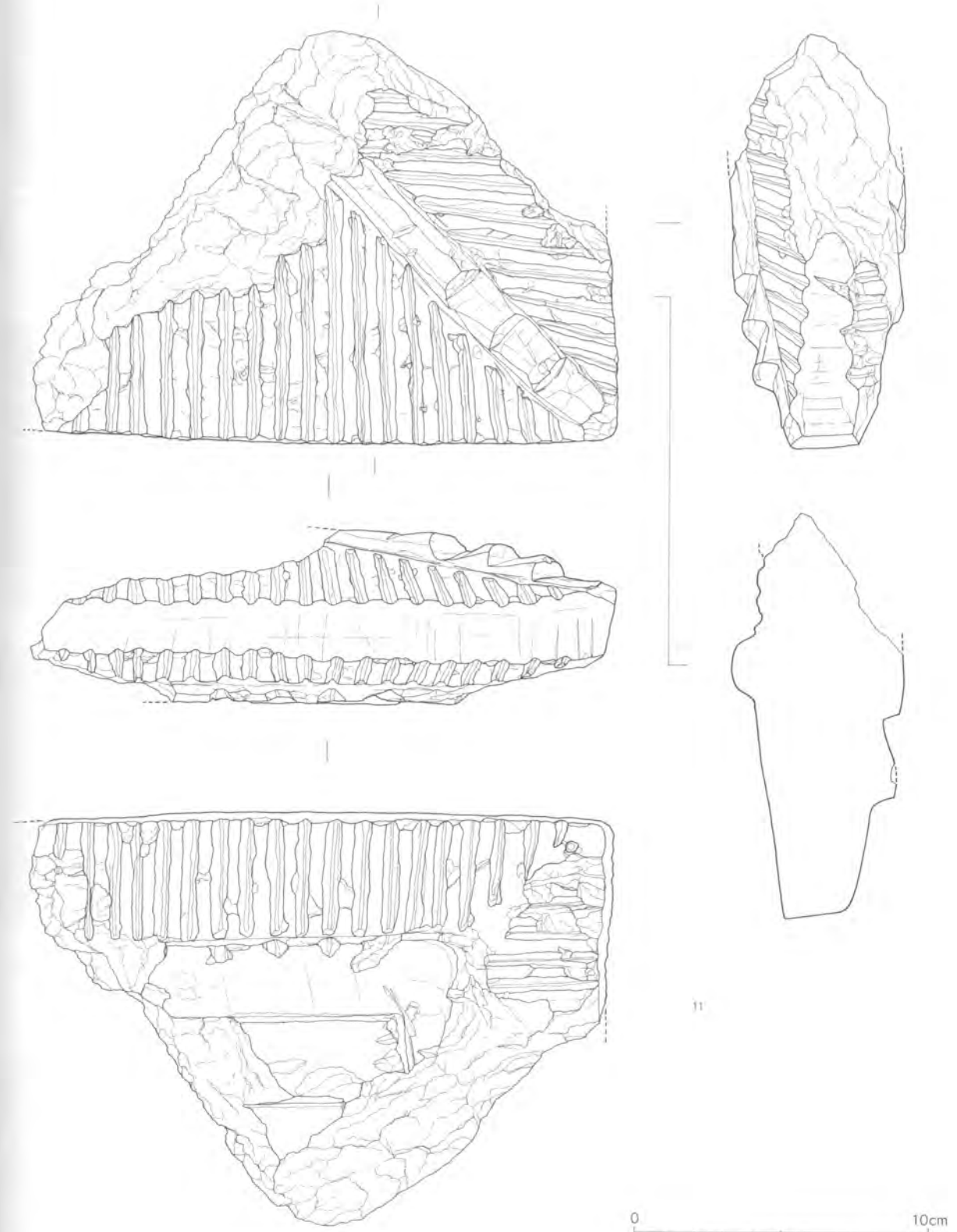


Fig.102 236-2SE050暗灰色粘土出土遺物実測図 (1/2)

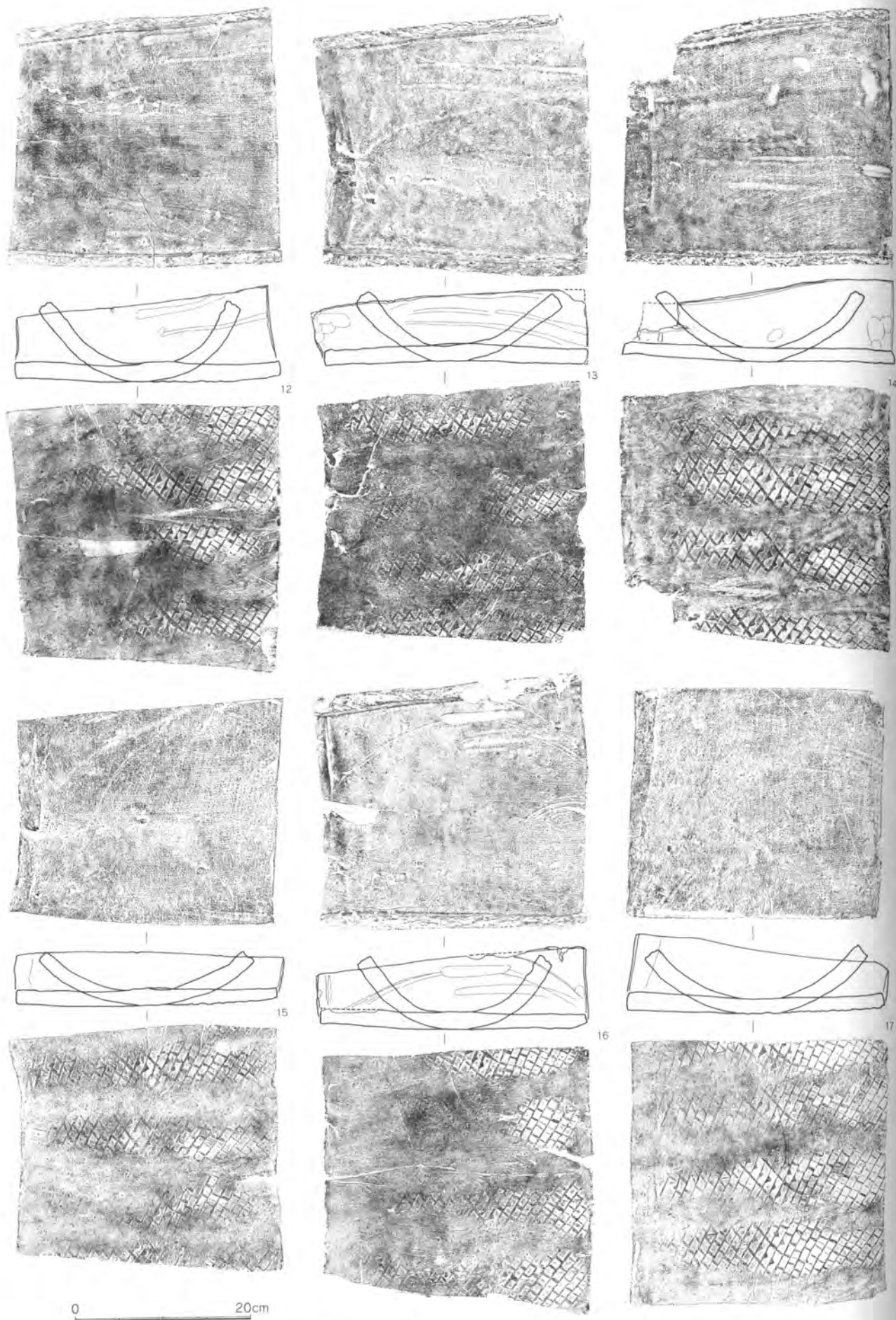


Fig.103 236-2SE050ウラゴメ出土遺物実測図① (1/6)

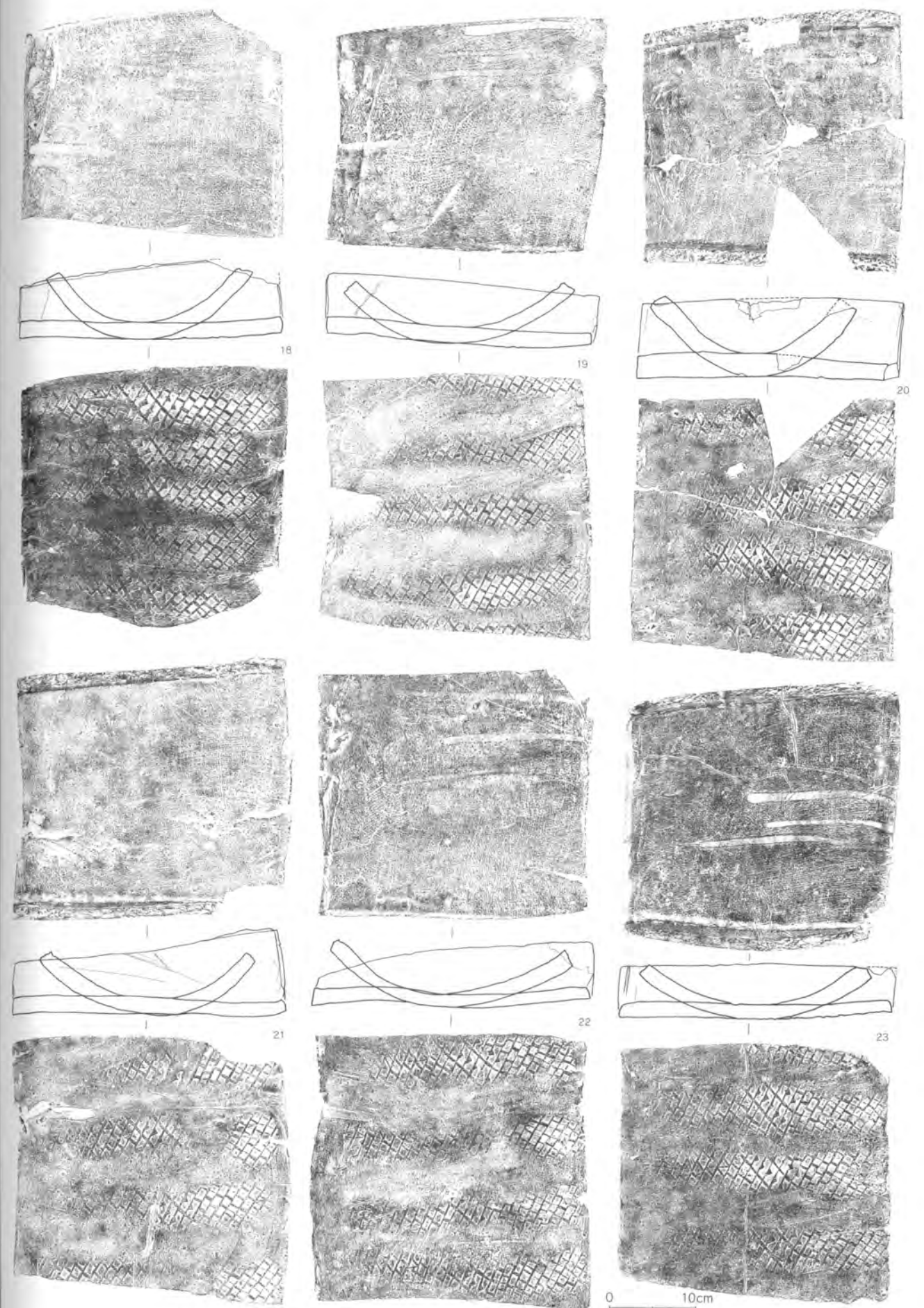


Fig.104 236-2SE050ウラゴメ出土遺物実測図② (1/6)

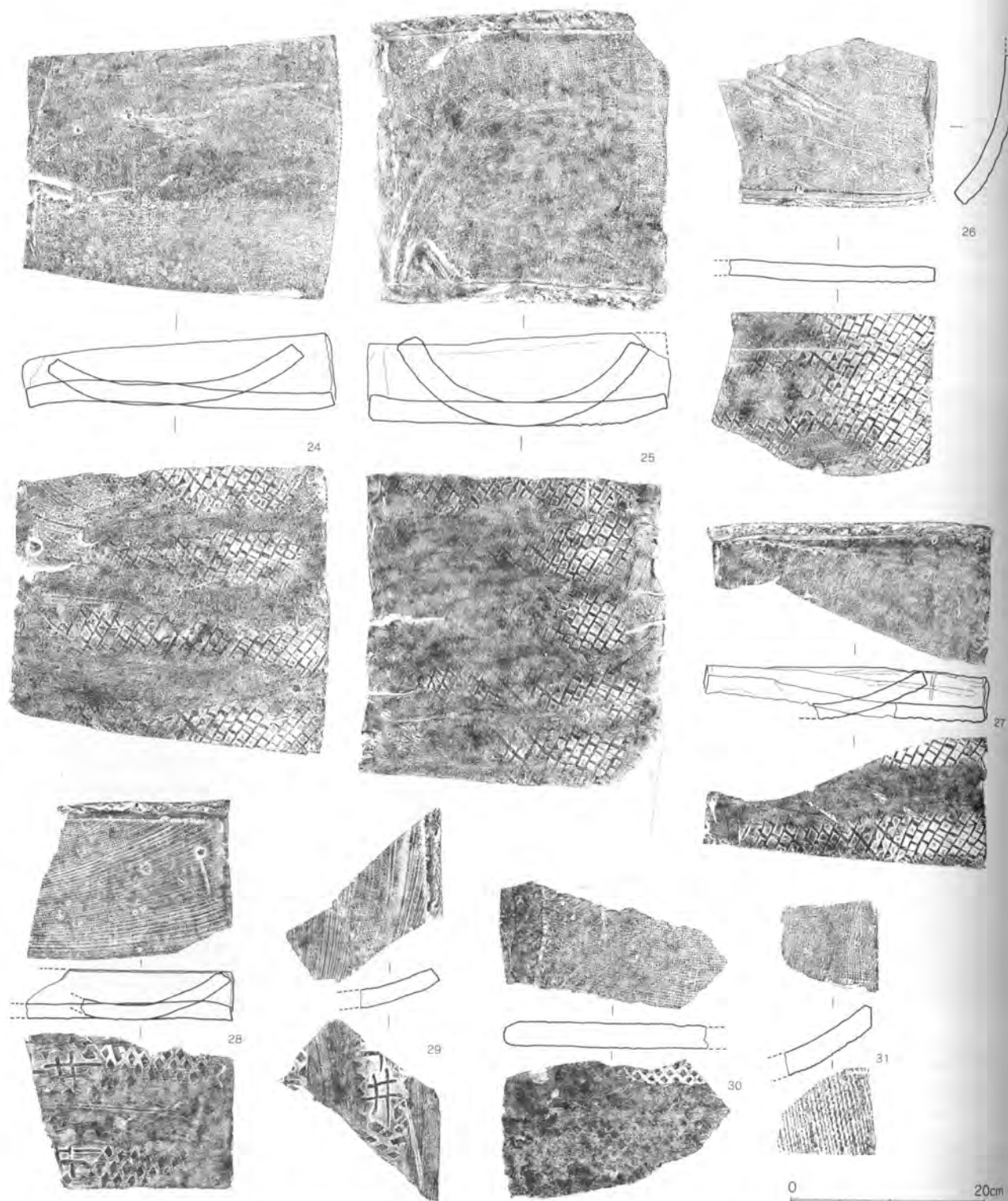


Fig.105 236-2SE050ウラゴメ出土遺物実測図③ (1/6)

曲物底板 (10) 曲物の側板を留める7ヶ所 (6ヶ所に木釘残存) の木釘穴がある。径21.8cm。

石製品

滑石製屋蓋 (11) 屋蓋の隅棟部分の破片で、大きさは19.8cm×14.0cm、高さ5.8cmで、石材は淡い緑色を帯びた滑石製である。

屋根は緩い傾斜で作られ、約1cm間隔で溝を掘り、断面台形状に丸瓦を表現しているが、瓦塔などに見るような瓦一枚毎を表現した削り出しはなく、平瓦の表現も全くない。また、軒先瓦の表現も全くなく、

平坦に仕上げている。屋根の降棟には鬼瓦を模した3段の段差が作られている。側面から見ると降棟の先端部に向かって若干上方に反りが認められる。

裏側は屋根と同じく約1cm間隔で溝を掘り、断面台形状に垂木を表現している。垂木は平行 (平行垂木) に並んでいる。先端部分には風鐸などを嵌め込むための径0.4cm、深さ1cmの円孔が彫られている。垂木の内側にある桁のような部分には1.9cm間隔で刻み目がみられる。

この遺物以外に破片の出土はなく、残存部分からも全体形状を復元することは困難である。表面に残るケズリなどの加工痕は明瞭に確認でき、風雨に晒された感じは受けないため、製作後早い段階で破棄されたか、屋内にあった可能性が考えられる。

236-2SE050ウラゴメ出土遺物 (Fig.103 ~ 105)

瓦類

平瓦 (12 ~ 31) 12 ~ 27は殆どが完形に近く、焼成も良好であるが、歪んでいるものが多く、不良品であったとみられる。大きさは、縦31cm前後、横25cm前後、厚さ2cm前後である。外面の叩きは長方形を組み合わせたもので、長辺方向には並んでいるが、短辺方向には並んでいない不統一な叩き目を示す。格子の中に一部三角形を作っている。28 ~ 30は斜格子が陰文で、30は正格子に近い。28・29は「平井」銘がある。31は縄目叩き。

土坑

236-2SK010黒灰色土出土遺物 (Fig.106)

須恵器

蓋c3 (1) つまみは欠損。外面天井部回転ヘラケズリ、その内面はナデ。復元口径14.6cm。

蓋3 (2) 外面は口縁部近くまで回転ヘラケズリ。

椀c (3) 体部に丸味があり、やや外開きの高台を貼付する。内面底部付近は粗いナデ。

皿a (4) 小片であり、口径復元にはやや無理があるが、20.0cmを測る。全面回転ナデ。

土師器

甕 (5) 体部内面はヘラケズリ、外面タテハケ、口縁部は内外面ともヨコナデを施す。胎土には金雲母を含み、色調は外面茶褐色、内面暗茶黒色を呈する。

236-2SK010暗灰色土出土遺物 (Fig.106)

須恵器

高坏 (6) 酸化し茶褐色を呈する。内外面とも回転ナデ。復元底径は7.4cm。

236-2SK015黒灰色土出土遺物 (Fig.106)

土師器

小皿a (7 ~ 10) 復元口径8.7 ~ 9.5cm、器高0.7 ~ 1.7cm。底部ヘラ切りで、内面はナデ。

丸底坏a (11) 外面は器面がやや荒れている。下半に僅かに指頭圧痕が残る。内面にミガキbを施す。

黒色土器

椀 (12) 外面は器面が荒れていてミガキの残りは悪い。内面はミガキc。

236-2SK015暗灰色土出土遺物 (Fig.106)

須恵器

坏 (13) 内外面とも回転ナデ。

高坏 (14) 脚部は内外面とも回転ナデ。坏部内面はナデを施す。焼成はやや不良である。

土師器

坏 (15) 内外面とも丁寧な回転ナデを施す。胎土は砂粒を僅かに含み橙褐色を呈する。

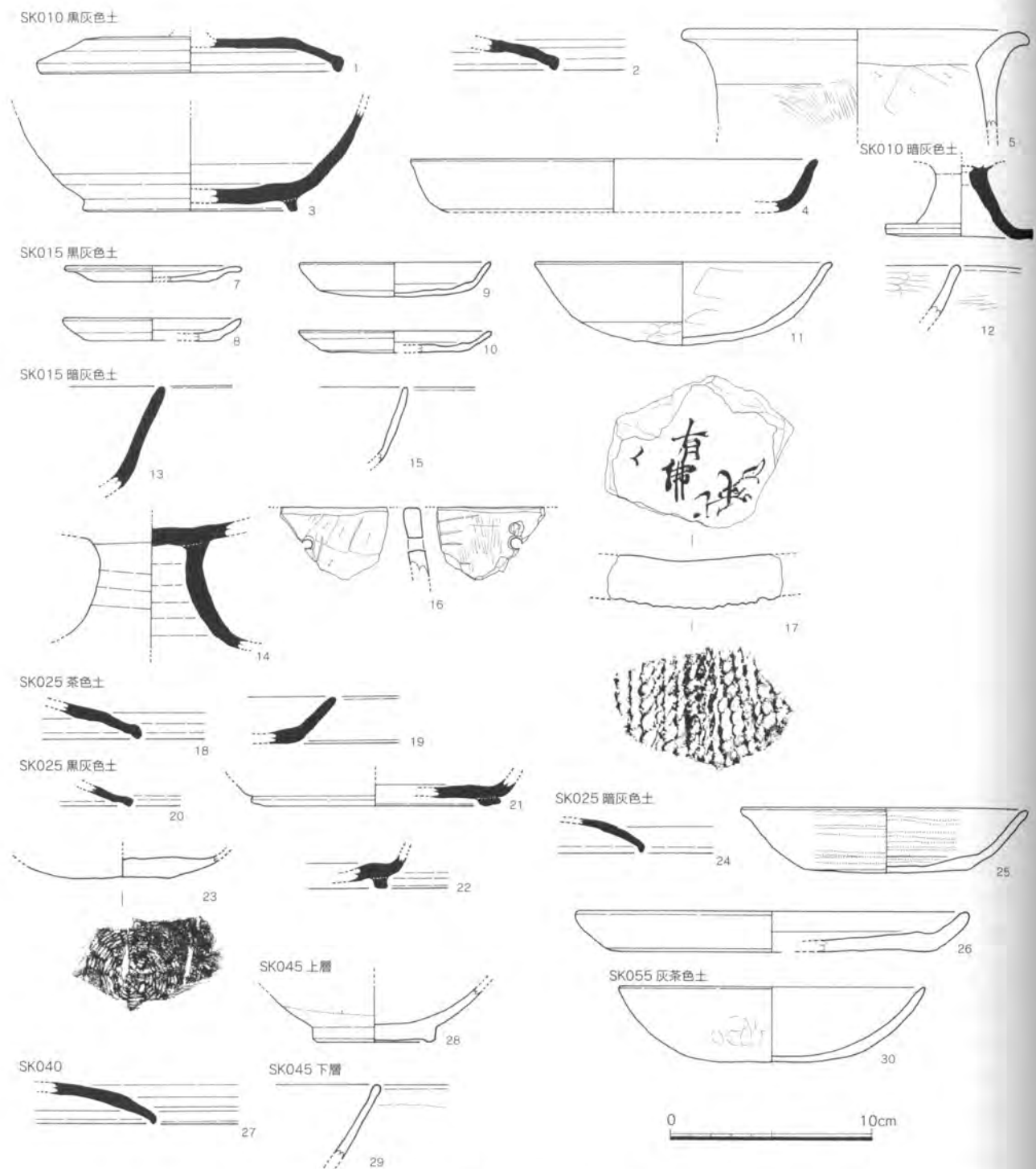


Fig.106 第236-2次調査土坑出土遺物実測図① (1/3)

甕 (16) 小片のため全形が不明瞭だが、甕の一部と判断した。径0.5cmの円孔を穿ち、その上に同じ大きさの穴があるが貫通はしてない。そして、横方向のキズもみられる。内面はヘラケズリ、外面は細かいハケ。胎土は白色砂粒を含み茶褐色を呈する。

瓦類

平瓦 (17) 表に墨書があり、「有佛」のほかに「イ」のような文字、そして、もう1ヶ所文字が書かれているが、重なり合っているため、詳細は不明である。一部文字として認識し難い部分があるため、習書や筆慣らしである可能性も考えられる。裏面は縄目叩きである。焼成は不良で白灰色を呈する。

236-2SK025茶色土出土遺物 (Fig.106)

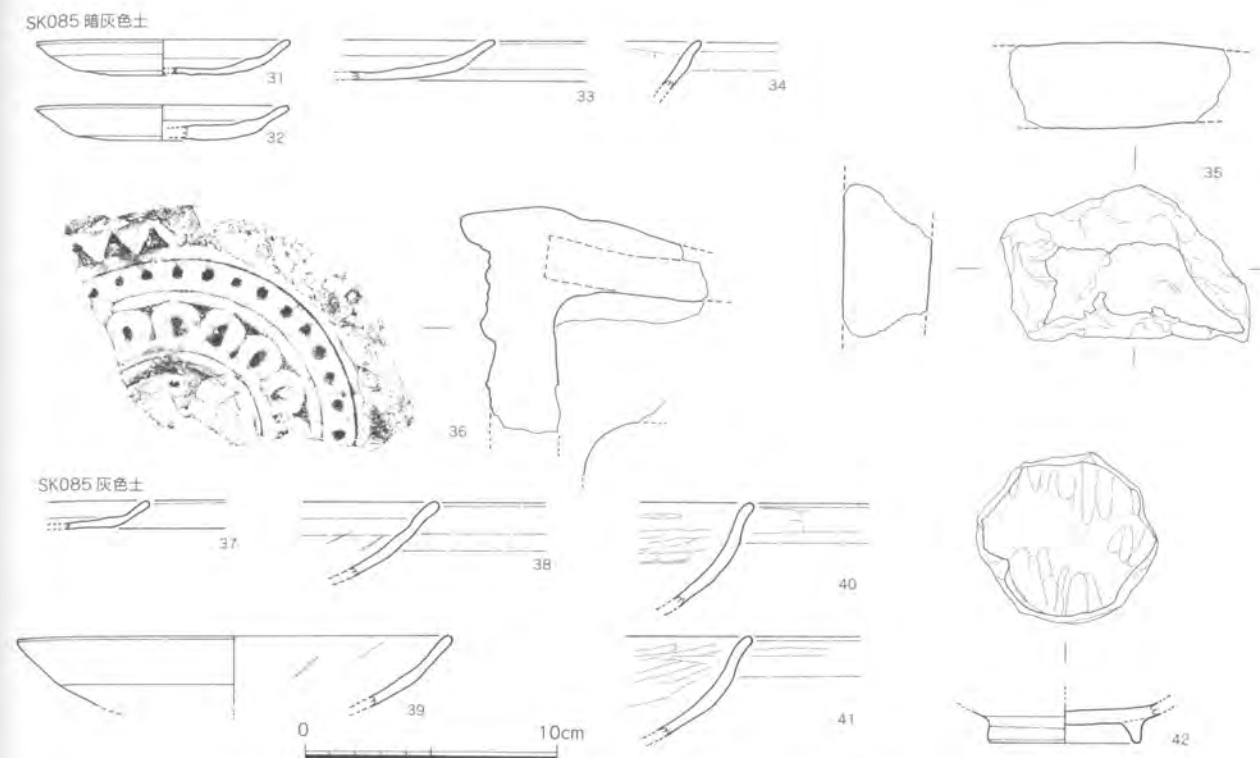


Fig.107 第236-2次調査土坑出土遺物実測図② (1/3)

須恵器

蓋3 (18) 外面の上半部にはヘラケズリの後未調整。

皿a (19) 全面回転ナデ。

236-2SK025黒灰色土出土遺物 (Fig.106)

須恵器

蓋3 (20) 口縁端部は三角形状につまむ簡単な成形している。

坏c (21・22) 21は還元焼成が不良で、つぶれた高台を貼付する。22は方形の高台を貼付する。

縄文土器

壺? (23) 砂粒を含むが比較的精製されていて、橙褐色を呈する。網目籠に粘土を押し込んで作ったとみられる土器である。焼成がよく縄文土器ではない可能性もある。

236-2SK025暗灰色土出土遺物 (Fig.106)

須恵器

蓋3 (24) 体部上半部は回転ヘラケズリの後ナデ調整。

土師器

坏d (25) 内外面とも回転ナデの後ミガキaを施す。底部は回転ヘラケズリ。

皿a (26) 内面底部はミガキ気味の強いナデ。外面底部はヘラ切りの後ナデ調整。

236-2SK040出土遺物 (Fig.106)

須恵器

蓋3 (27) 口縁端部が僅かに三角形状につまんで成形している。外面上部は口縁部近くまで、回転ヘラケズリが施されている。内面はヘラケズリと対応して不定方向のナデを施す。

236-2SK045上層出土遺物 (Fig.106)

白磁

椀 (28) IV-1a類。

236-2SK045下層出土遺物 (Fig.106)

灰釉陶器

椀 (29) 淡灰緑色の釉が薄く掛かり、非常に細かい貫入が入る。

236-2SK055灰茶色土出土遺物 (Fig.106)

土師器

丸底坏a (30) 全体的に磨滅しているが、体部下半に指頭圧痕が残る。

236-2SK085暗灰色土出土遺物 (Fig.107)

土師器

小皿a (31～33) 全て底部は回転ヘラ切り。口径は31が10.0cm、32が10.1cm。

灰釉陶器

椀 (34) 口縁端部で僅かに外反する。内面に釉がみられるが端部は露胎。

土製品×瓦類 (35) 表面が劣化しているため、全容が不明だが、磚か瓦の残片かもしれない。胎土は灰茶白色で砂粒を多く含む。内外面には工具によるナデ痕と布目痕が残る。厚さ3.5cm。

瓦類

軒丸瓦 (36) 複弁で内縁に珠文、外縁は鋸歯文で、中房は剥落して不明瞭。

236-2SK085灰色土出土遺物 (Fig.107)

土師器

小皿a (37) 内面に不定方向ナデ。

丸底坏 (38・39) 体部は明瞭な内面にミガキbのコテ当て痕が残る。

黒色土器

椀 (40・41) 2点とも口縁端部を外反させる。回転ナデのあとミガキc。B類

椀c (42) 内面底部に手持ちのヘラミガキを施す。高台径6.0cm。

その他の遺構

土取り遺構

236-2SX070出土遺物 (Fig.108)

白磁

椀 (1・2) 1はII類。2はIV類。

同安窯系青磁

皿 (3) I類。復元口径12.8cm。小片のため復元径がやや正確性に欠ける。

緑釉陶器

皿 (4) 須恵質で、削り出しの円盤高台。底部外面は削り出し後丁寧なナデ、内面も丁寧にナデられている。釉は全く残っていない。復元底径6.4cm。京都系。

瓦類

平瓦 (5・6) 5は斜格子が陰文で、大きめの「平井」銘がみられる。6は細長い不規則な格子叩き。

ピット

236-2SX032出土遺物 (Fig.108)

土師器

小皿a (7～11) 全体的に磨滅が目立つ。復元口径8.8～10.4cm、器高0.9～1.2cm、復元底径5.9～7.8cm。

丸底坏a (12～16) 12～15は体部中位に屈曲は殆どみられない。内面ミガキb。外面下半は底部押し出しで指頭圧痕が残る。復元口径14.8～16.6cm。

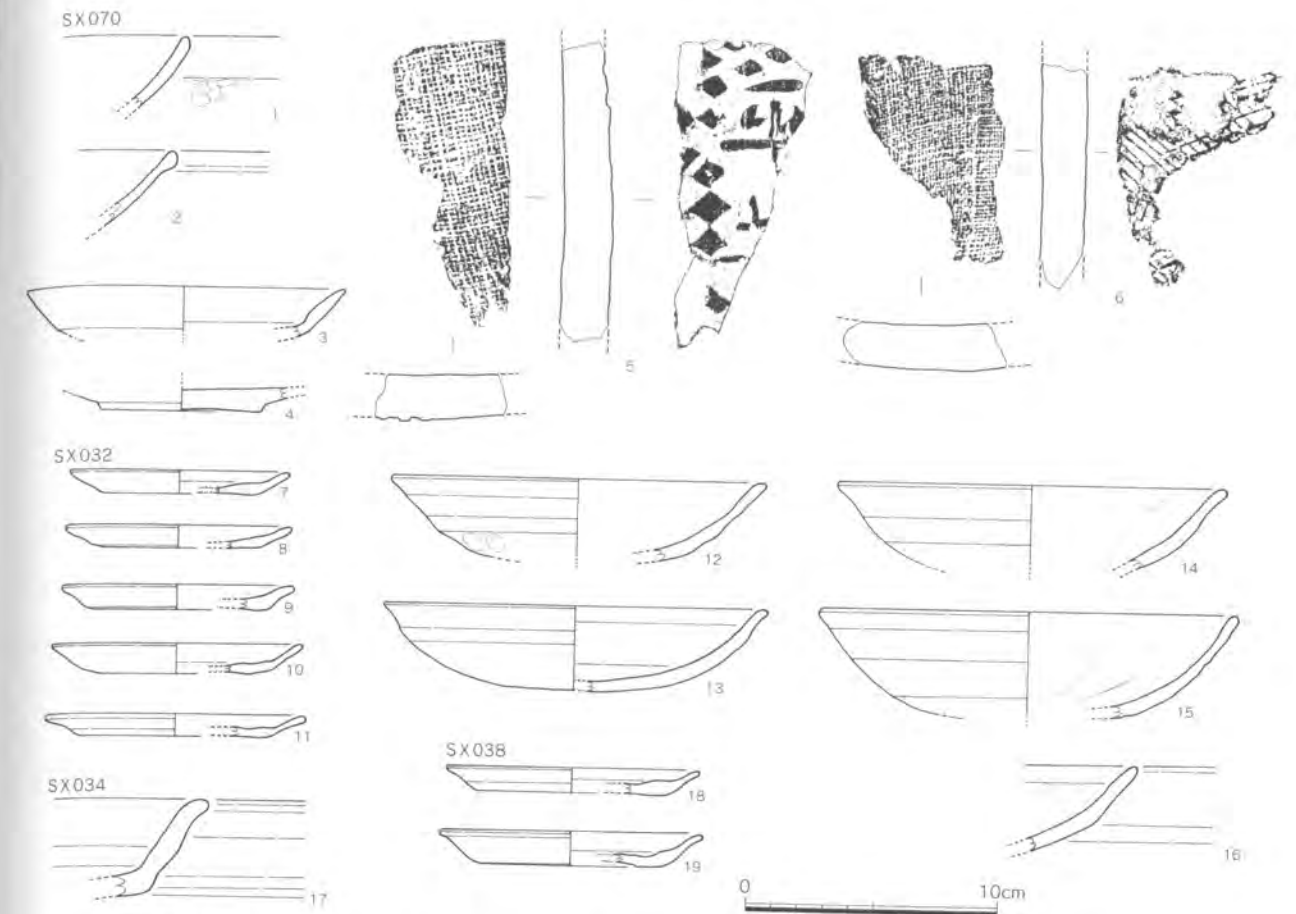


Fig.108 第236-2次調査その他の遺構出土遺物実測図① (1/3)

236-2SX034出土遺物 (Fig.108)

土師器

盤 (17) 小片で全形が掴めないが、盤のような形状をしていたものとみられる。外面下半はナデ、底部内面は不定方向のナデ、その他は回転ナデ。口縁端部は黒色を呈する。

236-2SX038出土遺物 (Fig.108)

土師器

小皿a (18・19) 18は底部回転糸切り。復元径10.0cm。19は回転ヘラ切り。復元径10.4cm。

窪み

調査区の中央付近で不定形な窪みが多く確認され、それぞれに遺構番号を付して調査を行った。よって、遺物の時期も微妙に異なるため、統一番号を付けずに調査時のまま報告する。

236-2SX020暗灰色土出土遺物 (Fig.109)

須恵器

坏c (20) 底部外面は回転ヘラ切り後未調整。その中央付近に同心円の墨書が見られる。

土師器

丸底坏a (21) 体部中位に指頭圧痕がみられ、底面に板状圧痕が残る。

236-2SX041出土遺物 (Fig.109)

須恵器

坏c (22～25) 方形の低い高台で復元高台径7.6～10.0cm。25は底部端近くに高台を貼付する。

236-2SX049出土遺物 (Fig.109)

須恵器

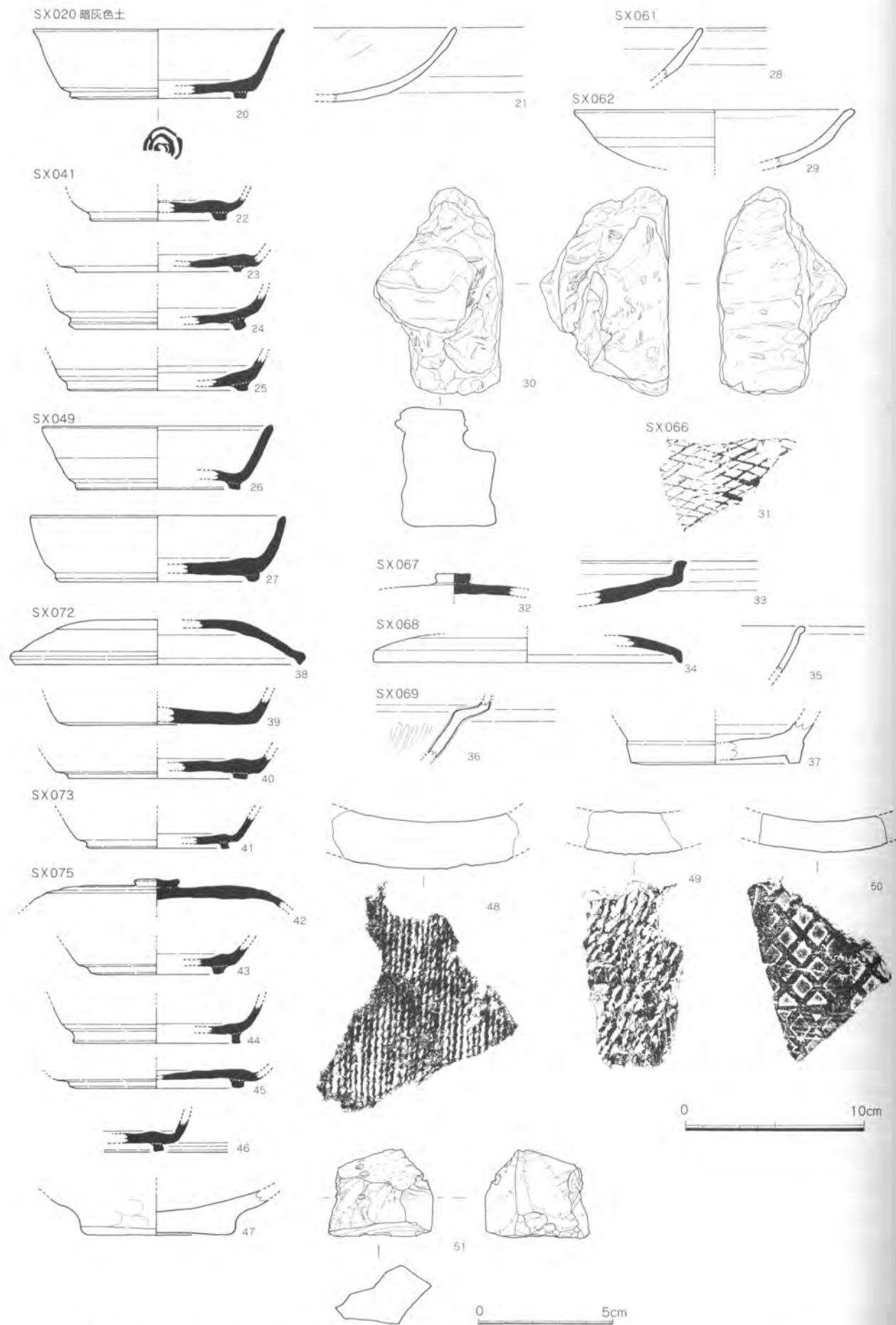


Fig.109 第236-2次調査その他の遺構出土遺物実測図② (1/3、51は1/2)

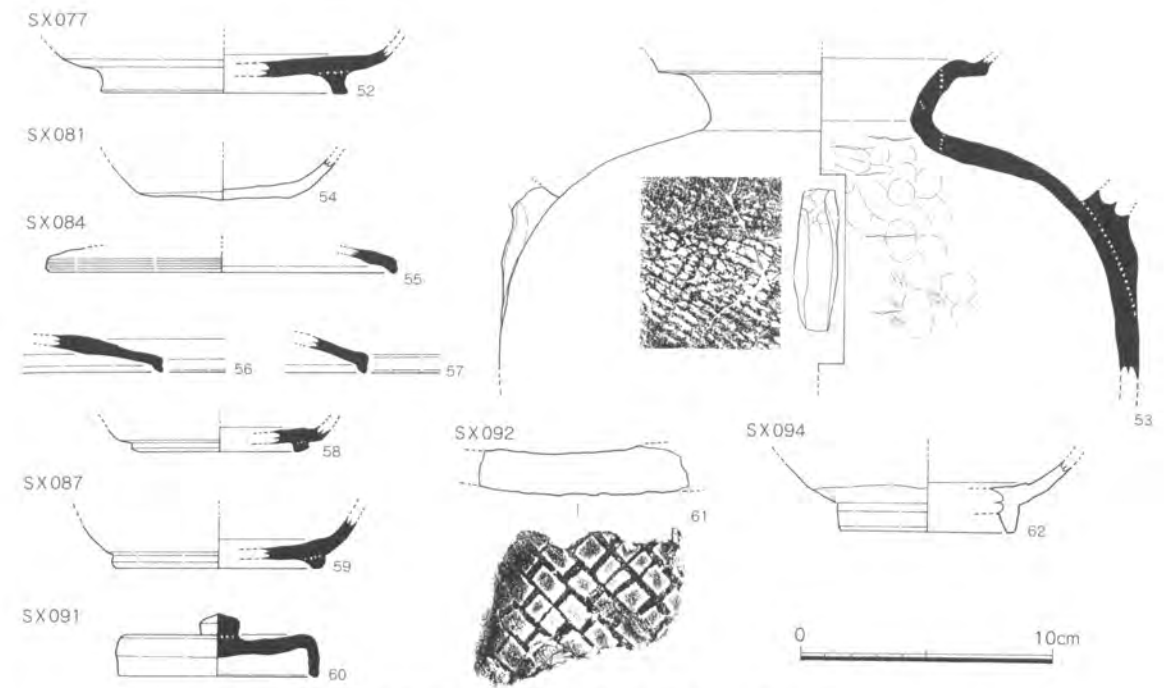


Fig.110 第236-2次調査その他の遺構出土遺物実測図③ (1/3)

坏c (26・27) 復元口径12.8cmと14.2cm。底部端近くに高台を貼付する。

236-2SX061出土遺物 (Fig.109)

土師器

丸底坏 (28・29) 体部中位で僅かに屈曲する。29は屈曲部分から下に指頭圧痕が残る。

236-2SX062出土遺物 (Fig.109)

土製品

土塊 (30) 全体的に粗やスサ痕跡がみられ、一部棒のようなものがあった痕跡が残る。胎土は0.3～0.5cmの砂粒も含むが、全体的に精製されている。色調は黄橙色を呈する。平坦面もあり、土壁であった可能性が考えられる。

236-2SX066出土遺物 (Fig.109)

瓦類

平瓦 (31) 斜格子。

236-2SX067出土遺物 (Fig.109)

須恵器

蓋c (32) ボタン状のツマミが貼付され、内面ナデ、外面回転ヘラケズリ。

高坏b (33) 坏部外面下半は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。

236-2SX068出土遺物 (Fig.109)

須恵器

蓋3 (34) 外面上部は回転ヘラケズリ、その他は回転ナデ。

白磁

椀 (35) V-3類。

236-2SX069出土遺物 (Fig.109)

龍泉窯系青磁

盤 (36) III類。

中国陶器

壺(37) IV-3b類。

236-2SX072出土遺物 (Fig.109)

須恵器

蓋3 (38) 口縁端部は三角形を呈し、外面頂部は回転ヘラケズリ、それ以外は回転ナデ。

坏a (39) 底部外面は粗いナデで、粘土紐痕跡が残る。内面はナデ。復元底径11.0cm。

坏c (40) 低い高台を貼付し、底部は内外面とも丁寧なナデを施す。復元高台径9.9cm。

236-2SX073出土遺物 (Fig.109)

須恵器

坏c (41) 底部内面は粗いナデ。復元高台径7.9cm。

236-2SX075出土遺物 (Fig.109)

須恵器

蓋c (42) 外面上部は回転ヘラケズリ、内面はヘラケズリに対応してナデがみられる。

坏c (43~46) 復元高台径7.4~9.6cm。43の体部は外開きになる様子が窺える。44は細い高台で、底部内外面ともナデ。45も底部内外面ともナデ。46は方形高台を簡単に貼付する。

弥生土器

甕(47) 復元底部径8.6m。全体に器面はかなり荒れている。部分的に指頭圧痕や一次焼成の変色が見られる。

瓦類

平瓦(48~50) 48は細かい縄目叩き。49は粗い縄目叩き。50は正方形のやや太い格子叩き。

石製品

剥片(51) 大きさは3.2×3.8×2.2cmで、一部自然面が残る。安山岩製。

236-2SX077出土遺物 (Fig.110)

須恵器

坏c (52) 復元高台径9.8cm。内面は平行ナデ。

壺(53) 口縁部は屈曲し二重になっていて、端部を欠損する。耳部が1ヶ所残存する。外面は叩きの後ナデ、内面は雑なナデで、布目痕が残る。全体的に器面が荒れている。

236-2SX081出土遺物 (Fig.110)

土師器

坏a (54) 全体的に磨滅している。底径5.3cm。

236-2SX084出土遺物 (Fig.110)

須恵器

蓋3 (55~57) 55は復元口径13.8cm。56は上面が回転ヘラ切りのあと雑なナデ。

坏c (58) 高台は方形で外側を若干上げている。復元高台径7.0cm。

236-2SX087出土遺物 (Fig.110)

須恵器

坏c (59) やや丸味のある体部で、その端部に高台を貼付する。内面ナデ。復元高台径8.4cm。

236-2SX091出土遺物 (Fig.110)

須恵器

壺蓋(60) 口縁端部を内側に斜めに作っている。径8.0cm、器高2.4cm。

236-2SX092出土遺物 (Fig.110)

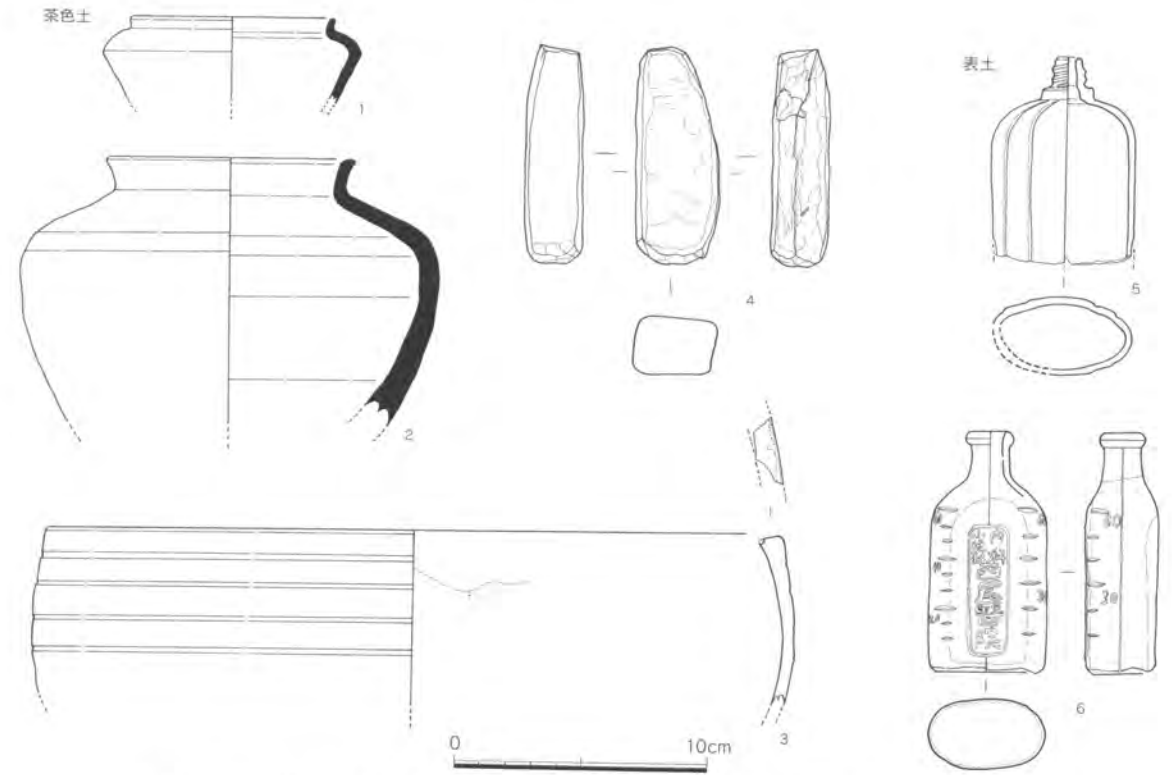


Fig.111 第236-2次調査茶色土・表土出土遺物実測図 (1/3)

瓦類

平瓦(61) 不整合で形が不統一な格子叩きである。

236-2SX094出土遺物 (Fig.110)

白磁

鉢(62) V類。

第236-2次調査茶色土出土遺物 (Fig.111)

須恵器

短頸小壺(1) 復元口径8.0cm。内外面とも回転ナデ。

壺a(2) 復元口径9.8cm。内外面とも回転ナデ。内外面の一部には自然釉がみられる。

輸入陶磁器

鉢(3) 広東系白磁もしくは長沙窯系青磁。口縁部内面上部が露胎。口縁部上面に目跡が残る。外面に条痕を巡らす。胎土は少量の黒粒が入り、釉はやや黄色味を帯びた白色で、細かく貫入が入る。口縁部内面上部が露胎。復元口径28.8cm。

土製品

棒状土製品(4) 長さ8.6cm、幅3.3cm、厚さ2.3cm。側面に接合痕がみられる。全体はナデで、焼成は硬質。

第236-2次調査表土出土遺物 (Fig.111)

国産磁器

瓶(5) 白色の陶器で、薬瓶とみられる。

ガラス製品

瓶(6) 薬瓶で、表面に「内科 小児科 西尾醫院」と刻まれている。

第236-2次調査攪乱出土遺物 (Fig.112)

礎石(1) 大きさは105×67cm、厚さ59cm。表面には柱座が彫られていて、下端径65cm、上端径

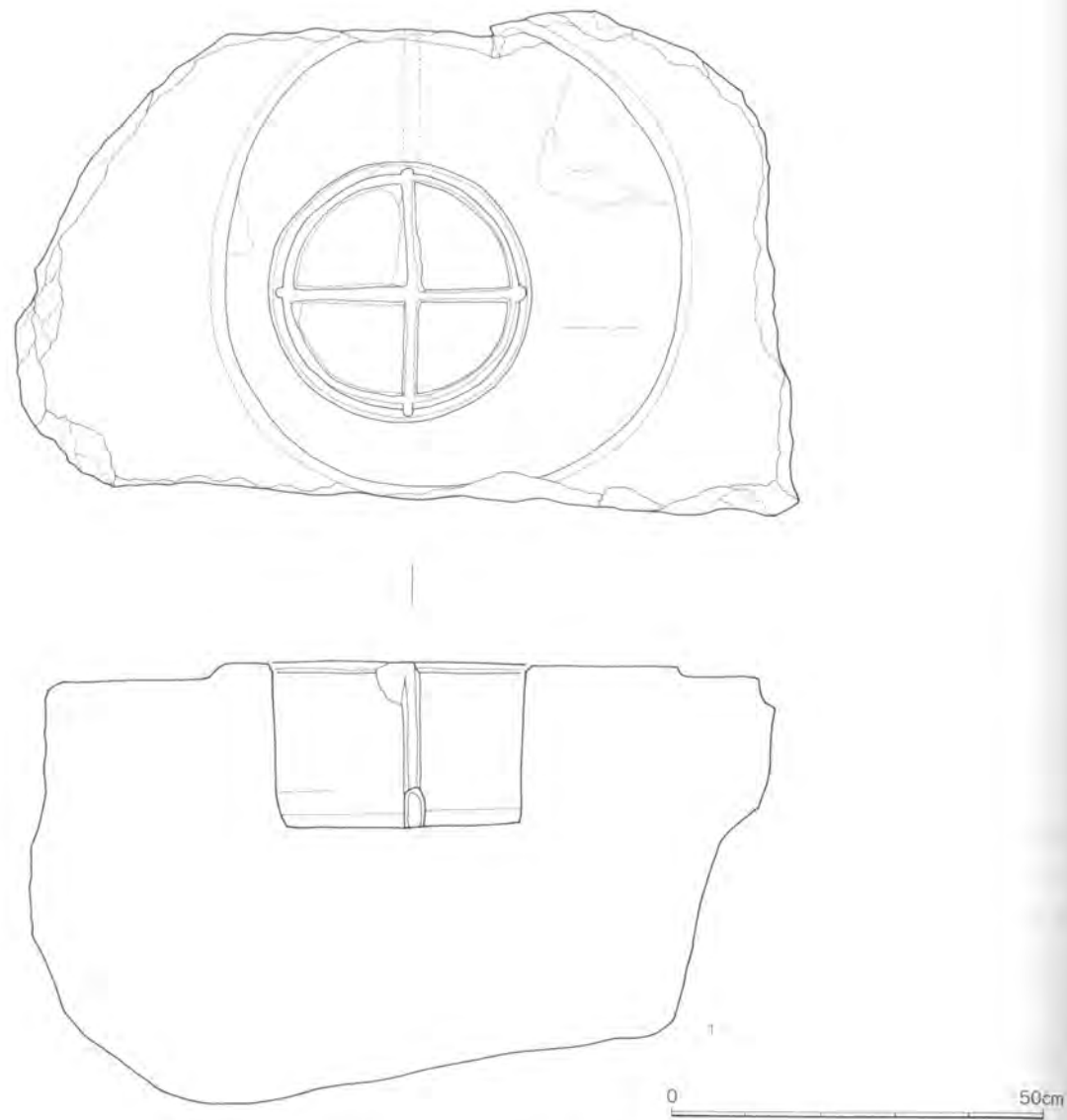


Fig.112 第236-2次調査攪乱出土遺物実測図(1/10)

62cm、高さ2cm前後を測る。柱座の中央付近には径34.5×35.5cmの穴が彫り込まれている。穴の上面は0.7cm程の段が巡らされている。穴の底には幅1.5cm、深さ1cm前後の溝が十字に彫られ、側面にも伸びている。そして、下端の1ヶ所に幅2.5cm、高さ5cmの楕円形の孔が穿たれ、13.5cmで貫通している。花崗岩製。柱座の大きさは筑前国分寺など市内で確認できる礎石と同規模である。中央の穴は近代以降に何かの柱を立てるために掘られたものと推測され、孔は水抜き機能を持っていたと推測される。よって、これは礎石の転用と推測される。

第236-2次調査地表土採集遺物

この調査地において、近現代の攪乱が多く見られたが、その攪乱や表土からガラス製のラムネ瓶が3個表採され、現在筑紫野市在住の個人が所有されている。ラムネ瓶には「登録 飛梅 商標」「此容器他二使用或ハ賣買ヲ禁ズ」底面に「古沢」と刻まれている。このラムネを販売していたラムネ工場は、現在の五条1丁目の五条交差点の北西角に、戦後すぐまであり、白木原や雑餉隈など近隣地域に馬車や三輪車で販売に行っていた。その後工場はなくなり、金物屋や衣料品店などに変わったが、縦長の建物だけは交差点拡幅工事が行われる平成14年まで残っていた。このラムネは当時この地の住人が廃棄したものであろう。

V、第236次調査の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

【1】自然科学分析その1

大宰府条坊跡236次調査では、掘立柱建物跡や井戸跡等の遺構が検出されている。これらの中には柱、礎板、井戸枠等の建築部材が残存しているものがある。

本報告では、これらの木質遺物を対象として、遺構の構築年代を明らかにするための放射性炭素年代測定と、木材利用に関する資料を得るための樹種同定を実施する。

1.試料

(1) 放射性炭素年代測定

試料は、S-570から出土した礎板と考えられる木材2点(①,②)、S-480eの柱痕と考えられる木材1点、S-60jから出土した柱痕1点の合計4点である。S-570①とS-480eの2点は炭化物であり、残る2点は生木であった。

(2) 樹種同定

試料は、S-60jの柱痕、S-600の井戸枠2点(②,③)、S-40mの柱痕と礎板(①,②)、S-40bの柱痕と礎板(②,③)、S-385の井戸横棧の8点である。年代測定のみを実施する、S-570から出土した礎板と考えられる木材2点(①,②)、S-480eの柱痕と考えられる木材1点の3点についても樹種等の由来確認を行う。したがって、合計点数は11点となる。

2.分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HC1により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC1によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去を行う(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(II)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO²を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO²と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定も行うため、この値を用いてδ¹³Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

(2) 樹種同定

生木試料については、剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の

混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。一方、炭化物2点については、実体顕微鏡で組織構造の有無を確認し、組織構造が認められた場合には、組織構造の特徴から種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にす。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林(1991)、伊東(1995,1996,1997,1998,1999)や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にす。

3.結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を表1、暦年較正結果を表2に示す。各試料の同位体効果の補正を行った年代値は、S-570c①は1,240±30BP、S-570c②は1,240±30BP、S-480eは1,500±30BP、

表1. 放射性炭素年代測定結果

地区	遺構	番号	種類	補正年代 BP	δ 13C (‰)	測定年代 BP	Code No.
AG-12	S-570	①	炭化物	1,240±30	-29.86±0.57	1,320±30	IAAA-62512
AG-12	S-570	②	生木	1,240±30	-27.74±0.52	1,280±30	IAAA-62513
W-16	S-480e		炭化物	1,500±30	-24.80±0.55	1,500±30	IAAA-62514
F-6	S-60j		生木	1,590±30	-30.84±0.55	1,680±30	IAAA-62515

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表2. 暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)						相対比	Code No.
		σ		2σ		2σ			
236-1次 S-570 ①	1,244±29	σ		cal AD 689 - cal AD 752	cal BP 1,261 - 1,198	0.668		IAAA-62512	
		σ		cal AD 761 - cal AD 781	cal BP 1,189 - 1,169	0.207			
		σ		cal AD 791 - cal AD 806	cal BP 1,159 - 1,144	0.124			
236-1次 S-570 ②	1,239±28	σ		cal AD 683 - cal AD 870	cal BP 1,267 - 1,080	1.000		IAAA-62513	
		σ		cal AD 692 - cal AD 749	cal BP 1,258 - 1,201	0.577			
		σ		cal AD 763 - cal AD 782	cal BP 1,187 - 1,168	0.199			
236-1次 S-480e	1,500±28	σ		cal AD 789 - cal AD 810	cal BP 1,161 - 1,140	0.179		IAAA-62514	
		σ		cal AD 847 - cal AD 855	cal BP 1,103 - 1,095	0.045			
		σ		cal AD 687 - cal AD 871	cal BP 1,263 - 1,079	1.000			
236-1次 S-60j	1,586±32	σ		cal AD 546 - cal AD 598	cal BP 1,404 - 1,352	1.000		IAAA-62515	
		σ		cal AD 442 - cal AD 453	cal BP 1,508 - 1,497	0.013			
		σ		cal AD 461 - cal AD 483	cal BP 1,489 - 1,467	0.038			
236-2次 S-60j	1,586±32	σ		cal AD 533 - cal AD 638	cal BP 1,417 - 1,312	0.948		IAAA-62515	
		σ		cal AD 428 - cal AD 464	cal BP 1,522 - 1,486	0.375			
		σ		cal AD 482 - cal AD 533	cal BP 1,468 - 1,417	0.625			
236-2次 S-60j	1,586±32	σ		cal AD 410 - cal AD 546	cal BP 1,540 - 1,404	1.000		IAAA-62515	
		σ							
		σ							

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用

2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である

5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

S-60jは1,590±30BPを示す。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5730±40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。いずれも炭化材であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差σ、2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

測定誤差をσとして計算させた結果、S-570c①はcalAD689-806、S-570c②はcalAD692-855、S-480eはcalAD546-598、S-60jは calAD428-533である。

(2) 樹種同定

樹種同定結果を表3に示す。木材は、針葉樹1種類(スギ)、広葉樹6種類(ヤマグワ・クスノキ・クスノキ科・ヒサカキ・イスノキ)に同定された。なお、炭化物2点については、組織構造が認められず、種類・由来等は不明である。

同定された各種類の解剖学的特徴等を記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部でははじめ単独で配列し、後2-4個が塊状または接線方向に複合して配列し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。

・クスノキ (*Cinnamomum camphora* (L.) Presl) クスノキ科クスノキ属

散孔材で、道管径は比較的大径、管壁は薄く、横断面では楕円形、単独または2-3個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-10細胞高で、やや階層状に配列する。柔組織は周囲状~翼状。柔細胞には油細胞が顕著に認められる。

・クスノキ科 (Lauraceae)

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

道管径が異なることから、上記クスノキを除くクスノキ科のいずれかと考えられるが、クスノキ以外のクスノキ科は組織がよく似ており、同定に至らなかったためにクスノキ科とした。

地区	遺構	推定時期	番号	種類	器種	樹種
AG-12	S-570	~8世紀末	①	炭化物	礎板	不明
AG-12	S-570	~8世紀末	②	生木	礎板	ヤマグワ
W-16	S-480e	~9世紀前半		炭化物	柱?	不明
236-2次	S-60j			生木	柱痕	クスノキ科
AQ-19	S-600	平安前期	②	生木	井戸枠	クスノキ
AQ-19	S-600	平安前期	③	生木	井戸枠	スギ
I-6	S-40m	~平安前期	①	生木	柱痕	イスノキ
I-6	S-40m	~平安前期	②	生木	礎板	クスノキ科
J-7	S-40b	~平安前期	②	生木	礎板	イスノキ
J-7	S-40b	~平安前期	③	生木	礎板	クスノキ科
AQ-14	S-385	~11世紀	②	生木	井戸横棧	ヒサカキ

・ヒサカキ (*Eurya japonica* Thunberg) ツバキ科ヒサカキ属

散孔材で管壁は薄く、横断面では多角形、単独または2-3個が複合して散在し、道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-40細胞高で、単列の組織が多い。

・イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.) マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面で多角形、ほとんど単独で散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。柔組織は、独立帯状または短接線状で、放射方向にほぼ等間隔に配列する。

4. 考察

S-570cの礎板2点は、生木と炭化物が各1点であり、生木はヤマグワ、炭化物は由来不明であるが、年代値は補正年代が2点とも $1,240 \pm 30BP$ となり、暦年較正值もcalAD689-806とcalAD692-855でほぼ同年代を示す。ヤマグワは、強度や耐朽性が比較的強い材質を有しており、材質を考慮した木材選択が推定される。また、S-480eの柱痕と考えられる炭化物も組織が観察できず由来は不明である。補正年代値は $1,500 \pm 30BP$ 、暦年代はcalAD546-598でS-570よりも古い年代を示す。

S-60jの柱痕は、補正年代が $1,590 \pm 30BP$ 、暦年代がcalAD428-533を示し、今回年代測定を実施した案化でも最も古い年代を示す。柱痕はクスノキ科に同定されたが、本地域に生育するクスノキ科の中で柱材に利用できる強度・大きさを有する種類としては、タブノキ属やヤブニッケイ等が考えられる。本試料には、クスノキ科によくみられる交錯木理が確認できることから加工性は低いが、クスノキ科の木材は全般的に樟腦を含んでおり、耐水性や防虫性がある。

一方、S-40は総柱の掘立柱建物跡であり、柱穴bの礎板2点と、柱穴mの柱痕と礎板について樹種同定を実施した。その結果、柱痕がイスノキ、礎板3点がクスノキ科2点、イスノキ1点に同定された。イスノキは日本産木材としては極めて重硬・緻密で強度が高く、加工は困難である。S-40では、礎板にクスノキ科とイスノキ、柱にイスノキが利用されていたことが推定される。S-40では、このほか柱穴dと柱穴kからも部材が出土していることから、これらの部材についても樹種同定を実施して今回と同様の結果が得られるのか確認したい。

なお、イスノキは、遺跡出土品では、櫛としての事例が多く、柱材に利用された例は少ないが、過去に建築材、柱材、杭材等に出土した例は全て九州地方である(山田,1993)。これは、イスノキが暖温帯常緑広葉樹林の構成種であり、現在の分布の中心が九州にあることから、他地域よりも入手しやすい条件が関係していると考えられる。

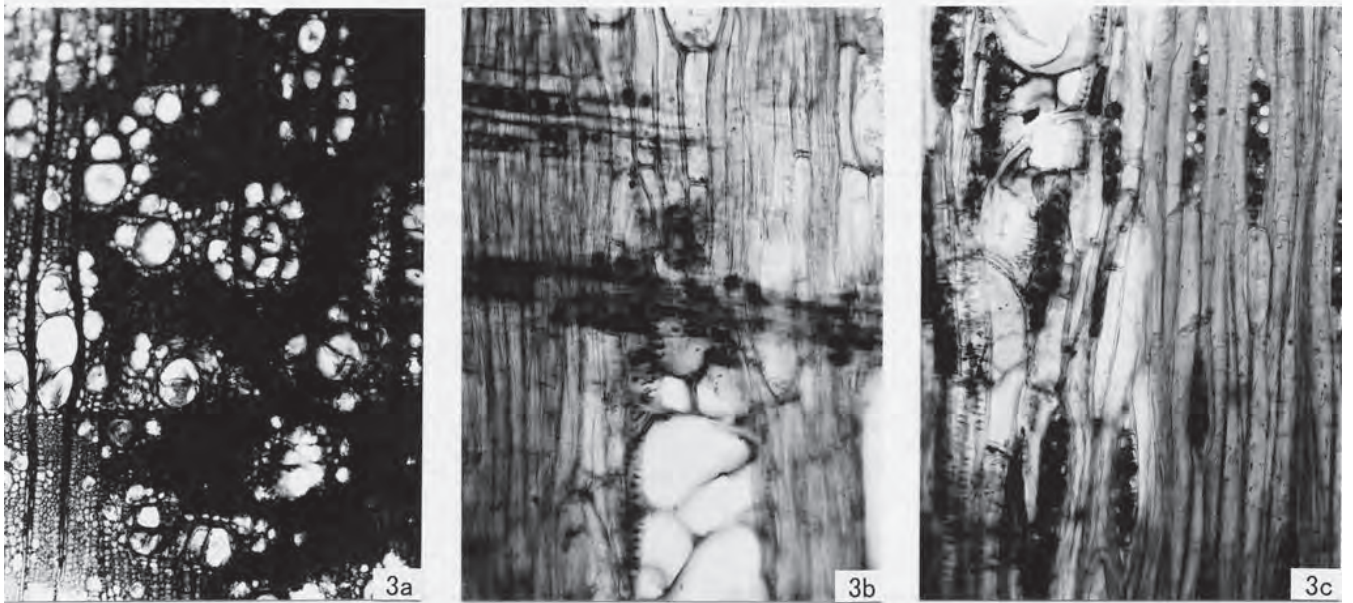
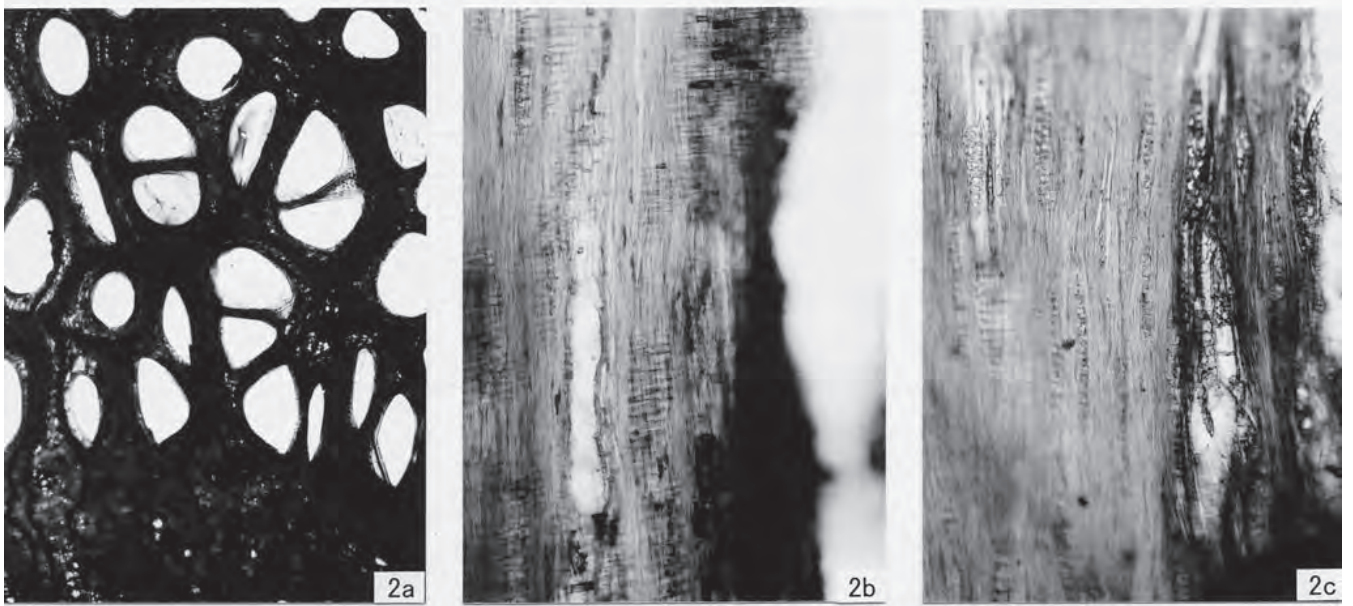
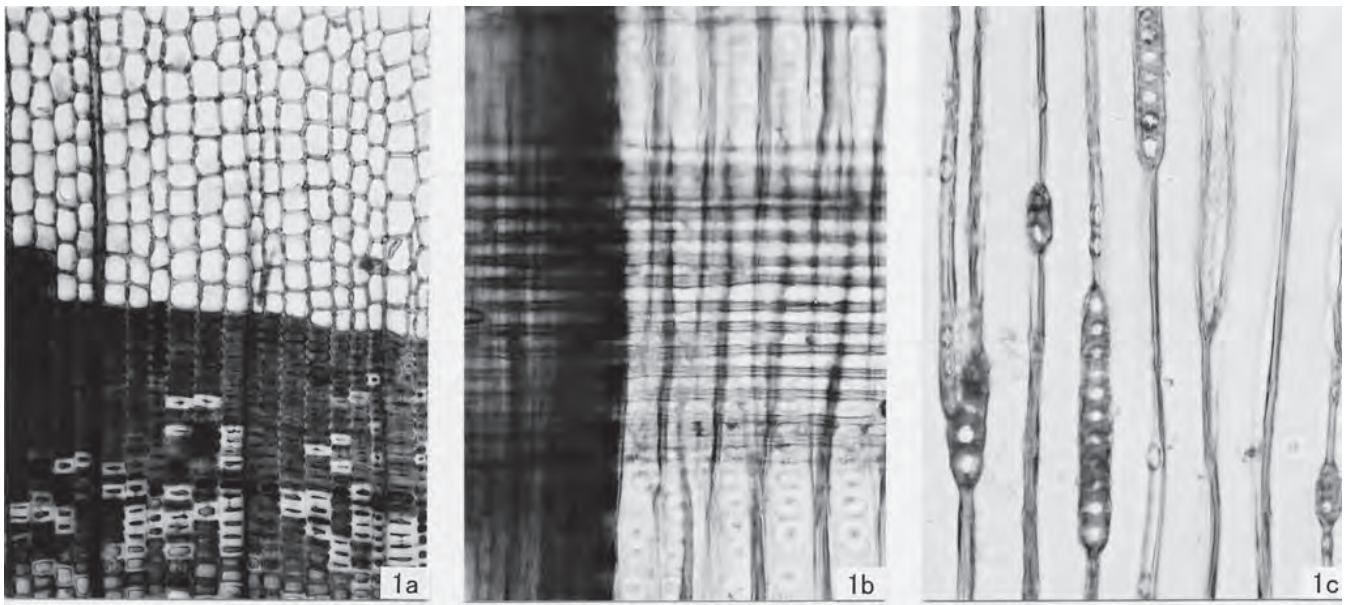
S-600の井戸枠は、スギとクスノキが認められ、少なくとも2種類の木材が利用されていたことが推定される。スギは木理が通直で割裂性が高く、加工が容易であり、芯材であれば耐水性も高い。一方、クスノキは、交錯木理がみられ、加工性は低いが、耐水性は比較的高い。井戸枠は使用期間中ずっと水中にあるか、水には浸からないものの湿度の高い環境に置かれることが予想され、耐水・耐湿性のある木材を選択したことが推定される。一方、同じく井戸であるS-385の横棧は、ヒサカキに同定され、S-600とは異なる樹種が認められた。ヒサカキは重硬で強度が高いが、クスノキやスギのような大径木になる種類ではない。

大宰府条坊跡では、BG38区の平安時代とされるS-490でも井戸部材の樹種同定を実施している(パリノ・サーヴェイ株式会社,2004)。その結果では、立板と横板がスギ、横木がサカキとユズリハ属で、部位によって樹種が異なる結果が得られている。この結果を考慮すれば、今回の同一井戸内や異なる井戸での樹種の違いも部位の違いが関係している可能性がある。また、S-600が平安前期であるのに対し、

S-385は11世紀以前とされていることから、時期の違い等も影響している可能性がある。

引用文献

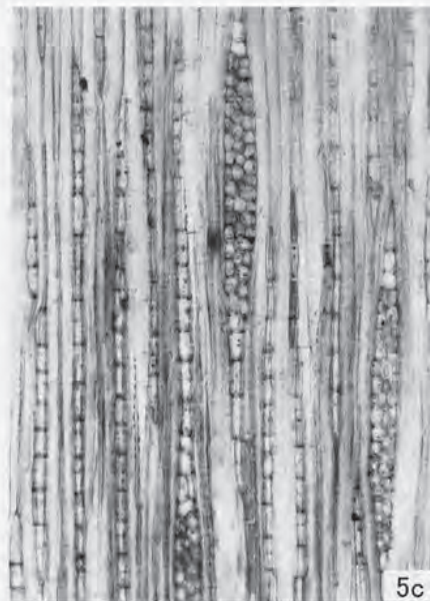
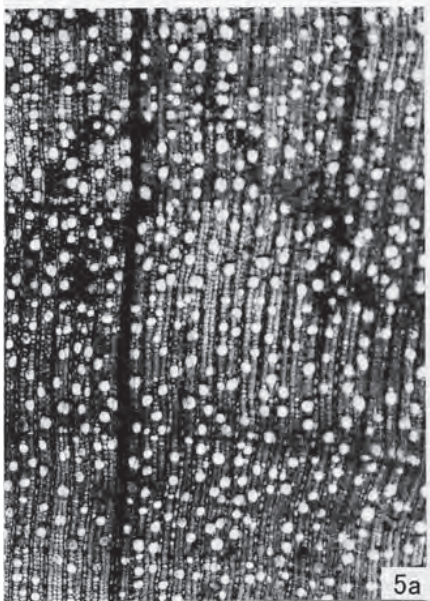
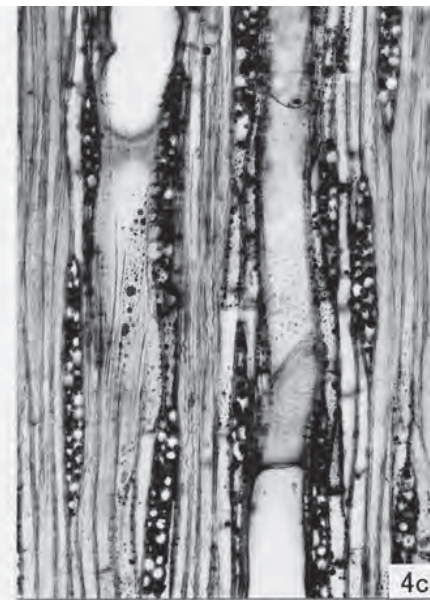
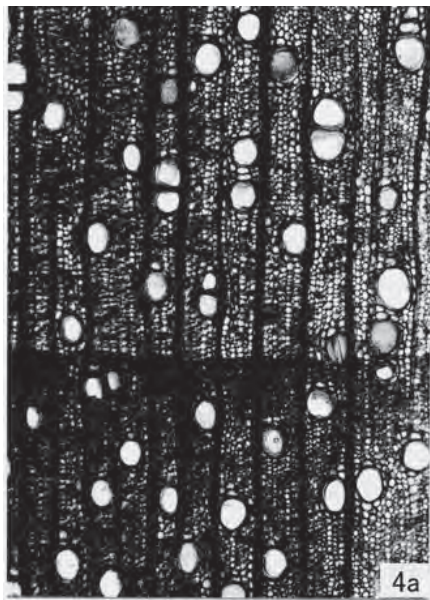
- 林昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所。
伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ,木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181。
伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ,木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176。
伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ,木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201。
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ,木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166。
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ,木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216。
パリノ・サーヴェイ株式会社,2004,樹種同定,「太宰府市の文化財第69集 大宰府条坊跡22 一御垣野・隈野線道路拡幅に伴う調査一」,太宰府市教育委員会,221-222。
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
島地謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p。
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト,伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
山田昌久,1993,日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成 一用材から見た人間・植物関係史,植生史研究特別第1号,植生史研究会,242p。



1. スギ(S-600;③)
 2. ヤマグチ(S-570c;②)
 3. クスノキ(S-600;②)
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm: 2-3a
 200 μm: 1a·2-3b,c
 100 μm: 1b,c

写真981. 写真1 木材(1)



4. クスノキ科(S-40m;②)
 5. ヒサカキ(S-385;②)
 6. イスノキ(S-40m;①)
 a:木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm: a
 200 μm: b, c

写真982. 写真2 木材(2)

【2】自然科学分析その2

今回の大宰府条坊跡236次調査に伴う自然科学分析は、次のような目的で実施する。S-315遺構の年代観に関する情報を得るために、放射性炭素年代測定を実施する。黒色粘土の成因を検討するために、放射性炭素年代測定、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、鉍物分析、土壌理化学分析、軟X線写真撮影観察を実施する。S-85遺構内堆積物の古植生を検討する目的で、花粉分析を実施する。土器内炭化物の由来を知る目的で、樹種同定を実施する。

1. 試料

放射性炭素年代測定用は、S-315遺構の炭化物と黒色土の2点を分析する。珪藻分析、植物珪酸体分析、土壌理化学分析は、黒色土上部、黒色土下部の2点を分析する。花粉分析は、珪藻分析を行った2点に加え、S-85遺構内堆積物2点(N7、N8)も分析する。鉍物分析は、地山と黒色土上部の2点を分析する。軟X線写真撮影は、柱状に採取された黒色土1点である。樹種同定用試料は、W16区S-170の土器群中の土器底部に付着していた炭化物4点(1-4)である。No.2を除く3点は微細な炭化物が僅かに認められ、繊維状の構造が認められることから木材等が炭化した可能性がある。No.2は、黒色の炭化物様の物質が認められるが、いずれも微細で保存状態も悪く、繊維構造等は認められない。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、AMS法で実施する。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

(2) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は、原口ほか(1998)、Krammer(1992)、Krammer & Lange-Bertalot(1986,1988,1991a,1991b)などを参照する。

同定結果は、淡水生種の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。

(3) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛:比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉍物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表として示す。

(4) 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)、およびこれらを含む珪化組織片を近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定し、計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生について検討するために、植物珪酸体群集の産状を図化した。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

(5) 樹種同定

木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

(6) 鉍物分析

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96)により重液分離、重鉍物と軽鉍物をそれぞれ250粒に達するまで偏光顕微鏡下にて同定する。重鉍物の同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉍物」とした。「不透明鉍物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は、「その他」とした。「その他」は軽鉍物中においても同様である。また、火山ガラスは、便宜上軽鉍物組成に入れ、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は厚手平板状あるいは比較的大きな気泡持つ塊状、軽石型は小気泡を非常に多く持つ塊状および繊維束状のものとする。

(7) 土壌理化学分析

腐植含量をチューリン法で実施する(土壌環境分析法編集委員会,1997)。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00mmの篩を通過させる(風乾細土試料)。風乾細土試料の水分を加熱減量法(105℃、5時間)により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5mmφのふるいを全通させる(微粉砕試料)。

微粉砕試料0.100~0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの腐植含量(Org-C乾土%)を求める。これに1.724を乗じて腐植含量(%)を算出する。

(8) 堆積物軟X線写真撮影

地層断面より採取したブロック状の試料から、幅7cm、長さ20cm、厚さ1cmの板状の試料をプラスチックケース内に分離、成形して軟X線写真の撮影を行った。撮影は東都文化財研究所の協力を得た。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表4、5に示す。同位体補正を行った測定年代は、S-315が1,250±40BP、黒色土が10,840±70BPである。暦年較正を行った値は、慣例上10年単位で表すが、暦年較正曲線や較正プログラムが改

正された際に、再計算や比較を行いやすくするため、1年単位で表記している。その結果は、S-315がcalAD686-802、黒色土がcalBC.10,928-10,867である。

表4. 放射性炭素年代別測定結果

試料名	補正年代 BP	δ 13C (‰)	測定年代 BP	Code.No.
S-315	1,250 ± 40	-27.28 ± 0.58	1,290 ± 40	IAAA-42457
黒色土	10,840 ± 70	-28.60 ± 0.69	10,900 ± 70	IAAA-42458

- 1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表5. 暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)	暦年較正年代(cal)				相対比	Code No.			
		cal AD	686 -	cal AD	799			cal BP	1,264 -	1,151
S-315	1,251 ± 36	cal AD	686 -	cal AD	799	cal BP	1,264 -	1,151	0.936	IAAA-42457
		cal AD	793 -	cal AD	802	cal BP	1,157 -	1,148	0.064	
黒色土	10,841 ± 67	cal BC	10,928 -	cal BC	10,867	cal BP	12,878 -	12,817	1.000	IAAA-42458

- 1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を使用
- 2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

(2) 珪藻分析

結果を表6に示す。上層・下層とも珪藻化石の産出が少ない。また、産出種は溶解している。少量ながら産出する珪藻化石は、上層・下層とも近似している。産出種は淡水生で、沼沢湿地付着生種群(安藤, 1990)のEunotia flexuosa, Eunotia praerupta var. bidens, Pinnularia viridis等が産出する。また、陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻A群(伊藤・堀内, 1991)のHantzschia amphioxys, Navicula mutica等も産出する。沼沢湿地付着生種群とは、水深が1m前後で一面に水生植物が繁茂している沼沢や湿地で優勢な出現の見られる種群のことである(安藤, 1990)。

(3) 花粉分析

分析の結果、いずれの試料も花粉化石はマツ属やイネ科などが検出されるが、保存が悪く検出数も少ない。シダ類胞子は、比較的多くみられる(表7)。

(4) 植物珪酸体分析

結果を表8、Fig.113に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。黒色粘土の上部と下部では同様な産状が見られ、ヨシ属の産出が目立ち、タケ亜科やウシクサ族、イチゴツナギ亜科などが検出される。

(5) 樹種同定

同定結果を表9に示す。S-170No.2は組織構造が観察できず、炭化物の種類や由来は不明である。その他の試料は全て炭化材で、2種類の木材組織が観察できる。いずれも道管が認められることから広葉樹材で、No.1,4の2点はシャシャンボ、No.3はツゲ近似種に同定される。各種類の解剖学的特徴等を記す。

表6. 珪藻分析結果

種類	生態性			環境指標種	黒色粘土	
	塩分	pH	流水		上部	下部
Eunotia flexuosa (Breb.)Kuetzing	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	1	2
Eunotia praerupta var. bidens Grunow	Ogh-hob	ac-il	l-ph	RB,O	1	5
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		10	5
Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	2	1
Navicula mutica Kuetzing	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	2	1
Pinnularia imperatrix Mills	Ogh-hob	ac-il	l-ph		1	1
Pinnularia viridis (Nitz.)Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	1	1
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		6	3
Synedra spp.	Ogh-unk	unk	unk		1	-
珪藻化石総数					25	19

凡例

H.R.:塩分濃度に対する適応性 pH:水素イオン濃度に対する適応性 C.R.:流水に対する適応性
 Ogh-ind :貧塩不定性種 al-il :好アルカリ性種 l-ph :好止水性種
 Ogh-hob :貧塩嫌塩性種 ind :pH不定性種 ind :流水不定性種
 Ogh-unk :貧塩不明種 ac-il :好酸性種 unk :流水不明種
 unk :pH不明種

環境指標種群

O:沼沢湿地付着生種(安藤, 1990)
 S:好汚濁性種, U:広域適応性種, T:好清水性種(以上はAsai and Watanabe, 1995)
 R:陸生珪藻(RA:A群, RB:B群, RI:未区分, 伊藤・堀内, 1991)

表7. 花粉分析結果

種類	黒色土	
	試料番号	上部 下部
木本花粉		
マキ属	2	3
ツガ属	2	-
マツ属	-	2
スギ属	1	1
クマシデ属-アサダ属	-	-
ブナ属	-	1
コナラ属コナラ亜属	-	-
コナラ属アカガシ亜属	1	1
ニレ属-ケヤキ属	-	-
草本花粉		
イネ科	2	1
サナエタデ節-ウナギツカミ節	1	1
ソバ属	1	-
アカザ科	-	-
バラ科	-	-
ヨモギ属	-	-
不明花粉	1	-
シダ類胞子		
ヒカゲノカズラ属	-	-
イノモトソウ属	1	1
他のシダ類胞子	136	62
合計		
木本花粉	6	8
草本花粉	4	2
不明花粉	1	0
シダ類胞子	137	63
総計(不明を除く)	147	73

表8. 植物珪酸体分析結果

種類	黒色粘土	
	試料番号	上部 下部
イネ科葉部短細胞珪酸体		
タケ亜科	3	3
ヨシ属	58	79
ウシクサ族コブナグサ属	5	1
ウシクサ族ススキ属	25	14
イチゴツナギ亜科	3	-
不明キビ型	23	14
不明ヒゲシバ型	6	5
不明ダンチク型	7	11
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
タケ亜科	9	9
ヨシ属	101	98
ウシクサ族	17	18
不明	14	6
合計		
イネ科葉部短細胞珪酸体	130	127
イネ科葉身機動細胞珪酸体	141	131
総計	271	258

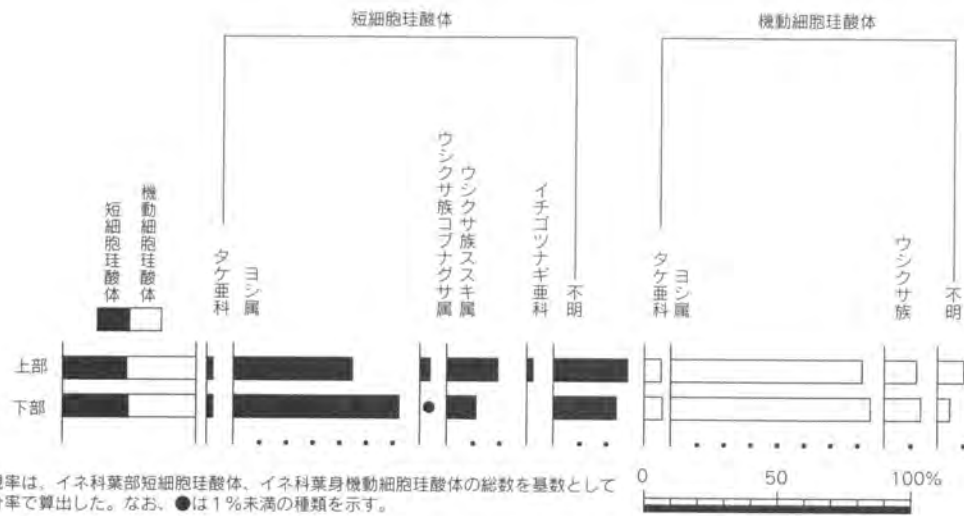


Fig.113 黒色粘土の植物珪酸体群集

表9. 樹種同定結果

地区	遺構番号	試料の状態	番号	樹種
W16	S-170	土器低部付着炭化物内	1	シャシャンボ
			2	不明
			3	ツゲ近似種
			4	シャシャンボ

・シャシャンボ (*Vaccinium bracteatum* Thunb.) ツツジ科スノキ属

散孔材で、道管はほぼ単独で散在し、その分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、単列で10細胞高前後のものと5-7細胞幅、30-60細胞高のものがある。

・ツゲ近似種 (cf. *Buxus microphylla* Sieb. et Zucc. var. *japonica* (Muell.Arg.) Rehd.et Wils)

ツゲ科ツゲ属

散孔材で、道管径は極めて小径、管壁は厚~中庸で、横断面では角張った楕円形、単独または2-3個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-30細胞高。観察範囲が狭く、保存状態も悪いために、らせん肥厚の有無や壁孔の形態等が観察できず、近似種とした。

(6) 鉱物分析

分析結果を表10、Fig.114に示す。2点の試料は、重鉱物組成・軽鉱物組成ともにほぼ同様の組成を示す。重鉱物組成は、斜方輝石が最も多く、50~60%程度を占め、次いで角閃石が20~30%程度を占める。他に10%程度の不透明鉱物と微量の単斜輝石が含まれる。軽鉱物組成では、長石が最も多く、50~60%を占め、風化粒の「その他」を除くと、少量の石英とバブル型火山ガラスを伴う組成である。

(7) 土壌理化学分析

結果を表11に示す。分析の結果、2点とも腐植含量は高く、6-7%程度を示す。

(8) 堆積物軟X線写真撮影

結果については考察において併せて述べる。

表10. 重軽鉱物分析結果

試料名	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑閃石	ザクロ石	ジルコン	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	長石	その他	合計
地山	145	3	60	0	2	0	1	30	9	250	10	0	1	26	136	77	250
黒色土上部	134	4	67	0	0	1	1	37	6	250	10	0	4	16	165	55	250

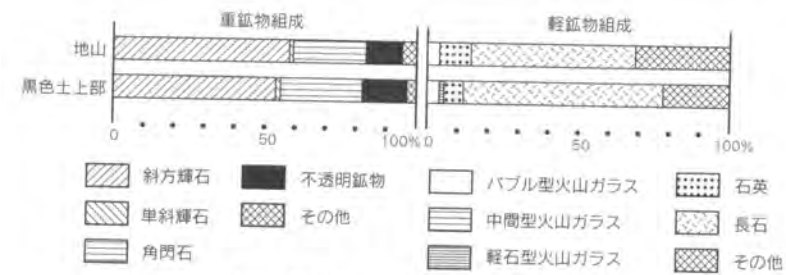


Fig.114 重軽鉱物組成

表11. 土壌理化学分析結果

試料名	土性	土色	腐植含量(%)	備考
黒色土 上部	HC	N2/0 黒	6.91	
黒色土 下部	HC	N2/0 黒	5.93	

土色:マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修,1967)による。

土性:土壌調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編,1984)の野外土性による。

HC...重埴土(粘土45~100%,シルト0~55%,砂0~55%)

4.考察

(1) S-315出土炭化材の年代値

S-315から出土した炭化材の年代観は、測定年代で1,250±40BP、校正年代でcalAD686-802であり、奈良時代前後の年代観を示している。

(2) 黒色土について

黒色土の由来に関して、鉱物分析では、地山と黒色土を分析して比較し、無機質な部分の由来について検討する。磯(2001)による地形分類図によれば、今回の調査区は、沖積段丘面の上に位置する。地山とされた試料は、この段丘面を構成する堆積物と判断される。磯(2001)では、沖積段丘面より上位に位置する河成段丘の低位段丘I面の表層に始良Tn火山灰(AT:町田・新井,1976)を含む厚さ1m程度のレス(風成土壌)が形成されていると述べている。一方、太宰府市を取り巻く基盤の地質は早良花崗岩と呼ばれる粗粒な黒雲母アダメロ岩(日本の地質「九州地方」編集委員会,1992)であるから、地山における斜方輝石の卓越する重鉱物組成は、その母材が早良花崗岩に由来するものではないことを示している。以上のことから、地山試料に含まれる重軽鉱物の多くは、阿蘇4火砕流およびATに由来すると考えられる。実際に地山試料の軽鉱物中には火山ガラスも認められている。今回の分析の対象とされた

黒色粘土は、重軽鉱物組成が地山と一致することから、その母材は地山に由来すると考えられる。すなわち、地山を構成している土壌の表面に植物が被覆したため、土壌中に腐植が供給され、黒色土が形成されたと考えられる。

次に黒色土を構成する腐植の由来について、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、土壌理化学分析の結果から検討する。黒色土は腐植含量が6-7%と比較的高いが、分解が進んでおり、肉眼で観察可能な植物遺体は検出されない。珪藻化石は保存が悪く、検出量が少ない。珪藻化石を構成するシリカは、温度が高いほど、流速が早いほど、水素イオン濃度が高いほど溶解度が大きくなり溶けやすいことが実験により推定されている(千木良,1995)。また、珪藻殻とおなじ化学組成を持つ植物珪酸体は、pH値が高い場所や乾湿を繰り返すような場所では、風化が進みやすいと考えられている(江口,1994;1996)。産出する珪藻化石は、沼沢湿地付着生種群と乾いた好気的環境に生育する陸生珪藻が検出されることから、弱酸性を呈した湿地と乾燥した状況を繰り返していたと推測される。また花粉化石は保存が悪く、シダ類孢子が比較的多く見られる程度であるが、花粉化石は好気的環境による風化に弱く、かつシダ類孢子は花粉化石と比べて風化に強いことから(徳永・山内,1971)、珪藻化石から推定される結果と調和的である。植物珪酸体分析からみると、湿潤な場所に生育するヨシ属の産出が目立った。そのため、黒色粘土は黒ボク土に見られるようなネザサ節やススキ属などの腐植の蓄積ではなく、湿潤な場所に堆積する泥炭が、乾湿を繰り返す状況の分解して生成される黒泥土に近いものであったと考えられる。なお、年代測定を行った際に測定した $\delta^{13}C$ の値が -28.60 ± 0.69 である。 $\delta^{13}C$ の値は、光合成の様式の違いにより同位体分別の効果が異なるため、植物により異なる。大部分の植物はC3植物であり、 $\delta^{13}C$ の値は-25前後に収まることが多いが、ススキ属などのC4植物では-13前後の値である。今回得られた数値からみると、腐植の大部分はC3植物に由来(ヨシ属もC3植物)すると考えられるが、これは植物珪酸体分析結果と比較しても調和的である。なお、植物珪酸体組成中のC3植物とC4植物の比率と、腐植中の ^{13}C の値には相関が認められ、土壌中の腐植の由来を調査する際には、これらの分析が有効であることが、指摘されている(井上ほか,2001)。

なお、黒色土の下位には、流路ないし氾濫堆積物と判断される粗粒砂~細礫層が存在している。粗粒砂~細礫層から黒色土の層相変化および上記の分析結果をふまえると、粗粒砂~細礫層形成後、本調査区では堆積環境が安定し、植物が繁茂するようになり、地表面上において腐植が蓄積されていくような離水没を繰り返すような湿地の堆積環境となったことが推定される。黒色土の上位では、流路堆積物の累重が認められず、包含層をなす泥混じり砂によって覆われる。このような層相変化は、本調査区周辺において、黒色土形成以降に新たな流路堆積物や顕著な氾濫堆積物が累重しなくなったことを示している可能性がある。調査区が立地する沖積段丘面は、山口川と宝満川の河川争奪によって完新世に離水した地形面であるとされる(磯,2001)。黒色土を構成する腐植からは、 $10,840 \pm 70BP$ の放射性炭素年代値が得られた。この年代値および調査区で認められた層序や堆積層の層相変化は、沖積段丘面の形成および離水といった遺跡周辺の地形発達史に大きく関係していることが予想される。今回得られた分析結果については、今後の周辺での調査事例をふまえ、本地域の地形発達史との関連において、さらに検討していくことが必要と判断される。

(3) 古植生について

S-85を分析した結果、花粉化石はほとんど検出されなかった。これは先にも述べたように、好気的環境下における風化が原因と考えられる。当社が太宰府市内の遺跡で行った結果をもとにすると、遺跡周辺の山地には、シイ・カシ類からなる照葉樹林が存在していたと考えられる。また、クスノキ科の花粉化石は膜が弱い化石としてはほとんど残らないが、照葉樹林の代表的な樹木であるタブノキやクス

ノキなどクスノキ科も多く生育していたと思われる。一方、奈良・平安時代以降になると、マツ属が周辺に分布を拡大したと考えられる。マツは、開発による伐採地に先駆的に生育し二次林を形成することが多い種類であり、このような特性から植林されることもしばしばある。このことから、奈良・平安時代の古植生は、太宰府周辺の開発が進むにしたがって、マツの二次林や植林が増加し、山地で優勢であった照葉樹林が減少してきた可能性を指摘している。このような植生変遷は、九州地方の花粉化石群集をまとめた成果にも同様に現れている(Hatanaka,1985;畑中ほか,1998)。

(4) 土器付着炭化物

土器付着の炭化物は、4点中3点が広葉樹の炭化材であり、2種類が認められた。いずれも重硬で強度の高い材質を有する。シャシャンボやツゲは、暖温帯常緑広葉樹林に生育する種類であり、シャシャンボについては現在でも周辺の丘陵地に生育している(井上,2001)。したがって、炭化材は遺跡周辺で入手可能な木材が利用されていることが推定される。

引用文献

- 安藤一男,1990,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理,42,73-88.
千木良雅弘,1995,風化と崩壊.近未来社,204p.
江口誠一,1994,沿岸域における植物珪酸体の分布 千葉県小櫃川河口域を例にして.植生誌研究,2,19-27.
江口誠一,1996,沿岸域における植物珪酸体の風化と堆積物のpH値.ペトロジスト,40,81-84.
原口和夫・三友清史・小林弘,1998,埼玉の藻類 珪藻類.埼玉県植物誌,埼玉県教育委員会,527-600.
Hatanaka Ken'ichi,1985,Palynological studies on the vegetational succession the Wurm Glacial Age in Kyusyu and adjacent areas.Journal of the faculty of Literature,Kitakyusyu UniveraSity (Series B) ,18,29-71.
畑中健一・野井英明・岩内明子,1998,九州地方の植生史.図説 日本列島植生史,安田喜憲・三好教夫編,朝倉書店,151-161.
伊藤良永・堀内 誠示,1991,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌,6,23-45.
井上晋,2001,植物と植生.太宰府市史編集委員会(編)「太宰府市史 環境資料編」,太宰府市,107-135.
井上弦・米山忠克・杉山真二・岡田英樹・長友由隆,2001,都城盆地の累積性黒ボク土における炭素・窒素安定同位体自然存在比の変遷—植物珪酸体による植生変遷との対応.第四紀研究,40,307-318.
磯望,2001,第1編 太宰府市の地形と地質.太宰府市史環境資料編,太宰府市,7-104.
近藤鍊三・佐瀬隆,1986,植物珪酸体分析,その特性と応用.第四紀研究,25,31-64.
Krammer, K.,1992,PINNULARIA.eine Monographie der europaischen Taxa,BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMEER,353p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1. Gustav Fischer Verlag,876p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1988,Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae,Bacillariaceae,Suirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2. Gustav Fischer Verlag,536p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a,Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales,Fragilariaceae,Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag,230p.
Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b,Bacillariophyceae.4.Teil: Achnanthaceae,Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/4. Gustav

Fischer Verlag,248p.

町田洋・新井房夫,1976,広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—科学,46,339-347.

日本の地質「九州地方」編集委員会,1992,日本の地質9 九州地方,共立出版,371p.

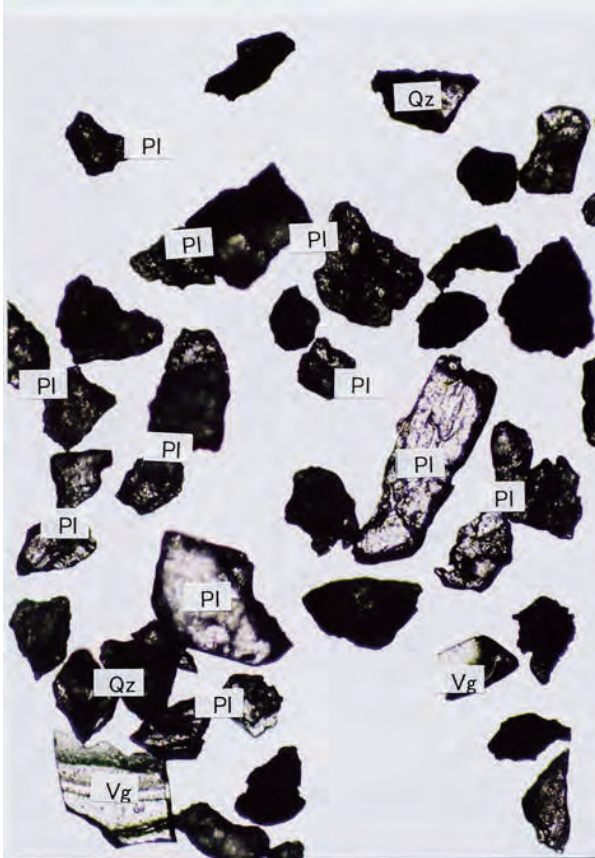
徳永重元・山内輝子,1971,花粉・孢子.化石の研究法,共立出版株式会社,50-73.



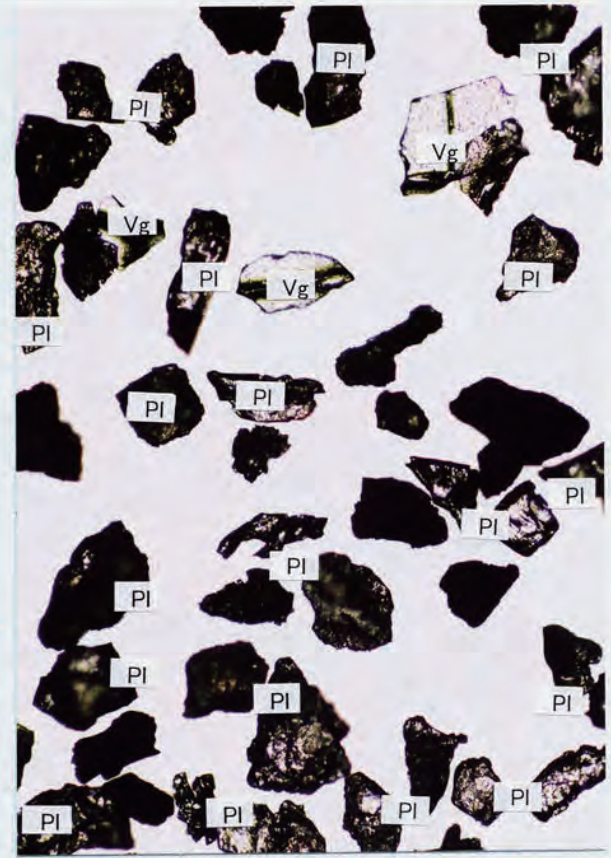
1. 重鉱物(条236-1 地山)



2. 重鉱物(条236-1 黒色土上部)



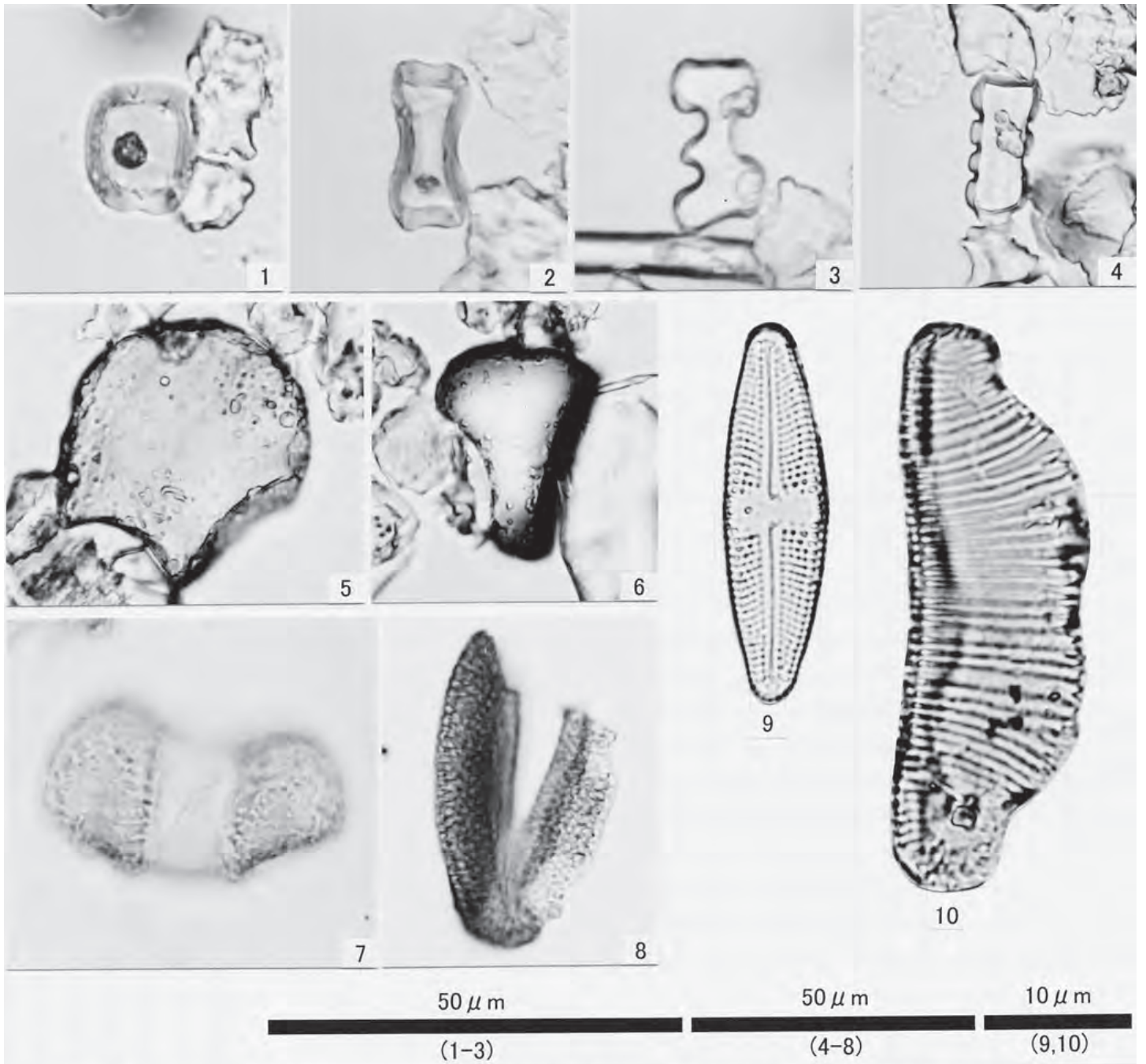
3. 軽鉱物(条236-1 地山)



4. 軽鉱物(条236-1 黒色土上部)

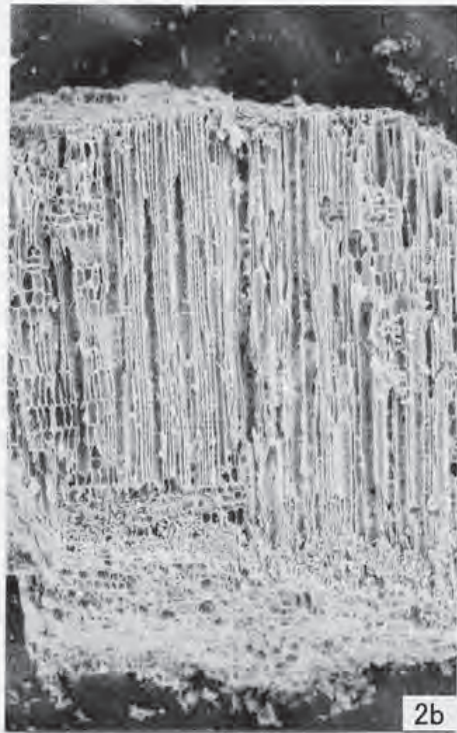
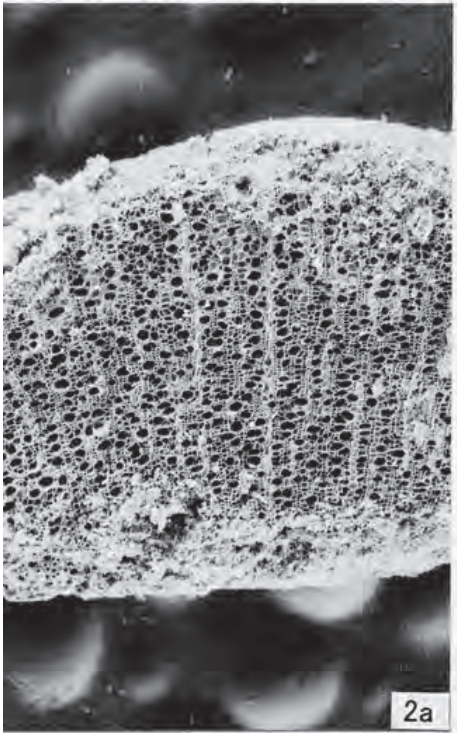
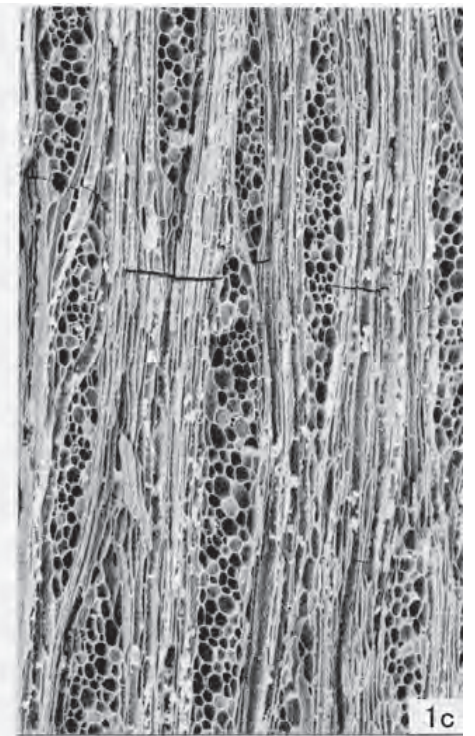
Qz: 石英 Pl: 斜長石 Opx: 斜方輝石 Cpx: 単斜輝石 Ho: 角閃石 Op: 不透明鉱物
Vg: 火山ガラス

0.5mm



1. ヨシ属短細胞珪酸体(黒色土;下部) 2. コブナグサ属短細胞珪酸体(黒色土;上部)
 3. ススキ属短細胞珪酸体(黒色土;上部) 4. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(黒色土;上部)
 5. ヨシ属機動細胞珪酸体(黒色土;下部) 6. ウシクサ族機動細胞珪酸体(黒色土;上部)
 7. マキ属(黒色土;上部) 8. ソバ属(黒色土;上部)
 9. *Navicula mutica* Kuetzing(黒色土;上部)
 10. *Eunotia praeurupta* var. *bidens* Grunow(黒色土;下部)

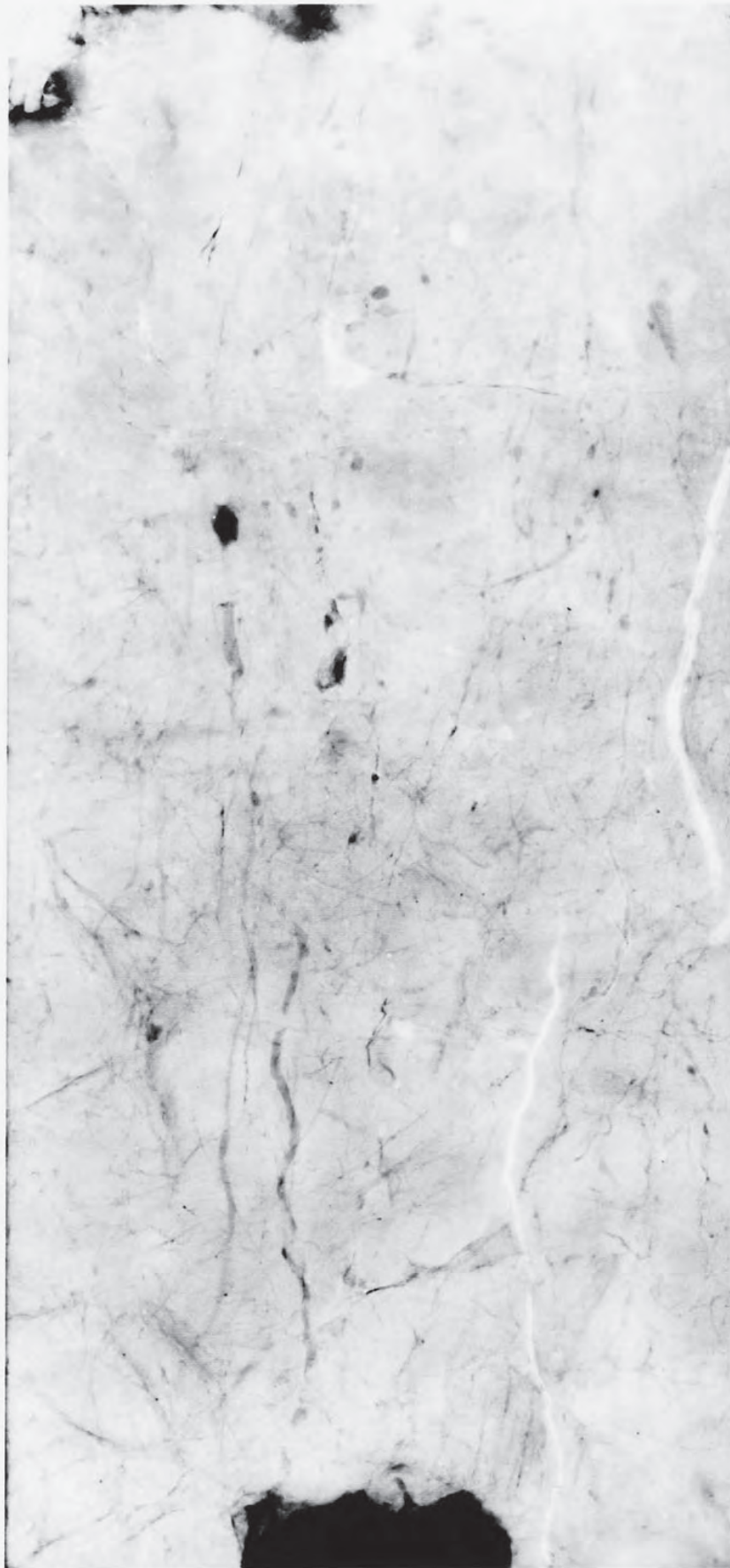
写真984. 写真4 植物珪酸体・花粉化石・珪藻化石



1. シャシャンボ (W16区S170;No.1)
 2. ツゲ近似種 (W16区S170;No.3)
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm: a
 200 μm: b, c

写真985. 写真5 炭化材



黒色シルト

青灰色シルト

5cm

写真986. 写真6 軟X線写真

VI、調査まとめ

今回の調査の特筆すべき所見を列挙すると以下のとおりである。

- ・条坊の土地利用の変遷が明瞭
- ・東西道路の検出
- ・畑状遺構の検出
- ・桁行16間（29.6m）におよぶ大型掘立柱建物の検出
- ・土取り遺構の検出
- ・須恵器の脚付盤が多数出土
- ・滑石製屋蓋の出土

遺構の変遷について

遺構の検討は、調査済みの隣接地の調査所見（第251・255・257次）や現在調査中の第267次調査を若干加味したものの、県道部分の調査所見をもとに検討を行った。今後西鉄操車場跡地で現在も続けられている隣接地の調査成果を踏まえ、総合的な検討・評価が必要である。

今回の調査地は調査面・遺構面とも4面であったが、後世の削平はもちろん、上面の掘り残しや掘り下げすぎなどによって、遺構面と調査面が必ずしも一致しているとは限らない。よって、異なった調査面で同じ時期の遺構も存在している。遺構や遺物量をみた場合、8世紀前半～中頃、9世紀後半～10世紀前半、11世紀中頃～12世紀初頭の3時期に目立った出土量を示しており、それを踏まえ順にまとめてみる。

○7世紀以前（縄文時代～7世紀初め）

第236-1次調査の北半部で、第3調査面の下に黒色土や黒色粘土が南北に逆S字状に蛇行している。この黒色土は第V章で記したように、流路もしくは氾濫原が安定し、植物が繁茂するようになり、地表面上において腐植が蓄積されていくような離水没を繰り返す湿地環境となったことが推測されている。その後、この地形を大きく変化させるような自然事象を確認することはできず、現在みるような安定した地盤が形成されたものと推測される。その時期については黒色土の放射性炭素年代でBC10900年前後の数値が得られており、縄文時代草創期もしくは後期旧石器時代に遡るものと推測される。

旧石器・縄文時代については、遺構は確認されていないものの、縄文土器が1点のほか旧石器をはじめ縄文時代の石器も少量出土する状況である。これは条坊内で縄文土器や石器類が散見される状況と同じである。この調査地に関しては、前述したように離水没を繰り返す環境にあったことは理解でき、流されてきた可能性が十分考えられる。また、前述の黒色土が掘立柱建物の掘り方の埋土に使用されている状況からすると、古代以前の生活面は、大宰府成立後の条坊内が整備されていく中で削平された可能性は十分に考えられる。

7世紀より古い土器で、最も多く出土しているのは、弥生時代後期から古墳時代初めの土器である。しかし、土坑や住居などの遺構は確認していない。第3調査面で確認したアメーバ状の窪みにこの時期の遺物が多く出土するが、古代の須恵器と一緒に見つかることが多く、アメーバ状の窪みが弥生時代のものと明確に言い切れる根拠に乏しい。しかし、北隣の第168次調査（太宰府市の文化財第69集）で弥生時代後期の流路や土坑が検出されており、今回は遺構こそ明瞭ではないものの、土器の分布状況から付近一帯で僅かながらも人の活動があったことが窺える。

古墳時代については、須恵器が数点出土する状況で、太宰府市の西部にあたる大佐野地区の京ノ尾遺跡（太宰府市の文化財第85集）等で住居跡が集中し、遺物が多量に出土する状況に比べると、極端に少ない状況であり、後世の削平の有無に関係なく、明らかに人の活動がなかった状況を示している。

○7世紀後半～9世紀初頭（大宰府編年IA期～VIA期）

大宰府土器型式のIA期（7世紀後半）頃の遺物が各遺構から散見され、弥生時代終末前後から400年間確認できなかった人の活動が、大宰府が成立することによって、この付近でも始まったことを物語っている。

この時期の遺物が出土している遺構の中で、第236-1次調査の南端部で検出されたSD015の下層（暗灰色土）から、このIB期の須恵器蓋1などがまとまって出土している。このSD015では上下2層が明瞭に分層でき、上層は8世紀中頃の遺物を含んでいる。このSD015の最終埋没は8世紀中頃と言えるのだが、下層に7世紀末頃の遺物が占めている状況は、周辺にその時期の遺構が展開し、8世紀中頃にそれらの遺構から遺物が流れ込んだ可能性と埋没過程の中で7世紀末に近い時期にSD015が半分ほど埋没し、その後8世紀中頃に再び埋没したという大きく2通りの埋没過程が想定できる。後者の場合、大宰府成立当初にこの溝、つまり東西路が設計されたことになるのだが、溝という遺構の埋没環境の特性上明言すること難しく、その可能性のひとつとして今後の課題とする。

このSD015と平行してSD020が検出された。北側のSD015を境に遺構密度が極端に少なくなるため、その2条に囲まれた幅3.5～4m（溝心々距離約5m）が道路（SF665）と考えられる。SD020はSD015と異なり、7世紀の遺物は少なく、8世紀前半頃の埋没と推測される。この道路の東側延長上には般若寺丘陵があり、7世紀後期～末頃の溝や掘立柱建物が確認されており（太宰府市の文化財第90集）、何らかの関係があったのかもしれない。

大宰府条坊案については鏡山猛氏をはじめ様々な案が出されてきたが、今回の調査地で検出した道路にはほぼ合致する案を出している井上信正氏の案を今回は採用することとし、SF665を15条路、後述するSF615付近を14条路として報告する。

14条路については、平安時代前期～後期にかけて掘り直しや僅かな場所の移動が行われている。その中で最も古い道路は、出土遺物からVIB～VII期頃に埋没している。これ以前の奈良時代に道路が存在したかどうかについては、調査所見からは言及できない。

そのほか奈良時代の遺構は、さほど多くなく、北西部のSK315とその付近のピットや窪みと後述する方形掘り方を持つ掘立柱建物5棟と柵列だけで、井戸は未確認である。

第3遺構面で確認した掘立柱建物のうち、南北に長い大型掘立柱建物が1棟検出された。隣接する第257次調査でも1棟検出され、2棟は東側の柱筋を合わせて南北に並ぶことが確認され、下記のような数値が得られている。

- ・236-1SB480（北棟）：南北16間（29.6m、小尺100尺、柱間約1.85m）×東西3間以上（6m以上）
報告書作成中に第267次調査が行われていて、SB480の西側が見え隠れしていて、全体として東西4間（約8.6m）になる可能性が高い。
- ・257SB300（南棟）：南北11間（23.6m、小尺80尺、柱間約2.15m）×東西5間（8.6m、小尺29尺）
- ・2棟の建物間は10.4m（小尺35尺）
※小尺29.6cm

このように南北に長大な建物が並ぶ例は、官衙遺構が数多く確認されている大宰府でも大宰府政庁以外になく、全国的に見てもこのような遺構は官衙の中でも国庁クラスのものでしか見ることはなく、これらの遺構は国庁に相当する建物と言って遜色ないであろう。時期が明確ではないものの、須恵器の脚

付盤など、条坊内の他の調査では出土しない遺物があるのも他と異なる地域であったことを補足できるだろう。SB480は数少ない出土遺物から、8世紀第3四半期頃に廃絶したと推測される。建築年代は掘り方の遺物から8世紀第2四半期頃と推測される。また、SB480eの柱痕の放射性炭素年代の測定を行ったところ、546～598年という測定結果が出されている。第257次調査SB300でも同様の測定を行ったところ、SB300の中でも柱痕で3世紀中頃～5世紀前半、礎板が6世紀中頃～7世紀初という測定結果が出されており、同一遺構内でも大きな年代差があることになり、単純に古墳時代の建築とか古材の転用などとは言い切れない測定値である。材の遺存状況によっては内側の年輪ほど古い年代を示すともいわれていることから、この測定値がそのまま遺構年代と直接結びつけるには、さらなる検証が必要であり、今回は分析結果の提示だけに留めたい。

SB570は、SB480より大きな掘り方を持ち、東西棟になるとみられる。西側には14.0mの間隔をおいてSB480が存在する。同時期に存在していた場合、SB480が南北棟に対し、SB570が東西棟の配置をとるため、それぞれ脇殿・正殿を想像させるが、SB570が西辺の柱列のみ確認されただけであるため、今後行われるであろう周辺の調査結果踏まえ検討していかねばならない。

15条路の北側に掘立柱建物が3棟（SB040・485・500）、柵列1条（SA490）が確認されている。この4遺構については重複しているが方位がほぼ同じであるため、近接した時間内で建て替えが行われた可能性が高い。しかし、隣接する15条路や大型掘立柱建物（SB480・570）とは方位が若干異なっている。遺物が少ないため詳細な時期は不明であるが、平安時代の遺物が混入していないため、奈良時代以前と推測される。SB480・570と併存したかどうかは不明であるが、隣接する第257次調査では、切り合いから大きな掘立柱建物→小さな掘立柱建物の変遷が確認されており、この調査地も同じ変遷であった可能性が高い。

SB040やSB500などの掘立柱建物が切り込むアメーバ状の凸凹は、弥生土器などに混じって、少量ながらも奈良時代の遺物が含まれており、これらが掘立柱建物の伴う整地である可能性が考えられる。第236-2次調査でもアメーバ状の凸凹が検出され、8世紀代の凸凹もあり、調査地全体にこのような遺構が広がっていたことがわかる。

○9世紀前半～10世紀中頃（大宰府編年VIB期～IX期）

この時期には14条路が明瞭に確認でき、14条路関連の遺構（SD515・520・550・575）からはVIB～VII期の遺物が出土し、この上を10世紀代の茶灰色粘土が覆っている。そして、14条路の南側SD415付近（AIライン）から15条路北側溝（SD015）にかけて灰色土を主とした整地が広がっている。これは、第3遺構面を覆う整地で、出土遺物からおおよそVII～VIII期（9世紀中～10世紀前半）頃で、その中でも9世紀後半頃と推測される。時期的には灰色土の整地が行われた時期と14条路が同時期に埋没したような状況を示しており、全体的に土地の改変があったことが想定される。その茶灰色粘土部分が10世紀代に道路として利用されていたかどうかは、詳細な観察を怠ったため不明瞭である。

また、15条路については、切り合いや出土遺物等から、この時期に存在したかどうかは明確に言い切れない。

この時期の遺構は、多くはないものの14・15条路それぞれに近い位置に展開する。井戸などから出土する遺物は、この灰色土の整地に近い時期のものが多く、遺構の切り合いや遺物の時期から、明らかに灰色土の整地以前と考えられる遺構はSE205・SA635・SB630だけで、そのほか同時期のSE025・230・385・585などは整地以降の遺構と考えられる。また、平安時代初頭前後の遺物も少ないため、人の動きは活発ではなかったと考えられる。

その後灰色土には畑状遺構とする格子状の溝や南北溝が展開する。畑状遺構(SX640・645)は、時期判断が難しいが、整地層に切り込んでおり、その整地層より若干新しいVIII期前後の埋没と推測される。畑状遺構と推測している溝で東西・南北の溝の切り合いのほか、いくつかの切り合いが確認され何度か掘り返されていることがわかる。また、畑状遺構(SX640・645)を確認した範囲は、SX645の南北溝を主とする畑状遺構が、SD415やSD657の東西溝付近を北端としている。そして、その付近から北側は整地があって、2面目が展開している。SX640と645の境界については、調査区中央付近にある大攪乱付近とみられる。その南側に格子状に広がるSX640は15条路を南端としている。東側は現時点では未調査部分が多いが、調査区内においては4ライン付近で途切れているように見える。西側は第257次調査で西端が確認できたことから、現状ではSX640の東西幅は約45m、南北幅は約36m確認されている。途中の大攪乱で不明瞭な部分があるが、SX640・645を合わせた南北幅は約80mである。整地として報告している灰色土であるが、その確認した範囲と畑状遺構の範囲が大方一致している。西側の第257次調査でも格子状に広がる溝の検出範囲と灰色土の範囲はほぼ一致する。これは灰色土に切り込む同時期の建物が検出されていない状況から、単純に灰色土=耕作土と考えられるが、全く別の地盤整備遺構の可能性も完全に否定はできない。このような溝の遺構は長岡京水垂地区や出雲国府宮の後地区でも確認されており、今後調査事例の増加と詳細な検討によって、明らかにしていかなければならない。

この時期の井戸のうち、SE585は灰色土に掘り込まれ、その埋土に畑状遺構が切り込んである。最終的に畑状遺構が切り込んであるものの、ある時期には畑のための井戸であったという見方もできる。

第236-2次調査地は丘陵裾という現場環境から、山裾が削平された状態が検出されるとみられたが、VII期埋没のSE050などが丘陵裾に存在することが確認され、井戸の深さも第236-1次調査より若干浅いものの大きな違いはないため、当時すでに現況に近い地形であったことがわかった。

この時期の出土遺物のうち、VII期頃埋没の236-2SE050の井戸から出土した滑石製屋蓋は、軒先が表現されていないなど細部に至る表現は見られず、写實的ではないが、屋根の勾配が緩い点は、古代的な様相と言えらる。このような形状の遺物として瓦塔が知られているが、九州では現在瓦塔の出土例は16例あり、瓦葺の表現が、熊本県から出土している瓦塔と近似していることから、時期や形状から瓦塔と同様の意味を持つ種類のひとつと捉えることは可能で、肥後との関連も指摘されている。しかし、石製のものの出土は知られておらず、非常に珍しい遺物である。また、破片であるが故に塔か堂か判断も難しく、同様の出土例が知られていない現段階では、踏み込んだ検討が出来ず、今後の類例の増加を待ちたい。

○10世紀中頃～11世紀前半(大宰府編年IX～X期)

この時期の遺構は少なく、明瞭な遺構はSK160のみで、僅かに時期が被る遺構にSE215やSD505があるのみで、生活痕跡のない空地のような状況を想像してしまう。しかし、10世紀にこの地で目立った生活痕跡がなかった場合、10世紀代の遺物が混入することは少なくなるため、出土する遺物の時期からVIII～IX期頃とみている畑状遺構が、11世紀まで存在していた可能性も考えられる。

9世紀代の14条路の北側で2条の溝(SD505・560)があり、埋没時期はX～XI期で溝間は約4mを測る。東側はSD410付近で途切れているが14条路の可能性が考えられる。

○11世紀中頃～12世紀前半(大宰府編年XI～XIII期)

この時期の道路であるが、14条路は平安時代前期から後期まで、SD415～560間の幅24mの範囲で側溝の掘り直しが行われており、この範囲が道路などの土地境として認識されていたものと考えられる。しかし、単純に道路側溝が土地境というのではなく、その外側に緩衝地帯を設け、土地利用が行われた

ことも想定できる。中央大路(推定朱雀大路)においても、第220次調査で道路側溝の外側に同規模の側溝が掘られていた例があり、今後の事例をもとに検証していかなければならない。

15条路は奈良時代までの側溝が明瞭に確認できたにもかかわらず、平安時代の道路痕跡が調査段階では不明瞭であったが、西隣の第257次調査によって、平安時代の平行する2条の溝(S・2・15)が確認され、その延長上に位置していた236-1SD042・041が道路側溝であることがわかり、同位置に道路が存在していたことがわかった。しかし、その側溝も途切れていて、その先に蛇行するSD001やSD017が存在し、あたかも道路が曲がっているような状況を示している。この部分は遺構の埋没が条坊廃絶の前後のどちらなのかが不明瞭のため今後隣接地の調査で明らかになるであろう。

また、条路に伴う溝以外にも、土地区割りに関係するような溝が多く存在する。時期は異なるのだが、SD395の南端が畑状遺構の北端と一致している。それぞれの遺構の時期が2世紀程の開きがあるにもかかわらず、ほぼ同じ場所を土地境としてきたことを示している。また、SD400・395・786とSD070は遺構間が23m以上離れているが、南北に並んでいる。その他にもSD335・260・250と続く南北溝と第257次調査のS-40が、約59.5mの間隔があるが、ほぼ南北に並んでいる。また、それらを結ぶ南北ラインで東西溝であるSD210が途切れている。そして、大攪乱によって詳細は不明だが、前述の南北溝(SD250・070)の断絶部分や前代の畑状遺構のSX640とSX645の境界付近にSD130・210の東西溝が存在している。前述してきたとおり、個別の遺構間の規則性は見出されるが、全体的に見るとその規則性が重なり合っており、逆に不透明な状況を生み出している。これは、調査ではわからない用途の違いや若干の時期差があると考えられる。検討範囲が狭いため、詳細な検討はここでは行わず、周辺の調査成果が得られてから詳細に検討した方がよいであろう。

第236-2次調査の北端で検出したSX070は、粘質の地盤が掘り取られているため、土取り跡と推測される。その埋土に同安窯系青磁や龍泉窯系青磁などの遺物が僅かながら含まれていたことから、最終埋没は12世紀中～後半頃と考えられる。第236-2次調査地に隣接して10世紀代の般若寺瓦窯があり、その材料となる粘土の入手先と考えられたが、残されている遺物では時期差があり直接結びつけることができない。同様の遺構が隣接する第251次調査で確認され、その埋没後に掘立柱建物が建てられている。SX070に関しては粘土質で埋まっていたことから、人為的に埋めた可能性が高い。

出土遺物や掘り方の規模などから平安時代後期以降と考えられる掘立柱建物は9棟あるが、遺物からは大きな時期差を見出せない。条路や区画溝に切り込んだ建物(SB100・655・275)があり、条坊廃絶後に建物が存在したことは明瞭なのだが、条坊廃絶直前に建物が存在したか否かを明確に証明する所見がなく言及できない。今回の調査地で、底部切り離しが糸切りであった土師器は極めて少なく、6つの遺構、1つの整地で僅かに数点出土しているだけである。それらはSB275周辺の整地(SX350)や近くのSE330、SK390、SD400で出土しており、この調査区北端付近での生活痕跡が窺える。また、南側のSD130・170の溝でも出土し、当時の区画溝として存在していたことが窺える。また、同時期の土器や陶磁器が出土することが極端に少ないことから、12世紀に入って早い段階で生活の場ではなくなったことが窺える。大宰府政庁が廃された後、観世音寺や安楽寺(太宰府天満宮)などの有力寺社の庇護によって町が形成されていくため、遺構の分布も条坊の北東部に移っていく傾向があり、この付近は居住地として利用されなかった可能性が高い。表土観察でも第1遺構面上に包含層があって、その上は耕作土と操車場の整地となっているため、平安時代末期から大正時代に西鉄操車場ができるまでの800年間は田圃であったと推測される。

今回の調査は、攪乱や時間的な制約等により、正確な所見が得られない状況もあった中で、様々な可能性を含め、遺構の変遷を追ってみた。今まで述べてきたように、第236次調査を終えた後の整理作業

期間中も周囲の発掘調査は進み、情報が増加していたものの、その詳細な整理検討が進んでいないため、今回の報告では調査時の所見を若干参考にしたに過ぎない。現在進行中の発掘調査においても興味深い発見が続いており、今回不明瞭だった遺構や調査所見についても明確な回答が得られると思う。今後周囲の発掘調査を整理していく中で、第236次調査も再検討し、総合的な考察を行わなければならないだろう。

参考文献

- 鏡山猛『大宰府都城の研究』風間書房1968年
 小田富士雄「瓦塔の検討」『豊前・トギバ窯跡の調査—古代須恵器・瓦塔に関する研究—』2007年
 井上信正「大宰府の街区割りと街区成立についての予察」『条里制・古代都市研究 通巻17号』2001年
 吉岡伸「長岡京地の土地利用—水垂地区の小溝群について—」『文化財学論集』文化財学論集刊行会1994年
 「史跡出雲国府跡発掘調査通信 意宇の杜—現地説明会資料—」島根県埋蔵文化財センター 2007年
 『大宰府条坊跡21』太宰府市の文化財61集 太宰府市教育委員会 2002年
 『大宰府条坊跡22』太宰府市の文化財69集 太宰府市教育委員会 2004年
 『大宰府条坊跡32』太宰府市の文化財90集 太宰府市教育委員会 2007年
 『太宰府市史 考古資料編』太宰府市 1992年

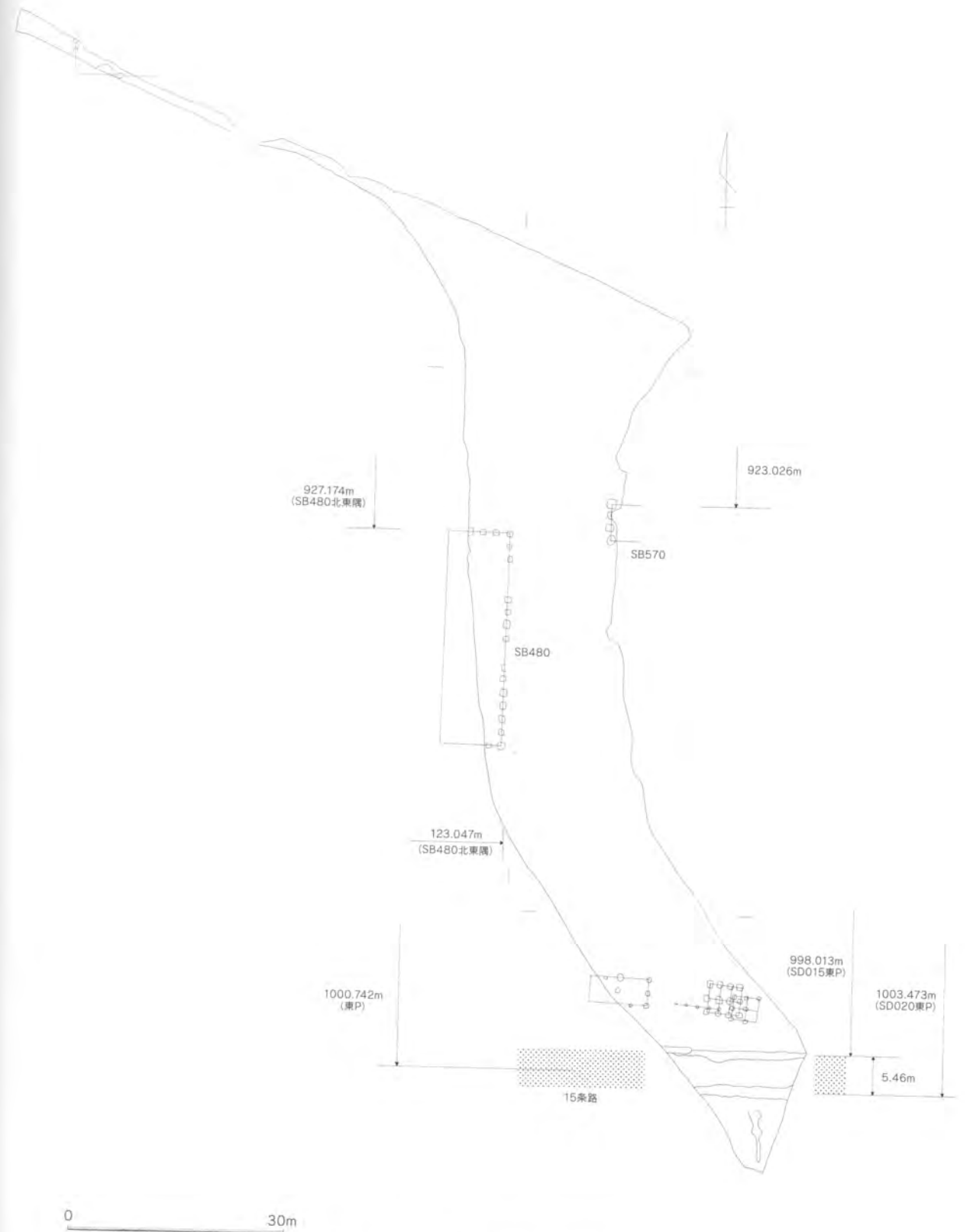


Fig.115 奈良時代の主要遺構

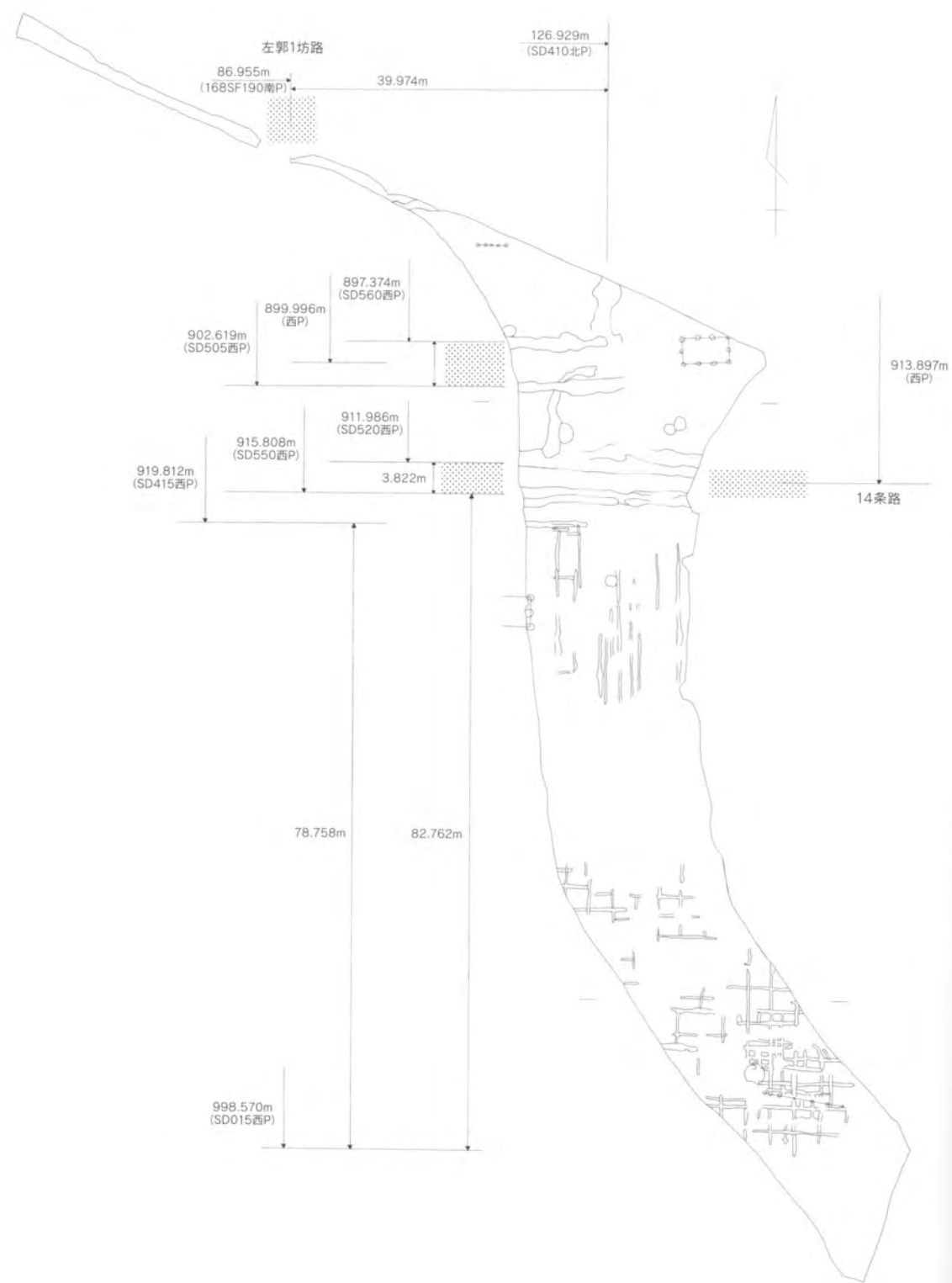


Fig.116 平安時代前期の主要遺構

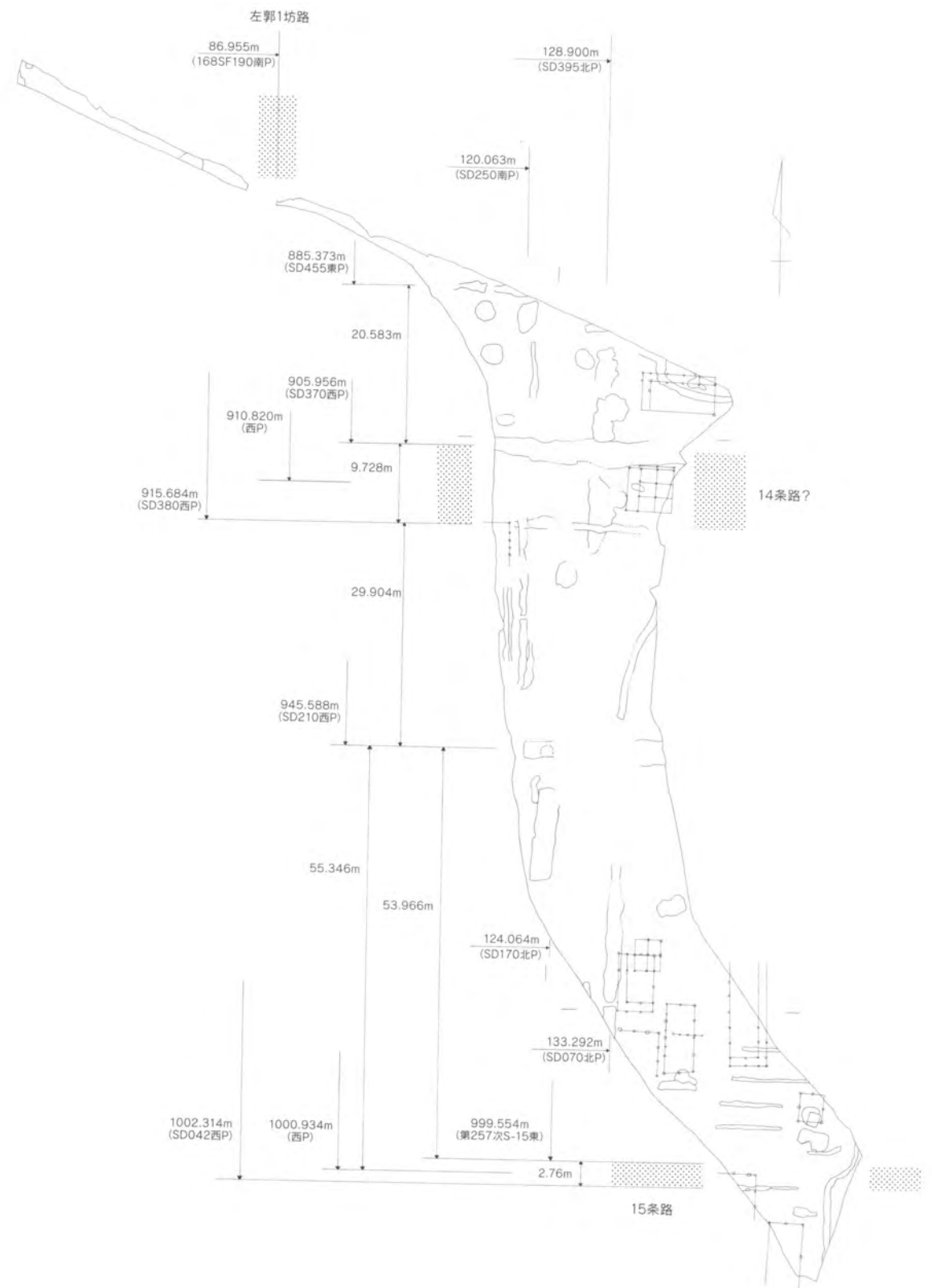


Fig.117 平安時代後期の主要遺構

表12 条坊関連遺構任意中点座標値

遺構番号	位置	遺構中点座標値		南門からの距離		方位
		X	Y	X方向 (m)	Y方向 (m)	
236-1SD015	東P	55709.530	-44664.391	-998.013	166.334	E-1° 42' 17" -N
	西P	55708.636	-44678.401	-998.570	152.329	
236-1SD020	東P	55703.618	-44666.954	-1003.473	163.825	W-1° 49' 37" -N
	西P	55703.964	-44677.801	-1003.235	152.975	
236-1SD015・020間	東P	55706.336	-44665.672	-1000.742	165.080	E-0° 9' 57" -N
	西P	55706.300	-44678.101	-1000.903	152.652	
236-1SD035	東P	55709.367	-44681.448	-997.870	149.274	W-1° 39' 37" -N
	西P	55709.387	-44683.183	-997.867	147.539	
236-1SD041・042	東P	55705.011	-44672.666	-1002.137	158.100	E-0° 48' 45" -N
	西P	55704.907	-44679.998	-1002.314	150.769	
236-1SD065	北P	55716.263	-44669.020	-990.849	161.633	N-7° 7' 30" -E
	南P	55714.367	-44669.257	-992.748	161.415	
236-1SD070・075	北P	55741.050	-44697.114	-966.345	133.292	N-2° 22' 49" -E
	南P	55727.169	-44697.691	-980.231	132.854	
236-1SD080	北P	55738.964	-44701.527	-968.475	128.900	N-5° 49' 5" -W
	南P	55734.430	-44701.065	-973.004	129.408	
236-1SD170	北P	55754.860	-44706.205	-952.626	124.064	N-5° 2' 23" -E
	南P	55745.233	-44707.054	-962.261	123.311	
236-1SD180	北P	55783.231	-44711.490	-924.310	118.495	N-0° 6' 39" -E
	南P	55773.923	-44711.508	-933.617	118.570	
236-1SD220	北P	55776.745	-44698.350	-930.664	131.699	N-7° 4' 43" -E
	南P	55773.105	-44698.802	-934.308	131.284	
236-1SD250・260・335	北P	55792.227	-44710.248	-915.302	119.647	N-0° 36' 23" -W
	南P	55772.012	-44710.034	-935.513	120.063	
236-1SD370・375	東P	55801.111	-44693.592	-906.251	136.213	W-1° 31' 12" -N
	西P	55801.586	-44711.493	-905.956	118.308	
236-1SD380	東P	55791.278	-44697.832	-916.126	132.072	W-3° 3' 10" -N
	西P	55791.823	-44708.051	-915.684	121.848	
236-1SD395	北P	55797.400	-44700.943	-910.036	128.900	N-0° 5' 49" -W
	南P	55788.530	-44700.928	-918.905	129.003	
236-1SD400	北P	55806.601	-44700.199	-900.828	129.552	N-13° 3' 21" -W
	南P	55802.983	-44699.360	-904.437	130.427	
236-1SD415	東P	55787.778	-44705.603	-919.704	124.336	E-0° 58' 31" -N
	西P	55787.710	-44709.597	-919.812	120.343	
236-1SD560	東P	55810.294	-44704.663	-897.180	125.051	E-0° 28' 19" -N
	西P	55810.206	-44715.344	-897.374	114.371	
236-1SD001	北P	55702.773	-44668.496	-1004.333	162.292	N-0° 43' 29" -E
	南P	55697.161	-44668.567	-1009.946	162.277	
236-1SD130	東P	55761.772	-44691.392	-945.567	138.807	W-1° 49' 32" -N
	西P	55761.847	-44693.745	-945.515	136.453	
236-1SD130	東P	55761.772	-44691.392	-945.567	138.807	W-0° 30' 6" -N
	西P	55761.927	-44709.090	-945.588	121.108	
236-1SD210	北P	55782.366	-44705.295	-925.112	124.698	N-5° 19' 7" -E
	南P	55776.297	-44705.860	-931.187	124.194	
236-1SD410	北P	55816.527	-44702.722	-890.928	126.929	N-17° 27' 50" -E
	南P	55812.077	-44703.622	-895.386	126.074	
236-1SD430	東P	55827.867	-44725.422	-879.815	104.117	W-4° 43' 1" -N
	西P	55828.219	-44729.688	-879.506	99.848	
236-1SD455	東P	55822.172	-44711.759	-885.373	117.836	W-9° 23' 40" -N
	西P	55822.513	-44713.820	-885.053	115.772	
236-1SD505	東P	55805.558	-44700.868	-901.877	128.893	E-2° 35' 1" -N
	西P	55804.951	-44714.320	-902.619	115.448	
236-1SD520	東P	55794.191	-44692.177	-913.569	137.697	W-3° 37' 15" -N
	西P	55795.582	-44714.158	-911.986	115.703	
236-1SD540	北P	55803.270	-44709.683	-904.253	120.101	N-1° 41' 18" -W
	南P	55798.249	-44709.535	-909.273	120.300	
236-1SD550	東P	55790.740	-44694.396	-916.630	135.513	W-3° 42' 13" -N
	西P	55791.712	-44709.412	-915.808	120.488	
236-1SD575	東P	55790.611	-44697.700	-916.793	132.210	W-0° 33' 0" -N
	西P	55790.718	-44708.846	-916.796	121.064	
236-1SD370・380間	東P	55796.194	-44695.712	-911.189	134.142	W-2° 4' 39" -N
	西P	55796.704	-44709.772	-910.820	120.078	
236-1SD505・560間	東P	55807.926	-44702.766	-899.529	126.971	E-1° 38' 50" -N
	西P	55807.579	-44714.832	-899.996	114.909	
236-1SD520・550間	東P	55792.406	-44693.287	-914.893	136.605	W-3° 39' 11" -N
	西P	55793.647	-44711.785	-913.897	118.096	
236-1SB480	北東隅	55780.322	-44707.077	-927.174	122.937	N-0° 21' 32" -E
	南東隅	55750.794	-44707.262	-956.703	123.047	
236-1SB570	北端	55784.350	-44693.060	-923.026	136.913	N-1° 11' 45" -E
	南端	55779.540	-44693.160	-927.817	136.861	
257 S-15	東P	55707.704	-44683.592	-999.554	147.147	
236-1SD042西P・257S-15間		55706.306	-44681.795	-1000.934	148.958	

政庁中軸線方位=N-0° 34' 24" -E 南門中点座標=X=56708.68 Y=-44820.73

表13 第236-1次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土・切合いほか	調査面 (遺構面)	時期	地区
1	236-1SD001	溝	茶褐色土 S-15・20→1	1	XII~XIII期頃	2・3ライン
2		土坑	灰色粘質土	1		I3
3		溝	灰色土	1		H2
4		土坑	灰色土と黄色土の混合層	1		F2
5	236-1SX650	溝	灰色土	1	XII~XIII期	Kライン
6		溝		1		FG3
7		ビット群	S-15→7	1		G3
8		土坑	灰色土	1	XII期前後	E4
9		土坑	灰色土	1	古代	I5
10	236-1SX650	溝	灰色土	1	平安時代	L5・6・7
11		土坑群	灰色土と黄色土混じり、浅い	1	古代	E4
12		土坑	黄褐色土、深さ5cm程	1	XII期前後	H4
13		土坑 (窪み)	黄色土	1		E5
14		土坑	灰茶色粘質土	1	平安時代後期	I4
15	236-1SD015	溝	暗灰色土 S-38との境不明瞭	1 (3)	8世紀中頃	Gライン
16		土坑	灰色土の単一層、床面僅かに凸凹 S-25黄褐色土→S-16	1	XII期前後	H3・4
17	236-1SD017	溝	灰色土 S-16→17	1	XII期前後	H3
18		土坑	やや黄色味の灰色土 S-20→18	1	古代	EF2・3
19		ビット群		1	古代	GH2
20	236-1SD020	溝	暗灰色土 S-20→1	1 (3)	8世紀前半	Fライン
21		土坑	暗灰色土	1		I3
22		窪み	S-15→22 深さ5cmほど	1	XII期前後	G4
23		ビット	S-15→22→23	1	XII期前後	G4
24		窪み		1		I3・4
25	236-1SE025	井戸		1	VIII~IX期	H4・5
26	236-1SX640	溝	灰色土 S-26→14	1		I4・5
27	236-1SX640	溝	灰色土	1		IJ5
28		ビット群		1		GH5
29		ビット群		1		JK4
30	236-1SB030	独立柱建物	2×2間	1	10~11世紀	IJ4
31		ビット群		1	VII~VIII期?	J5
32		溝	灰色土と黄灰色土の混じり、底面近くは暗灰色粘質土混じり	1	8世紀後半	C~E4
33		ビット群	灰色土 底面はS-32のような埋土	1	平安時代	D3・4
34	236-1SX650	溝	明灰色土	1	X~XII期	Iライン
35	236-1SD035	溝	明灰色土 東側は深いが埋土は同じ	1		G7・8
36	236-1SX640	溝	明灰色土 S-58と同じ S-25→36	1	VI期頃	H5~8
37		溝	明灰色土	1		H5
38		窪み	暗灰色土 S-15との境不明瞭	1	平安時代後期	G3・4
39		土坑	暗灰色土	1	奈良時代?	H4
40	236-1SB040	独立柱建物	明灰色粘質土	3	7世紀末	IJ5
41	236-1SD041	溝	東西溝 明灰色土 平安期の条路?	1		F5
42	236-1SD042	溝	東西溝 明灰色土 S-20→42 平安期の条路?	1		F6
43		溝	SX640か? S-15→43	1		G7
44	236-1SX640	溝		1		H17
45	236-1SB045	独立柱建物		1	平安時代中期~	L~06・7
46		ビット群		1		J4
47		ビット群		1		H5
48		ビット群		1		H15
49		ビット群		1		L6
50	236-1SX060	土坑	調査中に崩壊	1	平安時代後期	I4
51		溝		1	平安時代	L6
52		ビット群		1	平安時代	N7
53		土坑		1	平安時代	N8
54		擾乱		1		K7
55		溝×土坑	茶褐色土	1	XII期~	J9・10
56		溝	S-15と似た埋土	1		G6・7
57		ビット群	暗灰色土	1		G7
58	236-1SX640	溝	灰色土 S-60の下層もある S-15→58	1	9世紀前半	G~J6
59	236-1SB655	ビット		1		F6
60	236-1SX640	溝	明灰色土	1	VI期	I6~K6
61		ビット群		1		E・F6
62		土坑群	暗灰色粘質土 周囲も粘質土	1		B3
63	236-1SB660	ビット群	暗灰色土 (黄色土混じり) 一部がSB660	1	平安時代?	C5
64		ビット群		1	平安時代	M12
65	236-1SD065	溝	暗灰色土の単一層 S-65→30	1		I3
66		ビット群	茶色土	1	平安時代	M12
67		ビット群	一部SB100f	1	XII期~	N12
68		ビット群		1		M13
69		ビット群	茶色土	1		L12
70	236-1SD070	溝	S-75と同一遺構。S-155・190とも同一か	1	XII期	I3ライン
71		凹み		1		K12
72		凹み	灰色土	1		J11
73		土坑		1		I10
74		ビット群		1	11世紀後半~	I10
75	236-1SD075	溝	S-70と同一遺構	1	XII期	I3ライン
76		ビット群	灰色土	1		J10
77		擾乱		1		O13

78		ピット群	灰色土	1		N013・14
79		ピット群	灰色土	1		O12
80	236-1SD080	溝	暗灰色土	1	VIII期頃	Q14・15
81		ピット群	S-15の底面	1		G6
82		ピット群		1		L11
83		土坑	青色土	1		N12
84		土坑群	一部SX640か?	1		P10
85	236-1SX640	溝	S-60と同一遺構?	1	VII期	MN7・8・9
86	236-1SX640	溝	灰色土	1	平安時代前期	P10
87		ピット群		1		P10
88		ピット群		1		P9・10
89		ピット群	黒灰色土(黄色土ブロック混じり)	1		QR9
90		溝	明灰色土 S-640→90	1		L7・8
91		ピット群		1		T10
92		土坑群(攪乱)	青灰色土と黄灰色土	1		P13
93	236-1SX640	溝		1		O13
94		土坑	底面から掘立柱穴、埋土中に切り込んでいたかも。	1		O12
95	236-1SK095	土坑	炭と黄色土混じり、一見攪乱のような埋土	1	XII~XIII期	R10
96	236-1SB100	ピット群	黒灰色土	1	XII期~	O12
97		ピット群	黒灰色土 3個の内西のものに遺物が多い。	1	XII期~	T10
98		ピット群	黒灰色土	1	平安時代後期	U10
99		ピット群		1		T10
100	236-1SB100	掘立柱建物	S-70→100	1	XII~XIII期	NOP11・12
101		ピット群	黒灰色土	1	平安時代後期	S10
102		ピット群	黒灰色土	1		Q10
103		ピット群	黄灰色土ブロック混じり	1		P10
104		ピット群	黒灰色土	1	平安時代	U11
105	236-1SA105	櫓列		1	平安時代後期	JKL11
106		ピット群		1	平安時代後期	K10
107		ピット群		1		K11
108		土坑		1		J10
109		ピット群	S-108の底面	1		J10
110	236-1SK110	土坑		1	XII期前後	O10
111		ピット群		1		H6
112		ピット群		1		H6
113		溝群		1		L11
114		ピット群		1		J9
115		溝	灰色土	1	9世紀代	L11・12
116		ピット群		1		R17
117		土坑	S-293→117	1		R16
118		溝?		1		T17
119		凹み		1		P8
120		溝×たまり		1	平安時代	K10・11
121		土坑群		1		O11
122		土坑	黒灰色土 S-70→122	1	XII期~	R13
123		土坑		1		N11
124		土坑	青灰色土	1		N12
125	236-1SD125	溝	細かい淡灰色土	1	XII~XIII期	N14
126		土坑		1	奈良時代	N7
127		溝		1		N7
128		土坑		1	平安時代後期	O8
129		凹み		1		O7・8
130	236-1SD130	溝		1	XII~XIII期	Y11
131		溝		1		P11
132		溝	SX640か?	1		Q11
133		ピット群	一部がSB145	1	XII期~	N9・10
134		土坑		1		M11
135		土坑	炭混じり S-34との切り合い不明瞭	1	XII期~	H17
136		凹み		1		M6
137		溝群		1		N9
138	SK095ピット	ピット群	S-95の底面で検出	1		R10
139		ピット群		1		P11
140	236-1SX650	溝	灰茶色土	1	XII期~	Jライン
141		ピット群	現代の杭	1	現代	S14
142		ピット群		1		SR14
143		ピット群		1		QR11
144		ピット群		1		Q14
145	236-1SB145	掘立柱建物		1	XII期	K~W・9・10
146		ピット群		1	平安時代後期	R11・12
147		ピット群		1		T12
148	236-1SX640	溝	遺物にS-70の遺物あり	1		R11・12
149		土坑	明青色土	1		R11
150	236-1SA150	櫓列		1	XII期前後	L9・10
151	236-1SX640	溝		1		S11
152		ピット群	黒灰色土(黄色土ブロック混じり)	1		S11
153	236-1SX640	溝	淡灰色土 S-153→125	1		N13
154		ピット群		1		V10
155	236-1SD155	溝	S-190と同一遺構。遺物量少ない	1	XII~XIII期	ABAC12
156		ピット群	S-130→156	1	XII期~	X11
157		ピット群		1	XII期	AA11・12

158		ピット群		1		AA12
159		ピット群	灰色粘質土	1		AE12
160	236-1SK160	土坑	S-160→155	1	IX~X期頃	AB12
161	236-1SX640	溝	S-161→30	1		J4
162		ピット群		1	平安時代後期	QR11
163	236-1SX640	溝	灰色土	1		Q14
164		くぼみ		1		Q14
165	236-1SB165	掘立柱建物		1	XII期前後	P11
166		土坑	茶色土と茶灰色土	1	平安時代後期	AA・AB11
167		土坑	茶色土	1		AB11
168	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	平安時代	AC~AG11
169		溝	明茶色土	1		AA12
170	236-1SD170	溝		1	XII~XIII期	TUVW16
171		ピット群		1		AD11
172		窪み	S-120と同一遺構	1	XI期頃	K9・10
173		溝	明灰色土	1		N10・11
174		溝	明灰色土	1		M10
175		土坑	灰褐色土	1	平安時代	AC17
176	236-1SX640	溝	淡明灰色土 最下層は灰色粘質土	1		M10・11
177	236-1SX640	溝群		1		L9・10
178		土坑		1		M9
179	236-1SX640	溝		1		K10
180	236-1SD180	溝	黒灰色土	1	XII期前後	AD・AE17
181		たまり		1	XII期	K10
182		溝		1		H7
183	236-1SX640	溝		1		J6
184	236-1SX640	溝	S-161と同一溝	1		J6
185	236-1SD185	溝	茶灰色土	1	11世紀後半頃	AD・AE18
186	236-1SX640	溝	S-184との切り合い不明瞭	1		J5
187	236-1SX640	溝	S-188との切り合い不明瞭 茶褐色土	1		K5
188	236-1SX640	溝	茶褐色土	1		K5
189		溝	明灰色土	1		K5
190	236-1SD190	溝	遺物量少ない	1	XII~XIII期	AE11・12
191		溝	明灰色土	1		L5・6
192		ピット		1		K5
193		ピット		1		K5
194		ピット		1		J6
195		溝		1		S16
196		土坑?	淡青色土	1		M8
197		溝	S-70の混入あり?	1	平安時代	Q12
198		土坑	炭まじり黒灰色土	1	平安時代前期	R14
199	236-1SX640	溝		1	平安時代前期	R14
200		溝	茶灰色土	1		TU14
201	236-1SX640	溝		1		R13
202		ピット群		1	平安時代後期	S15
203		ピット		1		T12
204	236-1SX640	溝	明灰色土	1	9世紀前半	L8
205	236-1SE205	井戸	明灰色土 一面で井戸枠部分陥没確認	3	VIB~VII期	K8
206	236-1SX640	溝	明灰色土	1		K8
207	236-1SX640	溝	明灰色土	1	平安時代	K8
208	236-1SX640	溝		1		LM11
209		ピット	川原石含む	1		P9
210	236-1SD210	溝	茶灰色土 S-130と同一遺構? 遺物少ない	1	平安時代後期	Y16
211		ピット	黒灰色土(炭混じり)	1	平安時代後期	R9
212		土坑		1	11世紀後半	K10
213		包含層		1	平安時代後期	AA14
214		ピット群		1		M11・12
215	236-1SE215	井戸	灰茶色土 S-246・367→215	1	VIII~IX期	AC14
216		ピット群		1		L10
217	236-1SX640	溝	茶褐色土	1		I9
218	236-1SX640	溝		1		I9
219		溝		1		J9
220	236-1SD220	溝	茶灰色土(埋土はほぼ単層)	1	VII<VIII期	AC・AD13
221		ピット	S-218の下	1		I9
222		ピット群		1		K10
223		ピット群		1		P11・12
224		ピット群		1		L9
225		溝	暗灰色土	1	XII期前後	AF18
226		ピット群		1		K11
227		ピット群	茶灰色土 S-180→227	1	平安時代後期	AE17
228		ピット群	茶灰色土 S-250→228	1		AD17
229		攪乱	黄色土	1	近現代	AD18
230	236-1SE230	井戸	暗灰色土	1	VIII期前後	AC15
231		ピット群	灰色土	1		AD18
232		ピット群	灰色粘質土	1		AD17
233		ピット群	灰色粘質土	1		ADAE17
234		ピット群	灰色粘質土	1		AE18
235	236-1SK235	土坑	黒灰色土	1	11世紀	BF39
236		ピット群	灰色土	1		AE17
237		ピット群	茶灰色土	1		AA15

238		溝	淡灰色土	1		AB17
239		たまり	茶褐色土	1	平安時代後期	T15
240	236-1SK240	土坑	第168次調査SK440と同一遺構	1	XI~XIII期	AX27
241		ピット群	灰色粘質土	1		AA14
242		ピット群	黒灰色土	1		AB16
243		溝	灰色砂	1		AB16
244		攪乱	青灰色粘質土 S-210→244	1	XII期	Y16
245		たまり	灰色砂→灰色粘質土	1	XII~XIII期	AA・AB16
246	236-1SX645	溝	茶色土	1	VIII期前後	AA14
247		溝	茶色土	1		AA14
248		溝	茶灰色土	1	平安時代後期	AA15
249		溝	茶灰色土	1		AA15
250	236-1SD250	溝	灰茶色土 S-260と同一遺構	1	11世紀	I7ライン
251	236-1SX640	溝	黒灰色土	1		JK7
252		溝	黒灰色土	1		J7
253		溝	茶褐色土	1	平安時代前期	I9・10
254		溝	茶灰色土	1		R16
255		溝	茶褐色土	1	平安時代後期	AC16
256		土坑	茶灰色土	1		R16
257		土坑	黒灰色土	1		R16
258		溝	茶灰色土	1		S16
259		土坑		1		I8
260	236-1SD260	溝	S-250と同一遺構	1	X~XI期	AF~AG17
261	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	平安時代	ABAC13
262	236-1SX645	溝	茶灰色土	1		ABAC13
263		ピット	黒灰色土	1		AB13
264		ピット	黒灰色土	1		AB13
265		土坑	黒灰色土	1	11世紀前半~中頃	BD39
266		ピット	黒灰色土	1		AB14
267		土坑	黒灰色土	1	平安時代後期	AB14
268		ピット	黒灰色土 S-269→268	1	平安時代中頃~後期	AB14
269	236-1SX645	溝	茶灰色土	1		AA・AB14
270	236-1SD270	溝	淡灰色土	1	X期前後?	AD~AH15
271		溝		1		R15
272	236-1SX640	溝		1		QR15
273		ピット群		1	XII期	R15
274		土坑?	S-272→274	1	11世紀	R15
275	236-1SB275	掘立柱建物		1	XII期前後	AL10・11・12
276		溝	灰色土	1		S15
277		溝	茶灰色土	1	平安時代後期	W17
278		ピット群	黒灰色土	1		W17
279		ピット	黒灰色土	1	平安時代後期	V17
280	236-1SA280	欄列a~c	灰色粘質土	1	平安時代後期	AL10・11・12
281	236-1SX640	溝		1		I8
282		溝		1		I8
283		ピット群	黒灰色土	1	平安時代	P13
284		ピット群	黒灰色土	1		P14
285	236-1SB285	掘立柱建物	炭混じり、柱痕は灰色粘質土混じり	1	XII~XIII期	AOA9~11
286		ピット		1		T15
287		ピット群		1		ST15
288		溝	灰茶色土	1		T14
289		ピット		1		T14
290	236-1SK290	土坑		1	XII期前後	AS17
291		土坑	茶灰色土	1		T14・15
292		ピット		1		U15
293	236-1SX640	溝	灰色土	1		R15・16
294		ピット群		1		H19
295		欠番		1		
296		ピット群		1		H18
297		たまり	茶灰色土	1		Q15
298		ピット群		1		AA17
299		溝		1		Y17
300	236-1SE300	井戸		1	X期頃	AS15・16
301		たまり		1	平安時代後期	AA17
302		溝		1	平安時代後期	AA17
303		ピット		1		AA16
304		ピット	黒灰色土	1	平安時代	AB15
305		溝	茶灰色土	1	11世紀	AB16
306		土坑		1	11世紀~	AB17
307		溝	暗灰色土	1		AB15
308		溝	茶灰色土	1		AB15
309		ピット		1		V14
310	236-1SK310	土坑		1	XII~XIII期	AYBA32
311		土坑		1		UV15
312		欠番		1		
313		ピット		1		V16
314		ピット		1		V15
315	236-1SK315	土坑	暗灰色土	1	8世紀後半~末	BB35
316		ピット	暗灰色土	1		K7
317		ピット群	灰色土	1		H7

318		溝	黒灰色土	1	平安時代後期	W16
319		溝		1	平安時代後期	V16
320		たまり		1	XII~XIII期	AN13・14
321		溝	茶灰色土	1		VW16
322		ピット		1		R14
323		ピット		1		R16
324		窪み		1		T13
325	236-1SA325	欄列	2間のみ	1	平安時代	AP16
326		ピット		1		AC13
327		土坑	黒灰色土	1		AC14
328		ピット		1		AC14
329		溝	茶灰色土 S-329→180	1	11世紀	AD17
330	236-1SE330	井戸	暗灰色粘質土	1	XII~XIII期	AQ18・19
331		ピット群		1		AF11
332		ピット		1		AE11
333		溝		1		AB16
334		ピット群		1		AC16
335	236-1SD335	溝	暗茶色土(黄色土混じり)	1	平安時代	AI・AJ17
336		ピット群	灰茶色土 S-250の底面	1		AC16・17
337		ピット群	S-250→337	1		AD17
338		ピット群		1		AD16
339		ピット群	明灰色土	1		AG13
340	236-1SB340	掘立柱建物	第267次調査で西側確認	1	平安時代前期	AI・AJ17
341		ピット群		1	平安時代前期	AD13
342	236-1SX645	溝	明灰色土 浅い S-346の延長上	1		AG12
343		ピット		1		AD17
344		土坑	茶灰色土+灰色粘質土	1	平安時代	ACAD16
345	236-1SX345	整地 包含層?		1	基盤 下層VII/上層XII	
346	236-1SX645	溝	S-342と同一遺構	1	平安時代前期	AE12
347		土坑		1	平安時代前期	AF11
348		溝	褐灰色土	1		AC12
349		ピット群		1	平安時代前期	AX28
350	236-1SX350	整地	茶灰色土(濃い錆色土混じり)	1	基盤 XII~XIII期	AO・AQ8~14
351		ピット群		1		AX26・27
352		ピット群		1		AW25
353		ピット群		1	平安時代	AW25・26
354		ピット		1		AH11
355	236-1SD355	溝	S-350の下層の溝 灰茶色土、最下層は灰色土	2	XII~XIII期	AO8・9
356		溝	茶灰色土	1	平安時代後期	AH11
357		たまり		1		AHA11
358	236-1SX645	溝	茶褐色土	1		AE13
359		ピット群	灰色土	1		AD14
360	236-1SD360	溝	S-350の下層の溝 暗灰色土	2	11世紀~	AO・AP10~12
361		溝	茶灰色土	1	平安時代	AD14
362	236-1SX645	溝	茶灰色土	1		AE14
363		ピット群	灰色土 S-180→363	1		AC17
364		ピット	灰色土	1		AF17
365	236-1SD365	溝	灰茶色土	2	平安時代	AP10
366		ピット群	灰色土	1		AG17
367	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	平安時代	AC~AE14
368		ピット群		1	平安時代	AE14
369	236-1SX645	溝	灰色土	1		AE14
370	236-1SD370	溝	S-375と同一遺構	2	XII期	AMライン
371		ピット群		1	XI~XII期	AE13
372		たまり	茶灰色土	1		AH12・13
373		たまり	灰色粘質土	1		AH13
374		ピット群	茶灰色土	1		AH13
375	236-1SD375	溝	S-370と同一遺構	2	XII期	AMライン
376		たまり	灰色土	1		AF14
377		溝	灰色土	1		AF13
378	236-1SX645	溝	茶灰色土 小皿は混入か?	1	平安時代後期?	AEAF14
379	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	VIII期	AC14
380	236-1SD380	溝	灰色粘質土	2	XII期	AJ13
381	236-1SX645	溝	茶灰色土	1		AC14
382	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	VIII期?	AC15
383		ピット群		1		AC15
384	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	平安時代前期	AF16
385	236-1SE385	井戸		2	XII期頃	AQ14・15
386		溝	灰色土 畑状遺構	1		AF16
387	236-1SX645	溝	茶灰色土	1	平安時代	AGAH16
388		ピット群		1	平安時代後期	AFAG16
389		ピット	茶色土	1		AE14
390	236-1SK390	たまり	茶灰色粘質土	2	XII~XIII期	ANA013
391		ピット群		1		AH14
392		ピット	灰色土(礎石入り)	1		AC16
393		ピット群		1		BD39
394		ピット群		1		BD39
395	236-1SD395	南北溝	S-395→380	2	XII期頃	AI~AK14
396		土坑	暗灰色土	1		BD39
397		ピット群	暗灰色土	1		BD38

398		ビッド群	暗灰色土	1		BC38
399		ビッド (柱穴)		1		AE16
400	236-1SD400	南北溝	灰色粘質土→茶灰色土 S-395に対応か	2	XII~XIII期	AN13
401		ビッド群	灰色土	1		AG15
402		たまり	茶灰色土	1		AF15
403		溝	灰色土	1		AGAH14
404		ビッド		1		AE16
405	236-1SK405	土坑	S-390の底面	2	XII~XIII期	A013
406		ビッド	灰色土	1		AF17
407		ビッド群	灰褐色土	1		AF17
408		ビッド	灰色粘質土	1		AF17
409		窪み	灰色土 S-411と平行する溝	1		AG15
410	236-1SD410	南北溝	黒灰色土 2面目で確認	3 (2)	VII~VIII期	AP~AR14・15
411		溝	灰色土	1		AG15
412		ビッド群	暗灰色土	1	XII~XIII期	AG17
413		ビッド群		1		AG16
414		窪み	茶灰色土	1	平安時代前期~中期	AG・AH17
415	236-1SD415	溝	灰色土 浅い 畑状遺構の北端?	2	平安時代	AH16・17・18
416		ビッド群		1		AF17
417		土坑	褐色土	1	平安時代後期	AH15
418		たまり×整地層	茶灰色土	1	平安時代後期	AG・AH15
419		たまり×整地層	茶灰色土	1		AF15
420	236-1SB420	掘立柱建物	黄色土ブロック茶色土 第168次S-250と同一遺構	3	8世紀第三四半期	BB・BC35・36
421		ビッド群		1	平安時代	AF15
422		ビッド	S-419の下	1		AF15
423		ビッド群	暗灰色土	1	平安時代	AK11
424		ビッド群	暗灰色土 一部S-275j	1		AK12
425		土坑	暗灰色土 S-425→345 遺物はVII期前後	3	XII期	AUAV22・23
426		ビッド群	暗灰色土	1	古代	BC36
427		ビッド群	暗灰色土	1	8世紀後半	BC37
428		ビッド	暗灰色土	1	11世紀~	BC37
429		ビッド群	暗灰色土	1	平安時代中期?	BC37・38
430	236-1SD430	溝	黄灰色土→灰色粘質土 S-430→425→345	3	XII期	AV22
431		ビッド群	暗灰色土	1		BC37
432		ビッド	暗灰色土	1		AK11
433		ビッド群	暗灰色土	1		AI11
434		ビッド群		1	XII期	AJ11
435		たまり	暗灰色粘質土	3	古代	Sライン
436		溝	茶灰色土単一層 黄灰色土の真砂土のような埋土も混じる	1		AI13
437		溝状	暗茶色土	1	11世紀~	AK11
438		溝	灰色土	1		AB14
439		ビッド群	暗茶色土	1		AB14
440		たまり		3	奈良時代	BC37
441		ビッド	暗茶色土	1		AD15
442		整地層	茶色粘質土	1	XII期	AK11・12
443		たまり	暗灰色土	1		AJ11
444		土坑	茶色土	1		AE16
445		たまり		3	奈良時代?	BB35
446		ビッド	茶色土	1		AD15
447	236-1SX645	溝	茶灰色土	1		AEAF16
448		溝	灰色土	1		AE16
449		ビッド群	灰色土	1		AK12
450		溝	暗灰色粘質土 S-430の下	3	平安時代	AV22
451		たまり	茶色土 S-451→270	1		AD15
452		ビッド群	茶灰色土	1	平安時代	AF16
453	236-1SX645	溝	茶色土	1		AF~AH16
454		ビッド群		1		AJ13・14
455	236-1SD455	溝	黒灰色土	3 (2)	XI~XII期	AT18
456		ビッド群		1		AI14・15
457		ビッド群	根石?あり	1		AG16
458		ビッド群		1		AG16
459		ビッド		1		AF16
460	236-1SK460	土坑		3 (2)	XII期	AS19
461		溝	茶色土	1		AE16
462		ビッド	灰色粘質土	1	平安時代後期	AL11
463		ビッド群	暗茶色土	1		AL11
464		ビッド群	暗茶色土	1		AM11
465	236-1SA465	ビッド列		3	VI~VII期	AT19・20
466		ビッド	暗茶色土	1	平安時代後期	AJ12
467		ビッド	茶灰色土	1		AH16
468		たまり	茶色土	1		AI14
469		ビッド群	茶灰色粘質土	1	平安時代後期	AN12
470		たまり	茶色土 S-470→460	3	VI期	ASAT19
471		ビッド群		1		ALAM13
472		溝状	茶灰色土	1	11世紀~	AM13
473		溝状	茶灰色土	1		AL・AM13
474		ビッド群		1		AL12
475		ビッド群		3	VIB~VII期	AU19・20
476		ビッド群		1	平安時代後期	AQ11
477		土坑		1		AP11

478		ビッド群		1		AP11
479		ビッド群		1		AOAP9・10
480	236-1SB480	掘立柱建物		3	8世紀第三四半期	16ライン
481		ビッド群		1	平安時代後期	A08
482		ビッド群		1	XII~XIII期	AQ13・14
483		たまり	黄褐色土	1		AR13
484		たまり	黄褐色土	1	11世紀後半~	AR・AQ14
485	236-1SB485	掘立柱建物	S-40→485	3	8世紀前半	IJ4・5
486		ビッド群	柱痕あり	1	平安時代後期	AP9
487		ビッド群		1	平安時代後期	AK14
488		たまり	灰色粘質土	1	平安時代後期	AK14
489		ビッド	炭と褐色土ブロック混じり	1	11世紀後半~	A08
490	236-1SA490	櫓列		3	奈良時代?	I6・7
491		溝	茶灰色土	1		AH16
492		溝	茶灰色土	1		AH16
493		土坑	黄褐色土混じり	1	平安時代後期~	AR16
494		ビッド	黄褐色土混じり	1	平安時代後期~	AR15
495		掘立柱建物	SB500の一部	3	奈良時代?	IJ9・10
496		ビッド群	暗灰色土	1		AS16
497		ビッド群	暗灰色土	1		AS17
498		ビッド群	暗灰色土	1	奈良時代	AS18
499		ビッド群	灰色粘質土 (炭化物が若干混入)	1		AM14
500	236-1SB500	掘立柱建物		3	奈良時代?	IJ9~11
501		ビッド	暗茶色土	1	11世紀~	AM14
502		ビッド群		1	平安時代後期	AN12・11
503		ビッド群	灰色粘質土 (炭化物が若干混入)	1	平安時代後期	AN11
504		ビッド		1	XII~XIII期	AN12
505	236-1SD505	溝		3	X期頃	AN14~18
506		ビッド群		1	平安時代後期	AOAP10
507		ビッド群		1	XII~XIII期	AP12
508		ビッド群		1	平安時代	AP13
509		ビッド群	暗灰色土	1		BA33・34
510	236-1SE510	井戸		3	VIII~IX期	AN11・12
511		ビッド群	暗灰色土	1	平安時代前期	AY30・31
512		ビッド群	暗灰色土	1		AX30
513		土坑	暗灰色土	1		AY30
514		ビッド群	暗灰色土	1		BB35
515	236-1SD515	溝 (整地)	厚さ20cm	3	VIB~VII期	AKライン
516		ビッド群	暗灰色土	1		BB34
517		ビッド群	暗灰色土	1		BB35
518		柱穴	第168次調査S-95	1	平安時代前期	BB35
519		ビッド	S-518の下	1		BB35
520	236-1SD520	溝	厚さ30cm	3	9世紀代?	AKライン
521		ビッド	S-518の下	1		BB35
522		土坑	暗灰色土	1	平安時代中期	AY30
523		土坑	暗灰色土	1		AX29
524		ビッド群		1		AS18
525	236-1SX525	整地	厚さ10cm	3	平安時代前期	AJ14~18
526		溝		1		AN11
527		ビッド群		1	11世紀~	AN11
528		たまり		1	XII~XIII期	AN12
529		溝		1	平安時代	AN12
530	236-1SX530	整地×窪み	黒灰色土	3	VIB~VII期	AL16・17
531		ビッド群		1		AN12
532		たまり	暗灰色土	1		AR14
533		ビッド	暗灰色土	1	VII~VIII期	BB36
534		ビッド	S-533の下	1		BB36
535	236-1SK535	土坑	黒灰色土	3	平安時代中期?	AL18
536		ビッド		1		BB36
537		土坑	灰色土 S-537→538	1		AK17
538		土坑	黄灰色土	1		AK17
539		ビッド群	灰色土	1	11世紀	AL17
540	236-1SD540	溝	黒茶色土 S-1038と同一遺構か S-540→545→530	3	VII期前後	AL・M17
541		溝	灰色粘質土	1	平安時代	AM17
542		ビッド群	灰色土	1	9世紀代	AM17
543		ビッド		1	11世紀~	AM18
544		土坑	黒色土	1	XII~XIII期	AM17
545	236-1SK545	土坑	灰色粘質土 S-545→530	3	VIB~VII期	AL17
546		ビッド群		1		AL16
547		溝	黄灰色土	1		AL16
548		ビッド群		1	11世紀~	AL15
549		ビッド群		1		AR16
550	236-1SD550	溝	茶褐色土	3	VIB~VII期	AJライン
551		ビッド		1		AR16
552		ビッド		1	VII期前後	AR16
553		土坑		1	VI~VII期	BB36
554		ビッド群		1	XII~XIII期	AU19
555		溝	S-615のこと	3		AJ12~
556		ビッド群	灰色土	1	平安時代後期?	AN18
557		ビッド群	灰色粘質土 (柱痕あり)	1		AN18

558		溝	黄茶色土	1	平安時代前期	AN18
559		ビット群	茶色土	1	XII~XIII期	AM16
560	236-1SD560	溝		2	XI期	APライン
561		ビット		1	11世紀中頃?	AS17
562		ビット群		1		AS20
563		ビット群		1	XII~XIII期	AT20
564		ビット群		1		AT20
565		土坑				AP12
566		ビット群		1		AT・AU21
567		ビット		1	平安時代後期	AL18
568		ビット		1		AK17
569		溝	茶灰色土 S-569→571	1		AK18
570	236-1SB570	掘立柱建物		3	8世紀第3四半期	AF~AH11
571		ビット群	茶色土(黄色土混じり)	1		AK18
572		ビット		1	X期	AV23
573		ビット群		1	平安時代	AU22
574		土坑		1	X期	AU22
575	236-1SD575	溝	茶褐色土 S-550→575	3	VI~VII期	AIライン
576		ビット群		1		AU21
577		ビット		1	IX期	AU21
578		溝		1		AQ16
579		ビット群		1	平安時代後期	AQ16
580	236-1SD580	溝	茶褐色土 S-550→580	3		AJライン
581		土坑		1	平安時代後期	AQ16
582		ビット群		1	XII期	AL14
583		溝	茶灰色土(炭化物混じり)	1		A013
584		ビット群		1	平安時代後期	AN13
585	236-1SE585	井戸	1面目で確認、3面目で調査	3(1)	VII期	AF14
586		ビット群	茶灰色土	1	平安時代	AN14
587		ビット群	茶灰色土	1	平安時代中期~後期	AN14
588		ビット群	茶灰色土	1		A014
589		ビット群		1	平安時代後期~	AK15
590	236-1SK590	土坑	S-417・418の掘り残しか?	3(1)	XII~XIII期	AG・AH15
591		ビット群	茶灰色土	1	平安時代	AQ17
592		ビット群		1		AQ17
593		土坑	茶灰色土	1		AQ17
594		溝	茶色土	1	XII~XIII期	APAQ17
595	236-1SB595	掘立柱建物	S-996・997・1066。整理中に判明。	3	平安時代前期	AP10・11
596		ビット		1		AM13
597		溝		1	平安時代前期	AR16
598		溝	茶褐色土(黄色土・炭混じり)	1	XI~XII期	AT19・20
599		ビット群	暗灰色土(小さな黄色土混じり)	1	11世紀前半~中頃	AT19
600	236-1SE600	井戸		3	VII期前後	APAQ19
601		ビット群		1	11世紀?	AU21
602		ビット		1	平安時代前期	AT19
603		土坑	S-460の落ち込み埋土	1	XII期	AS19
604		ビット群		1	11世紀~	AN15
605		たまり	灰色砂質土	3	弥生~奈良時代	I~P6~12
606		たまり	茶灰色土	1	XII期	A014
607		ビット	暗灰色土	1	11世紀~	A014
608		ビット群	黒灰色土	1	平安時代後期~	AJ16
609		土坑	灰色土	1		AQ16
610	236-1SE610	井戸	暗灰色土 S-480→610→210	3(1)	平安時代中~後期	Y16
611		溝	茶灰色土	1		AQ16
612		土坑	黒灰色土	1		AQ16
613		溝	暗灰色土	1		AQ17
614		土坑	灰色土	1	平安時代後期	AR17
615	236-1SF615	溝 道路遺構	灰白色砂・茶色砂 S-520と550との間	3	VI~VII期	AJライン
616		ビット		1	平安時代前期	AR19
617		ビット		1	平安時代前期?	AS19
618		ビット群		1		AR19
619		ビット群	灰色粘質土	1	平安時代	ARAS20
620		土坑	茶灰色砂質土 S-620→525→615	3	VIB~VII期	AK18
621		ビット群	暗灰色土	1		AR20・21
622		ビット群	暗灰色土	1		AS20
623		ビット群	暗灰色土	1	平安時代前期	AS19
624		ビット群	暗灰色土	1	平安時代前期	AS20
625	236-1SE625	井戸	S-625→510	3	VIB~VII期	AL12
626		溝	S-594の下	1	平安時代	AP16
627		ビット群	暗灰色土	1		A015
628		たまり	茶灰色土	1	11世紀後半	AN16
629		ビット	S-629→634	1	11世紀	AJ18
630	236-1SB630	掘立柱建物	整理時に変更。旧S-480V・W・X	3	9世紀代	AD・AE18
631		ビット群	茶灰色土	1		AI・AJ18
632		ビット	灰色粘質土 S-632→633	1		AJ18
633		ビット	灰色粘質土	1		AJ18
634		ビット	黒灰色土	1		AJ18
635	236-1SA635	柵列	整理時に確認。S-490→635	3	平安時代前期	I4~8
636		ビット群	茶灰色土	1		AJ18
637		ビット群	茶灰色土	1	平安時代後期~	AK17

638		たまり	黒灰色土	1	平安時代後期~	AK17
639		たまり	灰色粘質土	1	平安時代後期~	AK17
640	236-1X640	畑状遺構	格子状の溝の統一番号	1	VIII期前後	
641		たまり	黒灰色土	1		AJ18
642		溝	黄灰色土	1		AJ18
643		ビット群	暗灰色土	1	平安時代後期~	AP15・16
644		ビット群	暗灰色土	1		AP17
645	236-1SX645	畑状遺構	南北溝の統一番号	1	VIII期前後	
646		ビット	黒灰色土	1		AP16
647		ビット群		1	9世紀代	AS18・AR19
648		ビット群	攪乱の下から検出	1		AR18
649		ビット	暗灰色土	1		AP16
650	236-1SX650	畑状遺構	S-5・10・34・140	1	VIII期前後	
651		溝	黄灰色土	1		AJ18
652		溝	暗灰色土	1		AJ18
653		溝	灰色粘質土	1		AJ18
654		溝	灰色土	1		AJ18
655	236-1SB655	掘立柱建物	第257次調査で残り(S-5)を確認。	1		P6・7
656		ビット		1		
657	236-1SD657	溝	茶灰色土	1		AH16・17
658		溝	茶灰色土	1		AH16・17
659		ビット群		1		A018
660	236-1SB660	掘立柱建物	第255次調査で残りを確認。	1		B~D4・5
661		たまり	黄色土混じり	1		AP18
662		ビット群	暗灰色土	1		APAQ18
663		ビット	柱痕(灰色粘土)あり	1		AP12
664	236-1SB285m	ビット	柱痕なし SB2851	1	XII~XIII期	AP11
665	236-1SF665	道路	SD015と020との間	1	奈良時代	F・Gライン
666		ビット		1	平安時代後期	A09
667		ビット	柱痕らしきものあり	1	平安時代後期	AP9
668		ビット群	浅い。窪みかも	1	平安時代後期	A08
669		土坑		1	平安時代	AS20
671		ビット群		1	V期	AR20
672		ビット群		1		AS19
673		ビット		1		AS19
674		ビット群		1		ASAT18
676		ビット群		1		AR17
677		溝×凹み	灰色粘土	1	XII~XIII期	AP17
678		土坑×たまり	暗灰色土	1	XII~XIII期	AP17・18
679		溝	黒黄色土	1		AJ18
681		ビット群	暗灰色土	1		AJ11
682		ビット群		1		ABAC15
683		ビット		1		AD14
684		ビット		1		AE16
686		ビット		1		AG14
687		ビット		1		AI12
688		ビット		1		AK12
689		ビット		1		AK14
691		ビット		1	平安時代後期	AN13
692		ビット	灰色粘質土(柱痕らしきものあり)、焼土塊多い	1		AM17
693		溝	茶灰色土	1		AL18
694		ビット		1		AF12
696		ビット		1		AF17
697	236-1SB285m	ビット	S-285の続き	1	XII期~	A09
698		ビット		1		AR15
699		たまり		1	平安時代後期~	AN17・18
701		溝	茶灰色土	1		AR16
702		ビット		1		AX27
703		ビット群(攪乱)	第168次調査分	1		BD38
704		ビット群		1	平安時代後期	BC37
706		ビット群	柱痕らしきものあり、灰色粘質土	1		AU20・21
707		ビット群	柱痕らしきものあり、灰色粘質土	1	平安時代後期	AT21
708		ビット群	柱痕らしきものあり、灰色粘質土	1	平安時代後期	AT20
709		ビット群	S-180の下	1		AF17
711		ビット	灰色粘質土	1	平安時代後期	AP8
712		ビット		1		A015
713		ビット群	暗灰色土	1	11世紀~	APAQ14・15
714		ビット	灰色粘質土	1		AQ15
716		ビット	新しいか?	1		BD39
717	236-1SX717	整地	茶褐色土(黄色土混じり) 深さ約5cm	1基盤	XII期前後	AQAR15
718	236-1SX718	整地	暗灰色土(少々黄色土含む)	1基盤	XII期前後	AV22・23
719	236-1SX719	整地	灰茶色土	1基盤	XII期前後	AO・AP10~15
721		土坑		1	XII~XIII期	A012
722	236-1SX722	整地	灰茶色土(錆色土) 深さ約5cm	1基盤	XII期頃	AR14
723	236-1SX723	整地	黄色土(若干白色土混じり) 遺物あまりない 出土遺物は下の層から	1基盤	平安時代後期	AQ17
724	236-1SX724	整地	灰茶色土	1基盤		AP・A017
726	236-1SX726	整地	灰茶色土(錆色土含む)、東ほど明るい土。 S-370検出段階の土層	1基盤	XII期前後	AM・AN10~15
727	236-1SX727	整地	黄色土と白色土と茶色土の混合層(真砂土にも似ている)	1基盤		AN16
728	236-1SX728	整地	灰茶色土(錆色土、黄色土含む) S-375検出段階の土層	1基盤	XII~XIII期	AM16~18
729		整地	黒灰色土	1基盤	XII期前後	AT21

731		ピット群	灰茶色土	2		AP・AQ12	
732		ピット群	灰茶色土 S-360の下	2		AP11	
733		ピット群	灰茶色土 S-355・360の下	2	11世紀～	AP10	
734		ピット	灰茶色土	2		AQ12	
736		溝	灰茶色土	2	11世紀～	AP9・10	
737		溝	灰茶色土	2		AP9	
738		土坑	灰茶色土	2	X期?	AP8	
739		ピット群	覆乱の下から	2		ARAS20	
741		ピット	S-736の下	2	11世紀～	AP10	
742		ピット群		2	X期前後	AP11	
743		ピット群		2		AP9	
744		ピット群		2		AP9	
746		ピット群		2		AP8	
747		ピット群(柱痕あり)	灰色土	2		AU21	
748		ピット群(柱痕あり)	灰茶色土	2		AS20	
749		ピット群(柱痕あり)	灰茶色土	2		AS20	
751		ピット	暗灰色土	2		AS20	
752		ピット群		2		AT20	
753		ピット		2		AT20	
754		ピット群		2		AT21	
756		ピット群		2		AT21	
757		ピット群		2		AU20	
758		ピット群		2		AU20	
759		ピット群	暗茶色土	2		AU19	
761		溝	暗茶色土	2		AT19	
762		たまり	茶灰色土	2		AT20	
763		ピット群	暗茶色土	2		AT20	
764		ピット	暗茶色土	2	平安時代	AT20	
766		ピット群	暗茶色土	2		AT20	
767		ピット群	暗茶色土	2		AT18	
768		ピット群	暗茶色土	2	11世紀～	AT19	
769		ピット群	暗茶色土	2		AS19	
771		ピット群	暗茶色土	2		AT18	
772		ピット	暗灰色土	2	XII期前後	AS19	
773		ピット群	柱痕あり	2		AT20	
774		ピット群		2		AU19	
776		ピット	柱痕あり	2		AT19	
777		ピット	暗茶色土	2		AS19	
778		ピット		2	平安時代	AT21	
779		ピット群	暗茶色土	2		ATAS18	
781		溝	黒灰色土	2	XII期前後	AT18	
782		ピット群	暗茶色土	2		AS17	
783		ピット群	暗茶色土	2		AT17	
784		ピット群		2		AQ12・13	
786	236-1SD786	たまり×溝	灰茶色土と黄色土との混じり土	2	11世紀後半頃	APAQ13	
787		ピット	暗茶色土	2		AR19	
788		ピット群	暗茶色土	2		AR18	
789		溝	灰茶色土と黄色土ブロックの混じり	2		AR18	
791	236-1SX791	整地	淡明灰色土 灰色土上を検出した土色	1基盤	平安時代中期	AQ・AS16～18	
792		ピット群	暗茶色土	2		AR17	
793	236-1SX793	整地	灰茶色土(部分的に明茶色土)、土器細かく混じる	2	XII期	AO・APライン	
794		溝	灰白色土	2	XII～XIII期	AR16・17	
796		たまり	茶色土	2	奈良時代	AS16	
797		ピット群	暗灰色土 S-370の底面	2		AM11	
798		ピット群	暗灰色土	2		AR15	
799		ピット群		2		ARAQ16	
801		ピット群		2	VIII期前後	AR16	
802	236-1SX802	整地	S-370の南側のひと下げ、明瞭な整地層ではない。	1基盤	XII～XIII期	AMラインより南側	
803		ピット群		2	平安時代前期	AQ19	
804		ピット群	灰色粘質土	2		AK11	
805				2			
806		たまり	橙灰色粘質土	2	平安時代後半	AK12	
807		たまり	茶色土	2	11世紀～	AK12	
808		たまり	黄茶色土	2		AJ11・12	
809		ピット群	S-793の下	2	平安時代	AO11・12	
810				2			
811		溝	橙灰色粘質土	2	11世紀～	AK11	
812		土坑	灰色土	2	XII～XIII期	AR14	
813		ピット群		2		AO9・10	
814		ピット群		2		AM17	
816		土坑	S-375→816	2	XII期～	AM17	
817		凹み	S-370の上ののっている。	2		AL15	
818		たまり	灰色砂質土	2	平安時代後半	AK13	
819	236-1SX819	窪み	茶色砂質土 S-395→819 S-395の窪み	2	XII期～	AJ13	
821		ピット群	茶色砂質土 S-370の底面	2		AM12	
822		ピット		2		AQ14	
823		たまり	茶灰色土 S-786→823→793	2	11世紀後半～	AP12	
824		ピット群		2		AP12	
826		土坑	茶灰色粘質土 S-786の下	2		AP13	
827		ピット群		2		AQ17	

828		整地(窪み)	灰茶色土 深さ約5cm	2	平安時代後半	AN15	
829		整地		2	平安時代後半	AO14	
831		整地×くぼみ		2	12世紀代	AO13	
832		ピット群	覆乱の底面	2		AK13	
833		ピット群		2		AN12	
834		ピット群		2	平安時代中期	AO・AP13	
836		ピット群		2		AO11・12	
837		ピット群		2	11世紀代	AR13	
838		ピット群		2	11世紀	AN13	
839		土坑群		2		AN12	
841		土坑	黒茶色土 底面ピットより白磁1類・緑釉出土	2		AN12	
842		溝	黒茶色土	2		AN12	
843		溝	黒茶色土	2		AN13	
844		土坑	黒茶色土	2		AN13	
846	236-1SX846	たまり	茶灰色土 S-410→846	2	XII～XIII期?	AR15	
847		たまり	黄灰色土	2	平安時代	AQ15	
848		たまり	暗灰色土	2	XII～XIII期	AO14	
849		ピット	灰色粘質土 S-848→849	2		AO14	
851		たまり	暗灰色土	2		AN14	
852		たまり	黄灰色土	2		AN14	
853		溝	灰色土	2		AQ17	
854		たまり	茶灰色粘質土 S-727→854	2	XII～XIII期	AO16	
856		土坑	黒色土	2	平安時代前期	AN15	
857		ピット	暗灰色土 S-857→849→847	2		AQ16	
858		ピット群		2		ANA018	
859		ピット群	トレンチ内	2		AP14・15	
861		溝	黄茶色土	2		AP16	
862		ピット群	茶色土	2		APAQ16・17	
863		ピット	黄色粘質土	2		AP18	
864		溝	黄色粘質土	2		AP18・19	
866		溝	黄灰色粘質土(黄色土ブロック多く入る)	2		AP18	
867		ピット群		2		AOAP18	
868		ピット群		2		AK15	
869		溝	黒茶色土 S-380→869	2		AJ16	
871		溝	暗灰色粘質土	2		AJ17	
872		土坑	暗灰色土	2		AI16	
873		ピット群		2		AI17	
874		溝	灰茶色土	2		AI17・18	
876		溝	茶色土	2	平安時代後期～	AI17	
877		土坑	暗灰色土	2	8世紀末～9世紀	AIH18	
878		溝	灰色土 S-878→877	2		AJ18	
879		ピット群	S-879→877	2		AIH18	
881		ピット	S-340の掘立柱建物の掘り残し	2(1)		AJ18	
882		土坑	茶灰色土	3	11世紀後半～	AW25	
883		ピット群	灰色土	3	奈良時代	AW25	
884		ピット群		3		AVAW24	
886		ピット	暗灰色土	3		AY24	
887		ピット	暗灰色土	3		AY24	
888		ピット群		3		AY30	
889		土坑	暗灰色粘土と黄色土の混合層	3		AY30・31	
891		土坑		3		AY31	
892		ピット群		3		BB36	
893		ピット群		3		BA33	
894		ピット群		3		BC36	
896		土坑	黄色土	3	奈良時代	BB36	
897		土坑	黄色土	3		BC37	
898		土坑		2	平安時代前期	AQ19	
899		ピット群	S-375の下	2		AM18	
901		ピット		2		AL14	
902		ピット		2		AO13	
903		ピット群		3		BD39	
904		土坑	暗灰色土	3	奈良時代	BC38	
906		ピット群		3		BC38	
907		ピット群		3		BD38	
908		ピット群		3		BA32	
909		ピット	暗灰色土(黄色土ブロック混じる)	3		BC36	
911		ピット	暗灰色土	3		BC36	
912		土坑	暗灰色土(黄色土ブロック混じる)	3		BC37	
913		土坑	暗茶色土	3	奈良時代	BD39	
914		土坑		3		AY30	
916		ピット群		3	平安時代	AU22	
917		ピット群		3		AU22	
918		ピット		2		AU22	
919		ピット		3		O13	
921		ピット	灰色砂	3	弥生時代?	P12	
922		ピット		3		V15	
923		たまり	暗灰色粘質土	3		T15	
924		たまり	暗灰色粘質土	3		U14	
926		土坑	暗灰色土	3		T11	
927		ピット		3		R12	

928		たまり	灰色土	3	弥生時代	ST13・14
929		ビット群		3		S15
931		たまり	灰色土	3	弥生時代後期	R12
932		たまり	灰色砂	3	弥生時代	OP12
933		たまり	灰色砂	3		PI1・12
934		たまり	灰色土	3		PQ11
936		たまり	灰色土	3		P11
937		たまり	灰色土	3		O11
938		たまり	灰色土、灰色砂	3		P~R10・11
939		たまり	灰色土、灰色砂	3	弥生時代?	RQ13・14
941		たまり	灰色粘土	3		R15・16
942		溝	S-942→495	3		J11
943		ビット		3		K10
944		ビット		3		M11
946		ビット		3		N10
947		たまり	灰色土	3		O8
948		たまり	灰色砂	3		N7
949		ビット	灰色粘土	3		M7
951		たまり	灰色土	3	古墳時代?	LM7
952		ビット群		3		AD11・12・13
953		溝	茶褐色砂(しまっている)	3		AA11・12
954		溝	茶色土 1面の掘り残し	3(1)		AA11
956		溝	茶色土 1面の掘り残し?	3(1)		AA11
957		溝	灰色土	3		ADAE11
958		ビット	S-958→445	3	奈良時代	BB35
959		ビット	S-959→445	3		BB34
961		ビット	茶灰色土(黄色土ブロック混じり)	3		AW25
962		ビット群	S-962→430	3		AV23
963		ビット群		3		AV23
964		ビット群		3		AT19・20
966		ビット	灰色土	3		AT20
967		ビット群		3		AT19
968		土坑	黒色土	3		AU20
969		土坑	茶灰色土	3	8世紀後半	AU20
971		ビット群		3		AU21
972		ビット群	S-972→455	3		AT18
973		溝	黒色土 S-973→460	3		AR19
974		ビット群	黒色土	3		AR19
976		ビット群		3		AR19
977		ビット群	暗灰色砂質土 S-410の底面	3	平安時代前期	AP14
978		たまり群	黒色粘土に入り込む埋土	3		AN12
979		ビット群		3	奈良時代	AOAP9
981		ビット		3		AU21
982		ビット		3		AU21
983		土坑	黒色土	3	平安時代前期	AU21
984		ビット群		3		AU20
986		ビット群		3		AT20・21
987		ビット		3		AS21
988		ビット群		3	奈良時代	AT19
989		土坑	黄色土、下層は淡灰色土(S-699の掘り残し)	3(2)	XI~XII期	AN18
991		土坑群		3		AP9・10
992		ビット群		3		A010
993		ビット群		3		A011
994		土坑		3		AQ11
996	236-1SB595	ビット群	S-595の一部	3	平安時代前期	A010
997	236-1SB595	ビット群	S-595の一部	3		AP10
998		ビット群		3	平安時代	AP10・11
999		ビット群とたまり	灰色土	3		AAAB14~16
1001		ビット	灰色土	3		AS18
1002		溝	黒色土	3		AU21
1003		ビット群		3		AT21・22
1004		ビット	黒色土	3	奈良~平安時代前期	AU21
1006		たまり	灰色土	3		AN16
1007		たまり	暗灰色粘土 S-505→1007→1006	3		AN15
1008		土坑	暗灰色土	3		A015
1009		ビット群		3		A014・15
1011		たまり	黒色土 2つ番号だぶる	3		AL11、AJ17・18
1012		ビット	灰色砂質土	3		AL11
1013		ビット群		3		AL11・12
1014		ビット	灰色砂質土	3		AL11
1016		たまり	S-505の上面	3(2)	11世紀代	AN14・15
1017		溝	黒色土	3		AL10
1018	236-1SE510	土坑	茶色土 S-510の最上層	3	平安時代	AL11
1019		ビット群	黒茶色土 S-1019→1001	3	VIII~IX期	AL11
1021		たまり	茶色土	3		AN16
1022		たまり	茶色土	3	平安時代前半	AN15
1023		ビット群		3		AM15
1024		ビット群		3		AL18
1026		溝	茶灰色粘質土	3	平安時代	AL18
1027		ビット		3	平安時代	AL17

1028		ビット		3		AL17
1029		ビット		3		AL17
1031		ビット	黒茶色土 S-540→1031	3	平安時代前期	AK17
1032		たまり	茶灰色土 S-1038→505→1032	3	VII期頃	AN16
1033		たまり	淡灰色砂質土 S-505→1033	3		AN14
1034		ビット群		3		AN14・A014
1036		たまり	茶色土 S-1036→1011 厚さ約30cm	3	平安時代前期	AL11・12
1037		溝	黒灰色土	3	9世紀代	A015・16
1038	236-1SD1038	溝	暗茶色土 S-540と同一溝か	3	VII期前後	A015・16
1039		溝	茶灰色のサクサクした土	3		AN18
1041		溝	黄灰色土	3		AN18
1042		ビット群	灰色粘質土 S-530の底	3		AL16
1043		溝	黒茶色土 S-530の底	3	平安時代前期	AL16
1044		ビット群		3		AN16・17
1046		ビット群		3		AL17
1047		溝	茶褐色粘質土	3		AK18
1048		ビット		3		AK17
1049		たまり	灰茶色粘土 S-1047→525	3	平安時代前期	A014・15
1051		ビット群		3		AE13・14
1052		ビット群		3		AD15
1053		ビット		3		
1054		ビット		3		
1056		ビット群		3	奈良時代	19・J10
1057		ビット群		3	古代	H17
1058	236-1SA635	ビット群	一部SA635	3	古代	JJ6
1059		ビット群		3	古代	15・6
1061		ビット群		3	古代	J4・5
1062		たまり	灰色土、灰白色土ブロック、灰茶色土の混合層	3		AP12・13
1063		ビット群		3		AP12
1064		ビット群	灰色土	3		A012
1066	236-1SB595	ビット群	灰白色土と灰色土と灰茶色土の混合層 S-595の一部	3		AP11
1067		たまり	灰白色土と灰色土と灰茶色土の混合層	3		AP・AQ14
1068		ビット群		3		AP10・11
1069		たまり	灰白色土ブロックと灰色土と灰茶色土の混合層	3	弥生時代後期	AQ12・13
1071		ビット群		3	平安時代	AP12
1072		たまり		3		AP12
1073		たまり		3		AI12
1074		たまり		3		AH12
1076		たまり	灰白色土ブロックと灰色土と灰茶色土の混合層	3		AFAG12~14
1077		ビット群		3		AF12
1078		ビット群	灰白色土ブロックと灰色土と灰茶色土の混合層	3		AG13
1079		たまり	灰白色土ブロックと灰色土と灰茶色土の混合層	3	奈良時代	ACAD14・15
1081		ビット群		3		AS16・17
1082		土坑	灰色土	3		AF15
1083		ビット群		3		AE15
1084		ビット群		3		AS18
1086		ビット群		3		AR15
1087		土坑	灰色土	3		AS17・18
1088		土坑	灰色土	3		AR17
1089		土坑群		3	古代	AR16・17
1091		土坑		3	古墳時代	AR16
1092		たまり	黒灰色土 S-1092→560	3	平安時代中期?	AQ17
1093		土坑	灰茶色土(黄色土ブロック混じり)	3		AQ17
1094		ビット群		3		AQ15・16
1096		ビット群		3		AE14
1097		ビット群	灰茶色土 S-1092の底	3	平安時代	AQ17
1098		溝	黒灰色土	3	平安時代前期?	A017
1099		溝	黒灰色土	3		A016
1101		土坑		3	平安時代前期	AJ17
1102		土坑		3	平安時代前期	AQ17
1103		たまり	黒灰色土	3	平安時代前期	A017・18
1104		ビット群		3	平安時代	A016
1106		ビット群		3		AP16
1107		土坑		3	平安時代	A017
1108		土坑	S-1103の底	3	9世紀	A017
1109		ビット群	S-1107の底	3		A017
1111		ビット群		3	平安前~中期	A018
1112		土坑		3	平安時代中期	AP18
1113		ビット		3		AN18
1114		土坑	灰色粘質土(黄色土ブロック混じり)	3	古代	L8・9
1116		ビット	灰色土	3		O8
1117		ビット	S-1117→948	3		N7
1118		ビット	黒色土	3		J8
1119		ビット群		3		AF15
1121		ビット群		3		AE15
1122		土坑	茶灰色土	3	平安時代後期	AD・AE15
1123		ビット		3		AI15
1124		ビット群		3		AFAG17
1126		ビット		3		AB16
1127		ビット		3		AD14

1128		ピット		3		AF14
1129		ピット		3		AD16
1131		ピット		3		AD17
1132		ピット		3		T16
1133		ピット	S-590の下	3		AG15
1134		ピット群		3		AQ12
1136		ピット		3		AQ12
1137		ピット	灰色粘質土	3		T16
1138		ピット	灰色粘質土	3		T16
1139		ピット		3		S16
1141		ピット		3		S16
1142		ピット	茶色砂質土	3	平安時代後期	V17
1143		ピット		3		AH13
1144		ピット		3		AQ18
1147		ピット群		3		AD~AF17
1148		ピット群		3		AV23
1149		溝		3		AL14・15
1151		たまり		3	平安時代後期	AL14・15
1152		整地	茶色粘土	3	奈良~平安時代前期	AQ14・15
1153		たまり	灰色土	4		AT21
1154		たまり	灰色土	4		AU20
1156		ピット群		4		AUAT20・21
1157		ピット群		4		AS19・20
1158		ピット群		4		AS16
1159		ピット群		4		AQ15
1161		ピット群		3		AL11
1162		たまり		3		AL11
1163		ピット群		3		AL14・15
1164		ピット群		3	平安時代前期	AL13
1166		ピット群		4		AW25・26
1167		たまり		4		AX28
1168		たまり	灰白色粘土 黒色粘土に入る凸凹	4	弥生時代後期	ARAQ16・17
1169		たまり	灰白色粘土	4	弥生時代後期	AS15
1171		ピット		4		AS17
1172		ピット		4		AP16
1173		ピット群		4		BC38
1174		ピット群		4		BD39
1176		ピット群		4		AE~AG15~17
1177		ピット		4		AR15
1178		ピット	杭あり	3		AR14
1179		ピット群	黒色粘土除去後に検出したが、上層の掘り残し	3		AN12
1181		たまり	灰色砂質土	3		AL10
1182		ピット	灰色土	3		H2
1183		ピット	灰色土	3		I3
1184		たまり	灰色土 黒色粘土にめり込む土	3	弥生時代	AH12
	灰茶色土	第1面覆土	第1調査面遺構検出時の土色 (AKラインより北)		XII期~	
	灰褐色土	第1面覆土	第1調査面遺構検出時の土色 (AKラインより南)		XII期~	
	茶灰色粘土	第2面基盤層	S-520付近の検出時の土色		10世紀代	
	淡灰色土	第2面基盤層	淡灰色土除去面にX期前後の遺構あり。上層の掘り残しあり		X期頃	
	黒茶色土	第2面基盤層			VIII期前後	AN12、ALライン
	黒色土	第2面基盤層			VII期前後	AQ18付近
	明茶色土	第2面基盤層			9世紀代	AN~AR・8~14
	灰色土	第2面基盤層			VII~VIII期頃	
	暗灰色粘土	第2面基盤層	黒色土の下。暗灰色土・灰色粘土・黒色ブロック混じり		平安時代前期	AQ18付近
	灰色砂質土	第3面基盤層			奈良時代	
	灰色粘土	第3面基盤層	S-505と560の間		8世紀後半	
	黒色粘土	第3面基盤層	暗灰色粘土の下。蛇行する流路		縄文時代草創期	

表14 第236-1次調査 出土遺物一覧表

S-1茶褐色土	須恵 銅環、環c、鏝 土 師 銅環、鏝、破片 瓦 類 平瓦 金 属 製 品 磁片 石 製 品 基石
S-1灰色土	須恵 銅蓋1、蓋3、環c、鏝、大鏝、鏝 土 師 銅環、環a、小皿a、破片 白 磁 器：I(1) 瓦 類 平瓦(格子印、罫目印、破片) 石 製 品 丸石 土 製 品 罫目印、罫目口
S-2	土 師 銅破片 石 製 品 罫片(黒曜石)
S-3	土 師 銅環
S-4	須恵 銅環 土 師 銅環
S-5	須恵 銅蓋3、環、環a、環c、鏝、鏝×鉢 土 師 銅環、環a、鏝c、鏝 緑 釉 陶 須恵質：破片(1)、土師質：破片(1) 白 磁 器：VI×VII(1) 破片(2) 瓦 類 平瓦(罫目印)、破片(格子印、破片) 石 製 品 石鏡、刺片、管玉 土 製 品 罫土塊
S-6	須恵 銅環 土 師 銅環、鏝
S-7	須恵 銅環、破片 土 師 銅鏝、破片 瓦 類 破片
S-8	須恵 銅蓋、鏝×鉢、破片 土 師 銅環、丸底環、破片 瓦 類 平瓦(格子印、罫目印)、丸瓦(破片)
S-9	須恵 銅蓋1、蓋3、環c、鏝 土 師 銅環、鏝 瓦 類 丸瓦(格子印、罫目印)
S-10	須恵 銅蓋3、環c、鏝 土 師 銅環a、丸底環c、鏝c、鏝 瓦 類 丸瓦(無文)、平瓦(破片)
S-11	須恵 銅環a、鏝 土 師 銅破片 瓦 類 平瓦(格子印、無文)、丸瓦破片 石 製 品 刺片(黒曜石)、丸石
S-12	須恵 銅環c、破片 土 師 銅破片
S-13	土 師 銅破片
S-14	須恵 銅環、鏝×鉢 土 師 銅丸底環、破片 瓦 類 丸瓦(無文)、軒平瓦 石 製 品 刺片
S-15暗灰色土	須恵 銅蓋c、蓋1、蓋a1、蓋c1、環、高環、鏝、円面磁、ツマミ 土 師 銅環、環c、高環、鏝 金 属 製 品 磁片 石 製 品 滑石、基石、刺片 土 製 品 罫目口
S-15淡灰色土	須恵 銅蓋3、環a、環c、鏝 土 師 銅環a 瓦 類 平瓦(罫目印、無文)
S-15茶褐色土	須恵 銅蓋1、蓋3、鏝 土 師 銅環、鏝、破片
S-16	須恵 銅蓋3、環、鏝 土 師 銅環、銅c、鏝、破片 嵯州系青磁破片：I(1) 瓦 類 平瓦(罫目印) 石 製 品 滑石、刺片
S-17	須恵 銅蓋1、鏝 土 師 銅環、丸底環 瓦 類 破片(格子印) 石 製 品 丸石
S-18	須恵 銅蓋c、環、環c 土 師 銅環、鏝
S-19	須恵 銅蓋、鏝 土 師 銅鏝、破片 瓦 類 破片
S-20淡灰色土	須恵 銅蓋3、環a、環c、鏝 土 師 銅環c、鏝 嵯州系青磁破片：I(1) 瓦 類 平瓦(罫目印)
S-20暗灰色土	須恵 銅環、環a、環c 土 師 銅蓋1、鏝、破片 石 製 品 刺片 土 製 品 罫目口
S-21	土 師 銅破片
S-22	須恵 銅蓋1、高環、鏝 土 師 銅環、丸底環a、鏝 瓦 類 平瓦(罫目印)
S-23	須恵 銅環 土 師 銅環、破片
S-24	須恵 銅蓋1、環、鏝×鉢 土 師 銅鏝 瓦 類 破片
S-25黄褐色土	須恵 銅鏝、破片 土 師 銅丸底環、破片 白 磁 器：II-1(1)、V-a(1) 瓦 類 丸瓦、破片
S-25暗灰色土	須恵 銅蓋3、環、環a、鏝 土 師 銅蓋、環、鏝c、鏝、破片 黒色土 器 a破片 白 磁 器：I(1) 瓦 類 平瓦(罫目印、格子印) 石 製 品 刺片、すり石
S-25灰褐色土	須恵 銅蓋3、環a、環c、鏝×鉢 土 師 銅蓋、環a、鏝、鏝 黒色土 器 a破片 瓦 類 平瓦(罫目印、格子印)、丸瓦(無文) 土 製 品 丸玉
S-25暗灰色粘土	須恵 銅鏝、大鏝 土 師 銅環、環a(？)、鏝 黒色土 器 a破片 白 磁 器：I(1) 瓦 類 丸瓦(罫目印)、平瓦(破片) 石 製 品 磁石
S-25茶褐色土	須恵 銅蓋1、環c、鏝 土 師 銅環、環a、鏝c、鏝 黒色土 器 a破片 瓦 類 平瓦(罫目印)
S-25黒灰色粘土	須恵 銅蓋1、環a、環c、鏝 土 師 銅環、環a、環c、鏝 瓦 類 丸瓦(格子印、無文)、平瓦(罫目印)
S-26	須恵 銅蓋3、環c、鏝 土 師 銅環、高環、鏝、破片
S-27	須恵 銅鏝、破片 土 師 銅環、破片
S-28	土 師 銅鏝、破片
S-29	須恵 銅蓋1 土 師 銅環
S-30a磁方	土 師 銅破片 金 属 製 品 磁片
S-30b磁方	須恵 銅破片 土 師 銅破片
S-30d磁方	須恵 銅破片 土 師 銅破片
S-30d	土 師 銅鏝

S-30a	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
石 製 品 破片	
S-30f	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-30g	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-30g暗茶色土	瓦 類 平瓦(格子印)
S-31	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-32	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-33	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 平瓦(格子印)	
S-34	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
黒色土器 破片	
藤州窯系青磁 器:II(1)	
白 磁 器:II(1)	
瓦 類 平瓦(格子印), 平瓦(破片), 丸瓦(破片)	
石 製 品 破片	
七 の 他 類	
S-35	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 平瓦(格子印, 無文)	
S-36	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
黒色土器 破片	
白 磁 器:II(1)	
瓦 類 平瓦(破片)	
S-37	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 破片	
S-38	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
輸入須 惠 器 朝鮮系無軸陶器	
S-39	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 破片	
S-40f柱底	土 師 器 破片
石 製 品 破片(安山岩)	
S-40h	須 惠 器 破片
S-40k	木 製 品 柱底
S-40柱底	土 師 器 破片
S-41	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-43	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-44	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 破片	
S-45a柱穴	土 師 器 破片
S-45a側方	土 師 器 破片
黒色土器 破片	
S-45b	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 破片	
S-45b柱穴	土 師 器 破片
S-45b側方	土 師 器 破片
S-45c	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	

S-45c側方	須 惠 器 破片
S-45d	土 師 器 破片
S-45d柱穴	土 師 器 破片
S-45d側方	土 師 器 破片
S-45e	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-45e側方	土 師 器 破片
S-45e柱穴	土 師 器 破片
S-45f	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-45f柱穴	土 師 器 破片
S-45f側方	土 師 器 破片
S-45g	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-45g側方	土 師 器 破片
S-45h	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-45h柱穴	土 師 器 破片
S-45h側方	土 師 器 破片
S-45i側方	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-45i柱穴	土 師 器 破片
S-45j	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-45s	土 師 器 破片
S-45a側方	瓦 類 破片
S-45t	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-45t柱穴	土 師 器 破片
S-45t側方	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-45u	土 師 器 破片
土 師 器 破片	
S-45u側方	土 師 器 破片
S-45v	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-45v側方	土 師 器 破片
S-45v柱穴	土 師 器 破片
S-45w	土 師 器 破片
S-45w柱穴	土 師 器 破片
S-45x	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-45x側方	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-45x柱穴	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	

S-46	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
石 製 品 破片	
S-47	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
黒色土器 破片	
S-48	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-49	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-50	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
白 磁 器:II(1)	
輸入須 惠 器 朝鮮系無軸陶器	
瓦 類 破片(格子印)	
石 製 品 破片(黒曜石)	
金 属 製 品 破片	
S-51	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-52	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 平瓦	
S-53	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 平瓦(無文)	
S-54	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-55	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
須 惠 器 破片	
土 師 器 破片	
須 惠 器 破片	
灰 軸 陶 器 破片	
瓦 類 平瓦(格子印, 無文)	
石 製 品 破片	
S-56	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-57	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-58	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
緑 軸 陶 器 破片	
瓦 類 平瓦(格子印)	
石 製 品 破片	
S-59	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-60	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 破片	
S-60①	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 平瓦(格子印), 平瓦(破片)	
S-60②	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
石 製 品 破片(安山岩)	
S-60③	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 平瓦(破片)	
石 製 品 破片	
S-61	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 平瓦	
S-62	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 平瓦(格子印)	
S-63	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-64	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-65	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	

S-66	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-67	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-68	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-69	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-70茶色土	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 破片	
S-70暗灰色土	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
白 磁 器:IV(1)	
瓦 類 平瓦(格子印, 無文)	
土 製 品 破片	
S-70灰茶色土	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
黒色土器 破片	
藤州窯系青磁 器:II(1)	
白 磁 器:IV(1)	
瓦 類 平瓦(格子印, 無文)	
土 製 品 破片	
S-70灰色粘土	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
黒色土器 破片	
藤州窯系青磁 器:II-b(1)	
白 磁 器:IV(1)	
瓦 類 平瓦(格子印, 無文)	
金 属 製 品 破片	
石 製 品 破片	
土 製 品 破片	
S-70灰色粘土	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
黒色土器 破片	
藤州窯系青磁 器:II-b(1)	
白 磁 器:IV(1)	
瓦 類 平瓦(格子印, 無文)	
金 属 製 品 破片	
石 製 品 破片	
土 製 品 破片	
S-71	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-72	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 破片	
S-73	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
石 製 品 破片(黒曜石)	
S-74	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 破片	
S-75暗灰色粘土	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
黒色土器 破片	
藤州窯系青磁 器(1)	
瓦 類 平瓦(格子印)	
S-75灰茶色土	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
黒色土器 破片	
藤州窯系青磁 器(1)	
瓦 類 平瓦(格子印)	
金 属 製 品 破片	
石 製 品 破片	
S-75灰色粘土	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 平瓦(格子印)	
S-76	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-77	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
瓦 類 平瓦(無文)	

S-78
須 惠 器 环、碗c、破片
土 師 器 环、碗c、破片
瓦 類 平瓦(格子印)

S-79
須 惠 器 器
土 師 器 器 底环a、小皿a、變

S-80
須 惠 器 器 环、环c、變
土 師 器 器 环、环c、變、破片
越州 窯 系 青 磁 破片: I(1)
瓦 類 破片
石 製 品 丸石

S-80 灰色土
須 惠 器 器
土 師 器 器 环a、變
黒色 土 器 器 破片

S-81
土 師 器 器

S-82
須 惠 器 器 破片
土 師 器 器 环、破片
瓦 類 破片

S-83
土 師 器 器 破片

S-84
須 惠 器 器
土 師 器 器 环、變

S-85①
須 惠 器 器 环
土 師 器 器 环、环a、變
石 製 品 丸石

S-85②
須 惠 器 器 破片
土 師 器 器 环、环c、變
越州 窯 系 青 磁 破片: 碗(1)
瓦 類 破片

S-85③
須 惠 器 器 破片
土 師 器 器 环、环a、變

S-85④
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 环、环c、皿c、破片

S-85⑤
須 惠 器 器 鉢、鉢、破片
土 師 器 器 环a、變、破片
金 屬 製 品 鉄釘

S-85⑥
土 師 器 器 破片

S-85⑦
須 惠 器 器
土 師 器 器 环c、變、破片

S-85⑧
須 惠 器 器 环、鉢
土 師 器 器 环、破片

S-85⑨
須 惠 器 器 环、破片
土 師 器 器 环、碗c、變

S-86
須 惠 器 器 鉢3、环a、變
土 師 器 器 环、环a、环c、小皿a、變
瓦 類 丸瓦(破片)、破片
金 屬 製 品 鉄釘

S-87
須 惠 器 器 环
土 師 器 器 环a、變
土 製 品 燒土塊

S-88
土 師 器 器 环、丸底环、變
石 製 品 石鉢
土 製 品 燒土塊

S-89
須 惠 器 器 碗c、环、环c
土 師 器 器 环、环a、變
瓦 類 平瓦(格子印)
石 製 品 割片

S-90
須 惠 器 器 破片
土 師 器 器 破片
瓦 類 平瓦(格子印)
土 製 品 燒土塊

S-91
須 惠 器 器
土 師 器 器 變
黒色 土 器 器 破片

S-92
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 环、环a、變
瓦 類 平瓦(破片)、破片

S-93
土 師 器 器 环

S-94
土 師 器 器 环、變
土 製 品 燒土塊

S-95 明茶色土
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 环、环a、丸底环a、小皿a(へ?)、變
瓦 類 割片
白 磁 碗: Vタテクシ(1)
瓦 類 破片
金 屬 製 品 鉄釘
土 製 品 燒土塊、とりべ

S-95 茶灰色土
須 惠 器 器 环c
土 師 器 器 环a、丸底环a、碗c
白 磁 碗: I1-5(1)、IV(1)、V(1)、Vタテクシ(2)
瓦 類 平瓦(無文)、破片(格子印)、破片
土 製 品 燒土塊

S-96
土 師 器 器 环
土 製 品 燒土塊

S-97
須 惠 器 器 鉢×鉢
土 師 器 器 环、丸底环a、變

S-98
須 惠 器 器 环
土 師 器 器 环a、小皿a、變

S-99
須 惠 器 器 破片
土 師 器 器 环、變
瓦 類 平瓦(格子印)

S-100a
土 師 器 器 环a、环c、變

S-100a 側方
土 師 器 器 破片

S-100a 柱底
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 破片

S-100b
土 師 器 器 破片

S-100c
土 師 器 器 破片

S-100c 側方
土 師 器 器 环

S-100c 柱底
土 師 器 器 破片

S-100d
土 師 器 器 环、變
土 製 品 燒土塊

S-100e
須 惠 器 器 环c
土 師 器 器 环、小皿a(へ?)

S-100g
土 師 器 器 小皿a(へ?)、破片
瓦 類 破片
土 製 品 燒土塊

S-100i
土 師 器 器 破片

S-100j
土 師 器 器 环a、破片
土 製 品 燒土塊

S-100 側方
土 師 器 器 破片

S-100 柱底
須 惠 器 器 鉢3

S-100k
土 師 器 器 环
土 製 品 燒土塊

S-100q
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 破片
瓦 類 破片

S-100r 側方
土 師 器 器 變

S-100r 柱底
土 師 器 器 破片

S-101
須 惠 器 器 环、變
土 師 器 器 环、小皿a、變

S-102
土 師 器 器 环、變
瓦 類 丸瓦(破片)

S-103
土 師 器 器 破片

S-104
須 惠 器 器 环c
土 師 器 器 环、變
黒色 土 器 器 破片
黒色 土 器 器 鉢
石 製 品 割片

S-105b
須 惠 器 器 破片
土 師 器 器 环、丸底环a、變

S-105c
須 惠 器 器 破片
土 師 器 器 环

S-105c 柱底
土 師 器 器 环、丸底环a

S-105d
土 師 器 器 破片

S-105d 柱底
土 師 器 器 破片

S-105e
土 師 器 器 破片

S-105g
土 師 器 器 破片

S-105g 側方
土 師 器 器 破片

S-105g 柱底
土 師 器 器 變

S-105f 側方
土 師 器 器 环、變

S-105f 柱底
土 師 器 器 破片

S-106
須 惠 器 器 鉢、破片
土 師 器 器 环a、丸底环a、變

S-107
土 師 器 器 破片

S-108
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 环、破片

S-109
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 變、破片

S-110 茶灰色土
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 环、环a
瓦 類 破片(格子印)、破片

S-110 茶色土
須 惠 器 器 鉢3、环a、环c、鉢×鉢
土 師 器 器 环a、丸底环a、碗c、鉢
黒色 土 器 器 鉢
白 磁 碗: I-1(1)、IV(2) 皿: VII(1)
瓦 類 丸瓦(破片)(格子印)

S-110 茶色土
須 惠 器 器 鉢3、环a、环c、鉢×鉢
土 師 器 器 环、丸底环、小皿a、變
黒色 土 器 器 鉢
越州 窯 系 青 磁 破片: I(1)
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(無文)、瓦瓦
石 製 品 磁石

S-110 茶色土
須 惠 器 器 鉢3、环a、环c、鉢×鉢
土 師 器 器 环、丸底环、小皿a、變
黒色 土 器 器 鉢
越州 窯 系 青 磁 破片: I(1)
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(無文)、瓦瓦
石 製 品 磁石

S-110 茶色土
須 惠 器 器 鉢3、环a、环c、鉢×鉢
土 師 器 器 环、丸底环、小皿a、變
黒色 土 器 器 鉢
越州 窯 系 青 磁 破片: I(1)
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(無文)、瓦瓦
石 製 品 磁石

S-110 暗灰色粘土
須 惠 器 器 鉢3、环c、變
土 師 器 器 环、环a、碗c、變
黒色 土 器 器 鉢
白 磁 碗: IV(1)
瓦 類 平瓦(格子印、格子印)
石 製 品 割片、磁石
土 製 品 磁石、割片

S-110 青灰色粘土
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 丸底环a、小皿a(へ?)
黒色 土 器 器 鉢
瓦 類 平瓦(格子印)

S-110 青灰色粘土
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 破片
石 製 品 磁石、割片

S-111
須 惠 器 器 破片
土 師 器 器 破片

S-112
須 惠 器 器 环、變
土 師 器 器 环、變
黒色 土 器 器 破片

S-113
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 环、變

S-114
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 环、變、破片
国 産 磁 器 破片

S-115
須 惠 器 器 鉢3、环a、环c、變
土 師 器 器 环a、碗c、變
瓦 類 破片

S-116
須 惠 器 器 环a、變、破片
土 師 器 器 环、變、破片

S-117
須 惠 器 器 环
土 師 器 器 环a、碗c、變
瓦 類 丸瓦(格子印)

S-118
土 師 器 器 變

S-118
土 師 器 器 环、丸底环a、破片

S-120
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 环、环a、變
石 製 品 丸鉢、滑石片、丸石

S-121
須 惠 器 器 皿a
土 師 器 器 环、變

S-122
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 环、丸底环a、小皿a
白 磁 碗: IV(1)
金 屬 製 品 鉄釘

S-123
須 惠 器 器 环
土 師 器 器 破片

S-124
須 惠 器 器 變

S-125
須 惠 器 器 环、變
土 師 器 器 丸底环a、碗c、小皿a、變
黒色 土 器 器 鉢
白 磁 碗: IV(1)
瓦 類 平瓦(格子印)
石 製 品 磁石
土 製 品 燒土塊

S-126
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 變、破片

S-127
土 師 器 器 环、變

S-128
須 惠 器 器 环、鉢
土 師 器 器 环、环a、丸底环、變
黒色 土 器 器 鉢
瓦 類 平瓦(格子印、格子印)
土 製 品 燒土塊

S-129
須 惠 器 器 环、變
土 師 器 器 變、破片

S-130 茶灰色土
須 惠 器 器 變
土 師 器 器 环、丸底环a、變
白 磁 碗: IV(1)

S-130 明茶色土
須 惠 器 器 环、變
土 師 器 器 环、丸底环a、小皿a、鉢?、破片
越州 窯 系 青 磁 破片: I-2r(1)
白 磁 碗: IV-1b(1)
瓦 類 丸瓦(破片)、破片

S-130 明茶色土
須 惠 器 器 鉢3、變、破片
土 師 器 器 环、环a、丸底环a、碗c、小皿a、變、破片
越州 窯 系 青 磁 破片 I(1)
白 磁 碗: I-1(1)、IV(1)、破片(1)
土 師 實 土 鉢?
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(破片)

S-130 明茶色土
須 惠 器 器 鉢3、變、破片
土 師 器 器 环、环a、丸底环a、碗c、小皿a、變、破片
越州 窯 系 青 磁 破片 I(1)
白 磁 碗: I-1(1)、IV(1)、破片(1)
土 師 實 土 鉢?
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(破片)

S-130 明茶色土
須 惠 器 器 鉢3、變、破片
土 師 器 器 环、环a、丸底环a、碗c、小皿a、變、破片
越州 窯 系 青 磁 破片 I(1)
白 磁 碗: I-1(1)、IV(1)、破片(1)
土 師 實 土 鉢?
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(破片)

S-130 明茶色土
須 惠 器 器 鉢3、變、破片
土 師 器 器 环、环a、丸底环a、碗c、小皿a、變、破片
越州 窯 系 青 磁 破片 I(1)
白 磁 碗: I-1(1)、IV(1)、破片(1)
土 師 實 土 鉢?
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(破片)

S-130 明茶色土
須 惠 器 器 鉢3、變、破片
土 師 器 器 环、环a、丸底环a、碗c、小皿a、變、破片
越州 窯 系 青 磁 破片 I(1)
白 磁 碗: I-1(1)、IV(1)、破片(1)
土 師 實 土 鉢?
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(破片)

S-130 明茶色土
須 惠 器 器 鉢3、變、破片
土 師 器 器 环、环a、丸底环a、碗c、小皿a、變、破片
越州 窯 系 青 磁 破片 I(1)
白 磁 碗: I-1(1)、IV(1)、破片(1)
土 師 實 土 鉢?
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(破片)

S-130 明茶色土
須 惠 器 器 鉢3、變、破片
土 師 器 器 环、环a、丸底环a、碗c、小皿a、變、破片
越州 窯 系 青 磁 破片 I(1)
白 磁 碗: I-1(1)、IV(1)、破片(1)
土 師 實 土 鉢?
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(破片)

S-130 明茶色土
須 惠 器 器 鉢3、變、破片
土 師 器 器 环、环a、丸底环a、碗c、小皿a、變、破片
越州 窯 系 青 磁 破片 I(1)
白 磁 碗: I-1(1)、IV(1)、破片(1)
土 師 實 土 鉢?
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(破片)

S-130 明茶色土
須 惠 器 器 鉢3、變、破片
土 師 器 器 环、环a、丸底环a、碗c、小皿a、變、破片
越州 窯 系 青 磁 破片 I(1)
白 磁 碗: I-1(1)、IV(1)、破片(1)
土 師 實 土 鉢?
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(破片)

S-130 灰灰色土	須 惠 割 壺
土 師 割 坏、丸底 坏、壺	
S-130 灰褐色土	須 惠 割 坏、壺
土 師 割 坏、壺	
瓦 類 平瓦(格子印)	
S-130 灰色土	須 惠 割 壺
土 師 割 坏a、丸底 坏a、柄c	
S-131	須 惠 割 坏
土 師 割 壺、破片	
S-132	須 惠 割 坏a
土 師 割 坏c、壺	
S-133	須 惠 割 壺
土 師 割 坏、破片	
瓦 類 破片	
S-134	須 惠 割 坏、壺
土 師 割 壺、破片	
S-135 灰色土	須 惠 割 壺3、鉢
土 師 割 丸底 坏a、小皿a、壺、破片	
白 磁 破片(1)	
瓦 類 平瓦(格子印)	
金 屬 製 品 磁 障	
S-135 灰褐色土	須 惠 割 壺
土 師 割 坏、小皿a、壺	
S-136	須 惠 割 壺1、壺
土 師 割 破片	
瓦 類 丸瓦(格子印)	
S-137	須 惠 割 壺
土 師 割 坏、壺	
S-138	土 師 割 坏、壺
土 製 品 不明土製品、とりべ	
S-139	須 惠 割 壺、壺
土 師 割 坏c、破片	
土 製 品 燒土塊	
S-140	須 惠 割 壺3、坏、坏c、壺、壺
土 師 割 坏、坏a、丸底 坏a、壺、破片	
須 惠 買 土 割 鉢鉢	
白 磁 障：破片(1) 破片(1)	
瓦 類 平瓦(格子印)、破片	
S-141	須 惠 割 坏、壺
土 師 割 坏	
S-142	須 惠 割 坏c、壺
土 師 割 坏、壺	
黒色土器 A破片	
瓦 類 平瓦(格子印)、破片	
金 屬 製 品 磁 障	
S-143	須 惠 割 壺
土 師 割 坏、壺、破片	
S-144	須 惠 割 壺3
土 師 割 坏、破片	
瓦 類 丸瓦(格子印)	
S-145b	須 惠 割 坏、破片
土 師 割 破片	
製 壺 土 割 破片	
S-145c	土 師 割 破片
S-145c 柱底	須 惠 割 坏c
土 師 割 破片	
S-145d	須 惠 割 壺3
土 師 割 丸底 坏a、壺、破片	
S-145e	土 師 割 坏、破片
S-145f	須 惠 割 坏
土 師 割 壺、破片	

S-145f 柱底	須 惠 割 壺
S-145f 側方	土 師 割 坏
S-145g	須 惠 割 坏a、丸底 坏a
S-145h	土 師 割 坏、壺
S-145j	土 師 割 坏
S-145k	須 惠 割 壺
土 師 割 坏a、破片	
S-145m	須 惠 割 破片
土 師 割 破片	
黒色土器 A破片	
S-145n 側方	土 師 割 破片
S-146	須 惠 割 坏、坏c、壺
土 師 割 坏、坏a、柄c、小皿a、壺、破片	
緑 釉 陶 器 土師 實：破片(1)	
瓦 類 平瓦(格子印)	
土 製 品 燒土塊	
S-147	須 惠 割 坏、破片
土 師 割 坏、壺	
S-148	須 惠 割 坏、壺
土 師 割 坏、坏a、丸底 坏a、壺	
黒色土器 A破片	
瓦 類 平瓦(格子印)	
石 製 品 割片	
S-149	土 師 割 破片
S-150a	土 師 割 坏、壺
石 製 品 割片(黒曜石)	
S-150b	須 惠 割 壺
土 師 割 坏、壺	
S-150c	土 師 割 壺
S-150e	土 師 割 小皿a、破片
石 製 品 石 磨	
S-151	須 惠 割 壺
土 師 割 坏、壺	
S-152	須 惠 割 坏、壺
土 師 割 丸底 坏a、柄c、小皿a、壺	
黒色土器 A破片	
瓦 類 平瓦(格子印)、破片	
S-153	土 師 割 坏、壺
S-154	須 惠 割 壺3
土 師 割 坏	
S-155 灰褐色土	須 惠 割 坏、坏c、壺
土 師 割 坏、坏a、柄c、小皿a、壺	
白 磁 障：IV-1a(1)、Ⅲ：VII(1)	
瓦 類 平瓦(無文)	
S-155 灰褐色土	須 惠 割 壺1、壺
土 師 割 坏、壺	
瓦 類 破片	
S-155 灰褐色土	須 惠 割 坏、壺
土 師 割 坏、壺	
S-156	須 惠 割 破片
土 師 割 坏、丸底 坏c	
越 州 瀛 系 青 磁 障 破片：I(1)	
S-157	須 惠 割 壺
土 師 割 坏、小皿a、壺	
白 磁 障：IV(1)	
S-158	須 惠 割 坏
土 師 割 坏	

S-159	土 師 割 坏、破片
金 屬 製 品 磁 障	
S-160 明褐色土	須 惠 割 壺1、壺c、坏c、壺
土 師 割 坏a、柄c、小皿a、壺	
黒色土器 A破片	
緑 釉 陶 器 土師 實：破片(1)	
瓦 類 平瓦(無文)	
S-160 灰色土	須 惠 割 壺、壺
土 師 割 坏、坏a、柄c、壺	
黒色土器 A柄c	
白 磁 水柱×壺(1)	
瓦 類 平瓦(格子印)	
石 製 品 磁 石	
S-160 灰色粘土	須 惠 割 壺4、壺×坏、壺
土 師 割 坏、壺	
瓦 類 破片(格子印)	
S-161	須 惠 割 壺1、破片
土 師 割 坏a、壺	
S-162	須 惠 割 坏c
土 師 割 坏、柄c、小皿a	
白 磁 障：IV(1)	
土 製 品 燒土塊	
S-163	須 惠 割 坏、壺
土 師 割 坏、壺	
黒色土器 A柄c	
瓦 類 破片	
S-164	須 惠 割 破片
土 師 割 坏、壺	
瓦 類 丸瓦(無文)	
石 製 品 割片(黒曜石)、石 磨	
S-165a	土 師 割 坏、壺
S-165a 柱底	土 師 割 坏、壺
土 師 割 坏、壺	
S-165a 側方	須 惠 割 坏
土 師 割 坏	
土 製 品 燒土塊	
S-165d	土 師 割 坏a、破片
土 師 割 坏a、破片	
S-165d 柱底	土 師 割 小皿a
土 製 品 燒土塊	
S-165d 側方	土 師 割 坏a、破片
瓦 類 破片(格子印)	
S-165f	土 師 割 坏
土 製 品 燒土塊	
S-165f 柱底	土 師 割 破片
土 製 品 燒土塊	
S-165f 側方	須 惠 割 壺
土 師 割 破片	
S-165h	土 師 割 坏
土 製 品 燒土塊	
S-165h 柱底	土 師 割 坏、丸底 坏a
S-165h 側方	土 師 割 坏、丸底 坏a
S-165i	土 師 割 坏
土 製 品 燒土塊	
S-165i 柱底	須 惠 割 壺
土 師 割 破片	
S-165i 側方	土 師 割 坏
S-166	須 惠 割 壺
土 師 割 坏、小皿a、壺	
黒色土器 A柄c	
石 製 品 磁 石	

S-167	須 惠 割 壺
土 師 割 坏	
灰 釉 陶 器 鉢(1)	
S-168	須 惠 割 坏、坏c、壺
土 師 割 坏、坏a、柄c、壺	
瓦 類 軒平瓦	
S-169	須 惠 割 坏、壺
土 師 割 坏	
瓦 類 丸瓦(破片)、平瓦(破片)	
S-170 灰褐色土	須 惠 割 坏、坏c、皿a、壺、壺
土 師 割 坏、坏a、丸底 坏a、丸底 坏c、柄c、小皿a、壺、器台?	
黒色土器 A柄c、小皿a、破片	
越 州 瀛 系 青 磁 障 破片：I(1)	
白 磁 水柱×壺(1) 破片：広東系(1)	
青 白 磁 破片(1)	
瓦 類 丸瓦(格子印)、平瓦(無文)、瓦玉	
石 製 品 滑石片	
土 製 品 燒土塊、磁 引口	
S-170 灰褐色土	須 惠 割 壺、壺1、壺3、坏、壺、壺
土 師 割 坏、坏a、丸底 坏a、丸底 坏c、柄c、小皿a、壺、器台?	
黒色土器 A柄c、小皿a、破片	
越 州 瀛 系 青 磁 障 破片：II-1(1) 壺：I(1)	
長 沙 瀛 系 青 磁 障 水柱×壺(2)	
瀛 系 瀛 系 青 磁 障：II-b(1)	
白 磁 障：I-1(1)、II-1(1)、IV(2)、XI(1)	
Ⅲ：II-1(1)、XI-4(1) 破片：(5)、広東系(2)	
灰 釉 陶 器 鉢(1)	
輸 入 須 惠 割 坏無軸 陶 器：壺	
瓦 類 丸瓦(格子印、格子印、破片)、平瓦(格子印、無文)	
石 製 品 チャート、礫石、滑石片	
土 製 品 トリべ、燒土塊	
S-170 灰色粘土	須 惠 割 壺
土 師 割 坏	
瓦 類 破片(格子印)	
S-170 灰褐色土	須 惠 割 坏、壺
土 師 割 坏a(?)、丸底 坏a、丸底 坏c、小皿a(?)、小皿a(1)、壺	
黒色土器 A柄c	
黒色土器 A破片	
瓦 類 割 破片	
須 惠 買 土 割 鉢	
輸 入 須 惠 割 坏無軸 陶 器：壺	
瓦 類 平瓦(格子印、無文)、破片(格子印)	
S-171	土 師 割 坏a、壺、破片
S-172	須 惠 割 壺3、坏、坏c、壺
土 師 割 坏、坏c、丸底 坏a、壺	
白 磁 障：広東系(1)	
瓦 類 平瓦(格子印、無文)、破片	
S-173	須 惠 割 鉢×壺
土 師 割 壺	
S-174	須 惠 割 壺
土 師 割 坏、破片	
S-175	須 惠 割 坏、坏a、壺
土 師 割 坏、柄c、壺	
黒色土器 A柄c	
瓦 類 丸瓦(格子印)、瓦玉	
S-176	須 惠 割 壺3、壺
土 師 割 坏、壺	
瓦 類 破片	
S-177	須 惠 割 坏、壺、破片
土 師 割 坏	
土 製 品 燒土塊	
S-178	土 師 割 破片
瓦 類 平瓦(格子印)	
S-179	須 惠 割 壺3
土 師 割 壺、破片	
瓦 類 平瓦(格子印)	
S-180 灰褐色土	須 惠 割 坏、坏c、壺、壺
土 師 割 坏、柄c、小皿a、壺、ツマミ	
黒色土器 A破片	
瓦 類 平瓦(格子印)、丸瓦(無文)、瓦玉	

S-180	須 惠 器蓋3, 环c, 雙
土 師 器环, 小皿a, 雙, 破片	
黑色土器 A 陶c, 破片	
白 磁陶: IV-c (1)	
瓦 類平瓦(鑄目印, 格子印)	

S-181	須 惠 器蓋3, 环c, 雙
土 師 器环, 丸底环a, 雙	
瓦 類破片	

S-182	須 惠 器环
土 師 器破片	

S-183	須 惠 器蓋3, 環
土 師 器环, 雙	

S-184	須 惠 器蓋, 环c, 雙
土 師 器环, 环c, 雙	

S-185 茶灰色土	須 惠 器蓋3, 环a, 雙, 壺, 破片
土 師 器环, 环a, 陶c, 小皿a, 雙, 器台	
黑色土器 A 陶c	
黑色土器 B 破片	
越州窯系青磁陶: II-2(1)	
中國陶器破片(2)	
弥生土器	
瓦 類丸瓦(格子印), 平瓦(格子印), 破片	
石 製 品滑石製品	

S-185	須 惠 器环, 雙, 壺
土 師 器环, 环a, 陶c, 小皿a	
黑色土器 A 破片	
瓦 類破片	

S-186	須 惠 器环, 雙
土 師 器环, 环a, 雙	
白 磁陶: 広東系(1)	
瓦 類平瓦(格子印, 破片)	

S-187	須 惠 器蓋, 破片
土 師 器环, 陶c, 雙	
瓦 類破片	
石 製 品石鏡	

S-188	須 惠 器环c, 雙
土 師 器陶c, 破片	
瓦 類破片	
金屬製品 釵淨	
石 製 品石鏡	
土 製 品佛土塊	

S-189	須 惠 器环, 雙
土 師 器环, 陶c, 雙	
瓦 類破片	

S-190 茶灰色土	須 惠 器环
土 師 器环	

S-190	須 惠 器蓋, 壺×鉢, 破片
土 師 器环, 丸底环, 陶c, 雙	
綠 釉 陶 器須惠實: 破片(1)	
白 磁陶: IV(1)	
瓦 類平瓦(格子印), 丸瓦(格子印, 無文)	

S-191	須 惠 器环, 破片
土 師 器环, 陶c, 雙	
越州窯系青磁陶: I(1)	
瓦 類平瓦(鑄目印), 軒丸瓦, 破片	

S-192	須 惠 器蓋4
土 師 器环a, 雙	

S-193	須 惠 器环
土 師 器环, 雙	
瓦 類破片(鑄目印)	

S-194	須 惠 器破片
土 師 器破片	

S-196	須 惠 器环, 雙
土 師 器环a, 环c, 雙	

S-197	須 惠 器环, 雙
土 師 器环a, 破片	
白 磁陶: IV(1)	

S-198	須 惠 器蓋
土 師 器环, 陶c, 雙	

S-199	須 惠 器环, 雙
土 師 器环, 陶c, 雙	
瓦 類平瓦(鑄目印)	

S-200	須 惠 器蓋
土 師 器蓋	

S-201	須 惠 器蓋
土 師 器蓋, 破片	

S-202	須 惠 器面碗, 破片
土 師 器环a, 陶c, 小皿a, 雙, 破片	
瓦 類丸瓦(無文)	

S-203	土 師 器破片
黑色土器 A 破片	

S-204	須 惠 器蓋, 壺3, 环c, 小环c, 雙
土 師 器环, 环c, 陶c, 皿a, 雙	
石 製 品銅片	

S-205 精灰色土	須 惠 器环, 大陶c, 雙, 鉢
土 師 器环, 环a(2), 环c, 皿a(2), 雙, 破片	
瓦 類丸瓦(無文), 平瓦(鑄目印)	
石 製 品磁石	

S-205 黄灰色土	須 惠 器环, 雙, 破片
土 師 器环a, 环c, 雙	
越州窯系青磁陶破片 I(2)	
瓦 類平瓦(鑄目印), 破片	

S-205 黑色粘土	須 惠 器蓋3, 环c, 环c, 皿a, 雙, 壺b
土 師 器环, 环a, 雙	
瓦 類平瓦(鑄目印), 丸瓦(無文)	

S-205 茶灰色土	須 惠 器蓋, 雙
土 師 器环, 陶c, 雙, 破片	

S-205 茶灰色土	須 惠 器蓋, 壺3, 环, 雙
土 師 器环, 环a, 陶c, 雙	
越州窯系青磁陶: 破片(1)	
瓦 類平瓦(鑄目印)	

S-205 灰色粘土	須 惠 器蓋3, 环
土 師 器环, 雙, 破片	

S-205 器物內	土 師 器环
-----------	--------

S-206	須 惠 器蓋3, 环, 雙
土 師 器环, 环c	

S-207	須 惠 器蓋3, 环, 环a, 雙
土 師 器环c, 雙, 破片	
越州窯系青磁陶: 破片(1)	
瓦 類破片	

S-208	須 惠 器破片
土 師 器破片	

S-209	土 製 品佛土塊
-------	----------

S-210 茶灰色土	須 惠 器环, 环c, 雙
土 師 器环a, 陶c, 雙, 器台, 破片	
黑色土器 A 陶c	
瓦 類平瓦(格子印)	
その 他皮	

S-210 精灰色土	須 惠 器蓋3, 环c, 雙
土 師 器环, 雙	
越州窯系青磁陶破片 I(1)	
白 磁陶: 広東系(1)	
輸入須惠 器朝鮮系無軸陶器	
瓦 類丸瓦(格子印)	

S-211	土 師 器丸底环a
石 製 品磁石	

S-212	須 惠 器环, 雙
土 師 器环, 丸底环a, 雙	
瓦 類破片	

S-213	須 惠 器环, 雙
土 師 器丸底环a, 小皿a, 雙	
灰 釉 陶 器百代寺? (1), 壺(1), 破片(1)	
黑色土器 A 破片	

S-214	土 師 器环, 高环, 雙
-------	---------------

S-215 精灰色土	須 惠 器蓋, 环, 雙, 壺×鉢
土 師 器环, 环a(2), 陶c, 破片	
黑色土器 A 陶c, 小雙	
黑色土器 B 陶c	
越州窯系青磁陶: I(2), II(1) 壺(壺蓋?) (2) 破片: I(2)	
瓦 類平瓦(鑄目印, 格子印), 丸瓦(格子印)	
石 製 品磁石	

S-215 茶灰色土	須 惠 器环, 环c, 皿a, 雙, 飯器?
土 師 器环a(2), 陶c, 小皿a(2), 高环, 雙	
黑色土器 A 陶c	
越州窯系青磁陶: 壺蓋(1) 破片: II(1)	
輸入須惠 器朝鮮系無軸陶器: 雙	
瓦 類平瓦(鑄目印, 格子印), 丸瓦(格子印)	
土 製 品佛土塊	

S-215 精灰色粘土	土 師 器环, 雙, 破片
黑色土器 A 陶c	
綠 釉 陶 器土師實: 破片(1)	
灰 釉 陶 器破片(1)	

S-216	須 惠 器环c, 雙
土 師 器环, 破片	

S-217	須 惠 器蓋, 雙
土 師 器环, 雙	
瓦 類破片(鑄目印, 格子印)	

S-218	須 惠 器蓋
土 師 器蓋, 破片	

S-219	須 惠 器蓋
土 師 器破片	

S-220	須 惠 器蓋, 壺×鉢, 破片
土 師 器环, 环a(2), 雙	
黑色土器 A 陶c	
越州窯系青磁陶: 破片: II(1)	
綠 釉 陶 器土師實: 破片約長(1)	
瓦 類破片	

S-221	須 惠 器蓋, 破片
土 師 器环	

S-222	土 師 器环a, 雙
-------	------------

S-223	須 惠 器蓋
土 師 器环, 雙	

S-224	須 惠 器环
土 師 器环, 环a, 雙	
石 製 品銅片(安山岩)	

S-225	須 惠 器蓋3, 雙, 破片
土 師 器环a, 丸底环a, 陶c, 小皿a, 雙	
瓦 類平瓦(鑄目印)	

S-226	須 惠 器环
土 師 器环	

S-227	須 惠 器环
土 師 器环	

S-229	土 師 器环, 雙
國 產 陶 器	
瓦 類平瓦(鑄目印)	

S-230 精灰色粘土	須 惠 器蓋3, 环, 雙
土 師 器环, 环a, 陶c, 皿a, 雙	
黑色土器 A 陶c	
瓦 類平瓦(格子印, 鑄目印)	

S-230 精灰色土	須 惠 器蓋3, 环, 环c, 雙
土 師 器环, 环a(2), 陶c, 雙	
黑色土器 A 陶c	
越州窯系青磁陶: 破片: I(1)	
灰 釉 陶 器破片(1)	
瓦 類丸瓦(格子印), 軒丸瓦, 破片(格子印)	
土 製 品佛土塊, 轉石口	

S-230 精灰色土	須 惠 器大陶c, 皿a, 雙
土 師 器环a, 陶c, 雙	
黑色土器 A 陶c	
黑色土器 B 陶c	
越州窯系青磁陶: I(1), I-2= (1) 破片: I(1)	
灰 釉 陶 器(1)	
瓦 類平瓦(鑄目印, 格子印)	

S-230 精灰色土	須 惠 器蓋
土 師 器环, 环a, 陶c, 雙	
黑色土器 A 破片	
越州窯系青磁陶: II-2b(1)	
瓦 類平瓦(格子印)	

S-230 精灰色砂	木 製 品曲物
------------	---------

S-230 黑青色土	須 惠 器蓋
土 師 器环a(2), 陶c, 雙	
黑色土器 A 陶c, 破片	
瓦 類平瓦(格子印)	
石 製 品磁石	

S-231	須 惠 器环, 雙
土 師 器环a, 雙	

S-232	土 師 器丸底环, 雙, 破片
-------	-----------------

S-233	土 師 器环, 雙
-------	-----------

S-234	土 師 器环, 丸底环, 雙
-------	----------------

S-235	須 惠 器蓋3, 环c, 高环, 雙
土 師 器环, 丸底环a, 陶c, 小皿a(2), 小皿a2, 雙	
黑色土器 A 陶c	
瓦 類平瓦(鑄目印), 破片	

S-236	須 惠 器破片
土 師 器环, 陶c, 破片	
越州窯系青磁陶: 破片: I(1)	
瓦 類破片	

S-237	土 師 器环, 雙
黑色土器 A 破片	

S-238	土 師 器环a, 小皿a, 雙
黑色土器 A 破片	

S-239	須 惠 器蓋
土 師 器环, 丸底环a, 陶c	
白 磁陶: XI-4(1) 水注×壺(1)	
瓦 類丸瓦(鑄目印)	
土 製 品佛土塊	

S-240 精灰色土	須 惠 器蓋, 环c, 高环, 雙
土 師 器丸底环a, 陶c, 小皿a, 雙	
黑色土器 A 破片	
越州窯系青磁陶: 破片: I(1)	
瓦 類破片	

S-240 黑灰色土	須 惠 器环a, 环c, 破片
土 師 器环, 丸底环, 陶c, 小皿a(2), 雙	
黑色土器 A 破片	

S-240 黄灰色土	土 師 器丸底环a, 小皿a(2), 三脚付皿, 破片
------------	-----------------------------

S-240 黑色粘土	須 惠 器蓋, 破片
土 師 器丸底环, 小皿a(2), 雙	
黑色土器 B 破片	
白 磁陶: 破片(1)	

S-241	須 惠 器蓋
土 師 器环, 雙, 破片	

S-243	須 惠 器蓋
土 師 器蓋, 破片	
黑色土器 A 陶c	
瓦 類丸瓦(格子印), 平瓦(格子印)	

S-244	土 師 器丸底环a, 小皿a
越州窯系青磁陶: 破片: I(2)	
白 磁陶: IV(1)	
瓦 類平瓦(鑄目印)	

S-245 灰色砂	須 惠 器环, 环c, 雙
土 師 器环, 陶c, 雙	
黑色土器 A 破片	
瓦 類平瓦(鑄目印)	

S-245	須 惠 器蓋3, 环, 环c, 雙
土 師 器环, 雙	
黑色土器 A 破片	
黑色土器 B 破片	
灰 釉 陶 器百代寺? (1)	
白 磁陶: IV(1), XII-1b(1)	
瓦 類丸瓦(格子印), 平瓦(格子印), 破片(無文)	

S-246
須惠 銅環, 環c, 雙, 壺?
土師 銅環, 銅c, 小皿a, 壺, 把手
黑色土器 A 陶
越州窯系青磁 破片: 1-2x(1) 破片II(1)
綠釉陶 土師實: 破片(1)
織文土 銅破片

S-247
土師 銅環c, 小皿a, 破片

S-248
土師 銅九底環a, 雙, 破片
越州窯系青磁 破片: I(1)

S-249
須惠 銅壺
土師 銅環

S-250
須惠 銅環, 環c, 雙
土師 銅環, 銅c, 小皿a, 壺
黑色土器 A 破片
黑色土器 B 破片
越州窯系青磁 破片: I(1)
靑釉陶 銅百代寺? (1)
瓦 類九瓦(無文), 平瓦(無文, 破片), 瓦玉, 破片(格子印)
土製 品燒土塊

S-250茶色土
須惠 銅壺
土師 銅環
黑色土器 A 陶, 破片
瓦 類平瓦

S-251
須惠 銅壺
土師 銅環a, 破片

S-252
土師 銅環
金屬製品 銅淨

S-253
須惠 銅環
土師 銅環a, 壺

S-254茶灰色土
土師 銅環

S-255
須惠 銅壺, 大壺, 壺x壺
土師 銅環a, 銅c, 小皿a, 把手
黑色土器 A 破片
黑色土器 B 破片
越州窯系青磁 破片: I(1), II(4)
瓦 類平瓦, 九瓦(格子印)
金屬製品 破片

S-256茶灰色土
須惠 銅壺3
土師 銅環, 破片

S-257黑灰色土
須惠 銅壺c
土師 銅壺, 環a, 壺

S-258茶灰色土
須惠 銅環

S-259
土師 銅破片

S-260茶色土
須惠 銅壺3, 壺c, 環, 環c, 雙, 鉢
土師 銅環, 環a, 銅c, 小皿a(多), 壺, 器台
黑色土器 A 陶, 破片
越州窯系青磁 破片I? (1)
白磁 壺: V-2b(1) 破片(1)
瓦 類平瓦(格子印)
石製 品? (1)

S-260茶灰色土
須惠 銅壺3, 環
土師 銅環, 環a, 九底環a, 小皿a, 壺, 破片
黑色土器 A 陶
瓦 類平瓦(格子印)

S-261
須惠 銅壺3, 壺
土師 銅壺c, 雙, 破片
越州窯系青磁 破片: I(1)
瓦 類破片

S-262
須惠 銅環, 環c
土師 銅環, 環a, 壺

S-263
須惠 銅環, 壺
土師 銅環a, 銅c, 壺

S-264
須惠 銅壺
土師 銅環

S-265
須惠 銅壺3, 壺c, 環c, 環c, 壺
土師 銅環, 銅c, 小皿a, 皿a, 壺
黑色土器 A 陶c
越州窯系青磁 破片: I(1)
瓦 類平瓦(網目印, 無文)

S-266
土師 銅環, 壺

S-267
土師 銅環, 環a, 銅c, 壺
白磁 破片(1)
瓦 類破片(格子印)

S-268
土師 銅環, 壺
瓦 類九瓦(格子印)

S-269
土師 銅環, 環c, 破片
黑色土器 A 破片

S-270
須惠 銅壺3, 環c, 壺
土師 銅環, 九底環a, 銅c, 小皿a, 壺
黑色土器 A 陶c
黑色土器 B 陶c, 破片
越州窯系青磁 破片: I(1), II(2)
瓦 類平瓦(格子印), 破片

S-271
須惠 銅壺
土師 銅壺

S-272
須惠 銅環, 破片
土師 銅環, 壺
瓦 類九瓦(格子印)

S-273
須惠 銅壺
土師 銅環, 小皿a
白磁 壺: II-1(1)

S-274
須惠 銅環c, 壺, 破片
土師 銅環, 環a, 九底環a, 小皿a, 壺
黑色土器 A 陶c
瓦 類破片(網目印, 無文)

S-274黑灰色土
須惠 銅環a, 壺
土師 銅環, 環c, 壺
瓦 類破片

S-275a
須惠 銅壺
土師 銅九底環a, 小皿a(多), 破片
白磁 壺: 破片(1)
金屬製品 銅淨
土製 品燒土塊

S-275b
須惠 銅壺
土師 銅壺
黑色土器 A 陶c
瓦 類平瓦(無文)
土製 品燒土塊

S-275c
土師 銅環, 破片

S-275d
土師 銅環
土製 品燒土塊

S-275e
土師 銅環, 壺

S-275e柱底
土師 銅環

S-275g
須惠 銅壺
土師 銅環a, 銅c
瓦 類軒九瓦

S-275h
須惠 銅壺
土師 銅環a, 銅c, 壺
黑色土器 A 壺
綠釉陶 銅須惠實: 破片(1)
土製 品燒土塊

S-275i
土師 銅環

S-275i柱底
土師 銅環

S-275k
土師 銅環, 壺
土製 品燒土塊

S-275k柱底
土師 銅環

S-276
土師 銅破片

S-277
須惠 銅環
土師 銅環, 小皿a

S-278
土師 銅環, 壺

S-279
須惠 銅壺
土師 銅環c, 環, 小皿a, 壺
越州窯系青磁 破片: II(1)

S-280a
土師 銅環
白磁 壺: II-1(1)
瓦 類平瓦
金屬製品 銅淨
土製 品燒土塊

S-280b
土師 銅環, 壺

S-280c
須惠 銅環, 壺
土師 銅環, 環a, 壺
土製 品燒土塊

S-281
須惠 銅環
土師 銅環, 壺, 破片

S-282
須惠 銅環

S-283
須惠 銅壺
土師 銅環, 環a, 壺
黑色土器 A 破片
瓦 類平瓦(格子印)
石製 品剝片(黑曜石)

S-284
須惠 銅環
土師 銅環, 壺

S-285a
須惠 銅破片
土師 銅環, 小皿a, 壺
黑色土器 B 陶
白磁 壺: II-1(3), 広東系(1)
土製 品燒土塊

S-285a柱底
土師 銅環
白磁 水柱x壺(1)
土製 品燒土塊

S-285a壺り方
土師 銅環

S-285b
須惠 銅環
土師 銅環, 小皿a(多)
土製 品燒土塊

S-285b壺り方
土師 銅破片
白磁 壺: V(1)
土製 品燒土塊

S-285c
須惠 銅壺, 破片
土師 銅環, 小皿a
黑色土器 B 陶c
須惠實土 銅鉢
土製 品燒土塊

S-285c壺り方
土師 銅環, 九底環a
須惠實土 銅鉢

S-285c柱底
土師 銅環, 小皿a
須惠實土 銅鉢
白磁 壺: II-1(1)

S-285d
土師 銅環, 銅c
土製 品燒土塊

S-285d壺り方
白磁 壺: II-1a(1)
土製 品燒土塊

S-285d柱底
土師 銅環, 小皿a
白磁 破片(1)

S-285e
須惠 銅環
土師 銅環, 環a
土製 品燒土塊

S-285e柱底
土師 銅環

S-285e壺り方
土師 銅環, 小皿a
白磁 壺: II-1(1)

S-285f
須惠 銅壺
土師 銅環, 九底環a, 小皿a, 壺
黑色土器 A 破片
白磁 破片: 広東系(1)
土製 品燒土塊

S-285g
須惠 銅壺
土師 銅環
白磁 破片(1)

S-285g柱底
須惠 銅環
土師 銅環
土製 品燒土塊

S-285h
土師 銅環

S-285h壺り方
土師 銅環

S-285i
土師 銅環, 壺

S-285j
須惠 銅環
土師 銅環
土製 品燒土塊

S-285k
須惠 銅壺3, 環, 壺
土師 銅環, 破片

S-285k壺り方
土師 銅環

S-286
土師 銅環, 壺

S-287
須惠 銅環, 壺
土師 銅環, 九底環
黑色土器 B 破片
瓦 類九瓦

S-288
須惠 銅壺
土師 銅環, 壺, 破片
白磁 壺(1)

S-289
土師 銅壺
瓦 類平瓦(格子印)

S-290茶灰色土
須惠 銅壺, 壺3, 環, 環a, 環c, 壺, 破片
土師 銅環, 九底環a, 小皿a(多), 壺
黑色土器 A 陶c
瓦 類平瓦(格子印, 網目印, 無文)
土製 品燒土塊

S-290茶灰色土
須惠 銅壺1, 環, 環a, 環c, 壺
土師 銅環, 環a, 壺
黑色土器 A 陶c, 破片
赤生土 銅壺
その他 炭

S-290茶灰色粘土
須惠 銅壺c, 環, 壺, 壺
土師 銅環, 九底環a, 小皿a(多), 小皿a2, 壺
黑色土器 A 陶c
綠釉陶 銅須惠實: 破片(1)
白磁 壺: XII-1a(1), 破片(1)
瓦 類九瓦(網目印, 格子印), 平瓦(無文)
石製 品基石
土製 品九瓦

S-290茶褐色粘土
須惠 銅環c, 壺, 壺
土師 銅環, 九底環a, 小皿a(多), 小皿a2, 壺
黑色土器 A 陶c
綠釉陶 銅須惠實: 破片(1)
白磁 壺: XII-1a(1), 破片(1)
瓦 類九瓦(網目印, 格子印), 平瓦(無文)
石製 品基石, 剝片

S-291
土師 銅壺

S-292
須惠 銅壺

S-293
須惠 銅環a, 壺
土師 銅環c, 壺

S-294
須惠 銅壺3
土師 銅環, 壺

S-295
金屬製品 破釘

S-296	須 惠 器 蓋3, 坏, 壺
土 師 器 坏, 坏a	
黒色土器 A 破片	
瓦 類 丸瓦(罫目印)	

S-297	須 惠 器 壺
土 師 器 壺	

S-298	須 惠 器 坏
土 師 器 坏	

S-299	須 惠 器 坏
土 師 器 坏c, 壺	

S-300茶色土	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏a, 丸底坏a, 坏c, 小皿a, 壺, 把手	
瓦 類 平瓦(罫目印), 丸瓦(罫目印)	
土 製 品 燒土塊	

S-300灰色粘土	須 惠 器 蓋3, 坏, 坏c, 壺, 壺
土 師 器 坏, 丸底坏, 壺	
黒色土器 A 破片	
緑 釉 陶 器 土師 實: 里: 京都(1), 破片(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印), 丸瓦(罫目印)	

S-300暗灰色土	須 惠 器 壺, 坏a, 坏c, 壺, 壺
土 師 器 坏, 坏a, 坏c, 壺	
白 磁 破片(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印)	

S-300褐色粘土	須 惠 器 里a, 壺
土 師 器 坏, 坏c, 壺	
瓦 類 平瓦(罫目印)	

S-300茶褐色土	須 惠 器 蓋3, 破片
土 師 器 坏, 坏a, 坏c	
黒色土器 A 破片	
越州系青磁 破片: I(1)	
瓦 類 破片	
石 製 品 礫石	

S-300暗灰色粘土	須 惠 器 蓋3, 坏, 坏c, 壺
土 師 器 坏, 坏c, 丸底坏, 小皿a(逆?), 壺	
白 磁 蓋: VII(1)	
瓦 類 破片	

S-301	須 惠 器 鉢, 破片
土 師 器 坏, 坏c, 小皿a, 壺	
黒色土器 A 破片	
瓦 類 平瓦(罫目印)	

S-302	須 惠 器 坏c, 壺
土 師 器 丸底坏, 破片	

S-303	土 師 器 坏
黒色土器 B 破片	

S-304	須 惠 器 壺
土 師 器 坏c, 壺, 破片	
黒色土器 A 坏c	

S-305茶灰色土	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 丸底坏, 小皿a, 壺, 器台	
越州系青磁 破片: I(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印, 無文)	

S-306灰色砂	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏, 壺	
瓦 類 平瓦(罫目印)	

S-306黒茶色土	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 壺	
瓦 類 破片	
土 製 品 燒土塊	

S-306暗灰色土	須 惠 器 壺
土 師 器 坏	
瓦 類 平瓦(罫目印, 罫目印), 軒平瓦	
石 製 品 礫石	
土 製 品 燒土塊	

S-307	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 坏c, 壺	

S-308	須 惠 器 坏, 壺, 壺
土 師 器 坏, 坏c, 壺	

S-309	土 師 器 壺
-------	---------

S-310灰褐色土	須 惠 器 坏c, 坏a, 壺, 破片
土 師 器 丸底坏a, 坏c, 小皿a(逆?), 壺, 壺	
黒色土器 A 破片	
越州系青磁 破片: I(1), II(1) 破片: I(1), II(1), III(1)	
灰 釉 陶 器 蓋?(1)	
白 磁 陶: IV-1b(1) 破片(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印, 罫目印), 丸瓦(無文), 破片	
石 製 品 礫石	
土 製 品 燒土塊, 轉石口	

S-310暗灰色土	須 惠 器 蓋3, 坏, 壺
土 師 器 坏, 丸底坏a, 小皿a(逆?), 壺	
白 磁 陶(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印, 罫目印), 破片	
石 製 品 礫石	

S-310黒灰色粘土	須 惠 器 蓋c, 坏c, 高坏, 壺
土 師 器 坏, 丸底坏, 坏c, 小皿a(逆?), 把手	
黒色土器 A 破片	
越州系青磁 破片: I-1b(1), III-1(1)	
緑 釉 陶 器 須 惠 實: 陶京郡(1)	
白 磁 陶: I(1), I-1(1) 壺: VI-2b(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印)	
石 製 品 礫石	
土 製 品 トリ<	

S-310黒青色粘土	須 惠 器 蓋1, 坏a, 坏c, 壺
土 師 器 坏a, 坏a(蓋蓋あり), 丸底坏a, 坏c, 小皿a(逆?), 壺	
黒色土器 A 破片	
越州系青磁 破片: II(1), III(1)	
白 磁 陶: XI-1(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印, 罫目印), 瓦玉	
石 製 品 礫片(黒曜石)	

S-311	土 師 器 破片
-------	----------

S-313	土 師 器 破片
-------	----------

S-314	土 師 器 壺
-------	---------

S-315	須 惠 器 蓋1, 蓋3, 坏, 坏a, 坏c, 大坏c, 壺, 壺, 鉢
土 師 器 坏, 坏c, 里a, 大皿a, 大皿c, 壺	
製 場 土 師 破片	
瓦 類 平瓦(罫目印)	
石 製 品 礫石	

S-315灰褐色土	須 惠 器 蓋1, 蓋e, 坏, 坏c, 壺
土 師 器 坏, 坏a, 坏d, 里a, 壺, 鉢	
製 場 土 師 破片	
瓦 類 平瓦(罫目印), 丸瓦(無文)	
土 製 品 燒土塊	

S-315明灰色土	須 惠 器 蓋3, 坏, 壺, 鉢
土 師 器 坏, 壺	

S-315茶灰色土	須 惠 器 蓋3, 坏, 坏a, 坏c, 里a, 高坏, 壺
土 師 器 坏, 坏d, 坏a, 坏c, 壺, 鉢	
黒色土器 A 破片	
瓦 類 平瓦(罫目印, 無文)	
土 製 品 燒土塊	

S-315灰茶色土	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 壺, ツマミ, 破片	
瓦 類 破片	

S-316	須 惠 器 破片
土 師 器 坏, 破片	

S-317	須 惠 器 坏a
土 師 器 坏, 小皿a, 壺	
黒色土器 A 坏	
瓦 類 平瓦(罫目印), 丸瓦(罫目印)	

S-318	須 惠 器 壺, 破片
土 師 器 坏a, 坏c, 小皿a	
瓦 類 破片	
石 製 品 礫石	

S-319	土 師 器 坏, 小皿a
-------	--------------

S-320茶褐色土	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏a, 丸底坏a, 坏c, 小皿a, 小皿c, 壺	
黒色土器 B 破片	
越州系青磁 破片 I(1)	
白 磁 陶: IV-1a(1), IV(2), V-1a(1), V(1), 破片(1)	
V-4×VII1-3(1) 破片: (1), 広東系(4)	
里: 広東系(1), VI-2b(1), VI(1), VI-2(1), VI-1a(1)	
瓦 類 丸瓦(罫目印), 平瓦(罫目印, 罫目印)	
土 製 品 燒土塊	

S-320灰色粘土	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 丸底坏a, 小皿a	
黒色土器 A 破片	
白 磁 陶(1)	
瓦 類 丸瓦(無文), 軒平瓦, 破片	

S-321	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏, 坏a, 壺	
瓦 類 平瓦(罫目印, 罫目印)	

S-322	須 惠 器 坏a
-------	----------

S-323	土 師 器 坏, 壺
-------	------------

S-324	土 師 器 丸底坏a
瓦 類 丸瓦	

S-325b	土 師 器 坏, 坏c, 壺
黒色土器 A 破片	

S-325c	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 壺	

S-326	土 師 器 坏
-------	---------

S-327	土 師 器 坏, 壺
-------	------------

S-328	須 惠 器 壺
土 師 器 坏a, 坏c, 壺	

S-329茶灰色土	須 惠 器 坏a, 壺
土 師 器 坏, 坏a, 坏c, 壺	
瓦 類 丸瓦(罫目印), 平瓦(罫目印)	

S-329	須 惠 器 高坏, 壺
土 師 器 坏a, 壺, 破片	
瓦 類 破片	

S-330暗灰色粘土	須 惠 器 坏c, 里a, 壺
土 師 器 坏a, 丸底坏, 坏c, 小皿a(逆?), 壺	
黒色土器 A 破片	
黒色土器 B 坏c	
越州系青磁 破片: I(1)	
白 磁 陶: V-1a(1), V(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印, 罫目印)	
石 製 品 礫石	

S-330黒茶色土	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏, 坏a, 坏c, 壺	
黒色土器 A 坏c	
瓦 類 平瓦(罫目印)	

S-330灰色粘土	須 惠 器 蓋4, 坏c, 壺, 壺
土 師 器 坏a, 丸底坏a, 小皿a(逆?), 小皿c	
瓦 類 丸瓦(罫目印, 罫目印), 平瓦(罫目印, 無文)	
石 製 品 礫物	

S-330灰茶色土	須 惠 器 盖c, 坏a, 坏c, 壺×鉢
土 師 器 坏a, 丸底坏a, 坏c, 小皿a, 壺, 器台	
黒色土器 A 坏c, 破片	
灰 釉 陶 器 破片(1)	
白 磁 陶: IV(1) 破片(1)	
瓦 類 丸瓦(罫目印, 罫目印, 無文), 平瓦(罫目印, 罫目印)	
金 属 製 品 用途不明鉄製品	
そ の 他 木炭	

S-330茶色土	須 惠 器 坏a, 坏c, 破片
土 師 器 坏, 坏c, 小皿a, 高坏, 破片	
白 磁 陶: IV(2)	
瓦 類 平瓦(罫目印)	
石 製 品 礫石製品	

S-330木製品⑤	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
木 製 品 曲物	

S-331	須 惠 器 破片
土 師 器 坏	
白 磁 破片(1)	

S-332	土 師 器 坏
-------	---------

S-333	土 師 器 破片
灰 釉 陶 器 蓋(1)	
瓦 類 破片	

S-334	須 惠 器 壺, 破片
土 師 器 坏, 壺, 破片	
黒色土器 A 破片	
土 製 品 燒土塊	

S-335	須 惠 器 壺
土 師 器 坏a, 坏c, 破片	
越州系青磁 破片: I(1)	
中 国 陶 器 破片(1)	

S-335暗茶色土	須 惠 器 蓋3, 坏a, 坏c, 壺, 高坏
土 師 器 坏a, 坏c, 壺, ツマミ	
黒色土器 A 坏	
越州系青磁 破片: I(2)	
緑 釉 陶 器 須 惠 實: 陶東海?(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印), 破片(罫目印)	
土 製 品 燒土塊	

S-335灰灰色土	須 惠 器 坏c, 高坏, 壺, 破片
土 師 器 坏a, 坏c, 壺	
黒色土器 A 坏	
越州系青磁 破片: II(1)	
緑 釉 陶 器 須 惠 實: 破片(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印, 無文), 破片(罫目印)	
土 製 品 燒土塊	

S-335灰色土	須 惠 器 坏, 高坏, 壺
土 師 器 坏a, 壺	
黒色土器 A 坏	
瓦 類 平瓦(罫目印)	

S-336	須 惠 器 破片
土 師 器 坏, 坏c, 壺	

S-337	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 壺	

S-338	須 惠 器 壺
土 師 器 坏	

S-339	須 惠 器 鉢×壺
土 師 器 坏, 壺	
黒色土器 B 破片	
瓦 類 丸瓦(無文)	

S-340a	須 惠 器 壺
--------	---------

S-340a	須 惠 器 蓋3, 坏, 壺
土 師 器 坏a, 破片	
瓦 類 丸瓦(罫目印), 平瓦(罫目印)	

S-340b柱底	須 惠 器 蓋3, 壺
土 師 器 坏, 坏a, 坏c	
瓦 類 平瓦(罫目印)	

S-340c柱底	土 師 器 坏
----------	---------

S-340c	須 惠 器 壺
土 師 器 坏a, 坏c, 壺, 破片	
緑 釉 陶 器 土師 實: 里防長(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印)	

S-340d	須 惠 器 破片
土 師 器 坏, 壺	

S-340d柱底	土 師 器 壺
----------	---------

S-340e	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 坏c, 壺	
黒色土器 A 破片	

S-340f	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 壺	
黒色土器 A 坏	

S-340f柱底	土 師 器 壺, 破片
----------	-------------

S-340g	須 惠 器 蓋3, 坏
土 師 器 坏, 壺	
黒色土器 A 坏	
越州系青磁 破片: III(1)	
瓦 類 破片	

S-341	須 惠 器 壺
土 師 器 坏a, 壺	

S-342	土 師 器 坏c
-------	----------

S-385 黑灰色土	
須惠	器 器环a, 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器
黑色土器	A 器c
黑色土器	B 器c
越州系青磁	器片I(1)
越州系青磁	器片II(1)
越州系青磁	器片III(1)
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文), 瓦瓦(格子印)

S-386	
土師	器 器环a, 器片
黑色土器	A 器片

S-387	
須惠	器 器3, 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器
黑色土器	A 器片
越州系青磁	器片I(1)
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-388	
須惠	器 器
土師	器 器环, 器a, 器
黑色土器	A 器, 器c, 器片

S-389	
須惠	器 器
土師	器 器环, 器
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-390	
須惠	器 器3, 器, 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器, 器a(器?), 器a(器?), 器
黑色土器	A 器, 器c
白磁	磁: IV(4), V-1xVII-2(1), 器片(1)
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文)

S-390 黑灰色土	
須惠	器 器3, 器, 器片
土師	器 器环, 器a, 器c, 器, 器a(器?)
黑色土器	A 器片
黑色土器	B 器c
越州系青磁	器片I(3)
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文)

S-390 青灰色土	
須惠	器 器, 器, 器片
土師	器 器环, 器a, 器c, 器, 器a(器?)
黑色土器	A 器c, 器片
黑色土器	B 器片
越州系青磁	器片II(1)
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-391	
須惠	器 器, 器片
土師	器 器片

S-392	
須惠	器 器3
土師	器 器环, 器, 器片
黑色土器	A 器c
石製	品 石, 器, 器石

S-393	
須惠	器 器3
土師	器 器环, 器

S-394	
須惠	器 器环, 器, 器片
土師	器 器环, 器
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-395 黄色砂	
須惠	器 器, 器, 器片
土師	器 器环a, 器c, 器a, 器c, 器a, 器c, 器a, 器c, 器台, 器
黑色土器	A 器c
越州系青磁	器: I-5(1)
石製	品 石, 器, 器石

S-395 灰褐色土	
須惠	器 器, 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器a
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文)

S-395 灰褐色土	
須惠	器 器环, 器, 器, 器, 器片
土師	器 器环, 器a, 器c, 器a, 器c, 器a(器?), 器, 器, 器台
黑色土器	A 器片
黑色土器	B 器c
越州系青磁	器: I-2r(1), II-2(1) 器片I(3)
越州系青磁	器片II(1)
越州系青磁	器片III(1)
越州系青磁	器片IV(1)
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文), 瓦瓦(格子印, 無文)
石製	品 石, 器

S-395 灰褐色土	
須惠	器 器3, 器c, 器, 器, 器, 器片
土師	器 器环, 器a, 器c, 器a, 器c, 器a(器?), 器, 器, 器台
黑色土器	A 器c, 器片
黑色土器	B 器c, 器片
越州系青磁	器: I(1) 器片I(3)
越州系青磁	器片II(1)
越州系青磁	器片III(1)
越州系青磁	器片IV(1)
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文), 瓦瓦(格子印, 無文), 器片
石製	品 器石

S-395 黑灰色土	
須惠	器 器, 器片
土師	器 器环, 器a, 器c
黑色土器	B 器
瓦	瓦 瓦(格子印), 瓦瓦(無文)

S-396	
須惠	器 器3, 器, 器
土師	器 器环, 器
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-397	
須惠	器 器3, 器c, 器
土師	器 器环, 器
瓦	瓦 瓦(無文)
金銀製	品 器, 器
石製	品 器石

S-398	
須惠	器 器3, 器, 器, 器, 器
土師	器 器环, 器, 器
製塩土	器 器, 器
瓦	瓦 瓦(無文)
土製	品 器土塊

S-399 器り方	
土師	器 器环, 器

S-399 柱底	
土師	器 器环, 器
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-400 灰色粘土	
須惠	器 器环, 器c, 器, 器, 器片
土師	器 器环a, 器a(器?), 器c, 器a, 器c(器?), 器, 器, 器
黑色土器	A 器c, 器片
黑色土器	B 器
越州系青磁	器: I-2r(1)
白磁	磁: II-1(1)
輸入須惠	器 器, 器, 器, 器, 器
瓦	瓦 瓦(格子印), 瓦瓦
石製	品 器石

S-400 黑灰色土	
須惠	器 器环, 器, 器, 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器a, 器c(器?), 器c, 器
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文)

S-400 灰褐色土	
須惠	器 器3, 器, 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器a, 器c(器?), 器
黑色土器	A 器c, 器片
越州系青磁	器: II(1) 器片I(1)
中国陶	器 器片(1)
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文)
石製	品 器石

S-400 灰色土	
須惠	器 器环, 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器a, 器c(器?), 器c, 器, 器台
黑色土器	A 器c
越州系青磁	器: I-5(1)
中国陶	器 器片(1)
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文), 瓦瓦(無文)
石製	品 器石

S-401	
須惠	器 器环, 器
土師	器 器环, 器
石製	品 器石

S-402	
須惠	器 器环, 器
土師	器 器环, 器
灰粘陶	器 器(1)

S-403	
須惠	器 器
土師	器 器环, 器c, 器
黑色土器	A 器c
瓦	瓦 瓦(格子印)
金銀製	品 器, 器

S-404	
須惠	器 器
土師	器 器环, 器
黑色土器	A 器片

S-405 黑灰色土	
須惠	器 器
土師	器 器, 器a, 器片

S-405 青灰色土	
土師	器 器环, 器
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文)

S-406	
土師	器 器环a, 器

S-407	
須惠	器 器片
土師	器 器环a, 器a, 器
黑色土器	A 器c, 器片
黑色土器	B 器片

S-408	
土師	器 器环, 器

S-409	
須惠	器 器, 器, 器片
土師	器 器环, 器片
瓦	瓦 瓦(無文)

S-410 黑灰色土	
須惠	器 器3, 器c, 器, 器, 器x器
土師	器 器环a(器?), 器c, 器a, 器c, 器a, 器c, 器
黑色土器	A 器c, 器片
中国陶	器 器片(1)
瓦	瓦 瓦(格子印), 器片(無文)

S-410 灰褐色土	
須惠	器 器c, 器, 器a, 器c, 器, 器, 器x器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器
黑色土器	A 器, 器c, 器片
越州系青磁	器片I(1)
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文), 瓦瓦(格子印), 器片(格子印)
土製	品 器土塊

S-410	
須惠	器 器c, 器, 器a, 器, 器, 器h
土師	器 器环, 器a(器?), 器c, 器
黑色土器	A 器c
越州系青磁	器?I(1)
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文), 瓦瓦(格子印, 無文)
石製	品 器石?

S-411	
須惠	器 器
土師	器 器c, 器片
土製	品 器土塊

S-412	
須惠	器 器环c
土師	器 器环, 器c
白磁	磁: IV(1)
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-413	
須惠	器 器环c, 器
土師	器 器环, 器c, 器

S-414	
須惠	器 器3, 器
土師	器 器环, 器c, 器
黑色土器	A 器c, 器片
越州系青磁	器: I-2(1), 器片: II(1)
越州系青磁	器片: I-2(1), 器片: II(1)
越州系青磁	器片: I-2(1), 器片: II(1)
越州系青磁	器片: I-2(1), 器片: II(1)
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-415	
須惠	器 器3, 器, 器h
土師	器 器环a, 器c, 器
黑色土器	A 器c, 器片
越州系青磁	器: II(1)
越州系青磁	器片: II(1)
越州系青磁	器片: II(1)
越州系青磁	器片: II(1)
瓦	瓦 瓦(格子印), 瓦瓦(格子印)

S-416	
須惠	器 器
土師	器 器环, 器

S-417	
須惠	器 器3, 器c, 器, 器片
土師	器 器环, 器c, 器
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-418	
須惠	器 器3, 器
土師	器 器环a, 器c, 器
黑色土器	A 器c, 器片
瓦	瓦 瓦(無文), 器片(格子印)

S-419	
須惠	器 器, 器1, 器, 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器
越州系青磁	器片: I(1)
越州系青磁	器片: I(1)
越州系青磁	器片: I(1)
越州系青磁	器片: I(1)
瓦	瓦 瓦(無文)

S-420a 黄色土	
須惠	器 器环c, 器片
土師	器 器3, 器

S-420b 灰褐色土	
須惠	器 器3, 器c, 器, 器片
土師	器 器环, 器
石製	品 器石
土製	品 器土塊

S-420b 灰色粘土	
土師	器 器片

S-420b 黄色土	
土師	器 器环, 器片

S-420c 灰褐色土	
須惠	器 器

S-421	
須惠	器 器环, 器
土師	器 器环, 器a, 器
黑色土器	A 器片

S-422	
土師	器 器

S-423	
須惠	器 器
土師	器 器c, 器a, 器
黑色土器	A 器c
越州系青磁	器片II(1)
土製	品 器土塊

S-424	
土師	器 器环, 器, 器a, 器
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-425	
須惠	器 器3, 器c, 器, 器a, 器c, 器, 器
土師	器 器环, 器a(器?), 器d, 器c, 器(器?)
黑色土器	A 器片
瓦	瓦 瓦(無文), 瓦瓦(格子印)

S-426	
須惠	器 器1, 器3, 器a, 器, 器
土師	器 器环, 器
製塩土	器 器, 器
瓦	瓦 瓦, 器片
石製	品 器石

S-427	
須惠	器 器c, 器, 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-428	
須惠	器 器环
土師	器 器环, 器a, 器c, 器

S-429	
須惠	器 器3, 器c, 器, 器, 器, 器x器
土師	器 器环, 器c, 器
製塩土	器 器, 器
石製	品 器石

S-430 灰色粘土	
須惠	器 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器
黑色土器	A 器片
越州系青磁	器片: I(1)
瓦	瓦 瓦(格子印), 器片

S-430 黑色土	
須惠	器 器, 器片
土師	器 器环, 器

S-430 灰褐色土	
須惠	器 器
土師	器 器c, 器a, 器(器?)
白磁	磁: IV-1b(1)

S-431	
須惠	器 器3, 器, 器
土師	器 器环, 器c, 器, 器片

S-432	
土師	器 器环, 器

S-433	
土師	器 器c, 器
瓦	瓦 瓦(格子印)

S-434	
須惠	器 器片
土師	器 器环, 器a, 器a
瓦	瓦 瓦(無文)

S-435	
須惠	器 器环
土師	器 器环, 器

S-436	
須惠	器 器c, 器
土師	器 器环, 器c, 器
瓦	瓦 瓦(無文)
石製	品 器石

S-437	
須惠	器 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器

S-438	
土師	器 器环, 器a, 器

S-439	
須惠	器 器, 器片
土師	器 器环, 器a, 器

S-440	
須惠	器 器
土師	器 器环a, 器片

S-441	
須惠	器 器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器

S-442	
須惠	器 器环c, 器, 器x器
土師	器 器环, 器a, 器c, 器a, 器c, 器a, 器c, 器
黑色土器	A 器片
越州系青磁	器片: I(1), II(1)
瓦	瓦 瓦(格子印, 無文), 瓦瓦(格子印)
石製	品 器石

S-443
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺

S-444
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-445
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-446
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺
瓦 類 破片

S-447
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺

S-448
土 師 器 壺

S-449
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-450
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺
黑色土器 壺
綠 釉 陶 器 土師實: 破片防長(1)
瓦 類 破片(格子印)

S-451
土 師 器 壺
瓦 類 破片(格子印, 無文)
土 製 品 丸玉

S-452
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺
灰 釉 陶 器 壺(1)

S-453
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺

S-454
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺

S-455 黑灰色土
須 惠 器 壺, 壺, 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺
黑色土器 壺

S-455 暗灰色粘土
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺
白 磁 器: II(1)
瓦 類 破片(格子印)

S-455 黃灰色土
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺

S-456
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺
瓦 類 破片

S-457
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺
越州窯系青磁 壺: I-2=(1)
石 製 品 礫石

S-458
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-459
土 師 器 壺, 壺
瓦 類 平瓦(格子印)

S-460 黑色土
須 惠 器 壺, 壺, 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺
白 磁 器: I(1)
瓦 類 平瓦(格子印, 無文)

S-460 暗灰色粘土
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺
黑色土器 壺
瓦 類 平瓦(格子印)
石 製 品 礫石

S-460 黑色粘土
須 惠 器 壺, 壺, 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺
黑色土器 壺

S-460 黑色粘土
須 惠 器 壺, 壺, 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺
瓦 類 平瓦(格子印)

S-460 暗灰色粘土
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺
黑色土器 壺
瓦 類 平瓦(格子印)

S-460 黑色粘土
須 惠 器 壺, 壺, 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺
瓦 類 平瓦(格子印)

S-460 黑色粘土
須 惠 器 壺, 壺, 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺
瓦 類 平瓦(格子印)

S-460 黑色粘土
須 惠 器 壺, 壺, 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺
瓦 類 平瓦(格子印)

S-460 黑灰色土
須 惠 器 壺, 壺, 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺
越州窯系青磁 壺: III-1b(1)
綠 釉 陶 器 土師實: 破片(1)
白 磁 器: IV(1), XI(1)
瓦 類 平瓦(格子印, 破片), 丸瓦(格子印, 無文)

S-460 高灰色粘土
須 惠 器 壺, 壺, 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺
瓦 類 破片(格子印)

S-461
土 師 器 壺
金 屬 製 品 鐵釘

S-462
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺
白 磁 器: V-1b(1)

S-463
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺
黑色土器 壺
瓦 類 平瓦(格子印)

S-464
須 惠 器 壺, 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺

S-465a 柱穴
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺

S-465a 壺方
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺

S-465b 柱穴
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-465c 柱穴
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-465d 壺方
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺

S-465e 柱穴
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-465f 壺方
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺

S-465g 柱穴
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺

S-465h 柱穴
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺

S-466
土 師 器 壺

S-467
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺
越州窯系青磁 壺: II(1)

S-468
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-469
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺
瓦 類 破片

S-470
須 惠 器 壺, 壺, 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺
瓦 類 丸瓦(格子印, 無文), 平瓦(格子印)

S-471
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺
瓦 類 平瓦(格子印), 破片(格子印)

S-472
土 師 器 壺, 壺

S-473
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺
越州窯系青磁 壺: I-5(1)

S-474
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺
瓦 類 平瓦(格子印)

S-475a
土 師 器 壺, 壺, 壺, 壺

S-475b 壺方
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺
瓦 類 破片(格子印)

S-475c 柱穴
須 惠 器 壺
土 師 器 壺

S-475e 柱穴
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺

S-475c 壺方
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺

S-476
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺

S-477
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺
黑色土器 壺
越州窯系青磁 壺: I(1)
金 屬 製 品 鐵釘

S-478
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺

S-479
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺
瓦 類 平瓦(格子印)
土 製 品 礫石塊

S-480c 柱穴
土 師 器 壺

S-480e 黑色土
土 師 器 壺

S-480e 壺方
土 師 器 壺, 壺

S-480f 柱穴
土 師 器 壺

S-480f 柱木
土 師 器 壺

S-480h 柱穴
須 惠 器 壺

S-480j 柱穴
土 師 器 壺
土 製 品 礫石塊

S-480k 壺方
須 惠 器 壺

S-480m 黑色土
須 惠 器 壺, 壺, 壺, 壺

S-480p 黑色土
土 師 器 壺

S-480q 黑色土
土 師 器 壺

S-480r 柱穴
須 惠 器 壺, 壺

S-480s 黑色土
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-480t 壺方
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-480v 壺方
土 師 器 壺

S-480w 柱穴
須 惠 器 壺
土 師 器 壺

S-480x 柱穴
須 惠 器 壺, 壺

S-481
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺
越州窯系青磁 壺: I(1)

S-482
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺
灰 釉 陶 器 壺(1)
白 磁 器: IV(1), 西耳壺(1)
瓦 類 平瓦(格子印), 破片

S-483
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺

S-484
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺
黑色土器 壺
瓦 類 平瓦(格子印, 無文)

S-485a
石 製 品 礫石(黑曜石)

S-485a 柱穴
須 惠 器 壺

S-485b
須 惠 器 壺
土 師 器 壺

S-485b 壺方
須 惠 器 壺

S-485d
須 惠 器 壺

S-485d 柱穴
土 師 器 壺

S-485e 柱穴
須 惠 器 壺

S-485f 柱穴
須 惠 器 壺
石 製 品 礫石

S-485g 壺方
須 惠 器 壺

S-485g 柱穴
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺

S-486
土 師 器 壺, 壺
金 屬 製 品 鐵釘

S-487
土 師 器 壺

S-488
土 師 器 壺, 壺

S-489
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺
土 製 品 礫石塊

S-490a 柱穴
須 惠 器 壺
土 師 器 壺

S-490a 壺方
土 師 器 壺

S-490b 壺方
土 師 器 壺

S-490b 柱穴
須 惠 器 壺
土 師 器 壺

S-490c 壺方
土 師 器 壺

S-490c
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-490c 柱穴
須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 壺

S-491
須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 壺, 壺, 壺

S-492
須 惠 器 壺
土 師 器 壺
瓦 類 平瓦(格子印), 破片(格子印)

S-493	須 惠 銅 蓋 壺
土 師 銅 環, 丸底 環	
瓦 類 平瓦(無文)	
S-494	土 師 銅 環, 壺
S-495b 柱 痕	土 師 銅 破片
S-496	須 惠 銅 環, 壺
土 師 銅 環, 丸底 環	
瓦 類 平瓦(鑄目印, 格子印)	
石 製 品 礫石	
土 製 品 燒土塊	
S-497	須 惠 銅 壺, 破片
土 師 銅 環, 壺	
瓦 類 破片	
S-498	須 惠 銅 環, 高 環?, 破片
土 師 銅 環, 壺	
瓦 類 破片	
S-499	土 師 銅 環
瓦 類 破片	
S-500a 柱 痕	土 師 銅 破片
S-500b 無 方	石 製 品 割片(安山岩)
S-501	土 師 銅 環, 丸底 環, 小 皿 a
S-502	須 惠 銅 環, 壺
土 師 銅 丸底 環 a, 銅 c	
S-503	須 惠 銅 壺
土 師 銅 環, 壺, 把手	
瓦 類 平瓦(鑄目印, 無文), 破片	
S-504	土 師 銅 丸底 環 a, 小 皿 a, 破片
S-505 明 灰 色 土	須 惠 銅 蓋 1, 壺, 破片
土 師 銅 環, 環 a, 銅 c, 壺	
綠 釉 陶 類 須 惠 實: 京 京 郡 (1)	
瓦 類 破片	
S-505 灰 色 土	須 惠 銅 環, 壺
土 師 銅 環 a, 銅 c	
S-505 灰 色 粘 土	須 惠 銅 蓋 3, 環, 環 a, 壺
土 師 銅 環 a(多), 小 皿 a(多), 銅 c	
瓦 類 平瓦(鑄目印, 無文), 平瓦(鑄目印, 格子印), 破片(鑄目印)	
S-505 暗 灰 色 粘 土	須 惠 銅 蓋 1, 壺 3, 環, 環 a, 壺, 壺 蓋, 壺 蓋 鉢, 鉢 b, 盤, 大 銅 c, 小 環 a
土 師 銅 環 a(多), 銅 c(多), 壺 a, 壺 蓋 b, 壺 蓋 e, 盤	
瓦 類 平瓦(鑄目印, 無文), 平瓦(鑄目印, 格子印), 破片(鑄目印)	
S-506	須 惠 銅 蓋 環
土 師 銅 蓋 環, 破片	
瓦 類 破片	
白 磁 陶: II(1) 破片: 広 東 系 (1)	
そ の 他 灰	
S-507	須 惠 銅 環, 環 c
土 師 銅 環, 環 a, 丸底 環, 壺	
瓦 類 平瓦(鑄目印)	
S-508	須 惠 銅 蓋 3, 環, 壺
土 師 銅 環, 環 a, 丸底 環, 銅 c, 壺	
瓦 類 平瓦(鑄目印)	
S-509	須 惠 銅 蓋 1, 壺 3, 環, 壺
土 師 銅 環, 壺	
綠 釉 陶 類 須 惠 實: 破 片 (1)	
土 製 品 燒土塊	

S-510 灰 色 土	須 惠 銅 蓋 壺, 壺 蓋 × 鉢, 鉢, 盤
土 師 銅 環, 環 a(多), 銅 c, 壺, 壺 蓋, 壺 蓋 鉢, 鉢 b	
瓦 類 平瓦(鑄目印)	
S-510 青 灰 色 粘 土	須 惠 銅 蓋 壺
土 師 銅 環, 壺	
瓦 類 平瓦(鑄目印)	
S-510 灰 色 粘 土	須 惠 銅 壺
土 師 銅 壺	
瓦 類 軒 平瓦	
S-510 暗 灰 色 土	須 惠 銅 壺, 鉢
土 師 銅 壺, 壺	
瓦 類 軒 平瓦	
S-510 暗 灰 色 粘 土	須 惠 銅 壺, 壺?
土 師 銅 環 a, 環 c, 小 皿 c, 銅, 銅 c, 壺	
瓦 類 軒 平瓦	
S-510 青 灰 色 土	須 惠 銅 蓋 3, 壺 c, 環 a, 銅 c, 壺, 壺 蓋
土 師 銅 環, 環 a(多), 壺	
瓦 類 軒 平瓦	
S-511	須 惠 銅 蓋 1, 壺 3, 環, 環 c
土 師 銅 壺, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(無文)	
S-512	須 惠 銅 蓋 3, 壺
土 師 銅 壺, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(無文)	
S-513	須 惠 銅 環, 鉢?
土 師 銅 環, 銅 c, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(無文)	
S-514	須 惠 銅 環, 環 c
土 師 銅 環, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(無文)	
S-515 茶 色 土	須 惠 銅 蓋 1, 壺 3, 壺 c, 環 a, 環 c, 環 a, 環 c, 環 a, 高 環
土 師 銅 環 a(多), 銅 c(多), 壺 a, 壺 蓋 b, 壺 蓋 e, 盤	
瓦 類 軒 平瓦(無文), 平瓦(鑄目印, 格子印), 破片(鑄目印)	
S-515 茶 色 土	須 惠 銅 蓋 3, 環, 環 a, 環 c, 壺, 壺 蓋, 壺 蓋 鉢, 鉢 b, 盤, 大 銅 c, 小 環 a
土 師 銅 環 a(多), 銅 c(多), 壺 a, 壺 蓋 b, 壺 蓋 e, 盤	
瓦 類 軒 平瓦(無文), 平瓦(鑄目印, 格子印), 破片(鑄目印)	
S-516	須 惠 銅 蓋 3, 環, 環 a, 環 c, 壺
土 師 銅 環 a, 銅 c, 壺	
瓦 類 軒 平瓦	
S-517	須 惠 銅 環, 環 c, 壺
土 師 銅 環, 銅 c	
瓦 類 軒 平瓦	

S-518	須 惠 銅 蓋 1, 環, 環 c, 壺
土 師 銅 環 a, 壺	
瓦 類 軒 平瓦	
S-519	須 惠 銅 環, 壺
土 師 銅 破片	
S-520 茶 色 土	須 惠 銅 蓋 3, 環, 環 a, 環 c, 壺, 壺 蓋 × 鉢, 鉢, 破片
土 師 銅 環, 銅 c, 壺, 把手	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印, 無文), 平瓦(鑄目印, 格子印)	
S-520 茶 色 粘 土	須 惠 銅 環, 壺, 壺
土 師 銅 環, 銅 c, 壺	
瓦 類 軒 平瓦	
S-522 上 層	須 惠 銅 蓋 3, 環, 環 c, 壺
土 師 銅 環, 丸底 環, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(無文)	
S-522 下 層	須 惠 銅 蓋 1, 壺 3, 環 c
土 師 銅 壺	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印)	
S-523	須 惠 銅 環, 環 c
土 師 銅 丸底 環 a, 小 皿 a	
瓦 類 軒 平瓦(無文), 平瓦(無文), 破片(鑄目印)	
S-524	須 惠 銅 蓋 3, 壺 c, 環
土 師 銅 環, 丸底 環, 銅 c, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(無文), 平瓦(無文), 破片(鑄目印)	
S-525	須 惠 銅 蓋 3, 壺 c, 環, 環 c, 壺, 壺 蓋 × 鉢, 鉢, 破片
土 師 銅 環, 環 a(多), 銅 c, 壺, 壺 蓋, 壺 蓋 鉢, 鉢 b, 盤	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印, 無文), 平瓦(鑄目印, 格子印), 破片(鑄目印)	
S-526	須 惠 銅 壺
土 師 銅 環	
瓦 類 軒 平瓦(無文)	
S-527	土 師 銅 環, 小 皿 a
瓦 類 軒 平瓦(無文)	
S-528	須 惠 銅 破片
土 師 銅 環, 環 a, 小 皿 a, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(無文)	
S-529	須 惠 銅 破片
土 師 銅 環, 丸底 環, 銅 c	
S-530 黑 灰 色 粘 土	須 惠 銅 環, 環 a, 環 c, 壺, 壺 蓋?, 壺 蓋 b, 壺 蓋 d
土 師 銅 蓋 壺, 環 a(多), 銅 c, 銅 蓋 壺, 壺 蓋 鉢, 鉢 b	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印, 無文), 平瓦(鑄目印, 格子印), 破片(鑄目印)	

S-530 黑 灰 色 粘 土	須 惠 銅 蓋 3, 環 a, 環 c, 壺
土 師 銅 環 a(多), 銅 c, 壺 a, 壺 蓋, 壺 蓋 鉢, 鉢 b	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印, 無文), 平瓦(鑄目印, 無文)	
S-531	土 師 銅 環, 丸底 環 a
S-532	須 惠 銅 壺
土 師 銅 環, 壺	
S-533 上 層	須 惠 銅 環, 壺
土 師 銅 環, 環 a, 壺	
S-533 下 層	須 惠 銅 蓋 3, 壺 c, 環 c, 環 c, 壺
土 師 銅 環, 環 a, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印)	
S-534	須 惠 銅 壺 c
土 師 銅 環	
S-535	須 惠 銅 環, 壺, 壺
土 師 銅 環, 環 a, 銅 c, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印)	
S-536	須 惠 銅 環, 壺
土 師 銅 環 a, 壺	
S-537	須 惠 銅 壺
土 師 銅 環, 環 a, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印)	
S-538	須 惠 銅 壺 c, 壺 a
土 師 銅 環, 環 a, 銅 c, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印), 丸瓦(無文)	
S-539	須 惠 銅 蓋 3, 壺 c, 壺
土 師 銅 環, 銅 c, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印), 丸瓦(鑄目印, 無文)	
S-540	須 惠 銅 蓋 3, 環 c, 壺, 壺 蓋 × 鉢
土 師 銅 環, 環 a(多), 壺 a(多), 銅 c, 壺, 壺 蓋, 壺 蓋 鉢, 鉢 b	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印, 無文), 平瓦(鑄目印, 無文)	
S-541	須 惠 銅 環 c, 壺
土 師 銅 環, 銅 c, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印)	
S-542	須 惠 銅 環, 壺
土 師 銅 環, 環 a, 銅 c, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印)	
S-543	須 惠 銅 壺
土 師 銅 環, 銅 c, 小 皿 a, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印)	
S-544	須 惠 銅 壺, 壺 × 鉢
土 師 銅 環, 環 a, 銅 c, 小 皿 a, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印)	
S-545 黑 茶 色 土	須 惠 銅 蓋 壺, 壺, 破片
土 師 銅 環, 環 a(多), 壺 a(多), 銅 c, 壺	
瓦 類 軒 平瓦(鑄目印)	

S-602	須惠 銅環、壺
土師 銅環a、壺、把手	
黒色土器 A破片	
緑釉陶器 須惠實：里京郡(1)	
石製 品 石棧(安山岩)	
S-603黄灰色土	
須惠 銅環、壺	
土師 銅環、壺	
黒色土器 A破片	
S-603灰褐色土	
須惠 銅蓋3、壺c、環a、環c、壺	
土師 銅環a、丸底環a、銅c、小皿a	
黒色土器 A破片	
白磁 陶：II-1(1) 皿：XI-7(1)、破片(2) 破片(1)	
瓦 類 瓦(無文)、平瓦(罫目印)、セシ?	
石製 品 銅片(黒曜石)、滑石製品	
土製 品 燒土塊	
金屬製品 鉛板	
S-604	
須惠 銅壺	
土師 銅環、丸底環a、小皿a、壺	
黒色土器 A破片	
瓦 類 瓦(罫目印、無文)	
S-605	
須惠 銅環	
土師 銅壺、銅付筒、破片	
越州窯系青磁 陶：I-2ア(1)、I-2ク(1)	
弥生土 銅高環、壺、蓋	
金屬製品 鉛淨	
石製 品 銅片(黒曜石)	
S-606	
須惠 銅環、壺	
土師 銅環、丸底環a、小皿a、壺	
S-607	
須惠 銅壺	
土師 銅環c、小皿a、壺	
瓦 類 平瓦(無文)	
S-608	
土師 銅破片	
越州窯系青磁 破片I(2)	
S-609	
須惠 銅環a	
土師 銅環、丸底環c、壺	
越州窯系青磁 陶：I-2ク(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印)、丸瓦(罫目印)	
S-610暗灰色土	
須惠 銅壺、大壺	
土師 銅環、小皿a、壺	
越州窯系青磁 陶：I(1)	
瓦 類 瓦(罫目印、無文)、平瓦(罫目印)	
S-610暗灰色粘土	
土師 銅丸底環?	
黒色土器 A破片	
瓦 類 平瓦(罫目印、無文)	
S-610灰色砂	
須惠 銅環c	
土師 銅環	
瓦 類 破片(無文)	
S-610淡灰色粗砂	
土師 銅壺	
S-611	
須惠 銅環	
土師 銅環、壺	
S-612	
土師 銅環	
S-613	
須惠 銅蓋1、蓋3、環c、高環、壺	
土師 銅環、丸底環、銅c、壺、器台	
黒色土器 A破片	
瓦 類 瓦(罫目印、破片)	
S-614	
須惠 銅環、壺	
土師 銅環、丸底環、小皿a、壺	
白磁 陶：IV(1)、破片(1)	
S-615茶色砂	
須惠 銅蓋3、壺c、環a、環c、高環、壺、蓋a、蓋b、蓋×鉢	
銅、把手、破片	
土師 銅環、環a(罫)、銅c、高環、壺、破片	
黒色土器 A破片	
黒色土器 B破片	
越州窯系青磁 陶：I(4)、I-1b(1)、I-2x(2)、I-1a×I-3(2)、I-5(1)、II(2)、II-2b(1)	
皿：II(1) 破片：I(6)	
緑釉陶器 須惠實：破片(2)	
灰釉陶器 平瓦(1)、皿(1)、破片(1)	
白磁 破片(1)	
輸入須惠 銅朝鮮系無釉陶器	
瓦 類 平瓦(罫目印、罫目印)、丸瓦(罫目印、無文)、軒平瓦、破片	
金屬製品 鉛淨	
土製 品 セシ	
石製 品 銅片(黒曜石)、基石、磁石	

S-615黄灰色砂	須惠 銅蓋3
土師 銅環	
S-615灰色砂	須惠 銅蓋c、環c、高環、壺、蓋d
土師 銅環、環a(罫)、銅c、壺、把手	
黒色土器 A破片	
越州窯系青磁 陶：I(4)、I-1a(2)、I-2ア(1)、I-2ク(1)、I-5(2)	
皿：II(1)、II-2b(2) 香炉(1) 破片I(5)、II(1)	
長沙窯系青磁 陶類(1)	
緑釉陶器 須惠實：桐京郡(2)、破片(1)	
灰釉陶器 破片(1)	
白磁 陶：I-1(2)	
瓦 類 平瓦(罫目印、罫目印、無文)、丸瓦(罫目印、無文)、軒平瓦	
金屬製品 鉛淨	
石製 品 石鍋、基石、丸石	
土製 品 土馬	
S-616	須惠 銅蓋3、環c、壺
土師 銅環a、壺	
灰釉陶器 破片(1)	
S-617	須惠 銅蓋3、環c、壺
土師 銅環a、壺	
黒色土器 A破片	
S-618	須惠 銅環、壺
土師 銅環	
弥生土 銅壺	
S-619	須惠 銅環c
土師 銅環、壺	
S-620	須惠 銅蓋3、壺c、環c、銅c、高環、壺、大壺、蓋
土師 銅環a(罫)、銅c、高環、壺	
黒色土器 A破片	
黒色土器 B破片	
越州窯系青磁 陶：I-1a×I-3(1) 皿：未分類(1) 破片：I(1)	
緑釉陶器 須惠實：里京郡(1)、破片及部(1) 土師實：防長(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印、無文)、丸瓦(罫目印)	
金屬製品 鉛淨	
S-621	須惠 銅蓋、環
土師 銅環、環a、壺	
瓦 類 平瓦(罫目印、無文)	
S-622	須惠 銅環、壺
土師 銅環a、壺	
土製 品 燒土塊	
S-623	須惠 銅蓋c、環c、壺
土師 銅蓋、環a、銅c、壺	
黒色土器 A破片	
瓦 類 平瓦(罫目印、無文)	
S-624	須惠 銅蓋3、環c、壺
土師 銅環、壺	
黒色土器 A破片	
S-625淡灰色土	須惠 銅環、壺
土師 銅環a(罫)、銅c、銅、壺	
瓦 類 平瓦(罫目印)	
石製 品 丸石	
S-625茶灰色土	須惠 銅環c、壺
土師 銅環、環a、銅c、壺	
黒色土器 A破片	
瓦 類 平瓦(罫目印)	
S-625暗灰色土	須惠 銅環c
土師 銅環a(罫)、壺	
その他 炭	
S-626	須惠 銅環、壺
土師 銅環a、小皿a、壺	
S-627	須惠 銅破片
土師 銅環	
S-628	須惠 銅壺、破片
土師 銅丸底環a	
瓦 類 平瓦(罫目印、無文)	
S-629柱底	土師 銅破片
S-629團方	須惠 銅蓋c、壺
土師 銅小皿a、壺	
輸入須惠 銅朝鮮系無釉陶器	

S-631	須惠 銅環
土師 銅環、小皿a、壺	
瓦 類 瓦(無文)、破片(罫目印)	
S-632	須惠 銅破片
土師 銅環c、壺	
S-633	須惠 銅壺
土師 銅環、銅c	
S-634	須惠 銅環、壺
土師 銅環a、壺	
黒色土器 A破片	
S-636	須惠 銅壺
土師 銅環、銅c、壺	
瓦 類 瓦(罫目印)、瓦玉	
S-637	須惠 銅環、壺
土師 銅環c、壺	
黒色土器 A破片	
白磁 陶：破片(1)	
S-638	須惠 銅環
土師 銅環	
瓦 類 平瓦(無文)	
S-639	須惠 銅蓋3
土師 銅環a、銅c、壺	
越州窯系青磁 陶：I-2ア(1)	
S-641	須惠 銅蓋3
土師 銅環、壺	
瓦 類 瓦(罫目印)	
S-643	須惠 銅壺
土師 銅環、丸底環a、銅c、小皿a、壺	
瓦 類 瓦(罫目印)、破片(無文)	
S-644	土師 銅丸底環、銅c、小皿a、壺
黒色土器 A破片	
S-646	須惠 銅壺
土師 銅環、環a、壺	
瓦 類 瓦(罫目印)、破片	
S-647	須惠 銅蓋3、環c、壺
土師 銅環、環a、銅c、壺	
黒色土器 A破片	
越州窯系青磁 破片：I(1)	
土製 品 燒土塊	
S-648	須惠 銅壺
土師 銅環、環a	
S-649	須惠 銅壺
土師 銅環、壺	
S-651	須惠 銅蓋?
土師 銅環、銅c、壺	
黒色土器 A破片	
S-652	須惠 銅環
土師 銅環、環a	
S-653	須惠 銅壺
土師 銅環、壺	
黒色土器 A破片	
緑釉陶器 須惠實：破片(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印)	
S-654	土師 銅環、銅c
S-657	須惠 銅蓋2
土師 銅環、環a、壺	
瓦 類 破片	
S-658	土師 銅環c
S-659	須惠 銅壺
土師 銅環a、銅c、壺	
黒色土器 A破片	
S-662	須惠 銅壺
土師 銅丸底環a、壺	
瓦 類 破片	

S-663	土師 銅環、壺
瓦 類 平瓦(無文)	
S-664	土師 銅環、壺
黒色土器 A破片	
瓦 類 破片、瓦玉	
S-666	土師 銅丸底環
S-667	須惠 銅環c
土師 銅環	
瓦 類 破片	
土製 品 燒土塊	
S-668	須惠 銅壺
土師 銅環、壺	
S-669	須惠 銅環、壺
土師 銅蓋、環a、小皿a、壺	
S-671	須惠 銅環、壺
土師 銅環、環a、銅c、皿a、壺	
瓦 類 破片	
S-672	須惠 銅環、環a、壺
土師 銅環	
黒色土器 A破片	
S-674	須惠 銅環a、壺、破片
土師 銅環、環a、銅c、壺	
黒色土器 A破片	
瓦 類 破片	
S-676	須惠 銅壺
土師 銅環、環a、壺	
黒色土器 A破片?	
S-677	須惠 銅蓋3、壺c、壺
土師 銅丸底環a、銅c、小皿a、壺	
白磁 陶：IV(1)、破片(1) 皿：V(1) 破片(1)	
石製 品 石鍋	
S-677暗灰色土	須惠 銅環a、環c、壺
土師 銅環、壺	
瓦 類 破片(罫目印、無文)	
S-678淡灰色土	須惠 銅環c、壺
土師 銅環a、丸底環a、銅c、小皿a、高環	
越州窯系青磁 陶：I-5(1)	
白磁 陶：V(3)、V-1b(1)、V-2b(1) 皿：破片(1) 小壺(1)	
瓦 類 瓦(罫目印)、平瓦(罫目印)、破片(無文)	
石製 品 丸石	
土製 品 燒土塊	
S-678	須惠 銅蓋c、環c、壺
土師 銅環a、丸底環a、銅c、小皿a(罫)、器台	
白磁 陶：V-1a(2) 破片(2)	
瓦 類 平瓦(罫目印、罫目印)、丸瓦(無文)、破片	
石製 品 基石	
土製 品 燒土塊	
S-679	須惠 銅壺
土師 銅環、環a、壺	
瓦 類 平瓦(罫目印)	
S-681	須惠 銅環、壺
土師 銅環、壺	
S-682	土師 銅環、壺
S-683	土師 銅破片
S-684	土師 銅環a、小皿a、壺
黒色土器 A破片	
S-686	須惠 銅環
土師 銅環	
S-687	土師 銅環、壺
S-688	須惠 銅破片
土師 銅壺	

S-689	須惠 器环, 變
土師 器环	
S-691	須惠 器環
土師 器环, 丸底环a, 小皿a	
S-692	須惠 器环, 环a, 變
土師 器环, 环a, 丸底环, 變	
黑色土器 A破片	
S-693	須惠 器蓋3
土師 器环, 變	
S-694	土師 器环
S-696	須惠 器环, 變
土師 器环, 變	
黑色土器 A破片	
S-697	須惠 器环, 环c
土師 器环, 丸底环a	
瓦 類瓦玉	
土製 品焼土塊	
S-698	須惠 器環
土師 器环a, 小皿a, 變	
黑色土器 A破片	
瓦 類丸瓦(無文)	
S-699	須惠 器環
土師 器环, 丸底环a, 柄c, 變	
黑色土器 A柄c	
白 磁陶: I-1(1)	
瓦 類丸瓦(格子印, 無文)	
S-701	須惠 器环, 變
土師 器环, 环a, 變	
黑色土器 A柄c	
S-702	須惠 器蓋3
土師 器破片	
S-703	須惠 器环, 變
土師 器环, 變	
S-704	須惠 器蓋1, 蓋3, 环, 环c, 皿a, 高环, 變
土師 器环, 环a, 小皿a	
黑色土器 A破片	
土製 品焼土塊	
S-706	須惠 器環, 破片
土師 器环, 變	
黑色土器 A鉢	
S-707	須惠 器环c, 變
土師 器丸底环, 變	
S-708	須惠 器环c, 變
土師 器环a, 丸底环a, 小皿a, 變	
瓦 類平瓦(罫目印, 格子印)	
S-709	須惠 器環
土師 器环, 小皿a, 變	
瓦 類平瓦(格子印)	
S-711	土師 器小皿a, 破片
白 磁陶: 破片(1)	
S-712	須惠 器盤
土師 器环	
瓦 類丸瓦	
S-713	須惠 器环, 變
土師 器环a, 柄c, 小皿a, 變	
黑色土器 A柄c	
瓦 類平瓦(格子印), 丸瓦(無文)	
石製 品基石	
S-714	須惠 器破片
土師 器环, 變	
瓦 類破片	
S-716	須惠 器环
土師 器破片	

S-717	須惠 器环a, 變
土師 器环, 环a, 柄c, 小皿a, 變	
黑色土器 A柄c	
須惠 實土 粉鉢	
白 磁陶: II-1(2), V-2b(1), 破片(1)	
皿: VII-b(1), 破片(1) 破片: 広東系(1)	
瓦 類平瓦(罫目印, 格子印), 破片(罫目印, 無文), 瓦玉	
石製 品石鉢	
S-718	須惠 器蓋c, 环, 环c, 皿a, 變, 鉢
土師 器环, 环a, 柄c, 小皿a(変), 變, 器台	
黑色土器 A柄c, 破片	
綠釉陶 須惠實: 柄×広東都(1)	
白 磁陶: I(1), 破片(1) 破片(1)	
瓦 類平瓦(格子印, 無文)	
石製 品基石, 滑石	
S-719	須惠 器环, 變
土師 器环, 环a, 丸底环a, 柄c, 小皿a, 變	
黑色土器 A破片	
白 磁陶: II(1)	
輸入 須惠 器粉鉢系無軸陶器	
瓦 類平瓦(格子印, 無文), 丸瓦(格子印, 無文), 破片	
S-721	須惠 器蓋3, 變
土師 器环	
白 磁陶: V(1)	
S-722	須惠 器环c, 高环, 變
土師 器环a, 丸底环, 柄c, 小皿a(変), 變	
越州窯系青磁陶: I-2a(1)	
瓦 類平瓦(格子印)	
石製 品滑石製品, 刺片(安山岩)	
S-723	須惠 器蓋3, 环, 變, 蓋
土師 器环, 环a, 丸底环a, 小皿a(変), 變, 把手	
黑色土器 A柄c	
瓦 類丸瓦(格子印, 無文)	
石製 品磁石	
S-724	須惠 器環
土師 器环, 變	
瓦 類平瓦(格子印)	
S-726	須惠 器蓋3, 蓋c, 环, 环a, 环c, 高环, 變, 蓋, 器耳
土師 器丸底环a, 柄c, 小皿a(変), 變, 器台	
黑色土器 A柄, 粉付柄, 破片	
黑色土器 器c	
越州窯系青磁陶: I-1b(1), II(1) 破片: I(7), II(3)	
綠釉陶 須惠實: 柄(1), 柄×皿(1), 破片(2)	
灰釉陶 須惠(1), 破片(1)	
白 磁陶: II-1(3), IV-1b(1), IV(7), V(1), V-1×VII-2(1), 破片(3)	
皿: 広東系(1) 水注×蓋(1) 破片(2)	
瓦 類平瓦(格子印, 罫目印), 丸瓦(格子印, 無文)	
瓦 類丸瓦, 破片(罫目印), 瓦玉	
石製 品基石, 丸石	
土製 品轉羽口	
S-727	須惠 器环, 环a, 环c, 變, 鉢?
土師 器蓋, 环, 环a, 丸底环, 柄c, 變, ツマミ	
黑色土器 A破片	
黑色土器 器c	
越州窯系青磁陶: I-1a(1) 破片: I(1), II(1)	
瓦 類平瓦(格子印, 罫目印, 無文)	
S-728	須惠 器蓋3, 蓋4, 蓋c, 环, 环a, 环c, 环身, 高环, 變, 蓋
土師 器环, 环a, 丸底环a, 柄c, 小皿a(変), 變, 鉢	
黑色土器 A柄	
黑色土器 器c	
越州窯系青磁陶: I-1b(1), I-5(1) 破片: I(5), I輪花(1)	
綠釉陶 須惠實: 柄×広東都(2), 皿(1)	
白 磁陶: IV(1), 破片(1)	
輸入 須惠 器粉鉢系無軸陶器	
瓦 類平瓦(格子印, 罫目印, 無文)	
石製 品石鉢, 輕石, 滑石	
土製 品丸玉, 土鉢	
S-729	須惠 器蓋3, 环a, 环c, 蓋?
土師 器环a, 丸底环, 柄c, 變	
瓦 類破片(罫目印, 格子印)	
S-731	須惠 器环a, 變
土師 器环, 柄c, 變	
黑色土器 A柄	
瓦 類平瓦(罫目印)	
S-732	須惠 器蓋3, 环
土師 器环, 變, 破片	
黑色土器 A破片	
S-733	土師 器小皿a, 變, 破片

S-734	須惠 器環
土師 器破片	
瓦 類平瓦(罫目印, 格子印), 丸瓦(格子印)	
S-736	須惠 器環
土師 器环, 环a, 柄c, 小皿a	
灰釉陶 器鉢(1)	
瓦 類平瓦(格子印)	
石製 品基石	
S-737	須惠 器環
土師 器环, 變	
S-738	須惠 器环c, 變, 蓋
土師 器环a, 柄c, 變, 鉢, 破片	
瓦 類平瓦(格子印), 丸瓦(無文)	
S-739	須惠 器环, 變
土師 器环, 柄c, 變	
S-741	須惠 器環
土師 器环	
土製 品轉羽口	
S-742	須惠 器環
土師 器柄c, 小皿a, 變	
黑色土器 A破片	
S-743	須惠 器环, 變
土師 器环, 小皿a	
白 磁陶: II(1), II-1(1)	
S-744	土師 器环
黑色土器 A破片	
瓦 類丸瓦(無文)	
S-746	須惠 器蓋?
土師 器破片	
S-747	須惠 器蓋3, 环c, 變
土師 器环, 环a, 柄c, 變	
S-748	須惠 器環, 破片
土師 器环, 环a, 柄c, 變	
黑色土器 A破片	
瓦 類破片(格子印, 無文)	
S-749	須惠 器环, 环c
土師 器环, 环a, 變	
黑色土器 A破片	
瓦 類丸瓦(無文)	
S-751	須惠 器蓋4, 环
土師 器环, 丸底环	
金屬製品 鉢障	
土製 品焼土塊	
S-753	須惠 器环
土師 器环, 變	
S-754	須惠 器环, 环c, 變
土師 器环, 變	
S-756	須惠 器环
土師 器环, 环a, 變	
土製 品焼土塊	
S-757	須惠 器环
土師 器環	
S-758	須惠 器蓋3, 环, 蓋×鉢
土師 器环a, 變	
S-759	須惠 器蓋2, 變
土師 器环, 环a, 變, 把手	
S-761	須惠 器蓋3, 环, 环a
土師 器环, 變	
黑色土器 A破片	
S-762	須惠 器环, 环a, 环c
土師 器环, 變	
黑色土器 A柄	
S-763	須惠 器蓋3, 變, 蓋
土師 器环, 變	

S-764	須惠 器蓋3, 环c, 變
土師 器柄c, 變	
黑色土器 A柄	
瓦 類平瓦(格子印), 丸瓦(格子印)	
S-766	須惠 器环, 變
土師 器蓋, 小皿a, 變	
S-767	須惠 器環
土師 器环, 环a, 柄c, 變	
瓦 類平瓦(罫目印)	
S-768	須惠 器環
土師 器环a, 小皿a, 變, 破片	
S-769	須惠 器蓋, 鉢
土師 器环a, 變	
瓦 類破片	
S-771	須惠 器蓋3, 环
土師 器环a, 變	
S-772	須惠 器環
土師 器丸底环a, 柄c, 變	
黑色土器 A柄c	
瓦 類破片	
S-773	須惠 器蓋, 蓋3, 蓋c, 环c, 變
土師 器蓋, 环, 變	
S-774	須惠 器環
土師 器环, 變	
瓦 類丸瓦(格子印), 平瓦(格子印)	
S-776	須惠 器環
土師 器环, 丸底环a, 小皿a	
綠釉陶 須惠實: 皿×柄京都(1)	
製 植土 器焼塩蓋	
S-777	須惠 器环, 變
土師 器环, 變	
黑色土器 A破片	
瓦 類破片	
S-778	須惠 器蓋1, 蓋3, 變
土師 器环, 變	
黑色土器 A破片	
瓦 類平瓦(格子印)	
S-779	須惠 器环, 蓋
土師 器环, 變, 破片	
S-781	須惠 器环
土師 器丸底环a, 變	
S-782	須惠 器蓋3, 环, 环c, 變
土師 器环a, 變	
S-783	須惠 器环, 變
土師 器环, 變	
黑色土器 A破片	
S-784	須惠 器蓋×鉢
土師 器环, 环a, 變, 破片	
瓦 類平瓦(罫目印, 格子印, 無文), 軒平瓦	
S-786	須惠 器蓋3, 环c, 變
土師 器环, 环a, 丸底环, 柄c, 小皿a, 變	
黑色土器 A柄c	
越州窯系青磁陶破片II(1)	
灰釉陶 器鉢(1)	
瓦 類平瓦(罫目印), 破片	
S-786暗灰色土	須惠 器环, 环c, 變, 蓋
土師 器丸底环, 柄c, 小皿a, 變	
越州窯系青磁陶破片I(2)	
瓦 類平瓦(格子印)	
S-787	須惠 器环
土師 器环	
S-788	須惠 器蓋3, 环
土師 器环, 變	
S-789	須惠 器蓋3
土師 器环, 變	

S-791	須惠 器蓋1,蓋3,蓋c,環,環c,壺
土師 器環,環a,丸底環a,柄c,小皿a(△),壺	
黒色土器 A柄c,大柄?破片	
越州窯系青磁 柄:1-5(1),11-2a(1) 蓋(1) 破片1(1)	
緑釉陶 須惠實:柄×皿(1),土師實:柄(1),柄底環(1)	
白 磁蓋:XI(1) 破片(2)	
瓦 類平瓦(格子印,罽目印),丸瓦(格子印,無文),瓦玉	
金屬製品 釦押	
石製 品 石鏡,碁石,碁石	
土製 品 燒土塊	

S-792	土師 器環,壺
-------	---------

S-793	須惠 器蓋3,蓋c,環,環a,環c,皿a,壺,壺
土師 器環,丸底環a,柄c,小皿a,高柄?,壺	
黒色土器 A柄c	
越州窯系青磁 柄:1-2ク(1) 環:II(1) 破片:II(4)	
緑釉陶 須惠實:柄×皿底環(1),破片(2)	
灰釉陶 器(4),段皿(1),段皿K9D(1),柄×皿(1),破片(2)	
白 磁蓋:1-1(1),IV(1),XII1-b(1),破片(2) 破片:(3),広東系(1)	
中国陶 器破片(1)	
輸入須惠 朝鮮系無軸陶器	
瓦 類平瓦(格子印,罽目印,無文),丸瓦(格子印,無文),瓦玉	
石製 品 碁石,碁石,石鏡,三稜尖頭器	

S-794	須惠 器蓋3,環,壺,破片
土師 器環,環a,丸底環a,小皿a,壺	
黒色土器 A柄c	
長砂窯系青磁 水注耳(1)	
白 磁蓋:IV(1) 皿:VII-1b(1)	
瓦 類平瓦(格子印,罽目印),丸瓦(罽目印)	
金屬製品 鉄釘	

S-796	須惠 器環,高柄,壺
土師 器環,環a,環c,壺	

S-797	須惠 器環,環a,壺
土師 器環,破片	

S-798	須惠 器蓋3,環,壺
土師 器環,環a,壺	
瓦 類平瓦(格子印),丸瓦(格子印)	
石製 品 石匙	
土製 品 燒土塊	

S-799	須惠 器環
土師 器環a,壺,破片	
瓦 類破片(罽目印)	

S-801	須惠 器環,環a,環c,壺
土師 器環,環a,壺	
黒色土器 A柄c,柄c	
瓦 類丸瓦(無文)	
土製 品 燒土塊	

S-802	須惠 器蓋1,蓋3,蓋c,環,環c,壺,大壺,壺
土師 器環,環a,丸底環a,柄c,小皿a,壺	
黒色土器 A柄c,柄c	
越州窯系青磁 柄:1(1),1-2(1),11-2b(1),1-5(1) 破片:1(1),II(1)	
緑釉陶 須惠實:柄×皿近江(1),京都(2),破片(4)	
土師實:破片(1),防畏(1)	
灰釉陶 柄×皿(2),破片(2)	
白 磁蓋:11-1(1),破片(1)	
瓦 類平瓦(罽目,格子,無文),丸瓦(格子,無文),破片	
金屬製品 用途不明鉄製品	

S-803	須惠 器環,壺
土師 器蓋,環,環a,柄c,壺	
瓦 類破片	

S-804	須惠 器壺,破片
土師 器環	
緑釉陶 須惠實:破片(1)	
瓦 類破片	

S-806	須惠 器環c,壺
土師 器環,丸底環a,壺	
越州窯系青磁 破片:1(1)	
瓦 類破片	

S-807	須惠 器壺
土師 器環,小皿a	
黒色土器 A柄c	
緑釉陶 須惠實:破片(1)	
灰釉陶 器破片(1)	
瓦 類丸瓦(無文)	

S-808	須惠 器壺
土師 器破片	

S-809	須惠 器壺,壺
土師 器環,柄c,小皿a,壺	

S-811	須惠 器壺
土師 器小皿a,壺,破片	
黒色土器 A柄c	
越州窯系青磁 破片:1(1),11(1)	
瓦 類平瓦(格子印),破片	

S-812	須惠 器蓋3,環c,壺
土師 器環a,丸底環a,小皿a,壺	
白 磁蓋:V(1)	
瓦 類丸瓦(格子印,無文)	
石製 品 碁石	

S-813	土師 器環
-------	-------

S-814	須惠 器環c
土師 器環,柄c,壺	
瓦 類破片(格子印)	

S-816	須惠 器蓋3,環,環c,壺
土師 器環a,柄c,壺	
黒色土器 A柄c	
瓦 類平瓦(罽目印),丸瓦(罽目印)	

S-817	須惠 器壺,壺?
土師 器環,環a,壺	
緑釉陶 須惠實:破片(3)	
瓦 類平瓦(罽目印),破片	

S-818	須惠 器壺,壺
土師 器環,丸底環a,小皿a,壺,器台	
瓦 類丸瓦(無文)	

S-819	須惠 器蓋,環a,壺
土師 器環,丸底環a,小皿a(△?),壺	
越州窯系青磁 柄:1-1b(1) 破片:1(1)	
瓦 類丸瓦(格子印),破片	

S-821	須惠 器蓋,環a,壺
土師 器環,壺	
越州窯系青磁 破片:1(2),11(1)	
石製 品 丸石	

S-822	須惠 器壺
土師 器環,壺	
瓦 類破片(罽目印)	

S-823	須惠 器蓋3,環a,壺,壺
土師 器丸底環a,壺,破片	
黒色土器 A破片	
瓦 類破片	

S-824	須惠 器破片
土師 器環	

S-826	須惠 器環,壺
土師 器環,柄c,壺,ツマミ	
越州窯系青磁 柄:11-2(1)	
瓦 類平瓦(無文)	

S-827	須惠 器蓋3,環,破片
土師 器環a,環,壺	
黒色土器 A柄c	
瓦 類平瓦(無文)	
石製 品 碁石	
土製 品 燒土塊	

S-828	須惠 器壺
土師 器環,丸底環a,壺	
黒色土器 A破片	
越州窯系青磁 破片1(1)	
瓦 類丸瓦(無文),破片(罽目印)	

S-829	須惠 器蓋3,壺
土師 器環,丸底環a,柄c,壺	
瓦 類丸瓦(格子印)	

S-831	須惠 器蓋3,環c,壺,壺
土師 器環,環a,柄c,小皿a(△,△?)	
黒色土器 A柄c,破片	
瓦 類破片	

S-832	須惠 器壺,破片
土師 器環	
黒色土器 A破片	
瓦 類平瓦(格子印)	

S-833	須惠 器壺
土師 器環,破片	
瓦 類平瓦(格子印)	

S-834	須惠 器壺
土師 器柄c,高柄?,壺	
黒色土器 A柄c	
灰釉陶 器破片(1)	

S-836	須惠 器蓋3,壺
土師 器環	
黒色土器 A破片	
瓦 類破片(格子印)	

S-837	須惠 器環c,壺
土師 器環,丸底環a	
白 磁破片(1)	
土製 品 燒土塊	

S-838	須惠 器壺
土師 器環,柄c,小皿a,壺	
越州窯系青磁 破片1(1)	
瓦 類破片(罽目印)	

S-839	須惠 器壺
土師 器環a,柄c,壺	

S-841	須惠 器環,壺
土師 器環,環a,柄c,壺	
緑釉陶 土師實:破片:防畏(1)	
白 磁蓋:1-1(1)	
瓦 類丸瓦(格子印,無文)	

S-842	須惠 器環,壺
土師 器柄c,壺	
石製 品 碁石	

S-843	須惠 器環,壺
土師 器柄c,壺	
瓦 類破片	

S-844	土師 器破片
-------	--------

S-846	須惠 器蓋3,環,環a,環c,壺,獸脚,壺
土師 器環,環a,壺,把手	
黒色土器 A柄c	
越州窯系青磁 柄:11-2a(1)	
灰釉陶 器(1)	
白 磁蓋:IV-1a(1)	
瓦 類丸瓦(格子印)	
石製 品 碁石?	
土製 品 燒土塊	

S-847暗灰色土	須惠 器環
土師 器環a,壺	

S-847黄灰色土	須惠 器環c
土師 器環a,柄c,壺	
瓦 類丸瓦(無文),破片(格子印,無文)	
土製 品 燒土塊	

S-848	須惠 器環,壺
土師 器環,壺	
越州窯系青磁 柄:1(1)	
白 磁蓋:11-1(1) 破片:(1)	
瓦 類平瓦(罽目印)	
金屬製品 釦押	
その他 炭	

S-849	須惠 器環
土師 器環,壺	

S-851	須惠 器壺,大壺
土師 器環,柄c,壺	
黒色土器 A柄c,柄c	

S-852	須惠 器破片
土師 器環a,壺	
越州窯系青磁 破片:1(1)	
瓦 類丸瓦(無文)	

S-853	須惠 器壺
土師 器環,壺	
黒色土器 A破片	

S-854	須惠 器環c,壺
土師 器環,環a,柄c,小皿a,壺	
黒色土器 A柄?,柄	
白 磁蓋:IV(1),水注×壺(1)	
瓦 類平瓦(格子印)	

S-856	須惠 器壺
土師 器環a,壺	
黒色土器 A柄c	
瓦 類平瓦(無文),破片	

S-857	須惠 器環,壺
土師 器環,壺	
瓦 類平瓦(格子印,罽目印),丸瓦(格子印)	
石製 品 碁石	

S-858	須惠 器蓋2,壺
土師 器環a,柄c,壺	
瓦 類丸瓦(無文)	

S-861	須惠 器環
土師 器環a,壺,破片	
石製 品 碁石	

S-862	須惠 器蓋c,環,壺
土師 器環,環a,壺	
黒色土器 A破片	
緑釉陶 須惠實:破片(1)	
瓦 類平瓦(格子印)	

S-863	須惠 器破片
土師 器環,壺	

S-864	須惠 器環,壺
土師 器環,柄c,壺	
白 磁水注×壺(1)	
瓦 類丸瓦(格子印)	
土製 品 燒土塊	

S-866	須惠 器蓋3,環,環c,壺
土師 器環,環a,柄c,壺	
黒色土器 A柄c	
越州窯系青磁 破片:1(2)	
瓦 類破片(罽目印)	

S-867	須惠 器破片
土師 器環,丸底環a,小皿a,壺	

S-868	須惠 器壺
土師 器破片	
黒色土器 A柄c	

S-869	須惠 器環c,壺
土師 器環a,柄c,小皿a,壺	
黒色土器 A柄c	
越州窯系青磁 破片:1(1)	
瓦 類破片	
土製 品 燒土塊	

S-871	須惠 器蓋,環,壺
土師 器環,柄c,壺	
瓦 類平瓦(格子印)	

S-872	須惠 器蓋3,壺
土師 器環a,柄c	
越州窯系青磁 柄:1-2ク(1)	

S-873	須惠 器蓋3
土師 器環,環a,壺	
瓦 類破片	

S-874	須惠 器蓋3,環,壺
土師 器環,壺	
黒色土器 A破片	

S-876	須惠 器壺
土師 器壺	
白 磁破片(1)	

S-877	須惠 器蓋c,環c,壺
土師 器環,環a,柄c,壺	
越州窯系青磁 柄:11-2b(1) 破片:1(1),11(2)	
瓦 類丸瓦(格子印),平瓦(格子印)	
石製 品 碁石,碁石?	

S-878	須惠 器柄c,壺
土師 器壺	
黒色土器 A柄	

S-879	須惠 器壺
土師 器環,壺	
石製 品 碁石	

S-881	土師 器環,壺
緑釉陶 須惠實:柄×皿(1)	

S-882
須 惠 器 环c, 壺
土 師 器 环a, 柄c, 壺
黒色 土 器 A破片
白 磁 陶: II(1), II-5(1)
瓦 類 軒平瓦, 破片(編目可)

S-883
須 惠 器 蓋3, 环c, 壺
土 師 器 环, 壺
製 塩 土 器 破片?
黒色 土 器 A破片
土 製 品 燒土塊

S-884
須 惠 器 蓋, 环, 环c, 壺
土 師 器 环, 壺, 鉢
石 製 品 基石

S-886
須 惠 器 环c
土 師 器 环a, 壺
黒色 土 器 A柄c

S-887
須 惠 器 环, 环c, 壺
土 師 器 环, 壺

S-888
須 惠 器 高环
土 師 器 环a, 壺
瓦 類 破片

S-889
須 惠 器 蓋
土 師 器 壺

S-891
須 惠 器 环
土 師 器 壺
石 製 品 基石

S-893
須 惠 器 蓋3, 环, 壺
土 師 器 壺

S-894
須 惠 器 蓋1, 蓋3, 环c, 壺
土 師 器 环a, 壺
瓦 類 平瓦(無文)

S-896
須 惠 器 蓋c, 蓋c1, 环c, 水注
土 師 器 环, 壺
土 製 品 燒土塊

S-897
須 惠 器 壺
土 師 器 壺

S-898
須 惠 器 环a, 皿a, 壺
土 師 器 环a, 柄c, 壺
黒色 土 器 A柄
土 製 品 燒土塊

S-899
土 師 器 丸底环a

S-901
須 惠 器 环
土 師 器 环a, 柄c, 壺

S-902
土 師 器 壺
黒色 土 器 A柄c
瓦 類 丸瓦(格子印)

S-903
須 惠 器 蓋3, 环, 壺
土 師 器 壺

S-904
須 惠 器 蓋1, 蓋c, 环c, 壺
土 師 器 壺
瓦 類 破片(編目可)
土 製 品 燒土塊

S-906
須 惠 器 蓋3, 壺
土 師 器 环, 壺

S-907
須 惠 器 蓋1, 环c, 壺?
土 師 器 环, 壺

S-908
須 惠 器 蓋1, 壺
土 師 器 壺
土 製 品 燒土塊

S-909
土 師 器 蓋, 壺

S-911
須 惠 器 环c, 环
土 師 器 环, 壺

S-912
須 惠 器 环c, 壺
土 師 器 环, 环a, 皿c, 壺
瓦 類 平瓦(格子印)
金 属 製 品 磁障

S-913
須 惠 器 蓋3, 壺
土 師 器 皿a, 壺

S-914
須 惠 器 环, 壺
土 師 器 柄c, 壺

S-916
須 惠 器 蓋3, 环, 环c, 壺
土 師 器 环, 柄c, 壺
瓦 類 丸瓦(無文)

S-917
須 惠 器 环c, 壺
土 師 器 环a, 壺
瓦 類 破片

S-918
須 惠 器 蓋3, 环c
土 師 器 柄c, 壺
瓦 類 丸瓦(格子印, 無文), 平瓦(編目可)

S-919
土 師 器 破片
黒色 土 器 A破片

S-921
弥 生 土 器 蓋

S-922
土 師 器 破片

S-923
土 師 器 破片

S-924
土 師 器 破片
弥 生 土 器 破片

S-926
須 惠 器 壺
土 師 器 破片

S-927
土 師 器 环, 壺

S-928
須 惠 器 环a
土 師 器 环, 壺
弥 生 土 器 壺

S-931
弥 生 土 器 壺?

S-932
土 師 器 环, 壺

S-933
弥 生 土 器 破片

S-934
土 師 器 壺

S-936
石 製 品 剥片(安山岩)

S-937
石 製 品 剥片(黒曜石)

S-938
土 師 器 破片
弥 生 土 器 壺×壺

S-939
弥 生 土 器 壺

S-941
須 惠 器 壺
土 師 器 破片

S-942
土 師 器 壺

S-943
土 師 器 破片

S-944
土 師 器 壺

S-946
土 師 器 丸底环a

S-947
土 師 器 壺

S-948
土 師 器 破片

S-949
土 師 器 高环, 壺

S-951
土 師 器 壺

S-952
土 師 器 壺

S-953
土 師 器 环, 壺

S-954
須 惠 器 壺
土 師 器 环
黒色 土 器 A柄

S-956
須 惠 器 壺
土 師 器 环

S-957
土 師 器 破片

S-958
土 師 器 破片

S-959
土 師 器 古式土師器壺

S-961
須 惠 器 蓋3, 环c, 壺
土 師 器 柄c, 壺

S-962
須 惠 器 破片
土 師 器 柄, 壺

S-963
須 惠 器 环, 壺
土 師 器 环, 环a, 壺

S-964
須 惠 器 蓋3, 壺
土 師 器 环, 柄c, 皿a, 壺
黒色 土 器 A破片
瓦 類 丸瓦(無文)

S-966
須 惠 器 蓋, 环, 壺
土 師 器 环, 壺

S-967
須 惠 器 蓋, 环c, 壺
土 師 器 环, 环a, 壺

S-968
須 惠 器 环a, 环c
土 師 器 柄c, 壺, 把手

S-969
須 惠 器 蓋3, 环c, 壺
土 師 器 环a, 壺

S-971
須 惠 器 蓋3, 蓋c, 环c
土 師 器 环, 环a, 柄c, 壺
黒色 土 器 A破片
瓦 類 破片(編目可)

S-972
須 惠 器 蓋3, 环, 环a
土 師 器 环, 壺

S-973
須 惠 器 破片
土 師 器 破片

S-974
須 惠 器 环, 壺
土 師 器 环, 环a, 柄c, 壺

S-976
須 惠 器 蓋3, 环, 壺
土 師 器 环, 环a, 柄c, 壺
黒色 土 器 A破片
金 属 製 品 磁障

S-977
須 惠 器 环, 环c, 壺, 蓋
土 師 器 环a, 壺
瓦 類 丸瓦(格子印)
石 製 品 基石

S-978
須 惠 器 壺
土 師 器 环, 柄c, 壺

S-979
土 師 器 环a, 柄c, 壺
越 州 系 青 磁 破片(1)

S-981黒色土
須 惠 器 蓋3, 环, 壺
土 師 器 环, 壺

S-981茶灰色土
土 師 器 壺

S-982灰色粘土
土 師 器 环, 壺

S-982黒色土
須 惠 器 破片
土 師 器 环a, 壺

S-983
須 惠 器 蓋3, 环c, 壺
土 師 器 蓋, 环a, 皿a, 壺
瓦 類 平瓦(編目可)

S-984
須 惠 器 蓋3, 环, 壺
土 師 器 蓋, 环, 环a
瓦 類 平瓦(格子印)

S-986
須 惠 器 蓋2, 环, 壺
土 師 器 环, 壺
製 塩 土 器 破片
瓦 類 丸瓦(無文)

S-987
須 惠 器 蓋, 破片
土 師 器 环, 环a, 壺

S-988
須 惠 器 蓋4, 环a
土 師 器 环, 壺
瓦 類 平瓦(編目可)

S-989
須 惠 器 蓋, 破片
土 師 器 环, 丸底环a, 小皿a, 壺
瓦 類 平瓦(編目可, 格子印)

S-991
須 惠 器 壺
土 師 器 壺

S-992
土 師 器 破片

S-993
須 惠 器 环c
土 師 器 环, 壺

S-994
須 惠 器 壺

S-996
須 惠 器 蓋3, 环c, 壺
土 師 器 环a

S-997
須 惠 器 环, 壺
土 師 器 蓋, 环, 柄c, 壺, 破片

S-998
須 惠 器 壺
土 師 器 环, 环a, 壺
石 製 品 基石

S-999
須 惠 器 壺
土 師 器 环
瓦 類 破片(無文)

S-1001
土 師 器 环, 壺
瓦 類 破片

S-1002
須 惠 器 环c
土 師 器 柄c, 壺

S-1003
須 惠 器 蓋3, 环, 环c
土 師 器 环, 柄c, 壺
黒色 土 器 A破片

S-1004
須 惠 器 蓋3, 环a
土 師 器 环a, 皿a, 壺
土 製 品 燒土塊

S-1006
須 惠 器 蓋3, 环c, 壺, 破片
土 師 器 环, 柄c, 壺, 把手
瓦 類 丸瓦(格子印), 破片(格子印)

S-1007
須 惠 器 壺
土 師 器 环a, 壺

S-1008
須 惠 器 破片
土 師 器 环, 高环, 壺

S-1009
須 惠 器 壺
土 師 器 小皿a, 壺
黒色 土 器 A柄c
瓦 類 丸瓦(無文)

S-1011
須惠 粉环c, 雙, 盤
土師 粉环a, 粉c, 雙, 把手
黑色土器 A 粉c
瓦 類平瓦(鑄目印, 格子印), 丸瓦(格子印)
金屬製品 鐵滓

S-1012
須惠 粉环, 雙
土師 粉环a, 粉c, 雙
黑色土器 A 粉c
金屬製品 鐵滓

S-1013
須惠 粉环, 雙
土師 粉环a, 粉c, 雙
黑色土器 A 破片
黑色土器 B 破片

S-1014
須惠 粉环, 雙
土師 粉环, 环a
黑色土器 A 粉c
瓦 類平瓦(格子印)
石製 品 磁石

S-1016
須惠 粉环3, 环c, 雙, 蓋, 盃, 耳, 盤
土師 粉环c, 小皿a, 雙, 蓋
黑色土器 A 粉c
越州窯系青磁破片: I1(1)
白 磁破片: I1(1) 広東系(1)
瓦 類平瓦(格子印, 無文), 丸瓦(格子印, 無文)
石製 品 磁石

S-1017
須惠 粉环, 雙
土師 粉环a, 粉c, 雙

S-1018
須惠 粉环, 大雙
土師 粉环, 环a, 粉c, 雙
灰釉陶 粉环片(2)
瓦 類平瓦(格子印, 無文), 丸瓦(格子印, 鑄目印)

S-1019
須惠 粉环, 雙
土師 粉环, 环a, 粉c, 雙
黑色土器 A 粉c
白 磁粉: I-1(1)

S-1021茶色土
須惠 粉环, 雙
土師 粉环, 雙
黑色土器 A 破片

S-1022茶色土
須惠 粉环, 雙
土師 粉环a
黑色土器 A 粉c
瓦 類平瓦(格子印)
石製 品 丸石

S-1023
須惠 粉环, 雙
土師 粉环, 破片

S-1024
須惠 粉环c, 雙
土師 粉环a, 粉c, 雙
瓦 類平瓦(格子印), 破片(鑄目印)
金屬製品 銅滓

S-1026
須惠 粉环d
土師 粉环a, 雙
瓦 類丸瓦

S-1027茶色土
須惠 粉环, 雙
土師 粉环c, 雙
黑色土器 A 粉c

S-1027灰色粘土
須惠 粉环1, 雙
土師 粉环, 环a
黑色土器 A 粉c

S-1028茶灰色粘土
黑色土器 A 粉c
瓦 類平瓦(格子印)

S-1028茶色土
須惠 粉环c, 破片
土師 粉环, 破片

S-1029灰色粘土
土師 粉环, 破片

S-1029灰色土
須惠 粉环a
土師 粉环, 雙
黑色土器 A 破片

S-1031
須惠 粉环, 雙
土師 粉环a, 粉c, 雙
黑色土器 A 环a, 粉c
瓦 類平瓦(鑄目印), 丸瓦(無文)

S-1032
須惠 粉环a, 雙
土師 粉环, 环a, 粉c, 雙
越州窯系青磁粉: I1(1) 破片: I1(1)
灰釉陶 粉环(1)
白 磁: XI-3(1)
瓦 類平瓦(格子印, 鑄目印), 丸瓦(無文)

S-1033
須惠 粉环
土師 粉环a, 雙

S-1034
須惠 粉环c
土師 粉环a, 破片

S-1036
須惠 粉环a, 环c, 粉c, 雙
土師 粉环a
黑色土器 A 粉c
綠釉陶 粉环: 粉×里(1)
瓦 類平瓦(鑄目印), 丸瓦(無文)

S-1037
須惠 粉环3, 环c, 雙, 盃
土師 粉环a
黑色土器 A 粉c
越州窯系青磁粉: I1-Zc(1)
瓦 類丸瓦(格子印), 平瓦(鑄目印, 無文)
石製 品 粉片
土製 品 德土塊

S-1038
須惠 粉环c, 雙
土師 粉环, 环a, 雙

S-1038暗灰色土
須惠 粉环3, 环c, 粉c, 雙
土師 粉环, 环a(☆), 粉c, 里a
黑色土器 A 粉c
越州窯系青磁粉: 粉(1)
綠釉陶 粉环: 里: 京都(1)
瓦 類平瓦(鑄目印, 格子印)

S-1038暗茶色土
須惠 粉环3, 环4, 环c, 雙
土師 粉环a, 粉c, 雙, 破片
黑色土器 A 粉c
越州窯系青磁破片 I1(1)
瓦 類平瓦(鑄目印, 格子印), 丸瓦(格子印)
土製 品 德土塊

S-1039
須惠 粉环, 雙
土師 粉环a, 雙
黑色土器 A 粉c
瓦 類軒丸瓦

S-1041
須惠 粉环, 雙
土師 粉环a, 雙, 把手
黑色土器 A 粉c
綠釉陶 粉环: 須惠: 粉: 京都(1)
瓦 類平瓦(鑄目印)

S-1042
須惠 粉环3
土師 粉环, 雙

S-1043
須惠 粉环a, 雙, 盃
土師 粉环, 环a, 雙
黑色土器 A 粉c
綠釉陶 粉环: 須惠: 破片: 防長(1)
瓦 類丸瓦(無文), 平瓦(格子印)

S-1044
須惠 粉环c, 盃
土師 粉环a
黑色土器 A 粉c

S-1046
須惠 粉环
土師 粉环a, 雙
灰釉陶 粉环片(1)

S-1047
須惠 粉环, 破片
土師 粉环

S-1048
須惠 粉环
土師 粉环a, 雙
白 磁粉: I-2(1)

S-1049
須惠 粉环3, 环a, 环c, 盃
土師 粉环a, 粉c, 雙, 破片
黑色土器 A 破片
弥生土 粉环片
瓦 類平瓦(鑄目印), 丸瓦(格子印)

S-1051
須惠 粉环c
土師 粉环, 破片

S-1052
須惠 粉环
土師 粉环, 破片
黑色土器 A 破片
瓦 類丸瓦(無文)

S-1056
須惠 粉环2, 雙
土師 粉环, 环a, 雙
白 磁粉: I-1(1)

S-1057
須惠 粉环, 雙
土師 粉环, 环a, 雙, 破片

S-1058
須惠 粉环
土師 粉环, 环a, 雙
黑色土器 A 破片

S-1059
須惠 粉环c
土師 粉环a, 雙, 破片

S-1061
須惠 粉环1, 破片
土師 粉环c, 雙
黑色土器 A 破片

S-1062
須惠 粉环a
土師 粉环c, 雙
金屬製品 鐵滓

S-1063
須惠 粉环c
土師 粉环a, 雙
瓦 類破片(鑄目印)

S-1064
土師 粉环小皿a

S-1066
須惠 粉环
土師 粉环c

S-1067
土師 粉环

S-1068
須惠 粉环, 雙
土師 粉环

S-1069
須惠 粉环
土師 粉环
弥生土 粉环
瓦 類破片

S-1071
須惠 粉环a, 环c
土師 粉环, 雙
黑色土器 A 粉c
灰釉陶 粉环片(1)
瓦 類丸瓦(格子印)

S-1072
須惠 粉环, 破片
土師 粉环, 破片

S-1073
土師 粉环a, 雙
綠釉陶 粉环: 須惠: 里: 近江(1)

S-1074
土師 粉环, 破片

S-1076
須惠 粉环
土師 粉环, 把手
黑色土器 A 破片
弥生土 粉环?

S-1077
須惠 粉环
土師 粉环, 破片
黑色土器 A 破片

S-1078
土師 粉环

S-1079
須惠 粉环3, 环c
土師 粉环c
黑色土器 A 破片
弥生土 粉环二重口綠蓋

S-1081
須惠 粉环c
土師 粉环, 雙
黑色土器 A 破片

S-1082
須惠 粉环
土師 粉环, 雙
瓦 類破片(格子印)

S-1083
須惠 粉环
土師 粉环a, 破片

S-1084
須惠 粉环
土師 粉环, 粉c, 雙

S-1086
須惠 粉环
土師 粉环a, 雙

S-1087
土師 粉环古式土師器?

S-1088
須惠 粉环?
土師 粉环

S-1089
須惠 粉环3, 环c, 盃
土師 粉环, 雙
黑色土器 A 粉c

S-1091
弥生土 粉环片

S-1092
須惠 粉环, 环a, 雙
土師 粉环, 环a, 粉c, 雙
黑色土器 A 粉c
越州窯系青磁粉: I-5(1)
瓦 類平瓦(鑄目, 無文), 丸瓦(無文), 破片(格子), 瓦玉
石製 品 磁石

S-1093
須惠 粉环, 破片
土師 粉环, 雙

S-1094
須惠 粉环3, 雙, 破片
土師 粉环, 环a, 粉c, 雙
黑色土器 A 粉c
瓦 類平瓦(格子印)

S-1096
須惠 粉环, 雙
土師 粉环
瓦 類平瓦

S-1097
須惠 粉环a, 环c, 雙
土師 粉环a, 雙, 蓋台
越州窯系青磁粉: I-2(2)

S-1098
須惠 粉环3, 环c, 雙
土師 粉环a, 雙
越州窯系青磁破片: I1(1)

S-1099
須惠 粉环3, 环c, 雙
土師 粉环, 粉c, 雙

S-1101
須惠 粉环, 环c, 雙?
土師 粉环c, 雙, 破片
黑色土器 A 粉c
越州窯系青磁粉: I1(1)
瓦 類平瓦(格子印, 無文), 丸瓦(格子印)

S-1102
須惠 粉环
土師 粉环a, 粉c
瓦 類平瓦(鑄目印)

S-1103
須惠 粉环c, 雙, 盃
土師 粉环, 环a, 粉c, 雙
黑色土器 A 粉c
越州窯系青磁破片: I1(1)
瓦 類平瓦(格子印), 丸瓦(無文)

S-1104
須惠 粉环
土師 粉环, 环a, 雙
黑色土器 A 破片
瓦 類破片(鑄目印)

S-1106
須惠 粉环, 破片
土師 粉环a, 雙
黑色土器 A 破片

S-1107
須惠 粉环, 雙
土師 粉环a, 粉c, 雙
黑色土器 A 粉c
越州窯系青磁粉: I1-2(1)
綠釉陶 粉环: 須惠: 里: 京都(1)

S-1108
須惠 粉环
土師 粉环a, 雙
瓦 類平瓦(格子印, 鑄目印)

S-1109
土師 粉环小皿a, 雙, 破片

S-1111	須 惠 器 壺
土 師 器 坏a, 壺	
黒色土器 A 陶c	
瓦 類 平瓦(格子印)	
S-1112	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 壺	
黒色土器 A 陶c	
S-1113	須 惠 器 破片
土 師 器 坏, 壺	
S-1114	須 惠 器 坏
土 師 器 壺	
S-1116	須 惠 器 破片
土 師 器 坏a, 壺	
黒色土器 A 陶c	
S-1117	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏, 壺	
S-1118	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏a, 陶c, 壺	
黒色土器 A 陶c	
S-1119	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏, 壺	
S-1121	須 惠 器 壺, 壺
土 師 器 坏, 坏a	
瓦 類 平瓦(格子印)	
S-1122	須 惠 器 壺?, 坏c, 壺
土 師 器 坏, 坏a, 丸底坏, 陶c, 壺	
弥生土器 壺	
瓦 類 平瓦(格子印), 破片	
S-1123	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏, 壺	
S-1124	須 惠 器 坏
土 師 器 坏, 壺, 破片	
S-1126	須 惠 器 坏
土 師 器 坏	
S-1127	須 惠 器 壺
土 師 器 壺	
金 属 製 品 釦	
S-1128	須 惠 器 坏
土 師 器 壺	
S-1129	須 惠 器 壺
土 師 器 壺	
S-1131	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-1132	須 惠 器 坏, 破片
土 師 器 坏, 壺	
S-1133	須 惠 器 壺
土 師 器 壺	
S-1134	須 惠 器 壺
土 師 器 坏	
S-1136	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏, 壺	
S-1137	須 惠 器 壺
土 師 器 破片	
S-1138	須 惠 器 坏, 坏a
土 師 器 坏, 坏a	
S-1139	須 惠 器 丸底坏a, 破片
土 師 器 丸底坏a, 破片	
瓦 類 破片	
S-1142	須 惠 器 坏
土 師 器 坏	
石 製 品 丸石	
S-1142 灰色土	須 惠 器 坏
土 師 器 坏	
石 製 品 丸石	
S-1142 褐色土	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 坏a, 陶c	
瓦 類 破片	

S-1144	須 惠 器 坏
土 師 器 坏, 破片	
S-1147	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏, 坏a, 壺	
S-1148	須 惠 器 壺
土 師 器 壺, 破片	
S-1149	須 惠 器 壺c
土 師 器 陶c, 壺	
黒色土器 A 陶c	
瓦 類 平瓦(無文)	
S-1151	須 惠 器 高坏, 壺
土 師 器 坏a, 小皿a, 壺	
黒色土器 A 陶c, 破片	
瓦 類 丸瓦(格子印, 無文), 平瓦(罫目印)	
S-1152	須 惠 器 壺3, 坏a, 皿a, 壺, 壺
土 師 器 坏, 陶c, 壺, 破片	
瓦 類 丸瓦(無文)	
S-1153	須 惠 器 陶c
土 師 器 壺, 破片	
瓦 類 破片	
S-1154	須 惠 器 壺
土 師 器 壺	
S-1156	須 惠 器 坏, 破片
土 師 器 坏, 陶c, 壺	
黒色土器 A 陶c	
瓦 類 平瓦(格子印)	
金 属 製 品 釦	
S-1157	須 惠 器 坏
土 師 器 陶c, 壺	
S-1158	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏, 壺	
S-1159	須 惠 器 坏
土 師 器 坏	
瓦 類 破片	
S-1161	須 惠 器 坏c, 壺
土 師 器 坏a, 陶c, 壺	
S-1162	須 惠 器 壺, 大壺
土 師 器 坏, 壺	
黒色土器 A 陶c	
瓦 類 平瓦(格子印), 破片	
S-1163	須 惠 器 壺
土 師 器 坏a, 陶c	
S-1164	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 坏a, 壺	
瓦 類 平瓦(無文)	
土 製 品 徳土塊	
S-1166	須 惠 器 坏, 破片
土 師 器 坏, 壺	
瓦 類 破片	
S-1167	須 惠 器 坏, 壺
土 師 器 壺	
S-1168	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 坏a, 壺	
黒色土器 A 陶c	
弥生土器 二重口縁壺	
瓦 類 丸瓦(無文)	
S-1169	須 惠 器 坏, 壺, 破片
弥生土器 壺	
S-1171	須 惠 器 破片
土 師 器 壺	
S-1172	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
S-1173	須 惠 器 壺1, 壺
土 師 器 坏, 破片	
瓦 類 平瓦(罫目印)	

S-1174	須 惠 器 破片
土 師 器 破片	
石 製 品 丸石	
S-1176	須 惠 器 坏
土 師 器 壺	
S-1177	弥生土器 壺
弥生土器 壺	
S-1178	須 惠 器 坏
土 師 器 坏	
S-1179	須 惠 器 坏
瓦 類 平瓦(格子印, 罫目印)	
S-1181	須 惠 器 壺3, 壺
土 師 器 坏, 坏a, 陶c, 壺	
S-1184	弥生土器 壺
弥生土器 壺	
褐色粘土	須 惠 器 壺3, 壺c, 壺a3, 陶c, 坏, 坏a, 坏c, 皿a, 高坏
土 師 器 壺, 壺b, 破片	
黒色土器 A 破片	
白 陶 陶: II-5(1)	
弥生土器 壺, 二重口縁壺, 壺	
瓦 類 平瓦(罫目印, 無文), 丸瓦(無文), 破片	
金 属 製 品 釦, 可塑状製品	
土 製 品 土 壺	
石 製 品 陶片, 石炭, 磁石	
褐色粘土	須 惠 器 壺3, 坏a, 坏c, 陶c, 陶x 鉢, 壺, 大壺, 鉢, 壺, 壺
土 師 器 坏, 坏a, 陶c, 小皿a, 皿c, 高坏, 壺, 壺, 手摺ね土器	
黒色土器 A 陶c, 鉢?	
黒色土器 A 陶c	
越州系青磁 陶: I(9), I-1b(1), I-2(1), I-2a(1), I-2a(1), I-5(3)	
1 輪花(3), II(2) 皿x 杯: I(1) 破片: I(20), II(7)	
長沙系青磁 水注(1)	
緑釉陶 須惠實: 陶: 京都(3), 備(1), 破片(1) 破片(5)	
土師實: 陶(1)	
灰釉陶 皿(2), 陶x 皿(1), 陶72x 唐山1(1), 破片(6)	
白 陶 陶: I(1) 破片: 広東系(1)	
瓦 類 平瓦(格子印, 罫目印, 無文), 丸瓦(格子印, 無文), 軒丸瓦	
金 属 製 品 釦	
土 製 品 石, 磁石, 磁石?, 磨石, 滑石製品, 丸石, 磁石, 磁石	
石 製 品 徳土塊	
褐色粘土	須 惠 器 壺1, 壺3, 壺c, 坏, 坏a, 坏c, 大陶, 皿a, 高坏
高坏b, 壺, 小皿, 壺, 壺x 鉢, 鉢, 把手, 散脚	
盤, 鉢(輪系) - 耳付壺	
土 師 器 坏a, 丸底坏, 丸底坏a, 丸底坏c, 陶c, 小皿a, 大陶	
小皿a(4), 小皿c, 皿c, 高坏, 壺, 鉢, 把手, 磨台	
黒色土器 A 陶c, 破片	
黒色土器 A 陶c	
瓦 類 陶c	
越州系青磁 陶: I(11), I-2a(1), I-2a(1), I-2a(1), I-5(3)	
II(5), II-1b(1), II-2(3)	
坏: I(1), I-1(1), I-2A(1)	
壺(1), 壺I(1), 水注I(1), 合子I(1)	
破片: I(17), II(8), III(1)	
長沙系青磁 水注(1), 陶(1)	
龍泉系青磁 陶: II-b(1), 破片(1) 破片(1)	
同安系青磁 陶: I(1)	
高麗青磁 陶: I(1)	
須惠實土器 鉢, こね鉢	
緑釉陶 須惠實: 陶: 京都(3), 京京都? (1), 備(1), 破片(6)	
土師實: 皿: 防長(1), 陶: 防長? (1) 壺: 防長(1)	
灰釉陶 皿(5), 皿K90(1), 段皿K90(1), 陶x 皿(1)	
陶72? (1), 壺(2), 破片(3)	
国産陶器 滑鉢, 壺, 破片	
国産磁器 陶(現代)	
白 陶 例: I(2), I-1(2), II(22), II-1a(1), II-1(23), II-3x4(1)	
II-3x4b(1), II-4(1), II-5(5), 広東系(15), IV-1(1)	
IV(4), IV-1a(2), IV-1b(3), IV-2(1), IV-2a(5), V(20)	
V-1(2), V-1a(1), V-1b(1), V-2(2), V-2b(1), V-2c(1)	
V-3a(1), V-3(2), V-4a(1), V-1~4(1), IVxV(1), V 備目(1)	
V-2x4(1), VII-1a(2), V 継脚(2), V-1xVII-2(9)	
VII-1(1), 継脚(1), V~VII(3), VxVII(1), VII(1)	
VII(1), XI(1), XI-1(2), XI-4(1), XII-1(1), XIII? (1)	
玉縁(1), 小陶(2), 陶IIx 皿VI-1b(1), 破片(69)	
皿: II-1(1), II-1a(2), IIxIII(1), II-1a×III-2(1)	
III(1), V(6), V-1a(2), V-a(2), V-2a(1), VxVI(2)	
VI(1), VI-b(1), VI-1(1), VI-2a(2), VI-2b(1)	
IVxV(2), VI-1b(12), VIxVII(1), VII-1b(1), V~VII(7)	
VII(2), VI~VII(2), 広東系(7), 破片(7)	
その他: 西耳壺(1), 壺(1), 水注x 壺(25), 水注広東系(1)	
破片広東系(40), 破片(46)	
青 白 陶 壺(3), 破片(2)	
中国陶器 耳壺破片(1), 耳壺III(1), 破片(11)	
輸入須惠器 朝鮮系無軸陶器, 新羅土器片	
黒釉陶器 壺(1)	
瓦 類 平瓦(罫目印, 無文), 丸瓦, 徳瓦	
丸瓦(格子印, 罫目印, 無文), 破片(格子印)	
金 属 製 品 釦, 用途不明製品, 鉄釘, 火打金, 用途不明製品	
石 製 品 磁石, 石炭, 滑石, 磁石, 磨石, 石包丁, 磁石, 割片	
磁石, 石炭	
土 製 品 徳土塊, トリベ, 輪羽口, 棒状土製品, 丸瓦, 土 壺	

灰色土	須 惠 器 壺1, 壺3, 壺c, 坏a, 坏c, 大陶, 皿a, 壺, 大壺, 壺
土 師 器 坏b, 壺a, 鉢x 壺, 内面鉢, 鉢, 破片	
壺c, 坏a, 坏a, 丸底坏, 陶c, 小皿a, 小皿a2, 小皿b, 高坏, 壺	
(角底石入), 磨台, 壺, 破片	
製 壺 土 師 壺	
黒色土器 A 破片	
黒色土器 A 陶c	
越州系青磁 陶: I(13), I-1(1), I-1b(4), I-2(2), I-5(3), II(4), II-1(1)	
II-2(2), III-1b(1) 大陶: I(1)	
破片: I(20), II(6) 合子: I(2)	
長沙系青磁 水注(3), 陶(1)	
同安系青磁 皿: I(1), I-1b(1)	
緑釉陶 須惠實: 破片(5), 近江? (1)	
土師實: 陶x 皿(1), 壺防長(1)	
灰釉陶 皿(1), 陶x 皿(2), 皿(1), 陶(1), 壺(1)	
国産陶器 土 壺	
白 陶 陶: I-1(1), II(4), II-1(5), II-5(3), IV(25), IV-1a(3), V(1)	
IV-1b(2), XI-4(1), XII-1b(2), XII-1b(1), 破片(9)	
皿: I-1(1), II-1(2), II-a(1), II-1a(3), V-2(2), VI-1a(1)	
VI-1(1), VI-2b(2), VxVI(1), 破片(1), 広東系(1)	
鉢(2), 壺(2), 水注x 壺(3), 破片: (29), 広東系(4)	
中国陶器 壺(1), 水注x 壺(1), 破片(1)	
輸入須惠器 朝鮮系無軸陶器	
瓦 類 平瓦(格子印, 罫目印, 無文), 丸瓦(格子印, 無文)	
軒平瓦, 瓦玉, 徳瓦	
金 属 製 品 釦, 用途不明製品, 金具, 釣機, 鉄線	
石 製 品 磁石, 割片, 丸石, 石炭, 穿孔石製品, 石炭, 石炭, 磁石, 尖頭器	
土 製 品 徳土塊, トリベ, 棒	
褐色粘土	須 惠 器 壺3, 壺, 壺, 破片
土 師 器 坏, 坏a(5), 丸底坏a, 陶c, 陶c, 壺, 把手, 破片	
黒色土器 A 陶c	
越州系青磁 陶: I(1) 破片: II(1)	
白 陶 水注x 壺(1)	
輸入須惠器 朝鮮系無軸陶器	
瓦 類 丸瓦(無文), 平瓦(罫目印, 罫目印, 無文)	
石 製 品 磁石, 石炭(安山岩), 磁石	
土 製 品 徳土塊	
明褐色土	須 惠 器 壺3, 坏a, 坏c, 壺, 鉢x 壺, 壺e
土 師 器 坏, 坏a, 坏c, 陶c, 高坏x 磨台	
黒色土器 A 陶c	
越州系青磁 陶: I(1)	
白 陶 陶: II(1)	
瓦 類 丸瓦(格子印), 平瓦(罫目印), 破片(格子印)	
石 製 品 磁石, 磁石	
褐色粘土	須 惠 器 壺1, 壺3, 壺c, 坏, 坏c, 壺, 鉢
土 師 器 坏, 坏a, 陶c, 壺, 磨台	
黒色土器 A 陶c	
越州系青磁 陶: I-5(1) 破片: I(1), II(4)	
灰釉陶 壺? (1)	
瓦 類 丸瓦(格子印, 無文), 平瓦(格子印, 罫目印, 無文)	
褐色粘土	須 惠 器 壺1, 壺3, 壺a1, 壺c, 坏a, 坏c, 陶c, 皿a, 高坏, 壺
壺a, 壺b, 壺x 鉢, 内面鉢, 壺, 破片	
土 師 器 壺3, 坏a(5?), 坏c, 坏d, 小皿a, 皿c, 高坏, 壺	
把手, 小皿, 壺x 小壺, 破片	
製 壺 土 師 壺	
越州系青磁 陶: I(5), I-2(1), II(1) 皿: I-1(1), 水注? (1)	
長沙系青磁 水注(2)	
龍泉系青磁 陶: I(1)	
緑釉陶 土師實: 壺(1)	
白 陶 陶: II(1), IV-1b(1)	
弥生土器 壺, 二重口縁壺	
瓦 類 平瓦(罫目, 格子, 無文), 丸瓦(罫目, 無文), 軒丸瓦, 瓦玉, 破片	
石 製 品 磁石, 割片(黒曜石), 磁石, 割片(安山岩), 磨石, 磨石	
石炭, 石包丁, 丸石, 滑石, 磨石, 磨石, 磨石, 磨石	
土 製 品 徳土塊, 輪羽口, 土 壺, 鉄釘, 土 壺	
金 属 製 品 釦, 金具	
そ の 他 員 数	
褐色粘土	須 惠 器 壺3, 壺c, 坏a, 坏c, 高坏, 壺, 壺a, 鉢x 壺, 散脚, 盤, 破片
土 師 器 坏a(5?), 丸底坏a, 陶c, 小皿a(5?), 小皿a2, 高坏, 壺, 磨台	
壺, 破片	
黒色土器 A 陶c	
越州系青磁 陶: I(2), I-2(1), I-2a(1), I-2a(1), I-5(1), II(4), 輪花(1)	
緑釉陶 須惠實: 皿: 京都(1), 破片(1)	
灰釉陶 陶(1), 陶(1)	
白 陶 陶: 破片(3)	
瓦 類 丸瓦(罫目印, 無文), 平瓦(罫目印, 罫目印, 無文), 軒丸瓦	
金 属 製 品 釦	
石 製 品 磁石, 石炭, 磁石, 石炭(湯方)	
土 製 品 徳土塊	
褐色粘土	須 惠 器 壺
土 師 器 坏, 壺, 古式土師壺	
褐色粘土	須 惠 器 壺c, 壺3, 壺3, 坏a, 坏c, 皿a, 高坏, 壺, 壺, 壺, 短頸壺
土 師 器 坏a, 坏d, 陶c, 高坏, 壺	
瓦 類 平瓦(罫目印, 格子印, 無文)	
金 属 製 品 釦	
褐色粘土	須 惠 器 壺1, 坏c
土 師 器 壺	
黒色土器 A 破片?	
瓦 類 平瓦(罫目印)	

系灰色粘土

須惠	蓋3, 蓋c, 杯, 杯a, 杯c, 高杯, 壺, 大壺, 壺×鉢, 蓋b, 蓋e
土師	鉢, 蓋, 破片
黒色土器A	蓋3, 杯, 杯a, 丸底杯a, 丸底杯c, 小皿a, 小皿c, 皿c, 高杯, 壺, 破片
黒色土器B	蓋, 破片
緑州系青磁	水注(4), 柄(1)
緑州系青磁	水注(4), 柄(1)
緑州系青磁	須惠質: 陶器(2), 破片(5), 京郡(1)
緑州系青磁	土師質: 破片(3), 防長(1), 蓋(1)
灰釉陶器	段皿(1), 蓋(1), 破片(2)
白	破片(2)
中国陶器	破片(1)
瓦	平瓦(格子印, 網目印, 無文), 軒丸瓦, 丸瓦(格子印, 無文)
金銀製品	銀片
石製	磨り石, 滑石, 石鏡, 蓋石, セン
土製	焼土塊

Z(出土地不明)

須惠	蓋, 杯, 壺, 壺
土師	蓋, 杯, 壺, 壺, 破片, 古式土師器
黒色土器A	破片
瓦	瓦
白	蓋, 破片
網文土器	網文土器
瓦	平瓦(格子印, 網目印, 無文)
石製	磨り石(黒曜石)

表土

須惠	蓋1, 蓋2, 蓋3, 蓋c, 杯, 杯a, 杯c, 杯d, 丸c, 皿a
土師	高杯, 高杯b, 壺, 大壺, 壺b, 鉢×蓋, 破片
黒色土器A	蓋c, 杯, 杯(伴付), 杯a(伴?), 丸底杯a, 丸底杯c, 小皿a
黒色土器B	皿a, 高杯, 壺, 鉢, 器台, ツマミ, 蓋
瓦	破片?
緑州系青磁	柄: I(6), I-1(1), I-2(1), I-2a(3), I-2c(2), I-2c(2)
緑州系青磁	I-2b(1), I-5(2), 大壺I-2c(1), II(1), II-2(1), II(1)
緑州系青磁	破片: I(7), II(6)
龍泉系青磁	蓋: I(1), 杯: III(1)
須惠質土器	鉢? 破片
緑州系青磁	須惠質: 陶×皿: 京郡(1), 東海(1)
緑州系青磁	須: 西(1), 破片: (5), 京郡(1)
土師質土器	土師質: 皿: 防北(1), 防長(1), 破片: 防長(1)
灰釉陶器	蓋(1), 陶×皿(2), (H72×虎頭山1)(1), 皿(1), 蓋(1), 蓋耳(1)
灰釉陶器	蓋, 土管
灰釉陶器	破片
肥前系陶器	陶
白	蓋: II(2), II-1(2), II-3×4(1), II-5(1), IV-1(2), IV-1a(1)
白	IV(1), V(1), V-2a(1), 小壺2b(1), V-1×VII(1-2)
白	V-4×VII(1-3)(1), 広葉系(2), 破片(1)
白	皿: II(1), VI-1(1), VI-1b(1), VI-2b(1), II-3(1)
白	水注×蓋(2), 水注(1), 破片(5), 広葉系(5)
青白	蓋(1), 破片(2)
中国陶器	破片(3)
輸入須惠	朝鮮系無釉陶器
赤生土	須, 二重口縁壺
瓦	丸瓦(格子印, 網目印, 無文), 備瓦, 瓦玉
瓦	平瓦(格子印, 網目印, 無文, 破片), 軒丸瓦
金銀製品	銀片, 破片, 破片? 用途不明鉄製品
石製	砥石?, 石棒(黒曜石), 剥片, 蓋石, 石鏡, 石炭, 焼石
土製	チャート, 珪化木, 石臼?, 石鏡, 石匙
土製	焼土塊, レンガ, 瓦玉

表15 第236-1次調査 須惠器・土師器・黒色土器供膳具計測表

S-1灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	R-001	Fig. 28-1	(9.6)	1.1	(7.4)	—	○

S-15茶褐色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須惠器	蓋1	R-001	Fig. 28-3	(13.6)	1.1+α	—	—	—
	蓋1	R-002	Fig. 28-4	—	1.9+α	—	—	—
	蓋1	R-003	Fig. 28-5	—	1.8+α	—	—	—

S-15暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須惠器	蓋a1	R-001	Fig. 28-9	(16.6)	2.5	—	—	—
	蓋c	R-002	Fig. 28-10	—	1.5+α	—	○	—
	蓋c1	R-011	Fig. 28-11	(17.8)	4.6	—	○	—
	蓋1	R-003	Fig. 28-13	(16.0)	2.3+α	—	—	—
	蓋1	R-004	Fig. 28-16	—	2.0+α	—	—	—
	蓋1	R-005	Fig. 28-19	—	1.5+α	—	—	—
	蓋1	R-006	Fig. 28-15	—	1.9+α	—	—	—
	蓋1	R-007	Fig. 28-17	—	1.7+α	—	—	—
	蓋1	R-008	Fig. 28-20	—	1.6+α	—	—	—
	蓋1	R-009	Fig. 28-18	—	1.3+α	—	—	—
	蓋1	R-010	Fig. 28-12	(17.0)	1.5+α	—	—	—
	蓋1	R-012	Fig. 28-14	—	2.0+α	—	—	—
	杯c	R-014	Fig. 28-21	—	1.6+α	(10.2)	○	—

S-15桃灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須惠器	蓋3	R-001	Fig. 28-6	(15.0)	1.3+α	—	—	—
	杯c	R-002	Fig. 28-7	—	2.4+α	(8.8)	○	—
	杯c	R-003	Fig. 28-8	—	1.8+α	—	—	—

S-20淡灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須惠器	蓋3	R-001	Fig. 28-23	—	0.6+α	—	—	—

S-25灰褐色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須惠器	杯c	R-006	Fig. 33-4	—	+α	—	—	—
	蓋3	R-007	Fig. 33-3	(14.8)	1.8+α	(10.0)	—	—
	土師器	杯a	R-001	Fig. 33-6	—	2.4+α	(9.2)	—
土師器	杯a	R-004	Fig. 33-5	—	1.9+α	(7.6)	—	—
	黒色土器A	陶c	R-002	Fig. 33-7	—	2.1+α	(9.6)	—
黒色土器A	陶c	R-003	Fig. 33-8	—	2.2+α	—	—	—

S-25暗灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	杯a	R-001	Fig. 33-10	—	1.2+α	—	—	—
	杯a	R-002	Fig. 33-11	—	1.8+α	—	○	—
黒色土器A	陶c	R-003	Fig. 33-12	—	2.0+α	(7.8)	—	—

S-26

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須惠器	杯c	R-001	Fig. 40-1	—	1.6+α	—	—	—

S-36

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	杯a	R-001	Fig. 40-2	—	1.9+α	(7.6)	—	—
	杯a	R-002	Fig. 40-3	—	1.3+α	(8.1)	—	—

S-40:

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須惠器	蓋1	R-001	Fig. 67-1	—	1.35+α	—	—	—

S-55

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底杯a	R-001	Fig. 28-28	(14.5)	3.0	—	—	—
	丸底杯a	R-002	Fig. 28-29	(14.6)	3.0+α	—	—	—

S-58

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須惠器	杯c	R-003	Fig. 40-5	—	2.3+α	(7.9)	—	—
	杯c	R-004	Fig. 40-4	—	2.2+α	(7.6)	—	—

S-60(1)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	杯d?	R-001	Fig. 40-10	—	1.8+α	(8.4)	—	—

S-60(2)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	杯a	R-001	Fig. 40-8	—	1.2+α	(6.6)	—	—

S-60(3)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	杯a	R-001	Fig. 40-9	—	1.45+α	(8.1)	—	—

S-70暗灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	R-005	Fig. 30-34	9.6	1.6	6.5	×	×
	小皿a	R-006	Fig. 30-25	(9.2)	1.5	6.8	—	○
	小皿a	R-007	Fig. 30-30	(9.4)	1.15	(7.0)	○	—
	小皿a	R-008	Fig. 30-27	(9.2)	1.15	(6.8)	—	○
	小皿a	R-009	Fig. 30-22	(9.0)	1.2	(6.4)	—	—
	小皿a	R-019	Fig. 30-32	(9.4)	1.4	(7.3)	○	—
	小皿a	R-020	Fig. 30-24	(9.0)	1.0	(6.3)	—	—
	小皿a	R-026	Fig. 30-35	(9.8)	1.1	(7.9)	—	—
	小皿a	R-027	Fig. 30-33	9.6	1.6	7.6	○	○
	小皿a	R-028	Fig. 30-26	(9.2)	1.1	6.3	—	—
	小皿a	R-029	Fig. 30-37	(10.2)	1.5	7.5	—	○
	小皿a	R-030	Fig. 30-23	(9.0)	1.4	(6.7)	○	○
	小皿a	R-031	Fig. 30-39	(10.4)	1.5	(8.2)	○	○
	小皿a	R-032	Fig. 30-21	(8.8)	1.5	(6.8)	○	—
	小皿a	R-033	Fig. 30-38	(10.3)	0.9	(8.5)	○	—
	小皿a	R-034	Fig. 30-36	(10.0)	0.9	(7.1)	○	○
	小皿a	R-035	Fig. 30-31	(9.4)	1.1	(6.5)	○	—
	小皿a	R-036	Fig. 30-29	(9.3)	1.6	(7.0)	—	—
	小皿a	R-037	Fig. 30-28	(9.2)	1.1	(7.4)	—	○
	丸底杯a	R-001	Fig. 30-50	15.0	3.3	—	—	○
	丸底杯a	R-002	Fig. 30-56	15.6	3.4	—	—	○
	丸底杯a	R-003	Fig. 30-52	15.2	3.3	—	—	○
	丸底杯a	R-010	Fig. 30-58	(15.6)	3.7	—	—	○
	丸底杯a	R-011	Fig. 30-61	(16.2)	3.2	—	—	—
	丸底杯a	R-012	Fig. 30-49	(15.2)	3.0	—	—	○
	丸底杯a	R-013	Fig. 30-48	(15.0)	3.6	—	—	—
	丸底杯a	R-014	Fig. 30-60	(16.0)	3.1	—	—	—
	丸底杯a	R-017	Fig. 30-43	(14.8)	3.25	—	—	—
	丸底杯a	R-018	Fig. 30-40	(14.4)	3.4	—	—	○
	丸底杯a	R-021	Fig. 30-45	(14.8)	3.2	—	—	○
	丸底杯a	R-022	Fig. 30-54	(15.4)	3.5	—	—	○
	丸底杯a	R-023	Fig. 30-55	(15.4)	3.3	—	—	○
	丸底杯a	R-024	Fig. 30-44	(14.8)	2.7	—	—	—
	丸底杯a	R-025	Fig. 30-47	15.0	3.3	—	—	○
	丸底杯a	R-039	Fig. 30-42	(14.7)	3.1	—	—	○
	丸底杯a	R-040	Fig. 30-41	14.4	3.1	—	—	—
	丸底杯a	R-041	Fig. 30-51	15.0	3.2	—	—	○
	丸底杯a	R-042	Fig. 30-57	(15.7)	3.7	—	—	○
	丸底杯a	R-043	Fig. 30-59	(16.0)	3.4	—	—	○
	丸底杯a	R-044	Fig. 30-53	(15.4)	2.9	—	—	○
	丸底杯a	R-045	Fig. 30-62	(16.8)	3.3	—	—	○
	丸底杯a	R-046	Fig. 30-46	(14.8)	2.9	—	—	○

S-70灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	R-003	Fig. 30-65	(9.5)	1.1	(6.6)	—	—
	小皿a	R-004	Fig. 30-63	(9.0)	1.45	6.0	—	—
	小皿a	R-005	Fig. 30-64	9.2	1.3	6.6	○	—
	小皿a	R-006	Fig. 30-66	9.6	1.6	7.4	—	○

S-95明茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	へラ R-001	Fig.36-2	(8.8)	1.0	(6.8)	—	○
	小皿a	# R-002	Fig.36-1	(8.6)	1.2	(6.6)	—	—
	丸底坏a	# R-003	Fig.36-3	(14.8)	3.2+α	—	—	—
	丸底坏a	# R-004	Fig.36-4	(15.0)	3.2	—	—	○
瓦器	甕	R-005	Fig.36-5	—	3.0+α	—	—	—

S-100a

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	— R-001	Fig.27-1	—	1.2+α	—	—	○
	小皿a	へラ R-002	Fig.27-2	—	1.25+α	—	—	○

S-100g

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	へラ R-001	Fig.27-3	(9.0)	1.1	(6.0)	○	—

S-105c柱痕

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏	— R-001	Fig.27-35	(15.0)	2.7+α	—	—	—

S-110青灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	へラ R-001	Fig.36-19	(10.0)	1.4	(7.5)	○	○
	小皿a	# R-002	Fig.36-18	(9.2)	1.1	(7.0)	○	○
	丸底坏a	# R-003	Fig.36-21	(15.0)	3.2+α	—	—	—
	丸底坏a	# R-004	Fig.36-20	—	3.2+α	—	—	—
黒色土器B	甕	R-005	Fig.36-22	(15.6)	3.3+α	—	—	—

S-110暗灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器B	甕c	— R-001	Fig.36-17	—	3.5+α	6.6	—	—

S-110茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	— R-001	Fig.36-16	(9.2)	1.2	(6.8)	—	○

S-130黒茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏	イト R-001	Fig.28-38	—	1.4+α	5.1	—	—

S-130黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.28-37	(15.4)	3.05	—	—	—
	丸底坏a	# R-002	Fig.28-36	(13.8)	2.8+α	—	—	—

S-130灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.28-39	(15.0)	3.9	—	—	○
	丸底坏a	# R-002	Fig.28-40	(14.2)	3.1	—	—	—

S-130明灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	— R-001	Fig.28-35	(9.4)	0.95	(7.0)	○?	—

S-140

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	— R-001	Fig.40-30	—	2.9+α	—	—	—

S-145d

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	— R-001	Fig.27-4	(14.6)	3.7	—	—	○

S-150a

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	— R-001	Fig.27-36	(9.6)	1.4	(7.3)	—	—

S-160灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	甕c	R-001	Fig.37-1	15.2	8.9	—	—	—

S-163

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	甕c	R-001	Fig.40-15	—	2.0+α	—	—	—

S-165h柱痕

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏	— R-001	Fig.27-7	—	2.2+α	—	—	○

S-165h細り方

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏	— R-001	Fig.27-8	—	2.6+α	—	—	—

S-170灰茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	— R-001	Fig.31-27	16.1	3.5	—	○	○
	小皿a	— R-002	Fig.31-7	(9.0)	1.0	(8.0)	○	—

S-170灰茶色土器群(1)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-15	15.4	3.3	—	—	—

S-170灰茶色土器群(2)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	— R-001	Fig.31-13	15.4	3.5	—	○	○

S-170灰茶色土器群(3)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	R-001	Fig.31-18	15.6	3.5	—	○	○

S-170灰茶色土器群(4)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	— R-001	Fig.31-19	16.7	3.5	—	○	—

S-170灰茶色土器群(5)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト R-001	Fig.31-9	9.5	1.8	7.1	—	○

S-170灰茶色土器群(6)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-28	16.1	3.3	—	○	—

S-170灰茶色土器群(7)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-29	16.2	3.3	—	○	○

S-170灰茶色土器群(8)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	R-001	Fig.31-8	(9.3)	0.8	(6.8)	○	○

S-170灰茶色土器群(9)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-17	15.6	3.4	—	—	○

S-170灰茶色土器群(10)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-16	15.5	3.1	—	—	○

S-170灰茶色土器群(11)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-25	15.9	3.3	—	○	○

S-170灰茶色土器群(12)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-22	15.8	3.0	—	○	○

S-170灰茶色土器群(13)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-14	(15.4)	3.4	—	○	○

S-170灰茶色土器群(14)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	— R-001	Fig.31-12	15.2	3.2	—	—	—

S-170灰茶色土器群(15)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	— R-001	Fig.31-31	(17.2)	3.1	—	—	○

S-170灰茶色土器群(16)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-30	16.7	3.3	—	○	○

S-170灰茶色土器群(17)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-26	16.0	3.8	—	○	○

S-170灰茶色土器群(18)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	— R-001	Fig.31-20	(15.8)	3.5	—	○	○
	丸底坏c	— R-002	Fig.31-23	15.9	3.6	—	—	—

S-170灰茶色土器群(19)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	へラ R-001	Fig.31-11	15.4	2.9	12.0	○	○

S-170灰茶色土器群(20)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-24	15.9	3.8	—	○	○

S-170灰茶色土器群(21)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏a	へラ R-001	Fig.31-21	15.8	3.5	—	—	○

S-170灰茶色土器群(22)

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	へラ R-001	Fig.31-10	15.4	2.9	11.1	○	○

S-170茶灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	甕c	R-001	Fig.31-1	—	3.4+α	(6.3)	—	—
	丸底坏a	— R-002	Fig.31-2	16.3	3.2	—	○	○

S-180

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	— R-001	Fig.32-1	(9.0)	1.4	(6.8)	—	○
黒色土器A	甕c	— R-002	Fig.32-2	—	2.3+α	(8.2)	—	—

S-180黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	— R-001	Fig.32-3	—	1.0	—	—	—

S-185

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	— R-001	Fig.32-6	(9.6)	1.2	(7.2)	—	—
	小皿a	— R-002	Fig.32-7	(9.6)	0.8	(6.8)	—	—
	小皿a	— R-003	Fig.32-5	(9.4)	1.0	(6.8)	—	—
	小皿a	— R-005	Fig.32-8	(9.6)	1.2	(7.5)	—	—
甕c	— R-004	Fig.32-9	—	2.1+α	(7.2)	—	○	

S-187

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	甕c	— R-001	Fig.40-16	—	2.1+			

S-300褐色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	碗c	へら?	R-001 Fig. 35-2	(14.4)	5.15	(7.3)	—	—

S-300暗灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	碗c	—	R-001 Fig. 35-4	(14.4)	3.9+α	—	—	—
	小皿a	へら	R-002 Fig. 35-3	(10.0)	1.05	6.8	○	○

S-310暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	へら	R-001 Fig. 38-9	(10.4)	1.1	(7.8)	○	—
	小皿a	#	R-002 Fig. 38-8	(9.8)	1.0	(7.7)	—	—
	小皿a	#	R-003 Fig. 38-7	(9.8)	1.6	(6.7)	○	○

S-310黒灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-002 Fig. 38-12	(11.0)	1.55	(8.2)	○	—
	小皿a	へら	R-003	—	1.2+α	—	○	○
	小皿a	#	R-006 Fig. 38-11	(10.2)	0.8	(8.2)	○	—
	小皿a	#	R-007 Fig. 38-10	(9.8)	0.7	(7.2)	○	○
	碗c	へら?	R-004 Fig. 38-13	—	1.7+α	(7.0)	○	—

S-310灰褐色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	へら	R-001 Fig. 38-1	(9.2)	1.1+α	(7.0)	○	—
	小皿a	—	R-002 Fig. 38-3	(10.2)	1.45	(8.1)	—	—
	小皿a	へら?	R-004 Fig. 38-2	(9.6)	1.5	(8.2)	—	—

S-310黒青色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	へら	R-001 Fig. 38-17	(9.6)	1.5	(6.2)	○	○
	小皿a	#	R-002 Fig. 38-16	(9.4)	1.3	(7.2)	○	○
	小皿a	#	R-003 Fig. 38-22	(9.8)	1.25	(7.2)	○	—
	小皿a	#	R-004 Fig. 38-20	(9.8)	1.25	(6.4)	—	—
	小皿a	#	R-005 Fig. 38-21	(9.8)	1.45	(7.3)	○	—
	小皿a	#	R-006 Fig. 38-23	(10.0)	1.0	(7.4)	○	—
	小皿a	#	R-007 Fig. 38-18	(9.6)	1.05	(7.0)	—	—
	小皿a	#	R-008 Fig. 38-19	(9.6)	1.2	(7.0)	○	○
	小皿a	#	R-011 Fig. 38-24	—	0.7+α	(6.4)	○	—
	小皿a	#	R-014 Fig. 38-25	—	1.0	—	○	—
	小丸底環a	#	R-009 Fig. 38-26	(11.6)	2.05+α	—	—	—
	丸底環a	#	R-010 Fig. 38-27	(15.6)	3.0+α	—	—	—

S-315灰褐色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環c	—	R-001 Fig. 39-16	—	2.2+α	(7.6)	○	—
	皿a	—	R-006 Fig. 39-15	(14.8)	1.3+α	(11.0)	—	—
	蓋3	R-002 Fig. 39-14	(17.7)	1.8+α	—	—	○	—
	蓋3	R-013 Fig. 39-13	(17.6)	2.1+α	—	—	○	—
	蓋3	R-008 Fig. 39-12	(17.6)	2.5+α	—	—	○	—
土師器	蓋3	R-009 Fig. 39-17	(14.6)	1.4+α	—	—	—	—
	皿a	—	R-003 Fig. 39-18	(17.9)	1.9	(14.8)	—	—
	環c	—	R-004 Fig. 39-20	11.7	3.4	9.2	—	—
	環c	—	R-010 Fig. 39-21	(12.1)	4.5	(6.6)	—	—
	碗c	—	R-011 Fig. 39-19	—	3.0+α	(8.8)	—	—

S-315明灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	へら	R-001 Fig. 39-10	—	1.7+α	—	○	—

S-315灰褐色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	皿a	—	R-001 Fig. 39-8	(19.9)	2.0	(15.2)	○	—

S-315

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環c	—	R-001 Fig. 39-2	—	1.5+α	(7.7)	○	—
	環c	—	R-002 Fig. 39-1	—	1.8+α	(7.4)	—	—
	大碗c	—	R-003 Fig. 39-3	—	2.9+α	(9.5)	○	—
土師器	皿a	—	R-005 Fig. 39-4	(19.6)	1.85	(15.0)	—	—
	大皿a	—	R-004 Fig. 39-5	(28.1)	2.3	(22.0)	—	—
	大皿c	—	R-006 Fig. 39-6	—	2.0+α	(16.5)	—	—

S-330黒灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿c	へら	R-003 Fig. 35-13	9.6	2.4	6.6	○	○
	小皿a	#	R-004 Fig. 35-11	(9.7)	1.0	(7.8)	○	—
	小皿a	—	R-005 Fig. 35-12	—	6.5+α	(7.4)	○	—
	丸底環a	へら	R-001 Fig. 35-15	15.2	3.5	—	—	○
	丸底環a	—	R-002 Fig. 35-14	(15.0)	2.65	—	—	○

S-330暗灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	へら	R-002 Fig. 35-17	(8.7)	1.3	(6.0)	○	○
	小皿a	イト	R-003 Fig. 35-18	(9.1)	1.1	(7.4)	—	×
	丸底環a	へら	R-001 Fig. 35-19	(14.8)	3.2	—	—	○
	丸底環a	#	R-004 Fig. 35-20	(15.6)	3.4+α	—	—	×

S-330黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底環a	へら	R-001 Fig. 35-6	(13.6)	2.8+α	—	—	—
	丸底環a	#	R-002 Fig. 35-5	(13.2)	2.9+α	—	—	—
	丸底環a	#	R-003 Fig. 35-7	—	2.5+α	—	—	○

S-335灰褐色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	碗	—	R-001 Fig. 32-28	—	2.9+α	—	—	—

S-340c

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	碗c	—	R-002 Fig. 27-31	—	1.6+α	—	—	×

S-340g

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	碗	—	R-001 Fig. 27-33	—	2.6+α	—	—	—

S-342

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	碗c	へら	R-001 Fig. 40-25	—	2.1+α	(8.0)	—	×

S-345黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋4	—	R-001 Fig. 44-17	16.0	2.5+α	—	○	×
	環c	へら	R-002 Fig. 44-19	—	1.4+α	(8.2)	○	○
	環c	#	R-008 Fig. 44-20	—	2.5+α	(8.9)	○	—
	環c	#	R-009 Fig. 44-18	—	1.6+α	(8.1)	○	—
土師器	蓋3	へら	R-003 Fig. 44-21	—	0.8+α	—	○	×
	小皿a	#	R-005 Fig. 44-24	(9.8)	1.2	(7.2)	○	○
	小皿a	#	R-012 Fig. 44-28	(10.6)	0.9	(8.2)	○	○?
	小皿a	#	R-025 Fig. 44-26	10.0	1.4	7.3	○	○
	小皿a	—	R-026 Fig. 44-22	(9.4)	1.05	(6.8)	○	—
	小皿a	—	R-027 Fig. 44-23	(9.6)	1.1	(7.0)	○	—
	小皿a	へら	R-031 Fig. 44-25	(9.8)	1.1	(7.5)	—	○
	小皿a	—	R-032 Fig. 44-27	(10.0)	1.0	(7.6)	—	—
	皿a	—	R-004 Fig. 44-29	(17.0)	2.0	(13.5)	—	—
	皿a	へら	R-010 Fig. 44-30	(14.4)	1.4	(11.0)	—	—
	皿a	#	R-017 Fig. 44-31	(13.6)	2.5+α	(9.5)	—	—
	環a	#	R-011 Fig. 44-40	—	2.7+α	(7.6)	—	—
	環a	#	R-013 Fig. 44-37	—	1.9+α	(7.2)	—	○
	環a	#	R-014 Fig. 44-41	—	1.9+α	(8.0)	—	—
	環a	#	R-016 Fig. 44-36	(13.6)	3.6	(8.3)	○?	○
	環a	#	R-020 Fig. 44-32	(11.4)	1.9	(7.7)	○	○
	環a	#	R-021 Fig. 44-33	(12.8)	3.7	(8.4)	—	—
	環a	#	R-022 Fig. 44-38	—	2.3+α	(7.5)	○	—
	環a	#	R-033 Fig. 44-39	—	2.1+α	(7.5)	—	○
	環a	#	R-035 Fig. 44-34	(13.0)	4.3	(8.0)	○?	○
	環a	#	R-036 Fig. 44-35	(13.2)	3.1	(8.0)	○	○
	碗	—	R-015 Fig. 44-42	(15.0)	4.16+α	—	—	—
	碗c	へら	R-023 Fig. 44-43	—	4.4+α	(9.9)	○	—
	碗c	—	R-024 Fig. 44-44	—	2.0+α	—	—	—
	丸底環a	へら	R-028 Fig. 44-45	(15.6)	3.3	—	—	—
黒色土器A	碗c	—	R-018 Fig. 45-47	—	2.4+α	(8.2)	—	—
黒色土器B	碗	—	R-029 Fig. 45-48	(15.4)	4.0+α	—	—	—

S-345黒褐色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿a	へら	R-015 Fig. 44-5	(14.7)	1.8	(9.9)	—	—
	小皿a	#	R-001 Fig. 44-2	(9.6)	0.8	(7.4)	○	○
	小皿a	#	R-002 Fig. 44-3	(9.6)	1.1	(6.8)	○	—
	小皿a	#	R-008 Fig. 44-1	9.15	0.95	6.1	—	○
	小皿a	#	R-012 Fig. 44-4	—	1.1	—	—	○
	環a	#	R-005 Fig. 44-6	(11.6)	1.9	(8.1)	○	—
	環a	#	R-006 Fig. 44-7	(12.9)	3.7	(7.2)	—	—
	環a	#	R-009 Fig. 44-9	—	2.3+α	(8.2)	—	—
	環a	#	R-013 Fig. 44-8	—	1.4+α	(8.1)	—	—
	環a	#	R-014 Fig. 44-10	—	2.7+α	(8.4)	—	—
	碗c	—	R-007 Fig. 44-11	—	3.3+α	(9.0)	—	—

S-345暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B

S-545灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B	
土師器	皿a	ヘラ	R-008 Fig. 85-8	12.5	1.85	9.7	○	○	
	環a	#	R-001 Fig. 85-11	12.8	3.7	7.1	○	○	
	環a	#	R-002 Fig. 85-12	(13.0)	3.7	(7.4)	○	○	
	環a	#	R-003 Fig. 85-13	(13.0)	3.8	(8.0)	○	○	
	環a	#	R-009 Fig. 85-15	—	2.3+α	7.2	○	○	
	環a	#	R-010 Fig. 85-10	(12.0)	3.65	(8.0)	○	○	
	環a	#	R-011 Fig. 85-14	(14.0)	4.3	(8.0)	○	○	
	環a	#	R-012 Fig. 85-16	—	2.8+α	7.4	○	○	
	環a	#	R-013 Fig. 85-9	(11.9)	2.9	8.0	○	○	
	環c	#	R-004 Fig. 85-18	—	3.8+α	7.8	○	○	
	環c	#	R-014 Fig. 85-17	(14.0)	6.05	7.4	○	○	
	環c	#	R-015 Fig. 85-19	—	3.8+α	8.2	○	○	
	環c	#	R-016 Fig. 85-20	—	4.3+α	8.4	○	○	
	黒色土器A	環c	#	R-017 Fig. 85-27	—	2.7+α	7.0	○	○
	環c	#	R-005 Fig. 85-28	—	2.1+α	8.0	○	○	
	環c	#	R-018 Fig. 85-29	—	3.25+α	(8.0)	○	○	

S-545茶色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	環a	ヘラ	R-001 Fig. 85-32	(13.0)	3.1	7.0	○	○
	環c	#	R-002 Fig. 85-33	(13.9)	4.9	7.4	○	○

S-545黒茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	環a	ヘラ	R-001 Fig. 85-4	—	2.6+α	(7.2)	○	○
	環a	ヘラ	R-005 Fig. 85-3	(13.2)	3.4	(7.0)	○	○
	皿a	ヘラ	R-003 Fig. 85-2	(13.0)	1.85	(10.2)	○	○
	皿a	ヘラ	R-004 Fig. 85-1	(12.8)	1.65+α	—	○	○
黒色土器A	環c	#	R-006 Fig. 85-6	—	2.3+α	(8.2)	○	○
	環c	#	R-007 Fig. 85-7	—	1.9+α	(8.6)	○	○

S-550茶灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	環c	#	R-002 Fig. 75-8	—	2.5+α	8.5	○	○

S-550灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	環a	ヘラ	R-002 Fig. 75-11	—	3.05	6.7	○	○
	環a	ヘラ	R-003 Fig. 75-10	12.8	3.55	8.4	○	○

S-550

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	環c	#	R-003 Fig. 75-3	—	3.2+α	(7.8)	○	○

S-560黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B	
土師器	小皿a	ヘラ	R-002 Fig. 54-54	(10.4)	1.95	(7.0)	○	○	
	環a	#	R-003	—	1.9+α	(7.2)	○	○	
	環a	#	R-004	—	12.1	3.5	7.2	○	○
	丸底環a	#	R-001 Fig. 54-55	(15.2)	3.5+α	—	○	○	

S-560黒灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001 Fig. 54-31	(10.2)	1.1	(6.8)	○	○
	小皿a	#	R-005 Fig. 54-32	(10.2)	1.6+α	(8.3)	○	○
	小皿a	#	R-006 Fig. 54-37	(10.4)	1.0	(8.2)	○	○
	小皿a	#	R-007 Fig. 54-29	(10.0)	1.25	(6.8)	○	○
	小皿a	#	R-008 Fig. 54-33	(10.2)	1.15	(6.8)	○	○
	小皿a	#	R-009 Fig. 54-35	(10.2)	1.2	(7.3)	○	○
	小皿a	#	R-010 Fig. 54-39	(10.8)	1.4	(7.3)	○	○
	小皿a	#	R-011 Fig. 54-30	10.1	1.1	7.4	○	○
	小皿a	#	R-012 Fig. 54-36	10.2	1.2	7.2	○	○
	小皿a	#	R-013 Fig. 54-27	10.0	1.05	7.8	○	○
	小皿a	#	R-014 Fig. 54-44	10.7	1.25	7.2	○	○
	小皿a	#	R-015 Fig. 54-41	(10.8)	1.4	(7.1)	○	○
	小皿a	#	R-016 Fig. 54-38	(10.6)	1.4	(7.6)	○	○
	小皿a	#	R-017 Fig. 54-40	10.8	1.3	7.8	○	○
	小皿a	#	R-018 Fig. 54-25	(9.6)	1.1	(7.2)	○	○
	小皿a	#	R-019 Fig. 54-34	(10.2)	1.0	(7.5)	○	○
	小皿a	#	R-020 Fig. 54-26	(10.0)	1.2	(7.1)	○	○
	小皿a	#	R-021 Fig. 54-28	(10.0)	1.1	(8.0)	○	○
	小皿a	#	R-022 Fig. 54-42	(10.8)	1.3	(8.0)	○	○
	小皿a	#	R-023 Fig. 54-43	(10.8)	1.1	(8.1)	○	○
	小皿a	#	R-024 Fig. 54-23	(9.4)	1.2	(6.2)	○	○
	小皿a	#	R-025 Fig. 54-45	(11.0)	1.2	(7.5)	○	○
	小皿a	#	R-026 Fig. 54-24	(9.4)	1.5	(7.2)	○	○
	小皿a	#	R-027 Fig. 54-22	(9.4)	1.4	(7.3)	○	○
	丸底環a	#	R-028 Fig. 54-47	—	3.9+α	—	○	○
	丸底環a	#	R-029 Fig. 54-48	—	3.9+α	—	○	○
	丸底環a	#	R-030 Fig. 54-46	—	3.9+α	—	○	○
	丸底環c	#	R-031 Fig. 54-49	(14.6)	5.4+α	(7.0)	○	○
	丸底環c	#	R-032 Fig. 54-52	(16.0)	5.65+α	7.0	○	○

S-560

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	ヘラ	R-001 Fig. 54-13	(10.8)	1.25	(7.6)	○	○
	小皿a	#	R-002 Fig. 54-6	(10.1)	1.2	(8.2)	○	○
	小皿a	#	R-003 Fig. 54-4	9.9	1.7	7.8	○	○
	小皿a	#	R-004 Fig. 54-11	(10.5)	1.5	7.6	○	○
	小皿a	#	R-009 Fig. 54-7	(10.2)	1.4	(7.0)	○	○
	小皿a	#	R-010 Fig. 54-12	(10.6)	1.35+α	(8.1)	○	○
	小皿a	ヘラ	R-013 Fig. 54-8	10.2	1.5	7.5	○	○
	小皿a	#	R-014 Fig. 54-5	(10.0)	0.9	(8.5)	○	○
	小皿a	#	R-015 Fig. 54-9	(10.2)	1.35	(6.8)	○	○
	小皿a	#	R-016 Fig. 54-10	10.2	1.4	7.3	○	○
	環a	#	R-006 Fig. 54-14	(11.8)	2.4	(8.4)	○	○
	環a	#	R-020 Fig. 54-15	(15.6)	3.9	(9.8)	○	○
	丸底環a	#	R-017 Fig. 54-17	(10.5)	3.3+α	—	○	○
	丸底環a	#	R-018 Fig. 54-18	—	4.6+α	—	○	○
	丸底環a	#	R-019 Fig. 54-16	(14.6)	3.55	—	○	○
環c	#	R-012 Fig. 54-19	—	4.0+α	7.5	○	○	

S-570a

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環c	ヘラ	R-001 Fig. 67-18	—	1.2+α	—	○	○

S-575

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B	
土師器	環a	ヘラ	R-007 Fig. 75-21	—	2.0+α	7.1	○	○	
	環a	#	R-008 Fig. 75-20	(13.4)	3.1+α	(7.0)	○	○	
	環a	#	R-010 Fig. 75-19	(12.9)	3.35	(6.8)	○	○	
	環a	#	R-012 Fig. 75-18	(12.6)	3.9	(7.2)	○	○	
	環c	#	R-001 Fig. 75-22	—	2.95+α	(7.2)	○	○	
	環c	#	R-003 Fig. 75-24	—	3.3+α	(9.7)	○	○	
	環c	ヘラ	R-009 Fig. 75-23	—	2.8+α	8.25	○	○	
	黒色土器A	環c	#	R-004 Fig. 75-26	—	2.15+α	(8.4)	○	○
	環c	ヘラ	R-011 Fig. 75-27	—	2.2+α	(8.6)	○	○	

S-585茶褐色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環c	#	R-001 Fig. 81-1	—	2.2+α	—	○	○
土師器	環c	#	R-002 Fig. 81-3	—	2.6+α	(7.6)	○	○

S-585暗灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	環c	ヘラ	R-001 Fig. 81-6	—	2.6+α	(8.6)	○	○
	環a	#	R-002 Fig. 81-5	12.0	3.6	(7.6)	○	○

S-600暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	環a	ヘラ	R-004 Fig. 82-6	—	1.9+α	8.3	○	○
	環a	#	R-005 Fig. 82-4	—	1.5+α	(7.0)	○	○
	環a	#	R-007 Fig. 82-5	—	2.15+α	(7.6)	○	○
黒色土器B	環c	#	R-006 Fig. 82-8	—	1.7+α	(6.0)	○	○

S-600茶灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環c	#	R-001 Fig. 82-1	—	3.65+α	(9.4)	○	○
黒色土器A	環c	#	R-002 Fig. 82-2	—	2.5+α	(8.8)	○	○
環c	#	R-003 Fig. 82-3	—	2.5+α	(7.8)	○	○	

S-600灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	環c	ヘラ	R-001 Fig. 82-12	—	2.2+α	(9.2)	○	○
	環a	#	R-002 Fig. 82-11	—	2.65+α	(7.4)	○	○

S-600黒灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	環c	#	R-001 Fig. 82-14	—	1.65+α	5.1	○	○

S-615茶色砂

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B	
土師器	環a	ヘラ	R-004 Fig. 86-2	(12.0)	2.8	(7.4)	○	○	
	環a	#	R-005 Fig. 86-3	—	3.2+α	8.7	○	○	
	環a	#	R-007 Fig. 86-4	—	3.5+α	(6.8)	○	○	
	環c	#	R-008 Fig. 86-5	—	2.8+α	8.2	○	○	
	環c	#	R-009 Fig. 86-6	—	3.2+α	(8.7)	○	○	
	黒色土器A	環c	#	R-002 Fig. 86-20	—	2.15+α	—	○	○
	環c	#	R-013 Fig. 86-19	—	2.1+α	(8.4)	○	○	
	環c	#	R-015 Fig. 86-21	(14.6)	3.4+α	—	○	○	

S-615灰色砂

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B	
土師器	環a	ヘラ	R-001 Fig. 86-13	—	1.0+α	(7.7)	○	○	
	環a	ヘラ	R-016 Fig. 86-12	—	2.3+α	(7.4)	○	○	
	環c	#	R-007 Fig. 86-16	—	2.5+α	(8.0)	○	○	
	環c	#	R-009 Fig. 86-15	—	3.15+α	(7.6)	○	○	
	環c	#	R-012 Fig. 86-14	—	2.2+α	(7.5)	○	○	
	黒色土器A	環c	#	R-002 Fig. 86-20	—	2.15+α	—	○	○
	環c	#	R-013 Fig. 86-19	—	2.1+α	(8.			

茶褐色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	環a	R-001	Fig. 59-13	(14.0)	3.4	(6.2)		
	環a	R-002	Fig. 59-14	—	2.1+α	(9.4)		
	環c	R-003	Fig. 59-15	—	2.4+α	(8.6)		

明茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環a	ヘラ	R-002	Fig. 66-36	—	2.25+α	(7.6)	
黒色土器A	碗c	R-001	Fig. 66-38	—	1.6+α	(7.6)		

暗灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B		
須恵器	蓋a3	ヘラ	R-006	Fig. 65-1	(16.2)	2.75		○		
	蓋3	R-007	Fig. 65-3	(12.6)	1.1			○		
	蓋3	ヘラ	R-015	Fig. 65-4	(19.6)	1.5		○		
	蓋c3	R-026	Fig. 65-2	(17.4)	1.95+α			○		
	皿a	ヘラ	R-020	Fig. 65-5	(20.2)	1.6	(16.6)		○	
	環c	—	R-001	Fig. 65-12	—	4.7+α	(10.6)		○	
	環c	—	R-002	Fig. 65-10	—	2.85+α	(9.2)		—	
	環c	ヘラ	R-003	Fig. 65-13	—	4.0+α	(11.4)		○	
	環c	ヘラ?	R-004	Fig. 65-6	(12.8)	4.6	(8.8)		○	
	環c	—	R-005	Fig. 65-9	—	2.8+α	(9.0)		○	
	環c	—	R-019	Fig. 65-14	(20.2)	6.3	(13.6)		○?	
	環c	ヘラ	R-022	Fig. 65-7	(11.2)	3.15	(7.2)		○	
	環c	ヘラ	R-029	Fig. 65-8	—	2.6+α	(8.0)		×	
	環c	ヘラ?	R-014	Fig. 65-11	—	3.2+α	(8.4)		○	
	土師器	蓋c	R-018	Fig. 65-16	(18.4)	2.5+α			○?	
		環a	ヘラ	R-013	Fig. 65-17	(11.6)	2.6	(6.4)		○
		環a	—	R-016	Fig. 65-20	—	2.7+α	(8.0)		○
		環a	—	R-023	Fig. 65-22	—	3.4			○
		環a	ヘラ	R-024	Fig. 65-18	—	1.2+α	(8.6)		○
		環a	—	R-027	Fig. 65-21	—	2.75+α	(8.2)		—
環a		ヘラ	R-028	Fig. 65-19	—	2.4+α	(7.9)		○?	
環a		ヘラ	R-028	Fig. 65-19	—	2.4+α	(7.9)		○?	

灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B	
須恵器	環a	ヘラ	R-047	Fig. 57-1	(13.2)	3.7	(8.8)		○
	環c	—	R-001	Fig. 57-3	—	1.8+α	(7.2)		○
	環c	—	R-004	Fig. 57-4	—	1.7+α	(7.6)		○
	環c	—	R-028	Fig. 57-2	—	1.7+α	(6.6)		○
土師器	小皿a	—	R-030	—	(9.8)	1.4+α	(6.4)		○
	小皿c	—	R-015	Fig. 57-17	(11.9)	2.85+α	7.0		—
	環a	—	R-002	Fig. 57-9	—	1.8+α	(5.8)		—
	環a	—	R-003	Fig. 57-8	(12.8)	4.2+α			—
	環a	ヘラ	R-009	Fig. 57-7	(12.2)	3.2	(6.8)		○
	環a	—	R-016	Fig. 57-13	—	1.9+α	(6.6)		—
	環a	ヘラ	R-019	Fig. 57-14	—	1.5+α	(6.8)		—
	環a	—	R-020	Fig. 57-16	—	2.4+α	(7.2)		—
	環a	—	R-021	Fig. 57-15	—	2.9+α	(7.0)		—
	環a	ヘラ	R-026	Fig. 57-11	—	2.9+α	(6.6)		—
	環a	—	R-027	Fig. 57-10	—	2.6+α	(6.2)		○
	環a	—	R-035	Fig. 57-12	—	2.2+α	(6.6)		—
	環c	—	R-010	Fig. 57-20	—	1.7+α	(8.6)		—
	碗	—	R-013	Fig. 57-18	—	3.6+α	(7.2)		—
	碗c	—	R-036	Fig. 57-19	—	3.95+α	(8.0)		—

淡灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B		
土師器	小皿a	—	R-002	Fig. 62-6	(10.6)	1.6+α	(7.8)		—	
	小皿a2	—	R-007	Fig. 62-7	(9.7)	0.9+α	(6.6)		—	
	小皿a	—	R-018	Fig. 62-5	(9.0)	1.1	(6.4)		—	
	小皿a	ヘラ	R-020	Fig. 62-4	(8.4)	8.5	(6.4)		○	
	環a	—	R-003	Fig. 62-8	(10.2)	2.3	(6.4)		○	
	環a	—	R-004	Fig. 62-15	—	1.8+α	(8.2)		—	
	環a	—	R-005	Fig. 62-12	—	1.8+α	(7.2)		—	
	環a	ヘラ	R-008	Fig. 62-14	—	1.8+α	(7.4)		○	
	環a	—	R-017	Fig. 62-9	—	2.7+α	6.6		—	
	環a	—	R-019	Fig. 62-11	—	1.4+α	(7.0)		○	
	環a	—	R-021	Fig. 62-13	—	1.3+α	(7.2)		○	
	環a	—	R-022	Fig. 62-10	—	1.85+α	(7.0)		○	
	環a	—	R-023	Fig. 62-16	—	1.5+α	(9.4)		—	
	丸底環a	—	R-001	Fig. 62-20	(15.0)	3.5+α			○	
	丸底環a	—	R-015	Fig. 62-21	15.3	2.9	9.9		—	
	碗c	ヘラ	R-016	Fig. 62-17	(15.2)	5.6+α	7.9		—	
	碗c	—	R-024	Fig. 62-19	—	2.3+α	(8.0)		—	
	碗c	—	R-031	Fig. 62-18	—	3.3+α			—	
	黒色土器A	碗c	ヘラ	R-025	Fig. 62-23	—	1.7+α	(7.1)		—
		碗c	—	R-026	Fig. 62-24	—	1.8+α	(8.0)		—
碗		—	R-027	Fig. 62-25	—	3.85+α			—	

黒色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B	
土師器	環a	ヘラ	R-001	Fig. 59-18	—	1.8+α	(6.4)		○
	環a	—	R-002	Fig. 59-22	—	2.7+α	(7.4)		—
	環a	—	R-005	Fig. 59-20	—	1.9+α	(7.0)		○
	環a	—	R-009	Fig. 59-21	—	2.5+α	(7.2)		—
	環a	ヘラ	R-008	Fig. 59-19	—	2.05+α	(6.8)		○
	碗c	—	R-003	Fig. 59-23	—	1.7+α	(7.0)		—
	碗c	—	R-004	Fig. 59-24	—	2.05+α	(7.6)		—
黒色土器A	碗c	ヘラ?	R-006	Fig. 59-25	—	2.25+α			—
	大碗c	ヘラ	R-007	Fig. 59-26	—	5.9+α	(10.0)		—

灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B		
須恵器	蓋3	ヘラ	R-007	Fig. 88-2	—	2.5+α			○	
	蓋c3	—	R-010	Fig. 88-1	(14.9)	1.85			○	
	皿a	—	R-003	Fig. 88-9	19.4	2.5	15.45		○	
	皿a	—	R-012	Fig. 88-8	(18.0)	2.5+α	(14.8)		○	
	環a	—	R-004	Fig. 88-4	(15.4)	4.3	(8.6)		○	
	環a	—	R-005	Fig. 88-3	(12.4)	4.1	(9.6)		○	
	環c	—	R-001	Fig. 88-5	(11.2)	3.6	(6.8)		○	
	環c	—	R-006	Fig. 88-7	—	3.1+α	(9.6)		○	
	環c	—	R-011	Fig. 88-6	(12.4)	4.85	(8.6)		○	
	土師器	環a	—	R-015	Fig. 88-11	(14.8)	3.3	(9.0)		—
		環d	—	R-002	Fig. 88-12	(11.4)	3.9	(6.6)		○
		環d	—	R-013	Fig. 88-14	(16.4)	4.3	9.6		○
		環d	—	R-014	Fig. 88-13	(15.0)	2.75	(6.8)		—

灰茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B	
土師器	小皿a	イト	R-001	Fig. 92-8	9.05	1.4	7.85		○
	丸底環c	—	R-003	Fig. 92-10	15.0	3.8	6.9		—
	大碗	—	R-007	Fig. 92-9	—	2.8+α	(13.0)		—
瓦器	碗c	R-002	Fig. 92-11	14.95	5.85	6.25		—	

表土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B	
土師器	碗	イト	R-009	Fig. 94-4	—	3.95+α	(6.4)		

表16 第236-2次調査 遺構一覧表

S-番号	遺構番号	種別	埋土・切合いほか	調査面	埋没時期	地区
1	236-2SE001	井戸		1	XI期前後	R5
2		ビット群	茶色土	1	8世紀前半	S5
3		たまり	茶灰色土	1	中世～	T5・6
4		たまり	黄茶色土	1	奈良時代	S5
5	236-2SD005	溝	灰色粘土 操車場建設直前までの道路側溝?	1	近現代(大正時代?)	10ライン
6		ビット群	茶灰色土	1		L2
7		ビット	黒色土	1		L2
8		溝	暗灰色土	1	近世以降(近現代?)	M2・3
9		土坑	黒灰色土	1	奈良時代	M3
10	236-2SK010	土坑	暗灰色土	1	8世紀前半	O10
11		ビット群	茶灰色土	1		M2
12		ビット群		1	古代	PQ6
13		ビット		1	古代	Q7
14		ビット群		1	古代	O6
15	236-2SK015	土坑		1	XII期前後	P9
16		たまり	茶色土	1	平安時代後期	M4
17		たまり	茶色土	1	平安時代後期	KL3
18		溝	灰色土	1	古代	P11
19		ビット群		1		PQ10・11
20	236-2SX020	窪み		1	11世紀後半～	MN9・10
21		たまり	暗灰色土	1	古代	T13
22		ビット群		1	古代	T12・13
23		ビット群		1		R9
24		ビット群		1	古代	VW10
25	236-2SK025	土坑		1	8世紀後半	P7
26		ビット群		1	古代	U12
27		窪み		1	平安時代	U13
28		窪み群		1	古代	V13
29		攪乱		1	現代	W13・14
30	236-2SE030	井戸	灰色土でやや砂質	1	XII期前後	X11
31		ビット群		1	平安後期	MN9
32	236-2SX032	ビット		1	XII期前後	O9
33		土坑		1	XII期前後	X11
34	236-2SX034	ビット	黒灰色土	1		N10
35	236-2SD035	溝	暗灰色土 S-92→35	1	奈良時代	V14・15
36		ビット	S-25→36	1		P7
37		たまり		1	古代	P7
38	236-2SX038	ビット		1	12世紀前半～	O9
39		ビット群		1	古代	O7
40	236-2SK040	土坑	暗灰色土 底面やや凸凹	1	8世紀後半～末	M9
41	236-2SX041	たまり		1	奈良時代	N6・7
42		窪み		1	平安時代	N8
43		窪み群		1		

表17 第236-2次調査 出土遺物一覧表

74		窪み		1	古代	AA・AB14・15
75	236-2SX075	窪み		1	8世紀中頃	ON3~5
76		窪み群		1	奈良末~平安前期	AC15
77	236-2SX077	窪み群		1	古代	AD15
78		窪み群		1	古代	AC13
79		窪み群		1	古代	AD15
80	236-2SD080	溝	灰茶色土	1	XII期前後	W12~AB13
81	236-2SX081	窪み群		1	平安時代	WX13・14
82		窪み		1		Y14
83		窪み		1	奈良時代	K5
84	236-2SX084	窪み		1	8世紀前半	K4
85	236-2SX085	土坑	暗灰色土 S-85→80	1	XI~XII期	X12
86		窪み		1	平安時代前期	J5
87	236-2SX087	窪み		1	古代	J4
88		ピット		1		K4
89		土坑		1		DE4
91	236-2SX091	窪み		1	古代	WX15・16
92	236-2SX092	窪み		1	平安時代	VW14・15
93		窪み		1		W15
94	236-2SX094	窪み		1	XII前後	GH6・7
96		ピット		1		D5

S-1灰茶色粘土

須恵	銅環
土師	銅環、丸底環a、丸底環b
黒色土器	A柄c
瓦	類平瓦(罫目印、格子印)、破片
石製	品丸石

S-1暗灰色土

須恵	銅環c、環c、壺、破片
土師	銅環、丸底環a、丸底環b、小皿a(へラ)
黒色土器	A柄c
瓦	類平瓦(罫目印、格子印、無文)
石製	品丸石

S-1黒色土

須恵	銅環、破片
土師	銅環、丸底環a、小皿a(へラ)
黒色土器	A柄c
瓦	類平瓦(罫目印)
その他	炭

S-2

須恵	銅環、環c、壺、壺×鉢
土師	銅壺、破片
瓦	類破片

S-3

須恵	銅蓋3、環a、環c、壺
土師	銅壺、破片
土師質土器	銅鉢
瓦	類平瓦(罫目印、格子印)

S-4

須恵	銅蓋3、環、鉢
土師	銅環、壺、破片
瓦	類破片
金属製	品鉄滓

S-5

須恵	銅壺
土師	銅環、環a、壺
肥前系陶磁器	銅壺、破片
国産陶磁器	銅壺、壺、銅鉢、土瓶、急須、破片
国産磁器	
福泉系青磁器	IV(1)
瓦	類丸瓦(罫目印、無文)、平瓦(罫目印、無文)、燻瓦
金属製	品鉄滓、硬貨、鉄釘

S-6

須恵	銅環、壺
土師	銅破片
瓦	類平瓦(破片)

S-7

須恵	銅破片
----	-----

S-8

須恵	銅皿?、環c
土師	銅破片
国産陶磁器	銅破片
瓦	類燻瓦、破片

S-9

須恵	銅蓋3、環c、壺、壺b?
土師	銅環、壺、破片
瓦	類丸石

S-10黒灰色土

須恵	銅蓋c、蓋c3、蓋3、柄c
土師	銅環、壺
弥生土器	銅破片?
瓦	類平瓦(罫目印)、丸瓦(無文)
土製	品焼土塊

S-10暗灰色土

須恵	銅環、高環
土師	銅壺、壺(角閃石入り)、把手
弥生土器	銅破片
土製	品焼土塊

S-12

須恵	銅環
土師	銅壺、破片

S-13

須恵	銅環
土師	銅環、壺

S-14

須恵	銅蓋3
土師	銅壺、破片
瓦	類丸瓦(無文)

S-15黒灰色土

須恵	銅蓋c3、環
土師	銅小皿a(へラ)、丸底環a、壺
黒色土器	A柄
瓦	類平瓦(罫目印)、丸瓦(無文)

S-15暗灰色土

須恵	銅環、環c、高環
土師	銅環、環a、壺
瓦	類平瓦(罫目印、壺蓋あり)、破片(罫目印)

S-16

須恵	銅蓋、蓋c、蓋3、環、環c、壺、壺×鉢
土師	銅高環、壺、破片
白磁器	V(1)
瓦	類平瓦(罫目印)、破片(罫目印、無文)

S-17

須恵	銅蓋、蓋3、環、壺、鉢×壺、破片
土師	銅環
白磁器	V-1×VIII-1(1)
瓦	類破片(罫目印、無文、破片)

S-18

須恵	銅環×壺
土師	銅環、壺、破片

S-19

須恵	銅環、壺、破片
土師	銅壺、破片
瓦	類平瓦(無文)

S-20灰色土

須恵	銅環、環c(墨書)、壺
土師	銅環、高環、丸底環?、壺、破片
瓦	類平瓦(無文)、丸瓦(無文)

S-20暗灰色土

須恵	銅蓋3、環、環c、柄、壺、壺×鉢
土師	銅丸底環、丸底環a、壺
弥生土器	銅破片?
瓦	類丸瓦(無文)、破片

S-21

須恵	銅壺
土師	銅環

S-22

土師	銅環、壺
瓦	類破片

S-23

須恵	銅破片
土師	銅破片
白磁器	銅破片(1)

S-24

須恵	銅破片
瓦	類破片(罫目印)

S-25茶色土

須恵	銅蓋3、環、皿a、壺
土師	銅壺、破片
瓦	類破片(罫目印、無文)

S-25暗灰色土

須恵	銅蓋3、環
土師	銅環d、皿a、壺、破片
瓦	類丸瓦(無文)

S-25黒灰色土

須恵	銅蓋c、蓋3、環、環c、壺
土師	銅環、皿a、壺
瓦	類平瓦(罫目印、無文)、平瓦(破片)
縄文土器	銅破片?

S-26

須恵	銅蓋1
土師	銅環

S-27

須恵	銅環c、壺
土師	銅環、壺
黒色土器	A柄c
瓦	類丸瓦(無文)、軒平瓦

S-28

須恵	銅環、破片
土師	銅環、壺、壺×壺
瓦	類丸瓦(無文)、破片

S-29

須恵	銅環、環c、壺
土師	銅環、環b?、壺
土師質土器	銅破片
福泉系青磁器	I-2(1)
瓦	類平瓦(罫目印、無文)、燻瓦

S-30

須恵	銅壺
土師	銅丸底環a
黒色土器	A柄c
黒色土器	B柄c
白磁器	破片(1)
瓦	類破片(罫目印)
石製	品磨り石

S-31

須恵	銅環、壺
土師	銅環
白磁器	IV-1a(1)
その他	炭

S-32

土師	銅丸底環a、小皿a(へラ)、破片
その他	炭

S-33	白 磁筒：V(1) 瓦 類平瓦(編目印)
S-34	土 師 割壺
S-35	須 惠 割壺?、坏c 土 師 割壺、坏c、壺 瓦 類平瓦(編目印)、丸瓦(編目印)
S-36	須 惠 割壺a
S-37	土 師 割壺
S-38	土 師 割壺a、丸底坏a、小皿a(ヘラ)、小皿a(イト)、壺 黒色土器A破片
S-39	土 師 割壺 瓦 類破片(編目印)
S-40	須 惠 割壺3、坏 土 師 割壺、坏a、壺、壺(角閃石含む) 瓦 類平瓦(編目印)、丸瓦(破片)
S-41	須 惠 割壺3、坏、坏c、壺、壺×鉢 土 師 割壺、坏c、壺 赤生土 割壺? 瓦 類平瓦(編目印、格子印)
S-42	須 惠 割壺3、壺、破片 土 師 割壺、破片
S-43	土 師 割壺、壺
S-44	須 惠 割壺、破片 土 師 割壺 瓦 類壺瓦、破片 その他炭
S-45上層	須 惠 割壺 土 師 割壺a、壺 白 磁筒：IV-1a(1) 瓦 類破片
S-45下層	須 惠 割壺 土 師 割壺、丸底坏?、小皿a、壺? 灰 粘 陶 割壺(1) 瓦 類破片(編目印)
S-46	須 惠 割壺c、壺 土 師 割壺 白 磁筒破片(1) 龍泉窯系青磁筒：II-b(1) 瓦 類平瓦(編目印、格子印、破片)
S-47	須 惠 割壺、坏c 土 師 割壺c 瓦 類平瓦(格子印)
S-48	須 惠 割壺a、坏c 土 師 割壺c 瓦 類平瓦(破片)
S-49	須 惠 割壺c 土 師 割壺、壺
S-50	木 製 品 油物底板
S-50ウラゴメ	須 惠 割壺 瓦 類平瓦(編目印、格子印)
S-50暗灰色粘土	須 惠 割壺3、坏c、壺、壺、破片 土 師 割壺a、高坏?、壺、壺(角閃石含む)、坏破片 瓦 類平瓦(編目印、格子印、無文)、丸瓦(格子印) 石 製 品 滑石製層塔破片、石
S-50a	土 師 割壺破片
S-50b	須 惠 割壺、壺 土 師 割壺a(ヘラ)、壺
S-50c	須 惠 割壺 土 師 割壺、破片

S-51	須 惠 割壺、坏c、壺 土 師 割壺、坏a、破片
S-52	須 惠 割壺 土 師 割壺、壺、破片 瓦 類平瓦(編目印)
S-53	須 惠 割壺、坏c、壺 土 師 割壺、破片 白 磁筒：破片(1) 瓦 類平瓦(格子印、無文)、瓦玉
S-54	須 惠 割壺 土 師 割壺破片 瓦 類平瓦(格子印、破片)
S-55暗灰色土	須 惠 割壺4、皿a、壺、壺、壺×鉢 土 師 割壺a、丸底坏a、割壺、壺 瓦 類平瓦(編目印、格子印) 石 製 品 基石、割片(黒曜石)
S-55暗灰色土	須 惠 割壺4、坏、壺、壺、壺b 土 師 割壺 赤生土 割壺破片(丹塗り) 瓦 類平瓦(編目印、格子印、無文)
S-56	須 惠 割壺、破片 土 師 割壺、壺、破片 瓦 類瓦玉
S-57	須 惠 割壺3、坏 土 師 割壺 黒色土器B破片? 中国陶器破片(1) 石 製 品 丸石
S-58	須 惠 割壺 土 師 割壺破片 瓦 類平瓦(編目印、破片)
S-59	須 惠 割壺3、坏c、壺 土 師 割壺a
S-60a	土 師 割壺破片、破片
S-60b	土 師 割壺破片、破片
S-60c	須 惠 割壺破片 土 師 割壺破片
S-60a	土 師 割壺
S-60g	土 師 割壺破片
S-60j	土 師 割壺破片
S-61	須 惠 割壺3、坏c、壺 土 師 割壺、丸底坏a 白 磁筒：VI-1(1) 瓦 類平瓦(編目印、格子印、無文)
S-62	須 惠 割壺3、坏、壺、破片 土 師 割壺c、丸底坏a、壺 瓦 類平瓦(無文)、丸瓦(格子印) 土 製 品 磁土塊
S-63	須 惠 割壺 土 師 割壺破片 瓦 類平瓦(編目印)
S-64	須 惠 割壺、壺 土 師 割壺、壺 瓦 類破片
S-66	須 惠 割壺1、壺3、坏、高坏b、壺×鉢 土 師 割壺、壺、破片 瓦 類平瓦(編目印、格子印)、瓦玉
S-67	須 惠 割壺c、壺3、坏、高坏b、壺 土 師 割壺、壺 瓦 類破片

S-68	須 惠 割壺、壺1、壺3、坏、坏c、壺 土 師 割壺(角閃石入り)、破片 白 磁筒：V-3(1) 瓦 類平瓦(編目印、格子印)
S-69	須 惠 割壺、坏c、壺 土 師 割壺、壺 龍泉窯系青磁筒：破片 坏：III-3b 壺：III(1) 中国陶器：IV-3b(1) 須 惠 買(輸入)朝鮮系無軸陶器 瓦 類平瓦(格子印、無文)、丸瓦(編目印)
S-70	須 惠 割壺、壺3、坏、坏c、壺、壺?、鉢×壺 土 師 割壺、丸底坏?、割壺、小皿、壺 黒色土器A割壺 緑 粘 陶 割壺(1) 龍泉窯系青磁壺：I(1) 龍泉窯系青磁壺：I(1) 白 磁筒：IV(1)、II(1) 瓦 類平瓦(編目印、格子印、無文) 土 製 品 土塊
S-71	須 惠 割壺、壺3、坏、坏a、壺 土 師 割壺a、壺 瓦 類平瓦(無文、破片)
S-72	須 惠 割壺3、坏、坏a、坏c、高坏、壺 土 師 割壺、破片(角閃石混じり)、破片 瓦 類平瓦(編目印、格子印、無文)、丸瓦(無文)
S-73	須 惠 割壺3、坏a、坏c、破片 土 師 割壺c、破片 瓦 類平瓦(編目印)、丸瓦(無文)
S-74	須 惠 割壺破片 土 師 割壺高坏 瓦 類平瓦(格子印)
S-75	須 惠 割壺c、壺1、壺3、坏、坏c、壺、壺×鉢、鉢、ツヤミ 土 師 割壺、壺、破片 須 惠 買(輸入)朝鮮系無軸陶器 赤生土 割壺 瓦 類平瓦(編目印、格子印)、破片 金 属 製 品 磁洋 石 製 品 丸石、割片(安山岩)
S-76	須 惠 割壺、坏c、壺×鉢、破片 土 師 割壺、壺 瓦 類平瓦(破片)
S-77	須 惠 割壺3、坏c、壺、壺 土 師 割壺、坏c、壺、把手 瓦 類平瓦(格子印、編目印)、破片
S-78	須 惠 割壺、破片 土 師 割壺
S-79	須 惠 割壺a、坏c、壺 土 師 割壺 瓦 類平瓦(編目印、格子印、破片)、丸瓦(破片) 石 製 品 磁石?
S-80暗灰色土	須 惠 割壺3、坏c、皿a、壺 土 師 割壺、坏a、坏c、小皿a?、丸底坏 黒色土器A割壺 黒色土器B割壺 白 磁筒：破片(1) 皿：II-1(1) 瓦 類平瓦(編目印、格子印、無文)、壺瓦
茶色土	須 惠 割壺1、壺3、壺4、坏c大坏c、壺、大壺、小壺、壺、壺×鉢? 土 師 割壺c、高坏、壺、把手、破片 黒色土器A割壺 黒色土器B割壺 白 磁筒：破片(1) 皿：II-1(1) 瓦 類平瓦(編目印、格子印、無文)、壺瓦
須 惠 割壺1、壺3、壺4、坏c大坏c、壺、大壺、小壺、壺、壺×鉢?	
土 師 割壺c、高坏、壺、把手、破片	
黒色土器A割壺	
黒色土器B割壺	
白 磁筒：破片(1) 皿：II-1(1)	
瓦 類平瓦(編目印、格子印、無文)、壺瓦	
龍泉窯系青磁壺：I-4(1)、破片(1)	
土 師 買土 割壺	
灰 粘 陶 割壺? (1)、破片(1)	
国産磁器皿、破片	
肥前系陶器磁筒	
白 磁筒：IV-VIII(2)、XIII-2b(1) 皿：VI-1e(1)、IX(1) 破片(1)	
輸入陶器 鉢? (広東系×長沙窯系) (1)	
瓦 類平瓦(編目印、格子印、無文)、丸瓦(無文)、壺瓦(平瓦)	
石 製 品 丸石	
土 製 品 棒状土製品、破片	

S-81	須 惠 割壺 土 師 割壺a、壺 瓦 類平瓦(編目印、無文)
S-82	須 惠 割壺
S-83	須 惠 割壺3、壺 土 師 割壺 瓦 類平瓦(編目印)
S-84	須 惠 割壺3、坏c、壺 土 師 割壺×鉢 瓦 類破片(格子印) 石 製 品 磁石
S-85暗灰色土	須 惠 割壺 土 師 割壺、丸底坏?、割壺c、小皿(ヘラ)、壺、把手 黒色土器A割壺、破片 黒色土器B破片 灰 粘 陶 割壺? (1) 瓦 類平瓦(編目印、格子印、無文)、丸瓦(格子印、無文)、軒丸瓦
S-85暗灰色土	須 惠 割壺 土 師 割壺、小皿a(ヘラ)、丸底坏a 黒色土器B割壺、割壺c 白 磁筒：破片(1) 瓦 類平瓦(編目印、格子印、無文)、丸瓦(編目印)、破片 石 製 品 滑石片
S-86	須 惠 割壺3、坏、壺×鉢 土 師 割壺、破片 瓦 類平瓦(編目印) 土 製 品 不明土製品
S-87	須 惠 割壺c、壺 土 師 割壺、壺 瓦 類平瓦(編目印)、破片
S-88	瓦 類破片(編目印、格子印)
S-89	須 惠 割壺c、壺、壺×鉢 土 師 割壺 瓦 類丸瓦(無文)
S-91	須 惠 割壺、壺 土 師 割壺、破片 瓦 類平瓦(編目印、格子印)
S-92	須 惠 割壺、坏、高坏b 土 師 割壺 瓦 類平瓦(編目印、格子印)、破片
S-93	土 師 割壺破片 瓦 類壺瓦
S-94	須 惠 割壺、壺1、壺3、坏、坏c、高坏、壺 土 師 割壺 白 磁筒：V(1) 瓦 類平瓦(編目印)
S-96	須 惠 割壺破片 土 師 割壺破片 国産陶器破片
表土	須 惠 割壺c、壺3、坏c、壺、壺、鉢×壺、破片 土 師 割壺、丸底坏、割壺c、小皿a、壺、破片 黒色土器A破片 国産陶器割壺片(現代)、壺、植木鉢 国産磁器皿、割壺、皿 肥前系陶器磁筒(現代) 白 磁筒：V(1) 瓦 類平瓦(編目印、破片)、丸瓦(無文)、壺瓦(平瓦)、破片 石 製 品 石斧? 土 製 品 磁土塊、七輪? その他炭ガラス類
覆瓦	石 製 品 磁石

表18 第236-2次調査 須恵器・土師器・黒色土器供膳具計測表

A: 内底ナデ B: 板状庄底

S-1茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	へラ	R-001 Fig.100-1	9.8	1.2	7.6	○	○
	小皿a	#	R-002 Fig.100-5	(10.2)	1.35	8.5	○	○
	小皿a	#	R-003 Fig.100-3	10.0	1.3~1.7	8.1	○	○
	小皿a	#	R-004 Fig.100-2	9.9	1.2~1.5	7.5	○	○
	小皿a	#	R-006 Fig.100-4	10.0	1.2~1.8	7.3	○	○
	小皿a	#	R-007 Fig.100-7	(10.8)	1.4	8.8	○	○
	小皿a	#	R-008 Fig.100-6	(10.2)	1.7	7.9	○	○
	丸底環a	#	R-009 Fig.100-8	15.0	4.1	—	—	—
	丸底環a	#	R-005 Fig.100-9	(16.2)	5.3	6.9	—	—

S-1暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	へラ	R-001 Fig.100-15	(10.4)	1.2	(8.8)	—	—
	小皿a	#	R-002 Fig.100-12	(9.6)	1.0	(6.4)	○	○
	小皿a	#	R-004 Fig.100-11	(9.6)	1.1	(7.2)	—	—
	小皿a	へラ	R-005 Fig.100-14	(10.0)	1.0	(8.0)	○	—
	小皿a	#	R-006 Fig.100-10	(9.4)	1.0	(5.8)	○	○
	小皿a	#	R-007 Fig.100-16	(10.4)	1.2	(8.6)	—	—
	小皿a	へラ	R-008 Fig.100-17	(10.4)	1.3	(7.8)	—	○
	小皿a	#	R-010 Fig.100-13	(9.8)	1.35+α	(7.0)	○	○
	丸底環a	#	R-012 Fig.100-18	—	3.0+α	—	—	—
	丸底環	#	R-003 Fig.100-20	(15.4)	3.2+α	—	—	—
	丸底環	#	R-009 Fig.100-19	(15.0)	2.65+α	—	—	—

S-1灰茶色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	へラ	R-001 Fig.100-23	(9.6)	1.35	(5.6)	○	○
	小皿a	#	R-002 Fig.100-22	10.4	1.5	8.3	○	○
	丸底環	#	R-003 Fig.100-25	(15.8)	3.1+α	—	—	—
	丸底環	#	R-004 Fig.100-24	(15.0)	3.2+α	—	—	—
	丸底環	#	R-005 Fig.100-26	(15.6)	3.5+α	—	—	—
	丸底環	#	R-011 Fig.100-21	—	3.9+α	6.2	—	—

S-10黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c3	#	R-001 Fig.106-1	(14.6)	1.8+α	(10.5)	—	—
	蓋c3	#	R-002 Fig.106-2	—	1.6+α	—	—	—
	皿a	#	R-003 Fig.106-4	(20.0)	2.6+α	—	—	—
	碗c	#	R-004 Fig.106-3	—	4.7+α	(10.6)	—	—

S-15暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環	R-003 Fig.106-13	—	4.0+α	—	—	—	—
土師器	環a	R-002 Fig.106-15	—	3.7+α	—	—	—	—

S-15黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	へラ	R-001 Fig.106-10	(9.6)	1.1	(7.3)	○	○
	小皿a	#	R-002 Fig.106-9	(9.4)	1.7	(7.4)	○	○
	小皿a	#	R-003 Fig.106-7	(8.7)	0.7	(5.6)	○	○
	小皿a	#	R-004 Fig.106-8	(8.8)	1.1	(6.7)	○	○
	丸底環a	#	R-005 Fig.106-11	(14.6)	4.1	(10.1)	—	—
	丸底環a	#	R-006 Fig.106-12	—	2.6+α	—	—	—

S-20暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環c	へラ	R-001 Fig.109-20	(14.0)	3.9	(9.8)	○	×
土師器	丸底環a	#	R-002 Fig.109-21	—	4.1+α	—	×	×

S-25黒灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	#	R-002 Fig.106-20	—	1.0+α	—	—	—
環c	#	R-001 Fig.106-22	—	1.5+α	—	—	—	
環c	#	R-003 Fig.106-21	—	1.2+α	(12.3)	○	—	

S-25暗灰色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	#	R-001 Fig.106-24	—	1.8+α	—	—	—
土師器	環d	#	R-002 Fig.106-25	(14.4)	3.2	8.1	○	×
皿a	#	R-003 Fig.106-26	(19.4)	2.0	(18.0)	○	×	

S-25茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	へラ	R-001 Fig.106-18	—	1.9+α	—	○	—
皿a	#	R-002 Fig.106-19	—	2.3+α	—	—	—	

S-30

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底環a	へラ	R-001 Fig.100-27	(16.0)	3.6	—	○?	○?
黒色土器B	碗c	#	R-002 Fig.100-28	—	1.7+α	—	—	—

S-32

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001 Fig.108-10	(10.0)	1.2	(5.9)	—	—
	小皿a	—	R-002 Fig.108-7	(8.8)	0.9	(6.4)	○?	○?
	小皿a	へラ?	R-003 Fig.108-9	(9.2)	1.0	(7.2)	—	—
	小皿a	へラ?	R-004 Fig.108-11	(10.4)	0.9	(7.8)	?	—
	小皿a	—	R-005 Fig.108-8	(9.0)	0.9	(6.6)	—	—
	丸底環	へラ	R-006 Fig.108-16	—	3.4+α	—	—	—
	丸底環a	#	R-007 Fig.108-12	(14.8)	3.2+α	—	—	—
	丸底環a	#	R-008 Fig.108-13	(15.2)	3.3	—	—	—
	丸底環a	#	R-009 Fig.108-15	(16.6)	4.1+α	—	—	—
	丸底環a	#	R-010 Fig.108-14	(15.4)	3.2+α	—	—	—

S-35

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環c	へラ	R-001 Fig.99-7	—	2.9+α	(10.8)	○	×

S-38

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	イト	R-001 Fig.108-18	(10.0)	1.0	(7.2)	○	—
	小皿a	へラ	R-002 Fig.108-19	(10.4)	1.35	(7.0)	○	○

S-40

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	#	R-001 Fig.106-27	—	2.0+α	—	○	×

S-41

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環c	へラ	R-001 Fig.109-23	—	1.0+α	(9.2)	○	—
	環c	#	R-002 Fig.109-22	—	1.3+α	(7.6)	○	×
	環c	#	R-003 Fig.109-25	—	1.8+α	(10.0)	○?	—
	環c	#	R-004 Fig.109-24	—	1.9+α	(9.8)	—	—

S-49

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環c	#	R-001 Fig.109-26	(12.8)	3.55	(9.1)	—	—
	環c	#	R-002 Fig.109-27	(14.2)	3.7	(11.2)	—	—

S-50暗灰色粘土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	環a	—	R-008 Fig.101-2	—	3.8+α	—	—	—

S-50b

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	環a	へラ	R-001 Fig.101-1	(12.3)	2.4	—	—	—

S-55灰茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底環a	#	R-001 Fig.106-30	(15.0)	3.7	—	—	—

S-61

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底環	—	R-001 Fig.109-28	—	2.8+α	—	—	—

S-62

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底環	へラ	R-001 Fig.109-29	(15.6)	3.15+α	—	—	—

S-67

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c	へラ	R-001 Fig.109-32	—	1.1+α	—	○	—

S-68

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	#	R-001 Fig.109-34	(17.0)	1.5+α	(12.8)	—	—

S-72

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3	—	R-003 Fig.109-38	—	2.5+α	(15.6)	○	—
	環c	—	R-001 Fig.109-40	—	1.1+α	(9.9)	○	—
	環a?	—	R-002 Fig.109-39	—	1.4+α	(11.0)	○	—

S-73

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環c	—	R-001 Fig.109-41	—	1.7+α	(7.9)	○	—

S-75

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c	—	R-001 Fig.109-42	—	1.5+α	—	○	—
	環c	—	R-002 Fig.109-46	—	1.7+α	—	○	—
	環c	—	R-003 Fig.109-43	—	1.6+α	(7.4)	—	—
	環c	へラ	R-004 Fig.109-45	—	1.0+α	(9.6)	○	×
	環c	へラ	R-006 Fig.109-44	—	2.1+α	(9.2)	○	—
	環c	—	R-005 Fig.109-47	—	1.8+α	—	—	—

S-77

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	環c	#	R-002 Fig.110-52	—	1.9+α	(9.8)	○	—

S-80灰茶色土

種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a	—	R-001 Fig.99-9	—	1.7+α	—	—	—
	丸底環	#	R-002 Fig.99-10	—	2.9+α	—	—	—
	丸底環	#	R-003 Fig.99-11	—	3.4+α	—	—	—
黒色土器A	碗	#	R-006 Fig.99-12	(14.0)	3.9+α	—	—	—
黒色土器B	碗c	#	R-004 Fig.99-13	—	1.2+α	(6.3)	—	—

S-81

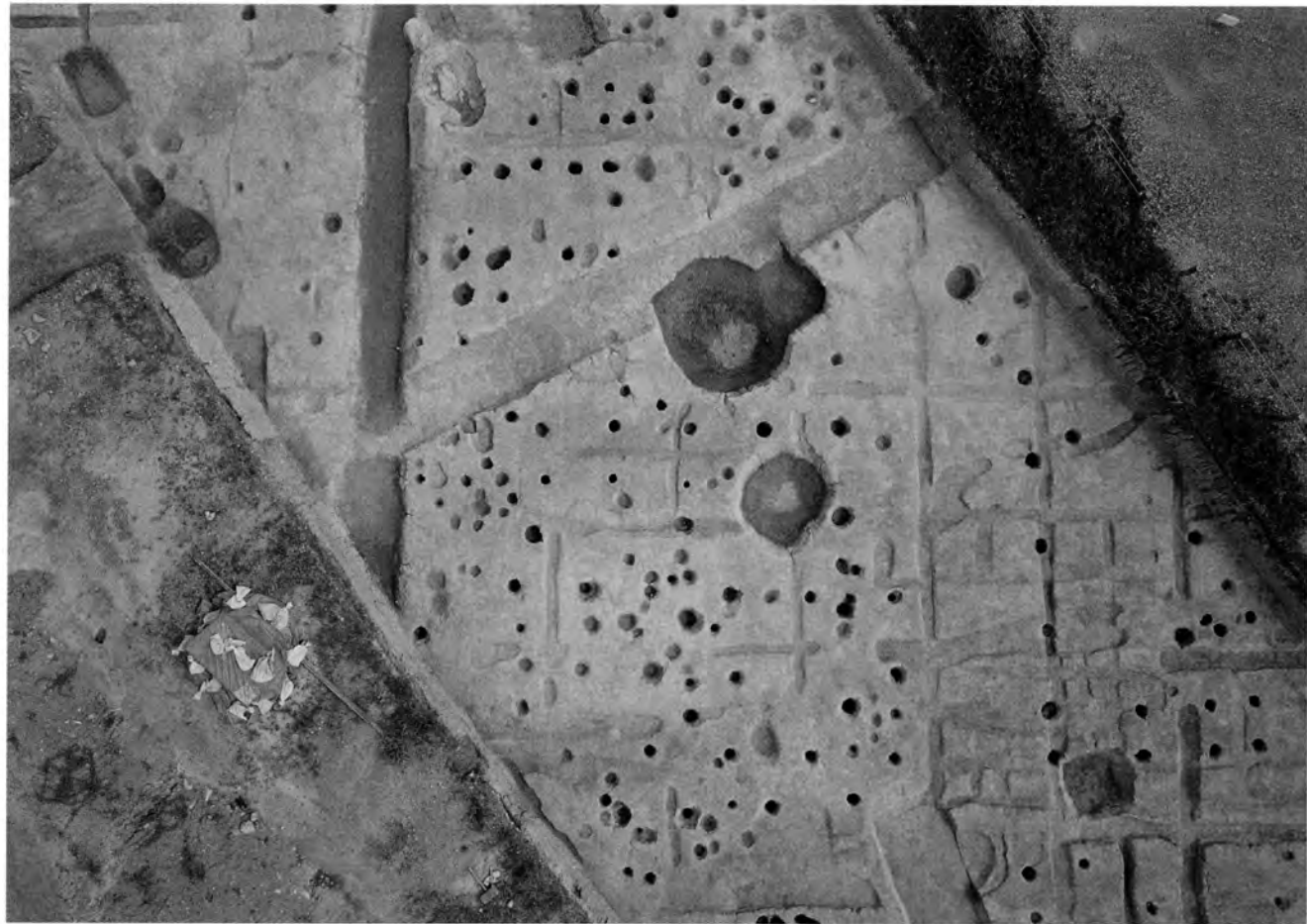
種別	器種	遺物番号	図番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	環a	#	R-001 Fig.110-54	—	1.6+α	5.3	—	—

S-84

種別	器種	遺物番号	図番号
----	----	------	-----



第236-1次調査第1調査面全景（上が北）



第236-1次調査SB100付近空中写真（上が北）



第236-1次調査第1調査面南端部全景（上が東）



第236-1次調査 SB045検出状況（南から）



第236-1次調査 畑状遺構全景（南西から）



第236-1次調査 SE215全景（北から）

第236-1次調査 SK310全景（東から）



第236-1次調査第2調査面全景（上が北）



第236-1次調査第3調査面全景（上が北）



第236-1次調査 SB480全景（東から）



第236-1次調査 SB480全景（南から）



第236-1次調査 推定15条路（SF665）とSB040（上が南）



第236-1次調査 推定14条路（SF615、西から）



第236-1次調査 SB570全景（上が西）



第236-1次調査 SE510全景（北から）



第236-1次調査 東壁土層5（西から）



第236-1次調査 SB040k土層（北から）



第236-1次調査 SB480c土層（東から）



第236-1次調査 SB480f土層（東から）



第236-2次調査全景（上が南東）



第236-2次調査 SB060全景（上が西）



第236-2次調査 SE050井戸枠状況（北から）



236-1SD370灰色粘土(Fig.50-14)



第236-1次 灰色土(Fig.58-40)



236-1SB480f(Fig.67-8)



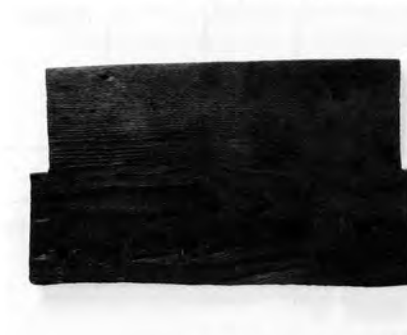
236-1SD520茶色土(Fig.68-45)



236-1SD515茶色土(Fig.69-10)



236-1SB480f(Fig.67-8)



236-1SE510(Fig.80-9)



236-1SE600(Fig.83-1)



236-1SK460黒色土(Fig.84-14)



236-1SF615灰色砂(Fig.86-27)



第236-1次調査 表土(Fig.94-1)



第236-1次調査出土(Fig.94-25)



236-2SE050ウラゴメ(Fig.104-19)



236-2SE050ウラゴメ(Fig.103-17)



236-2SE050暗灰色粘土(Fig.102-11)

報告書抄録

ふりがな	だざいふじょうぼうあと									
書名	大宰府条坊跡 36									
副書名	第236-1・236-2次調査									
シリーズ名	太宰府市の文化財									
シリーズ番号	99集									
編著者	宮崎亮一、(株)パリオ・サーヴェイ									
編集機関	太宰府市教育委員会									
所在地	福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号									
発行年月日	2008(平成20)年3月31日									
ふりがな 所収遺跡名	条坊 【鏡山推定案】	ふりがな 所在地	コード		座標		調査期間		調査面積 m ²	調査原因
			市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了		
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡 第236-1次	左郭12・13条2坊	太宰府市 朱雀3丁目	402214	210050-236-1	55790.0	-44700.0	20040419	20050329	2740	県道新設
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡 第236-2次	左郭14条2坊	太宰府市 朱雀2丁目	402214	210050-236-2	55650.0	-44623.0	20050126	20050608	1705	県道・ 市道新設
所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構		主要遺物			特記事項		
大宰府条坊跡 第236-1次	都城跡	奈良、平安	掘立柱建物、井戸、土坑、溝、道路		土師器 陶磁器	須恵器 緑釉陶器	須恵器盤 灰釉陶器	南北16間(29.6m)の掘立柱建物 条坊痕跡		
大宰府条坊跡 第236-2次	都城跡	奈良、平安	掘立柱建物、井戸、土坑、溝		土師器 滑石製石塔	須恵器 墨書瓦	陶磁器 瓦			

太宰府市の文化財 第99集

大宰府条坊跡36

— 県道観世音寺二日市線建設に伴う調査 —

平成20(2008)年3月

編集 太宰府市教育委員会

発行 太宰府市観世音寺1-1-1

印刷 (株)三光 福岡営業所
福岡市博多区山王1-14-4

